

秋田県文化財調査報告書第435集

古川堀反町遺跡

—秋田中央警察署改築事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—

2008・3

秋田県教育委員会

シンボルマークは、北秋田市浦田白坂（しろざか）遺跡
出土の「岩偶」です。
縄文時代晩期初頭、1992年8月発見、高さ7cm、凝灰岩。

ふる かわ ほり ぼた まち い せき
古 川 堀 反 町 遺 跡

—秋田中央警察署改築事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—

2008・3

秋 田 県 教 育 委 員 会



久保田城と古川堀反町遺跡



1 遺跡遠景（南西から）



2 遺跡遠景（南から）



1



2

中国磁器（景德镇窯）



3



4



5



6



7

中国磁器（漳州窯）



8

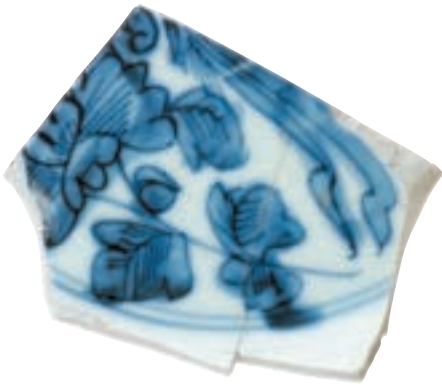
出土陶磁器（1）



1



2



3



4



5



6

肥前産磁器（古九谷様式）



7

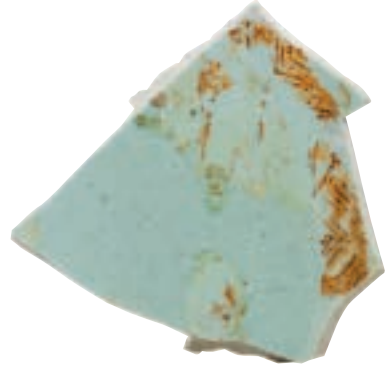


8

出土陶磁器（2）



1



2



3



4

肥前産磁器（柿右衛門様式）



5

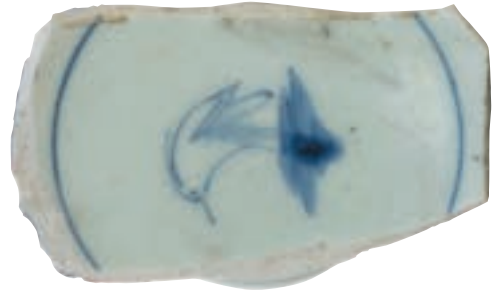


6

肥前産磁器（赤絵）



7



8

肥前産磁器（色絵）

出土陶磁器（3）



1



2



3



4



5



6



7



8

瀬戸美濃産陶器（織部焼）

出土陶磁器（4）

序

本県には、これまでに発見された約4,900か所の遺跡をはじめとして、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これらの埋蔵文化財は、地域の歴史や伝統を理解し、未来を展望した彩り豊かな文化を創造していくうえで、欠くことのできないものであります。

このたび、秋田県警察本部では、老朽化した秋田警察署庁舎を取り壊し、新庁舎を建設することになりました。本教育委員会では、これら建設工事との調和を図りながら、埋蔵文化財を保存し、活用することに鋭意取り組んでおります。

本報告書は、秋田中央警察署改築事業に先だって、平成16・17年度に秋田市千秋明德町において実施した古川堀反町遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。調査では、江戸時代の武家屋敷跡が確認され、当時の生活用品である多量の陶磁器や漆椀、下駄などの木製品のほか、江戸時代の城下絵図に見られる「小野岡大和…」と記された木簡も見つかり、上級武士の生活を知る手がかりとなりました。

本書が、ふるさとの歴史資料として広く活用され、埋蔵文化財保護の一助となることを心から願うものであります。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の刊行にあたり、協力をいただきました、秋田県警察本部、秋田県公文書館、秋田市教育委員会、秋田市史編さん室など関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成20年3月

秋田県教育委員会
教育長 根 岸 均

例 言

- 1 本報告書は、秋田中央警察署改築事業に伴い、平成16・17年度に調査した古川堀反町遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本書の執筆は第3章第2節・第3節を吉尾香が、他は山村剛が行い、編集は山村が行った。遺構図の作成は鈴木健一・長谷川幹子・平野左近・佐藤麻実が行った。
- 3 調査区北側駐車場跡地の平面図、陶磁器実測図の一部の作成については、株式会社シン技術コンサルに業務委託した。
- 4 出土木簡・絵図の解読については、秋田市史編さん室 菅原忠主査、秋田県立博物館 新堀道生学芸主事より、肥前産陶磁器の分類については、佐賀県立九州陶磁文化館 大橋康二館長より御教授を賜った。また掘立柱建物跡の調査については八戸工業大学建築科 高島成侑元教授より現地指導を受けた。
- 5 参考にした絵図は、秋田県立公文書館所蔵の『御国替当座御城下絵図』（慶長9年頃）、『久保田城御城下絵図』（寛文初年）、『御城下絵図』（宝暦9年）、『城下御絵図』（寛政年間）、『御城下絵図』（文政4年）、『羽州久保田大絵図』（文政12年）、秋田市佐竹史料館所蔵の『御城下絵図』（嘉永2年）である。
- 6 出土した木製品は、株式会社吉田生物研究所に、鉄製品は株式会社文化財ユニオンに保存処理業務を委託した。また第5章 自然化学的分析には、株式会社パリノ・サーヴェイ株式会社、株式会社吉田生物研究所に業務委託した分析報告書の一部を収載した。
- 7 遺跡航空写真は、株式会社シン技術コンサルに業務委託した空中写真（巻頭図版1・2）を使用した。また、その他の空中写真は、昭和23年に米軍が撮影した空中写真（図版12）、昭和42年に国土地理院が撮影した空中写真（図版13）をそれぞれ使用した。
- 8 本報告書挿図中に使用した土層表記法は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色標監修『新版標準土色帖 1989年版』を使用した。
- 9 本報告書4ページに使用した地形図は、国土交通省国土地理院発行50,000分の1「秋田」である。
- 10 本遺跡の調査ならびに報告書刊行にあたり、次の方より御指導、御教授をいただいた。記して謝意を表する（敬称略）。

高島成侑、大橋康二、菅原忠、新堀道生、畑中博康

凡 例

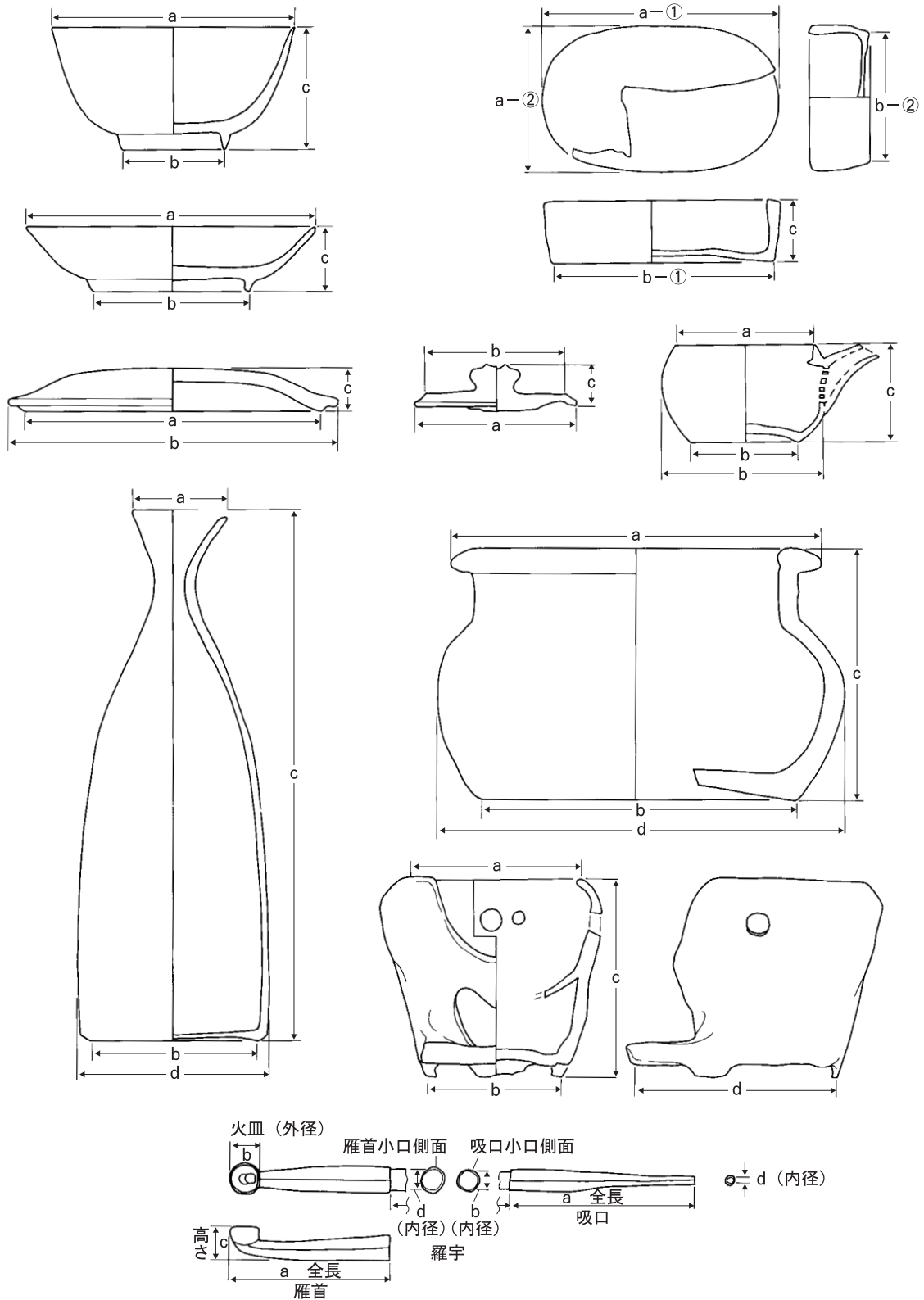
- 1 本報告書に収載した遺構実測図に付した方位は国家座標第X系による座標北を示す。グリッド杭座標原点MA50（ $X = -30921.288$ 、 $Y = -61185.078$ ）とした位置における座標北と磁北との偏角は西へ17.5度傾いている。
- 2 基本層位の土層表記にはローマ数字を用いた。
- 3 基本的には、遺構実測図は1/40および1/20、遺物実測図は1/2および1/4の縮尺で掲載した。しかし挿図割付の関係上、さらに若干の修正を施した挿図がある。
- 4 遺構番号は種類ごとに略記号を用い、種別を問わず検出順に、確認調査にて検出されたものは1

～399、本調査にて検出された遺構には400より番号を付した。後に検討の結果、遺構でないと判断したものは欠番とした。遺構の略記号は、次の通りである。

S B：建物跡 S A：柱列跡 S E：井戸跡 S K：土坑 S D：溝状遺構

S N：焼土遺構 S K P：柱穴様ピット

5 遺物の計測方法は以下の通りである。



目 次

序	
例 言	
凡 例	
第1章 はじめに	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査要項	1
第2章 遺跡の環境	2
第1節 遺跡の位置と立地	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 発掘調査の概要	5
第1節 遺跡の概観	5
第2節 調査の方法	5
第3節 調査の経過	7
第4節 整理作業の方法と経過	9
第4章 調査の記録	10
第1節 北側調査区	10
第2節 南側調査区	77
第3節 出土遺物	108
第5章 自然科学的分析	224
第1節 古川堀反町遺跡の自然科学的分析	224
第2節 秋田県古川堀反町遺跡出土木製品の樹種調査結果	243
第6章 まとめ	255
図版	
報告書抄録	

挿 図 目 次

<p>第1図 古川堀反町遺跡・周辺遺跡位置図… 4</p> <p>第2図 調査区域図…………… 6</p> <p>第3図 第2トレンチ土層……………11</p> <p>第4図 第3トレンチ、WX区・Y区土層…12</p> <p>第5図 北側1期S B1012……………16</p> <p>第6図 北側1期S B1233……………17</p> <p>第7図 北側1期S A783・839・1014……………18</p> <p>第8図 北側1期S K1010・1011、 S X900 ……………19・20</p> <p>第9図 北側1期S D948、S K1007、 S X815 ……………21</p> <p>第10図 北側2期S B838 ……………27</p> <p>第11図 北側2期S B1006……………28</p> <p>第12図 北側2期S B1026、S A680 ……29・30</p> <p>第13図 北側2期S D822・1100・1142 ……31</p> <p>第14図 北側2期S D989、S K688・848・ 849 ……………32</p> <p>第15図 北側1期S K674・675、 2期S K712 ……………33</p> <p>第16図 北側2期S K786・831・833・834・ 850・682……………34</p> <p>第17図 北側2期S K848・849・940・949・ 950 ……………35</p> <p>第18図 北側2期S K958・960・1008……………36</p> <p>第19図 北側2期S K1051・1121・1122・ 1146・1180……………37</p> <p>第20図 北側3期S B810 ……………43</p> <p>第21図 北側3期S A620・624・676・ 922・925・990 ……………45・46</p> <p>第22図 北側3期S A710 ……………47</p> <p>第23図 北側3期S K894・895、S D893 ……48</p> <p>第24図 北側3期S A823・930・1222、 S D801 ……………49・50</p> <p>第25図 北側3期S K683・708、S D684・ 913 ……………51</p> <p>第26図 北側3期S K802・825、S N803・ 947 ……………52</p> <p>第27図 北側3期S K824・956……………53</p> <p>第28図 北側4期S B817 ……………57・58</p> <p>第29図 北側4期S A915・1185 ……………59</p> <p>第30図 北側4期S A1216、S E899、 S K804 ……………60</p> <p>第31図 北側4期S D787・790～792 ……61・62</p>	<p>第32図 北側4期S D1212、S K813 ……63</p> <p>第33図 北側5期S A03・735、 S D701 ……………65・66</p> <p>第34図 北側5期S D01、S X897 ……67・68</p> <p>第35図 北側5期S K814 ……………72</p> <p>第36図 南側調査区第10トレンチ土層……………78</p> <p>第37図 南側調査区第11トレンチ土層……………79</p> <p>第38図 南側1期S D331・432・1276、 S K539、S Q589、S X431 ……81・82</p> <p>第39図 南側1期S D637・640・661、 S K527 ……………86</p> <p>第40図 南側1期S K528・588・590・600、 2期S K610 ……………87</p> <p>第41図 南側1期S K636・751、S X468 ……88</p> <p>第42図 南側2期S A451・497……………92</p> <p>第43図 南側1期S D458、2期S A723、 S D536、S K440……………93</p> <p>第44図 南側2期S K456・481・495・522・ 608 ……………94</p> <p>第45図 南側2期S K591・616・617・971・ 1046……………95</p> <p>第46図 南側3期S E599、S K424・430 ……98</p> <p>第47図 南側3期S B406……………99・100</p> <p>第48図 南側4期S A453……………102</p> <p>第49図 南側4期S D316……………103</p> <p>第50図 中国産磁器 龍泉窯・景德鎮窯 ……117</p> <p>第51図 中国産磁器 漳州窯(1)……………118</p> <p>第52図 中国産磁器 漳州窯(2)……………119</p> <p>第53図 中国産磁器 漳州窯(3)……………120</p> <p>第54図 肥前産陶器 第I期(1)……………121</p> <p>第55図 肥前産陶器 第I期(2)……………122</p> <p>第56図 肥前産陶器 第I期(3)……………123</p> <p>第57図 肥前産陶器 第I期(4)……………124</p> <p>第58図 肥前産陶器 第II期(1)……………125</p> <p>第59図 肥前産陶器 第II期(2)……………126</p> <p>第60図 肥前産陶器 第II期(3)……………127</p> <p>第61図 肥前産陶器 第II期(4)……………128</p> <p>第62図 肥前産陶器 第II期(5)……………129</p> <p>第63図 肥前産陶器 第III期(1)……………130</p> <p>第64図 肥前産陶器 第III期(2)……………131</p> <p>第65図 肥前産陶器 第III期(3)……………132</p> <p>第66図 肥前産陶器 第III期(4)……………133</p> <p>第67図 肥前産陶器 第III期(5)……………134</p>
---	---

第68図	肥前産陶器	第Ⅳ・Ⅴ期 (1)……	135	第107図	その他の陶磁器 (12) ……	174
第69図	肥前産陶器	第Ⅳ・Ⅴ期 (2)……	136	第108図	その他の陶磁器 (13) ……	175
第70図	肥前産陶器	第Ⅳ・Ⅴ期 (3)……	137	第109図	その他の陶磁器 (14) ……	176
第71図	肥前産陶器	第Ⅳ・Ⅴ期 (4)……	138	第110図	その他の陶磁器 (15) ……	177
第72図	肥前産磁器	第Ⅱ期 (1)……	139	第111図	その他の陶磁器 (16) ……	178
第73図	肥前産磁器	第Ⅱ期 (2)……	140	第112図	その他の陶磁器 (17) ……	179
第74図	肥前産磁器	第Ⅱ期 (3)……	141	第113図	土製品 (1) ……	180
第75図	肥前産磁器	第Ⅱ期 (4)……	142	第114図	土製品 (2) ……	181
第76図	肥前産磁器	第Ⅱ期 (5)……	143	第115図	土製品 (3) ……	182
第77図	肥前産磁器	第Ⅱ期 (6)……	144	第116図	石製品 (1) ……	183
第78図	肥前産磁器	第Ⅱ期 (7)、 第Ⅲ期 (1)……	145	第117図	石製品 (2) ……	184
第79図	肥前産磁器	第Ⅲ期 (2)……	146	第118図	木製品 (1) ……	185
第80図	肥前産磁器	第Ⅲ期 (3)……	147	第119図	木製品 (2) ……	186
第81図	肥前産磁器	第Ⅲ期 (4)……	148	第120図	木製品 (3) ……	187
第82図	肥前産磁器	第Ⅲ期 (5)……	149	第121図	木製品 (4) ……	188
第83図	肥前産磁器	第Ⅳ期 (1)……	150	第122図	木製品 (5) ……	189
第84図	肥前産磁器	第Ⅳ期 (2)……	151	第123図	木製品 (6) ……	190
第85図	肥前産磁器	第Ⅳ期 (3)……	152	第124図	木製品 (7) ……	191
第86図	肥前産磁器	第Ⅳ期 (4)……	153	第125図	木製品 (8) ……	192
第87図	肥前産磁器	第Ⅳ期 (5)……	154	第126図	木製品 (9) ……	193
第88図	肥前産磁器	第Ⅳ期 (6)……	155	第127図	木製品 (10) ……	194
第89図	肥前産磁器	第Ⅳ期 (7)……	156	第128図	木製品 (11) ……	195
第90図	肥前産磁器	第Ⅳ期 (8)……	157	第129図	木製品 (12) ……	196
第91図	肥前産磁器	第Ⅳ期 (9)……	158	第130図	木製品 (13) ……	197
第92図	肥前産磁器	第Ⅴ期 (1)……	159	第131図	木製品 (14) ……	198
第93図	肥前産磁器	第Ⅴ期 (2)……	160	第132図	木製品 (15) ……	199
第94図	肥前産磁器	第Ⅴ期 (3)……	161	第133図	木製品 (16) ……	200
第95図	肥前産磁器	第Ⅴ期 (4)……	162	第134図	木製品 (17) ……	201
第96図	肥前産磁器	第Ⅴ期 (5)、 その他の陶磁器 (1)……	163	第135図	木製品 (18) ……	202
第97図	その他の陶磁器 (2)……	164	第136図	木製品 (19) ……	203	
第98図	その他の陶磁器 (3)……	165	第137図	木製品 (20) ……	204	
第99図	その他の陶磁器 (4)……	166	第138図	木製品 (21) ……	205	
第100図	その他の陶磁器 (5) ……	167	第139図	木製品 (22) ……	206	
第101図	その他の陶磁器 (6) ……	168	第140図	木製品 (23) ……	207	
第102図	その他の陶磁器 (7) ……	169	第141図	木製品 (24) ……	208	
第103図	その他の陶磁器 (8) ……	170	第142図	木製品 (25) ……	209	
第104図	その他の陶磁器 (9) ……	171	第143図	金属製品 (1) ……	210	
第105図	その他の陶磁器 (10) ……	172	第144図	金属製品 (2) ……	211	
第106図	その他の陶磁器 (11) ……	173	第145図	金属製品 (3) ……	212	
			第146図	金属製品 (4) ……	213	
			第147図	金属製品 (5) ……	214	

表 目 次

第1表	周辺遺跡一覧……………	3	第22表	出土陶磁器一覧表(4) 肥前産陶器 Ⅲ期……………	216
第2表	S B810柱穴観察表……………	44	第23表	出土陶磁器一覧表(5) 肥前産陶器 Ⅳ・Ⅴ期……………	216
第3表	S D01出土遺物観察表(1)……………	69	第24表	出土陶磁器一覧表(6) 肥前産磁器 Ⅱ期……………	216
第4表	S D01出土遺物観察表(2)……………	70	第25表	出土陶磁器一覧表(7) 肥前産磁器 Ⅲ期……………	217
第5表	北側調査区柱穴様ピット一覧 (1)……………	73	第26表	出土陶磁器一覧表(8) 肥前産磁器 Ⅳ期①……………	217
第6表	北側調査区柱穴様ピット一覧 (2)……………	74	第27表	出土陶磁器一覧表(9) 肥前産磁器 Ⅳ期②……………	218
第7表	北側調査区柱穴様ピット一覧 (3)……………	75	第28表	出土陶磁器一覧表(10) 肥前産磁器 Ⅴ期……………	218
第8表	北側調査区柱穴様ピット一覧 (4)……………	76	第29表	出土陶磁器一覧表(11) その他の 産地の陶磁器……………	219
第9表	南側調査区柱穴様ピット一覧 (1)……………	104	第30表	出土土製品一覧表……………	220
第10表	南側調査区柱穴様ピット一覧 (2)……………	105	第31表	出土石製品一覧表……………	220
第11表	南側調査区柱穴様ピット一覧 (3)……………	106	第32表	出土木製品一覧表(1)……………	220
第12表	南側調査区柱穴様ピット一覧 (4)……………	107	第33表	出土木製品一覧表(2)……………	221
第13表	遺物出土遺構一覧表(1)……………	111	第34表	出土木製品一覧表(3)……………	222
第14表	遺物出土遺構一覧表(2)……………	112	第35表	出土金属製品一覧表……………	222
第15表	遺物出土遺構一覧表(3)……………	113	第36表	出土銭貨一覧表……………	223
第16表	遺物出土遺構一覧表(4)……………	114	第37表	出土種実分類群一覧……………	236
第17表	遺物出土遺構一覧表(5)……………	115	第38表	種実同定結果……………	237
第18表	遺物出土遺構一覧表(6)……………	116	第39表	検出動物分類群一覧……………	238
第19表	出土陶磁器一覧表(1) 中国産磁器……………	215	第40表	骨貝同定結果(1)……………	239
第20表	出土陶磁器一覧表(2) 肥前産陶器 Ⅰ期……………	215	第41表	骨貝同定結果(2)……………	240
第21表	出土陶磁器一覧表(3) 肥前産陶器 Ⅱ期……………	215	第42表	秋田県古川堀反町遺跡出土木製品 同定表……………	247

図 版 目 次

卷頭図版	6	出土陶磁器(4)
1 久保田城と古川堀反町遺跡	図版 1	1 現在の古川堀端通り
2 1 遺跡遠景		2 遺跡近景
2 遺跡遠景	図版 2	1-① 『御国替当座御城下絵図』
3 出土陶磁器(1)	図版 3	1-② 遺跡周辺拡大図
4 出土陶磁器(2)		1-③ 解説
5 出土陶磁器(3)	図版 4	2-① 『久保田城御城下絵図』

図版 5	2 - ② 遺跡周辺拡大図	2	S D01断面
	2 - ③ 解説	図版22	北側第 5 期 (2)
図版 6	3 - ① 『御城下絵図』	1	S K814検出状況
図版 7	3 - ② 遺跡周辺拡大図	2	S K814断面
	3 - ③ 解説	図版23	北側第 5 期 (3)
図版 8	4 - ① 『御城下絵図』	1	S K814調査風景
図版 9	4 - ② 遺跡周辺拡大図	2	遺物出土状況 (1)
	4 - ③ 解説	3	遺物出土状況 (2)
図版10	5 - ① 『羽州久保田大絵図』	4	遺物出土状況 (3)
図版11	5 - ② 遺跡周辺拡大図	5	遺物出土状況 (4)
	5 - ③ 解説	図版24	1 南側調査区作業風景
図版12	上空から見た秋田市	2	第11トレンチ基本土層
図版13	上空から見た秋田市	図版25	1 第10トレンチ基本土層
図版14	1 表土除去後の調査区	2	第10トレンチ (N区) IV層遺構検出状況
	2 北側調査区作業風景	3	M区版築層
図版15	1 第 2 トレンチ基本土層	4	第10トレンチ (N区) IV層遺構検出状況
	2 第 3 トレンチ基本土層	図版26	南側第 1 ~ 3 期
	3 第 2 トレンチ東端	1	水場遺構完掘状況
図版16	北側第 1 期	2	S D432・S X431
	1 S X900	3	S X431
	2 S X900遺物出土状況	4	S Q589礫出土状況
	3 S X1010・1011確認	5	水場遺構調査風景
図版17	北側第 2 期	図版27	南側第 1 期
	1 S K712木材出土状況	1	S D458断面
	2 S K712遺物出土状況 (1)	2	S K751断面
	3 S K712遺物出土状況 (2)	3	S K751完掘状況
図版18	北側第 3 期	図版28	南側第 2 期
	1 屋敷境の溝跡と板塀跡	1	S K591
	2 S A823 P 3 断面	2	S D458・S K591完掘状況
	3 S A823 P 3 柱材と礎板	3	S K456完掘状況
	4 S A823 P 5 断面	図版29	南側第 3 期
	5 S A823 P 6 断面	1	S E599検出状況
図版19	北側第 4 期 (1)	2	S E599断面
	1 S B817礎石列	3	S E599井戸桶検出状況
	2 S B817 P 8 確認状況	図版30	南側第 4 期
	3 S B817 P 8 断面	1	S D316検出状況
	4 S B817調査風景	2	S D316
図版20	北側第 4 期 (2)	図版31	1 木簡 (表)
	1 S D787完掘状況	2	木簡 (裏)
	2 S D787遺物出土状況	図版32	1 人形とミニチュア
	3 S D787調査風景	2	焜炉・風呂・脚風呂
図版21	北側第 5 期 (1)		
	1 S D01確認状況		

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経過

秋田県警では、多様化する犯罪に対し迅速な対応を図るため、老朽化した秋田警察署庁舎を解体し、新庁舎を建築することになった。

秋田警察署敷地は、初代秋田藩主佐竹義宣により整備が進められた近世秋田藩の城下町の一部である。久保田城跡（現在の千秋公園）の西側にある穴門堀の対岸に位置し、さらに旭川を挟んだ西方には川沿いに広がる近世からの繁華街大町がある。この区域は当時、「古川堀反町」・「土手長町」として、秋田藩家老小野岡氏をはじめとした上・中級武士の屋敷が構えられた一角にあたる。

秋田県教育委員会は、平成16年10月～11月に工事区域に関わる2,280㎡に対して確認調査を行い、その結果、後世の攪乱を免れた1,690㎡が本発掘調査の対象となり、平成17年3月から7月にかけて、発掘調査を実施することになった。

第2節 調査要項

遺跡名称	古川堀反町遺跡 ※遺跡略号 5FKHBM
所在地	秋田県秋田市千秋明德町1-9 (北緯39°43'9"、東経140°7'10")
調査期間	平成17年3月15日～7月29日
調査対象面積	1,690㎡
調査主体者	秋田県教育委員会
調査担当者	栗澤 光男 (秋田県埋蔵文化財センター中央調査課副主幹兼調査班長) 山村 剛 (秋田県埋蔵文化財センター中央調査課学芸主事) 菊池 晋 (秋田県埋蔵文化財センター中央調査課学芸主事) 高橋 純 (秋田県埋蔵文化財センター中央調査課学芸主事) 吉尾 香 (秋田県埋蔵文化財センター中央調査課学芸主事) 渡邊 淳一 (秋田県埋蔵文化財センター中央調査課学芸主事) 武藤 祐浩 (秋田県埋蔵文化財センター中央調査課学芸主事) 村上 義直 (秋田県埋蔵文化財センター中央調査課文化財主事) 加藤 竜 (秋田県埋蔵文化財センター中央調査課文化財主事) 鈴木 健一 (秋田県埋蔵文化財センター中央調査課調査・研究員) 長谷川幹子 (秋田県埋蔵文化財センター中央調査課調査・研究員) 平野 左近 (秋田県埋蔵文化財センター中央調査課調査・研究員)
総務担当者	藤原 康悦 (秋田県埋蔵文化財センター中央調査課副主幹) 時田 慎一 (秋田県埋蔵文化財センター中央調査課副主幹)
調査協力機関	秋田県警察本部 秋田市教育委員会

第2章 遺跡の環境

第1節 遺跡の位置と立地

遺跡の位置する秋田市は、日本海に面した秋田県の海岸部のほぼ中央に位置し、東方には出羽山地の端にあたる太平山が、市内南部には県南東部の大仙山を水源とした雄物川が流れ日本海へと注ぐ。その支流の一つ旭川は、太平山を水源とし、千秋公園（久保田城跡）を西に迂回し、さらに市街地を南にまっすぐ縦断して本流である雄物川に合流する。この旭川は近世久保田城下町を建設する際、流路が久保田城の山裾にあまりに近く、土砂崩れを起こす危険性があった。そのため初代藩主佐竹義宣は築城にあたり、城の防御や城下町を内町（侍町）と外町（町人町）に区画整備することを合わせ、流路を西に掘り替えて堀川とし、旧流路を城の外堀とした。古川堀反町の名はこの旧古川沿いである外堀（穴門堀）に由来する。また古川堀反町の西隣に接する対面片側町の土手長町の町名は、堀川を掘った際にあげられた土砂を埋め立て、整備したことに由来する。

遺跡は、私立秋田和洋女子高等学校と旧旭川河川路である穴門堀を挟んだ西側にあり、現在の秋田中央警察署敷地内に位置する。東方1kmにはJR秋田駅、北東800mには千秋公園がある秋田市の中心街である。

久保田城築城時、秋田市は農村がいくつか点在する原野で、湿地帯であったことが、築城時に作成された『御国替当座御城下絵図』からもうかがうことができる。古川堀反町遺跡の南東に位置し、平成12年度に調査した藩校明德館跡、平成14～15年にかけて調査した東根小屋町遺跡も、最下層は植物腐敗層や粘土層であることを確認した。古川堀反町遺跡も同様に地盤沈下のために何度も整地された状態であることを確認し、「絵図」同様の地形であることを確認した。

第2節 歴史的環境

『秋田県遺跡地図（秋田・川辺地区版）』によれば、秋田市では374か所の遺跡が確認され、その中には国指定遺跡の秋田城跡・地蔵田遺跡も含まれている。ここでは主として近世以降の遺跡をみていく。秋田市の近世遺跡は久保田城下を中心として分布している。久保田城（現在の千秋公園）は慶長5（1600）年の関ヶ原の戦いに敗れた佐竹義宣が、徳川家康に「出羽国秋田仙北両所」の知行判物を与えられ、常陸水戸から転封されたことにより、慶長8年から翌年にかけて神明山（現：千秋公園）に築城された。秋田市で平成8年度に「千秋公園再整備基本計画」を策定し、平成9年度に都市公園整備事業による表門とその周辺整備によって表門復元のための発掘調査を実施、表門の礎石と両側に取り付く土塁を調査している。そして、平成12年度の表門の復元に伴う工事立会時に、柱掘形を確認し、また小規模な建物跡が発見され、創建期の門と考えられている。

城下町の建設も久保田城築城とともに着工されたと考えられる。金照寺山一ツ森遺跡は昭和50年にマイクロウェーブ回線中継所新設に伴う発掘調査が秋田考古学協会によって実施され、調査の結果、墳丘状盛り土や掘立柱建物跡が発見され、江戸初期の唐津焼の皿・江戸中期の七輪、寛永通宝などが

出土している。墳丘状盛り土については、古墳ではなく、性格不明ながら江戸時代の遺構と確認されている。

藩校明德館は、寛政元（1789）年に9代藩主義和により設立された。当初は学館と呼ばれていたが、名称を明道館、明德館へと替えていった。平成12年度秋田市教育委員会、平成16年度秋田県埋蔵文化財センターにより発掘調査が行われたが、後世による削平や造成によって建物と一致する遺構は確認されなかった。しかし家臣の屋敷の一部と思われる井戸や、溝跡と思われる遺構が検出された。秋田県埋蔵文化財センターが平成15～16年にかけて調査した東根小屋町遺跡では、上級家臣武藤氏の宅地跡と思われる建物跡の他、井戸・笠門（薬医門）跡と思われる遺構が、参勤交代時に使用された市道中通牛島線に沿うように建っていた様子が確認された。同じく16年度に調査された久保田城跡では、当時の中土橋が現在の7割ほどの幅であり、堀は自然地形を切り込み、しがらみ等で土留めをし、盛り土して設けられていたことが判明した。また今回調査した古川堀反町遺跡は、家老小野岡氏をはじめとした上・中級家臣の宅地跡であった。いずれにも多量の木製品や肥前産をはじめとした陶磁器が出土している。

この他にも近世遺跡はいくつか存在する。八橋一里塚は慶長9（1604）年に江戸日本橋を起点とし、主要街道に一里ごとに築かれた塚で、日本橋より143里であり、万古山天徳寺は秋田藩主佐竹氏の菩提寺である。また平田篤胤墓は幕末の尊皇攘夷に影響を与えた四大国学者の墓であり、菅江真澄墓は三河国（現在の愛知県）に生まれた江戸時代後期紀行家の墓である。如斯亭は県指定史跡であり5代藩主義峯が家臣の屋敷と隣接する農村を召し上げて、別邸にした藩主の休泊所である。他には近世～近代の窯跡である寺内焼窯跡などがあげられる。

引用・参考文献

秋田市教育委員会 『秋田市藩校明德館跡－市街地再開発事業に伴う発掘調査報告書－』 2002（平成14）年

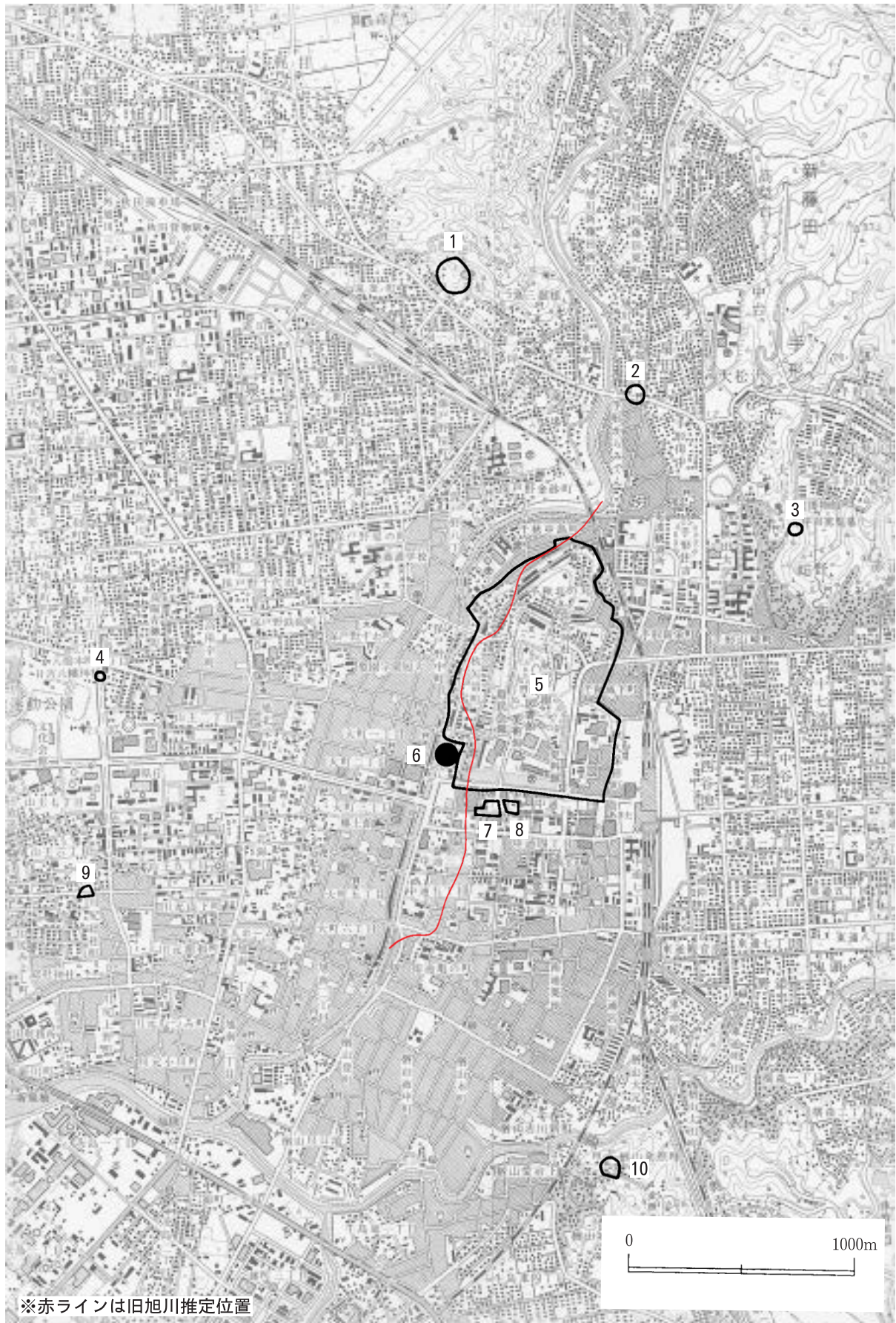
秋田県教育委員会 『東根小屋町遺跡－秋田県教育・福祉複合施設整備事業に係る埋蔵文化財調査報告書－』 秋田県文化財調査報告書第387集 2005（平成17）年

秋田県教育委員会 『秋田県遺跡地図（秋田・河辺地区版）』 2004（平成16）年

秋田市 『秋田市史 第三巻 近世 通史編』 2003（平成15）年度

第1表 周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	備考
1	万固山天徳寺	秋田市泉三嶽根10-1	佐竹家菩提寺、国指定重要文化財
2	如斯亭	秋田市旭川南町2-73	藩主休息所、県指定史跡
3	平田篤胤墓	秋田市手形字大沢	国学者墓
4	八橋一里塚	秋田市八橋本町一丁目1	一里塚
5	久保田城跡	秋田市千秋公園・千秋明德町他	近世城郭
6	古川堀反町遺跡	秋田市千秋明德町1-9	武家屋敷跡
7	藩校明德館跡	秋田市中通一丁目4	藩校跡、武家屋敷跡
8	東根小屋町遺跡	秋田市中通二丁目1-52	武家屋敷跡
9	鑄砲所跡	秋田市山王六丁目	遺物包含地
10	金照寺山一ツ森公園	秋田市檜山金照町	塚



第1図 古川堀反町遺跡・周辺遺跡位置図

第3章 発掘調査の概要

第1節 遺跡の概観

古川堀反町遺跡は、秋田市街地の中心、近世城郭久保田城跡（現千秋公園）の南西に位置し、城の外堀である穴門堀に西接する。

慶長7（1602）年、常陸から秋田に入部した佐竹義宣は、翌年より久保田城の築城・城下町の整備を開始した。久保田城は、複数の郭を備えた平山城で、本格的な石垣や天守閣は初めから造られなかった。そのため暴風雨などには弱く、崩れることも度々あった。城の山裾には、太平山を源流とする仁別川がいくつかに分かれた後の主流（旭川）が流れ、土砂崩れを起こす恐れがあった。そこで旭川は西に掘り替えられ、旧河道は城の外堀として活用されることになった。

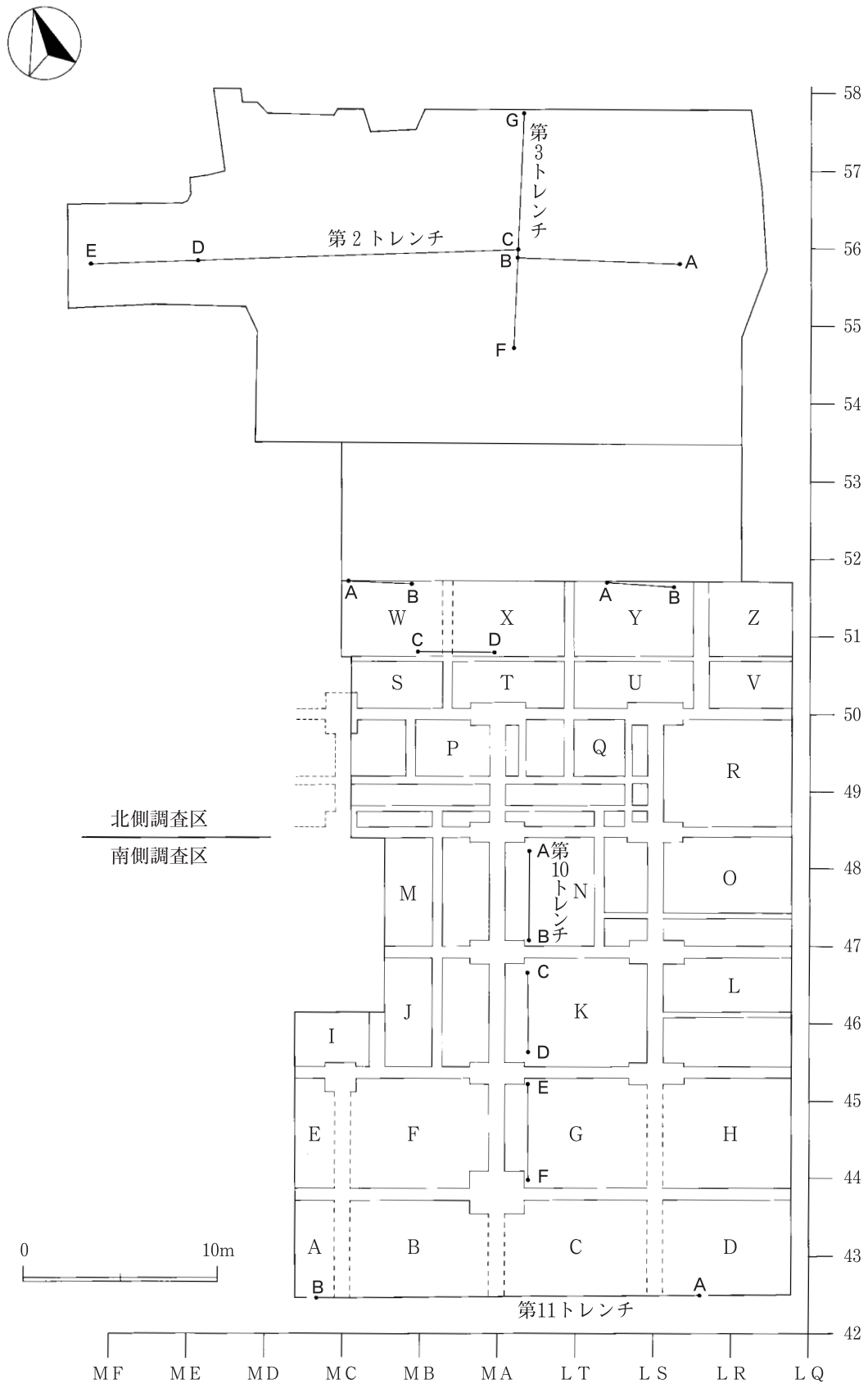
「古川堀反町」（市制下の旧町名では古川堀端町）という町名はこれに由来し、古川堀反町の西隣は、旭川改修工事の際の盛り土であることから「土手長町」と呼ばれた。

城下は旭川を挟んで内町（武家町）と外町（町人町）とに町割され、城を囲む武家町は、戦時には城郭の一部として機能するように配置された。特に重臣は城の近くに屋敷を構え、指揮官として行動できるようにしており、江戸時代に描かれた「御城下絵図」にも、当時の家老・御相手番など大身の名前が見られる。秋田警察署は、その敷地が古川堀反町から土手長町の通りまで広範囲に及ぶため、その敷地内にも江戸時代の武家屋敷が大きく関係することが予想された。

調査の対象範囲である工事予定地は、庁舎敷地の東半部、古川堀端通りに面する道場棟・別館棟・倉庫棟を解体した跡地および駐車場用地として使用されていた部分である。しかし確認調査段階で、別館棟はかつての建物基礎を支える杭を打設する際に地山面まで削平され、遺跡は失われていることが判明した。しかし道場跡や駐車場跡地では、部分的に良好な状態で遺構が残され、遺物も肥前産陶磁器をはじめ、木製品、金属製品などといった様々な種類の遺物も出土した。

第2節 調査の方法

調査区は便宜上2区に大分した。残された絵図や昭和30年代の古川堀反通りを写した記録写真から、秋田カトリック教会に隣接する調査区には旧秋田警察署庁舎が建つ以前に病院が建っていたが、その表門として寛文初年以降の絵図に、200年間を通じ記載されている根本家屋敷の一部である長屋門が使用されていたことがわかった。このことから隣接するカトリック教会と警察署の敷地界から、屋敷の間尺が記された、寛文初（1666～'69）年の『久保田御城下絵図』や寛保2（1742）年の『御城下絵図』から判断し、200年間根本氏の屋敷があった区域を南側調査区とし、反対に、小野岡氏をはじめ、細川氏・真崎氏等の屋敷主の入れ替えがあった区域を北側調査区としてそれぞれ調査した。基本土層もそれぞれ、北側調査区には「小」の字を、南側調査区には「根」の字を、北側調査区で一部土手長町側に係る部分は「土」の字を頭につけ、それぞれ小Ⅰ・小Ⅱ…、根Ⅰ・根Ⅱ…、土Ⅲ・土Ⅳ…と表記した。その結果、北側調査区と南側調査区では、断面観察の結果、整地の仕方や回数異なる



第2図 調査区域図

ことも判明した。北側調査区が小Ⅱ～小Ⅳ層上まで5時期の生活面が、南側調査区では、根Ⅲ～根Ⅵ層上の4時期を確認した。また旧土手長町地区のⅠ～Ⅱ層土は小Ⅰ～小Ⅱと同じ堆積土であるため、土Ⅲ層からの表記とした。

調査に伴い、工事予定地を更地としたものの、道場棟などの建物基礎（地中梁）が地中に残されたままの状態であった。そのため、南側調査区・北側調査区の一部は当初、建物基礎の形状に合わせた地区（A～Z）に分けて調査を行った。

北側調査区の一部を除く区域はグリッド法を採用し遺跡の中央付近に任意の点（X = -30921.288 m、Y = -62285.078m、Z = 7.657m）を原点（MA50）としてX軸・Y軸の方向に4 m間隔の方眼を設定した。その交点にグリッド杭を打設し、グリッド杭には東から東西方向を示す・・・LS・LT・MA・MB・・・というアルファベット2文字と、南から北へ向かって昇順する・・・48・49・50・51・・・の2桁の数字を組み合わせた記号を記入した。各グリッドの呼称は南東隅の杭の記号を用いた。グリッドの座標北は磁北より西へ17.5度傾いている。

後に、南側調査区、北側調査区の一部にもグリッドを拡大し、A～Z地区の記録に修正を加えて、遺跡全体で統一させることができた。

検出された遺構には、種別を問わず確認した順に通し番号（確認調査時から連続する）を付した。また、番号を登録した後に遺構と判断されなかったものは欠番とした。

遺物は遺構内出土のものは、遺構名・出土層位・出土年月日を記入して取り上げた。遺構外出土のものは、出土グリッド・出土層位・出土年月日を記入して取り上げた。

調査の記録は、平面図・断面図および写真で行った。平面図・断面図の縮尺は1/20を原則としたが、遺構細部の図面が必要なものについては1/10で作図した。写真は、35mmのモノクロ・カラーリバーサルフィルムおよびデジタルカメラで撮影した。

第3節 調査の経過

発掘調査は、平成17年3月15日から7月29日まで延べ88日間行った。調査経過は以下のとおりである。

3月8日～14日、本調査に先立ち表土除去を行った。

【第1週】 3月15日～3月18日

15日、調査を開始する。南側調査区で、G・H区と第11トレンチ（確認調査時に埋め戻された）を調査し、陶磁器をはじめ、瓦や木製品などが多数出土した。

【第2週】 3月22日～3月25日

南側調査区で、確認調査時に設定した第10トレンチを南北に延長して掘り下げた。その結果、N区で巴紋の軒瓦片が出土した。さらに同区を1 mほど掘り下げて、版築状に突き固め盛られていることを確認した。

【第3週】 3月28日～3月30日

南側調査区第10トレンチの調査およびB・C・D区で確認調査時に検出された遺構の精査を行った。

【第4週】 4月4日～4月8日

南側調査区で、A～N区の掘り下げと遺構検出を行った。A区で検出した樋（S D316）が北隣のE区で検出した廃棄土坑（S K456）を切り、さらに北側に延びていることを確認した。

【第5週】 4月11日～4月14日

南側調査区で、S D316・S K456の精査、C～F・L・N区の遺構検出作業を行った。

【第6週】 4月18日～4月22日

南側調査区で、A～I・L・N区の掘り下げおよび遺構精査を行った。

19日、秋田警察署長他2名が来跡した。

【第7週】 4月25日～4月28日

南側調査区で、D区で一辺60cm程の方形の土坑（S K431）内に木枠が組まれていることを確認した。（S K431はのちにS X431へ訂正された。）O・P・Q・R区の調査を終了した。

【第8週】 5月2日～5月6日

南側調査区で、F区の土坑（S K456）や、S・U・V区は地山面まで攪乱が及び、遺構も検出されなかったため、調査を終了した。6日、佐田副所長と児玉南調査課長が来跡。

【第9週】 5月9日～5月13日

南側調査区で、D区の井戸跡（S E599）やG区の土坑（S K591）を検出した。12～13日、グリッド杭を打設した。

【第10週】 5月16日～5月20日

南側調査区で、C・D区から排水施設と考えられる一連の遺構を検出した。W～Z区を掘り下げたが、攪乱層から現代と江戸時代後期の遺物が混在して出土したため、江戸時代後期に相当する層は、現警察署建設時に削平されたものと断定した。19日、北側調査区で明治以降整地層（小I）（厚さ10～30cm）の除去を開始した。

【第11週】 5月23日～5月27日

北側調査区で、目隠し塀と思われる柵列（S A735）を検出した。また、第2・3トレンチを掘り下げ、確認調査時に検出した住居跡を確認した。

南側調査区で、D区の井戸跡（S E599）を調査し、桶が3段以上重なっていることを確認した。

【第12週】 5月30日～6月3日

北側調査区の第2トレンチ断面から、古川堀反町と土手長町との町境兼生活用水として利用された幅約2mの溝跡（S D01）を検出した。

【第13週】 6月6日～6月10日

北側調査区の第2トレンチ断面から廃棄土坑（S K814）を検出した。陶磁器・木製品・金属製品などと共に、「小野岡大和様…」と記された木簡が出土した。また、北側調査区北東で人頭大の礎石が東西に1間（約182cm）の等間隔で4つ並ぶ柱列（S B817）を検出した。また、Y区の土坑（S K712）から漆器が7点（うち1点に九曜紋）出土した。

【第14週】 6月13日～6月17日

北側調査区で、前週木簡が出土したS K814から、江戸時代末期のものと思われる秋田県産の甕が出土した。13日、明德館高校泉田教諭と生徒4名が体験学習のため来跡した。

【第15週】 6月20日～6月24日

北側調査区中央部を走る溝跡（S D787）を検出し、杭や板が残り、石で裏込めされていることを確認した。

【第16週】 6月27日～7月1日

北側調査区で、江戸時代中期（小Ⅲ・小Ⅳ）層上面の遺構写真測量を行い、掘立柱建物跡の柱筋を捉えた。X区の精査を終了した。7月1日、聖霊高校生徒1名が見学のため来跡した。

【第17週】 7月4日～7月8日

北側調査区をⅣ層上面まで掘り下げ、写真測量を行った。

7・8日、八戸工業大学高島成侑教授が、掘立柱建物跡についての調査指導のため来跡した。

【第18週】 7月11日～7月15日

北側調査区を江戸時代前期（小Ⅵ）層上面まで掘り下げた。南側調査区でD区の井戸跡（S E599）の精査を終了した。

11日、小野寺清教育長・加藤雅広教育次長・大野憲司文化財保護室長・五十嵐一治学芸主事が来跡した。聖霊高校生徒1名が見学のため来跡した。

【第19週】 7月19日～7月23日

A・D区の精査を終了し、南側調査区の調査を終了した。

21日、児玉南調査課長・甘肅省交流員張俊民氏が来跡した。

23日、遺跡の一般公開を実施、185名の見学者でにぎわった。

【第20週】 7月25日～7月29日

北側調査区全体の調査を終了した。

28日、文化財保護室五十嵐学芸主事立ち会いのもと、原因者への現場引き渡しを行った。

29日、遺物・調査発掘器材などの搬出作業を行い、全ての調査工程を終了した。

第4節 整理作業の方法と経過

整理作業は、発掘作業終了後秋田県埋蔵文化財センター中央調査課で行った。遺物は、洗浄・注記をしたのち、集計・分類・接合・実測図作成・トレース・写真撮影などを行った。遺構については、発掘現場で記録した実測図を点検、修正し、第2原図を作成した。自然科学的分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。出土した木製品の中で、特に重要と考えられるものは、樹種同定をした後、高級アルコール法・糖アルコール保存法により保存処理を行った。以上の経過を経て、原稿を作成し編集作業を行った。

参考文献

秋田市 『図説 秋田の歴史』 2005（平成17）年

越前谷国治 『40年前の秋田市』 無明舎出版 2003（平成15）年

第4章 調査の記録

第1節 北側調査区

1 基本層序

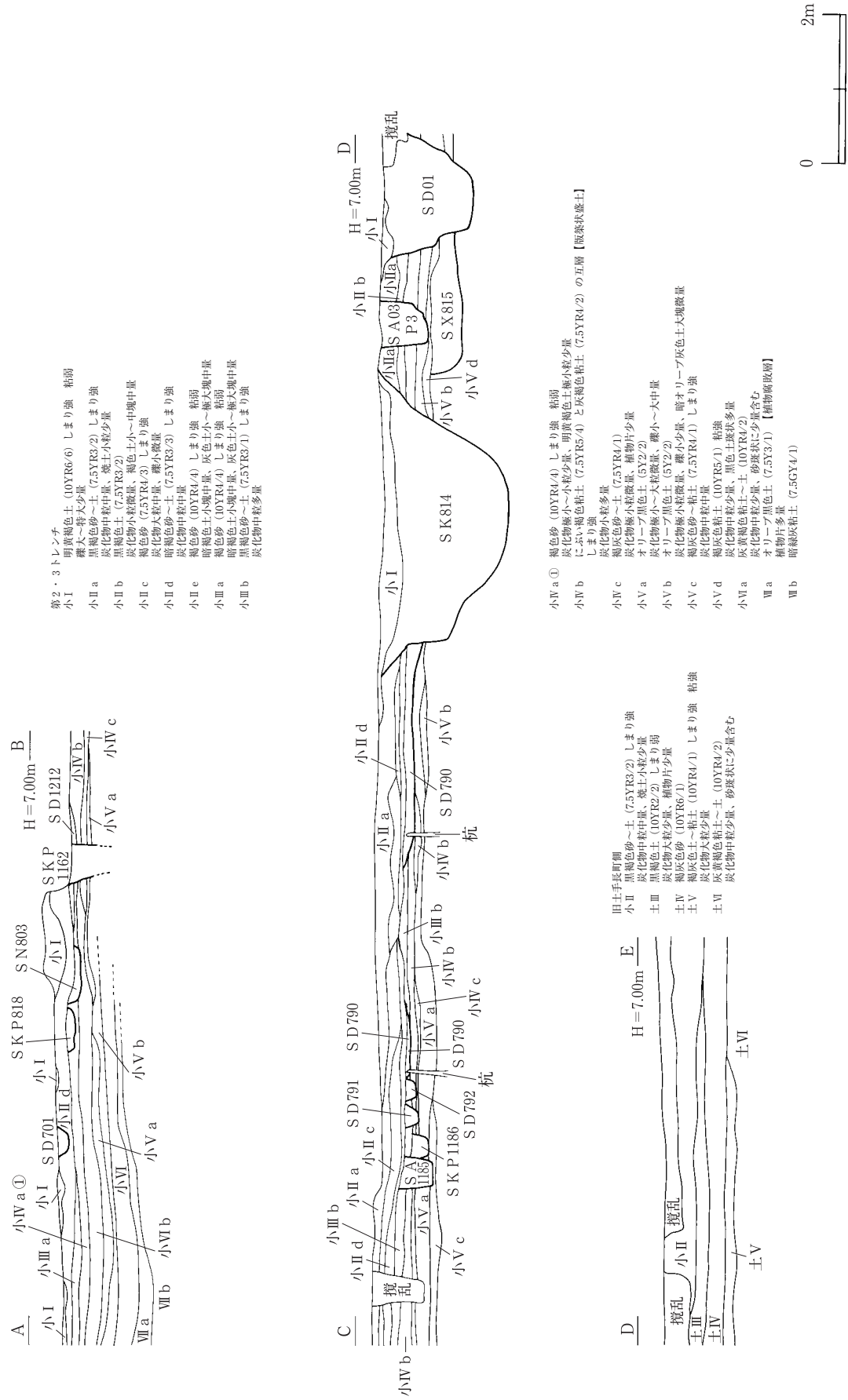
北側調査区は、旧秋田警察署の駐車場跡地と建物基礎跡から構成されている。建物基礎跡にあたる南側は、清水氏・横田氏・細川氏・真崎氏などの屋敷があったことが『御城下絵図』などから確認できるが、最終的には小野岡家屋敷に入るため、17世紀中葉頃から幕末まで根本家屋敷である南側調査区と区分するために、北側調査区とした。駐車場跡では部分的な攪乱はあったが、旧秋田警察署の道場跡や病院建物跡により広範囲に攪乱を受けていた南側調査区と比較すれば、かなり良好な状態で遺構を検出することができた。

遺跡の基本層序は、確認調査時のトレンチ断面を利用して土層を観察した。その結果、若干の起伏はあるが、全体的に水平になるように整地されていることが確認できた。『御国替当座御城下絵図』から、旭川が掘り替えられる以前の自然地形は、旧旭川の右岸にあたる川原であり、湿地帯であったことが予想される。地山面である植物腐敗層（Ⅶ層）はほぼ標高5.7～5.6mの高さであり、調査区全体に広がっている。Ⅵ層は江戸最初期の整地層であり、湿地帯であったこの地に多量の粘土や砂を他所から運び、河川氾濫原を埋め立てた様子が土層より観察できる。また、古川堀反町の片側対面町である旧土手長町の町名の由来が、旭川の掘り替えの際に出た土砂を埋め立てて造成した地ということから考えれば、古川堀反町も同様に造成されたと考えられる。

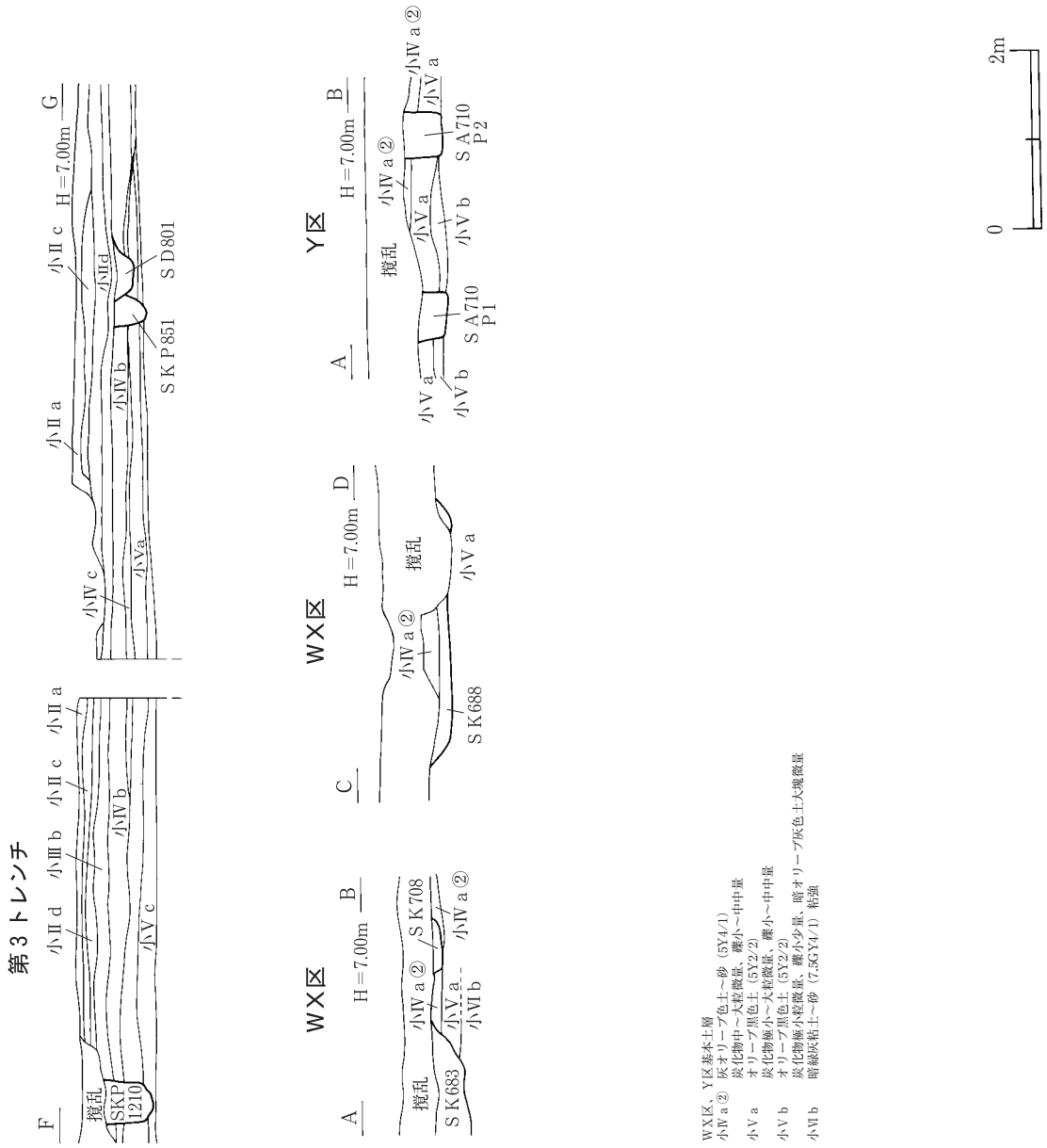
調査区より東側は、古川堀端通り、さらに東には旧旭川を埋め立てた旧久保田城の穴門堀がある。遺跡は、前述のように旧旭川の湿地帯を埋め立てた造成地にあたる。それを立証するように自然地形は本来の流路であった西側に行くに従い、ゆるやかな傾斜をみせている。また地山面近くまで掘り下げると湧水が起きやすい。地山面が旧旭川の河川堆積土に由来する植物腐敗層であることは東根小屋町遺跡、藩校明德館跡や久保田城跡の中土橋周辺の調査結果とも一致する。以上から古文書などに記されたとおり、蛇行していた旧旭川の流れを現在の流路に掘り替えた記述と一致することが判明した。その後、地盤沈下や屋敷割の変遷に伴い、盛り土による造成を繰り返して生活面を築いている。

一方、町境溝跡であるS D01をまたいだ土手長町側では、古川堀反町側と異なる整地層を検出している。しかしⅡ層土は、小野岡氏が19世紀前葉頃に屋敷を北側調査区全体に広げた後の造成であるため、調査区内では町境をまたぎ、造成土に統一が見られる。

基本層序と生活面との関連については、それぞれ小Ⅴ～小Ⅵ層上面は第1期（城下町成立期～17世紀中葉）・第2期（17世紀後半～18世紀中葉）、小Ⅳ層上面は第3期（18世紀中葉～19世紀前葉）、小Ⅲ層上面は第4期（19世紀前葉～中葉）、小Ⅱ層上面は第5期（幕末～近代）の生活面となる。小Ⅵ層は最初期の整地層、小Ⅴ層は城下町成立期の整地層と考えられる。小Ⅳ層は最も突き固められた整地層で版築状を呈していた。小Ⅰ層は表土である。また旧土手長町側では、土Ⅴ・土Ⅵ層上が古川堀反町側の第1～2期に相当し、土Ⅲ～土Ⅳ層上が古川堀反町側の第3～4期に相当している。



第3図 第2トレンチ土層



2 検出遺構

(1) 北側調査区第1期

年代は、基本土層観察、遺構配置、絵図や出土遺物から判断して、城下町形成期にあたる江戸時代初期～17世紀中葉と推測される。江戸時代草創期の調査区範囲周辺の様子を知る手がかりは、慶長9(1604)年頃の様子を描いた『御国替当座御城下絵図』が初見である。この時代は、城下町の建設途中の時期にあたり、旧旭川が現在の穴門堀を本流として蛇行しながら流れていた。城下町が整備されてから外町(町人町)となった場所にも武家の名が記されている。絵図の調査区予想範囲には具体的な姓名は記されず、北から市右衛門、藤左衛門、雅楽丞といった通称のみ記されている。旭川の掘り替えは1620年頃まで続き、その後、本格的に町割が行われていくため、この時期は江戸時代当初の暫定的な屋敷割と言えよう。

① 掘立柱建物跡

S B 1012 (第5図)

北側調査区中央東側のL R～L T 54・55 VI層上で、屋敷正面にあたる古川堀端通りに対するように15基の柱穴が並ぶ建物跡を検出した。部分的に柱穴跡が確認されなかったため、全容は不明である。後世の掘削により、礎石・礎板が除かれた可能性も考えられる。柱穴はすべて掘立柱で、P 4のみ掘形を確認できなかったが、柱穴底面に敷かれた礎板を検出できた。桁行(北西-南東)4間、梁行(北東-南西)3間の掘立柱建物で、建物規模は桁行総長7.30m、柱間距離は北から2列目の柱列で見ると、西から1.80m(P 13-P 9)、1.90m(P 9-P 6)、3.60m(P 6-P 1)、梁行総長5.30m、柱間距離は西側柱列で北から1.50m(P 12-P 13)、1.90m(P 13-P 14)、1.90m(P 14-P 15)である。柱筋は北側で見ると北から東へ18.5度傾いている。北側調査区で最も古い建物跡であり、江戸時代前半に使用された間尺である6尺3寸を基準に建てられていることから、『御国替当座御城下絵図』に描かれた時代にあたる江戸時代草創期の建物跡であると思われる。

S B 1233 (第6図)

北側調査区北東側のL S～MA 56・57 VI層上で、11基の柱穴からなる桁行(北西-南東)6間、梁行(北東-南西)2間の掘立柱建物跡を検出した。P 4・5は建て替えである。後世の削平により柱穴が失われていることと、遺構が調査区外に続く想定されることから、全容は不明である。建物規模は、桁行総長8.36m、柱間距離は西から0.58m(P 2-P 3)、2.48m(P 3-P 5)、1.22m(P 5-P 6)、1.16m(P 6-P 7)、1.58m(P 7-P 8)、1.34m(P 8-P 9)、梁行総長3.30m、柱間距離は北から1.82m(P 1-P 6)、1.48m(P 9-P 11)である。桁行の柱筋は北側で見ると北から西へ71度傾いている。

② 柱 列

S A 783 (第7図)

北側調査区南側Z区内のL Q・L R 51 VI層上で、北西から南東へ並ぶ3基の柱穴を検出した。建物の一部かとも考えられるが、建物基礎により調査できず全容は不明である。柱穴はすべて掘立柱であ

第4章 調査の記録

る。柱列総長は3.28mで、柱間距離は西から1.62m (P 1 - P 2)、1.66m (P 2 - P 3) で、柱筋は北から西へ70度傾いている。

S A 839 (第7図)

北側調査区南西に位置するW・X区内のLT～MB51VI層上で、北西から南東へ並ぶ5基の柱穴を検出した。柱穴はすべて掘立柱である。P 5のみ径23cmの柱材が残り、根固めの割栗石がその周りにある。建物基礎により調査できなかったが、北側に続く建物跡の一部の可能性もある。柱列総長は7.16mで、柱間距離は北西から1.78m (P 1 - P 2)、1.86m (P 2 - P 3)、1.82m (P 3 - P 4)、1.70m (P 4 - P 5)、柱筋は北から西へ70度傾いている。覆土はそれぞれ単層である。

S A 1014 (第7図)

北側調査区中央やや西側のMA・MB54VI層上で、北西から南東へ並ぶ3基の柱穴を検出した。柱穴はすべて掘立柱であり、P 1のみ柱穴底面に礎石が残っていた。建物の一部かとも考えられるが、建物基礎や後世の削平のため柱穴が失われている可能性もあるため、全容は不明である。柱列総長は3.06mで、柱間距離は西から1.56m (P 1 - P 2)、1.50m (P 2 - P 3) である。柱筋は、北から西へ72度傾いている。

③ 溝 跡

S D 948 (第9図)

北側調査区西端にあたるMB53VI層上、部分的に堆積が認められる木端層直下で、S X 1010に切られ、S X 900と切り合い(新旧不明)、北西から南東へ延びる溝跡を検出した。遺構の南西側を建物基礎により壊されていたため、全容は不明である。規模は、長さ2.24m(残存値)、幅0.67～1.11m、確認面からの深さは0.45m、主軸は北から東へ3度傾いている。遺物は17世紀代の肥前産陶磁器片が出土している。排水溝として使用されていたと思われる。

S D 1142 (第13図、図版15-3、図版18-1)

北側調査区東側にあたるLR・LS56VI層上で、第2期の溝跡であるS D 822に切られ、東から西にかけ、ほぼS D 822と平行するように延びると予想される溝跡を確認した。S D 822同様に後世の削平を受けているため、全容は不明である。規模は、長さ5.70m(残存値)、最大幅0.34m、確認面からの深さは0.12m、主軸は北から西へ76度傾いている。

④ 土 坑

S K 674 (第15図)

北側調査区南側Y区内LS51VI層上で、S K 675を切り、S A 676 P 3・S K 712に切られる円形(推定)のプランを確認した。規模は、長軸0.93m(北西-南東)、短軸1.11m(北東-南西)、確認面からの深さは0.59mである。覆土は単層である。遺物は、17世紀前半の肥前産陶器が出土している。

S K 675 (第15図)

北側調査区南側に位置するY区内LS51VI層上で、S K 674・712、S A 676 P 2に切られる楕円形(推定)のプランを確認した。規模は、長軸1.21m(北西-南東、残存値)、短軸1.51m、確認面からの深さは0.59mである。覆土は単層である。遺物は、17世紀代の肥前産陶磁器、木製品では下駄や加

工木材、鳥骨などが出土している。

S K 848 (第14・17図)

北側調査区南東のL Q・L R 53 V層上で、S D 989に切られる楕円形(推定)のプランを確認した。遺構の東側および南側は調査区外へ続くため不明である。規模は、長軸1.25m(北西-南東、残存値)、短軸0.82m(北東-南西、残存値)、確認面からの深さは0.15mである。覆土は単層でグライ化し、木片が混入している。遺物は16世紀末~17世紀代の肥前産陶磁器片、木製品では農具である鋤の他に加工木材片が数点出土している。

S K 1007 (第9図)

北側調査区東側のL R・L S 55 VI層上で、S B 1012 P 6・S B 1006 P 2に切られる不整長方形のプランを確認した。規模は、長軸2.56m(北西-南東)、短軸1.02m(北東-南西)、確認面からの深さは0.15mである。覆土は単層である。遺物は出土していない。

⑤ その他

S X 815 (第9図、図版21-2)

北側調査区北西側のMD 55に位置する。S D 01に切られている状態を第2トレンチ断面から確認した。平面形はVI層上で不正形のプランとして確認した。規模は、長軸1.94m(残存値、北西-南東)、短軸1.40m(北東-南西)、確認面からの深さは0.44mである。廃材が多量に折り重なって捨てられていたが、遺構の性格は不明である。覆土は4層に分けられ、廃材やその他の廃棄物を捨てた後、V層土を盛っている。

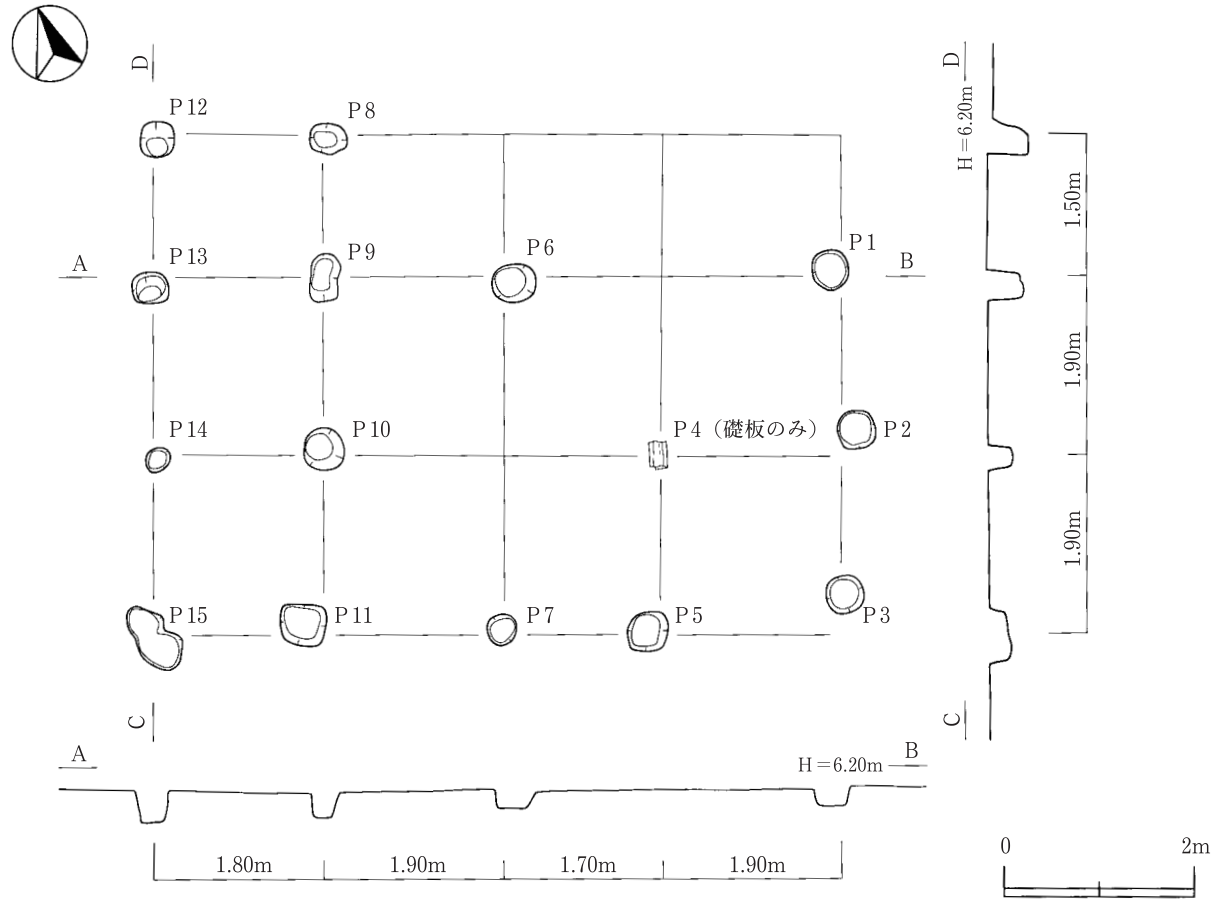
S X 900 (第8図、図版16-1・2)

北側調査区西端のMB・MC 53・54 VI層上で、S B 1026 P 19・P 20に切られる楕円形のプランを確認した。S D 948とも切り合うが新旧関係は不明である。規模は、長軸3.51m(北西-南東)、短軸1.79m(北東-南西)、確認面からの深さは0.19mである。長軸方向に直線的に並ぶ杭列を確認できたため、元来はS D 948に関連した水場遺構であった可能性がある。遺物は、17世紀後半~18世紀初頭の肥前内野山窯産陶器の他、木製品では露卯下駄をはじめ、加工された木片や部材が多量に出土している。

S X 1010・S X 1011 (第8図、図版16-3)

北側調査区西よりのMB 53・54に部分的に堆積した木端層直下のVI層上で、北東-南西を軸に並んだ2つの隅丸方形のプランを確認した。小礫が多数整って敷かれている。S X 1011はS A 1014 P 1を切っている。規模は、S X 1010が長軸0.99m(北西-南東)、短軸0.97m(北西-南東)、確認面からの深さは0.12mで、S X 1011は長軸0.89m(北東-南西)、短軸0.87m(北西-南東)、確認面からの深さは0.07mで、心々の間は1.68mである。覆土は単層である。遺物は出土していない。杭は西側近辺にあるS X 900やS D 948と関連すると考えられる。建物の基礎の一部ではないかと考えられるが不明である。祠などが建っていた可能性もある。

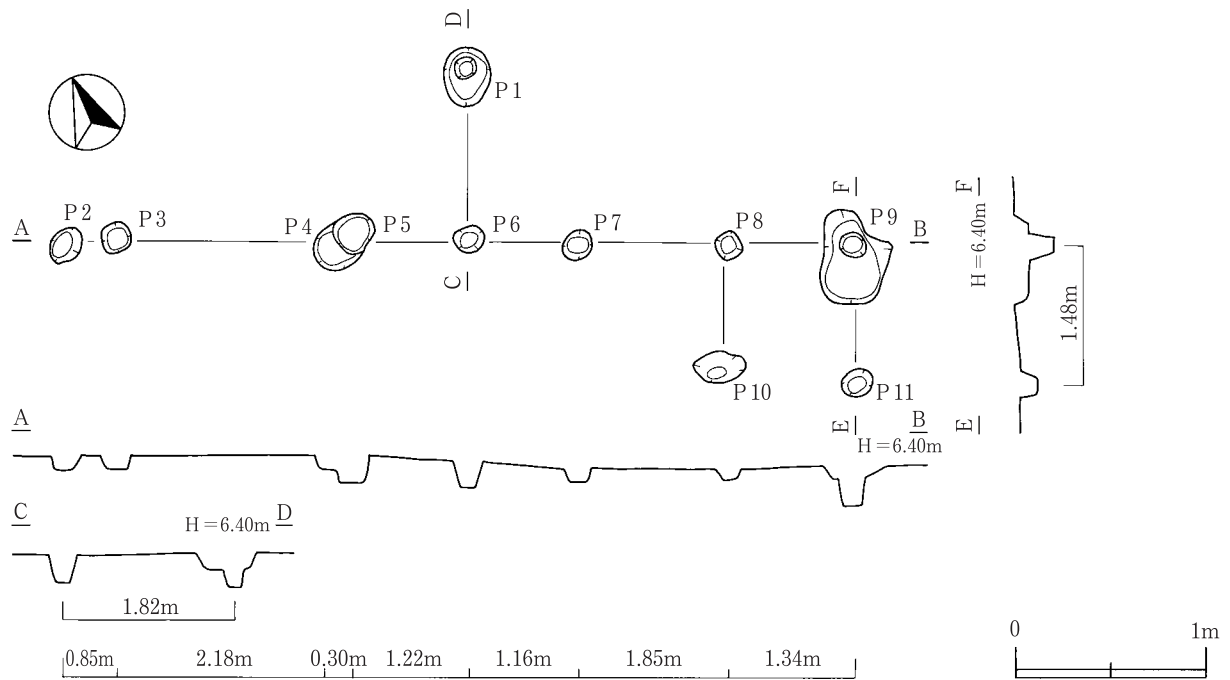
第4章 調査の記録



S B1012

	グリッド	規模 (m)			底面標高 (m)	土 色	しまり	粘性	混 入 物	備 考
		長径	短径	深さ						
P1	L R 55	0.44	0.40	0.21	5.76	1 オリーブ黒色土 (7.5Y3/2)	中	中	炭化物小粒微量 焼土極小粒微量	
P2	L R 55	0.42	0.41	0.26	5.74	1 オリーブ黒色土 (7.5Y3/2)	中	中	炭化物小粒微量 焼土極小粒微量	
P3	L R 54	0.41	0.40	0.15	5.80	1 オリーブ黒色土 (7.5Y3/2)	中	中	炭化物小粒微量 焼土極小粒微量	
P4	L R 55	-	-	-	5.75	-	-	-	-	礎板のみ
P5	L R 54	0.44	0.43	0.19	5.76	1 オリーブ黒色土 (7.5Y3/2)	中	中	炭化物小粒微量 焼土極小粒微量	
P6	L S 55	0.48	0.43	0.20	5.75	1 オリーブ黒色土 (7.5Y3/2)	中	中	炭化物小粒微量 焼土極小粒微量	S K1007を切る S B817 P4下層検出
P7	L S 54	0.33	0.33	0.25	5.70	1 オリーブ黒色土 (7.5Y3/2)	中	中	炭化物小粒微量 焼土極小粒微量	
P8	L S 55	0.39	0.33	0.33	5.61	1 オリーブ黒色土 (7.5Y3/2)	中	中	炭化物小粒微量 焼土極小粒微量	
P9	L S 55	0.52	0.29	0.26	5.66	1 オリーブ黒色土 (7.5Y3/2)	中	中	炭化物小粒微量 焼土極小粒微量	
P10	L S 55	0.46	0.46	0.35	5.61	1 オリーブ黒色土 (7.5Y3/2)	中	中	炭化物小粒微量 焼土極小粒微量	
P11	L S 54	0.50	0.44	0.22	5.76	1 オリーブ黒色土 (7.5Y3/2)	中	中	炭化物小粒微量 焼土極小粒微量	
P12	L T 55	0.38	0.36	0.43	5.55	1 オリーブ黒色土 (7.5Y3/2)	中	中	炭化物小粒微量 焼土極小粒微量	
P13	L T 55	0.40	0.34	0.35	5.62	1 オリーブ黒色土 (7.5Y3/2)	中	中	炭化物小粒微量 焼土極小粒微量	
P14	L T 55	0.38	0.24	0.25	5.71	1 オリーブ黒色土 (7.5Y3/2)	中	中	炭化物小粒微量 焼土極小粒微量	
P15	L T 54	0.78	0.45	0.25	5.69	1 オリーブ黒色土 (7.5Y3/2)	中	中	炭化物小粒微量 焼土極小粒微量	

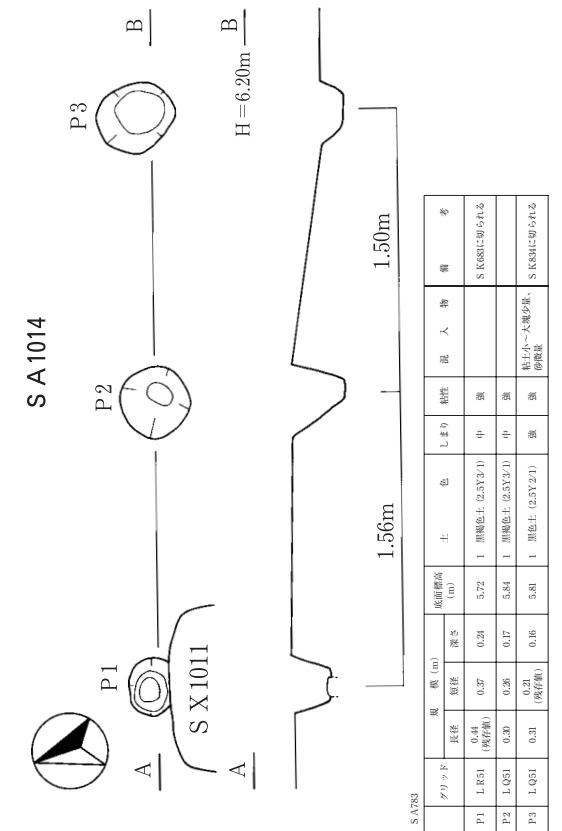
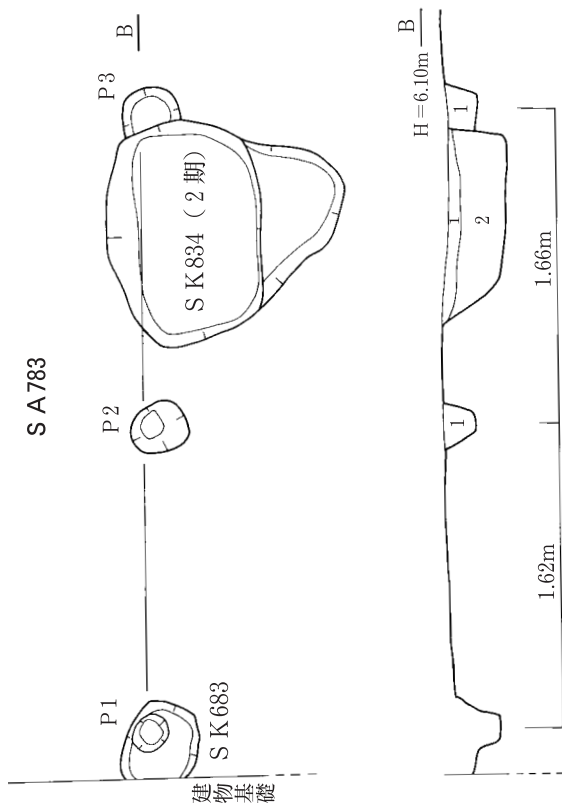
第5図 北側1期S B1012



S B 1233

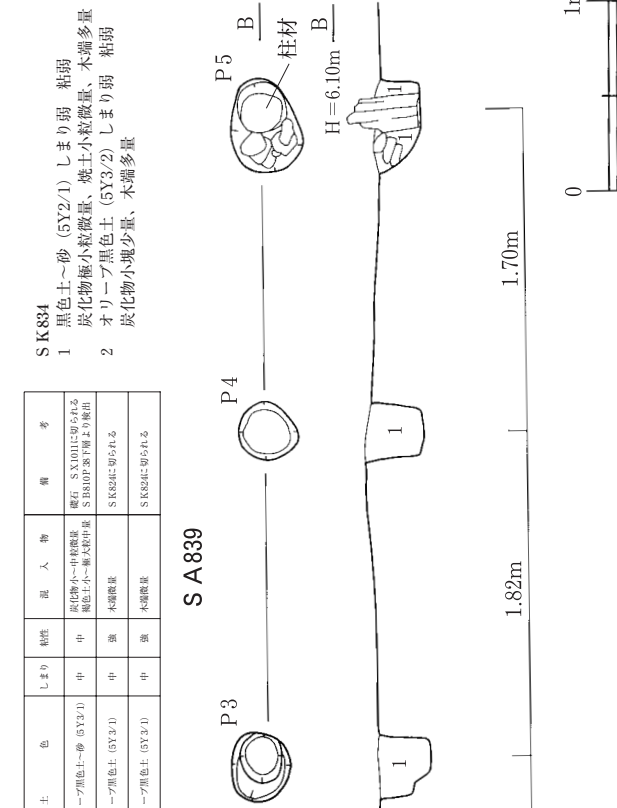
グリッド	規模 (m)			底面標高 (m)	土色	しまり	粘性	混入物	備考		
	長径	短径	深さ								
P1	L T 57	0.63	0.49	0.37	5.74	1	オリブ黒色土 (7.5Y3/2)	中	中	炭化物小粒微量 焼土極小粒微量	
P2	MA56 MA57	0.40	0.32	0.15	5.98	1	オリブ黒色土 (7.5Y3/2)	中	中	炭化物小粒微量 焼土極小粒微量	
P3	MA57	0.32	0.31	0.15	5.99	1	オリブ黒色土 (7.5Y3/2)	中	中	炭化物小粒微量 焼土極小粒微量	
P4	L T 56 L T 57 (残存値)	0.29	0.45	0.16	5.99	1	オリブ黒色土 (7.5Y3/2)	中	中	炭化物小粒微量 焼土極小粒微量	S B 817 P 11下層検出 S D 801下層検出
P5	L T 56 L T 57	0.44	0.43	0.29	5.85	1	オリブ黒色土 (7.5Y3/2)	中	中	炭化物小粒微量 焼土極小粒微量	S B 817 P 8下層検出
P6	L T 56 L T 57	0.31	0.28	0.29	5.79	1	オリブ黒色土 (7.5Y3/2)	中	中	炭化物小粒微量 焼土極小粒微量	S A 930 P 3下層検出 S A 1222 P 3下層検出
P7	L S 56 L S 57 L T 56 L T 57	0.34	0.29	0.13	5.86	1	オリブ黒色土 (7.5Y3/2)	中	中	炭化物小粒微量 焼土極小粒微量	S A 1222 P 4下層検出
P8	L S 56 L S 57	0.29	0.27	0.12	5.90	1	オリブ黒色土 (7.5Y3/2)	中	中	炭化物小粒微量 焼土極小粒微量	S B 817 P 3下層検出 S A 930 P 5下層検出 S A 1222 P 5下層検出 S D 801下層検出
P9	L S 56 L S 57	0.99	0.72	0.42	5.66	1	オリブ黒色土 (7.5Y3/2)	中	中	炭化物小粒微量 焼土極小粒微量	
P10	L S 56	0.45	0.36	-	-	1	オリブ黒色土 (7.5Y3/2)	中	中	炭化物小粒微量 焼土極小粒微量	
P11	L S 56	0.30	0.28	0.19	5.79	1	オリブ黒色土 (7.5Y3/2)	中	中	炭化物小粒微量 焼土極小粒微量	

第6図 北側1期S B 1233



グリッド	風 眼 (m)		底面標高 (m)	土 色	しまり	粘性	混 入 物	備 考
	半径	深さ						
P1 L.R51	0.44	0.37	5.72	1 黒褐色土 (2.5Y3/1)	中	強		S K 683に切られる
P2 L.Q51	0.30	0.26	5.84	1 黒褐色土 (2.5Y3/1)	中	強	粘土小～大塊少量	S K 834に切られる
P3 L.Q51	0.31	0.21	5.81	1 黒褐色土 (2.5Y2/1)	強	強		

グリッド	風 眼 (m)		底面標高 (m)	土 色	しまり	粘性	混 入 物	備 考
	半径	深さ						
P1 L.M51	0.45	0.32	5.41	1 黒褐色土 (2.5Y3/1)	中	強	炭化物細小粒微量	
P2 M.A51	0.33	0.31	5.45	1 黒褐色土 (2.5Y3/1)	中	強	炭化物細小粒微量	
P3 M.A51	0.37	0.32	5.63	1 黒褐色土 (2.5Y3/1)	中	強	炭化物細小粒微量	
P4 M.A51	0.31	0.31	5.65	1 黒褐色土 (2.5Y3/1)	中	強		S A 889に切れる
P5 L.T51	0.30	0.32	5.65	1 黒褐色土 (2.5Y3/1)	中	中	炭化物細小粒微量	柱材 崩壊石



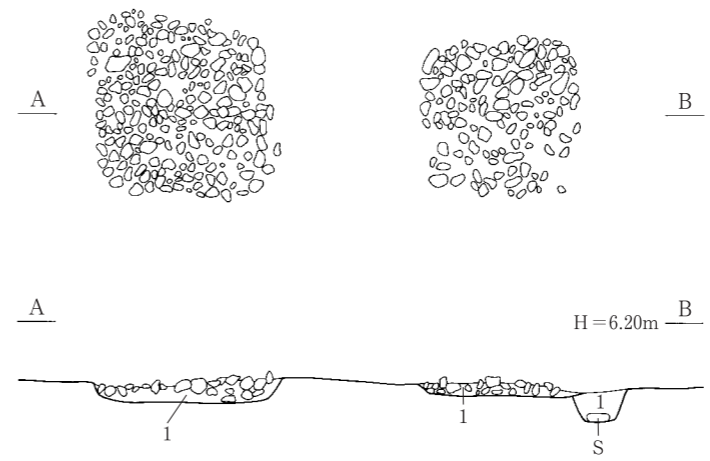
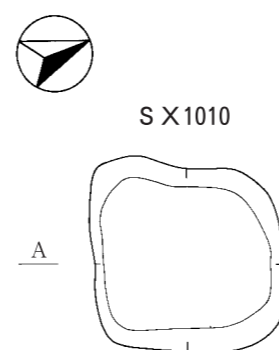
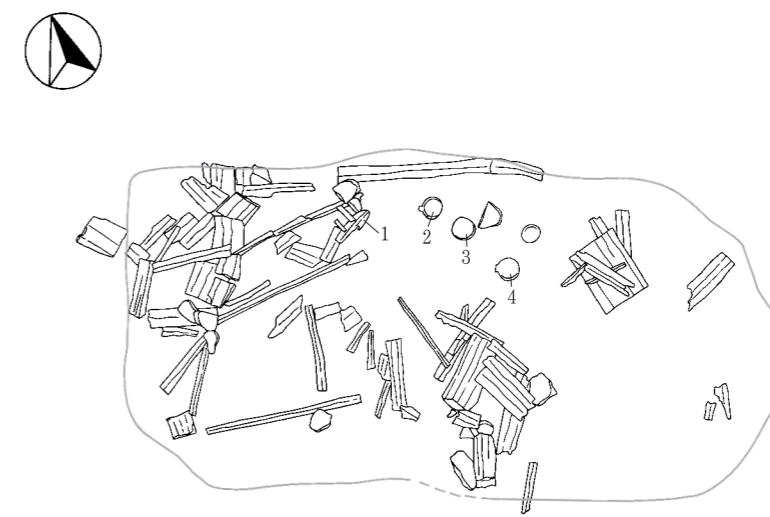
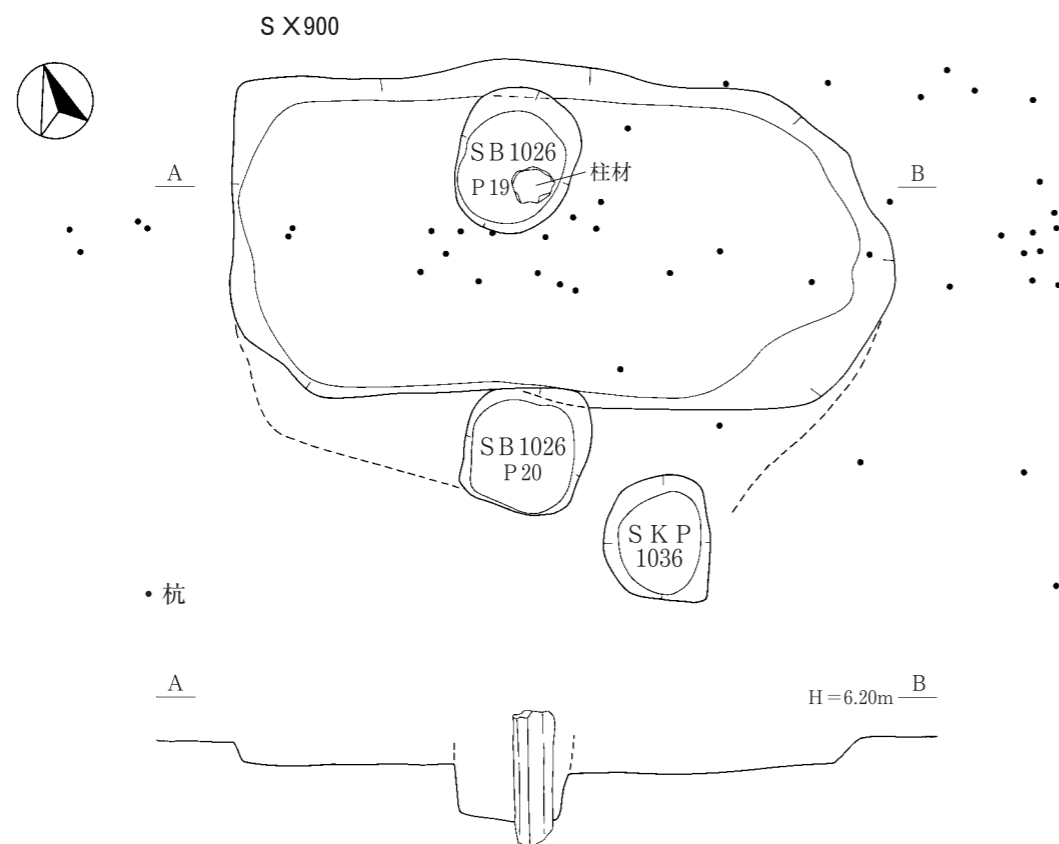
グリッド	風 眼 (m)		底面標高 (m)	土 色	しまり	粘性	混 入 物	備 考
	半径	深さ						
P1 M.B54	0.31	0.22	5.81	1 オリーブ褐色土～砂 (5Y3/1)	中	中	炭化物小～中粒微量 黒色土小～細大粒中量	S K 1011に切られる S B 810P 8F層より抽出
P2 M.B54	0.36	0.35	5.69	1 オリーブ褐色土 (5Y3/1)	中	強	本層微量	S K 834に切られる
P3 M.A54	0.41	0.36	5.69	1 オリーブ褐色土 (5Y3/1)	中	強	本層微量	S K 834に切られる

S K 834

1 黒色土～砂 (5Y2/1) しまり弱 粘弱
炭化物細小粒微量、粘土小粒微量、木端多量

2 オリーブ褐色土 (5Y3/2) しまり弱 粘弱
炭化物小塊少量、木端多量

第7図 北側1期 S A 783・839・1014



S X 900 遺物観察表

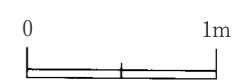
遺物番号	分類	器種	生産地	年代	編年区分	備考	挿図・図版
1	木製品	下駄	-	江戸時代	-	露卯下駄。	図版16-2
2	金属製品	灯明皿	-	江戸時代	-		第144図1
3	金属製品	灯明皿	-	江戸時代	-		第144図2
4	金属製品	灯明皿	-	江戸時代	-		第144図3
5	陶器	皿	肥前(内野山窯)	17世紀末~18世紀前半	IV	鉄軸と銅緑軸の接分。見込み蛇ノ目輪割ぎ。外側は透明釉。ロクロ成形。高台内掘削り。	-
6	木製品	樽底?	-	江戸時代	-		図版16-2
7	木製品	樽底?	-	江戸時代	-		図版16-2
8	木製品	下駄	-	江戸時代	-	露卯下駄。	図版16-2

S X 900

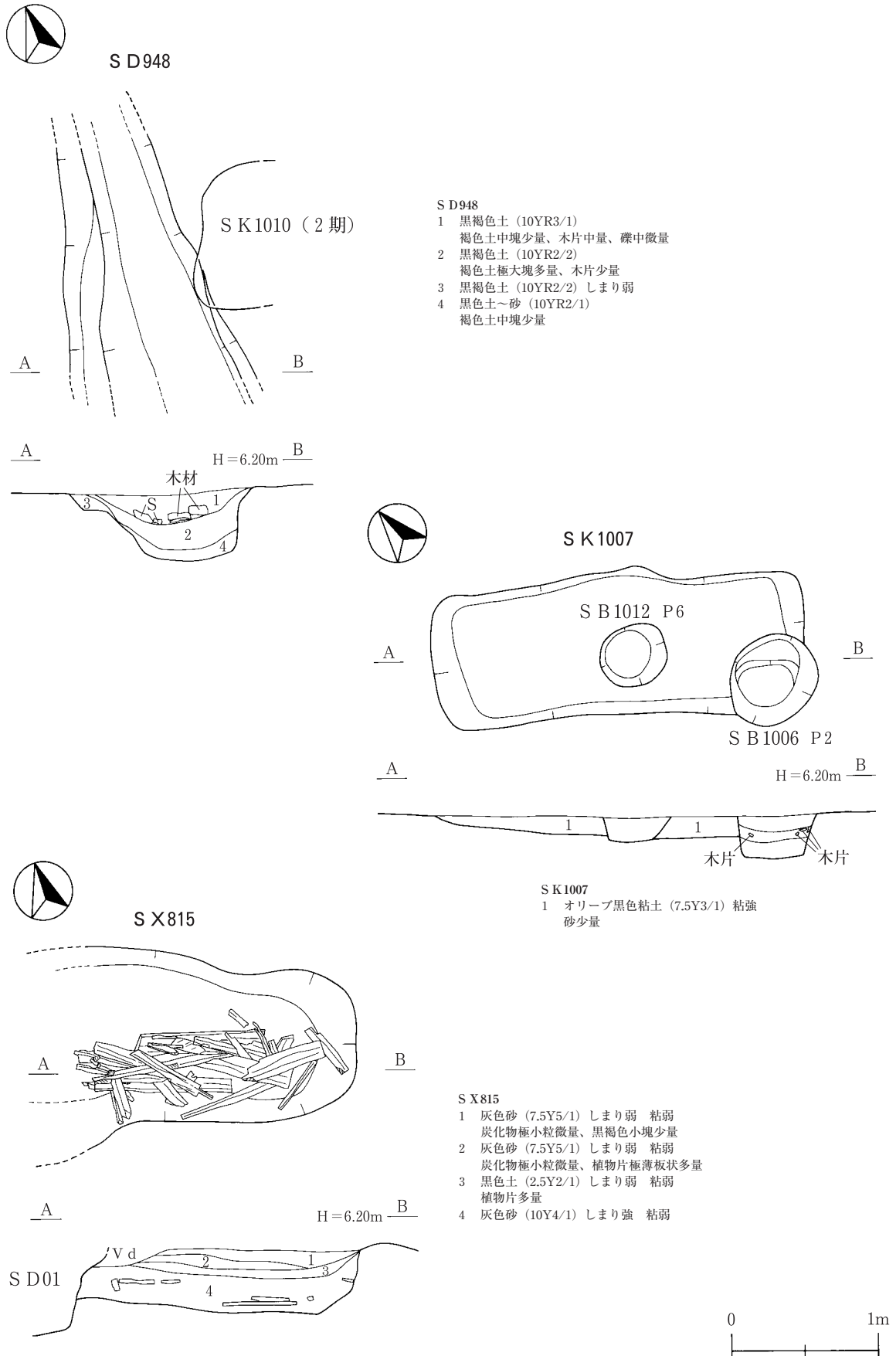
1 黒褐色土 (10YR2/3)しまり弱 粘弱
木片・木端・植物片多量

S X 1010・1011

1 オリーブ褐色土~砂 (2.5Y4/6) しまり強 粘なし
礫小多量



第8図 北側1期SK1010・1011、S X 900



第9図 北側1期S D948、S K1007、S X815

(2) 北側調査区第2期

年代は、基本土層観察、遺構配置、絵図や出土遺物から判断して、17世紀後半～18世紀中葉である。この時期には旭川の掘り替えも終了し、屋敷割も整備された頃である。古川堀反町も草創期とはかなり異なる町に変わり、寛文初（1661）年の様子を描いた『久保田城御城下絵図』や寛保2（1742）年の様子を描いた『御城下絵図』のような屋敷割であったことが読み取れる。寛文初年には、北側調査区には北から清水氏、横田氏が居住し、寛保2年には、小野岡氏、細川氏が居住していたことがわかる。

① 掘立柱建物跡

S B 838（第10図）

北側調査区W・X区内V・VI層上で、屋敷正面にあたる古川堀端通りに対するように新旧を含め9基の柱穴が並ぶ掘立柱建物跡を検出した。建物基礎により調査できず、全容は不明である。柱穴はすべて掘立柱でP 4・5には径15cmの柱材が残っていた。桁行（北西－南東）4間、梁行（北東－南西）1間の掘立柱建物で、建物規模は桁行総長（北側）8.12m、柱間距離は西から2.32m（P 1－P 2）、2.08m（P 2－P 3）、1.64m（P 3－P 4）、2.08m（P 4－P 5）、梁行総長1.48m（P 1－P 6）である。桁行柱筋は北側で見ると北から西へ70度傾いている。

S B 1006（第11図）

北側調査区中央東側にあたるLR～LT53～55V・VI層上で、屋敷正面にあたる古川堀端通りに対するように新旧を含め11基の柱穴が並ぶ掘立柱建物跡を確認した。部分的に柱穴跡が確認されなかったため、全容は不明である。後世の掘削により、礎石が除かれた可能性も考えられる。桁行（北西－南東）3間、梁行（北東－南西）3間の掘立柱建物で、建物規模は桁行、梁行ともに総長5.60m、桁行の柱間距離は北側柱列で西から1.80m（P 7－P 6）、1.90m（P 6－P 2）、1.90m（P 2－P 1）、梁行の柱間距離は西側柱列で、北から1.80m（P 7－P 8）、1.90m（P 8－P 10）、1.90m（P 10－P 11）である。柱筋は北側で見ると北から西へ73度傾いている。間尺が江戸時代前半に使用された6尺3寸だけでなく、江戸時代後半に主流になる6尺の間尺もあるため、6尺3寸から6尺への過渡期にあたる時期の建物と思われる。

S B 1026（第12図）

北側調査区中央西側にあたるMA～MC53～55V・VI層上で、屋敷正面にあたる古川堀端通りに対するように20基の柱穴が並ぶ建物跡を検出した。柱穴はすべて掘立柱で、P 1のみ明確な掘形を確認できなかったが、根固めのための割栗石を検出できた。P 11・12・15・17・18・19で柱材が残存していた。桁行（北西－南東）4間、梁行（北東－南西）4間の掘立柱建物で、建物規模は桁行が中央の柱列で総長7.32m、柱間距離は西から1.81m（P 18－P 15）、1.87m（P 15－P 12）、1.84m（P 12－P 7）、1.80m（P 7－P 3）、梁行総長7.06m、柱間距離は北から1.56m（P 10－P 11）、2.00m（P 11－P 12）、2.00m（P 18－P 19）、1.50m（P 19－P 20）、柱筋は桁行中央の柱列で見ると北から西へ73.5度傾いている。

② 柱列跡

S A 680 (第12図)

北側調査区南西側W～Y区内V・VI層上で、北西から南東へ並ぶ5基の柱穴を検出した。柱穴はすべて掘立柱であり、P 2のみ径13cmの柱材が残っていた。建物の一部とも考えられるが、建物基礎により調査できず、全容は不明である。柱列総長は12.02mで、柱間距離は、西から2.64m (P 1 - P 2)、1.29m (P 2 - P 3)、2.60m、(P 2 - P 3)、5.49m (P 4 - P 5) である。柱筋は北から西へ71度傾いている。P 4・5間は、建物基礎により調査できなかったが、いくつかの柱穴が存在していたと想定する。

③ 溝 跡

S D 822 (第13図、図版15-3、図版18-1)

北側調査区やや北側のLR～MC55・56V層上で、北西から南東へ延びる溝跡を検出した。削平のため失われている部分もあり、杭跡を頼りにしておおよその復元に努めたが、全容は不明である。第1期の溝跡であるS D 1142を切り、S D 1100とも切り合うが新旧関係は不明である。規模は、長さ18.89m (残存値)、幅0.57m、確認面からの深さは0.14m、主軸は北から西へ72.5度傾いている。溝の両壁に土留めの板材とそれを固定していた杭が一部残存していた。覆土は単層で植物腐敗土である。遺物は17世紀前葉の肥前産陶器の他、木製品では串や漆椀が出土している。屋敷境の施設として使用された溝跡であると思われる、寛文初(1661)年の久保田城下町の屋敷割を描いた『久保田城御城下絵図』にある間尺から推定できる位置とほぼ同位置で検出された。前述の史料では北に清水氏、南に横田氏の屋敷地と記されている。寛保9(1749)年の『御城下絵図』では同様に、北に小野岡氏、南に細川氏の屋敷地となり、両絵図とも屋敷境が古川堀端通りと直角になるように引かれている。この点でも絵図との符合が認められる。

S D 989 (第14図)

北側調査区の調査区北東端LR・LQ53～57の調査区境に位置し、古川堀端通りと平行し、北東から南西へ延びる溝跡を検出した。SK 848・849を切っている。攪乱により部分的に壊され、後世の削平により上部が失われている。溝の両壁に土留めの板材とそれを固定していた杭が一部残存していた。規模は、長さ16.66m (残存値)、最大幅0.60m、確認面からの深さ0.16m、主軸は北から東へ18.5度傾いている。覆土は3層に分けられ、グライ化した粘土や砂が堆積している。遺物は、18世紀代の陶磁器が数点と、加工板材数点が出土している。排水溝として使用されていたと思われる。

S D 1100 (第13図)

北側調査区北東にあたるLT56・57のVI層上で、S D 822と切り合い(新旧不明)、S A 1222 P 1・SK P 1139に切られ、北東から南西にやや蛇行する溝跡を確認した。溝の両壁に土留めの板材とそれを固定していた杭が一部残存していた。方向は北から西へ76度傾き、規模は長さ5.85m、最大幅0.32m、確認面からの深さは0.13mである。排水溝であると思われるが、後世の削平を受けているため全容は不明である。遺物は17世紀前葉の肥前産陶器が出土している。

④ 土 坑

S K 682 (第16図)

北側調査区南側 Z 区内に位置する L R 51 VI 層上で、北側を建物基礎により壊された不整形のプランを検出した。規模は長軸1.24m (北西-南東)、短軸1.10m (北東-南西)、確認面からの深さは0.15m である。覆土は単層である。遺物は17世紀代の肥前産陶磁器片、木製品では漆椀が出土している。

S K 688 (第14図)

北側調査区南西側 W・X 区内に位置する MA 50 V 層上で、S A 624 P 2、S A 680 P 2・P 3 に切られ、南側を建物基礎に壊された不整形 (推定) のプランを検出した。W・X 区南壁中央基本土層の断面観察から、第2期の遺構と判断した。規模は、長軸2.96m (北西-南東)、短軸0.96m (北東-南西、残存値)、確認面からの深さは0.16m である。覆土は2層に分けられる。遺物は、17世紀代の肥前産陶器片が出土している。

S K 712 (第15図、図版17-1・2・3)

北側調査区南側 Y 区内の L S 51 V~VI 層上で、S K 674・675 を切る隅丸方形 (推定) のプランを確認した。北側は建物基礎のため調査できず、上部は攪乱や後世の削平のため失われている。規模は、長軸2.81m (北西-南東)、短軸0.90m (北東-南西)、確認面からの深さ1.01m である。覆土は単層で木片が多量に混入している。遺物は17世紀~18世紀代の肥前産陶磁器をはじめ、17世紀の中国景德鎮窯産などが、木製品では家紋入りの漆椀、下駄や膳などが出土している。

S K 786 (第16図)

北側調査区南東側 Z 区内の L Q 50 VI 層上で、南側を建物基礎により壊された不整形のプランを検出した。規模は、長軸2.05m (北東-南西、残存値)、短軸1.13m (北西-南東、残存値)、確認面からの深さは1.06m である。覆土は2層に分けられ、遺物は17世紀前半~中葉の肥前産陶器片の他、木製品では漆椀・人形・曲物、その他加工木材が出土している。

S K 831 (第16図)

北側調査区南東側 Z 区内の L R 50 VI 層上で、建物基礎に南半分を壊された楕円形 (推定) のプランを検出した。規模は長軸1.25m (北西-南東)、短軸0.36m (北東-南西)、確認面からの深さは0.18m である。覆土は2層に分けられ、両層とも木端層であり、1層土には焼土粒が混入している。遺物は瓦片が数点確認されている。

S K 833 (第16図)

北側調査区南東側 Z 区内の L R 51 VI 層上で、北側を建物基礎により壊された不整形のプランを検出した。規模は、長軸0.80m (北東-南西、残存値)、短軸0.80m (北西-南東、残存値)、確認面からの深さは0.67m である。覆土は単層で木端層である。遺物は17世紀前半の肥前産磁器の他、挿鉢やかわらけが、木製品では篋・漆椀・加工木材が、種子ではスモモが出土している。

S K 834 (第16図)

北側調査区南西側 Z 区内の L Q 51 V 層上で、S A 783 P 3 を切る不整形のプランを検出した。規模は長軸1.32m (北西-南東)、短軸1.15m (北東-南西)、確認面からの深さは0.39m である。覆土は2層に分けられ、両層とも木端層である。遺物は17世紀代の肥前産陶磁器片が出土している。

S K 849 (第14・17図)

北側調査区東側のLR・LQ54V層上で、SD989に切られた円形のプランを検出した。遺構の東側は調査区外へ続くため、全容は不明である。規模は長軸1.67m(北東-南西)、短軸1.43m(北西-南東)、確認面からの深さは0.44mである。覆土は2層に分けられ、いずれもグライ化した粘土や木片を含んだ黒色土が主体である。遺物は漆椀や加工木材が数点出土している。

S K 850 (第16図)

調査区中央やや西よりMB53V層中で不整形のプランを検出した。規模は長軸1.28m(北西-南東)、短軸1.05m(北東-南西)、確認面からの深さは0.23mである。遺構の性格は廃棄土坑であり、覆土は単層で木端を含む。遺物は17世紀中葉の肥前産磁器片の他、関西系、信楽産陶器片が、木製品では加工木材が数点出土している。

S K 940 (第17図)

北側調査区中央やや北東よりのMB・MC54・55VI層上で、SB1026P14・15・17に切られる不整形のプランを検出した。上部は削平を受けているため残りは悪い。規模は長軸3.44m(北西-南東)、短軸2.35m(北東-南西)、確認面からの深さは0.17mである。覆土は単層で木端や木材片が混入している。遺物は16世紀末～17世紀代の肥前産陶磁器が、木製品では連歯下駄・漆椀・篋が、金属製品では釘や寛永通宝が、その他鳥や犬の骨が出土している。

S K 949 (第17図)

北側調査区中央やや南よりのLS53VI層上で、建物基礎により南西側を壊された不整形プランを検出した。規模は長軸0.85m(北西-南東、残存値)、短軸0.60m(北東-南西、残存値)、確認面からの深さは0.11mである。覆土は単層であり、木材片や礫の混入が見られる。遺物は17世紀中葉の肥前産磁器片が、木製品では樽の一部が出土している。

S K 950 (第17図)

北側調査区中央やや南よりのLS53上のVI層上で、建物基礎に南西側を壊された半円形のプランを検出した。規模は長軸1.1m(北西-南東、残存値)、短軸0.32m(北東-南西、残存値)、確認面からの深さは0.24mである。覆土は3層に分けられ、1～2層は礫や炭化物の混入が見られる。遺物は出土していない。

S K 958 (第18図)

北側調査区北側にあたるMB56V層中で不整形のプランを検出した。規模は長軸1.52m(北東-南西)、短軸1.22m(北西-南東)、確認面からの深さは0.44mである。覆土は単層で、木端を多量に含んでいる。遺物は17世紀代の肥前産陶磁器、関西系陶器、備前産甕やかかわらが、木製品では漆椀の他、墨書が記された小樽蓋が出土している。

S K 960 (第18図)

北側調査区北端にあたるMB・MC55・56のV層中で隅丸長方形のプランを検出した。規模は長軸4.16m(北西-南東)、短軸1.94m(北東-南西)、確認面からの深さは0.55mである。覆土は単層で、木端を多量に含んでいる。遺物は17世紀中葉の肥前産磁器が、木製品では漆椀、樽底などが出土している。

S K 1008 (第18図)

北側調査区中央部であるLT・MA54のVI層上で検出した。上部は後世の削平のため失われている。規模は長軸1.97m(北西-南東)、短軸0.75m(北東-南西)、確認面からの深さは0.2mである。覆土は2層に分けられ、腐りかけた木片の上に粘土が盛られている。遺物の出土はなく、性格は不明。

S K 1051 (第19図)

北側調査区北端にあたるMB・MC56・57IV層上で不整形のプランを検出した。規模は長軸2.06m(北東-南西)、短軸1.34m(北西-南東)、確認面からの深さは0.47mである。遺物の出土はなく、性格は不明。

S K 1121 (第19図)

北側調査区北東MA56VI層上で、SKP1123に切られた不整円形のプランを検出した。上部は削平を受け失われていた。規模は長軸1.35m(北東-南西)、短軸1.26m(北東-南西)、確認面からの深さは0.22mである。覆土は単層で、木端を多量に含んでいる。遺物は出土していない。

S K 1122 (第19図)

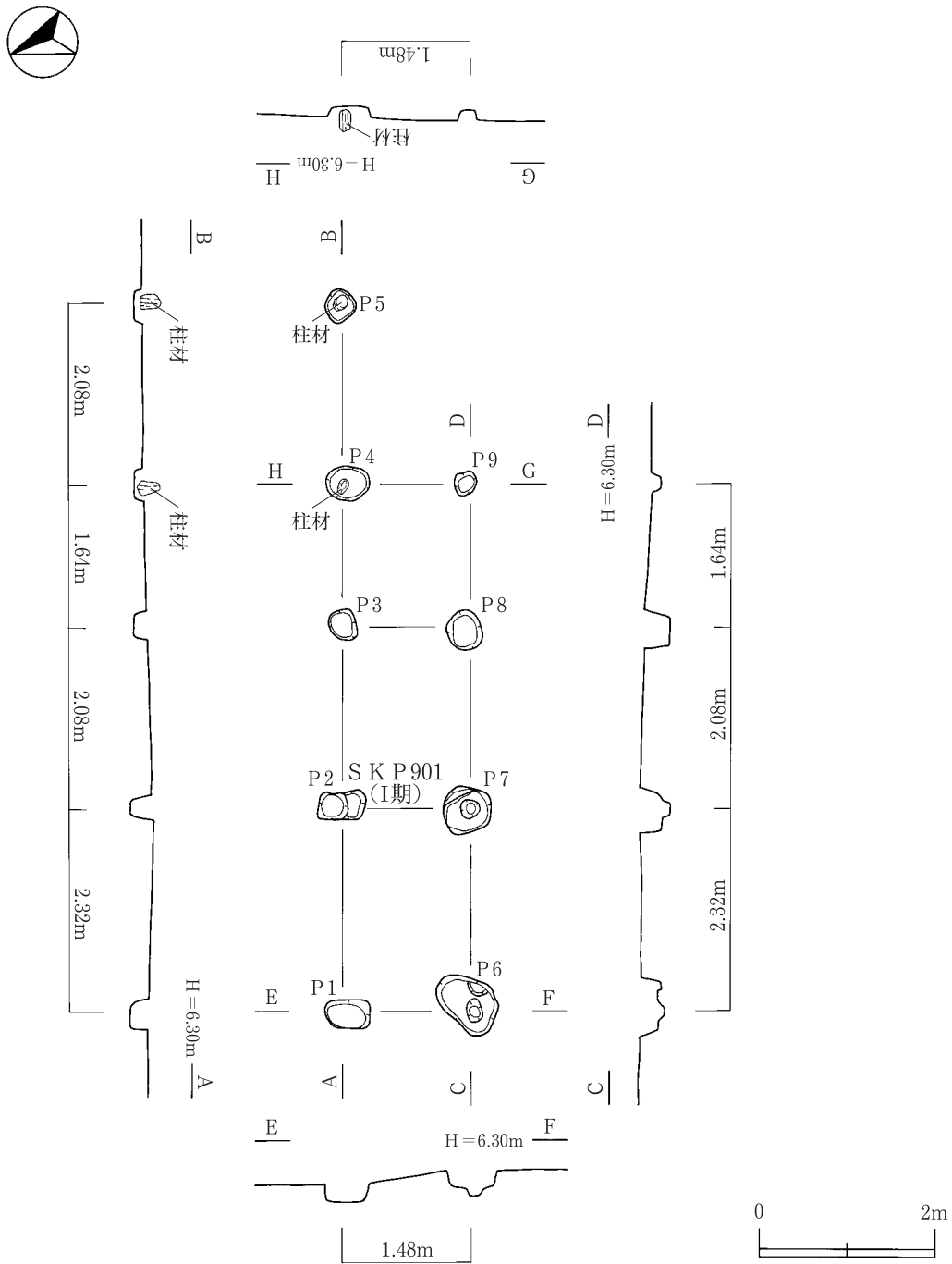
北側調査区北東端MA57VI層上で楕円形のプランを検出した。上部は攪乱を受けている。規模は長軸1.91m(北西-南東)、短軸1.15m(北東-南西)、確認面からの深さは0.47mである。覆土は単層で、植物腐敗土である。遺物は16世紀末~17世紀初期の肥前産陶器の他、木製品では露卯下駄が出土している。

S K 1146 (第19図)

北側調査区北西よりのMC・MD54・55VI層上で不整楕円形のプランを検出した。規模は長軸3.2m(北東-南西)、短軸2.16m(北西-南東)、確認面からの深さは0.48mである。覆土は単層で、木端を多量に含んでいる。遺物は出土していない。

S K 1180 (第19図)

調査区中央部東よりのLT54VI層上で、SB810P9に切られている不整楕円形のプランを検出した。遺構の上部は削平により失われている。規模は長軸0.77m(北東-南西)、短軸0.44m(北西-南東)、確認面からの深さは0.48mである。覆土は単層である。遺物は出土していない。

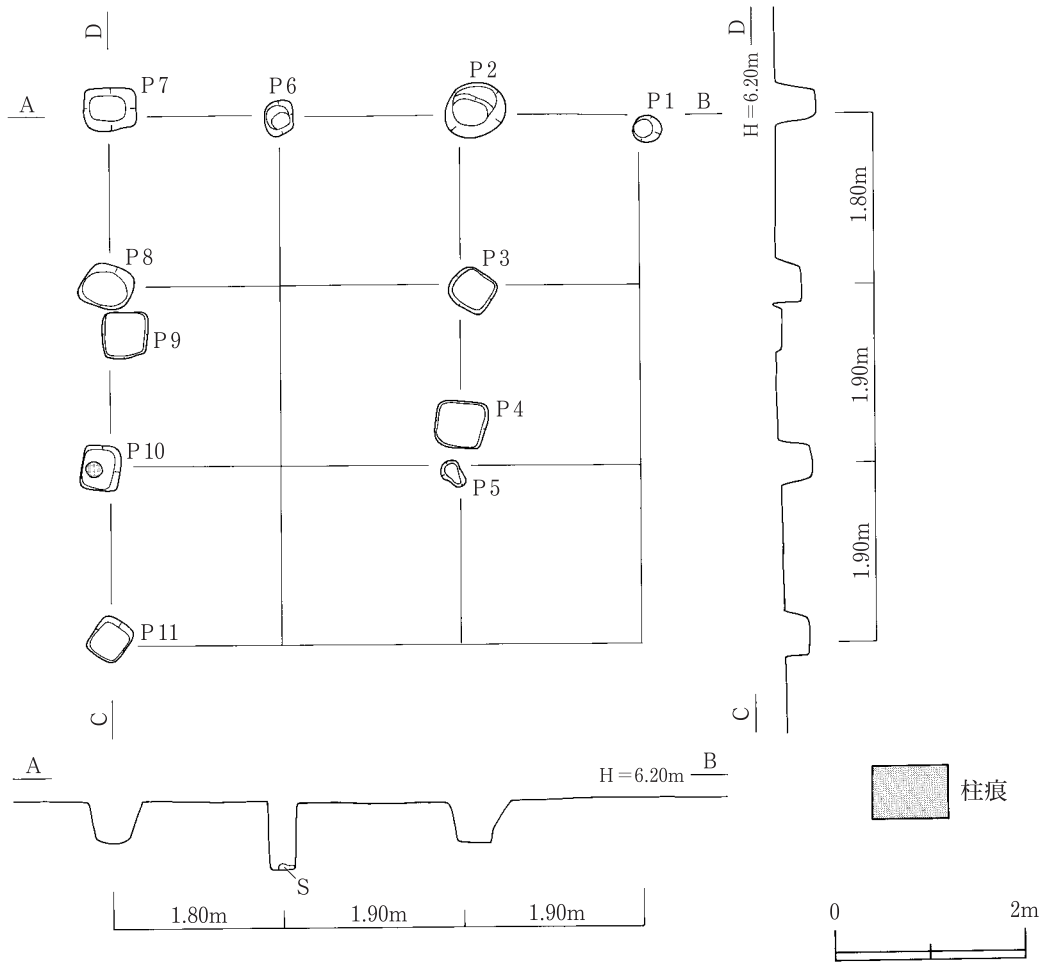


S B 838

グリッド	規模 (m)			底面標高 (m)	土色	しまり	粘性	混入物	備考	
	長径	短径	深さ							
P1	MB51	0.49	0.33	0.23	5.59	1 黒褐色土 (2.5Y3/1)	中	強	炭化物極小粒微量	S K 683に切られる
P2	MA51 MB51	0.35	0.32	0.29	5.60	1 黒褐色土 (2.5Y3/1)	中	強	炭化物極小粒微量	S K P 901を切る
P3	MA51	0.34	0.30	0.16	5.63	1 黒褐色土 (2.5Y3/1)	弱	強	炭化物極小粒微量	
P4	MA51	0.49	0.38	0.13	5.68	1 黒褐色土 (2.5Y3/1)	中	強	炭化物極小粒微量	柱材
P5	LT51	0.34	0.34	0.12	5.71	1 黒褐色土 (2.5Y3/1)	弱	強	炭化物極小粒微量	柱材
P6	MB51	0.76	0.60	0.30	5.66	1 黒褐色土 (2.5Y3/1)	中	強	炭化物極小粒微量 礫小微量、木端微量	
P7	MA51 MB51	0.56	0.50	0.37	5.59	1 緑灰色粘土 (5G5/1)	強	強	黒褐色土小塊多量	
						2 黒褐色土 (10Y R 2/2)	中	強	木端微量	
P8	MA51	0.44	0.41	0.30	5.59	1 黒褐色土 (2.5Y3/1)	弱	強	炭化物極小粒微量	
P9	MA51	0.28	0.24	0.13	5.69	1 黒褐色土 (2.5Y3/1)	弱	強	炭化物極小粒微量	S A 620 P 3下層検出 S K P 619下層検出

第10図 北側2期S B 838

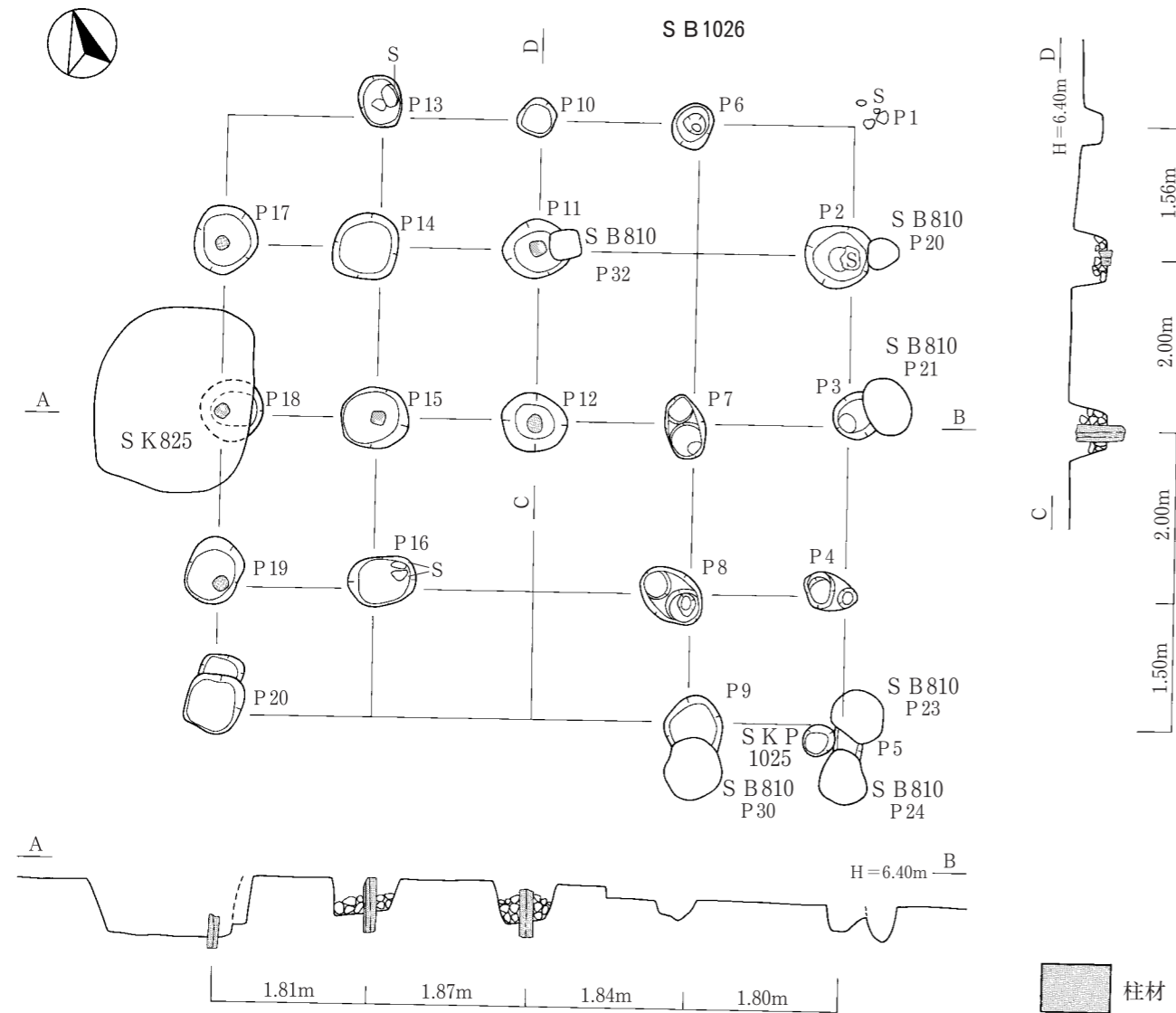
第4章 調査の記録



S B 1006

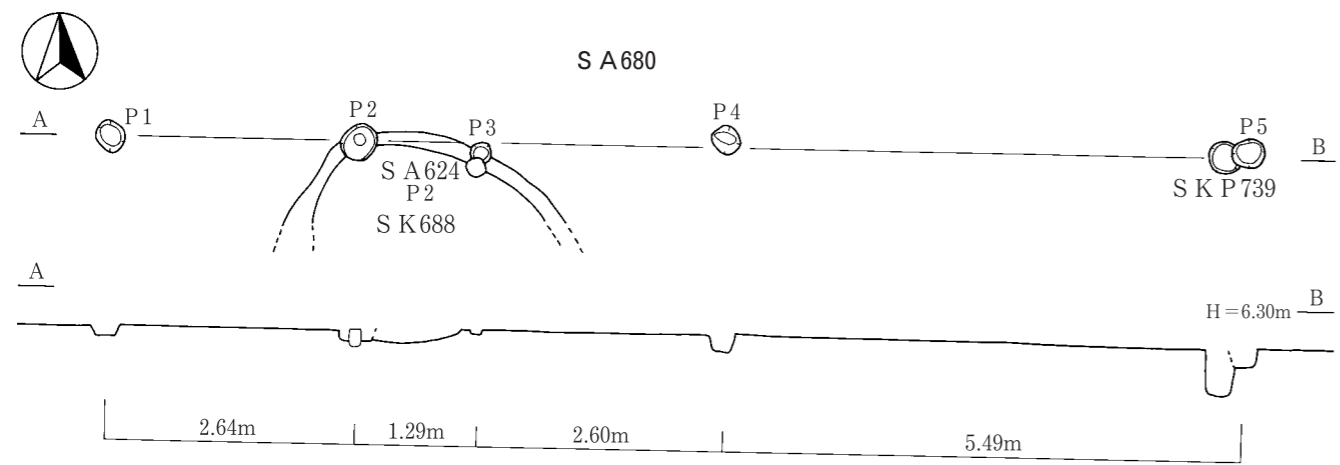
	グリッド	規模 (m)			底面標高 (m)	土色	しまり	粘性	混入物	備考
		長径	短径	深さ						
P1	L R 55 L S 55	0.30	0.30	0.16	5.84	1 オリーブ黒色粘土 (7.5Y3/2) 2 灰色粘土 (7.5Y4/1)	中 弱	中 強	礫小~中少量、木片多量 黒褐色土小粒少量、木片微量	
P2	L R 55 L S 55	0.66	0.59	0.44	5.52	1 オリーブ黒色粘土 (7.5Y3/2) 2 灰色粘土 (7.5Y4/1) 3 灰色粘土 (7.5Y4/1)	中 弱 弱	中 強 強	礫小~中少量、木片多量 黒褐色土小粒少量、木片微量 黒褐色土小粒中量、木片微量	S K 1007を切る
P3	L R 54 L S 54	0.47	0.44	0.20	5.81	1 オリーブ黒色粘土 (7.5Y3/2) 2 灰色粘土 (7.5Y4/1)	中 弱	中 強	礫小~中少量、木片多量 黒褐色土小粒少量、木片微量	
P4	L R 54 L S 54	0.55	0.50	0.20	5.80	1 灰黄褐色土 (10Y R4/2)	中	中	炭化物極小粒微量 褐色土極小粒微量	
P5	L S 54	0.32	0.21	0.35	5.55	1 灰黄褐色土 (10Y R4/2)	中	中	炭化物極小粒微量 褐色土極小粒微量	
P6	L S 55	0.37	0.31	0.72	5.28	1 オリーブ黒色粘土 (7.5Y3/2) 2 灰色粘土 (7.5Y4/1)	中 弱	中 強	礫小~中少量、木片多量 黒褐色土小粒少量、木片微量	礎石
P7	L S 55 L T 55	0.56	0.45	0.45	5.51	1 灰黄褐色土 (10Y R4/2)	中	中	炭化物極小粒微量 褐色土極小粒微量	
P8	L S 54 L T 54	0.54	0.48	0.29	5.69	1 灰黄褐色土 (10Y R4/2)	中	中	炭化物極小粒微量 褐色土極小粒微量	S A 735 P5下層検出
P9	L S 54	0.50	0.49	0.10	5.89	1 灰黄褐色土 (10Y R4/2)	中	中	炭化物極小粒微量 褐色土極小粒微量	S A 735 P5下層検出
P10	L S 54 L T 54	0.48	0.41	0.35	5.58	1 灰黄褐色土 (10Y R4/2)	中	中	炭化物極小粒微量 褐色土極小粒微量	柱痕
P11	L S 53 L S 54 L T 53	0.45	0.39	0.26	5.52	1 灰黄褐色土 (10Y R4/2)	中	中	炭化物極小粒微量 褐色土極小粒微量 木片微量	

第11図 北側2期S B 1006



S B 1026

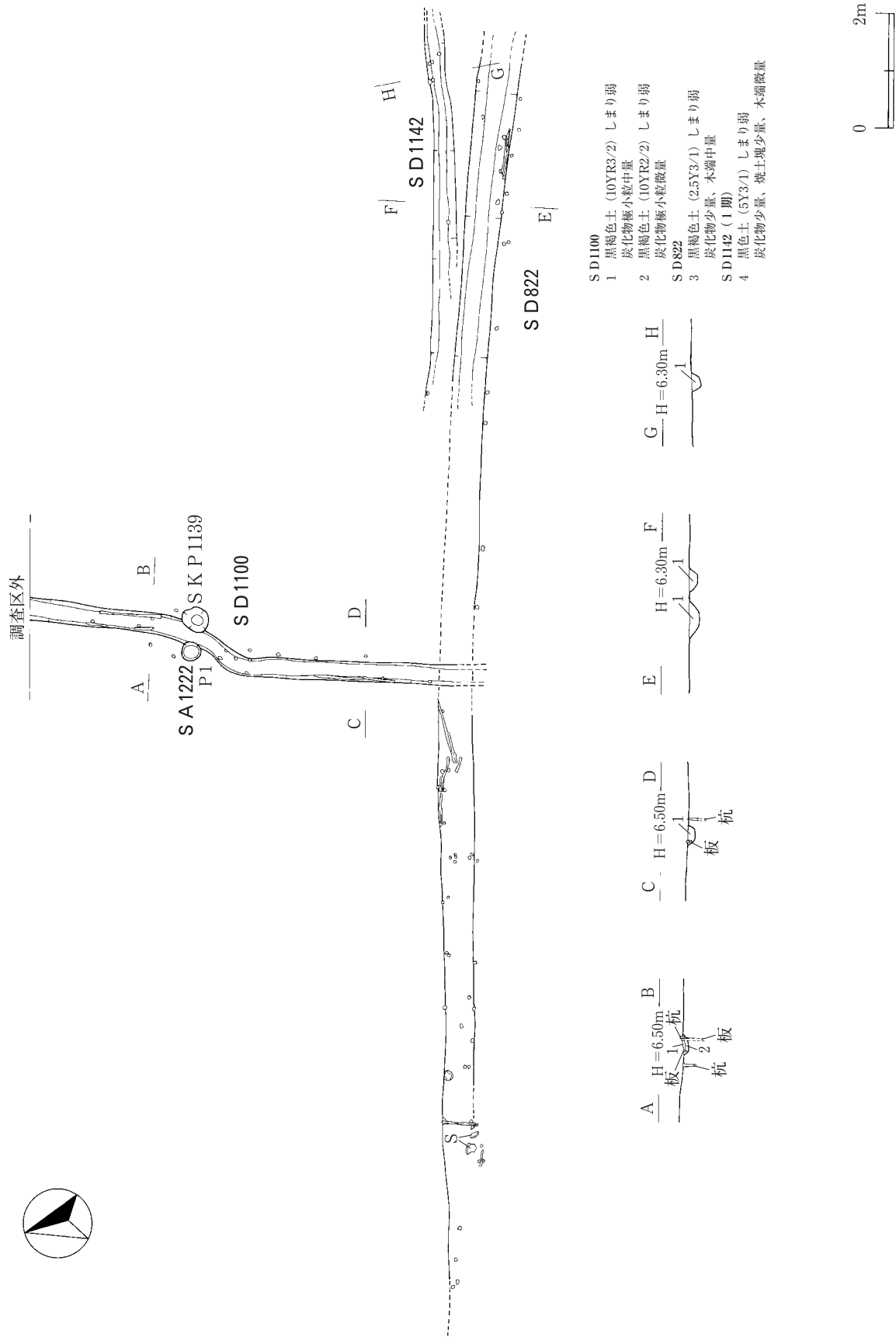
グリッド	規模 (m)			底面標高 (m)	土色	しまり	粘性	混入物	備考	
	長径	短径	深さ							
P1	MA55	-	-	5.82	-	-	-	-	割栗石のみ	
P2	MA55	0.77	0.75	0.36	5.92	1	オリブ黒色土 (5Y3/1)	中 強	木端微量	柱材 礎石 S B 810 P 20に切られる S A 735 P 13・14下層検出 S K P 736下層検出
P3	MA54	0.54	0.36 (残存値)	0.32	5.70	1	オリブ黒色土 (5Y3/1)	中 強	木端微量	柱材 S B 810 P 21に切られる
P4	MA54	0.65	0.44	0.22	5.71	1	オリブ黒色土 (5Y3/1)	中 強	木端微量	S K 824に切られる
P5	MA53	-	-	0.16	5.84	1	オリブ黒色土～粘土 (5Y3/1)	中 中	炭化物小～中粒微量 褐色土小～中粒微量	S B 810 P 23・P 24に切られる S K P 1025に切られる
P6	MA55 MB55	0.55	0.48	0.25	5.91	1	オリブ黒色土 (5Y3/1)	中 強	木端微量	S D 791に切られる
P7	MA54 MB54	0.75	0.48	0.24	5.80	1	オリブ黒色土 (5Y3/1)	中 強	木端微量	
P8	MA54 MB54	0.83	0.62	0.24	5.80	1	オリブ黒色土 (5Y3/1)	中 強	木端微量	S K 824に切られる
P9	MA53	0.72	0.70	0.21	5.69	1	オリブ黒色土～粘土 (5Y3/1)	中 中	炭化物小～中粒微量 褐色土小～中粒微量	S B 810 P 30に切られる
P10	MB55	0.44	0.42	0.24	5.89	1	オリブ黒色土 (5Y3/1)	中 強	木端微量	S D 791に切られる
P11	MB55	0.74	0.71	0.42	5.74	1	オリブ黒色土 (5Y3/1)	中 強	木端微量	柱材 割栗石 S B 810 P 32に切られる S A 735 P 19・P 20下層検出 S K P 737・738下層検出
P12	MB54	0.79	0.69	0.50	5.56	1	オリブ黒色土～粘土 (5Y3/1)	中 中	炭化物小～中粒微量 褐色土小～中粒微量	柱材 割栗石
P13	MB55	0.63	0.52	0.22	5.88	1	オリブ黒色土 (5Y3/1)	中 強	木端微量	礎石 S D 791・787下層検出
P14	MB55	0.80	0.77	0.25	5.85	1	オリブ黒色土 (5Y3/1)	中 強	木端微量	S K 940を切る
P15	MB54	0.79	0.72	0.42	5.58	1	オリブ黒色土 (5Y3/1)	中 強	木端微量	柱材 割栗石 S K 940を切る
P16	MB54	0.80	0.60	0.16	5.85	1	黒色土～砂 (10Y R 2/1)	中 中	炭化物極小粒微量 褐色土極小～中塊多量、瓦	割栗石 S X 900を切る
P17	MC55	0.80	0.72	0.43	5.79	1	黒色土～砂 (10Y R 2/1)	中 中	炭化物極小粒微量 褐色土極小～中塊多量	柱材 S K 940を切る
P18	MC54	-	-	0.56	5.65	1	黒色土～砂 (10Y R 2/1)	中 中	炭化物極小粒微量 褐色土極小～中塊多量	柱材 S K 825に切られる
P19	MC54	0.78	0.64	0.39	5.62	1	黒色土～砂 (10Y R 2/1)	中 中	炭化物極小粒微量 褐色土極小～中塊多量	柱材 S X 900を切る
P20	MC53 MC54	0.92	0.67	0.24	5.66	1	黒色土～砂 (10Y R 2/1)	中 中	炭化物極小粒微量 褐色土極小～中塊多量	S X 900を切る



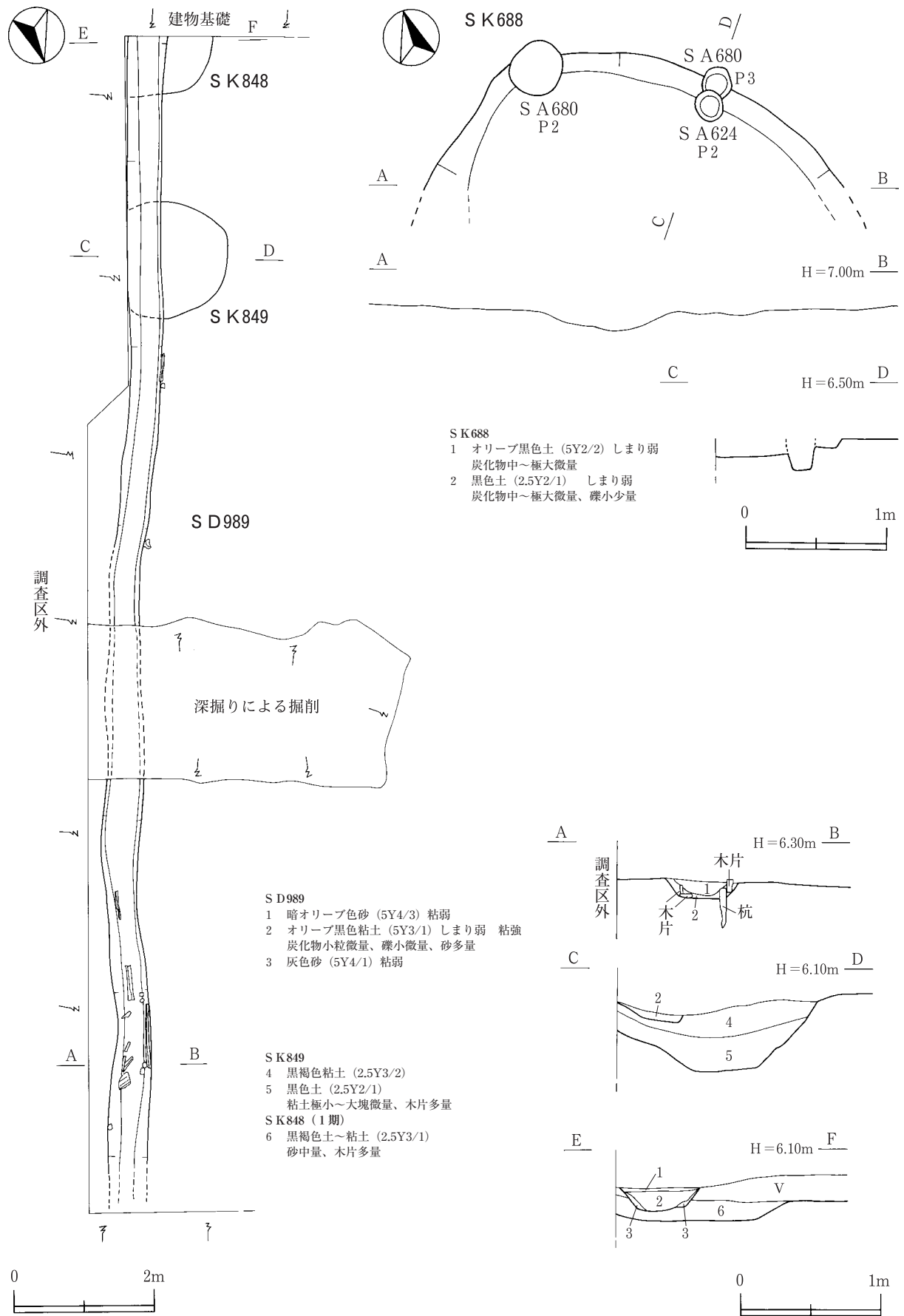
S A 680

グリッド	規模 (m)			底面標高 (m)	土色	しまり	粘性	混入物	備考	
	長径	短径	深さ							
P1	MB51	0.33	0.29	0.12	5.78	1	黒褐色土 (2.5Y3/1)	中 強	炭化物極小粒微量	
P2	MA50 MA51	0.40	0.35	0.14	5.71	1	黒褐色土 (2.5Y3/1)	中 強	炭化物極小粒微量	柱材 S K 688を切る
P3	MA50 MA51	0.21	0.18 (残存値)	0.06	5.86	1	黒色土～砂 (7.5Y2/1)	中 強	礫小微量	S K 688を切る S A 624 P 2に切られる S A 839 P 4に切られる
P4	L T 50 L T 51	0.30	0.28	0.18	5.74	1	黒色土～砂 (7.5Y2/1)	中 中	礫小微量	
P5	L S 50 L S 51	0.33	0.31	0.20	5.70	2	1 黒褐色土 (10Y R 2/2) 2 オリブ黒色土 (5Y3/1)	中 中	炭化物極大粒微量 焼土粒微量、礫中微量	S K P 739を切る

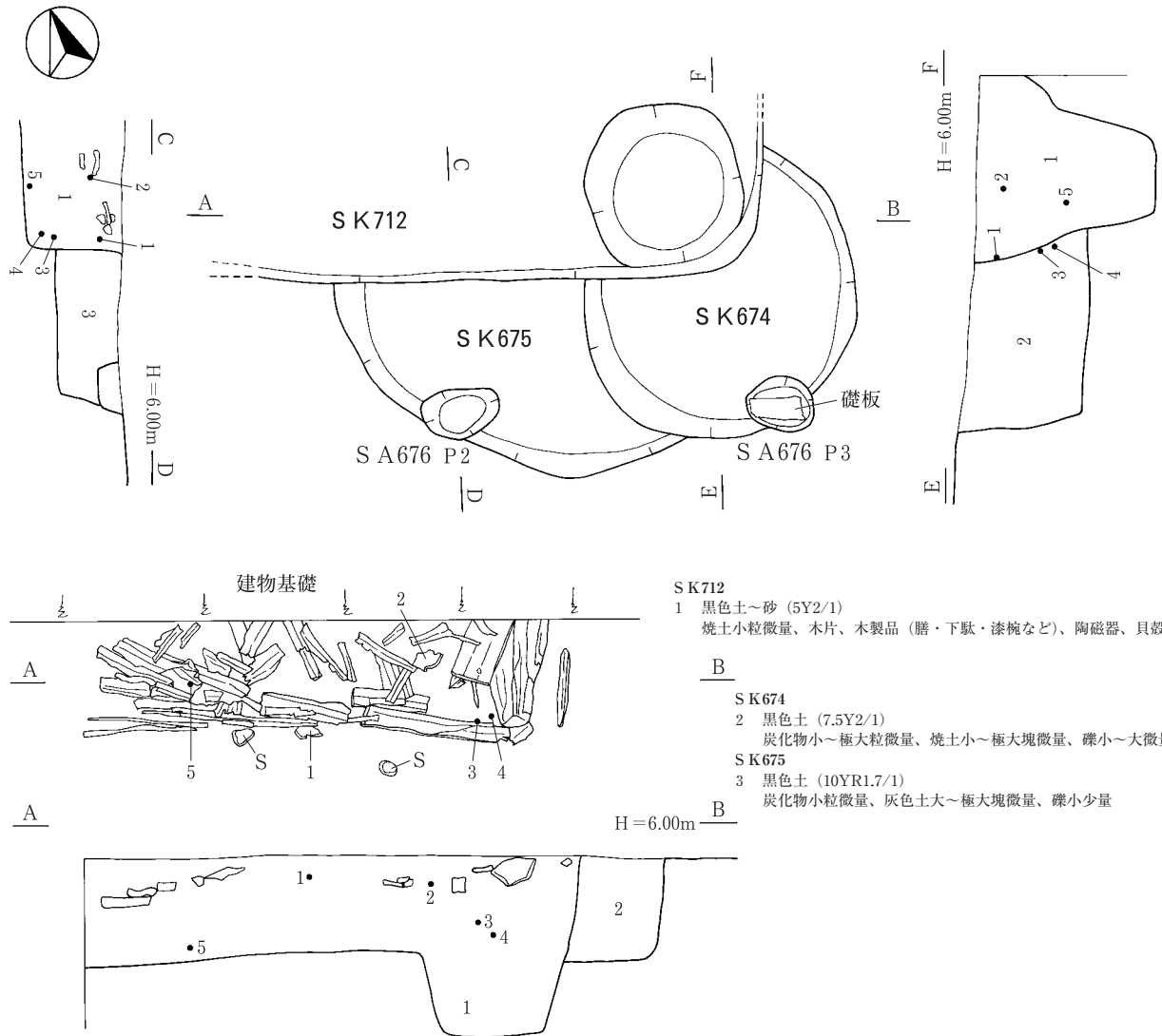
第12図 北側2期 S B 1026、S A 680



第13図 北側2期SD822・1100・1142

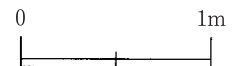


第14図 北側2期SD989、SK688・848・849

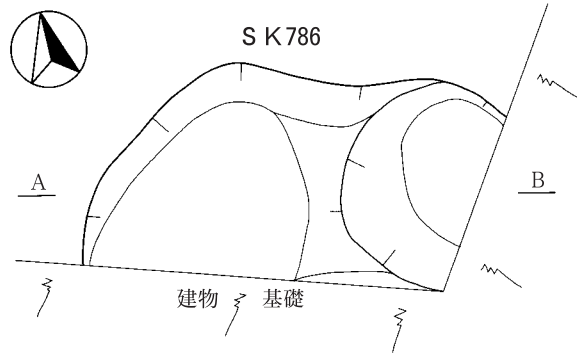


S K712 遺物観察表

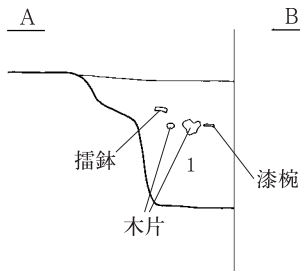
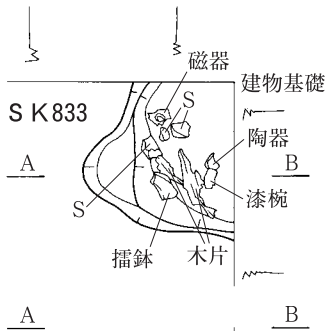
遺物番号	分類	器種	生産地	時代	編年区分	備考	挿図・図版
1	土製品	焜炉	在地	江戸時代	-		-
2	木製品	膳	-	江戸時代	-		第122図2
3	木製品	漆椀	-	江戸時代	17世紀後半～18世紀前半		第118図8
4	木製品	漆椀	-	江戸時代	17世紀後半～18世紀前半	「九曜紋」。細川家家紋?	第118図7 図版17-2
5	木製品	下駄	-	江戸時代	-	列り下駄。	第135図3



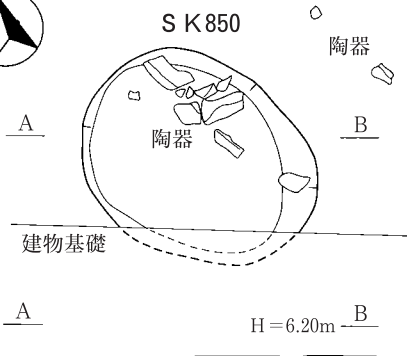
第15図 北側1期S K674・675、2期S K712



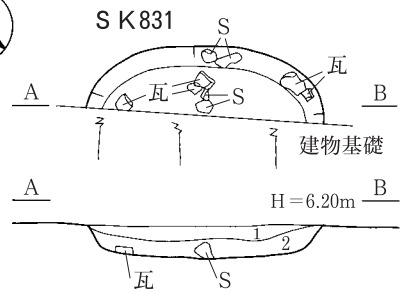
S K 786
1 黒色土～砂 (5Y2/1) しまり弱 粘弱
炭化物粒極小微量、焼土粒小微量、木端多量



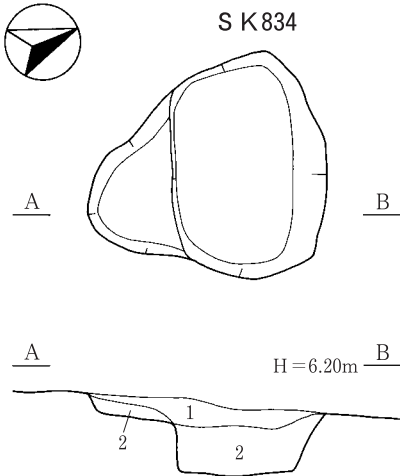
S K 833
1 オリーブ黒色土 (5Y3/2) しまり弱 粘弱
炭化物小塊少量、木端多量



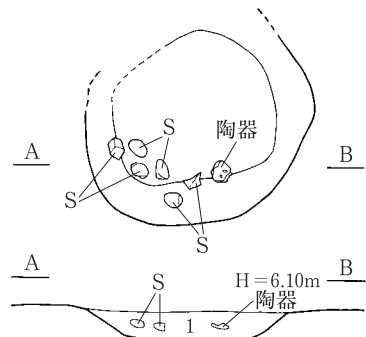
S K 850
1 黒褐色土 (10YR2/2) しまり弱 粘弱
木材片少量、木端多量



S K 831
1 黒色土～砂 (5Y2/1) しまり弱 粘弱
炭化物極小粒微量、焼土小粒微量、木端多量
2 オリーブ黒色土 (5Y3/2) しまり弱 粘弱
炭化物小塊少量、木端多量、礫小少量



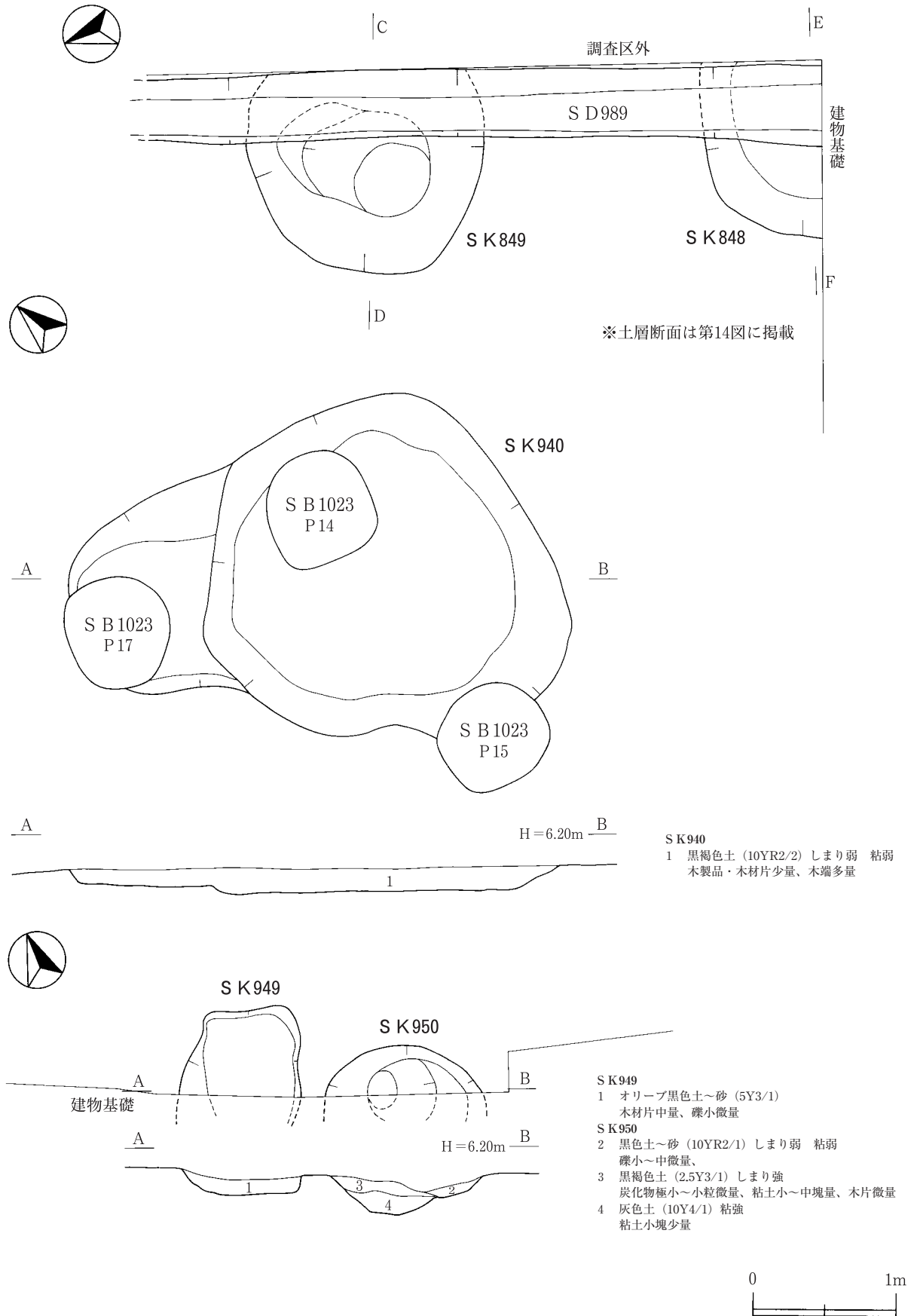
S K 834
1 黒色土～砂 (5Y2/1) しまり弱 粘弱
炭化物極小粒微量、焼土小粒微量、木端多量
2 オリーブ黒色土 (5Y3/2) しまり弱 粘弱
炭化物小塊少量、木端多量



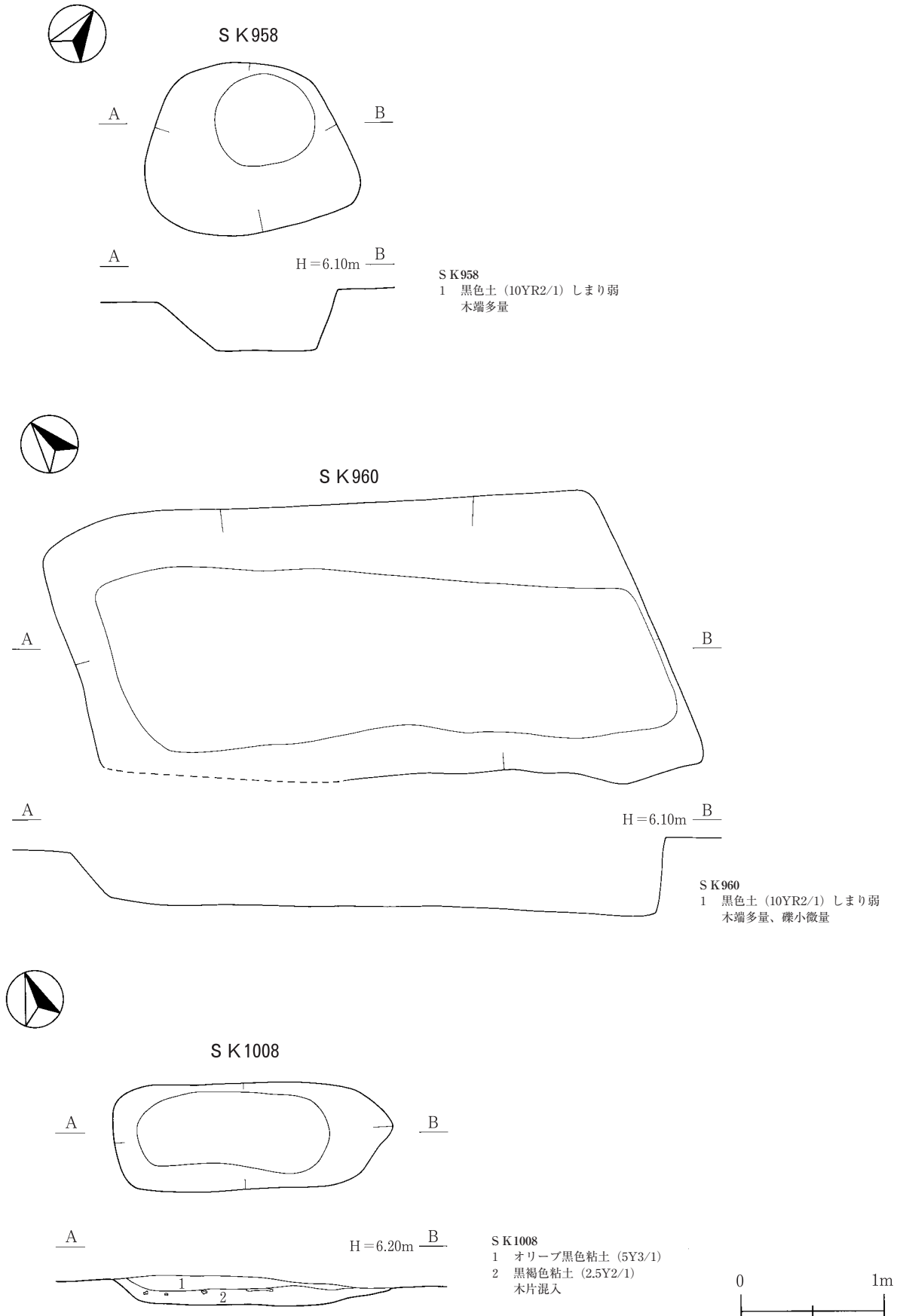
S K 682
1 オリーブ黒色土 (5Y3/1) しまり弱
炭化物小～大塊微量、礫小少量



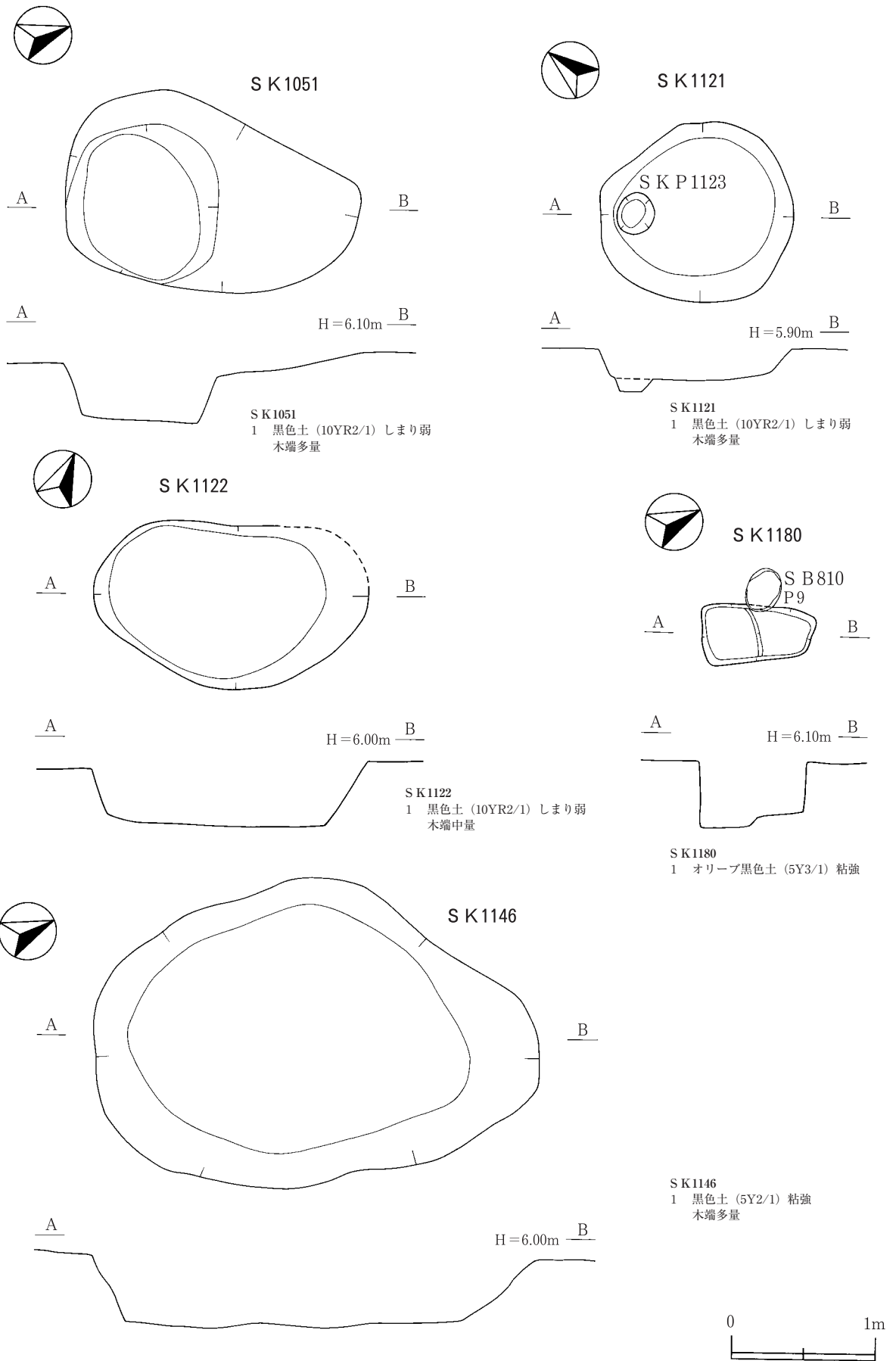
第16図 北側 2期 S K 786・831・833・834・850・682



第17図 北側2期 S K848・849・940・949・950



第18図 北側2期 S K 958・960・1008



第19図 北側2期 S K 1051・1121・1122・1146・1180

(3) 北側調査区第3期

年代は、基本土層観察、遺構配置、絵図や出土遺物から判断して、18世紀中葉～19世紀前葉と推測される。この時期は、根本家と小野岡家の間に真崎家が挟まれて隣接していた。遺構配置と『城下御絵図』寛政(1789～1800)年間や文政4(1821)年頃の様子を描いた『御城下絵図』と比較考察すると、間尺などからS D801は小野岡家と真崎家を隔てる屋敷境の可能性が高い。またS A823は小野岡家側、S A930・1222は真崎家の塀跡であり、S B810は真崎家の建物跡と推測される。

① 掘立柱建物跡

S B810 (第20図、第2表、図版18-1)

北側調査区中央から北側にかけてL T～MB53～56IV層上で、39基の柱穴からなる掘立柱建物跡を検出した。掘形を確認できず柱材のみ検出したものもあったが、柱穴はすべて掘立柱と考えられる。P 10・12・21・24・27・32・33・36・37で径11～22cmの柱材が残存していた。また、P 3・6～9・11・16・30・39で柱穴の底面に礎石や礎板が残存していた。部分的に柱穴が検出されなかったため、全容は不明である。後世の掘削により、礎石や礎板が除かれた可能性も考えられる。桁行(北東-南西)7間、梁行(北西-南東)6間の掘立柱建物で、建物規模は桁行総長12.11m、柱間距離は北から1.91m(P 10-P 11)、1.90m(P 11-P 12)、1.90m(P 12-P 13)、1.80m(P 13-P 14)、1.90m(P 14-P 15)、1.90m(P 15-P 16)、梁行総長9.00m、柱間距離は西から0.80m(P 36-P 32)、1.80m(P 32-P 26)、1.90m(P 26-P 20)、1.90m(P 20-P 13)、1.80m(P 13-P 8)、0.80m(P 8-P 3)である。桁行の柱筋は北から東へ18.5度傾いている。東・西および南側に庇を持つ。江戸時代前期の間尺である6尺3寸、後期の間尺である6尺を併用して建てられている。

② 柱 列

S A620 (第21図)

北側調査区南側W～Z区内のL Q～MA51V・VI層上で、北西から南東へ並ぶ9基の柱穴を検出した。柱穴はすべて掘立柱で、建物跡の一部である可能性があるが、建物基礎により調査できず全容は不明である。P 5からは礎石、P 8からは割栗石が検出されている。総長は16.40mで、柱間距離は西から、0.92m(P 1-P 2)、1.16m(P 2-P 3)、5.96m(P 3-P 4)、2.00m(P 4-P 5)、3.64m(P 5-P 6)、0.84m(P 6-P 7)、0.92m(P 7-P 8)、0.96m(P 8-P 9)、柱筋は北から西へ70.5度傾いている。P 3・4とP 5・6の間は、建物基礎により調査できなかったが、いくつかの柱穴が存在していたと想定する。

S A624 (第21図)

北側調査区南側W・Y区内のL T～MB50・51V・VI層上で、北西から南東へ並ぶ5基の柱穴を検出した。柱穴はすべて掘立柱で、P 1・5にそれぞれ径22cm、21cmの柱材が残っていた。建物跡の可能性もあるが、建物基礎や後世の削平を受けているため全容は不明である。総長は10.16mで、柱間距離は西から5.80m(P 1-P 2)、1.20m(P 2-P 3)、1.56m(P 3-P 4)、1.60m(P 4-P 5)で、柱筋は北から西へ69.5度傾いている。P 1・2の間は後世の削平により柱穴を確認することはできなかったが、いくつか存在していたと考えられる。

S A 676 (第21図)

北側調査区南側 X～Z 区内の V・VI 層上で、北西から南東へ並ぶ 6 基の柱穴を検出した。建物跡の一部である可能性もあるが、建物基礎や後世の削平を受けているため全容は不明である。柱穴はすべて掘立柱で、P 3 には礎板が残っていた。総長は 15.11m で、柱間距離は北西から 8.43m (P 1 - P 2)、1.84m (P 2 - P 3)、1.84m (P 3 - P 4)、1.80m (P 4 - P 5)、1.20m (P 5 - P 6) で、柱筋は北から西へ 69.5 度傾いている。P 1・2 の間は後世の削平により柱穴を確認することはできなかったが、いくつか存在していたと考えられる。

S A 710 (第22図)

北側調査区南西側 X・Y 区内の L Q～L S 51IV 層上、Y 区基本土層観察より北西から南西へ並ぶ 4 基の柱穴を検出した。柱穴はすべて掘立柱であり、P 4 を除き柱穴底面に礎石・礎板が残る。P 2・3 の間は建物基礎により調査できず全容は不明である。総長は 7.96m で、柱間距離は西から 2.12m (P 1 - P 2)、3.96m (P 2 - P 3)、1.88m (P 3 - P 4) で、柱筋は西へ 69 度傾いている。6 尺 3 寸を基本にした柱列である。覆土は P 2～P 4 が単層であるが、P 1 は柱痕跡が確認でき、2 層に分けられた。また P 4 には径 16cm の柱材が残っていた。

S A 823 (第24図、図版18-1～5)

北側調査区北東端の L Q～MA 57IV 層上で、北西から南東へ並ぶ 9 基の柱穴を検出した。遺構は S D 801 と平行している。柱穴はすべて掘立柱であり、底面に礎板が残っていた。P 3・5・6・9 に残る柱材の径は 16～19cm である。柱列総長は 14.67m、柱間距離は西から 1.89m (P 1 - P 2)、1.79m (P 2 - P 3)、1.88m (P 3 - P 4)、1.76m (P 4 - P 5)、1.85m (P 5 - P 6)、1.87m (P 6 - P 7)、1.74m (P 7 - P 8)、1.89m (P 8 - P 9)、柱筋は北から西へ 70.5 度傾いている。S D 801 を挟んで S A 930・1222 が並ぶことから、屋敷境の堀跡と思われる。

S A 922 (第21図)

北側調査区北東の L R～L T 56IV 層上で、北西から南東へ並ぶ 4 基の柱穴を確認した。柱列総長は 4.80m で、柱間距離は西から 1.92m (P 1 - P 2)、1.08m (P 2 - P 3)、1.80m (P 3 - P 4) である。S A 930・S A 1222 の建て替えか、目隠し堀跡と考えられる。

S A 925 (第21図)

北側調査区北東の L R・L S 56V 層上で、北西から南東へ並ぶ 3 基の柱穴を検出した。柱穴はすべて掘立柱である。柱列総長は 5.04m で、西から 3.28m (P 1 - P 2)、1.76m (P 2 - P 3) で、柱筋は北から西へ 72 度傾いている。建物跡の一部の可能性もあるが、攪乱や後世の削平のため全容は不明である。

S A 930 (第24図、図版18-1)

北側調査区北東端の L S・L T 56IV 層上で、S D 801 と平行し北西から南東へ並ぶ 5 基の柱穴を検出した。柱穴はすべて掘立柱である。古い柱列 S A 1222 と重複し、調査の結果、S A 930・1222 は建て替えであると判断した。柱列総長は 6.60m、柱間距離は西から 1.78m (P 1 - P 2)、1.62m (P 2 - P 3)、1.56m (P 3 - P 4)、1.64m (P 4 - P 5) で、柱筋は北から西へ 68.5 度傾いている。S D 801 を挟んで S A 823 が並んでいることから、屋敷境の堀跡と思われる。

S A 990 (第21図)

北側調査区中央やや東側 L S 53・54Ⅵ層上で、屋敷正面にあたる古川堀端通りに対するように、北東から南西へ並ぶ3基の柱穴を検出した。P 1は礎石のみの検出であり、P 2・3は掘立柱で柱材が残る。柱材はP 2は径23cm、P 3は一辺12cm、16cmの角材である。P 1は柱穴の底面の礎石か、地上に置かれた礎石であるかは不明である。柱列総長は2.90m、柱間距離は1.45m等間、柱筋は北から東へ18度傾いている。目隠し塀か建物の一部であった可能性がある。

S A 1222 (第24図、図版18-1)

北側調査区北東端のL S・L T 56Ⅳ層上で、S D 801と平行し北西から南東へ並ぶ5基の柱穴を検出した。柱穴はすべて掘立柱であり、P 5を除いて礎石が残っていた。新しい柱列S A 930と重複し、調査の結果、S A 930・1222は建て替えであると判断した。柱列総長は6.52m、柱間距離は西から1.89m (P 1-P 2)、1.79m (P 2-P 3)、1.88m (P 3-P 4)、1.76m (P 4-P 5)、1.85m (P 5-P 6)、1.87m (P 6-P 7)、1.74m (P 7-P 8)、1.89m (P 8-P 9)、柱筋は北から西へ68.5度傾いている。S A 930同様、屋敷境の塀跡と思われる。

③ 溝 跡

S D 684 (第25図)

北側調査区の西側W X区中のMA・MB 51Ⅴ層上で、S K 683を切る北西から南東方向の溝跡を検出した。攪乱による削平により、残存状況は悪く部分的に失われていた。規模は、長さ6.34m (残存値)、幅0.36~0.42m、確認面からの深さは0.19m、主軸は北から西へ72度傾いている。覆土は単層で炭化物を含んでいる。遺物は17世紀~18世紀代の肥前産陶磁器片が出土している。前出の絵図などの史料との比較から、真崎家と根本家の屋敷割の溝である可能性は低い。排水溝として使用されていたものと推測される。

S D 801 (第24図)

北調査区調査区北東端のL R~MA 56・57Ⅳ層上面で、北西から南東へ延びる溝跡を検出した。規模は、長さ13.50m (残存値)、幅0.72~0.99m、確認面からの深さは0.35m、主軸は北から西へ71度傾いている。S B 817 P 3、S A 823のP 4・P 5、S A 1222 P 1・P 4・P 5、S K P 1223と切り合うが、いずれもS D 801の方が古い。また、S K P 851を切っている。覆土は単層である。遺物は、肥前産陶磁器を中心に、瀬戸美濃産・京焼・関西系のものが出土しているため、19世紀初頭まで使用されていたと推測される。溝が続くと思われる西側は攪乱を受けているが、S D 893へと続き、S D 01へ注ぐものと推測する。小野岡家と真崎家の屋敷地の境界の役割を果たし、S A 823・930・1222は同じく境界のための塀跡と思われる。

S D 893 (第23図)

北側調査区北東端のMC 56・57Ⅳ層上で、北西から南東方向の溝跡を検出した。S K 894を切っている。両端が攪乱や深堀による掘削により失われているため、全容は不明である。溝の両壁に土留めの板とそれを固定していた杭が一部残存していた。規模は長さ2.80m (残存値)、幅1.03m、確認面からの深さは0.31mである。覆土は単層である。遺物は、廃材の他には特に出土していない。屋敷境であるS D 801の西側延長線上に位置し、両遺構は同一である可能性がある。S D 01と直行すると思

われるが、攪乱のため詳細は不明である。また、同じくS K P 892はS A 823の延長線上に位置し、堀跡の続きの柱穴である可能性がある。

S D 913 (第25図)

北側調査区調査区中央部のL T 54～55IV層上で、北東から南西へ延びる溝跡を検出した。上部を削平されたため、残存状況は良くない。規模は長さ4.62m、幅0.33～0.67m、確認面からの深さは0.11mで、主軸は北から東へ15.5度傾いている。覆土は単層である。遺物は数本の釘の他、宋銭である太平通宝が出土している。

④ 土 坑

S K 683 (第25図)

北側調査区南西側W区中のMB51で、S D 684に切られる楕円形(推定)のプランを検出した。北側を現代の建物基礎により壊され、上部は攪乱を受けている。V～VI層上での検出だが、周囲の遺構との切り合いの状況などから第3期の遺構と判断した。規模は、長軸1.40m(北西-南東、残存値)、短軸1.52m(北東-南西)、確認面からの深さは0.42mである。覆土は3層に分けられる。遺物は、16世紀末～17世紀前葉の肥前産陶器片が、木製品では樽の一部が出土している。

S K 708 (第25図)

北側調査区南西側W区中のMB51で、北側を建物基礎に壊され、S K P 709に切られた円形(推定)のプランを検出した。上面を削平されたためV層上検出だが、周囲の遺構との切り合いの状況などから第3期の遺構と判断した。規模は、長軸0.95m(北東-南西、残存値)、短軸0.97m(北西-南東)、確認面からの深さは0.09mである。覆土は単層で、木端層である。遺物は特に出土していない。

S K 802 (第26図)

北側調査区中央部やや東より、第2トレンチのL T 55～56IV層上で円形のプランを検出した。規模は、長軸0.54m(北西-南東、推定値)、短軸0.53m(北東-南西)、確認面からの深さは0.08mである。覆土は単層で、炭化物層である。加工された縦0.55m、横0.40m、高さ0.14mの長方形の石が東半分を覆うように検出されたが、関連は薄いものとする。遺構の性格は不明である。

S K 824 (第27図)

北側調査区中央やや南西にあたるMA・MB53・54IV層中で、楕円形のプランを検出した。時代は近いがS B 810 P 22・28に切られている。規模は、長軸3.28m(東-西)、短軸2.30m(北-南)、確認面からの深さは0.46mである。覆土は3層に分けられ、すべて黒色土主体の埋土である。廃棄物を捨て、その上に盛り土した様子が確認される。遺物は特になく、廃材を確認した程度である。

S K 825 (第26図)

北側調査区北西側にあたるMC 54・55IV層中で隅丸方形のプランを検出した。S K P 1203に切られ、S B 1026 P 18を切っている。規模は、長軸2.15m(北東-南西)、短軸1.87m(北西-南東)、確認面からの深さ0.67mである。覆土は2層に分けられ、いずれも埋め戻し土と思われる。遺物は、肥前産陶磁器の他、京焼の硯屏風、かわらけが、木製品では箸、金属製品では煙管や建築金具、寛永通宝が出土している。遺物から年代は18世紀半ば頃と推測される。

S K 894 (第23図)

北側調査区北東端にあたるMC56・57IV層中で、S K P 892、S D 893、S K 895に切られる不整形のプランを検出した。建物基礎や調査区外に続くため、全容は不明である。規模は長軸5.34m（北東－南西、残存値）、短軸2.62m（北西－南東）、確認面からの深さは0.26mである。覆土は2層に分けられ、いずれも埋め戻し土と思われる。下層には廃材やおが屑が混入している。遺物は、16世紀末～18世紀後半までの肥前産を中心とした陶磁器片の他、木製品では下駄・羽子板・漆椀などが、金属製品では煙管が、その他トチや魚骨、貝殻が出土している。年代は、露卯下駄が出土していることから、下限は18世紀末～19世紀前葉となる。廃棄土坑と思われる。

S K 895 (第23図)

北側調査区北側にあたるIV層上で、S K 894を切り、S K 814に切られる不正形のプランを検出した。規模は長軸1.70m（北東－南西、残存値）、短軸1.63m（北西－南東）、確認面からの深さは0.60mである。覆土は6層に分けられ、人為的な堆積を繰り返している様子がうかがえる。遺物は18～19世紀の肥前産陶磁器片が数点、木製品では廃材や鍋蓋、鋤が出土している。他の廃棄土坑と比較し、出土遺物が少ないことから、屋敷の建て替えなどにより出た廃棄物を処理したと思われる。

S K 956 (第27図)

北側調査区北西、土手長町地区にあたるME55IV層上で、隅丸長方形（推定）のプランを検出した。遺構の南側は調査区外に続くため不明である。規模は長軸1.55m（北西－南東）、短軸0.88m（北東－南西）、確認面からの深さは0.49mである。覆土は2層に分けられる。遺物は17世紀～18世紀末の肥前産陶磁器、かわらけなどが出土している。

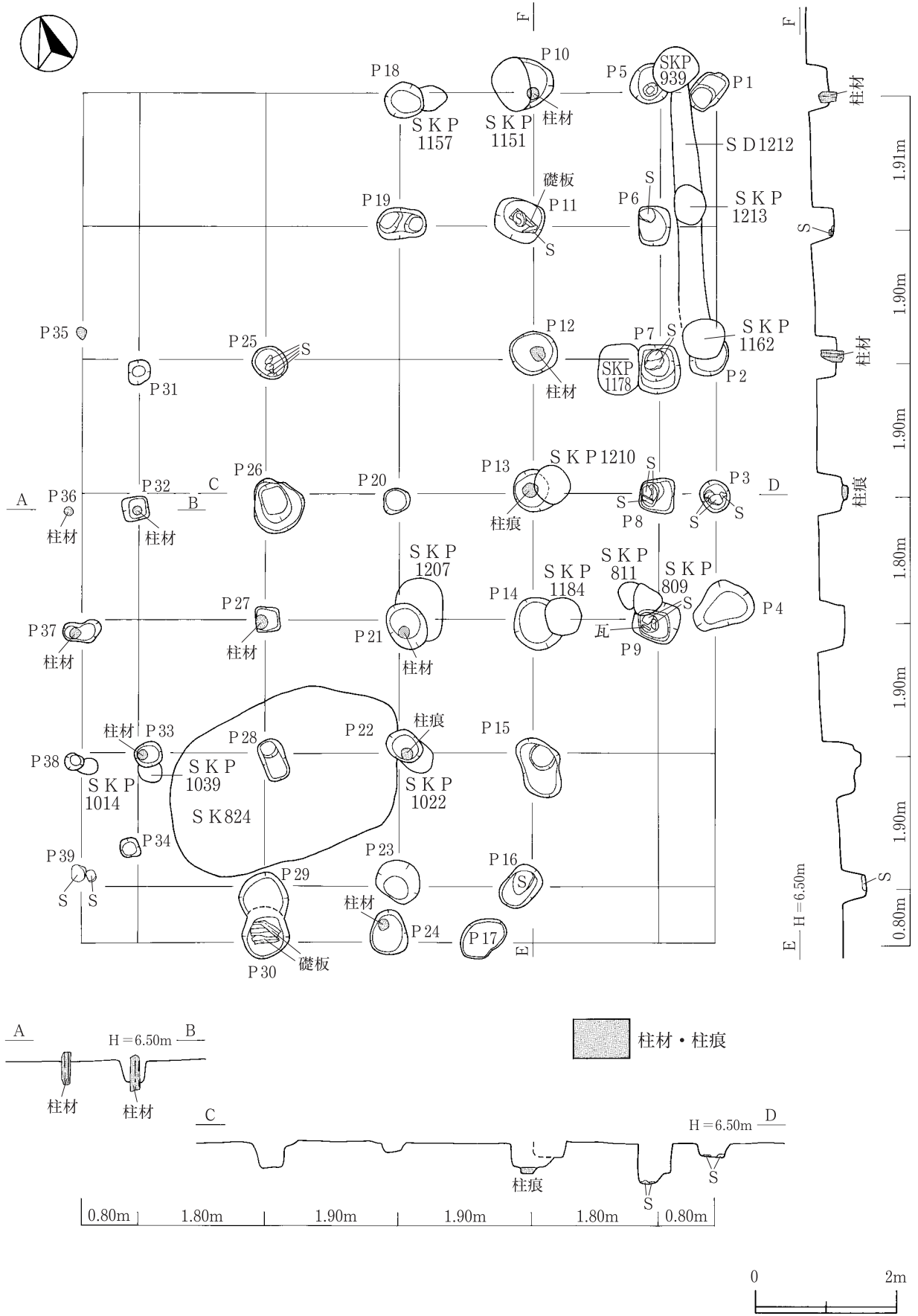
⑤ 焼土遺構

S N 803 (第26図)

北側調査区中央やや東よりのL T 55IV層上で楕円形の焼土プランを検出した。規模は長軸0.75m（北西－南東）、短軸0.72m（北東－南西）、確認面からの深さは0.17mである。覆土は単層である。壁面に被熱が認められる。

S N 947 (第26図)

北側調査区中央部L S 54IV層中で円形の焼土プランを検出した。規模は長軸0.64m（東－西）、短軸0.60m（北－南）、確認面からの深さ0.12mである。覆土は3層に分けられる。粘土を貼った底面は被熱し暗赤褐色を呈するが、顕著な硬化面は認められない。炭化物層がその上層に堆積している。

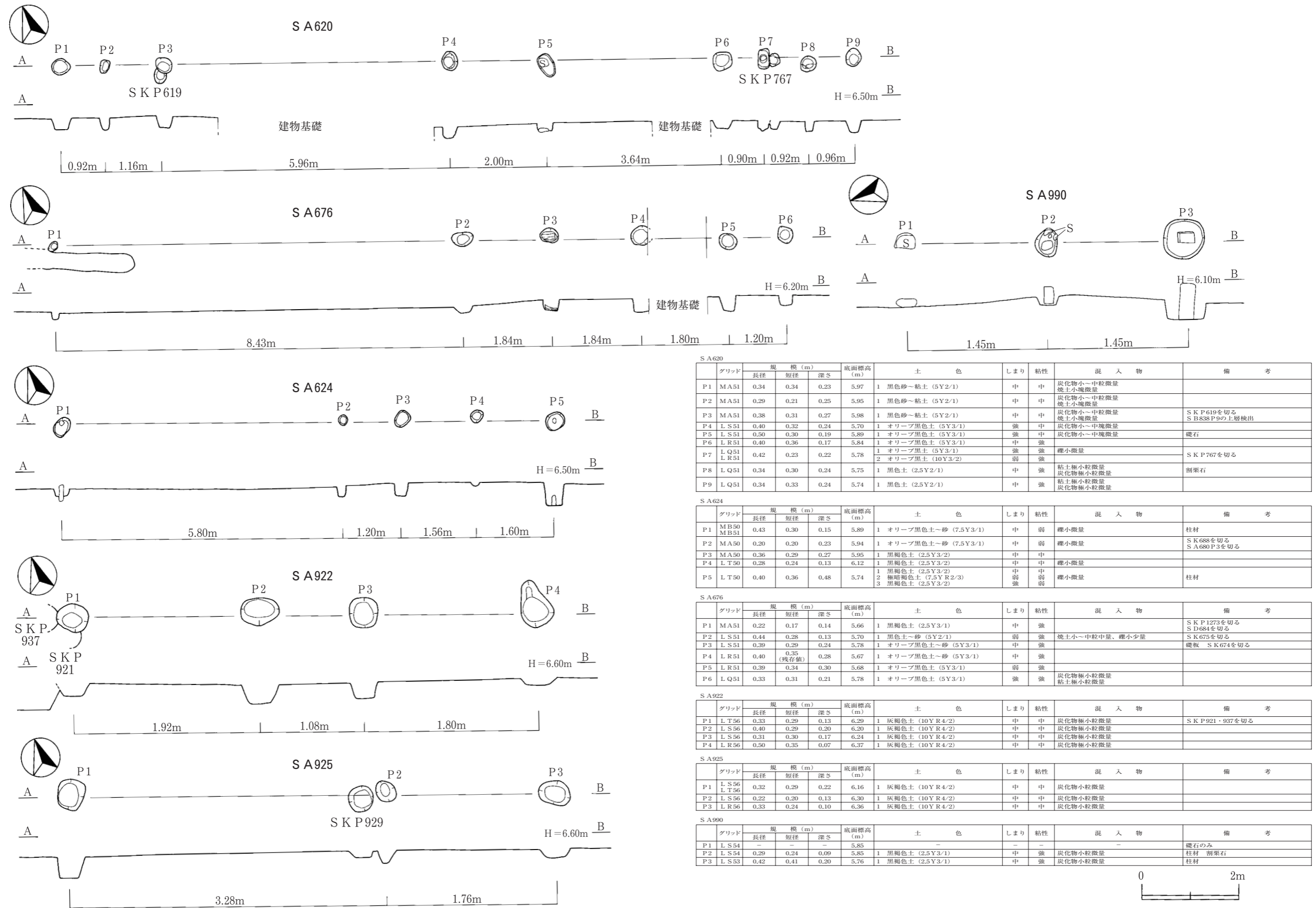


第20図 北側3期SB810

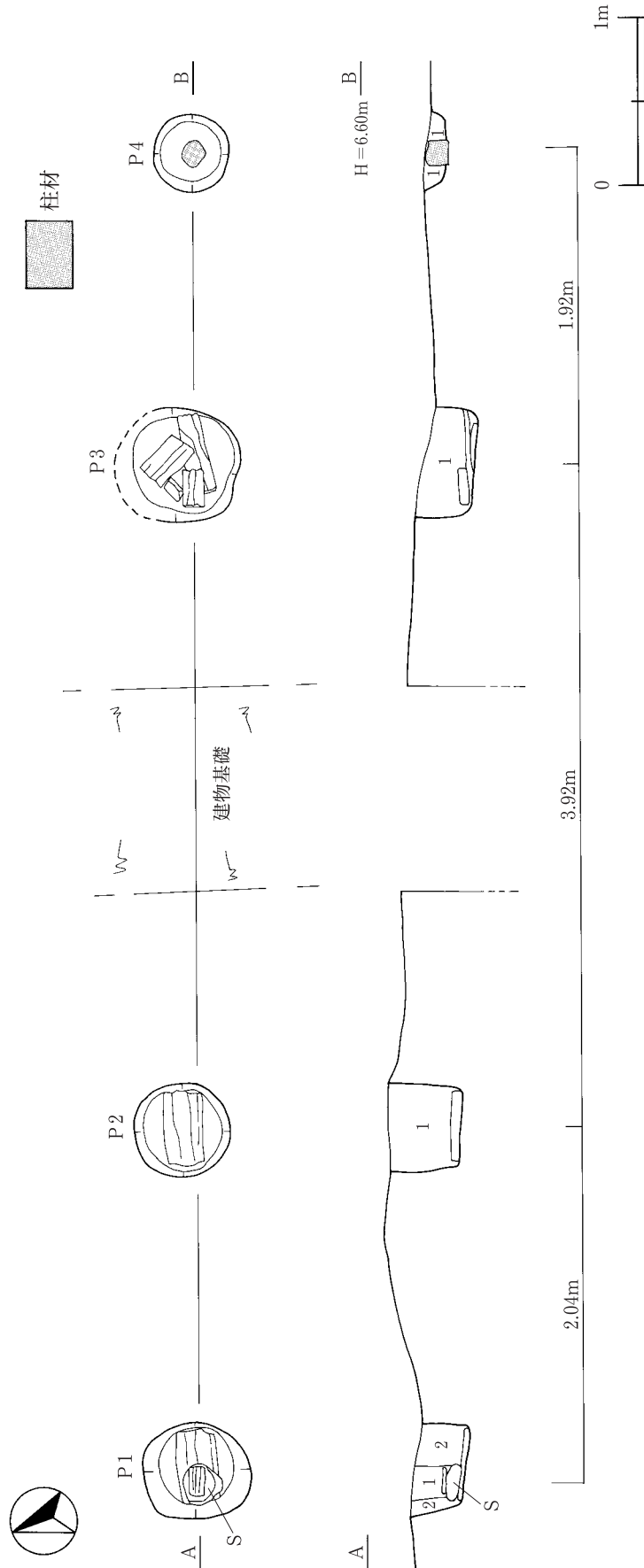
第4章 調査の記録

第2表 SB810柱穴観察表

P番	グリッド	規模 (m)			底面標高 (m)	土 色	しまり	粘性	混入物	備 考
		長径	短径	深さ						
P1	L T56	0.62	0.41	0.26	6.04	1 暗灰黄色土～砂 (10Y R4/1)	弱	弱	炭化物極小粒微量 褐色土極小粒微量	S K P 921・923・937を切る S D1212に切られる
P2	L T55	0.64	0.52	0.28	6.02	1 暗灰黄色土～砂 (10Y R4/1)	弱	弱	炭化物極小粒微量 褐色土極小粒微量	S K P1162に切られる
P3	L T55	0.46	0.43	0.22	6.04	1 暗灰黄色土～砂 (10Y R4/1)	弱	弱	炭化物極小粒微量	礎石
P4	L T54	0.90	0.67	0.30	5.94	1 暗灰黄色土～砂 (10Y R4/1)	弱	弱	炭化物極小粒微量 褐色土極小粒微量	S A735 P6下層検出
P5	L T56	0.58	0.53	0.34	5.96	1 暗灰黄色土～砂 (10Y R4/1)	弱	弱	炭化物極小粒微量 褐色土極小粒微量	S K P 939に切られる
P6	L T56	0.58	0.45	0.35	5.96	1 暗灰黄色土～砂 (10Y R4/1)	弱	弱	炭化物極小粒微量	礎石
P7	L T55	0.70	0.58	0.36	5.94	1 暗灰黄色土～砂 (10Y R4/1)	弱	弱	炭化物極小粒微量	礎石 S K P1178を切る
P8	L T55	0.50	0.48	0.58	5.73	1 暗灰黄色土～砂 (10Y R4/1)	弱	弱	炭化物極小粒微量	礎石
P9	L T54	0.66	0.57	0.40	5.80	1 暗灰黄色土～砂 (10Y R4/1)	弱	弱	炭化物極小粒微量 褐色土極小粒微量	礎石 S K1180を切る S K P 809に切られる
P10	L T56 MA56	0.74	-	0.40	5.98	1 暗灰黄色土～砂 (10Y R4/1)	弱	弱	炭化物極小粒微量 褐色土極小粒微量	柱材 S D1100を切る S K P1155に切られる
P11	L T56 MA56	0.70	0.60	0.32	6.02	1 暗灰黄色土～砂 (10Y R4/1)	弱	弱	炭化物極小粒微量	礎石 礎板 S D1100を切る
P12	L T55	0.66	0.61	0.40	5.88	1 暗灰黄色土～砂 (10Y R4/1)	弱	弱	炭化物極小粒微量	柱材
P13	L T55	0.60	-	0.44	5.80	1 暗灰黄色土～砂 (10Y R4/1)	弱	弱	炭化物極小粒微量 褐色土極小粒微量	柱痕 S K P1210に切られる
P14	L T54	0.74	-	0.37	5.87	1 暗灰黄色土～砂 (10Y R4/1)	弱	弱	炭化物極小粒微量	S K P1184に切られる S A735 P7下層検出
P15	L T54	0.86	0.68	0.53	5.64	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	強		
P16	L T53 MA53	0.68	0.47	0.35	5.62	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	中	木端微量	礎石
P17	MA53	0.73	0.42	0.12	5.79	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	強		
P18	MA56	0.54	0.52	0.29	6.01	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	強		S K P1157を切る
P19	MA56	0.70	0.45	0.28	6.03	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	強		S K P1236を切る S D791に切られる
P20	MA55	0.41	0.37	0.16	6.12	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	強		S B1026 P2を切る S K P1116上層検出 S K P736下層検出
P21	MA54	0.70	0.56	0.30	5.90	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	強		柱材 S B1026 P3を切る S K P1207を切る S A735 P10下層検出
P22	MA54	0.52	0.44	0.32	5.78	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	強		柱痕 S K824を切る S K P1022を切る
P23	MA53	0.66	0.56	0.29	5.61	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	強		S B1026 P5を切る S A1216 P2下層検出
P24	MA53	0.65	0.54	0.28	5.72	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	強		柱材 S B1026 P5を切る
P25	MA55	0.52	0.46	0.45	5.85	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	強		割栗石 S D787に切られる
P26	MA55	0.80	0.75	0.40	5.89	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	強		S A735 P16下層検出
P27	MA54	0.37	0.35	0.51	5.64	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	強		柱材
P28	MA54	0.60	0.36	0.36	5.74	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	強	木端微量	S K824を切る
P29	MA53	0.72	0.70	0.21	5.69	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	強		P30に切られる
P30	MA53	0.74	0.68	0.22	5.68	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	強		礎板 P29・S B1026 P9を切る
P31	MB55	0.34	0.33	0.25	6.05	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	強	木端微量	S D787に切られる
P32	MB55	0.38	0.35	0.50	5.81	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	強	木端微量	柱材 S B1026 P11を切る S A735 P19下層検出 S K P737・738下層検出
P33	MB54	0.39	0.35	0.21	5.89	1 黒褐色土～砂 (2.5Y3/1)	中	中	褐色土極薄板状少量	柱材 S K P1039を切る
P34	MB54	0.28	0.28	0.12	5.82	1 黒褐色土～砂 (2.5Y3/1)	中	中	褐色土極薄板状少量	
P35	MB55	-	-	-	5.86	-	-	-	-	柱材のみ S D790下層検出
P36	MB55	-	-	-	5.86	-	-	-	-	柱材のみ S A735 P21下層検出
P37	MB54	0.55	0.28	0.40	5.85	1 黒褐色土～砂 (10Y R3/1)	中	中	炭化物小～中粒微量 褐色土大～極大粒多量	柱材
P38	MB54	0.28	0.24	0.30	5.80	1 黒褐色土～砂 (10Y R3/1)	中	中	炭化物小～中粒微量 褐色土大～極大粒多量	S K P1014上層検出
P39	MB53	-	-	-	5.78	-	-	-	-	礎石のみ



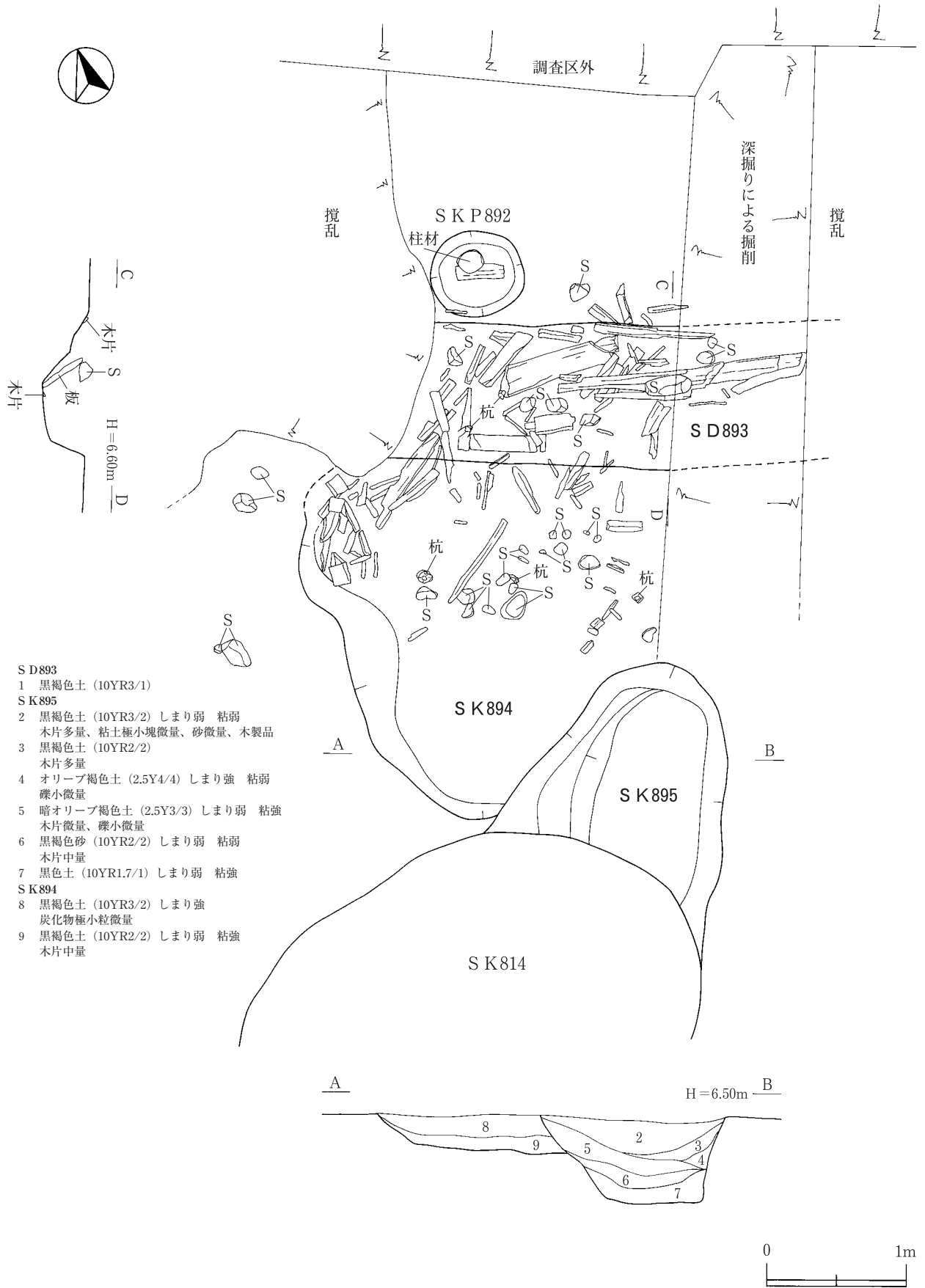
第21図 北側3期 S A 620・624・676・922・925・990



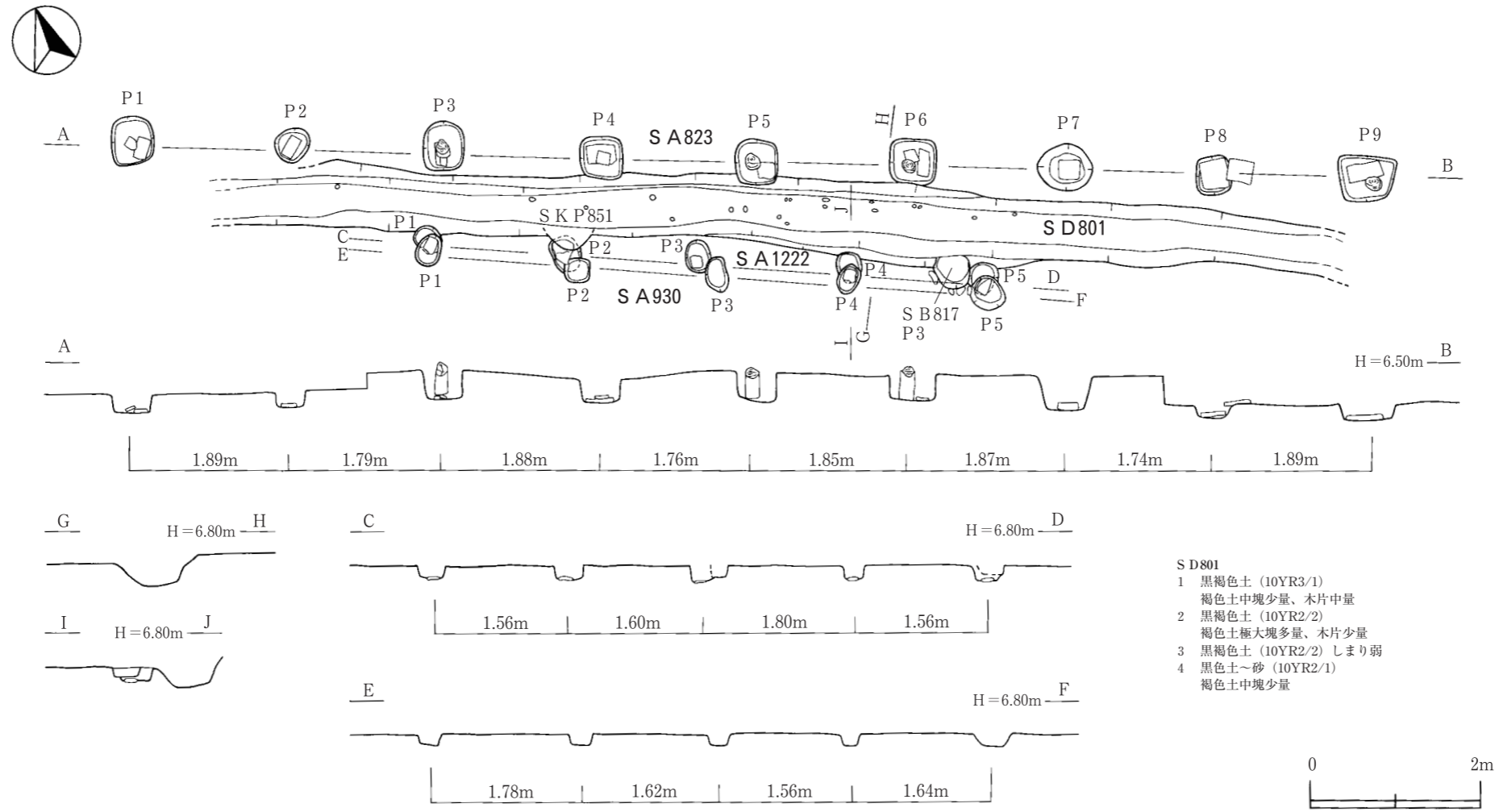
S A710

グリッド	規模 (m)		底面標高 (m)	土色	しまり	粘性	混入物	備考		
	長さ	短径							深さ	
P1	L S51	0.64	0.58	0.36	6.06	1	オリーブ黒土 (5Y3/1)	中	炭化物中～大粒少量 礫小～大少量	礎石 礎板 S K712の上層検出
P2	L R51	0.57	0.56	0.44	6.00	1	オリーブ黒土 (5Y3/2)	中	炭化物中～大粒少量 礫小～大少量	
P3	L Q51 L R51 (残存値)	0.64	0.68	0.38	5.94	1	オリーブ黒土 (5Y2/1)	強	炭化物極小～小粒少量 オリーブ色土中～大塊中量	礎板 S K682・S K674上層検出
						1	黒褐色 (2.5Y3/1)	中	炭化物極小量 粘土極小～小塊少量	礎板
P4	L Q51	0.46	0.44	0.11	5.99	1	黒褐色 (2.5Y3/1)	中	炭化物極小粒少量 粘土極小～小塊少量	柱材

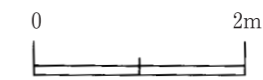
第22図 北側3期S A710



第23図 北側3期S K 894・895、S D 893



- S D 801**
- 1 黒褐色土 (10YR3/1)
褐色土中塊少量、木片中量
 - 2 黒褐色土 (10YR2/2)
褐色土極大塊多量、木片少量
 - 3 黒褐色土 (10YR2/2) しまり弱
 - 4 黒色土～砂 (10YR2/1)
褐色土中塊少量



S A 823

グリッド	規模 (m)			底面標高 (m)	土色	しまり	粘性	混入物	備考	
	長径	短径	深さ							
P1	MA57	0.57	0.50	0.24	5.93	褐色土～砂 (10YR4/4)	中	弱	礫小中量 黄褐色土極小～極大塊中量	礎板
P2	MA57	0.43	0.37	0.21	6.00	褐色土～砂 (10YR4/4)	中	弱	礫小中量 黄褐色土極小～極大塊中量	礎板 S K P 1122の上層検出
P3	L T 57	0.58	0.50	0.35	6.11	褐色土～砂 (10YR4/4)	中	弱	礫小中量 黄褐色土極小～極大塊中量	柱材 礎板 S D 1100を切る
P4	L T 57	0.51	0.50	0.30	6.09	褐色土～砂 (10YR4/4)	中	弱	礫小中量 黄褐色土極小～極大塊中量	礎板 S D 801を切る
P5	L S 57	0.55	0.49	0.33	6.06	褐色土～砂 (10YR4/4)	中	弱	礫小中量 黄褐色土極小～極大塊中量	柱材 礎板 S D 801を切る
P6	L S 57	0.54	0.53	0.32	6.07	褐色土～砂 (10YR4/4)	中	弱	礫小中量 黄褐色土極小～極大塊中量	柱材 礎板 S D 801を切る
P7	L R 57 L S 57	0.66	0.57	0.42	6.01	褐色土～砂 (10YR4/4)	中	弱	礫小中量 黄褐色土極小～極大塊中量	礎板
P8	L R 57	0.47	0.42	0.17	5.90	褐色土～砂 (10YR4/4)	中	弱	礫小中量 黄褐色土極小～極大塊中量	礎板
P9	L Q 57 L R 57	0.65	0.52	0.22	5.88	褐色土～砂 (10YR4/4)	中	弱	礫小中量 黄褐色土極小～極大塊中量	柱材 礎板

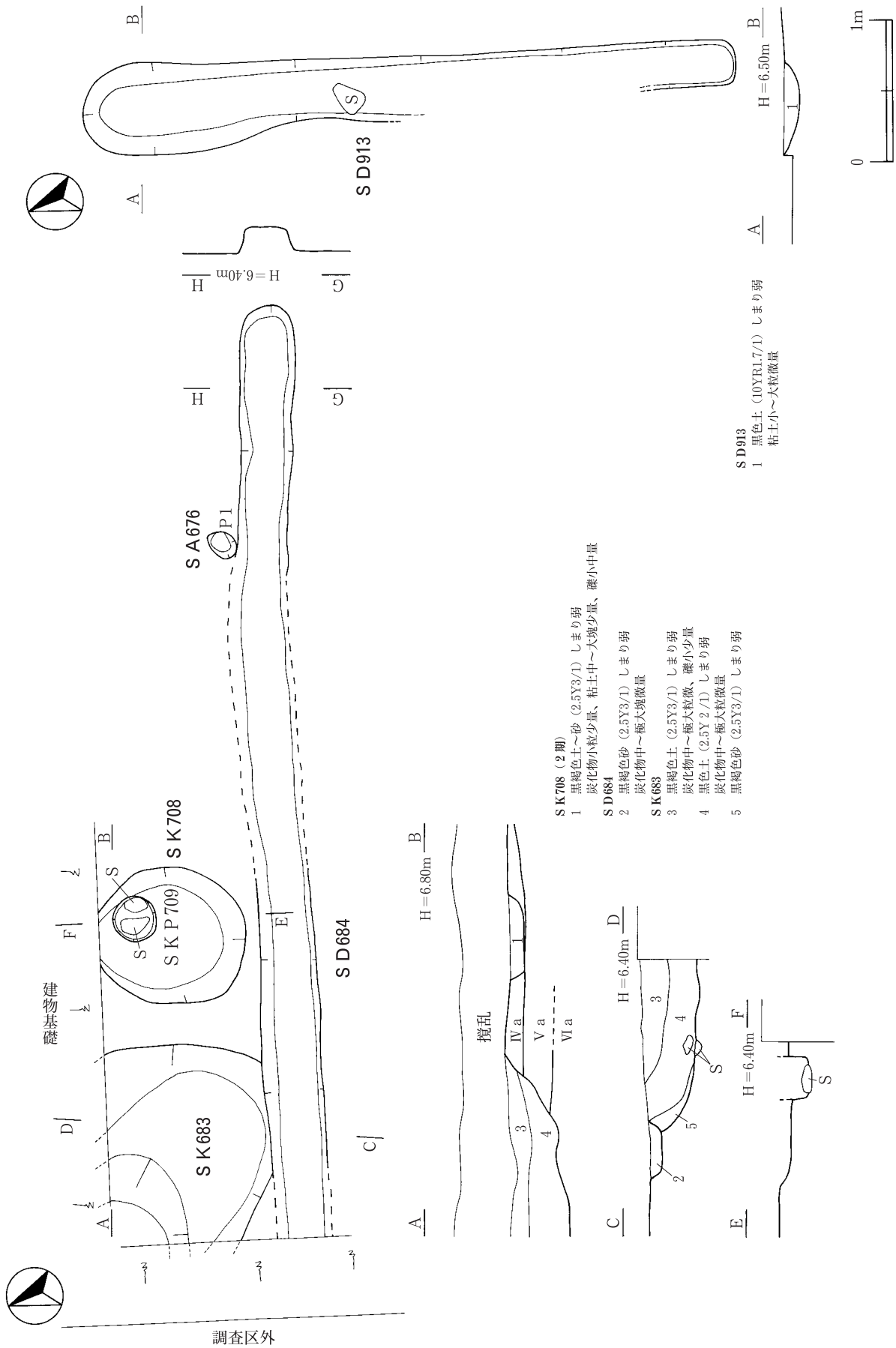
S A 1222

グリッド	規模 (m)			底面標高 (m)	土色	しまり	粘性	混入物	備考	
	長径	短径	深さ							
P1	L T 57	0.38 (残存値)	0.30 (残存値)	0.18	6.28	1 黄灰色粘土 (2.5Y4/1)	強	強	褐色土極小粒少量	礎石 S D 801・1100を切る S A 930 P 11に切られる
P2	L T 56 L T 57	0.46 (残存値)	0.35 (残存値)	0.18	6.27	1 黄灰色粘土 (2.5Y4/1)	強	強	褐色土極小粒少量	礎石 S A 930 P 2に切られる S K P 1223に切られる
P3	L S 56 L S 57 L T 56 L T 57	0.4 (残存値)	0.29 (残存値)	0.22	6.25	1 黄灰色粘土 (2.5Y4/1)	強	強	褐色土極小粒少量	礎石 S A 930 P 3に切られる S B 1233 P 6上層検出礎石
P4	L S 56 L S 57	0.4 (残存値)	0.32 (残存値)	0.19	6.27	1 黄灰色粘土 (2.5Y4/1)	強	強	褐色土極小粒少量	礎石 S A 930 P 4に切られる S D 801を切る S B 1233 P 7上層検出
P5	L S 56	0.42 (残存値)	0.36 (残存値)	0.21	6.25	1 黄灰色粘土 (2.5Y4/1)	強	強	褐色土極小粒少量	S D 801を切る S A 930 P 5に切られる S B 817 P 3に切られる

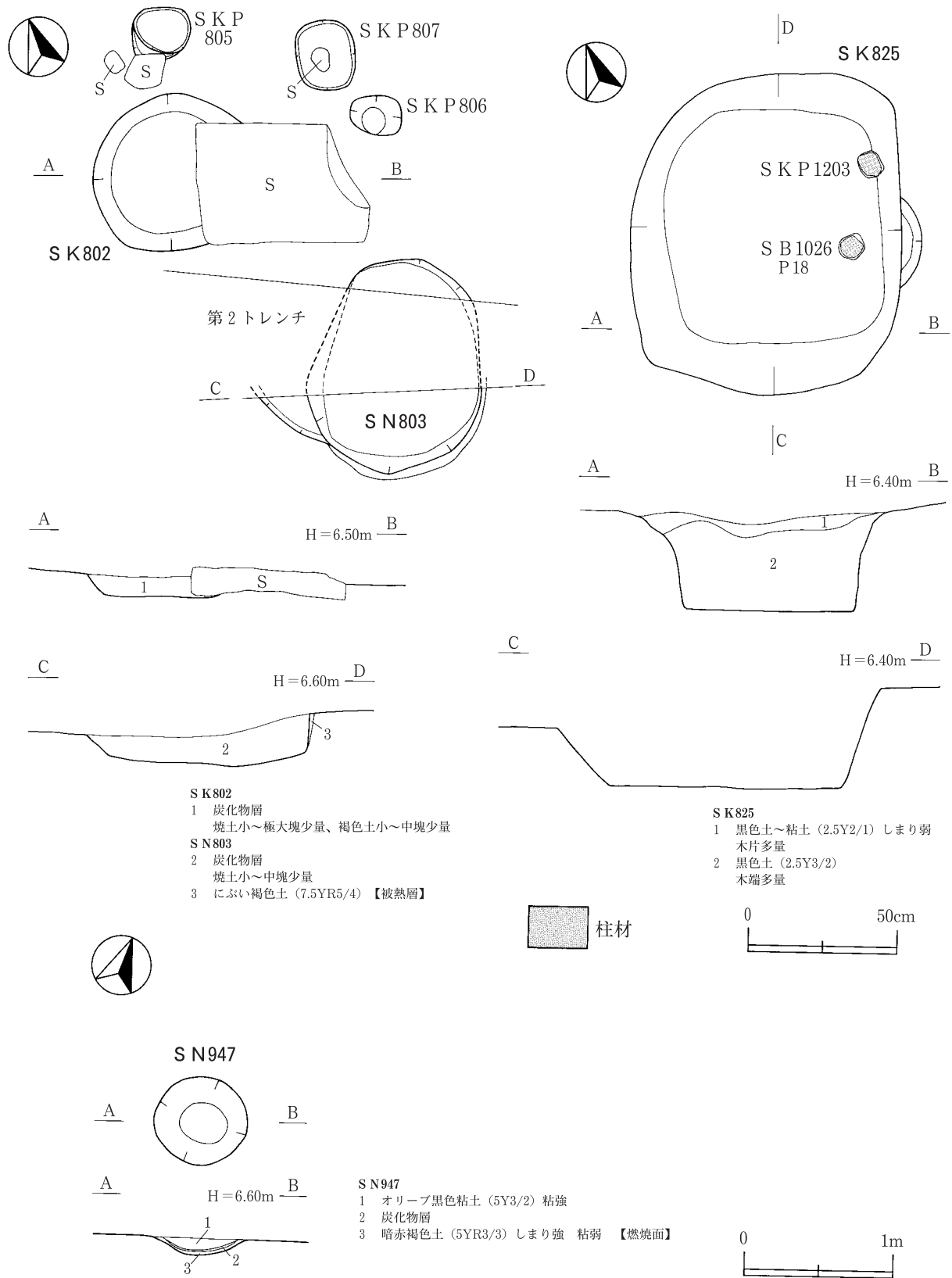
S A 930

グリッド	規模 (m)			底面標高 (m)	土色	しまり	粘性	混入物	備考	
	長径	短径	深さ							
P1	L T 56 L T 57	0.40	0.30	0.13	6.29	1 黄灰色土～砂 (2.5Y4/1)	弱	中	褐色土極小粒少量	S A 1222 P 1を切る S D 1100上層検出
P2	L T 56	0.31	0.29	0.15	6.28	1 黄灰色土～砂 (2.5Y4/1)	弱	中	褐色土極小粒少量	S A 1222 P 2を切る
P3	L S 56 L S 57	0.43	0.25	0.15	6.25	1 黄灰色土～砂 (2.5Y4/1)	弱	中	褐色土極小粒少量	S A 1222 P 3を切る S B 1233 P 6上層検出
P4	L S 56	0.35	0.24	0.14	6.27	1 黄灰色土～砂 (2.5Y4/1)	弱	中	褐色土極小粒少量	S A 1222 P 4を切る
P5	L S 56	0.43	0.37	0.16	6.27	1 黄灰色土～砂 (2.5Y4/1)	弱	中	褐色土極小粒少量	S A 1222 P 5を切る S B 1233 P 8上層検出

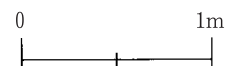
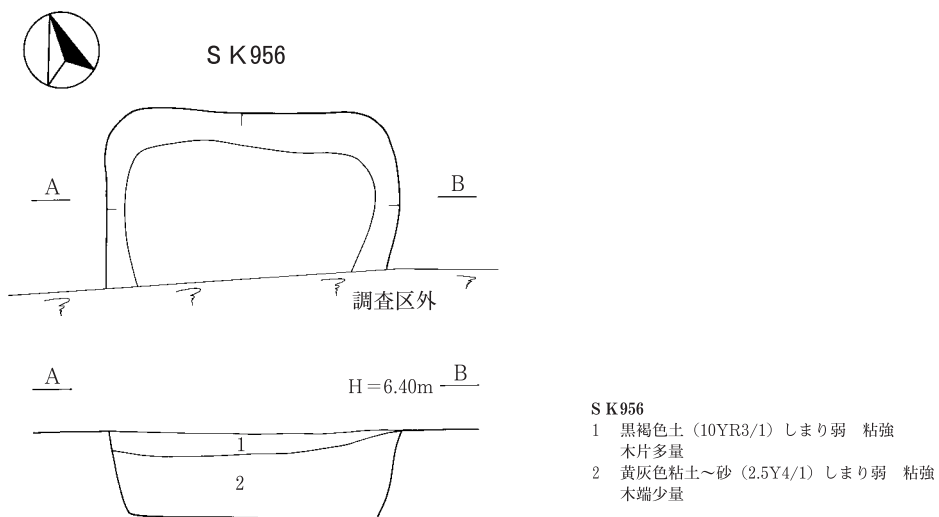
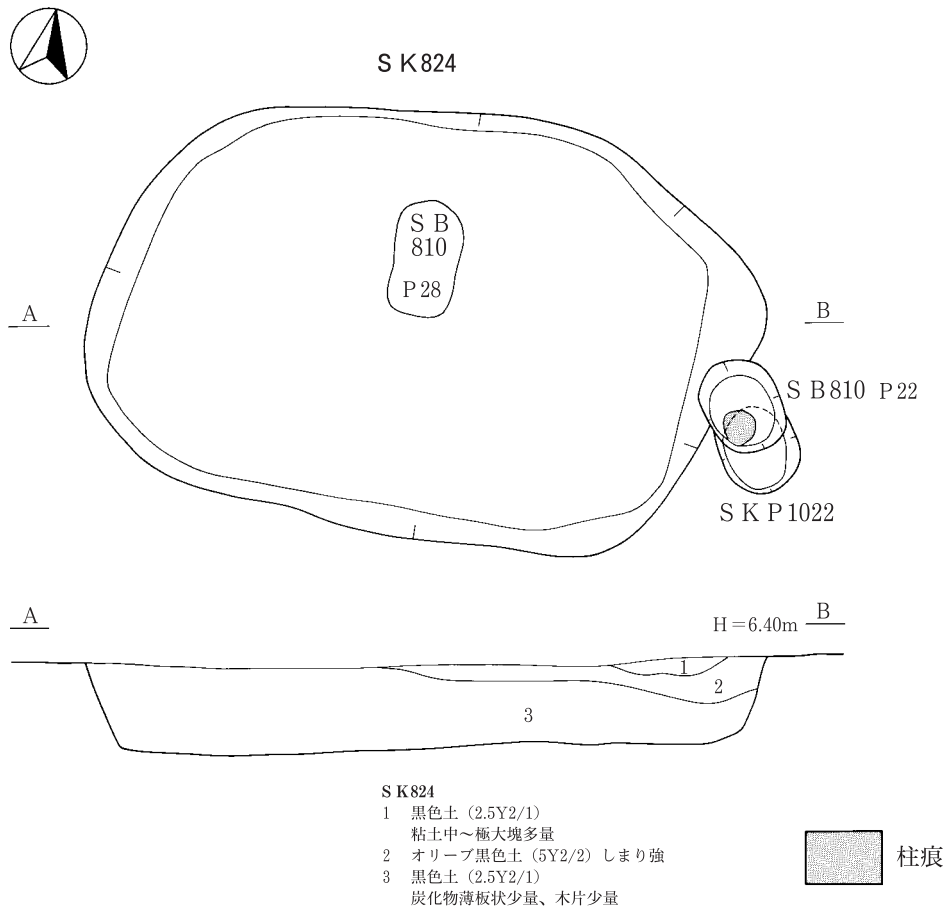
第24図 北側3期 S A 823・930・1222、S D 801



第25図 北側3期SK683・708、SD684・913



第26図 北側3期SK802・825、SN803・947



第27図 北側3期 S K 824・956

(4) 北側調査区第4期

年代は、基本土層観察、遺構配置、絵図や出土遺物から判断して、19世紀前葉～中葉と推測される。この時期は、文政12(1829)年頃の様子を描いた『羽州久保田大絵図』より、佐竹藩家老小野岡氏が南側へ屋敷を拡大し、根本家屋敷と隣接する時期にあたる。

① 掘立柱建物跡

S B 817 (第28図、図版19-1~4)

北側調査区北東のLR~MA54~57のⅢ層上~中で検出した。調査区北東側で礎石が東西に並ぶ。礎石立と掘立柱の複合する建物である。後世の掘削により遺構の南側では礎石が動いてしまったと推測され、全容は不明である。礎石は建物の外側に並んでいたと思われ、根固めの割栗石には瓦片の転用が見られる。特に北側の礎石周辺には瓦片の散乱が目立つ。建物の内側の柱は掘立柱であった可能性が考えられる。これは外部からの見た目を重視した結果と考えられ、外からは見えない内側を掘立柱にしたのではないかと推測される。しかし、掘立柱にも家屋の重みに耐えるため、柱穴の底面に礎板や根固めのための割栗石が確認されている。桁行(北東-南西)6間、梁行(北西-南東)5間の掘立柱建物で、建物規模は、桁行総長11.18m、柱間距離は北から2.14m、2.0m、2.0m、2.0m、2.0m、1.72m、1.32mで、梁行総長8.14m、柱間距離は西から1.52m、1.50m、1.90m、1.90m、1.31mである。桁行柱筋は北から東へ18.5度傾いている。建物跡の下層から出土した遺物の状態から、この建物は18世紀後半~19世紀前葉の間に建てられたと考えられる。絵図より判断すると、屋敷主は小野岡氏と推測される。また同規模の屋敷であった佐竹家家臣『佐竹義純邸屋敷図』から判断して、書院か番所であった可能性が高い。

② 柱 列

S A 915 (第29図)

北側調査区中央やや東よりのLS54・55Ⅳ層中で、北東から南西へ3基の柱穴が並ぶ柱列を検出した。柱穴はすべて掘立柱であり、P1・P2には礎石が見られる。P3には礎石はなかったが柱材が残存していた。柱材の直径は22cmである。総長は3.16m、柱間距離は北から1.80m、1.36m、柱筋は北から東へ10度傾いている。目隠し堀か建物跡の一部と思われる。

S A 1185 (第29図)

北側調査区中央やや北東のMA54・55Ⅲ層上で、北東から南西へ、屋敷正面にあたる古川堀端通りに対するように並ぶ4基の柱穴を検出した。柱穴はすべて掘立柱であり、P4以外は底面に礎板が残る。総長は4.74mであり、柱間距離は1.58m等間、柱筋は北から東へ10度傾いている。目隠し堀跡であったと思われる。

S A 1216 (第30図)

MA53・54Ⅲ層上に位置する。礎石が3基等間隔に北東から南西へ並んでいる状態を検出した。S B 817と平行に並んでいる。礎石には径20cmの柱あたりが確認でき、総長は2.79m、柱間距離は南から1.38m(P1-P2)、1.41m(P2-P3)、柱筋は北から東へ18.5度傾いている。S B 817の一部であるか、別の施設なのか、板堀などがあったことが予想されるが、周囲には他に礎石がなく、ま

た西側は攪乱されているため、全容は不明である。

③ 井戸跡

S E 899 (第30図)

北側調査区の北西端であるMC・MD53Ⅲ層上で検出した。調査区外に近く、掘削を伴う調査は危険と判断したため平面観察のみを行った。掘形は、長軸（北西－南東）1.32m、短軸（北東－南西）1.20mを計り、径1.07mの桶が埋められていた。南側調査区検出のS E 599同様、覆土は黒色土～砂を主体とし、廃絶時に残置されたと思われる径40～60cmの石が確認できた。

④ 溝 跡

S D 787、S D 790、S D 791、S D 792 (第31図、図版20-1～3)

北側調査区北側MA・MB・MC55・56Ⅲ層上で確認した。すべての溝跡で、両壁に土留めの板とそれを固定していた杭を検出した。S D 787・790・791が並列して西から東へ走り、東側で南から北へ走るS D 792とL字に交わっている。また、S D 787・790・791は西側でS K 814に切られているが、S D 01に直交していたと思われる。

断面観察の結果、新旧関係は、新しい順にS D 791、S D 787、S D 790である。S D 792はトレンチ掘削のため失われ全容は不明である。S D 791より古いことが確認できたが、S D 787との切り合い関係は不明であり、S D 787の延長である可能性もある。出土遺物は17世紀の陶磁器片が中心で、接合するものもあり、短期間の間の作り替えであると考えられる。

ア S D 787

長さ6.80m（残存値）、幅0.85m（残存値）、確認面からの深さは0.23m、主軸は北から西へ74.5度傾いている。覆土は7層に分けられ、下層である10～13層は自然堆積であるが、上層は人為的に埋め戻されている。出土遺物は、16世紀末～17世紀後半の肥前産陶磁器片の他、17世紀初頭の瀬戸美濃産織部焼皿はS D 790出土片と接合した。木製品では、連歯下駄・漆椀片が出土している。

イ S D 790

長さ6.15m（残存値）、幅0.48m、確認面からの深さは0.12m、主軸は北から西へ70.5度傾いている。覆土は3層に分けられる。出土遺物は、16世紀末～17世紀前半の肥前産陶磁器片の他、瀬戸美濃産陶器はS D 787出土のものと接合した。木製品は漆椀片、金属製品では釘が出土している。

ウ S D 791

長さ10.94m（残存値）、幅0.74m、確認面からの深さは0.21m、主軸は北から西へ75度傾いている。覆土は6層に分けられた。S D 787同様、自然堆積の上に人為的な埋め戻しが見られる。出土遺物は、16世紀末～17世紀前半の肥前産陶磁器片、金属製品は座金が出土している。

エ S D 792

トレンチ掘削のため失われ、杭列のみの確認である。長さ4.70m（残存値）、幅0.37m、主軸は北から東へ31.5度傾いている。出土遺物は、16世紀末～17世紀代の肥前産陶磁器片が出土している。

S D 1212 (第32図)

北側調査区中央やや北東よりのL T 55・56Ⅳ層上で北東－南西方向の溝跡を検出した。S K P 939・

1162・1213に切られ、S B810P 1を切る。規模は長さ3.30m（残存値）、幅0.28～0.4m、確認面からの深さは0.11m、主軸は北から東へ15.5度傾いている。覆土は単層である。排水溝と思われるが、削平を受けているため全容は不明である。

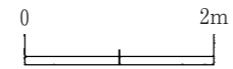
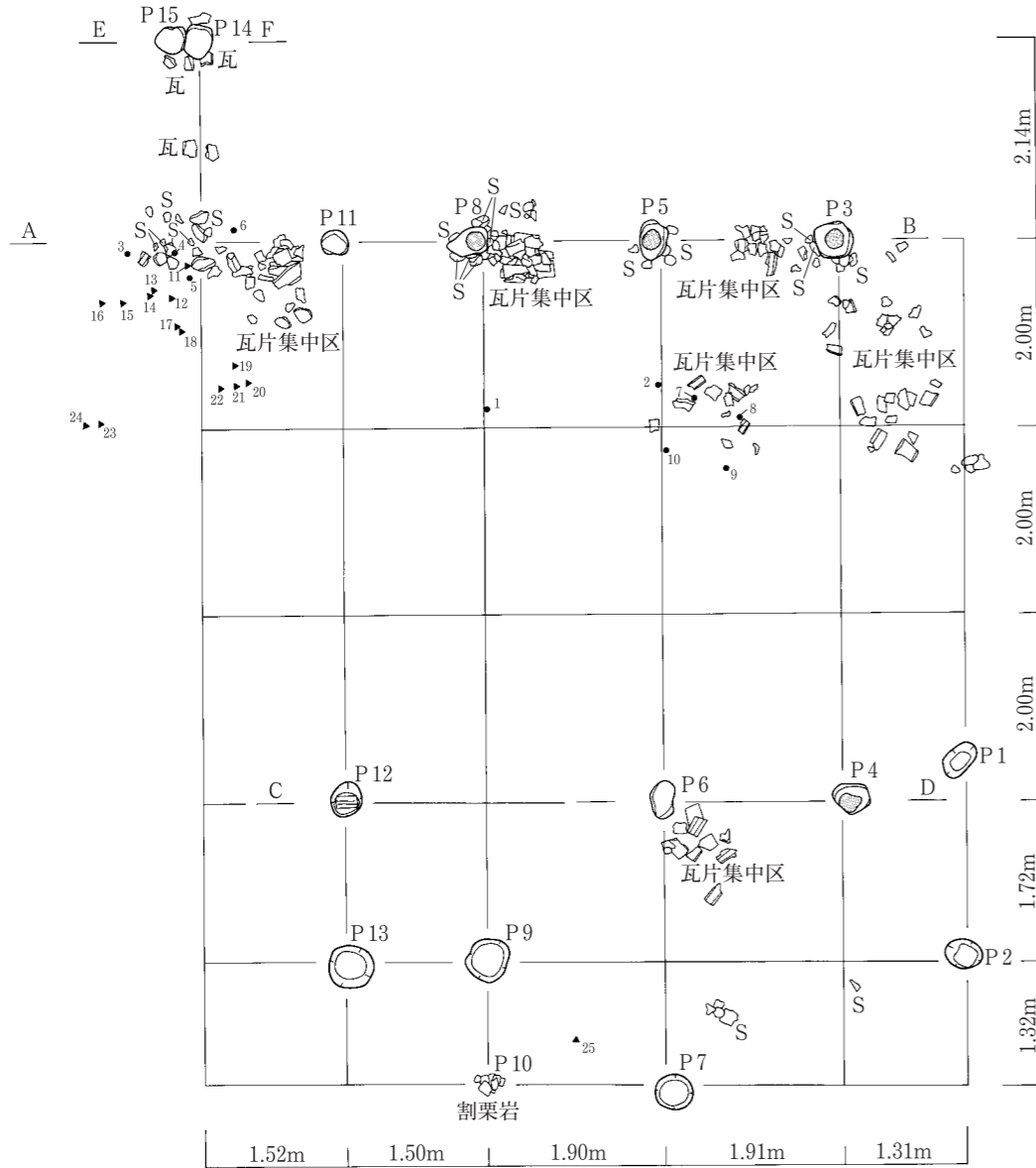
⑤ 土 坑

S K804（第30図）

北側調査区中央やや北東よりのL S・L T56Ⅲ層上で楕円形のプランを検出した。規模は長軸1.33m（北西－南東）、短軸1.05m（北東－南西）、確認面からの深さは0.20mである。覆土は2層に分けられ、いずれも埋め戻し土である。遺物は17世紀代の肥前産陶器が出土している。

S K813（第32図、図版20－1）

北側調査区北東にあたるMA・MB56Ⅲ層上で不整形のプランを検出した。規模は長軸3.24m（北西－南東）、短軸3.23m（北東－南西）、確認面からの深さは1.08mである。覆土は12層に分けられた。鉋屑や種子、動物遺体などが見られることから、屋敷の建て替え時などにまとめて廃棄物を捨てたのであろう。遺物は15世紀末～17世紀前半の肥前産陶磁器片、中国漳州窯産磁器碗の破片が出土しているが、1点のみ18世紀前半に下るものも出土している。木製品では、漆椀・独楽・鍋蓋・桶や樽の底・篋・曲物・櫛・下駄・祭祀具である獅子頭が出土した。下駄は12点確認した。そのうち連歯下駄が10点、露卯下駄が2点である。露卯下駄は地方差があるが、1800年前後に衰退していったことから、18世紀末頃までの年代が推定される。金属製品は、釘・鍋・煙管・小柄が出土した。煙管は16世紀代のものと19世紀代のものが出土している。以上のことから、遺物は江戸草創期に生産されていたものが中心であるが、19世紀に下るものも数点確認しているため、17世紀～19世紀初頭と長い期間同じ場所を使用していたことも考えられる。また江戸草創期の遺物が多いことから、別の場所で廃棄したものをここへ移し換えた可能性も考えられる。

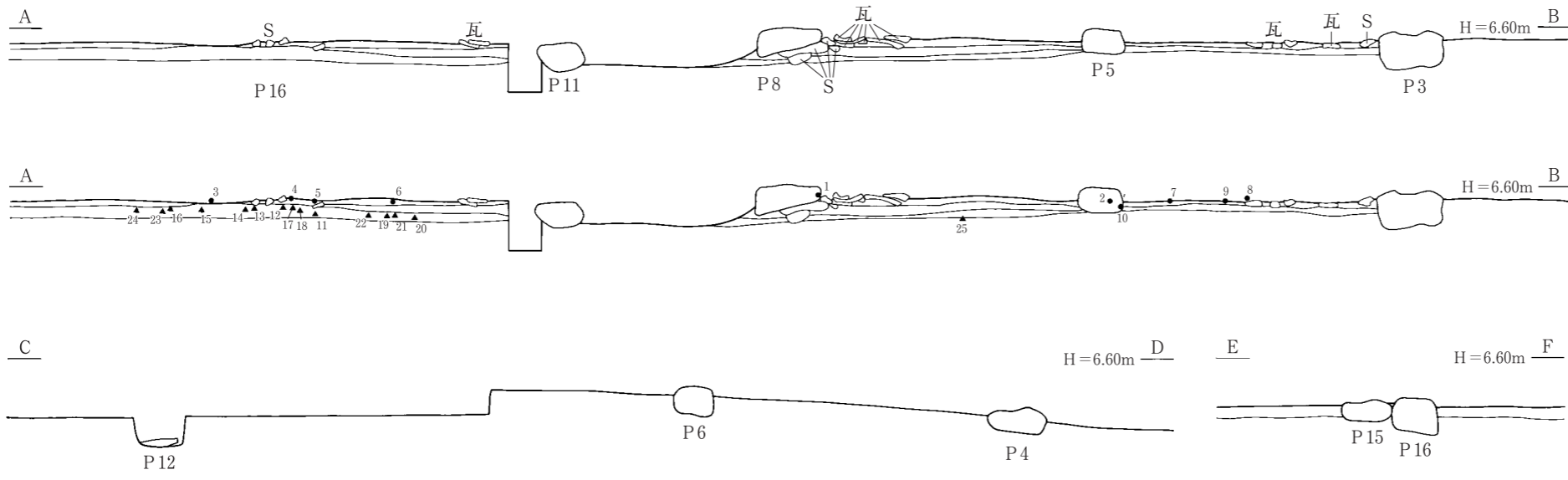


S B817

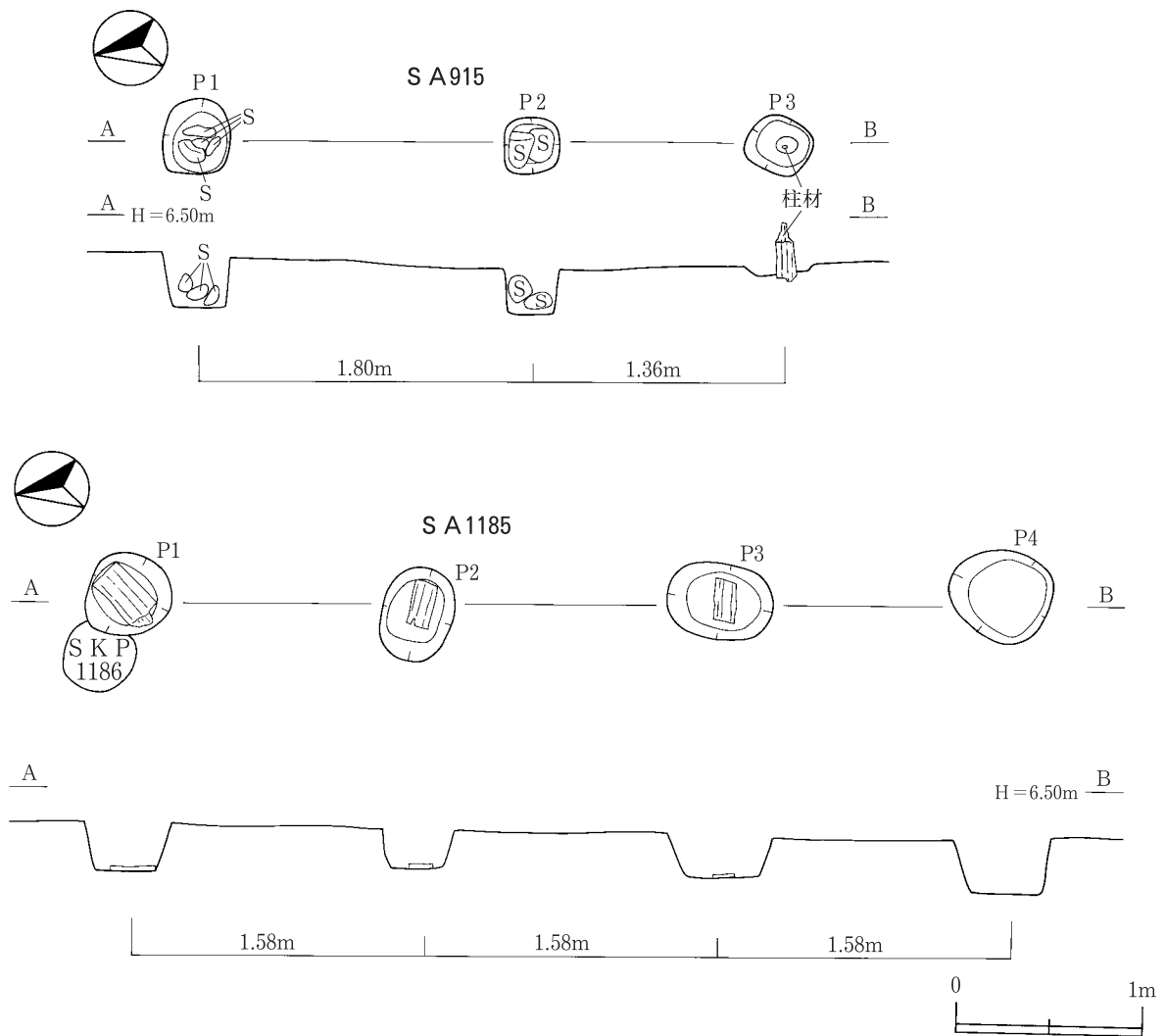
グリッド	規模 (m)			底面標高 (m)	土色	しまり	粘性	混入物	備考	
	長径	短径	深さ							
P1	L R 55 L S 55	0.43	0.25	0.19	6.50	1	オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	強	S K 1007上層検出
P2	L R 55 L S 55	0.42	0.33	0.19	6.31	1	オリーブ黒色土 (5Y3/2)	中	強	S K P 1240上層検出
P3	L S 56 L S 57	-	-	-	-	-	-	-	-	礎石のみ 付近に瓦片が散乱 S A 1222 P 5を切る S B 1233 P 8上層検出
P4	L S 55	-	-	-	-	-	-	-	-	礎石のみ S B 1012 P 6上層検出 S K 1007上層検出 S D 701下層で検出
P5	L S 56 L S 57	-	-	-	-	-	-	-	-	礎石のみ S D 801上層検出
P6	L S 55	-	-	-	-	-	-	-	-	礎石のみ 付近に瓦片が散乱
P7	L S 54	0.42	0.39	0.20	6.30	1	オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	強	S N 947に切られる
P8	L T 56 L T 57	-	-	-	-	-	-	-	-	礎石のみ 割栗石の一部に瓦片を転用 付近に瓦片が散乱 S D 801上層検出 S B 1233 P 5上層検出
P9	L T 55	0.48	0.42	0.23	6.27	1	オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	強	-
P10	L T 54 L T 55 L T 57	-	-	-	-	-	-	-	-	割栗石のみ
P11	L T 56 L T 57	-	-	-	-	-	-	-	-	礎石のみ S B 1233 P 4上層検出
P12	L T 55	0.38	0.35	0.20	6.46	1	オリーブ黒色土 (5Y3/2)	強	中	礎板
P13	L T 55	0.40	0.47	0.27	6.23	1	オリーブ黒色土 (5Y3/2)	強	中	-
P14	L T 57	-	-	-	-	-	-	-	-	礎石のみ 瓦片を割栗石に転用
P15	L T 57 M A 57	-	-	-	-	-	-	-	-	礎石のみ
P16	L T 56 L T 57 M A 56 M A 57	-	-	-	-	-	-	-	-	瓦片を割栗石に転用 S K P 1163を切る S D 801上層検出

北側調査区Ⅲ層 (S B817周辺) 遺物観察表

遺物番号	分類	器種	生産地	年代	編年区分	備考	挿図
1	陶器	碗	肥前(内野山窯)	17世紀中～17世紀末	Ⅲ	銅緑釉	第63図 4
2	陶器	皿	肥前	1580～1610	I	灰釉。ロクロ成形。高台内施削り。胎土目積み痕。	第54図 2
3	白磁	皿	肥前(波佐見)	17世紀後半～18世紀前半	Ⅲ～Ⅳ	蛇ノ目見込み軸割ぎ。	第81図 1
4	かわらけ	皿	在地	江戸時代	-	型押し成形。	-
5	青磁	碗	肥前	17世紀末～18世紀初頭	Ⅳ	-	-
6	陶器	皿	肥前	1590～1610	I	鉄絵皿。ロクロ成形。高台内施削り。S D 801・M A 57Ⅲ層と接合。	第55図 1
7	陶器	小杯	肥前	1590～1630	I～II	-	第56図 5
8	染付	小杯	肥前	18世紀	Ⅳ	-	-
9	陶器	皿	肥前	1610～1630	II	薬灰釉。ロクロ成形。高台内施削り。砂目積み痕。口縁部溝線皿。	第59図 5
10	染付	皿	肥前	1630～1650	II	型打ち成形。	第74図 4
11	陶器	皿	肥前	1610～1630	II	灰釉。砂目積み痕。口縁部溝線皿。	-
12	染付	小碗	肥前	17世紀後半～18世紀?	Ⅲ～Ⅳ	-	-
13	白磁	皿	肥前(波佐見)	17世紀後半	Ⅲ	蛇ノ目見込み軸割ぎ。13と接合。	-
14	白磁	皿	肥前(波佐見)	17世紀後半	Ⅲ	蛇ノ目見込み軸割ぎ。14と接合。	-
15	陶器	壺	肥前	17世紀	II～III	-	-
16	陶器	皿	肥前	1590～1610	I	薬灰釉。ロクロ成形。高台内施削り。	-
17	染付	蓋付小碗	肥前	17世紀末～18世紀初頭	Ⅳ前半	色絵。	-
18	染付	碗	肥前	17世紀末～18世紀初頭	I～II初期	-	-
19	染付	碗	肥前	18世紀前半～18世紀中	Ⅳ	-	-
20	陶器	小杯	肥前	16世紀末～17世紀初頭	I～II初期	灰釉。	-
21	青磁	皿	肥前(波佐見)	17世紀後半	Ⅲ	蛇ノ目見込み軸割ぎ。	-
22	陶器	皿	肥前	1610～1630	II	鉄絵。ロクロ成形。焼成不良。砂目積み痕。高台内施削り。	第58図 5
23	青磁	皿	肥前(波佐見)	17世紀後半	Ⅲ	蛇ノ目見込み軸割ぎ。24と接合。	第80図 5
24	青磁	皿	肥前(波佐見)	17世紀後半	Ⅲ	23と接合。	第80図 5
25	染付	碗	肥前	17世紀前半?	II? III?	-	-



第28図 北側4期S B817



S A 915

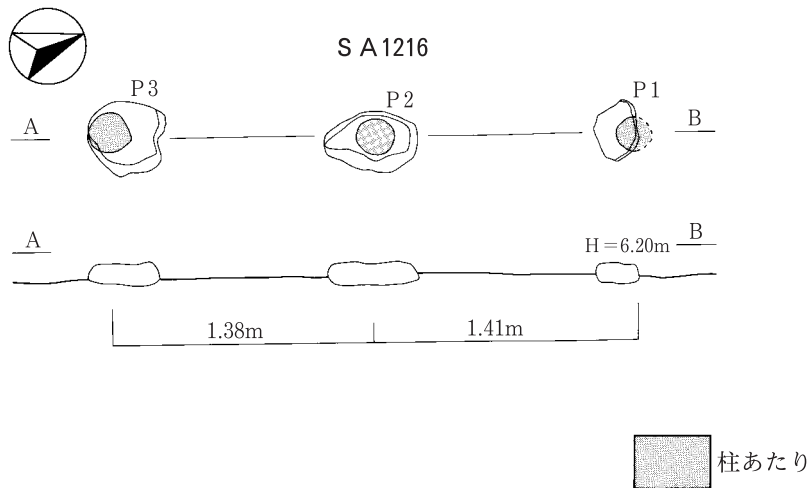
	グリッド	規模 (m)			底面標高 (m)	土 色	しまり	粘性	混 入 物	備 考
		長径	短径	深さ						
P1	L S 55	0.41	0.36	0.30	6.06	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	強		礎石
P2	L S 54	0.31	0.30	0.26	5.94	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	強		礎石
P3	L S 54	0.34	0.30	0.07	6.18	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	強		柱材

S A 1185

	グリッド	規模 (m)			底面標高 (m)	土 色	しまり	粘性	混 入 物	備 考
		長径	短径	深さ						
P1	MA 55	0.48	0.46	0.28	6.08	1 オリーブ黒色土 (5Y3/2)	強	中		礎板 S K P 1186を切る
P2	MA 55	0.52	0.40	0.22	6.10	1 オリーブ黒色土 (5Y3/2)	強	中		礎板
P3	MA 55	0.56	0.41	0.23	6.05	1 オリーブ黒色土 (5Y3/2)	強	中		礎板
P4	MA 54	0.57	0.50	0.31	5.99	1 オリーブ黒色土 (5Y3/2)	強	中		

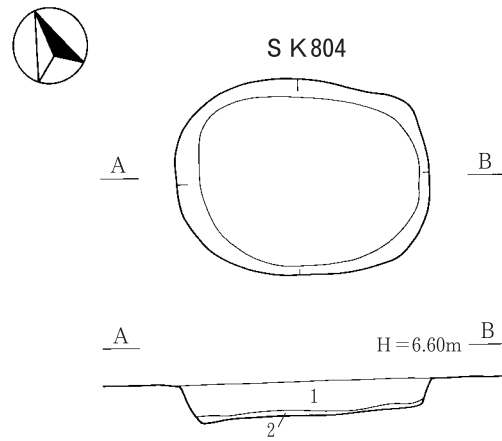
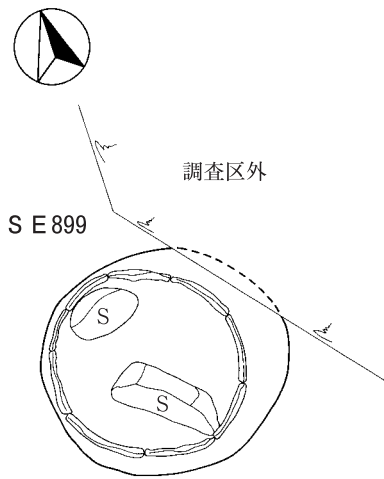
第29図 北側4期 S A 915・1185

第4章 調査の記録



S A 1216

	グリッド	規模 (m)			底面標高 (m)	土色	しまり	粘性	混入物	備考
		長径	短径	深さ						
P1	MA54	-	-	-	6.08	-	-	-	-	礎石のみ S K P 1022の上層検出
P2	MA53 MA54	-	-	-	6.14	-	-	-	-	礎石のみ S B 810 P 23の上層検出
P3	MA53	-	-	-	6.13	-	-	-	-	礎石のみ



S K 804

- 1 暗褐色土～砂 (10YR3/3)
炭化物小～中粒中量、黄褐色土小～中粒中量
- 2 暗褐色土～砂 (10YR3/3)
炭化物小～中粒中量、黄褐色土小～中粒多量



第30図 北側4期 S A 1216、S E 899、S K 804



SD791

- 1 にふい黄褐色砂～土 (10YR5/4) しまり弱 粘弱
粘土中塊少量、礫小中量
- 2 オリーブ黒色土～粘土 (5Y3/2)
木片中量
- 3 オリーブ黒色土～粘土 (5Y3/1)
炭化物小～中粒微量
- 4 灰オリーブ色粘土 (5Y4/2)
- 5 オリーブ黒色土 (5Y2/2) 粘弱
炭化物小粒少量、木端少量、木片中量
- 6 黒褐色砂～土 (2.5Y3/1) しまり強 粘弱
木端微量

SD787

- 7 暗褐色砂～土 (10YR3/3) 粘弱
粘土中塊少量、礫小中量
- 8 黒褐色土 (10YR3/2)
礫大微量
- 9 灰黄褐色土～粘土 (10YR4/2)
炭化物小～中粒中量、粘土小粒中量、礫大微量
- 10 オリーブ黒色砂～粘土 (5Y3/2)
炭化物小粒少量、粘土小粒少量
- 11 オリーブ黒色土 (5Y3/1)
粘土小粒少量
- 12 黒色土 (2.5Y2/1)
粘土小粒少量、木端中量
- 13 黒褐色砂～土 (2.5Y3/1)

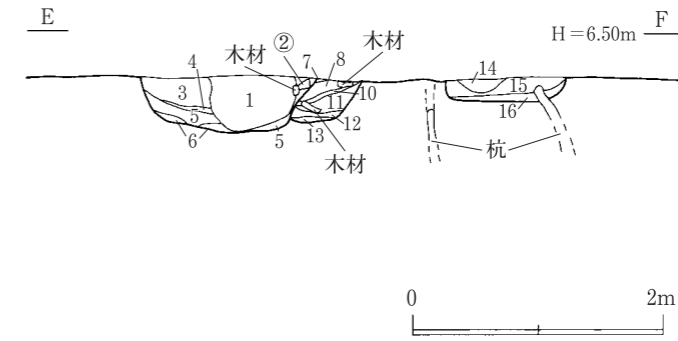
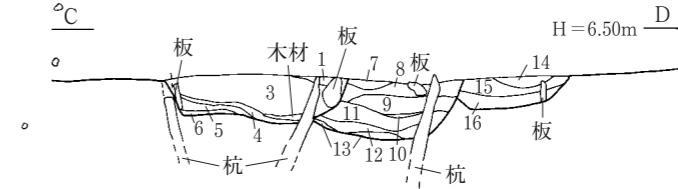
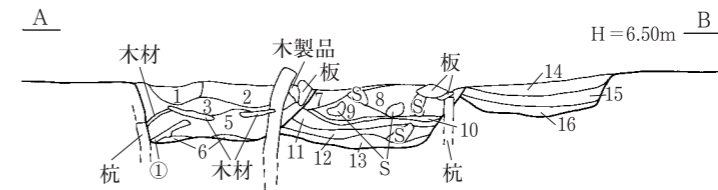
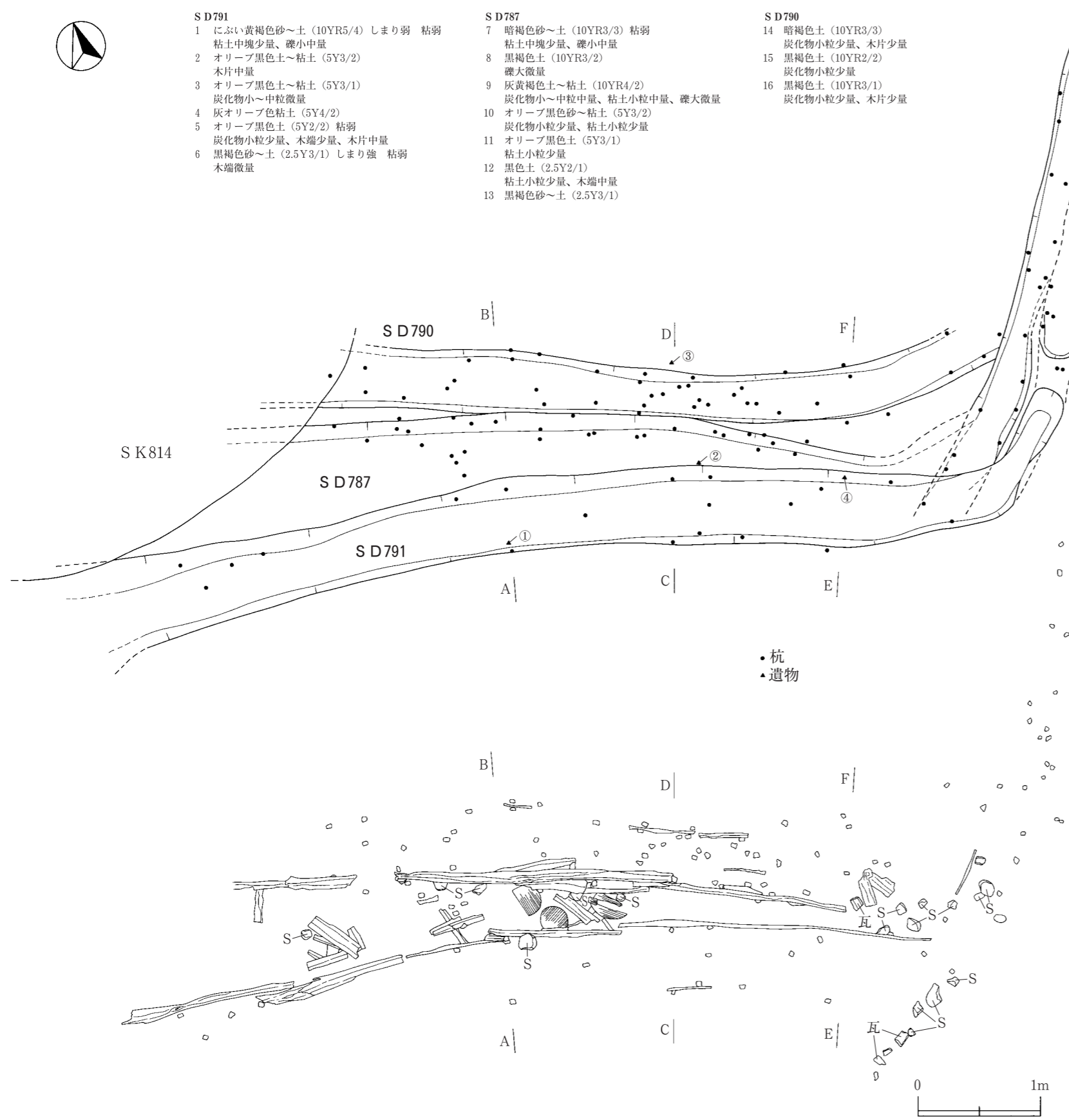
SD790

- 14 暗褐色土 (10YR3/3)
炭化物小粒少量、木片少量
- 15 黒褐色土 (10YR2/2)
炭化物小粒少量
- 16 黒褐色土 (10YR3/1)
炭化物小粒少量、木片少量

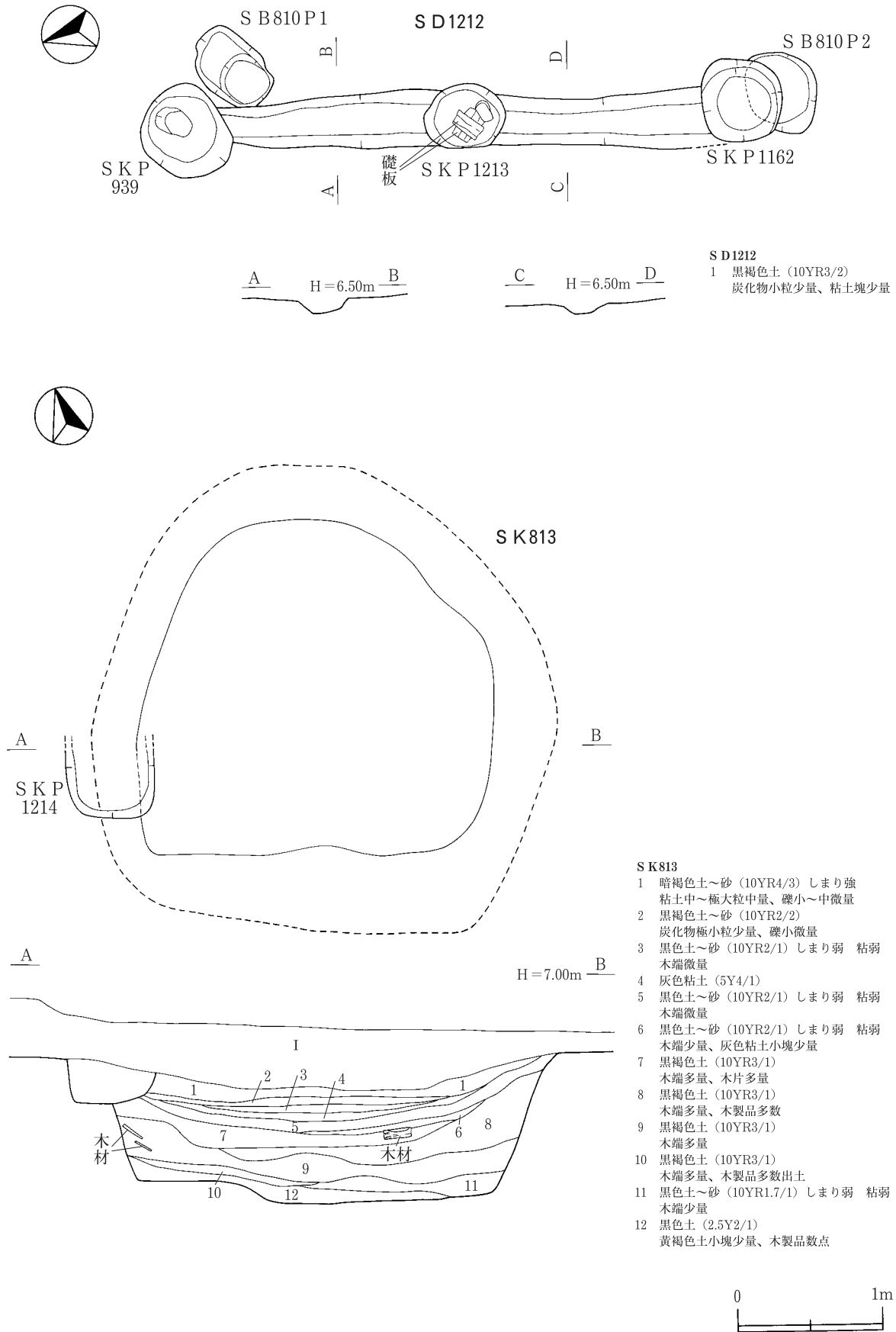
SD792

SD787・790・791遺物観察表

遺物番号	分類	器種	生産地	時代	編年区分	備考	図版
1	陶器	壺	不明	江戸時代	-	輪積み後、ロクロにより外側をなでた痕跡がある。上部は鉄軸で下部は藁灰軸に接目。	-
2	陶器	皿	瀬戸美濃	1600～1630	-	織部焼。茶会席で使用。ピン積み痕。	図版20-2
3	陶器	皿	瀬戸美濃	1600～1630	-	織部焼。茶会席で使用。ピン積み痕。	-
4	磁器	碗	肥前	1630～1650	II	破片のみ。	-



第31図 北側4期SD787・790～792



第32図 北側4期SD1212、SK813

(5) 北側調査区第5期

時代は、基本土層観察、遺構配置、絵図や出土遺物から判断して、幕末期と推測される。この時期は文政12(1829)年頃の久保田城下の様子を描いた『羽州久保田大絵図』から数年を隔てた時期にあたり、第4期整地層にさらに盛り土をして整地した様子が観察できる。この生活面で明治維新を迎えたものと思われる。

① 柱 列

S A 03 (第33図)

北側調査区北側のMD55~57Ⅱ層上で、北東から南西へ柱穴が3基並ぶ柱列を確認した。柱穴はすべて掘立柱で、底面に礎板が残っている。P1には礎板上に径20cmの柱材が残る。総長は7.72m、柱間距離は3.86mの等間で、柱筋は北から東へ16.5度傾いている。町境を区画する溝であるS D 01の南東側を平行するように並んでいる。覆土は黒褐色土であるが、Ⅰ層土塊があることから、Ⅰ層土を盛った際に廃棄されたと考える。S A 03が建てられた時期は、小野岡家屋敷が北側調査区全体に広がっていた時期であり、町境や屋敷境のための施設とは考えにくい。建物跡の一部であることも考えられるが、他に結びつく柱穴が確認されなかったため全容は不明である。

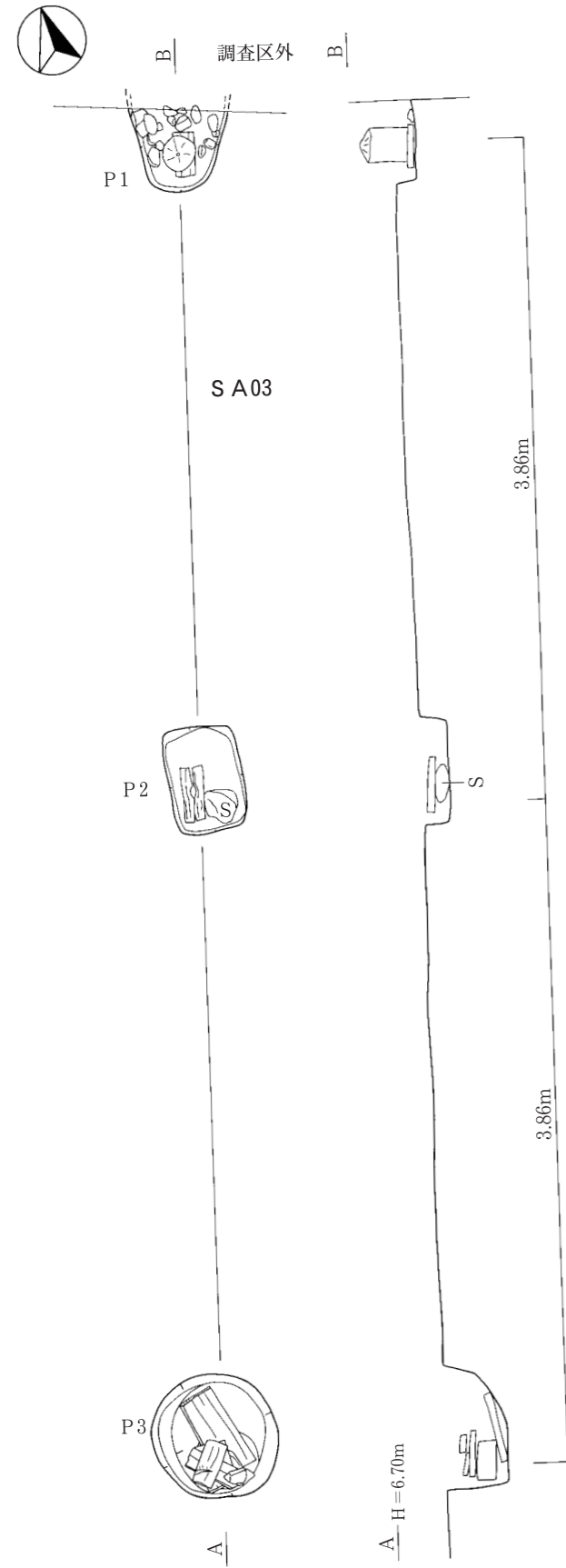
S A 735 (第33図、図版19-4)

北側調査区中央部やや北東側のL S ~ M B 54・55に位置する。Ⅰ層除去後、直下のⅡ層上で確認した。21基の柱穴で構成される。北西から南東へクランク状に直角に2回曲がっているが、確認調査によるトレンチ掘削のため、一部は失われている。柱列総長13.98m、柱間距離はP1~P11が8.29m、P11~P13が1.07m、P13~P21が4.62mであり、柱筋は北から西へ69.5度傾いている。柱穴間隔は0.5m~0.67mとあるが、大部分が0.63mを基準としている。覆土はすべてⅠ層土である。屋敷内の公的空間と私的空間を区切るための目隠し塀跡であると思われる。

② 溝 跡

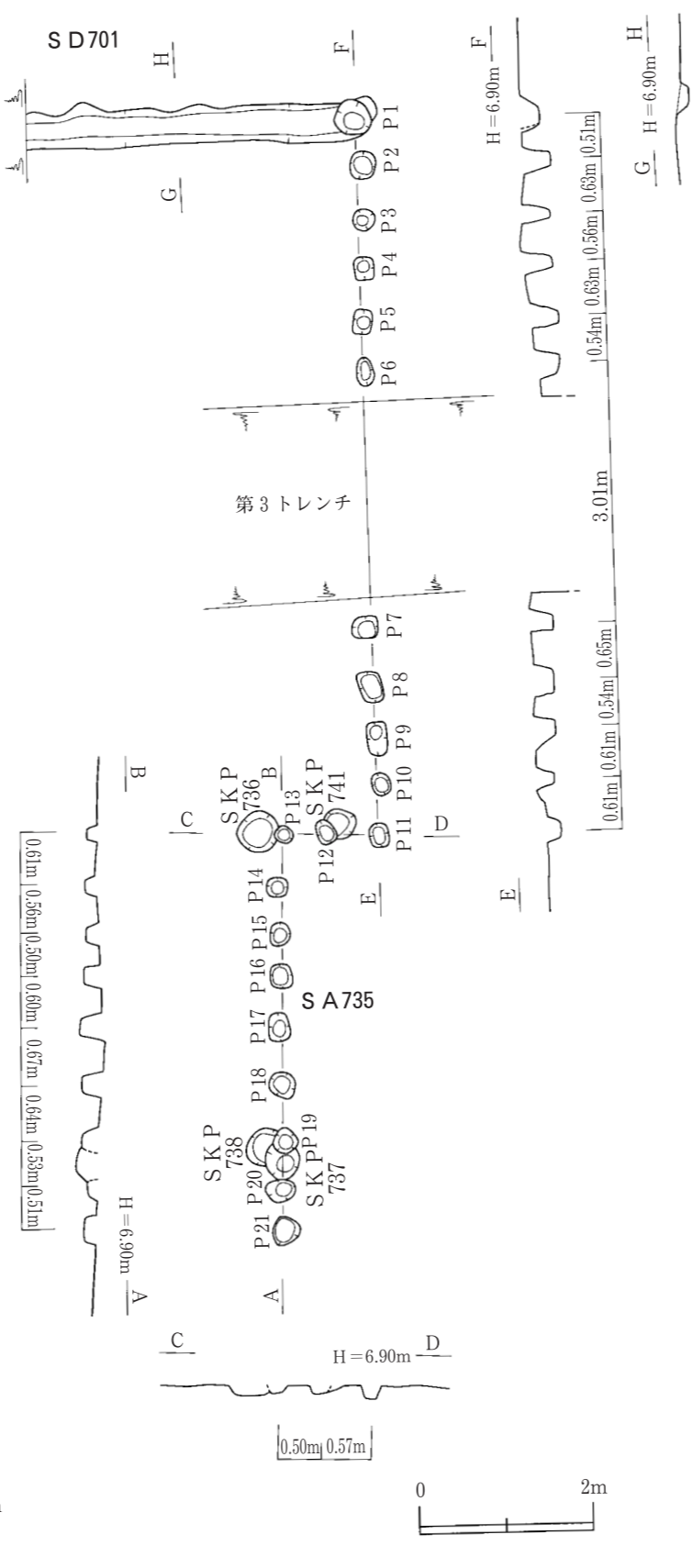
S D 01 (第34図、第3・4表、図版21-1・2)

北側調査区北側にあたるMD55・56のⅡ層上に位置し、第2トレンチの土層観察より検出した。規模は長さ6.90m(残存値)、幅1.64m、確認面からの深さは0.76mの大型の溝跡で、主軸は北から東へ18.5度傾いている。遺構の位置や規模から、江戸時代の町境を区画するための溝跡であると考えられる。現在は千秋明德町に一区画されるが、当時は東側を古川堀反町、西側をその片側対面町である土手長町として区画されていた。そのためS D 01は生活排水路としてだけでなく、町境を区画するためにも使用されていたと推測される。覆土は8層に分けられ、4~8層が自然堆積であり、1~3層は溝を廃棄する際に埋め戻したものである。遺物は肥前産陶磁器の他、木製品、金属製品、動物の骨なども確認されている。調査の結果、出土遺物の大部分が廃棄の際の埋め戻し時に混入したものであると確認できた。出土遺物の年代は、16世紀末を上限とし、19世紀中葉を下限としている。19世紀中葉は、小野岡家が屋敷地を根本家に隣接する場所まで広げた時期であり、古川堀反町と土手長町にまたがる広大な屋敷地を有していた。遺構に隣接する周囲も他の区域同様に、盛り土のかさ上げによる整地が行われていることや、底部では年代の古い遺物が多数出土することから、江戸時代初期から使用され



S A 03

グリッド	規模 (m)		底面標高 (m)	土色	しまり	粘性	混入物	備考
	長さ	幅						
P1	0.48	0.58	6.37	1 黒褐色土 (10Y R3/2)	中	中	礫小~中少量、木材	柱材 礎板
P2	0.62	0.44	6.36	1 黒褐色土 (10Y R3/2)	中	中	礫小~中少量	礎石 礎板 柱材 礎板 副基石 S X 8.5Eの上層検出
P3	0.73	0.70	6.33	1 黒褐色土 (10Y R3/2)	中	中	礫小~中少量	



S D 701
1 明黄褐色土 (10YR6/6) しまり強 粘弱

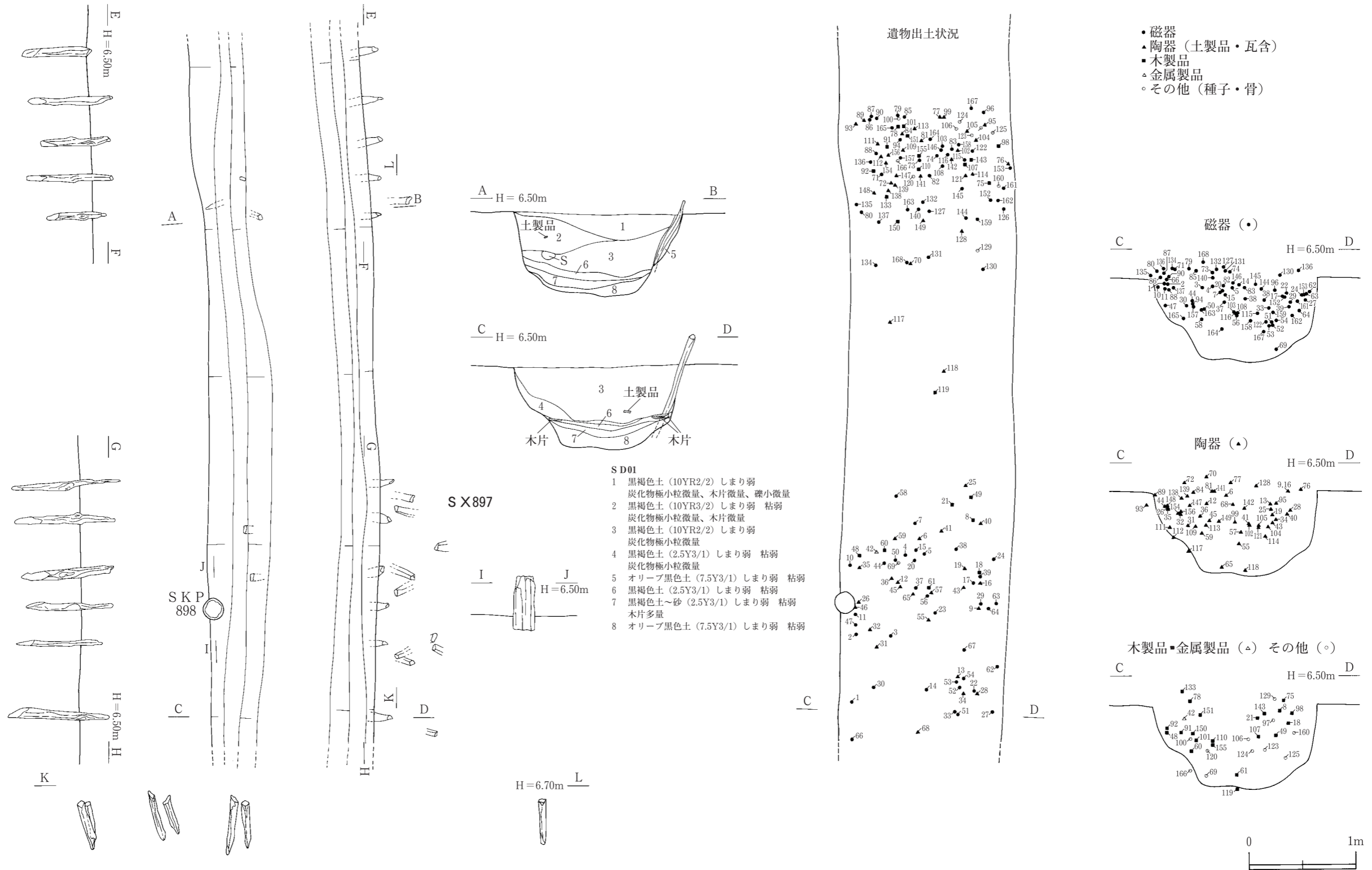
S A 735

グリッド	規模 (m)		底面標高 (m)	土色	しまり	粘性	混入物	備考
	長さ	幅						
P1	0.41	0.39	6.38	1 暗褐色土 (10Y R3/3)	強	なし	におい、黄褐色粘土中~大塊多量	S D 701を切る
P2	0.32	0.30	6.26	1 暗褐色土 (10Y R3/3)	強	なし	におい、黄褐色粘土中~大塊多量	
P3	0.26	0.25	6.30	1 暗褐色土 (10Y R3/3)	強	なし	におい、黄褐色粘土中~大塊多量	
P4	0.28	0.24	6.28	1 暗褐色土 (10Y R3/3)	強	なし	におい、黄褐色粘土中~大塊多量	S N 97を切る S K P 12.62上層検出
P5	0.30	0.22	6.23	1 暗褐色土 (10Y R3/3)	強	なし	におい、黄褐色粘土中~大塊多量	S B 1006 P 8・P 9上層検出
P6	0.34	0.22	6.24	1 暗褐色土 (10Y R3/3)	強	なし	におい、黄褐色粘土中~大塊多量	S B 810 P 4上層検出
P7	0.32	0.27	6.31	1 暗褐色土 (10Y R3/3)	強	なし	におい、黄褐色粘土中~大塊多量	S K P 1.84上層検出 S B 810 P 14上層検出
P8	0.38	0.27	6.39	1 暗褐色土 (10Y R3/3)	強	なし	におい、黄褐色粘土中~大塊多量	
P9	0.40	0.22	6.40	1 暗褐色土 (10Y R3/3)	強	なし	におい、黄褐色粘土中~大塊多量	S B 810 P 21上層検出 S K P 12.07上層検出
P10	0.28	0.23	6.43	1 暗褐色土 (10Y R3/3)	強	なし	におい、黄褐色粘土中~大塊多量	
P11	0.30	0.23	6.38	1 暗褐色土 (10Y R3/3)	強	なし	におい、黄褐色粘土中~大塊多量	S K P 7.41を切る
P12	0.30	0.22	6.45	1 暗褐色土 (10Y R3/3)	強	なし	におい、黄褐色粘土中~大塊多量	S K P 7.36を切る S B 1026 P 2上層検出
P13	0.23	0.20	6.45	1 暗褐色土 (10Y R3/3)	強	なし	におい、黄褐色粘土中~大塊多量	
P14	0.25	0.22	6.42	1 暗褐色土 (10Y R3/3)	強	なし	におい、黄褐色粘土中~大塊多量	S B 810 P 26上層検出
P15	0.26	0.24	6.44	1 暗褐色土 (10Y R3/3)	強	なし	におい、黄褐色粘土中~大塊多量	
P16	0.27	0.26	6.41	1 暗褐色土 (10Y R3/3)	強	なし	におい、黄褐色粘土中~大塊多量	
P17	0.33	0.24	6.37	1 暗褐色土 (10Y R3/3)	強	なし	におい、黄褐色粘土中~大塊多量	S K P 1.156上層検出
P18	0.31	0.29	6.39	1 暗褐色土 (10Y R3/3)	強	なし	におい、黄褐色粘土中~大塊多量	S K P 7.37・7.38を切る S B 810 P 32上層検出 S B 1026 P 11上層検出
P19	0.28	0.26	6.38	1 暗褐色土 (10Y R3/3)	強	なし	におい、黄褐色粘土中~大塊多量	S K P 7.27を切る
P20	0.34	0.26	6.44	1 暗褐色土 (10Y R3/3)	強	なし	におい、黄褐色粘土中~大塊多量	S B 1026 P 1上層検出
P21	0.34	0.30	6.40	1 暗褐色土 (10Y R3/3)	強	なし	におい、黄褐色粘土中~大塊多量	S B 810 P 36上層検出

第33図 北側5期S A 03・735、S D 701



S D01



第34図 北側5期S D01、S X897

第3表 S D01出土遺物観察表(1)

番号	標高(m)	分類	器種	部位	年代	産地	備考	挿図
1	6.181	染付	皿	胴	17世紀後半	肥前		-
2	6.166	青磁	皿	見込み?	17世紀後半	肥前		-
3	6.146	白磁	瓶類	頭部~肩部	17世紀後半	肥前	花器?水差?	-
4	6.146	染付	碗	口縁部	17世紀後半	肥前		-
5	6.132	染付	碗	胴	17世紀後半	肥前	植物。	-
6	6.186	土製品	不明	不明	江戸時代	在地		-
7	6.099	染付	皿	口縁~高台	1660~1670	肥前	高台内に「福?」銘。草花文様。15と接合。	第80図1
8	6.178	木製品	箸	-	江戸時代	-	漆塗り。	-
9	6.126	陶器	壺	胴部	17世紀~	肥前?福岡?		-
10	6.150	染付	皿	見込み	1670~1690	肥前		-
11	6.128	青磁	不明	不明	17世紀後半~	肥前(波佐見)		-
12	6.121	陶器	甕	胴部	17世紀~18世紀前半	肥前	二彩手(緑・黄釉(内)、透明釉と素焼(外))。	-
13	6.114	陶器	碗	胴~高台	17世紀後半~	肥前	刷毛目。	-
14	6.166	色絵	碗	口縁部	17世紀後半~	肥前		-
15	6.085	染付	皿	口縁~高台	1660~1670	肥前	高台内に「福?」銘。草花文様。草花。7と接合。	第80図1
16	6.129	土製品	脚風炉?	脚?	江戸時代	在地		-
17	6.072	染付	皿	口縁~高台	18世紀末~19世紀中葉?	肥前	半分残。型打ち成形。	-
18	6.057	木製品	箸	-	江戸時代	-		-
19	6.006	陶器	碗	高台	17世紀後半	肥前	褐色の鉄釉。ロクロ成形。京焼風に近い。	-
20	6.118	染付	碗	口縁部	1660~1670	肥前		-
21	6.114	木製品	胴部	桶	江戸時代	-	曲物。	-
22	6.084	染付	皿	口縁部	18世紀前半	肥前		-
23	6.045	染付	碗	口縁~胴	18世紀前半	肥前	草花文様。	-
24	6.066	色絵	人形	不明	18世紀	肥前	型押し成形。	-
25	6.062	陶器	灰落し	胴下部~底部	18世紀後半~19世紀前半	京	鉄釉。33と接合。	第99図6
26	6.076	陶器	描鉢	口縁部	17世紀	瀬戸美濃		-
27	6.019	白磁	皿	口縁部	江戸時代	肥前		-
28	6.057	陶器	袋物	胴部	18世紀	肥前?福岡?	鉄釉。	-
29	6.000	染付	碗	口縁~胴	18世紀後半	肥前		-
30	5.969	染付	碗	胴部	18世紀後半	肥前	網目文様。	-
31	5.907	陶器	甕?	胴部	江戸時代	信楽		-
32	6.018	陶器	甕?	胴部	17世紀~18世紀	肥前	内側は波状叩き痕。	-
33	5.952	色絵	人形	体部	18世紀	肥前	型押し成形。	-
34	5.968	陶器	袋物	胴	17世紀後半~18世紀前半	肥前	鉄釉。	-
35	6.072	陶器	描鉢	口縁~胴	江戸時代	堺		-
36	6.004	陶器	大皿	高台	17世紀後半	肥前	ロクロ成形。見込みに胎土目積み痕。鉄釉。	-
37	6.001	染付	不明	口縁	17世紀後半	肥前	草花文様。	-
38	6.021	染付	碗	胴部	17世紀後半	肥前		-
39	5.962	染付	不明	胴部	17世紀後半	肥前		-
40	6.018	陶器	不明	胴部	江戸時代	信楽?		-
41	5.932	土製品	皿	口縁~見込み	17世紀後半~18世紀末	在地		-
42	6.102	金属製品	釘	-	江戸時代	-		-
43	5.928	陶器	瓶	胴	18世紀前半~18世紀中葉	肥前	刷毛目文様。	-
44	6.067	染付	小杯	胴部	17世紀末~18世紀初頭	肥前	草花文様。	-
45	5.959	陶器	碗	胴	17世紀~	肥前	鉄釉。	-
46	6.091	陶器	皿	胴	1580~1610	肥前		-
47	5.967	青磁	不明	口縁部	17世紀後半~	肥前(波佐見)		-
48	5.967	木製品	篋	-	江戸時代	-		-
49	5.938	木製品	材	不明	江戸時代	-	加工木片。	-
50	5.944	染付	不明	胴	17世紀後半	肥前		-
51	5.813	染付	碗	胴	17世紀後半	肥前		-
52	5.786	染付	碗	胴~高台	17世紀後半	肥前		-
53	5.783	色絵	人形	不明	18世紀	肥前	釉がはげている。	-
54	5.829	色絵	人形	-	18世紀	肥前	型押し成形。	-
55	5.742	陶器	火入れ	口縁~胴	18世紀	肥前	緑釉。ロクロ成形。	-
56	5.869	染付	不明	不明	1610~1650	肥前	焼成不良。	-
57	5.849	陶器	皿	口縁部	17世紀後半~18世紀前半	肥前?	陶胎染付。ひび焼き。	-
58	5.839	染付	皿	見込み	1610~1650	肥前		-
59	5.788	陶器	瓶	高台分	17世紀後半	肥前	鉄釉。ロクロ成形。	-
60	5.798	木製品	箸	-	江戸時代	-		-
61	5.784	木製品	箸	-	江戸時代	-		-
62	6.098	染付	碗	胴	江戸時代	肥前	花文様。	-
63	6.069	染付	碗	口縁	17世紀後半	肥前	釉がはげている。	-
64	5.930	青磁	瓶	頭部~肩部	17世紀中葉~17世紀末	肥前		-
65	5.523	陶器	碗	胴	17世紀後半	肥前	京焼風陶器。花・山鳥文。	-
66	6.224	染付	瓶	頭部~肩部	18世紀前半	肥前	花文様。	-
67	5.566	染付	小碗	口縁部	17世紀	肥前		-
68	6.109	陶器	土瓶	胴~見込み	江戸後期	関西系		-
69	5.566	骨	-	-	-	-	ネコ腓骨。	-
70	6.381	土製品	人形	胴体	江戸時代	在地	鷹か鷲。型合わせ・手捻り成形。頭部なし。	第115図6
71	6.325	染付	碗	胴	18世紀前半	肥前	網目文様。	-
72	6.315	土製品	箱庭玩具	-	江戸時代	在地	箱庭の建物の模型?	-
73	6.281	青磁	灰落し	底部	18世紀前半~18世紀中葉	肥前	花器?水差?型打ち成形。	-
74	6.287	白磁	小杯	胴~高台	18世紀前半	肥前		-
75	6.269	木製品	樽栓	全体	江戸時代	-		-
76	6.252	土製品	脚風炉	底部~脚部	江戸時代後期	在地		-
77	6.306	土製品	脚風炉	胴	江戸時代後期	在地		-
78	6.257	木製品	椀	見込み	江戸時代	-	漆椀。	-
79	6.320	染付	碗	胴	1670~1690	肥前		-
80	6.301	青磁	大皿	胴~高台	1630~1640	肥前		第78図1
81	6.226	陶器	土瓶?袋物?	胴	江戸時代後期	在地?		-
82	6.165	染付	碗	口縁~高台	17世紀後半	肥前(波佐見)	半分破損。網目文様。	-
83	6.134	染付	碗	口縁部	江戸時代	肥前	破片のみ。	-
84	6.223	陶胎染付	火入れ	胴	17世紀末~18世紀前半	肥前		-

第4表 S D01出土遺物観察表(2)

S D01出土遺物観察表(2)								
番号	標高(m)	分類	器種	部位	年代	産地	備考	挿図
85	6.301	青磁	皿	胴	18世紀後半	肥前		-
86	6.245	青磁	灰落し	胴	18世紀前半~18世紀中葉	肥前	90と接合。型打ち成形。	-
87	6.270	青磁	灰落し	胴	18世紀前半~18世紀中葉	肥前		-
88	6.113	白磁?	碗	胴	17世紀末~18世紀前半	肥前		-
89	6.201	陶器	袋物	胴	17世紀	肥前?福岡?	鉄釉。叩き成形。	-
90	6.238	青磁	灰落し	胴	18世紀前半~18世紀中葉	肥前	86と接合。型打ち成形。	-
91	5.973	木製品	桶	胴	江戸時代	-		-
92	6.006	木製品	箸	-	江戸時代	-		-
93	6.102	陶器	皿	見込み	1590~1610	肥前?福岡?	初期唐津。見込みに胎土目積み。	-
94	5.997	染付	碗	胴部	江戸時代	肥前	草花文様。	-
95	6.081	陶器	火入れ	口縁~高台	17世紀後半~18世紀前半	肥前	香炉?高台内鏡削り。削り高台。	第65図2
96	6.122	染付	皿	-	17世紀後半~18世紀前半	肥前		-
97	6.090	種子	-	-	-	-	梅文様。	-
98	6.156	木製品	材	不明	江戸時代	-	加工木片。	-
99	5.944	陶器	火入れ(香炉?)	口縁?	17世紀後半~18世紀前半	肥前	口縁内湾。銅緑釉。ロクロ成形。高台内鏡削り。	第65図3
100	5.911	種子	-	-	-	-	モモ。	-
101	5.888	木製品	箸	-	江戸時代	-		-
102	5.907	陶器	碗	口縁~胴	1640~1660	肥前	鉄釉葉。	-
103	5.925	青磁	皿	-	17世紀後半~18世紀末	肥前(波佐見)	見込み蛇ノ目釉剥ぎ。高台無釉。	-
104	5.900	陶器	壺?	胴	江戸時代	信楽?		-
105	5.898	陶器	鍋	胴	江戸時代後期	在地	鉄釉。	-
106	5.910	骨	-	-	-	-	イヌ頭蓋骨破片。	-
107	5.930	木製品	樽	底部	江戸時代	-	半分のみ。	-
108	5.907	染付	不明	高台	17世紀後半	肥前		-
109	5.896	陶器	碗	胴	江戸時代後期	関西系	ひび焼き。	-
110	5.853	木製品	材	-	江戸時代	-	加工木片。	-
111	5.887	陶器	袋物	口縁~頸部	16世紀末~17世紀初頭	肥前	波状叩き痕。	-
112	5.905	陶胎染付	碗	口縁部	17世紀後半	肥前	陶胎染付。ひび焼き。	-
113	5.910	陶器	甕	口縁~頸部	17世紀前半	肥前	貝目積み。	-
114	5.811	陶器	不明	不明	江戸時代後期	関西系		-
115	5.904	染付	碗	胴部	17世紀後半	肥前		-
116	5.890	染付	碗	口縁~高台	1660~1680	肥前	高台内「傳兵衛尉制」銘。山水文様。	第78図5
117	5.670	陶器	皿	口縁~頸部	1590~1630	肥前	鉄釉。	-
118	5.486	陶器	皿	口縁~高台	1590~1610	肥前	初期唐津。見込みに胎土目痕。鉄釉。山水図	-
119	5.441	木製品	不明	-	江戸時代	-	漆塗り。	-
120	5.804	骨	-	-	-	-	ネコ大腿骨。切痕。	-
121	5.806	土製品	皿	見込み	江戸時代	在地	かわらけ。ロクロ形成。	-
122	5.819	染付	碗	口縁~胴	18世紀前半	肥前	草花文様。	-
123	5.811	骨	-	-	-	-	ハシブトカラス歯骨・角骨・関節骨。	-
124	5.803	骨	-	-	-	-	ニワトリ脛骨。	-
125	5.726	骨	-	-	-	-	ニホンカモシカ橈骨・中手骨。切痕。	-
126	6.301	磁器	袋物	胴部	江戸時代	肥前	鉄釉。	-
127	6.331	染付	碗	口縁部	18世紀中葉~18世紀末	肥前	内側は口縁周辺に文様。漆継ぎ。	-
128	6.285	陶器	搦鉢	口縁部	18世紀	肥前	鉄釉。	-
129	6.288	種子	-	-	-	-	くるみ。殻半分3個。	-
130	6.265	青磁染付	碗	口縁~胴	江戸時代	肥前		-
131	6.298	青磁	不明	不明	17世紀中~17世紀末	肥前		-
132	6.312	染付	碗	胴部	18世紀前半	肥前	草花文様。	-
133	6.347	木製品	椀	胴	江戸時代	-	漆椀。	-
134	6.321	染付	碗	胴部	17世紀後半~18世紀初頭	肥前		-
135	6.266	染付	碗	口縁~胴	18世紀前半	肥前		-
136	6.317	染付	碗	胴~高台	17世紀後半	肥前		-
137	6.142	青磁	火入れ	口縁~見込み	17世紀末~18世紀前半	肥前		-
138	6.172	陶器	皿	口縁部	18世紀前半	肥前	鉄釉。	-
139	6.195	陶器	蓋	口縁部	17世紀後半~18世紀前半	肥前	上面に鉄釉。わざと掻いた文様あり。中水注蓋?。	-
140	6.236	染付	碗	口縁部	18世紀前半	肥前		-
141	6.228	土製品	脚風炉	口縁~胴	江戸時代後期	在地		-
142	6.080	土製品	脚風炉	胴~脚部	江戸時代後期	在地		-
143	6.148	木製品	箸	-	江戸時代	-	2本。	-
144	6.131	染付	皿	口縁部	17世紀後半	肥前		-
145	6.170	染付	碗	口縁部	17世紀後半	肥前	山水文様。	-
146	6.185	青磁	灰落し	底部	18世紀前半~18世紀中葉	肥前		-
147	6.105	陶器	碗	口縁部	17世紀後半	肥前	陶胎染付。ひび焼き。	-
148	6.092	陶器	大皿	-	17世紀中葉~17世紀末	肥前	二彩手。	-
149	5.955	瓦	-	-	江戸時代	在地		-
150	5.963	木製品	箸	-	江戸時代	-		-
151	6.129	木製品	露印下駄	-	江戸時代	-	丸形の漆塗露印下駄。後壺が後歯の後。	第131図2
152	6.054	染付	皿	見込み	1630~1640	肥前		-
153	6.082	染付	碗	胴	17世紀後半	肥前	山水文様。	-
154	6.024	陶器	皿	-	17世紀中葉~17世紀末	肥前	大皿。灰釉。同心円の白。黄や緑釉。見込みに砂目痕。二彩手。	-
155	5.958	木製品	箸	-	江戸時代	-		-
156	6.047	土製品?	不明	不明	-	-	焼けた粘土?	-
157	5.961	青磁	瓶	不明	17世紀後半	肥前		-
158	5.828	白磁	碗	胴部	江戸時代	肥前		-
159	5.910	染付	袋物	胴部	18世紀前半	肥前	網目文様。	-
160	5.974	動物骨	-	-	-	-	ネコ頭蓋骨。	-
161	6.010	染付	碗	口縁~胴	17世紀後半	肥前		-
162	5.878	白磁	袋物	口縁	江戸時代	肥前		-
163	5.837	染付	碗	口縁部	17世紀後半	肥前		-
164	5.748	白磁?染付?	皿	胴部	1630~1650	肥前		-
165	5.849	染付	皿	口縁	17世紀後半	肥前		-
166	5.612	貝殻	-	-	-	-	サザエ類。	-
167	5.765	染付	皿	口縁部	17世紀後半~18世紀前半	肥前		-
168	6.381	色絵	大皿	見込み	1640頃	肥前	初期色絵(古九谷様式)。	-

たいた可能性が高い。その際、初期段階の溝幅は0.76m、深さ0.34mであった。徐々に周辺が整地され、積み上げられていくに従って、溝幅や深さの値も大きくなっていったのであろう。

S D 701 (第33図)

北側調査区中央やや西側のL S 54・55Ⅱ層上で北から南に延びる溝跡を検出した。南側をS A 735 P 1に切られている。また北側は第2トレンチに壊されているため不明である。規模は長さ4.14m(残存値)、幅0.40m、確認面からの深さは0.16mで、主軸は北から東へ19.5度傾いている。覆土は単層である。遺物は肥前産陶磁器片が数点出土している。

③ 土 坑

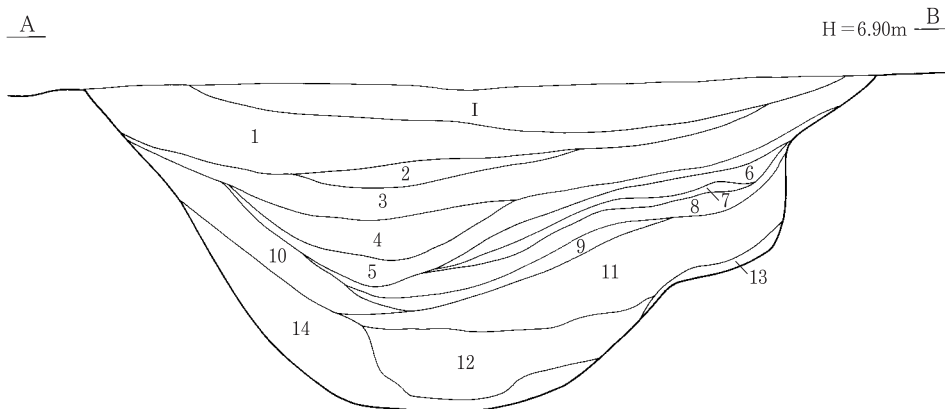
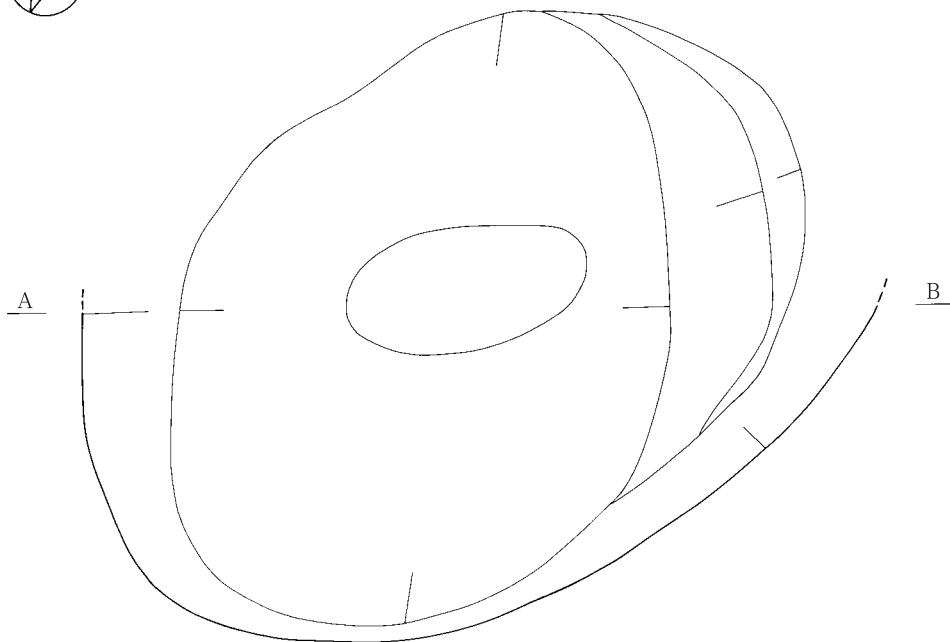
S K 814 (第35図、図版20-1、図版22-1・2、図版23-1~5)

北側調査区北側にてMC・MD55・56Ⅱ層上で楕円形のプランを検出した。規模は長軸4.20m(北東-南西)、短軸3.17m(北西-南東)、確認面からの深さは1.75mであり、本遺跡最大の廃棄土坑である。S D 787・790・791、S K 895・960と重複しているが、これらよりも新しい。覆土は、14層に分けられた。黒褐色土主体の埋め戻し土であり、陶磁器、木製品、金属製品などの廃棄物の他、鉋屑や植物の葉などを多量に含む。出土遺物は、本遺跡最多であり、江戸草創期から幕末までの幅広い時代の遺物が確認できた。陶磁器では肥前産を中心に、18世紀~19世紀前葉にかけてのものが多く見られる。その中には在地系である寺内焼か白岩焼であろうと思われる甕も出土している。木製品では、下層から建築材や鉋屑が多量に出土することから建て替え時期にここに廃棄したものと見られる。木製品の一つである下駄は35点確認しているが、その中でも陰卯下駄の割合が15点と目立っており、前代の廃棄土坑では出土が目立つ露卯下駄が1点のみの出土にとどまる。また木簡も3点出土しており、その中の一枚には「小野岡大和…」と記されていた。文政4(1821)年の久保田城下の屋敷割を記した『御城下絵図』には、調査区内にあたる場所に、「小野岡大和」の記載がみえる。このことから、時期は19世紀中葉~幕末にかけてと思われる。

⑤ その他の遺構

S X 897 (第34図、図版21-1)

北側調査区北側にあたるMD55・56Ⅱ層上で、S D 01に平行し、ほぼ等間隔に交叉しながら刺さった状態の杭列を確認した。杭の間隔は一部削平により失われ全容は不明であるが、0.72~0.73m間隔(約2尺4寸間隔)、全体で4.36m(残存値、約14尺4寸)、主軸は北から東へ19度傾いている。町境の溝跡であるS D 01に平行して並ぶため、それに付随する施設が考えられるが、性格は不明である。



SK814

- | | |
|--|---|
| <p>1 黒褐色土～砂 (10YR3/2) しまり強
炭化物小～中粒微量、礫小微量</p> <p>2 灰黄褐色土～砂 (10YR4/2) 粘弱
粘土大～極大粒多量、礫小微量</p> <p>3 黒褐色土～砂 (10YR3/2) しまり弱 粘弱
粘土小塊少量</p> <p>4 黒褐色土 (10YR2/2) しまり弱 粘弱
木製品・木材少量、木端多量</p> <p>5 オリーブ黒色土～砂 (5Y3/1) しまり弱 粘弱
木端中量</p> <p>6 黒色土 (10YR2/1) しまり弱 粘弱
木材少量、植物片多量</p> <p>7 黒褐色土～砂 (2.5Y3/1) しまり弱
礫小少量、木端微量</p> | <p>8 黒色土 (10YR2/1) しまり弱
木材・木端多量、礫小微量</p> <p>10 黒褐色土～砂 (10YR3/1)
木材・木製品多量</p> <p>11 黒色土 (2.5Y3/2)
鈹屑多量、植物片中量</p> <p>12 オリーブ黒色土 (5Y3/2)
鈹屑多量、植物片少量</p> <p>13 オリーブ黒色土～砂 (5Y3/1) しまり弱
木材片少量、粘土小～大粒少量</p> <p>14 灰色粘土 (7.5Y4/1) しまり弱 粘弱</p> |
|--|---|



第35図 北側5期SK814

第5表 北側調査区柱穴様ピット一覧(1)

期	No.	グリッド	規模 (m)			底面標高 (m)	土 色	しまり	粘性	混入物	備 考
			長径	短径	深さ						
1	541	L R 49	0.54	0.50	0.29	5.81	1 黒色土 (5Y2/1)	強	弱	炭化物極小粒微量 粘土小塊少量	
1	546	L T 49	-	-	-	-	-	-	-	-	柱材のみ
1	615	L R 51	0.28	0.27	0.12	5.84	1 黒色土 (7.5Y2/1)	弱	強	炭化物極小粒微量	
1	679	L S 50 L S 51	0.35	0.30	0.17	5.81	1 黒色土 (5Y2/1)	弱	中	炭化物小粒少量	柱材
1	729	MB 51	0.57	0.18 (残存値)	0.55	5.28	1 オリープ黒色土 (5Y3/1)	弱	中	炭化物極小粒微量	柱材 礎石 S K P 1219を切る S K 708下層検出
1	739	L S 50 L S 51	0.36	0.24 (残存値)	0.53	5.41	1 オリープ黒色土 (5Y3/1)	中	中		柱材 S A 680 P 5に切られる
1	767	L Q 51	0.27	0.20 (残存値)	0.18	5.82	1 オリープ黒土 (5Y3/1) 2 オリープ黒土 (10Y3/2)	強 弱	強 強	礫小微量	S A 620 P 7に切られる
1	777	L Q 51	0.21	0.18	0.12	5.88	1 黒褐色土 (2.5Y3/1)	中	強		
1	781	L Q 50 L Q 51	0.20	0.17	0.16	5.85	1 オリープ黒色土 (5Y3/1)	中	強		
1	835	MB 51	0.28	0.24	0.20	5.65	1 オリープ黒色土 (5Y3/1)	弱	中	炭化物小粒少量	S K P 836を切る S K 683に切られる
1	836	MB 51	0.17 (残存値)	0.17	0.20	5.65	1 オリープ黒色土 (7.5Y3/2)	弱	中		S K P 835に切られる S K 683に切られる
1	837	MA 51	0.50	0.47	0.20	5.68	1 黒褐色土 (2.5Y3/1)	中	強	炭化物極小粒微量	
1	882	L T 51 MA 51	0.42	0.28	0.15	5.63	1 黒褐色土 (2.5Y3/1)	中	強	炭化物極小粒微量	柱材
1	884	MA 51	0.42	0.34	0.37	5.62	1 黒褐色土 (2.5Y3/1)	中	強	炭化物極小粒微量 礫小微量 木端微量	
1	887	MA 51	0.29	0.28	0.36	5.34	1 黒褐色土 (2.5Y3/1)	中	強	炭化物極小粒微量 礫小微量 木端微量	
1	889	MA 51	0.24	0.17	0.15	5.58	1 黒褐色土 (2.5Y3/1)	弱	強	炭化物極小粒微量	柱材
1	901	MA 51 MB 51	0.32	0.26 (残存値)	0.26	5.61	1 オリープ黒色土 (7.5Y2/2)	弱	中		S B 838 P 2に切られる
1	968	MA 55	0.40	0.32	0.11	5.95	1 黒色土～砂 (10Y R 2/1)	中	中	褐色土極小～中塊多量	S D 791下層検出
1	1017	MA 54	0.52	0.50	0.44	5.48	1 オリープ黒色土 (5Y3/2)	中	中	炭化物小粒少量 粘土中塊量	
1	1019	L T 53	0.66	0.54	0.33	5.53	1 黒色土 (5Y2/1)	中	中	炭化物中粒少量 粘土大塊中量	
1	1031	MA 54 MB 54	0.49	0.34	0.09	5.92	1 黒褐色土 (2.5Y3/1)	中	中	木端少量 褐色粘土板状少量	
1	1033	MB 54	0.65	0.65	0.17	5.85	1 黒褐色土～砂 (2.5Y3/1)	中	中	炭化物小～中粒微量 褐色土小～中粒中量	
1	1035	MA 55	0.37	0.29	0.03	6.03	1 黒褐色土 (2.5Y3/2)	中	中	なし	
1	1036	MC 53	0.67	0.57	0.27	5.68	1 黒褐色土 (2.5Y3/2)	中	中	なし	
1	1116	MA 55	0.33	0.32	0.66	5.40	1 オリープ黒色土 (5Y3/1)	中	中	褐色土中～大塊微量 礫小微量	S B 810 P 20下層検出 S K P 736下層検出
1	1117	MA 55	0.34	0.27	0.20	5.79	1 黒色土 (5Y2/2)	中	弱	炭化物中粒微量 礫小微量 木端微量	
1	1123	MA 56	0.30	0.29	0.10 (残存値)	5.46	1 オリープ黒色土 (5Y3/1)	中	強		S K 1121に切られる
1	1219	MB 51	0.52	0.47	0.40	5.49	1 黒色土 (5Y2/1)	中	中		S K P 729に切られる
1	1232	MA 56	0.63	0.55	0.20	5.94	1 黒褐色土 (2.5Y3/2)	中	中		
1	1234	MA 56	0.41	0.32	-	-	1 黒褐色土 (2.5Y3/2)	中	中		
1	1235	MA 56	0.53	0.40	0.24	5.89	1 黒褐色土 (2.5Y3/2)	中	中		
1	1236	MA 56	0.37	0.30	0.12	6.02	1 黒褐色土 (2.5Y3/2)	中	中		S B 810 P 19に切られる
1	1239	L R 55	0.42	0.38	-	-	1 オリープ黒色土 (5Y3/1)				S K P 919下層検出
1	1240	L R 55 L S 55	0.38	0.26	0.16	5.82	1 オリープ黒色土 (5Y3/1)	中	中		S B 817 P 2下層検出
1	1241	L S 54	0.42	0.39	0.14	5.83	1 オリープ黒色土 (5Y3/1)	中	中		
1	1242	L S 54	0.27	0.26	-	-	1 オリープ黒色土 (5Y3/1)	中	中		S A 735 P 4下層検出
1	1243	L T 54	0.28	0.28	0.17	5.80	1 オリープ黒色土 (5Y3/1)	中	中		
1	1244	L R 57	0.36	0.35	0.23	5.83	1 褐灰色土～砂 (10Y R 4/1)	中	中		S K P 1245に切られる
1	1245	L R 57	0.37	0.31	0.22	5.84	1 灰褐色土 (10Y R 4/2)	中	中	褐色土極小～中粒微量	S K P 1244を切る
1	1246	L R 56	0.37	0.33	-	-	1 黒褐色土 (2.5Y3/1)	中	中	炭化物極小～小粒中量	
1	1248	L R 56	0.41	0.41	-	-	1 黒褐色土 (2.5Y3/1)	中	中		
1	1249	L S 57	0.30	0.27	0.09	5.94	1 灰オリープ色土 (5Y4/2)	中	中	褐色土小粒中量	S D 801下層検出
1	1252	L S 57	0.26	0.24	0.16	5.87	1 灰オリープ色土 (5Y4/2)	中	中	褐色土小粒中量	S D 801下層検出
1	1258	L T 57	0.36	0.35	0.09	6.04	1 灰オリープ色土 (5Y4/2)	中	中	褐色土小粒中量	
1	1259	L T 57	0.56	0.43	0.34	5.78	1 灰色土 (5Y4/1)	中	中	褐色土小粒中量	S D 801下層検出 S K P 1223下層検出
1	1261	L T 56	0.26	0.24	0.14	5.99	1 灰色土 (5Y4/1)	中	中	褐色土小粒中量	
1	1262	L T 57	0.28	0.22	0.20	5.99	1 黒褐色土 (10Y R 3/1)	中	中	炭化物小粒中量	S D 801に切られる
1	1263	L T 56 MA 56	0.30	0.28	0.20	5.96	1 灰色土 (5Y4/1)	中	中	褐色土小粒中量	S K P 1155下層検出
1	1272	MB 51	0.46	0.37	0.45	5.50	1 黒褐色土 (2.5Y3/1)	弱	強	炭化物極小粒微量	
1	1273	MA 51	0.44	0.42	0.39	5.44	1 オリープ黒色土 (5Y3/2)	中	中	粘土小塊少量	S A 676 P 1に切られる S D 684下層検出
1	1274	MA 49	0.37	0.33	0.65	5.51	1 黒色土 (5Y2/1)	中	強	粘土小塊少量	
1	1278	L R 56	0.49	0.49	-	-	1 黒褐色土 (2.5Y3/1)	中	中		

第4章 調査の記録

第6表 北側調査区柱穴様ピット一覧(2)

期	No.	グリッド	規模 (m)			底面標高 (m)	土 色	しまり	粘性	混入物	備 考
			長径	短径	深さ						
2	584	L T50	0.48	0.46	0.15	6.16	1 黒色土 (2.5Y2/1)	弱	強	炭化物極小粒少量	
2	585	L T50	0.34	0.28	0.26	6.03	1 黒色土 (2.5Y2/1)	弱	強	炭化物極小粒少量	割栗石
2	614	L R51	0.28	0.26	0.14	5.98	1 黒色土 (7.5Y2/1)	弱	強	炭化物極小粒微量	
2	621	L T51	0.33	0.26	0.26	5.95	1 黒色粘土 (5Y2/1)	中	中	焼土小塊中量	礎石
2	695	L T51	0.21	0.20	-	-	1 黒色粘土 (5Y2/1)	中	中		
2	732	L R51	0.26	0.25	0.12	5.86	1 オリーブ黒色土 (7.5Y3/2)	中	強		
2	772	L Q51 L R51	0.38	0.31	0.20	5.79	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	弱	強	砂小塊少量	
2	840	MB50	0.34	0.25	0.26	5.66	1 黒色土 (2.5Y2/1)	弱	強		礎石
2	951	MC56	0.48	0.38	0.25	5.83	1 黒色土 (2.5Y2/1)	弱	強	木端少量	S K894に切られる
2	952	MD57	0.42	0.31 (残存値)	0.22	5.89	1 灰色粘土 (5Y4/1)	弱	強	炭化物極小粒微量 焼土小粒微量	
2	953	MC56	0.64	0.44	0.18	5.86	1 黒色土 (2.5Y2/1)	中	弱	木端多量	S K894に切られる S K P957に切られる
2	954	MC57	0.45	0.34	0.19	5.91	1 オリーブ黒砂 (10Y3/1)	弱	強	礫小多量	
2	955	MC57	0.29	0.29	0.23	5.81	1 オリーブ黒色粘土 (5Y3/1)	中	中	炭化物小粒微量 砂微量 焼土小塊微量	
2	957	MC56 MC57 MD57	0.88	0.70	0.14	6.08	1 黒色土 (2.5Y2/1)	中	中		礎石 S K P953・1052を切る
2	1016	MA54	0.37	0.36	-	-	1 オリーブ黒色土 (5Y3/2)	中	中	粘土塊中量	
2	1025	MA53	0.37 (残存値)	0.37	0.13	5.89	1 オリーブ黒色土 (5Y2/2)	中	中	炭化物中粒少量 粘土大塊少量	S B1026P5を切る
2	1039	MB54	0.33	0.25 (残存値)	0.07	5.95	1 オリーブ黒色土 (5Y3/2)	中	中	粘土小塊少量	S B810P33に切られる
2	1040	MC55 MD55	-	-	-	6.00	-	-	-	-	礎石のみ
2	1050	MC57	0.37	0.33	0.28	5.62	1 黒褐色土 (2.5Y3/2)	中	中		
2	1052	MC56 MC57	0.40 (残存値)	0.33 (残存値)	0.60	5.31	1 緑灰色砂 (7.5G Y5/1)	弱	強	木端多量	S K P957に切られる
2	1054	MD56	0.23	0.22	0.14	5.63	1 緑灰色砂 (7.5G Y5/1)	弱	強		
2	1056	MD56	0.29	0.28	0.10	5.68	1 緑灰色砂 (7.5G Y5/1)	弱	強		S D01に切られる
2	1139	L T57	0.40	0.34	0.18	5.92	1 黒褐色土 (10Y R3/2)	強	弱	炭化物極小粒微量	S D1100を切る S D801下層検出
2	1217	MA51	0.22	0.20	-	-	1 黒色粘土 (5Y2/1)	中	中		
2	1237	L S56	0.52	0.38	0.07	5.91	1 黒褐色土 (10Y R3/2)	中	中		S D1142上層検出
2	1238	L R56	0.57	0.55	0.24	5.75	1 黒褐色土 (10Y R3/2)	中	中		S D1142を切る

第7表 北側調査区柱穴様ピット一覧(3)

期	No.	グリッド	規模 (m)			底面標高 (m)	土 色	しまり	粘性	混入物	備 考
			長径	短径	深さ						
3	619	MA51	0.24 (残存値)	0.27	0.23	5.98	1 オリーブ黒色砂 (5Y3/1)	弱	中	炭化物小～中粒微量 礫小～中少量	S A620 P3に切られる S B838 P9上礫石層検出
3	709	MB51	0.22	0.31	0.18	6.02	1 黒褐色土 (10Y R3/1)	中	中		S K708を切る
3	805	L T56	0.19 (残存値)	0.19	0.16	6.16	1 暗褐色土 (10Y R3/3)	中	中	炭化物小～中粒少量 焼土小塊微量	S D822上層検出
3	806	L S56	0.18	0.13	0.13	6.17	1 暗褐色土 (10Y R3/3)	中	中	炭化物小～中粒少量 焼土小塊微量	S D822上層検出
3	807	L S56	0.24	0.20	0.10	6.21	1 暗褐色土 (10Y R3/3)	中	中	炭化物小～中粒少量 焼土小塊微量	礎石 S D822上層検出
3	811	L T54	0.38	0.22 (残存値)	0.22	6.02	1 黒褐色土 (10Y R3/2)	中	中		S K P809に切られる
3	851	L T57	-	-	-	-	1 黒褐色土 (10Y R3/2)	中	中		第3トレンチ断面検出 S D801に切られる
3	892	MC57	0.67	0.63	0.36	6.03	1 黄褐色粘土～砂 (2.5Y5/3)	中	弱	粘土中～極大粒少量	柱材 礎板 S K894を切る
3	919	L R55	0.33	0.32	0.13	6.09	1 灰褐色土 (10Y R4/2)	中	中	粘土小塊少量	S K P1239上層検出
3	920	L R55	0.52	0.44	0.14	6.15	1 灰褐色土 (10Y R4/2)	中	中	粘土小塊少量	
3	921	L T56	0.24 (残存値)	0.19 (残存値)	0.11	6.31	1 灰褐色土 (10Y R4/2)	中	中	炭化物極小粒微量	S B810 P1に切られる S A922 P1に切られる S K P937に切られる
3	923	L T56	0.21 (残存値)	0.19 (残存値)	-	-	1 暗灰黄色土～砂 (10Y R4/1)	中	弱	炭化物極小粒微量 褐色土極小粒微量	S B810 P1に切られる S D1212に切られる
3	926	L S56	0.25	0.25	-	-	1 暗灰黄色土 (2.5Y4/2)	中	中	炭化物極小粒微量	
3	927	L S56	0.29	0.29	0.24	6.19	1 暗灰黄色土 (2.5Y4/2)	中	中	炭化物極小粒微量	
3	929	L S56	0.28	0.28	0.07	6.37	1 灰褐色土 (10Y R4/2)	中	中	炭化物極小粒微量 褐色土極小粒微量	
3	937	L T56	0.35 (残存値)	0.40	0.25	6.15	1 暗灰黄色土～砂 (2.5Y4/2)	中	弱	炭化物粒極小微量 褐色土粒小～極大中量	S B810 P1に切られる S A922 P1に切られる S K P939に切られる
3	941	L R54 L R55	0.67	0.39	0.05	6.24	1 灰褐色土 (10Y R4/2)	中	中	炭化物極小粒微量 褐色土極小粒微量	
3	945	L S55 L T55	0.28	0.26	0.07	6.32	1 灰褐色土 (10Y R4/2)	中	中	炭化物極小粒微量 褐色土極小粒微量	
3	992	L S54	0.34	0.33	0.17	5.77	1 黒色土 (10Y R3/2)				
3	1022	MA54	0.22 (残存値)	0.43	0.41	5.42	1 オリーブ黒色土 (5Y3/2)	中	中		柱痕跡 S B810 P22に切られる S A1216 P1下層検出
3	1157	MA56	0.33 (残存値)	0.36	0.27	6.13	1 灰褐色土 (10Y R4/2)	中	中	炭化物極小粒微量	S B810 P18に切られる
3	1158	MA56	0.38	0.32	-	-	1 黒褐色土 (2.5Y3/2)	中	中		S K1121上層検出
3	1160	MA56	0.63	0.56	0.16	6.25	1 黒褐色土 (2.5Y3/2)	中	中		
3	1178	L T55	0.72	0.58 (残存値)	0.35	5.87	1 灰褐色土 (10Y R4/2)	中	中	炭化物極小粒微量	S B810 P7に切られる
3	1186	MA55 MA56	0.39 (残存値)	0.33	0.14	6.18	1 暗灰黄色土 (2.5Y4/2)	中	中	粘土小塊少量	S A1185 P1に切られる
3	1195	MB55	0.81	0.72	0.17	6.09	1 黒褐色土 (2.5Y3/2)	中	中		S A735 P18下層検出
3	1204	MB54	0.54	0.51	0.28	5.94	1 黒褐色土 (2.5Y3/2)	中	中		
3	1207	MA54	0.90	0.68	0.35	5.89	1 灰褐色土 (10Y R4/2)	中	中	炭化物極小粒微量	S B810 P21に切られる S A735 P10下層検出
3	1209	MB54	0.38	0.37	0.32	5.92	1 灰褐色土 (10Y R4/2)	中	中	粘土小塊少量	
3	1227	L S56	0.34	0.30	0.08	6.33	1 黒褐色土 (2.5Y3/2)	中	中		
3	1230	L S56	0.25	0.18	0.07	6.36	1 黒褐色土 (2.5Y3/2)	中	中		
3	1231	MA55	0.80	0.40	0.15	6.18	1 灰褐色土 (10Y R4/2)	中	中		

第8表 北側調査区柱穴様ピット一覧(4)

期	No.	グリッド	規模 (m)			底面標高 (m)	土 色	しまり	粘性	混入物	備 考
			長径	短径	深さ						
4	740	MF55	0.33	0.30	0.23	6.34	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	中	礫小微量、砂中量 木材片微量	
4	818	LS55	0.60	0.62	0.14	6.34	1 黄褐色粘土～砂 (10YR5/6)	強	弱	炭化物小粒微量 にぶい黄褐色土中粒少量 礫大少量	
4	855	LS56	0.66	0.55	0.11	6.43	1 黄褐色粘土～砂 (10YR5/6)	強	弱	炭化物小粒微量 にぶい黄褐色土中粒少量 礫大少量	S D1142上層検出
4	856	LS56	0.77	0.74	0.21	6.30	1 黄褐色粘土～砂 (10YR5/6)	強	弱	炭化物小粒微量 にぶい黄褐色土中粒少量 礫大少量	S D1142上層検出
4	939	LT56	0.66	0.58	0.58	5.85	1 黒褐色土 (10YR3/1)	中	中	粘土小～中塊中量	S B810P5を切る S D1212を切る S K P937を切る
							2 黒褐色土 (10YR3/2)	中	中	粘土中塊少量	
							3 黒色土 (5Y2/1)	中	中	炭化物小粒少量	
4	1155	LT56 MA56	0.77	0.50	0.32	6.31	1 暗灰褐色土 (10YR4/2)	強	中		礎石 礎板 S B810P10を切る S K P1263上層検出
4	1156	LT57 MA57	0.52	0.52	0.25	6.16	1 暗灰褐色土 (10YR4/2)	中	中		S K P1226に切られる
4	1162	LT55	0.57	0.56	0.41	5.83	1 黒褐色土 (10YR3/1)	強	中		S B810P2を切る S D1212を切る
4	1163	LT56 LT57 MA56 MA57	0.62	0.52	0.14	6.04	1 黒褐色土 (10YR3/2)	強	中		割栗石 S B817P16に切られる S D801に切られる
4	1184	LT54	0.55	0.52	0.31	5.98	1 黒褐色土 (10YR3/2)	中	中		礎板 S B810P14を切る S A735P7下層検出
4	1203	MC54	-	-	-	5.33	-	-	-	-	柱材のみ S K825を切る
4	1210	LT55	0.56	0.50	0.22	6.04	1 黒褐色土 (10YR3/2)	強	弱	炭化物小～中粒少量	S B810P13を切る
4	1213	LT56	0.57	0.45	0.28	6.09	1 黒褐色土 (10YR3/2)	強	弱	炭化物小～中粒少量	礎石 礎板 S D1212を切る
4	1223	LT57	0.54	0.30 (残存値)	0.18	6.22	1 黒褐色土 (2.5Y3/2)	中	中	炭化物小～中粒少量 粘土小塊少量	S A1222P2を切る S D801を切る S K P1259上層検出
4	1226	LT57 MA57	0.32	0.30	-	-	1 黒褐色土 (2.5Y3/2)	中	中		S K P1156を切る
5	102	-	-	-	-	-	-	-	-	-	確認調査時に検出 (第3トレンチ)
5	736	MA55	0.48	0.46	0.14	6.41	1 黒褐色土 (10YR3/2)	中	弱	炭化物極小～小粒少量 粘土小塊少量	S A735P13に切られる S B810P20上層検出 S B1026P2上層検出 S K P1116上層検出
5	737	MB55	0.31 (残存値)	0.40	0.24	6.32	1 黒褐色土 (10YR3/2)	中	弱	炭化物極小～小粒少量 粘土小塊少量	S A735P19に切られる S A735P20に切られる S B810P32上層検出 S B1026P11上層検出
5	738	MB55	0.46	0.25 (残存値)	-	-	1 黒褐色土 (10YR3/2)	弱	弱	炭化物極小～小粒少量 焼土小粒微量 粘土小塊少量	S A735P19に切られる S B810P32上層検出 S B1026P11上層検出
5	741	MA54 MA55	0.38	0.27 (残存値)	0.10	6.44	1 黒褐色土 (10YR3/2)	弱	弱	炭化物小粒少量 粘土小塊少量	S A735P12に切られる
5	809	LT54	0.46	0.43	0.05	6.17	1 暗褐色土 (10YR3/3)	中	中	粘土小～中塊少量	S B810P9を切る S K P811を切る
5	898	MD55	0.20	0.19	0.51	6.06	-	-	-	-	柱材のみ S D01を切る
5	1214	MB56	0.48 (残存値)	0.61	0.31	6.04	1 黒褐色土 (2.5Y3/2)	中	中	粘土小～中塊中量	S K813を切る

第2節 南側調査区

1 基本層序

南側調査区は、旧秋田警察署の道場跡地にあたる。そのため地中に残る建物基礎の内部を箱形に調査するという限定的な方法しかとれなかった。また旧警察署が建てられる以前に建っていた病院建物によって削平も受けていた。

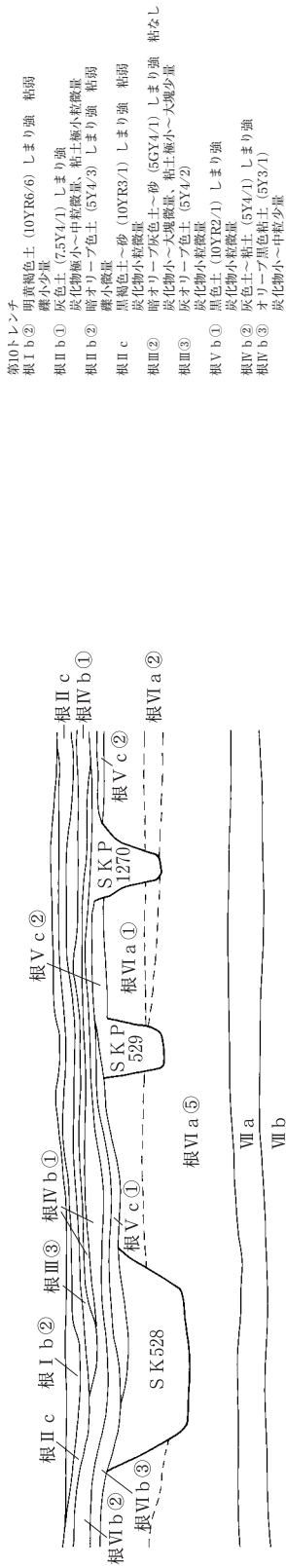
基本層序は、北側調査区と同様に確認調査時のトレンチ断面を利用して土層を観察した。城下町建設当初にあたる慶長9（1604）年の様子を描いた『御国替当座御城下絵図』から予想される調査範囲に、さつま（薩摩）・甚助・雅楽丞の名が見える。寛文初（1661～62）年の様子を描いた『久保田城御城下絵図』には、それら三家に代わり根本氏の名が見える。それ以降、江戸時代を通じ根本家の屋敷地とされ、昭和38年に旧秋田警察署が建てられるまで、病院の表門として根本家長屋門が残っていた記録写真もあり、同地に200年余居住していたことがわかっている。これは役職や身分の上下により引っ越しが多い江戸時代の武家社会では極めて珍しい事例といえるだろう。そのため、小野岡氏をはじめ、居住者の入れ替えが激しい北側調査区と17世紀中頃から幕末まで根本氏が屋敷を構えていた南側調査区とでは基本層序に違いが見られる。地盤の緩い箇所では北側調査区同様に盛り土整地を繰り返しているが、地盤の安定している箇所では江戸時代を通して江戸初期の整地からあまり手を加えていないことも確認された。また、北側調査区の生活面が5時期確認できたのに対し、南側調査区の生活面は4時期の確認であった。

南側調査区における基本層序と生活面との関連については、それぞれ、根Ⅵ層上面は第1期（城下町成立期～17世紀中葉）、根Ⅴ層上面は第2期（17世紀中葉～18世紀前葉）、根Ⅳ層上面は第3期（18世紀前葉～19世紀中葉）、根Ⅲ層上面は第4期（幕末～明治時代）の生活面となる。根Ⅵ層は北側調査区同様、旧旭川の湿地帯を埋め立てた江戸初期の整地層である。根Ⅴ層は根本氏が居住し始めた時代の造成であろうと考える。根Ⅳ層は整地層で版築状を呈していた。根Ⅰ・根Ⅱ層は表土である。

第10トレンチ

H=7.00m B

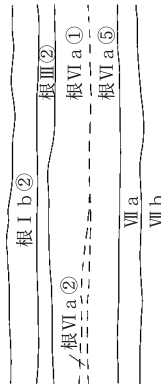
A



第10トレンチ

H=7.00m D

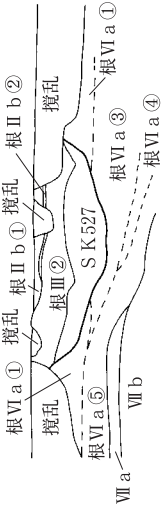
C



第10トレンチ

H=7.00m F

E



- 第10トレンチ
- 根I b ② 明黄褐色土 (10YR6/6) しまり強 粘弱
 - 根II b ① 灰色土 (7.5Y4/1) しまり強
 - 根II b ② 炭化物極小〜中粒微量、粘土極小粒微量
 - 根II c 暗オリーブ色土 (5Y4/3) しまり強 粘弱
 - 根III ① 礫小粒量
 - 根III ② 黒褐色土〜砂 (10YR3/1) しまり強 粘弱
 - 根III ③ 暗オリーブ灰色土〜砂 (5GY4/1) しまり強 粘なし
 - 根III ④ 炭化物小粒微量、粘土極小〜大塊少量
 - 根III ⑤ 灰オリーブ色土 (5Y4/2)
 - 根IV b ① 黒色土 (10YR2/1) しまり強
 - 根IV b ② 炭化物小粒微量
 - 根IV b ③ 灰色土〜粘土 (5Y4/1) しまり強
 - 根IV b ④ オリーブ黒色粘土 (5Y3/1)
 - 根V c ① 炭化物小〜中粒少量
 - 根V c ② 黒褐色土 (10YR3/1) 粘弱
 - 根VI a ① 炭化物大塊中量
 - 根VI a ② 灰オリーブ色粘土 (5Y4/2)
 - 根VI a ③ 暗オリーブ灰色土〜砂 (5GY4/1) 粘強
 - 根VI a ④ 炭化物極小粒微量
 - 根VI a ⑤ 褐色砂 (10YR4/6) 粘弱
 - 根VI a ⑥ 暗緑灰砂 (7.5GY4/1)
 - 根VI a ⑦ 暗緑灰土 (7.5GY4/1)
 - 根VI a ⑧ 砂粒状中量
 - 根VI a ⑨ 暗緑灰粘土〜砂 (7.5GY4/1) 粘強
 - 根VI a ⑩ オリーブ黒色土 (7.5Y3/1) 【植物腐敗層】
 - 根VI a ⑪ 植物片多量
 - 根VI a ⑫ 暗緑灰粘土 (7.5GY4/1)
 - 根VI a ⑬ 暗緑灰粘土 (7.5GY4/1)

第36図 南側調査区第10トレンチ土層

2 検出遺構

(1) 南側調査区第1期

年代は、基本土層観察、遺構配置、出土遺物や絵図から判断して、城下町形成期にあたる江戸時代初期～17世紀中葉と推測される。慶長9（1604）年頃の様子を描いた『御国替当座御城下絵図』当時の屋敷地である。柱穴はいくつか検出しているが後世の削平や建物基礎により失われ、建物跡を確認することはできなかった。

① 溝 跡

水場遺構（第38図、図版26-1～5）

S D 432（第1期）、S X 431・S Q 589（第1～2期）、S D 331（第2期）、S D 1276（第3期）

南側調査区南西にあたるC・D区内のLR～LT42・43のVI層上、第11トレンチ土層観察より、北西から南東へ走る3時期の溝跡（S D 432→S D 331→S D 1127）とそれらと関連した遺構を検出した。

ア S D 432（第1期）

VI層上で北西から南へ蛇行して流れる溝跡を確認した。S K 539・S X 431に切られている。遺構周辺は現代の建物基礎などにより削平が著しく、第2期の溝跡であるS D 331や第3期の溝跡であるS D 1276との切り合い関係を平面的に確認することはできなかった。第11トレンチの土層観察により、新旧関係を判断した。規模は長さ3.66m（北西-南東、残存値）、幅0.52～1.90m、確認面からの深さ0.42m、主軸は北から西へ66度傾いている。覆土は4層に分けられ、植物片がそれぞれ混入し流水の痕跡が認められる。遺物は17世紀中葉の肥前産磁器片の他、木製品では樽か桶の底部が出土している。他は、廃棄された木材片が多量に出土している。

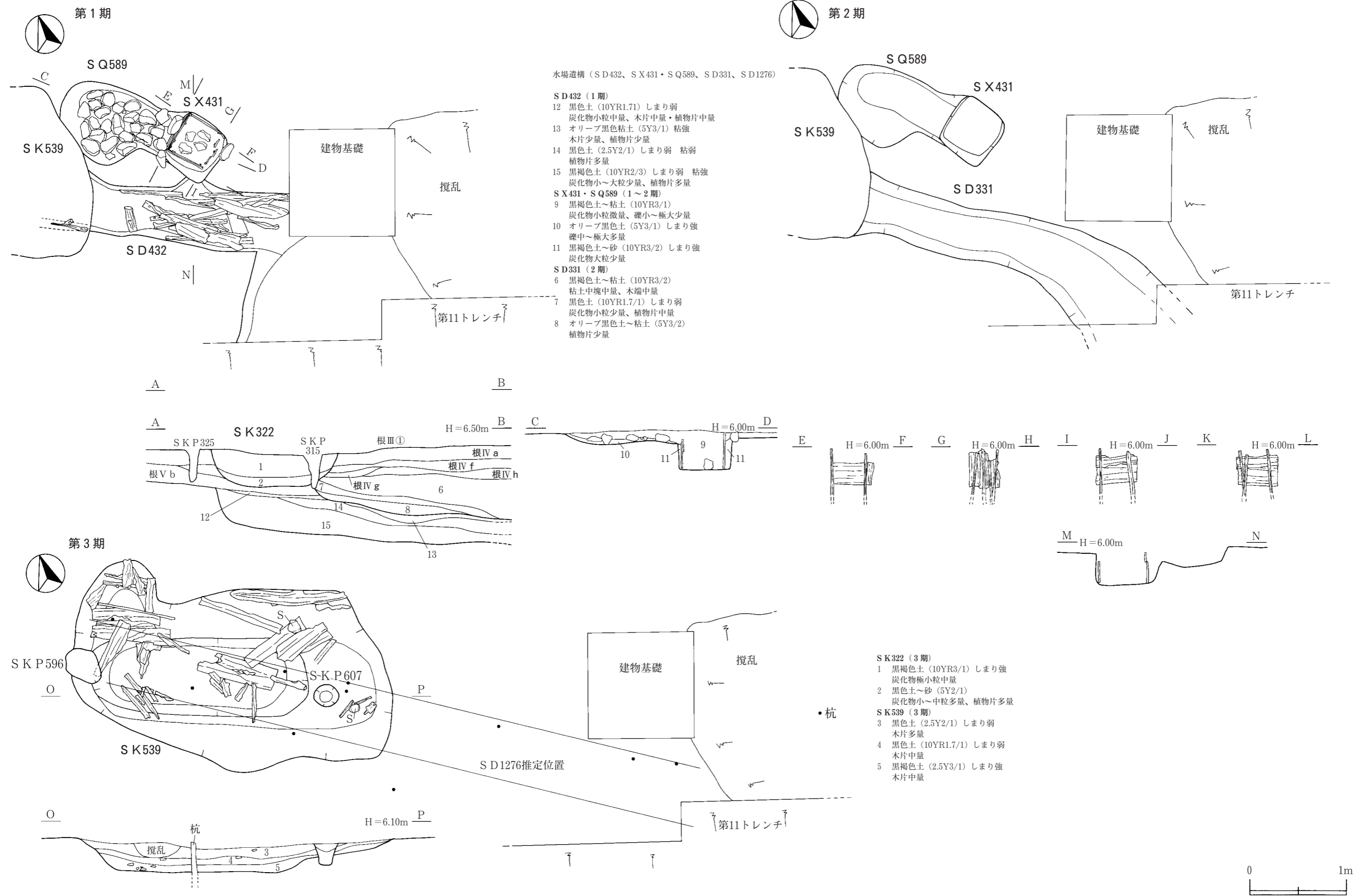
イ S X 431・S Q 589（第1～2期）

VI層上で検出した。S X 431はS D 432を切り、S Q 589はS K 539に切られている。S X 431とS Q 589の新旧関係は不明である。第1期のS D 432、第2期のS D 331に付属する施設と考えられる。S X 431の規模は、長軸0.59m（北西-南東）、短軸0.52m（北東-南西）、確認面からの深さは0.41mである。平面形は方形を呈し、壁はほぼ垂直である。各壁とも壁面に沿って板材が杭で固定されていた。板材の一部は破損していたが、高さ約0.42m、幅0.23～0.42mを計る。S Q 589の規模は、長軸1.20m（北西-南東）、短軸0.84m（北東-南西）、確認面からの深さは0.14mである。径10～20cm程の礫（河原石）が置かれていた。S D 432（2期ではS D 331）が本来の流路と考えられる。水が汚れていた場合には、板などをかけてS Q 589へ流路を替え、石で汚れを取り除いた後にS X 431へ流し、そこでさらに汚れを沈殿させ水を浄化してから再度S D 432へ流したと想定される。覆土は3層に分けられた。

遺物は17世紀中葉～18世紀初頭の陶磁器片が出土している。覆土中の出土遺物の状況から第1～2期までの使用を考えるが、S D 331との関連はS D 432と比較し希薄になると思われ、第2期の頃にはあまり機能していなかった可能性もある。

ウ S D 331（第2期）

IV層上でS K 539に切れ、S D 432を切り、北西から南へ蛇行して流れる溝跡を検出した。S D 432



第38図 南側1期S D331・432・1276、S K539、S Q589、S X431

との切り合いを平面確認することは攪乱や後世の掘削によりできなかったが、第11トレンチの土層観察よりV層上の遺構であると判断した。流路は不明だが、第1期の溝跡であるS D 432とほぼ同様であると考えられる。規模は長さ3.15m、幅0.52～0.95m、確認面からの深さは0.46mである。覆土は3層に分けられ、S D 432同様に流水の痕跡として植物片の混入が認められる。遺物は出土していない。

エ S D 1276 (第3期)

S K 539、S D 432・331の上面で北西から南東へ杭列が並んでいる状態を確認した。攪乱や後世の掘削のため全容は不明である。規模は長さ6.56m (推定による残存値)、幅0.60m (推定)、主軸は北から西へ58.5度傾いている。S D 432・331等と同質の性格をもつ溝跡であると考ええる。

S D 458 (第43図、図版27-1、図版28-2)

南側調査区南東にあたるG・H区内のL R・L S 44・45VI層上で、北西から南東へ延びる溝跡を検出した。遺構の東側や西側は攪乱や現代の建物基礎のため壊され、全容は不明である。規模は長さ6.24m (残存値)、幅0.72～0.88m、確認面からの深さは0.48m、主軸は西へ80度傾いている。覆土は4層に分けられ、木端層の間に砂層が堆積し、その上にⅢ層土が盛られていた。

遺物は陶磁器が中国産・肥前産・瀬戸美濃産・関西系・在地系と多様であり、年代も17世紀初頭～幕末までと幅広い。金属製品では煙管や釘が、木製品では露卯下駄、鍋蓋などが出土している。土層観察から廃棄の時期は第4期以前と考えられる。また周辺の遺構配置の状況から第1～3期までの使用を考える。

S D 637 (第39図)

南側調査区中央部からやや西側にあたるF区内のMA 44VI層上で、北西から南東へ延びる溝跡を検出した。攪乱により削平され、遺構の西側は壊されている。規模は、長さ1.5m、幅0.26～0.43m、確認面からの深さは0.14m、主軸は西へ76.6度傾いている。覆土は2層に分けられた。遺物は17世紀前期の肥前産陶器片や土製品片、木製品では連歯下駄が出土している。

S D 640 (第39図)

南側調査区北西側にあたるJ 1・M 1区内のMA・MB 45～47VI層上で北東から南西へ延びる溝跡を検出した。S A 453 P 3、S K P 606・647・730に切られる。建物基礎や攪乱により失われ、全容は不明である。規模は長さ8.88m (残存値)、幅0.48～0.68m、確認面からの深さは0.20m、主軸は北から東へ19.5度傾いている。覆土は単層である。遺物はかわらけ片が出土している。

S D 661 (第39図)

南側調査区西側に位置するF区内のMB 43・44VI層上で、北東から南西へ延びる溝跡を検出した。遺構の南西側は建物基礎により壊されていたため、全容は不明である。規模は長さ0.74m、幅0.16m、確認面からの深さは0.18m、主軸は東へ19度傾いている。遺物は出土していない。

② 土 坑

S K 527 (第39図)

南側調査区南西G区内のL T 44VI層上で楕円形 (推定) のプランを検出した。第10トレンチ掘削のため、遺構の西側は壊されている。規模は長軸2.66m (北東-南西)、短軸0.81m (北西-南東)、確

認面からの深さは0.48mである。覆土は4層に分けられ、最下層である木端層上に粘土や砂が含まれている。遺物は大塚時代の瀬戸美濃産陶器が1点のみ出土している。土層観察から、一時的な貯水槽としての利用を考えるが詳細は不明である。

S K 528 (第40図)

南側調査区北東側N区内のL T 47・48VI層上で、S K 610・S K P 635に切られる楕円形(推定)のプランを検出した。第10トレンチ掘削のため、遺構の西側は壊されている。規模は長軸0.72m(北西-南東、残存値)、短軸1.3m(北東-南西)、確認面からの深さは0.38mである。覆土は3層に分けられた。遺物は出土していない。

S K 588 (第40図)

南側調査区南東H区内のL R 44VI層上で、S K 590を切り、S K P 587に切られる円形のプランを検出した。遺構の南側と東側を建物基礎に壊されているため、全容は不明である。規模は長軸1.12m(北東-南西、残存値)、短軸0.96m(北西-南東、残存値)、確認面からの深さは0.24mである。覆土は単層であり、炭化物を混入している。遺物は出土していない。

S K 590 (第40図)

南側調査区南東H区内のL R 44VI層上で、S K 588に切られる楕円形(推定)のプランを検出した。南側を建物基礎に壊されているため全容は不明である。規模は長軸1.64m(北東-南西)、短軸1.18m(北西-南東)、確認面からの深さは0.18mである。覆土は単層である。遺物は17世紀前葉の肥前産陶磁器が出土している。

S K 600 (第40図)

南側調査区中央やや西よりのF区内MA 44・45VI層上で、S K P 601を切り、S K P 627に切られる半円形のプランを検出した。遺構の北側を建物基礎に壊されている。規模は長軸1.46m(北西-南東)、短軸0.62m(北東-南西、残存値)、確認面からの深さは0.47mである。覆土は3層に分けられた。遺物は17世紀前半の肥前産陶磁器片の他、木製品では、鍋蓋・漆椀・曲物が出土している。

S K 636 (第41図)

南側調査区西側A・B・E・F区内のMB・MC 43・44VI層上で半楕円形のプランを検出した。建物基礎により削平されている。規模は長軸1.96m(北西-南東、残存値)、短軸2.62m(北東-南西)、確認面からの深さは0.47mである。覆土は単層で植物腐敗土である。遺物は陶磁器が肥前産、信楽産陶器片の他、木製品では漆椀のみで、廃材が多数出土している。

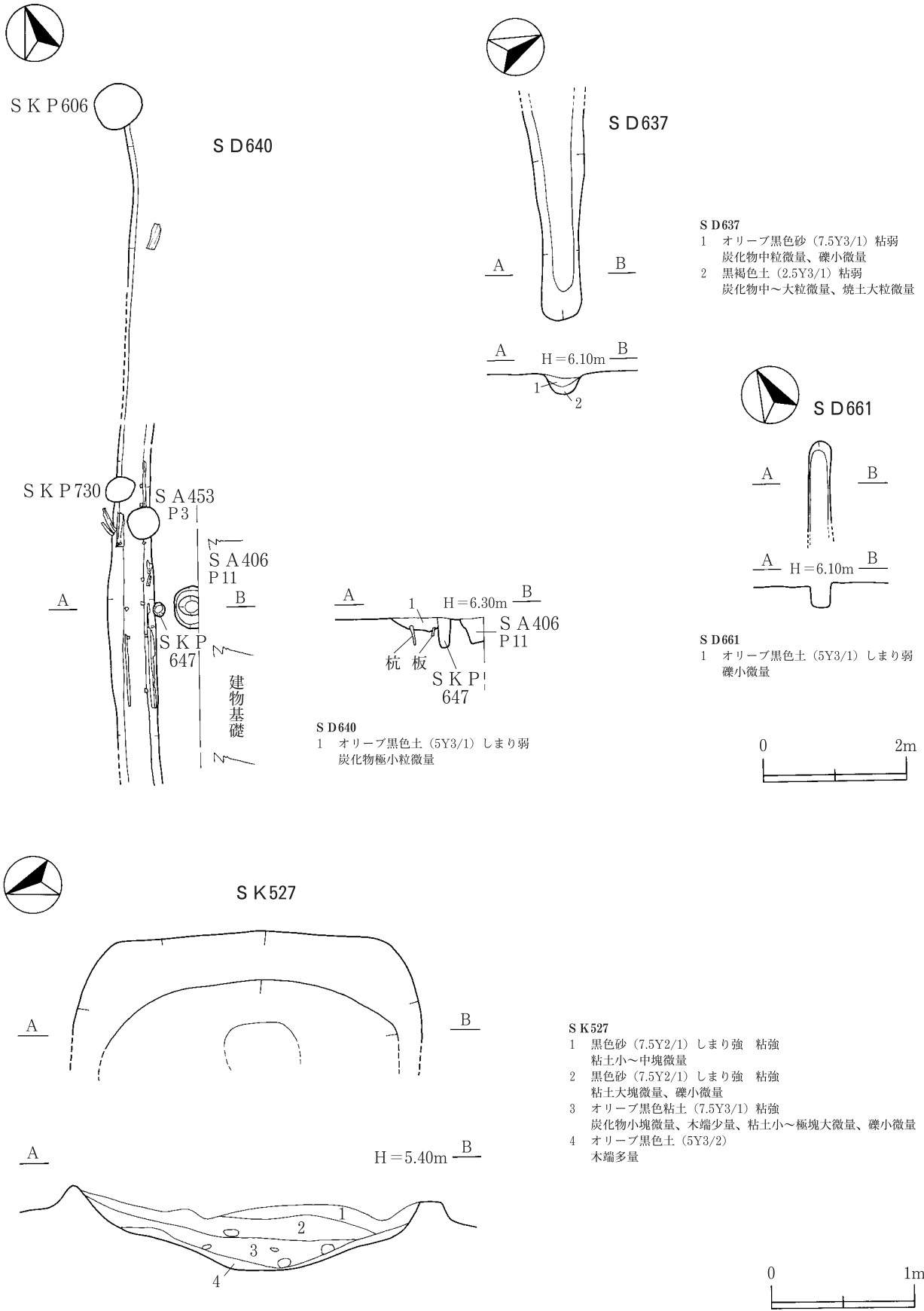
S K 751 (第41図、図版27-2・3)

南側調査区中央部K区内に位置するL S・L T 45・46VI層上で、S B 406 P 1、S A 451 P 5、S A 453 P 5・P 6に切られる楕円形(推定)のプランを検出した。遺構の西側を建物基礎により壊されている。規模は長軸1.60m(北西-南東、残存値)、短軸1.96m(北東-南西)、確認面からの深さは0.50mである。覆土は3層に分けられ、1層は炭化物層であり、3層は木端層である。その間に粘土層が堆積していた。1~3層とも人為堆積による。遺物は16世紀末~17世紀初頭の中国景德鎮窯産皿が、木製品では露卯下駄・漆椀が、他にはクルミが出土している。

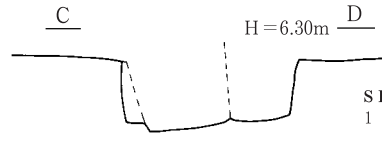
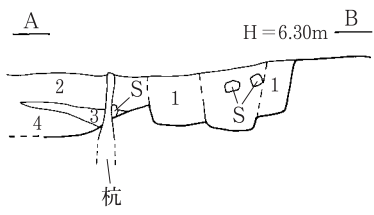
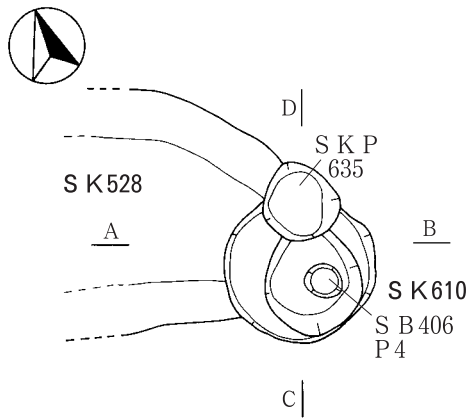
③ その他の遺構

S X 468 (第41図)

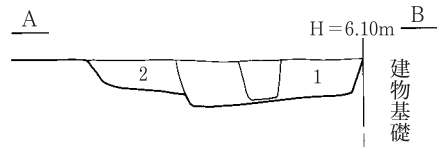
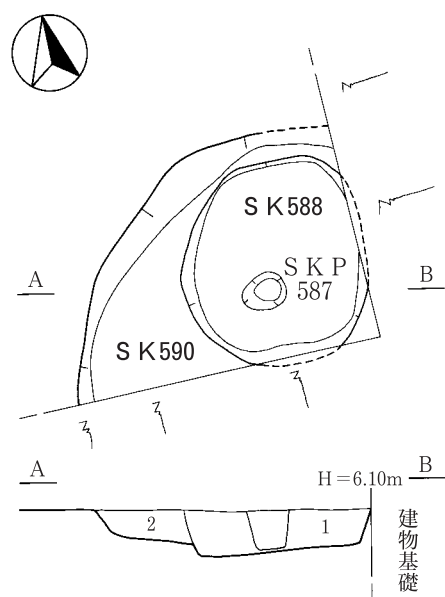
南側調査区西側B区内の第11トレンチの断面及びMA・MB42のVI層上、B区内で部分的に見られる木端層直下で検出した。調査区外に続くため第11トレンチ以南は調査できず、全容は不明である。規模は、長軸0.72m(北西-南東)、短軸(0.40m残存値)、確認面からの深さは0.14mである。平面形はS X 431同様に方形を呈すると推定され、壁はほぼ垂直であった。各壁とも壁面に沿って板材が杭で固定されていた。覆土は3層に分けられ、1層には木端を含む。遺物は陶磁器が17世紀半ばの肥前産陶磁器の他、信楽産、関西系のものが、木製品では男性器を型取ったと思われる木像が出土している。



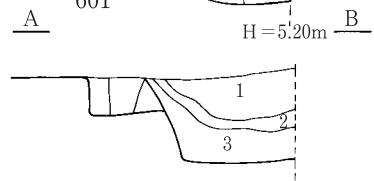
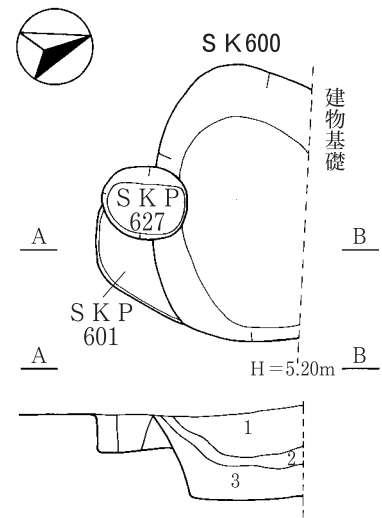
第39図 南側1期SD637・640・661、SK527



- SK610 (2期)**
 1 オリーブ黒色土 (5Y3/1) 礫大~極大少量
SK528
 2 オリーブ黒色粘土~砂 (5Y3/2) 粘強 炭化物極小粒微量
 3 黒褐色土 (10YR3/1) しまり弱 粘弱 炭化物小粒中量
 4 オリーブ黒色粘土~砂 (5Y2/2) 炭化物極小粒微量



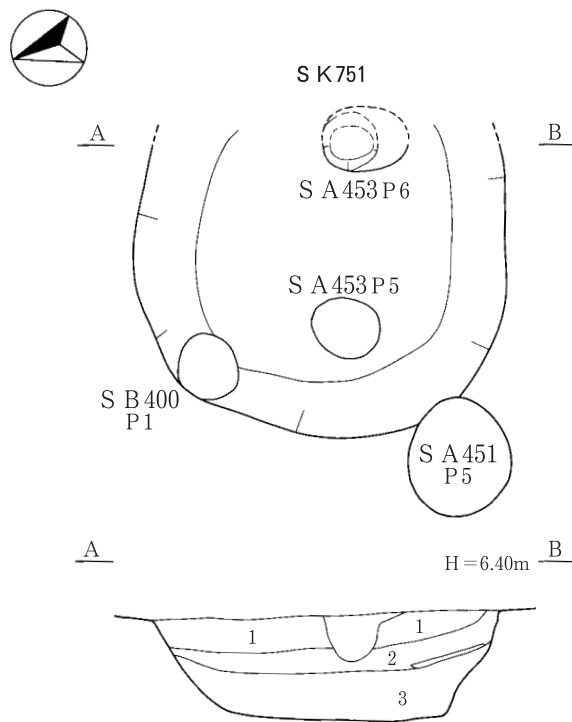
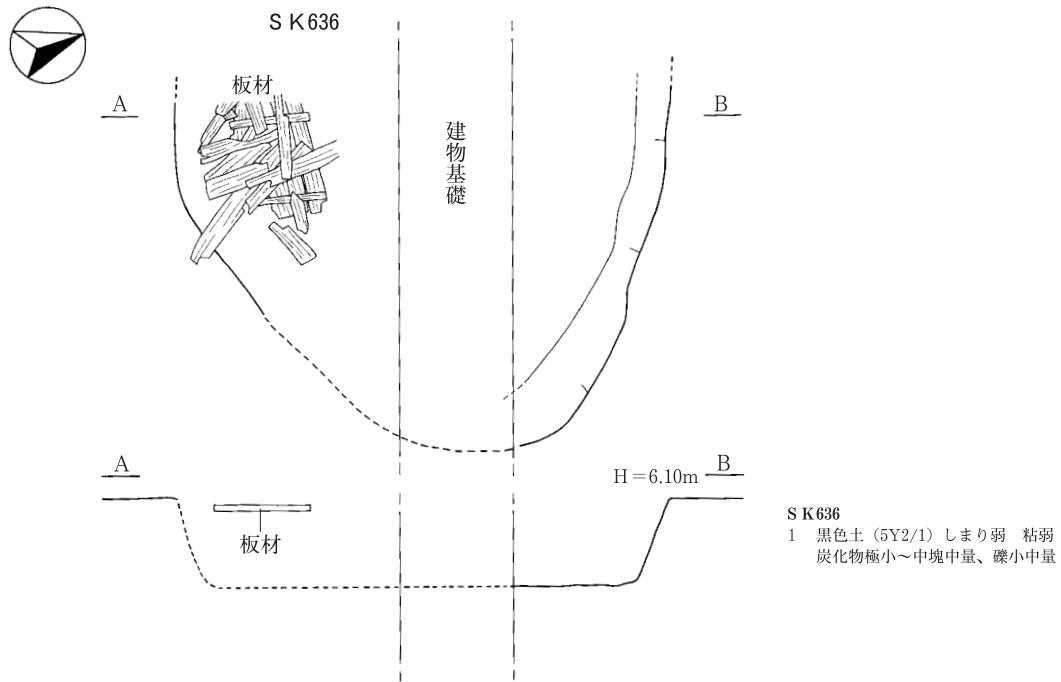
- SK588**
 1 黒色土 (2.5Y2/1) しまり弱 粘弱 炭化物極小粒多量
SK590
 2 炭化物層 しまり弱 粘弱 粘土小~大塊多量



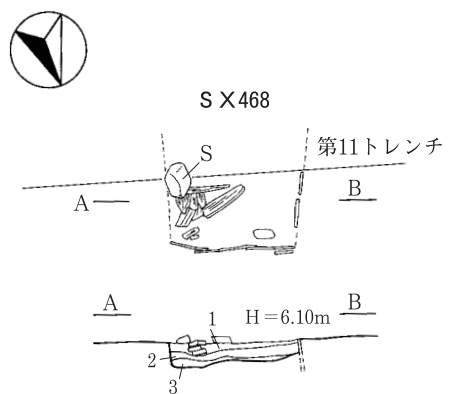
- SK600**
 1 オリーブ黒色土 (5Y3/1) しまり弱 粘弱 炭化物小~大粒少量、礫極小~中少量、砂少量、木端多量
 2 暗オリーブ色土 (5Y4/3) しまり弱 粘弱 木端多量
 3 オリーブ黒色土 (5Y3/1) しまり弱 粘弱 炭化物小~大塊中量、礫極小~中少量



第40図 南側1期SK528・588・590・600、2期SK610



- S K 751**
- 1 炭化物層
 焼土小粒微量、礫小微量、粘土小粒微量
 - 2 オリーブ黒色粘土 (7.5Y3/1) 粘強
 - 3 オリーブ黒色土 (5Y3/2)
 木端多量
 粘土中～大粒中量



- S X 468**
- 1 黒褐色土～砂 (10YR3/1) しまり弱
 炭化物小粒微量、木片中量
 - 2 灰黄褐色砂 (110YR4/3) しまり弱 粘弱
 炭化物小粒少量
 - 3 黒褐色土 (2.5Y3/1)
 炭化物極小粒微量



第41図 南側1期 S K 636・751、S X 468

(2) 南側調査区第2期

年代は、基本土層観察、遺構配置、出土遺物や絵図から判断して、寛文初（1661）年の『久保田城御城下絵図』に描かれた17世紀中葉前後から、旭川の掘り替えや城下の整備が完了する時期の前後である寛保2（1742）年の『御城下絵図』の少し前の時代にあたる18世紀前葉頃と思われる。第2期以降に検出される遺構はすべて根本家に関わるものと考えられる。

① 柱 列

S A 451（第42図）

南側調査区中央やや南側、I～K区内のL S～MB45・46V～VI層上で、北西から南東へ並ぶ5基の柱穴を検出した。柱穴はすべて掘立柱であり、P1には礎板が残っていた。P3は掘形を確認できず、柱材のみを検出した。柱材の直径は19cmである。建物の一部とも考えられるが、建物基礎により調査できず、全容は不明である。柱列総長は11.12mで、柱間距離は、北西から1.88m（P1－P2）、1.92m（P2－P3）、5.39m（P3－P4）、1.93m（P4－P5）である。柱筋は北から西へ74度傾いている。P3・4の間は建物基礎により調査できなかったが、柱穴があったと考えられる。遺物はP1より、肥前産陶器片が出土している。

S A 497（第42図）

南側調査区中央やや南側G・H区内のL R～L T44VI層上で、北西から南東へ並ぶ6基の柱穴を検出した。柱穴はすべて掘立柱である。建物の一部とも考えられるが、建物基礎により調査できず全容は不明である。柱列総長は8.84mで、柱間距離は、北西から2.48m（P1－P2）、2.36m（P2－P3）、1.32m（P3－P4）、0.96m（P4－P5）、1.72m（P5－P6）である。柱筋は北から西へ71度傾いている。

S A 723（第43図）

南側調査区北側M2区内のMA47・48V層上で、北東から南西へ並ぶ3基の柱穴を検出した。柱穴はすべて掘立柱である。建物の一部とも考えられるが、建物基礎により調査できず全容は不明である。柱列総長は2.75m、柱間距離は北東から1.48m（P1－P2）、1.27m（P2－P3）である。柱筋は北から東へ16度傾いている。

② 溝 跡

S D 536（第43図）

南側調査区南西側B区内のMB43V層中で、北から南へ延びる溝跡を検出した。遺構の北側を建物基礎に壊されているため、全容は不明である。規模は長さ1.27m（北－南、残存値）、幅0.20～0.28m、確認面からの深さは0.18m、主軸は北から東へ15度傾いている。覆土は2層に分けられ、遺物は17世紀中葉～後葉の肥前産陶磁器片が出土している。

③ 土 坑

S K 330（第37図）

南側調査区南西側C区内のL S42、第11トレンチの土層観察によりV層上から掘り込まれているプ

ランを確認した。トレンチ掘削のため、調査は断面観察のみを行った。規模は幅1.56m（北西－南東、残存値）、確認面からの深さは0.36mである。覆土は単層で、植物片が混入している。遺物は種子が出土している。

S K 440（第43図）

南調査区西側F区内のMA44VI層上で、S K P 464を切り、S K P 436に切られる半円形のプランを検出した。建物基礎と攪乱により遺構の北側・東側を壊されている。規模は長軸0.96m（北東－南西、残存値）、短軸0.54m（北西－南東、残存値）、確認面からの高さは0.36mである。覆土は2層に分けられた。

S K 456（第44図、図版28－3）

南側調査区西側F区内MA・MB44VI層上で楕円形のプランを検出した。遺構上面でS D 316を検出している。規模は長軸3.93m（北西－南東）、短軸2.37m（北東－南西）、確認面からの深さ1.24mである。覆土は単層であり、植物腐敗土に小礫や炭化物が混入している。遺物は、陶磁器が16世紀末～18世紀前半の肥前産をはじめ、16世紀末～17世紀初頭の中国漳州窯、17世紀前半の景德鎮窯産磁器や、大窯時代の瀬戸美濃産陶器が出土しているが、17世紀前半の遺物が大半を占めている。木製品では、連歯下駄・漆塗り露卯下駄の他、箸・串・柄杓・篋や樽材等が、金属製品では釘が、他には土錘や硯が出土している。遺構から出土した陶磁器の数点は火災による被熱痕が認められる。また、焼けた柱材も出土していることから、火災直後の廃棄土坑である可能性が高い。

S K 481（第44図）

南側調査区南西側B区内のMA42・43VI層上で、S K 495、S K P 517・518に切られる不整円形のプランを検出した。規模は長軸0.44m（北東－南西、残存値）、短軸0.68m（北西－南東）、確認面からの深さは1.01mである。覆土は単層で植物腐敗土である。遺物は17世紀中葉の肥前産陶磁器をはじめ、14世紀の中国龍泉窯産の磁器片や16世紀の備前産の陶器が、木製品では漆椀が出土している。遺構の性格はS K 456と同様と考える。

S K 495（第44図）

南側調査区西側B区内のMA42・43のVI層上で、S K 481を切り、S K P 516に切られる楕円形のプランを検出した。規模は長軸0.57m（東－西、残存値）、短軸0.54m（北－南）、確認面からの深さは1.10mである。覆土は単層で、焼土粒が混入している。

S K 522（第44図）

南側調査区中央G区内L S・L T 44VI層上で、S K P 459に切られる不整円形のプランを確認した。規模は長軸1.30m（北東－南西）、短軸1.08m（北西－南東）、確認面からの深さは0.22mである。覆土は単層である。遺物は出土していない。

S K 591（第45図、図版28－1・2）

南側調査区中央やや南東側G区内に位置するL S・L T 44VI層上で円形のプランを検出した。上部は一部攪乱のための削平を受けている。規模は長軸1.26m（北東－南西）、短軸1.15m（北西－南東）、確認面からの深さは1.53mである。覆土は単層で、木端層である。遺物は中国漳州窯産や肥前産磁器が出土している。肥前産磁器の年代はいずれも17世紀前半のもので初期伊万里である。木製品では、杭・柱材・曲物・下駄（露卯・連歯）・篋・箸など多彩に出土している。金属製品では古泉編年によ

ると17世紀後半の煙管が出土している。以上から、この遺構は17世紀後半にあたるものと推測される。

S K 608 (第44図)

南側調査区南西側B区内MA・MB42VI層上で楕円形(推定)のプランを検出した。上部は削平のため、西側は攪乱により失われていた。規模は長軸1.46m(北西-南東)、短軸0.64m(北東-南西、残存値)、確認面からの深さは0.11mである。覆土は2層に分けられた。遺物は肥前産播鉢の他、木製品では無眼下駄が出土している。

S K 610 (第40図)

南側調査区北東のN区内LT47・48のVI層上で、SB406P4、SKP635に切られ、SK528を切る円形のプランを検出した。規模は長軸0.8m(北西-南東、残存値)、短軸0.54m(北東-南西)、確認面からの深さは0.32mである。覆土は単層である。遺物は肥前産陶器片が出土している。

S K 616 (第45図)

南側調査区西側B区MB43IV層上で、SK617を切り、SKP630に切られる不整楕円形のプランを検出した。規模は長軸1.34m(北東-南西)、短軸0.84m(北西-南東)、確認面からの深さは1.95mである。覆土は単層で大径の粘土塊を含む。遺物は17世紀前半の肥前産陶磁器の他、金属製品が小柄、木製品では露卯下駄・串が出土している。

S K 617 (第45図)

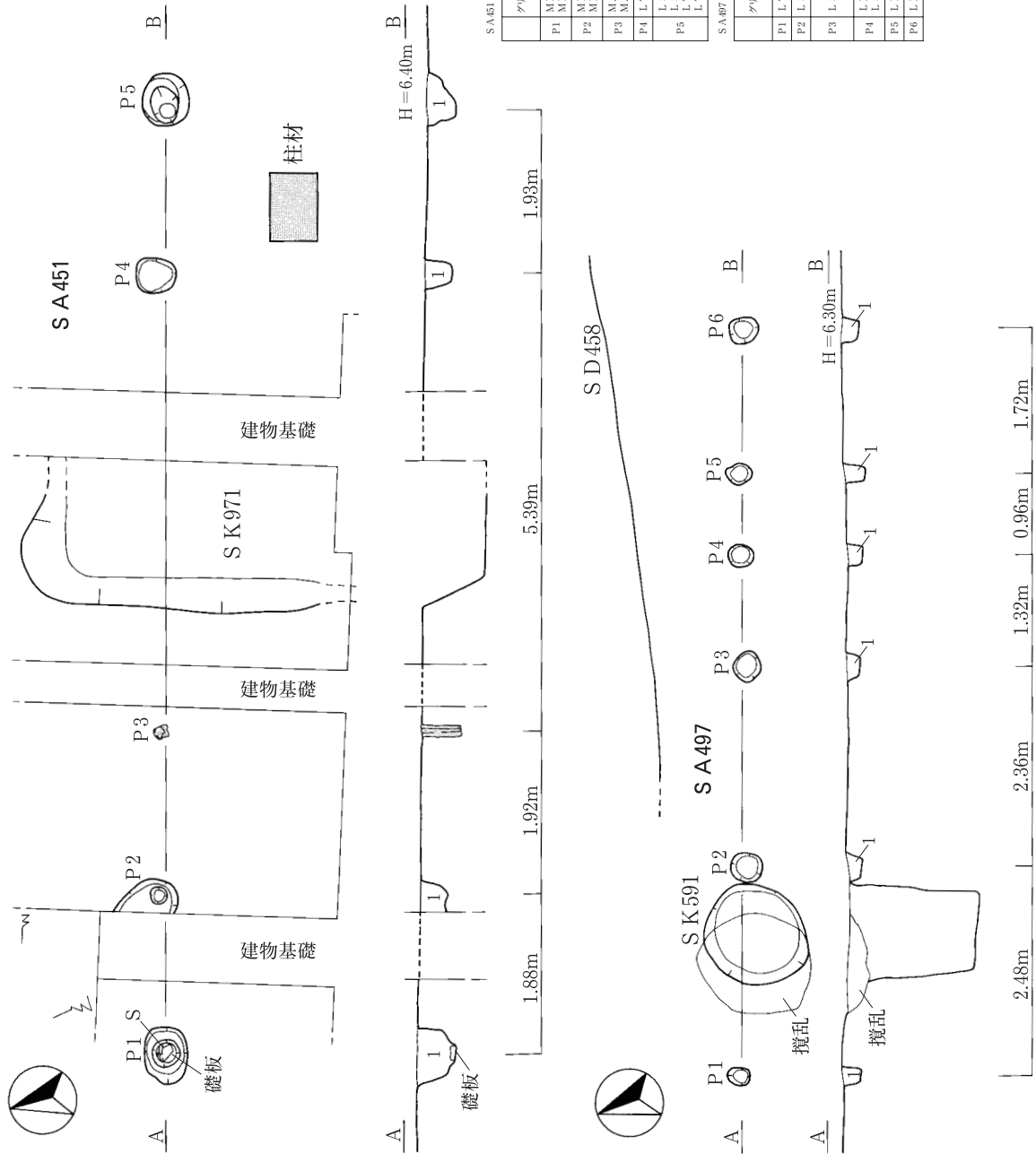
南側調査区南西側B区MB42・43V層上で、SK616に切られる不整楕円形のプランを検出した。規模は長軸2.19m(北東-南西)、短軸0.87m(北西-南東)、確認面からの深さは0.34mである。覆土は単層である。

S K 971 (第45図)

南側調査区中央部やや北側に位置するJ2区内のMA45・46VI層上で、長方形(推定)のプランを検出した。東側と南側を建物基礎により壊されているため全容は不明である。規模は長軸3.52m(北東-南西、残存値)、短軸1.26m(北西-南東、残存値)、確認面からの深さは0.72mである。覆土は単層である。遺物は17世紀半ばの肥前産陶磁器を中心に、中国産磁器片では14世紀~19世紀初頭のものも出土している。全体の8割方に被熱痕が認められ、火災の痕跡と思われる。木製品では漆椀片が出土している。14世紀の中国龍泉窯産青磁碗はSK481出土のものと接合することや、SK456出土遺物と同様に被熱の痕跡のある磁器が出土していることから、これらの遺構と同時期に開口していたと思われる。18世紀後半~19世紀初頭の中国景德鎮窯産磁器碗も出土しているが、後代のものが流入した可能性が考えられる。遺構の性格はSK456と同様と考える。

S K 1046 (第45図)

南側調査区南西側B区内のMB・MC42・43VI層上で、SKP978を切る楕円形のプランを検出した。上部は削平のため失われていた。規模は、長軸1.08m(東-西)、短軸0.6m(北-南)、確認面からの深さは0.12mである。覆土は単層である。



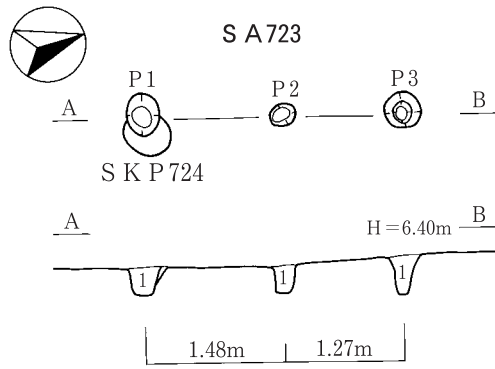
S A 451

グリット	縦径 (m)	横径 (m)	底面標高 (m)	土色	粘り性	混入物	備考	
P1 MB45	0.67	0.51	0.45	5.86	1	黒色土 (7.5Y2/1)	腐炭	
P2 MB45	0.45	0.32	5.89	1	オリーブ黒色土 (5Y3/2)	中	炭化物小〜大塊微量	
P3 MA45	—	—	5.74	—	—	—	柱材のみ	
P4 LT46	0.48	0.42	0.32	5.85	1	オリーブ黒色粘土〜砂 (6.5Y3/1)	弱中	
P5 LS54	0.62	0.54	0.34	5.80	1	オリーブ黒色土〜砂 (7.5Y3/1)	中	褐色土小〜単入粒多量
LT46	—	—	—	—	—	—	S K75Bを切る	

S A 497

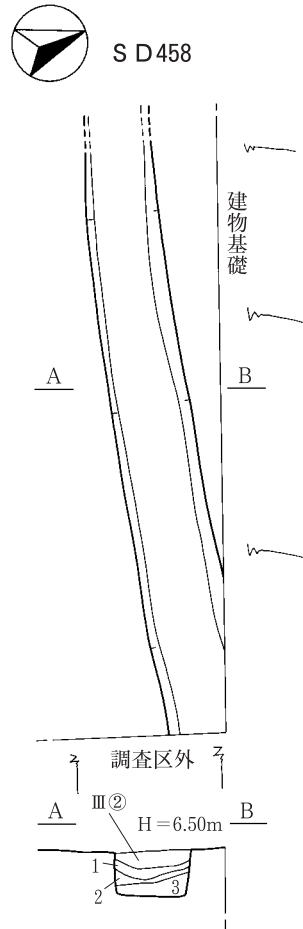
グリット	縦径 (m)	横径 (m)	底面標高 (m)	土色	粘り性	混入物	備考	
P1 LT44	0.27	0.22	0.24	5.90	1	黒色土 (10Y R L7/1)	強中	炭化物極小塊微量
P2 LS44	0.38	0.35	0.20	5.90	1	黒色土 (10Y R L7/1)	強中	炭化物極小塊微量
P3 LS44	0.34	0.32	0.17	5.93	1	黒色土 (10Y R L7/1)	強中	炭化物小塊多量 粘土細小〜小塊微量 炭化物極小塊微量
P4 LR44	0.33	0.32	0.19	5.90	1	黒色土 (10Y R L7/1)	強中	炭化物極小塊微量 粘土細小〜小塊微量
P5 LR44	0.28	0.24	0.27	5.86	1	黒褐色土 (2.5Y 3/1)	中	炭化物極小塊微量
P6 LR44	0.35	0.31	0.21	5.93	1	炭化物層	強弱	粘土細小塊微量

第42図 南側2期 S A 451・497



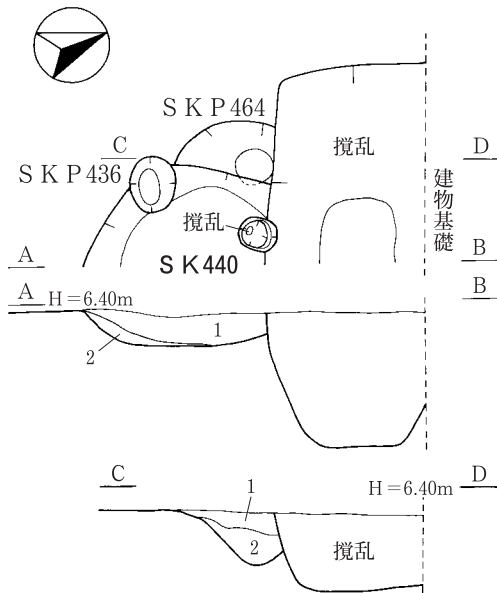
S A723

クリット	規模 (m)			底面標高 (m)	土色	しまり	粘性	混入物	備考
	長径	短径	深さ						
P1 MA47	0.45	0.35	0.30	5.74	1 黒色土 (10YR2/1)	中	中	褐色土小塊多量	S K P724を切る
P2 MA47	0.29	0.23	0.30	5.74	1 黒色土 (10YR2/1)	中	中		
P3 MA47 MA48	0.39	0.38	0.42	5.71	1 オリーブ黒色土-粘土 (5Y3/1)	中	中		



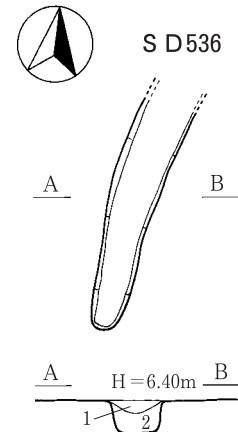
S D458

- 1 暗オリーブ黒色土 (2.5Y3/3) 粘土小~中塊多量、木端多量
- 2 暗オリーブ灰色砂 (2.5GY4/1) しまり強 粘弱
- 3 黒色土 (5Y2/1) 粘土小~中塊中量、木端多量



S K440

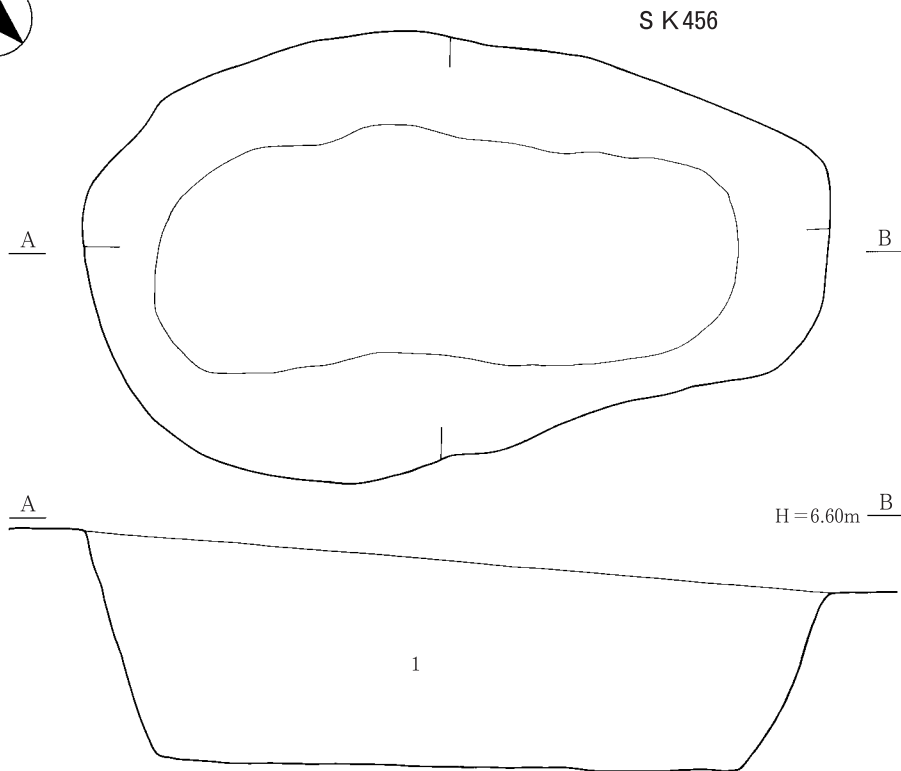
- 1 オリーブ黒色砂 (7.5Y2/2) しまり弱 粘弱 炭化物極小~中粒中量、礫中少量
- 2 黒色粘土 (7.5Y2/1) しまり強 粘強 礫少量



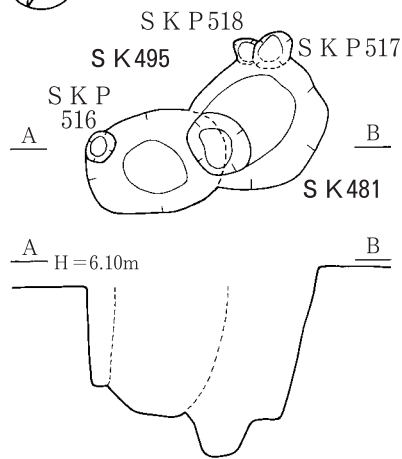
S D536

- 1 黒色土 (5Y2/1) 炭化物小粒微量
- 2 オリーブ黒色土 (5Y3/1) と黒褐色 (10YR2/2) の互層 木片微量

第43図 南側1期S D458、2期S A723、S D536、S K440

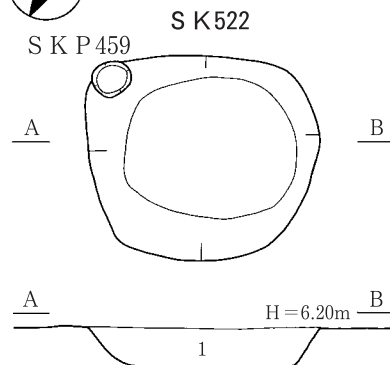


S K 456
 1 黒色土 (2.5Y2/1) しまり弱 粘弱
 炭化物小～大粒・塊中量、礫小～大多量、
 植物片多量

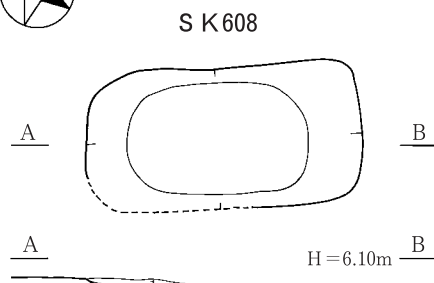


S K 495
 1 黒色土 (10YR1.7/1) しまり強
 炭化物極小塊多量、粘土小～中塊多量、焼土極小粒微量

S K 481
 2 黒色土 (5Y2/1) しまり弱 粘弱
 炭化物極小～中塊中量、礫小中量



S K 522
 1 黒色土 (5Y2/1)

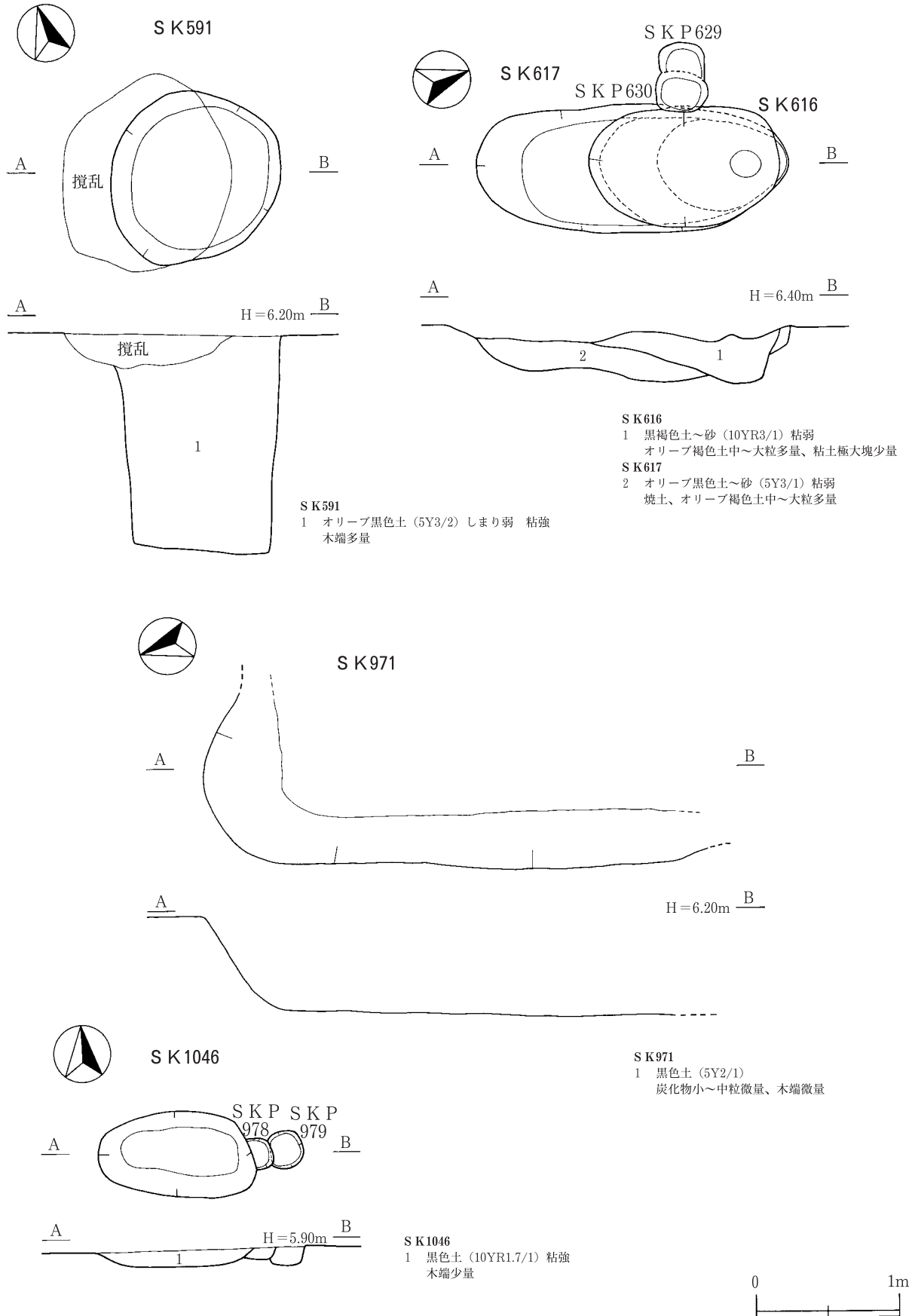


S K 608
 1 オリーブ黒色土～砂 (5Y3/1) しまり弱 粘弱
 炭化物小粒微量、礫小～大多量

2 オリーブ黒色土 (5Y2/2)
 木端多量



第44図 南側 2期 S K 456・481・495・522・608



第45図 南側2期SK591・616・617・971・1046

(3) 南側調査区第3期

基本土層観察、遺構配置、出土遺物や絵図から判断して、寛保2(1742)年の『御城下絵図』の少し前にあたる18世紀前葉から、19世紀中葉頃と思われる。この時期の根本家は、寛文初(1661)年の状況から屋敷地を3間(約6m弱)南側へ拡張したことが絵図に記されている。

① 掘立柱建物跡

S B 406 (第47図、図版25-2)

南側調査区北側J・K・M・N区内のIV～VI層上にて、20基の柱穴からなる桁行3～4間(北西-南東)、梁行4～5間(北東-南西)の掘立柱建物跡を検出した。後世の削平や建物基礎のため、全容は不明である。柱穴はすべて掘立柱であるが、P2・14・16・17の柱穴底面には礎石・礎板が残っていた。また柱痕跡から柱材の直径は15～24cmと推測される。建物規模は、桁行総長9.52m、柱間距離は西から1.84m(P15-P10)、4.08m(P10-P8)、1.80m(P8-P4)、1.80m(P7-P2)、梁行総長9.28m、柱間距離は北から1.20m(P3-P4)、1.72m(P15-P17)、1.64m(P17-P18)、1.46m(P17-P18)、2.76m(P19-P20)である。桁行柱筋は北から西へ72度傾いている。桁行のP8・P10、P9・P11、P7・P13の間、P12・P19以東、梁行のP12・P13、P19・P20の間やP9以南ではそれぞれいくつかの柱穴が失われている可能性が考えられる。また柱穴からは焼土粒や炭化物が検出され、火災の可能性を考える。遺物は陶器の他、土製品が出土している。遺構の周辺は版築状の整地層が見られ、根本屋敷の中心的な建物跡であったと思われる。

② 井戸跡

S E 599 (第46図、図版29-1～3)

南側調査区南側D区内のLR43VI層上で、建物基礎直下に桶を重ねて埋設された状態を検出した。上部は建物基礎により壊されている。規模は長軸1.06m(北西-南東)、短軸0.96m(北東-南西)の掘形に径0.74～0.56mの大きさの違う桶の底を抜いて重ねている状態を4段目まで確認し、確認面から1.7mの深さまで調査したが、軟弱地盤により危険であるため、それ以下の掘削調査はできなかった。1段目の周辺には根固めのためか比較的大径の石が検出された。覆土は掘形が2層、桶の中が4層に分層された。近代になって廃棄されたものと思われる。遺物は17世紀～18世紀の肥前産陶磁器片が出土している。

③ 土 坑

S K 320 (第37図)

南側調査区南西側C区内のLT42、第11トレンチの土層観察により、IV層上から掘り込まれているプランを検出した。トレンチ掘削のため、調査は断面観察のみを行った。規模は幅2.08m(北西-南東、残存値)、確認面からの深さは0.54mである。覆土は3層に分けられ、最下層には植物片が混入している。遺物は出土していない。

S K 322 (第37・38図)

南側調査区南側に位置するD区内のL R 42、第11トレンチの土層観察より、IV層上から掘り込まれているプランを検出した。トレンチ掘削のため、断面観察のみ行った。規模は幅1.32m(北西-南東、残存値)、確認面からの深さは0.45mである。覆土は2層に分けられ、下層には植物片が混入している。遺物は種子が出土している。

S K 424 (第46図)

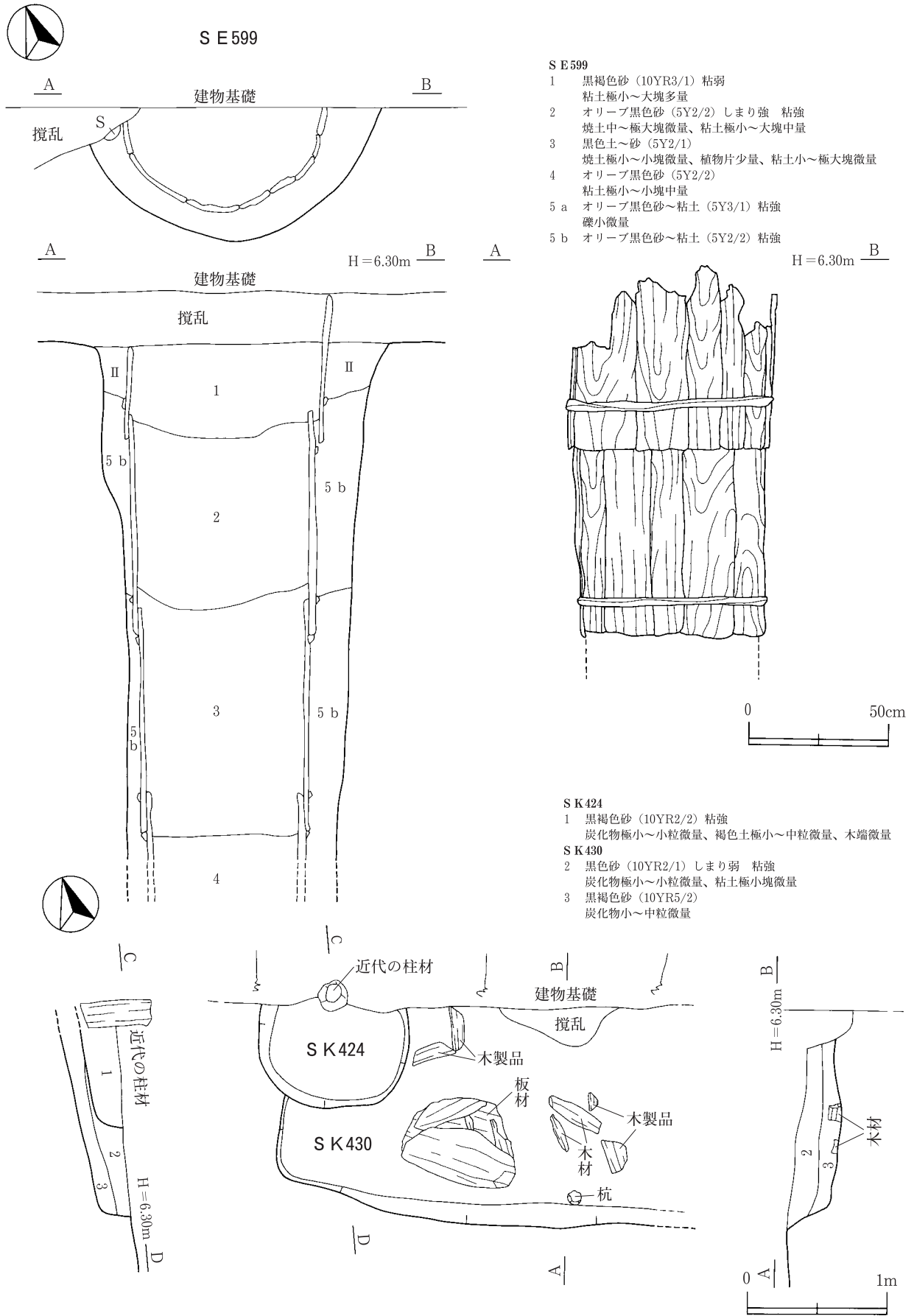
南側調査区南側に位置するC区内のL S 43V層中で、S K 430を切る円形(推定)のプランを検出した。遺構の北側は建物基礎により壊されている。規模は長軸1.08m(北西-南東)、短軸0.70m(北東-南西、残存値)、確認面からの深さは0.25mである。覆土は単層である。遺物は17世紀後半～18世紀前半の肥前産陶磁器片の他、宋銭である天聖元宝、種子が出土している。

S K 430 (第46図)

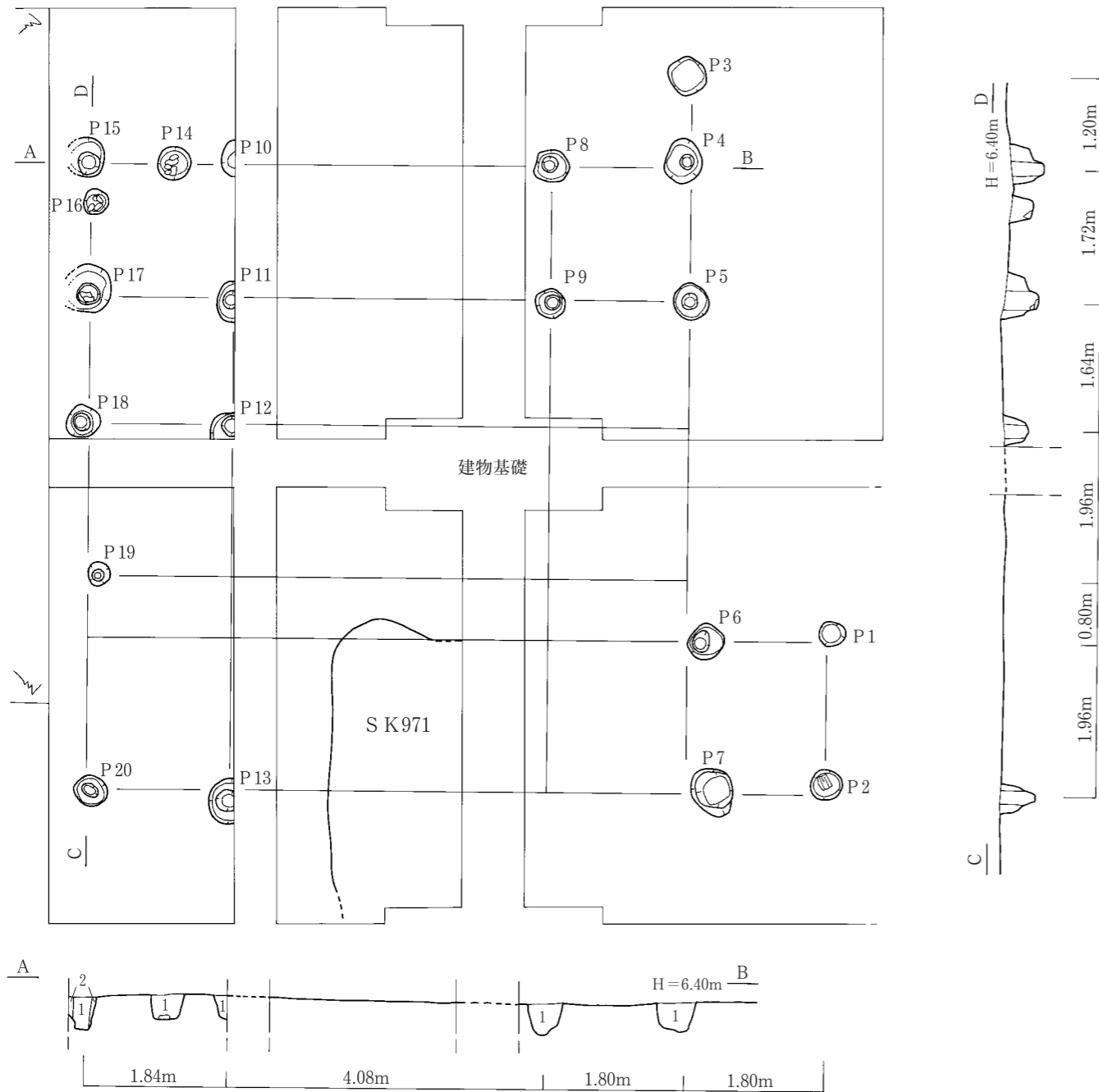
南側調査区南側に位置するC区内のL S 43V層上で、S K 424に切られる隅丸長方形(推定)のプランを検出した。遺構の北側は建物基礎により壊されている。規模は長軸2.87m(北西-南東、残存値)、短軸1.56m(北東-南西、残存値)、確認面からの深さは0.30mである。遺物は17世紀末～18世紀前半を中心とした肥前産陶磁器片が多数、木製品では樽の底部、種子が出土している。

S K 539 (第38図)

南側調査区南側D区内のL S 43VI層上で、S D 432・331、S Q 589を切り、S D 1276、S K P 596・607に切られる不正形のプランを検出した。規模は長軸3.40m(北西-南東)、短軸1.96m(北東-南西)、確認面からの深さは0.38mである。覆土は3層に分けられ、木片が多量に混入している。遺物は17世紀～19世紀の陶磁器片の他、木製品では、多量の木片とともに陰卵下駄が出土している。

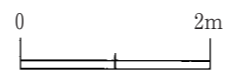


第46図 南側3期 S E 599、S K 424・430



S B 406

No.	グリッド	規 模 (m)			底面標高 (m)	土 色	しまり	粘性	混 入 物	備 考
		長径	短径	深さ						
P1	L S 46	0.33	0.33	0.26	5.53	1 黒色土 (5Y2/1)	中	中	炭化物小～中粒微量 礫小微量	S K 751を切る
P2	L S 45	0.40	0.38	0.48	5.32	1 オリーブ黒色土～砂 (5Y3/1)	中	弱	礫少量	礎板
P3	L T 48	0.50	0.46	0.61	5.67	1 黒褐色土 (10Y R 3/1)	弱	強	炭化物極小粒微量	
						2 オリーブ黒色土 (7.5Y3/1)	中	中		
P4	L T 47	0.54	0.49	0.38	5.76	1 黒褐色土 (10Y R 3/1)	中	中	炭化物小粒微量、礫小微量 黒色土極薄板状中量	S K 610を切る S K P 635に切られる
P5	L T 47	0.46	0.45	0.75	5.53	1 黒褐色土 (10Y R 3/1)	中	中	炭化物小粒微量、礫小微量 黒色土極薄板状中量	S K P 603に切られる
P6	L T 46	0.46	0.44	0.46	5.64	1 オリーブ黒色土～砂 (7.5Y3/1)	弱	中	褐色土極小～極大粒多量	
P7	L T 45	0.61	0.54	0.43	5.68	1 オリーブ黒色土～砂 (5Y3/1)	中	中	炭化物極小粒微量、礫小微量	
P8	L T 47	0.43	0.42	0.42	5.80	1 黒色土 (5Y2/1)	中	中	炭化物小粒少量 礫小～大微量	
P9	L T 47	0.39	0.38	0.33	5.77	1 黒色土 (5Y2/1)	中	中	炭化物小粒少量 礫小～大微量	
P10	MA 47	0.47	0.16 (残存値)	0.30	5.88	1 黒褐色土 (10Y R 3/1)	中	中	炭化物小～大塊少量 焼土中～大塊多量	S K P 653を切る
P11	MA 47	0.54	0.24 (残存値)	0.43	5.76	1 黒褐色土 (10Y R 3/1)	中	中	炭化物小～大塊少量 焼土中～大塊多量	
						2 黒褐色粘土 (2.5Y3/1)	弱	強		
P12	MA 47	0.35 (残存値)	0.31 (残存値)	0.15	6.00	1 黒褐色土 (10Y R 3/1)	中	中	炭化物小～大塊少量 焼土中～大塊多量	
P13	MA 45	0.58	0.34 (残存値)	0.36	5.74	1 黒色土 (5Y2/1)	中	強	炭化物中粒微量	
P14	MA 47 MB 47	0.44	0.43	0.33	5.93	1 オリーブ黒色土 (5Y2/2)	中	中	炭化物小粒少量 焼土小塊微量 褐色土小～中塊微量	礎石
P15	MB 47	0.51	0.34 (残存値)	0.43	5.72	1 黒褐色土 (10Y R 3/1)	中	中	炭化物小～大塊少量 焼土中～大塊多量	
						2 黒褐色粘土 (2.5Y3/1)	弱	強		
P16	MB 47	0.34	0.32	0.31	5.97	1 黒色土 (5Y2/1)	中	中	炭化物大粒少量 焼土大粒微量 褐色土大粒少量	礎石 S K P 664を切る
P17	MB 47	0.62	0.49 (残存値)	0.50	5.86	1 黒褐色土 (10Y R 3/1)	中	中	炭化物小～大塊少量 焼土中～大塊多量	礎石
						2 黒褐色粘土 (2.5Y3/1)	弱	強		
P18	MB 47	0.43	0.40	0.33	5.90	1 黒褐色土 (10Y R 3/1)	中	中	炭化物小～大塊少量 焼土中～大塊多量	
						2 黒褐色粘土 (2.5Y3/1)	弱	強		
P19	MB 46	0.30	0.30	0.51	5.66	1 黒褐色土 (10Y R 3/2)	弱	弱	赤褐色土小粒微量	
						2 黒褐色粘土 (2.5Y3/1)	弱	強		
P20	MB 45	0.41	0.40	0.47	5.77	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	中	炭化物小～中粒微量	
						2 黒褐色粘土 (2.5Y3/1)	弱	強		



第47図 南側3期S B 406

(4) 南側調査区第4期

年代は、基本土層観察、遺構配置、出土遺物や絵図から判断して、幕末～明治にあたる。絵図から根本家屋敷の変遷を探ることはできなかった。遺構は後世の削平をかなり受けており、近代遺構との区別が難しい状態である。

① 柱 列

S A 453 (第48図)

南側調査区中央Ⅰ～Ⅱ区内のⅢ～Ⅳ層上で、6基の柱穴が並ぶ柱列を検出した。柱穴はすべて掘立柱でP 2・4には径14～20cmの柱材が残存していた。また、P 1・3の底面からは礎石が検出された。建物の一部とも考えられるが、建物基礎により調査できず、全容は不明である。柱列総長は13.60m、柱間距離は北西から0.88m (P 1 - P 2)、3.16m (P 2 - P 3)、7.76m (P 3 - P 4)、0.84m (P 4 - P 5)、0.96m (P 5 - P 6)である。柱筋は北から西へ74度傾いている。P 2・3、P 3・4の間は建物基礎や後世の削平を受けているため、いくつかの柱穴が失われている可能性がある。

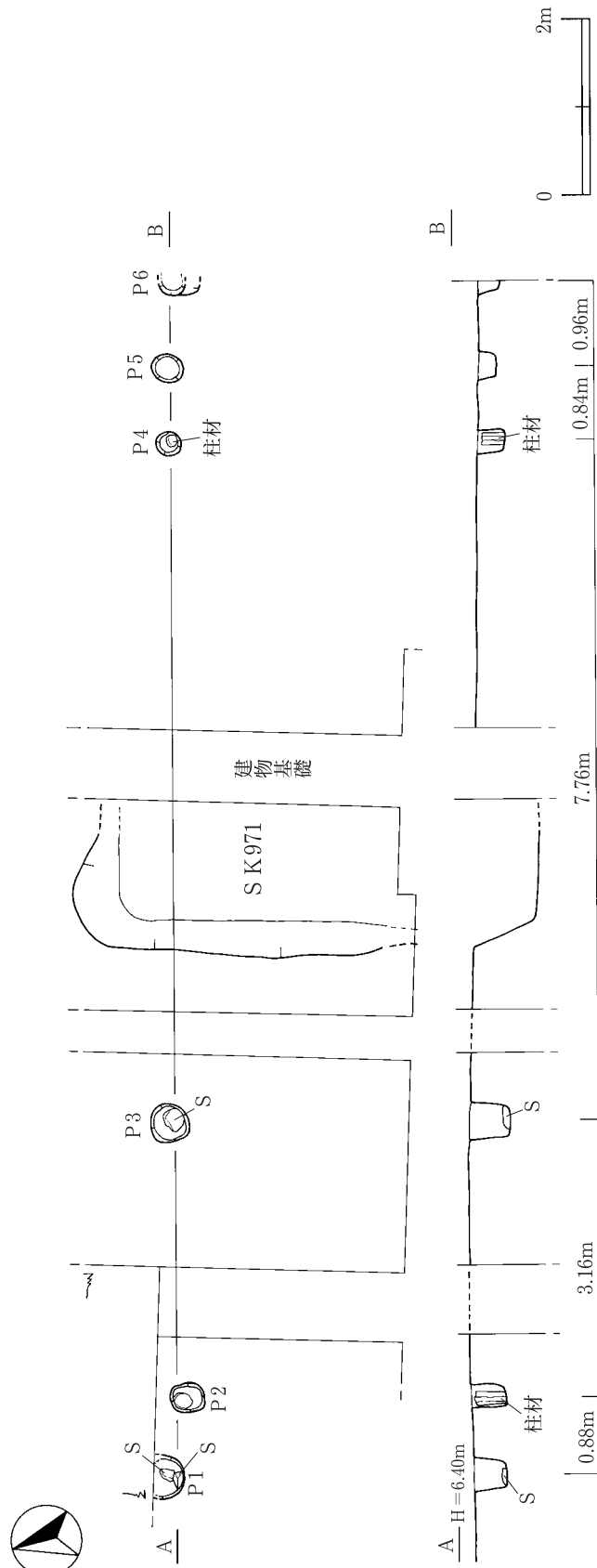
② 溝 跡

S D 316 (第49図、図版30-1・2)

南側調査区南西側に位置するA・E区内のMB 42～44Ⅲ層上で、S K 456を切り、北東から南西へ延びる溝跡を確認した。溝の両壁には土留めの板とそれを固定していた杭を検出した。建物基礎や後世の掘削による削平のため、全容は不明である。掘形は不明瞭であった。検出された杭は幅約6cm前後、長さは22～90cmのものとまちまちで、中には家屋材の「敷居」を転用したものが確認された。規模は長さ7.76m (北東-南西、残存値)、幅0.35～0.64m (杭幅を測定、残存値)で、確認面からの深さは0.28m、主軸は北から東へ18度傾いている。覆土は2層に分けられる。遺物は陶磁器では、17世紀前半の肥前産を中心に、16世紀末～19世紀に下る。木製品では箸や下駄が、金属製品では鍋や鏝が、その他にはモモやクルミの種子が出土している。出土遺物に関しては古い時代のものが多いが、検出面を考えれば、年代は19世紀を下ると考えられる。

引用・参考文献

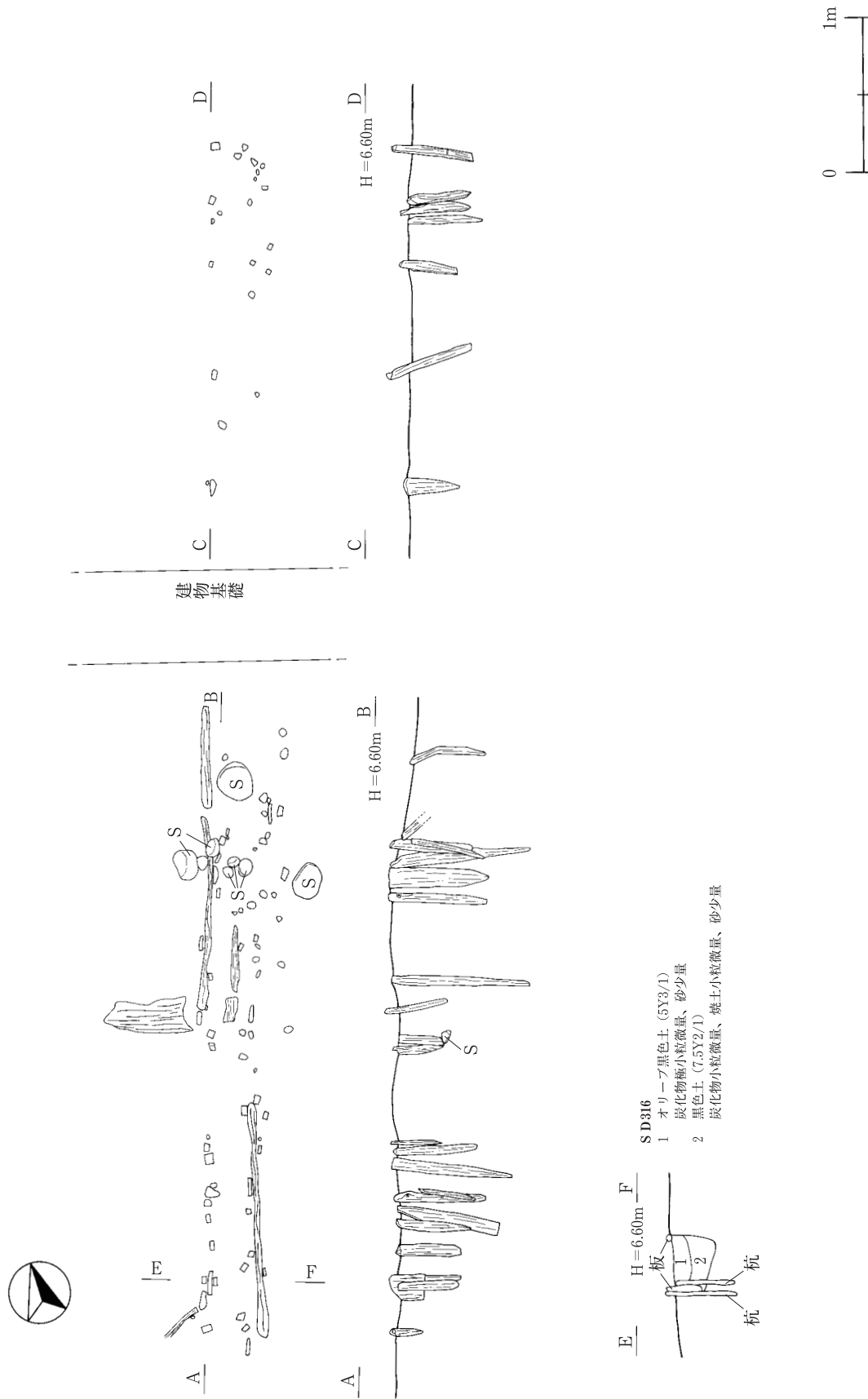
- 秋田市 『秋田市史 第三卷 近世 通史編』 2003 (平成15) 年
 秋田市 『秋田市史 第十五卷 美術・工芸編』 2000 (平成12) 年
 渡部景一 『図説 久保田城下町の歴史』 無明舎出版 1983 (昭和58) 年
 渡部景一 『「梅津政景日記」読本 秋田藩家老の日記を読む』 無明舎出版 1992 (平成4) 年
 秋田県教育委員会 『東根小屋町遺跡-秋田県教育・福祉複合施設整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書-』 秋田県文化財調査報告書第387集 2005 (平成17年)
 財団法人文化財建造物保存技術協会 『久保田藩旧黒沢家住宅』 1989 (平成元) 年
 大橋康二 『考古学ライブラリー55 肥前陶磁』 ニューサイエンス社 1989 (平成元) 年
 江戸遺跡研究会編 『図説江戸考古学事典』 柏書房 2001 (平成13) 年
 越前谷国治 『40年前の秋田市』 無明舎出版 2003 (平成15) 年



S A453

グリッド	縦横 (m)			底面標高 (m)	土色	しまり	粘性	混入物	備考	
	長さ	短径	深さ							
P1	MB46 MC46	0.49	0.29 (残存部)	0.38	5.92	1	オリブ黒色土 (5Y3/1)	中	炭化物小～中粒微量 褐色土大塊微量	礎石
P2	MB46	0.38	0.32	0.42	5.85	1	オリブ黒色土 (7.5Y3/1)	中	炭化物小～極大粒少量 焼土小塊少量、礫少量	柱材
P3	MA46 MB46	0.43	0.43	0.47	5.88	1	オリブ黒色土 (5Y3/1)	中	炭化物小～中粒微量 褐色土大塊微量	礎石 S D60を切る
P4	L T 46	0.28	0.27	0.32	5.80	1	オリブ黒色土～砂 (7.5Y3/1)	中	炭化物極小粒微量 褐色土極小粒微量	柱材
P5	L S 46	0.36	0.32	0.22	5.89	1	オリブ黒色土～砂 (7.5Y3/1)	弱	礫少量 褐色土極小～中粒少量	S K75iを切る
P6	L S 46	0.47	0.13 (残存部)	0.25	5.86	1	黒色土 (5Y2/1)	弱	粘土大～極大粒微量 礫少量	S K75iを切る

第48図 南側4期S A453



第49図 南側 4期 S D316

第4章 調査の記録

第9表 南側調査区柱穴様ピット一覧(1)

期	No.	グリッド	規模 (m)			底面標高 (m)	土 色	しまり	粘性	混入物	備 考
			長径	短径	深さ						
1	347	-	-	-	-	-	-	-	-	確認調査時に検出 (第11トレンチ)	
1	472	LR44	0.82	0.52	0.32	5.81	1 黒褐色土 (10YR3/2)	弱	中	炭化物小粒中量 礎石	
1	494	LT44	0.23	0.21	0.08	6.07	1 オリーブ灰粘土 (5GY5/1)	弱	強	炭化物小～中粒微量 SKP524を切る	
1	498	LT44	0.36	0.26	0.32	5.80	1 オリーブ灰粘土 (5GY5/1)	中	強	炭化物小粒多量 焼土極小粒微量 SK527を切る	
1	501	LS44	0.58	0.46	0.38	5.79	1 黒色砂 (7.5Y2/1)	強	中	炭化物極小粒少量 粘土小～中塊少量	
1	513	LS44	0.23	0.20	-	-	1 黒色土 (7.5Y2/1)	強	中	焼土極小粒微量	
1	524	LT44	0.36	0.32	0.09	6.05	1 黒色土 (2.5Y2/1)	強	弱	炭化物極小粒微量 礫小微量 SKP494に切られる	
1	526	LR44	0.38	0.30	0.40	5.80	1 黒色土 (2.5Y2/1)	強	弱	炭化物極小粒微量 礫小微量 SD526に切られる	
1	529	LT47	0.33	0.31	0.32	5.89	1 黒色土 (2.5Y2/1)	中	弱	粘土小塊中量	
1	535	MB43	0.16	0.13	0.16	6.13	1 黒褐色土～砂 (2.5Y3/1)	弱	中	褐色土大粒少量	
1	542	LQ47	0.34	0.29	0.39	5.73	1 暗オリーブ灰色粘土～砂 (2.5GY3/1)	弱	強	炭化物極小粒微量	
1	543	LQ47	0.38	0.36	0.37	5.69	1 暗オリーブ灰色粘土～砂 (2.5GY3/1)	弱	強	炭化物極小粒微量 焼土極小粒微量	
1	544	LQ47 LR47 LR48	0.51	0.38	0.24	5.83	1 暗オリーブ灰色粘土～砂 (2.5GY3/1)	弱	強	炭化物極小粒微量 焼土極小粒微量	
1	545	LR47	0.45	0.40	0.42	5.70	1 黒色土 (2.5Y2/1)	弱	強	炭化物極小粒微量 礫中微量 焼土極小粒微量	
1	549	MB43	0.56	0.48	0.28	6.02	1 黒褐色土～砂 (2.5Y3/1)	弱	中	褐色土大粒少量 柱材 礎石	
1	550	MB43	0.18	0.16	0.19	5.91	1 黒褐色土～砂 (2.5Y3/1)	弱	中	褐色土大粒少量	
1	559	LR44	0.66	0.60	0.44	5.80	1 炭化物層	強	弱	焼土小粒極微量 SK590を切る 瓦を礎石に転用	
1	561	LR44	0.40	0.28 (残存値)	-	-	1 黒色土 (2.5Y2/1)	弱	弱	SD458に切られる	
1	563	LR47	0.26	0.26	0.16	5.98	1 黒色土 (2.5Y2/1)	弱	弱	炭化物極小粒微量	
1	564	LQ47	0.50	0.13 (残存値)	0.06	6.09	1 炭化物層	弱	強	粘土小塊多量	
1	569	LR44	0.36	0.31	0.17	5.78	1 黒色土 (2.5Y2/1)	弱	強	炭化物極小粒微量	
1	571	LR44	0.30	0.29	0.10	5.86	1 黒色土 (2.5Y2/1)	弱	強	炭化物極小粒微量	
1	573	LS44	0.22 (残存値)	0.19 (残存値)	0.38	5.68	1 黒色土 (2.5Y2/1)	弱	強	SD458に切られる	
1	576	LR44	0.40	0.35	0.14	5.81	1 灰色砂 (7.5Y4/1)	弱	強	炭化物小～大塊少量	
1	578	MB43	0.30	0.28	0.18	5.82	1 黒褐色土～砂 (2.5Y3/1)	弱	中	褐色土大粒少量 木片少量	
1	601	MA44	0.37 (残存値)	0.30	0.20	5.76	1 オリーブ黒色砂 (5Y3/1) 2 オリーブ黒色砂 (5Y3/1)	弱 弱	強 弱	炭化物極小～大塊中量 炭化物極小～小粒少量 木端微量 SK600に切られる SKP627に切られる	
1	609	MA44	0.49	0.45 (残存値)	0.58	5.55	1 黒色土 (5Y2/1) 2 黒色土 (5Y2/1)	弱 弱	弱 弱	炭化物小～大粒中量 炭化物小～中粒少量 焼土塊小～中粒中量 SK456に切られる	
1	626	MB43	0.60	0.58	0.20	5.84	1 オリーブ黒色土～砂 (5Y3/1)	弱	弱	粘土小塊中量 礫小中量 木端少量	
1	631	MA44 MA45	0.38	0.36 (残存値)	0.41	5.71	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	弱	弱	炭化物極小～小粒少量 焼土小塊微量 植物片少量 SK600に切られる	
1	632	MA44 MB44	0.32	0.28	0.20	5.89	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	弱	弱	焼土小塊少量 SK456に切られる	
1	633	MB45	0.40	0.34	0.17	5.95	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	弱	弱	焼土小塊少量	
1	634	MB44	0.46 (残存値)	0.40 (残存値)	0.27	5.85	1 オリーブ黒色土～砂 (5Y3/1)	中	弱	焼土小塊少量 粘土大～極大粒少量 木端少量 SK456に切られる	
1	655	MA48 MB47 MB48	0.59	0.33 (残存値)	0.51	5.64	1 オリーブ黒色土 (5Y3/2) 2 オリーブ黒色土 (5Y2/2)	中 中	弱 中	炭化物小～中粒微量 粘土中塊中量 炭化物極小粒微量 焼土極小粒微量 粘土小塊微量 SKP653に切られる SKP656に切られる	
1	658	MB43	0.72	0.56	0.15	5.94	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	弱	弱	粘土小塊少量	
1	659	MB43 MB44	0.86	0.71	0.36	6.12	1 黒褐色土 (2.5Y3/2)	弱	中	炭化物極小～小粒微量 木端微量 礎板 割栗石 SK636・SKP672を切る	
1	667	MA44	0.32	0.30 (残存値)	0.10	5.86	1 黒色土 (7.5Y2/1)	中	弱	SD637に切られる SKP479下層検出 SKP540下層検出	
1	668	MA44	0.34	0.22	0.13	5.96	1 黒色土 (2.5Y2/1)	中	中	SKP433下層検出	
1	669	MA44	0.30	0.22	0.41	5.69	1 黒色土 (2.5Y2/1)	中	中	SKP464に切られる	
1	670	MA44	0.36	0.24	0.18	5.88	1 黒色土 (2.5Y2/1)	中	中	SK440下層検出 SKP436下層検出	
1	671	MA44	0.24	0.16	0.33	5.74	1 黒色土 (2.5Y2/1)	中	中	SK440下層検出	
1	672	MB43 MB44	0.24 (残存値)	0.32	0.13	6.34	1 オリーブ黒色粘土～砂 (7.5Y3/1)	中	弱	SKP659に切られる	
1	720	MA47 MA48	0.53	0.48	0.40	5.73	1 暗オリーブ色土 (5Y4/4) 2 炭化物層	弱 弱	中 弱	焼土中塊多量 炭化物小～中粒中量 粘土小塊中量 SKP722に切られる	

第10表 南側調査区柱穴様ピット一覧(2)

期	No.	グリッド	規模 (m)			底面標高 (m)	土 色	しまり	粘性	混入物	備 考
			長径	短径	深さ						
1	724	MA47	0.47	0.22 (残存値)	0.47	5.57	1 黒色土 (10Y R2/1)	中	中	褐色土小塊多量 焼土小塊微量	S A723 P3に切られる
1	826	L S46	0.22	0.22	0.54	5.42	1 オリーブ黒色砂 (5Y3/1)	中	中	粘土大～極大粒少量 礫小微量	S K751に切られる
1	828	L S46	0.29	0.28	0.29	5.64	1 黒色砂 (5Y2/1)	中	中	炭化物中粒微量	S K751に切られる
1	974	MC44	0.20	0.18	0.20	5.93	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	中	炭化物小～大粒微量	
1	975	MB44	0.22	0.20	0.26	5.85	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	中	炭化物中粒微量	
1	976	MB44	0.28	0.26	0.38	5.74	1 暗褐色土 (10Y R3/3)	強	中	炭化物小～中粒微量	
1	978	MB42 MB43	0.15 (残存値)	0.23	0.09	5.75	1 黒色土 (5Y2/1)	中	強	木端微量	S K1046に切られる
1	979	MB42 MB43	0.27	0.22 (残存値)	0.14	5.70	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	中	炭化物微量	S K P978に切られる
1	980	MB42	0.36	0.28	0.20	5.66	1 黒色土 (10Y R2/1)	中	中	炭化物大粒微量 焼土極小～小塊少量	
1	1041	MB42	0.24	0.22	0.23	5.64	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	中	粘土大塊少量	
1	1042	MA42	0.28	0.26	0.41	5.49	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	中	炭化物中～大塊微量 焼土中～大塊微量	
1	1043	MA42 MA43	0.24	0.24	0.14	5.74	1 オリーブ黒色土 (5Y3/2)	強	中	褐色土小塊中量	
1	1044	MB43	0.58	0.46	0.26	5.59	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	中	炭化物大粒微量	
1	1045	MB42	0.34	0.28	0.42	5.30	1 灰色土 (5Y4/1)	中	中		
1	1275	L T45	0.58	0.36	-	-	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	中	炭化物中～大粒微量 焼土極小塊微量	
2	326	L T42	-	-	0.20	5.86	-	-	-	-	S K P841に切られる
2	334	-	-	-	-	-	-	-	-	-	確認調査時に検出 (第11トレンチ)
2	338	-	-	-	-	-	-	-	-	-	確認調査時に検出 (第11トレンチ)
2	437	MA44	0.21	0.21	0.27	6.17	1 黒色土 (7.5Y2/1)	中	強	礫小微量	柱材
2	464	MA44	0.50 (残存値)	0.30 (残存値)	0.28	6.08	1 暗オリーブ灰色砂 (5G Y3/1)	中	弱	炭化物小粒微量	S K440に切られる S K P669を切る
2	471	L R44	0.50	0.50	0.40	5.76	2 黒色土 (5Y2/1)	弱	弱	炭化物中～極大粒中量	
2	479	MA44	0.30	0.22	-	-	1 黒色土 (7.5Y2/1)	強	中	炭化物極大粒多量	
2	479	MA44	0.30	0.22	-	-	1 オリーブ黒色土～砂 (7.5Y3/1)	弱	弱	炭化物極小～小粒微量 礫小～中少量	S K P540を切る S K P667土層検出
2	480	L T44	0.44	0.40	0.32	5.82	1 黒褐色土 (10Y R2/2)	強	強	炭化物極小粒微量 粘土極小～中塊微量	柱材 礎石
2	490	L T44 L T45	0.62	0.52	0.48	5.76	1 黒褐色土 (10Y R2/2)	中	中	粘土小～大塊微量	礎石
2	508	L T45	-	-	-	5.99	-	-	-	-	柱材のみ
2	510	MA44	0.66	0.60	0.59	5.82	1 黒褐色土 (2.5Y3/2)	強	中	炭化物小粒微量 粘土小塊少量	柱材
2	510	MA44	0.66	0.60	0.59	5.82	2 黒褐色砂 (2.5Y3/2)	弱	中	炭化物小～極大粒中量 植物片少量	
2	515	MA43	0.12	0.15	0.38	5.68	1 黒褐色土 (2.5Y3/2)	弱	弱		S K481を切る S K P517に切られる
2	517	MA43	0.23	0.18	0.26	5.80	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	弱	弱		S K481・S K P515を切る
2	521	L T44	0.36	0.32	0.14	5.97	1 灰色粘土～砂 (7.5Y4/1)	中	強	炭化物極小粒微量	S K527を切る
2	540	MA44	0.08 (残存値)	-	0.10	6.18	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	弱	弱	炭化物小～中粒微量 礫小微量	S K P479に切られる S D637土層検出 S K P667土層検出
2	547	MB43	0.43	0.33	0.11	6.17	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	中	粘土大～極大塊少量 木端中量	礎石 S K P534に切られる
2	587	L R44	0.24	0.21	0.44	5.74	1 オリーブ黒色土 (7.5Y3/1)	弱	強	炭化物極小粒微量 粘土小塊多量	S K588を切る
2	592	L S45	0.29	0.23	0.23	5.84	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	中		
2	612	L T47	0.40	0.34	0.39	5.81	1 黒褐色土 (10Y R3/1)	中	中	礫小微量	
2	613	L T48	0.29	0.24	0.33	5.87	1 黒褐色土 (10Y R3/1)	中	中		
2	629	MB43	0.21 (残存値)	0.32	0.32	5.78	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	中	粘土大～極大粒中量 木端少量	S K P630に切られる
2	630	MB43	0.37	0.28	0.31	5.78	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	中	粘土大～極大塊少量 木端中量	S K616・617を切る S K P629を切る
2	647	MA45	0.21	0.17	0.42	5.68	1 黒色土 (5Y2/1)	中	中	炭化物中～極大粒微量 焼土中～大塊微量 礫小微量	S D640を切る
2	652	MB47	0.30 (残存値)	0.46	0.14	6.05	1 灰色粘土 (5Y4/1)	中	中	炭化物小粒少量	S K P606に切られる
2	652	MB47	0.30 (残存値)	0.46	0.14	6.05	2 黒色土 (5Y2/1)	弱	弱	焼土小塊少量 炭化物小粒少量	
2	653	MA47 MA48	0.58	0.58	0.43	5.74	1 黒色土 (5Y2/1)	中	中	焼土中塊少量 炭化物中粒微量	S K P655を切る
2	653	MA47 MA48	0.58	0.58	0.43	5.74	2 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	強	中	焼土極小塊少量 粘土大塊微量	S B406 P10に切られる
2	660	MB43 MB44	-	-	-	6.01	-	-	-	-	礎板のみ
2	664	MB47	0.60	0.30 (残存値)	0.14	6.01	1 黒色土 (10Y R1.7/1)	中	中	粘土大塊少量	S B406 P16に切られる
2	730	MB46	0.42	0.32	0.33	5.97	1 オリーブ黒色土 (5Y3/2)	中	中		S D640を切る
2	752	L T46	0.34	0.30	0.21	5.90	1 オリーブ黒色粘土～砂 (5Y3/1)	弱	中	炭化物大粒微量 焼土中塊微量・礫小微量	
2	757	L T45	0.41	0.34	0.28	6.19	1 オリーブ黒色土～砂 (5Y3/2)	中	弱	褐色小～極大粒少量	礎石

第11表 南側調査区柱穴様ピット一覧(3)

期	No.	グリッド	規模 (m)			底面標高 (m)	土 色	しまり	粘性	混入物	備 考
			長径	短径	深さ						
2	758	L T 45	0.42	0.37	0.40	5.84	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	弱	褐色極小～小粒少量	礎石
2	841	L T 45	0.61	0.54	0.50	5.59	1 オリーブ黒色土～砂 (7.5Y3/1)	弱	中	褐色極小～中粒少量 礫小微量	礎石
2	972	MB44	0.48	0.40	0.21	5.95	1 オリーブ黒色粘土 (5Y3/1)	中	中	炭化物小～中粒少量	
2	973	MB44	0.38	0.38	0.51	5.59	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	中	木端少量	
2	1270	L T 47	0.50	0.41	0.37	5.89	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	中	褐色土小～中塊中量	
2	1276	MB46	-	-	-	-	-	-	-	-	割栗石のみ S D640上層検出
2	1279	L T 42	-	-	0.15	5.95	1 黒褐色土 (10Y R3/1)	中	中	礫小微量	
2	1282	MA44	-	-	-	6.15	-	-	-	-	割栗石のみ
3	315	L R 42	-	-	0.35	5.88	-	-	-	-	S D331・S K332を切る
3	325	L S 42	-	-	0.35	5.95	-	-	-	-	
3	425	MA44	0.40	0.38	0.49	5.88	1 黒色土 (7.5Y2/1)	中	強	礫小多量	
3	436	MA44	0.31	0.24	0.08	6.27	1 黒色土 (10Y2/1)	強	中		S K440を切る S K P670上層検出
							2 オリーブ黒色土 (7.5Y3/1)	強	強	炭化物小～極大粒中量 礫小微量	
3	459	L T 44	0.20	0.18	0.40	5.76	1 黒色土 (7.5Y2/1)	中	強	礫小多量	S K522を切る
3	462	L S 43	0.44	0.39	0.33	5.91	1 黒色土 (7.5Y2/1)	中	強	礫小多量	
3	482	L S 44	0.42	0.33	0.29	5.90	1 黒褐色土 (10Y R2/2)	強	中	炭化物極小塊微量 黒褐色土極小塊微量 粘土極小塊少量	
3	488	L S 44	0.50	0.42	0.40	5.89	1 黒褐色土 (10Y R2/2)	中	強	炭化物極小塊微量 粘土極小塊微量	柱材 礎板
3	491	L S 44	0.34	0.33	0.36	5.86	1 黒褐色土 (10Y R2/2)	中	中	炭化物小～中粒微量	礎石
3	500	L S 44	0.50	0.42	0.18	5.98	1 黒色砂 (7.5Y2/1)	強	中	炭化物極小～小塊少量 粘土小～大塊微量 暗褐色土極小塊微量	
3	507	L T 44	0.35	0.28	0.17	5.81	1 オリーブ黒色土 (7.5Y4/1)	中	強	炭化物極大塊少量 焼土小粒微量	礎石 S K527を切る
3	512	MA44	0.52	0.26	0.36	5.86	1 暗オリーブ灰色粘土～砂 (2.5G Y4/1)	強	強	炭化物小～大粒少量 礫小微量	柱材 礎石
3	514	L S 44	0.51	0.45	0.31	5.83	1 黒色土 (7.5Y2/1)	強	中	炭化物中粒微量 粘土小塊少量	割栗石
3	516	MA43	0.17	0.14	0.52	5.44	1 黒色土 (7.5Y2/1)	中	中	粘土小塊少量	S K495を切る
3	523	L T 44	0.30	0.26	0.40	5.74	1 灰色粘土～砂 (7.5Y4/1)	強	強	炭化物薄板状微量 焼土極小粒微量	S K527を切る
3	534	MB43	0.41	0.35	0.20	6.10	1 黒色土 (2.5Y2/1)	中	中	粘土小塊少量	S K P547を切る
3	572	L S 44	0.30	0.29	0.45	5.70	1 黒色土 (2.5Y2/1)	弱	強	炭化物極小粒微量	
3	627	MA44	0.45	0.39	0.41	5.63	1 黒色土 (2.5Y2/1)	弱	中	粘土小塊少量	S K600・S K P601を切る
3	628	MB43	0.38	0.38	0.30	5.82	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	中	中	焼土大～極大粒中量 木端少量	
3	1281	MA44	-	-	-	6.25	-	-	-	-	礎板のみ S K456を切る S D637上層検出
4	321	-	-	-	-	-	-	-	-	-	確認調査時に検出 (第11トレンチ)
4	433	MA44	0.22	0.18	0.06	6.30	1 オリーブ黒色土～砂 (7.5Y3/1)	強	中	礫小少量	S K P668上層検出
4	434	MA44	0.32	0.24	0.59	5.77	1 黒色土 (5Y2/1)	強	中	炭化物小～大粒多量 焼土極小～大塊少量	
4	445	L S 44	0.41	0.40	0.36	5.80	1 黒色土 (7.5Y2/1)	強	中	炭化物小～中粒微量 砂小塊少量	
4	449	MB45 MC45	0.37	0.37	0.15	6.10	1 黒色土 (7.5Y2/1)	強	中	炭化物小～中粒微量 粘土小塊少量	礎石
4	450	MC45	0.31	0.13 (残存値)	0.04	6.19	1 黒色土 (7.5Y2/1)	強	中	炭化物小～中粒微量 粘土小塊少量	
4	461	L S 43 L T 43	0.53	0.42	0.37	5.84	1 黒色土 (5Y2/1)	中	中	炭化物小粒微量 粘土小～中塊少量	S K539を切る
4	473	L R 44	0.32	0.30	0.31	5.85	1 黒色土 (7.5Y2/1)	強	中	炭化物小～中粒少量 砂小塊多量	
4	474	L R 44	0.31	0.31	0.36	5.82	1 黒色土 (10Y R1.7/1)	強	中	炭化物小塊微量 焼土極小塊微量	
4	503	L S 44	0.42	0.40	0.08	6.07	1 黒色土 (10Y R1.7/1)	強	中	礫小微量、砂少量	S K P504に切られる
4	504	L S 44	0.42	0.32	0.17	6.01	1 黒色土 (5Y2/1)	強	弱	黒褐色土大塊多量 炭化物極大粒微量 焼土極大塊微量	S K P503を切る
4	537	MA44	0.54	0.38	0.18	6.15	1 黒色土 (5Y2/1)	中	中	炭化物小粒中量 粘土小塊少量	
4	596	L T 43	0.42	0.32	0.15	5.80	1 黒色土 (5Y2/1)	強	弱	黒褐色土大塊多量 炭化物極大粒微量 焼土極大塊微量	S K539を切る
4	603	L T 47	0.40	0.36	0.50	5.73	1 黒色土 (2.5Y2/1)	中	中	炭化物極小～小粒多量 焼土小～中塊微量	S B406 P5を切る
4	606	MA47 MB47	0.66	0.60	0.38	5.96	1 黒褐色土 (10Y R3/1)	中	中	炭化物極小～小粒微量 礫小微量	柱材 陶器を礎石に転用 S D640・S K P652を切る
4	607	L S 42 L S 43	0.24	0.23	0.22	5.64	1 黒色土 (5Y2/1)	弱	中	木片中量、礫小微量 暗オリーブ砂微量混入	S K539を切る
							2 黒色土 (5Y2/1)	中	中		
4	635	L T 47 L T 48	0.42	0.41	0.33	5.81	1 黒褐色土 (10Y R3/1)	中	中	炭化物極小～小粒微量 礫小微量	S B406 P4を切る S K528・610を切る

第12表 南側調査区柱穴様ピット一覧(4)

期	No.	グリッド	規模 (m)			底面標高 (m)	土 色	しまり	粘性	混入物	備 考
			長径	短径	深さ						
4	656	MB47 MB48	0.45	0.34	0.45	5.69	1 オリーブ黒色土～砂 (5Y3/2)	中	弱	焼土小塊微量 炭化物小粒微量	S K P 655を切る
							2 灰色土 (5Y4/1)	中	中		
4	717	MA48	-	-	-	6.28	-	-	-	礎石のみ	
4	718	MA47	-	-	-	6.38	-	-	-	割栗石のみ	
4	719	MA48	0.22	0.21	0.25	5.86	1 黒色土 (5Y2/1)	弱	中	-	
4	722	MA47 MA48	0.33	0.26	0.28	5.79	1 灰色土 (5Y4/1)	弱	弱	焼土小塊多量 炭化物小粒中量 黒色土小塊中量	S K P 720を切る
4	760	L S 45	0.36	0.33	0.18	5.62	1 黒褐色土～砂 (2.5Y3/2)	中	弱	褐色土極小～小粒少量	礎石
4	764	L S 45 L T 45	0.38	0.36	0.33	5.85	1 オリーブ黒色土～砂 (5Y3/1)	中	中	礫小微量	
4	766	L S 45	0.43	0.40	0.27	5.92	1 黄灰色土 (2.5Y4/1)	強	強	炭化物薄板状微量	
4	829	L T 45	0.40	0.27	0.43	5.85	1 オリーブ黒色土 (5Y3/1)	弱	中	黒色土小塊中量 炭化物小粒微量	礎石
4	1280	MA44	-	-	-	6.30	-	-	-	-	割栗石のみ S K 456を切る

第3節 出土遺物

1 古代の遺物

甕と思われる須恵器片が出土している。数は少なく4点のみの出土である。江戸時代の盛り土の中から出土していることや、古代の遺構がないことから、盛り土を造成する際に、そのまま他所から運ばれてきたと思われる。

2 中世の遺物

中国産輸入青磁が出土している。

14世紀の中国龍泉窯産青磁碗が出土している。外側は、篋搔き蓮弁文である。遺跡に住んだ屋敷主の祖先も中世では一城の主で財力もあったであろうから、先祖伝来の伝世品である可能性が高い。

3 安土桃山時代の遺物

(1) 陶器

肥前産陶器および瀬戸美濃産陶器、備前産陶器が出土している。

肥前産陶器では、碗・皿（胎土目積み段階）が一定量出土した。皿には鉄絵を描いた、いわゆる「絵唐津」が含まれている。

瀬戸美濃産陶器では、天目茶碗・志野皿・織部焼皿などが出土している。

備前焼では、大型の甕の他、播鉢が出土している。

(2) 磁器

中国産磁器が出土している。淡い絵で豊付けの釉薬が泡状になり、それに石が付着している漳州窯産や、絵が漳州窯産と比較すると明瞭で、豊付けが削り出しにより尖っている景德鎮窯産の皿が出土している。

4 江戸時代の遺物

(1) 陶器

大部分は肥前産陶器が占めているが、瀬戸美濃・京・萩・信楽・備前・堺・越前・関西系・在産地とするものなど、多種多様の遺物が出土している。

器種は碗・皿・鉢・瓶・甕・壺・片口・播鉢などが主体で、灰落し・硯屏・水滴といったものも出土している。肥前産皿では、砂目積み溝縁皿が多量に出土し、高台の削り出しを省略した糸切り離しが見受けられる。その他には刷毛目文や二彩手・三島手の他、内野山窯産の輪禿の銅緑釉皿、京焼風陶器なども出土している。溝縁皿には、灯明皿として使用されているものもある。播鉢は肥前産の他、

瀬戸美濃産、堺産も見受けられる。また、在地系では寺内焼や白岩焼の系統である甕や鉢などが江戸後期になると出土するようになる。

古川堀反町遺跡出土陶器の特徴として、天目碗や織部焼皿などの茶器の割合が非常に高く。遺跡内の住人は高い教養の持ち主であることが想像される。

(2) 磁器

景德鎮窯産や漳州窯産磁器皿などの他、呉須赤絵による清朝磁器碗などの輸入磁器が若干出土している他は肥前産磁器であり、波佐見産磁器も一定量含む。青磁・白磁の他、大多数は染付で、色絵も初期色絵（古九谷様式）や柿右衛門様式などがいくらか出土している。波佐見産は初期青磁の他、「くらわんか」手が一定量出土している。江戸後期の瀬戸美濃産磁器も出土している。

器種は多岐にわたり、碗・皿・猪口・鉢・瓶・壺などの他、段重・仏飯器・鬘盥・灰落し・油壺・人形・水滴なども出土している。皿はロクロ成形の他、型押しや糸切り成形がある。初期伊万里皿が一定量出土していることから、日本海海運を通じて運ばれてきたことがわかる。

古川堀反町遺跡出土時期の特徴として、江戸時代後期の碗の型に広東碗と端反碗があるが、広東碗の出土数は、端反碗と比較して少ない印象を受ける。

(3) 土製品

かわらけ・焙烙・焜炉・火鉢・脚風呂・土錘・人形などが出土している。

かわらけは、ロクロ成形で回転糸切りの他、それに金箔を施したものや、内側底部に模様を施した白塗りのものもある。他には、手びねり成形の物や肘打ちによる型打ち成形のものも確認している。いずれも灯明皿として使用されていたと思われ被熱痕が付いている割合が高い。

脚風呂は、秋田特有のものであり、荻津勝孝筆の『秋田風俗絵巻』にも、脚風呂を使用して、貝焼きを食べる男性の絵が確認できる。在地で製造されたものであり、「八橋」といった久保田城下の地名や「小玉」といった制作者か店名とおぼしき刻印もあるが、中には『根元氏』（本来は根本氏）と墨書で記されたものも出土している。出土した層序や遺構の年代から判断して、江戸時代後期に普及した文化であると思われる。

(4) 石製品

硯や砥石・石臼が出土している。

(5) 木製品

木製品は、漆器・曲物・桶・篋・櫛・下駄・木像・農具・木簡などが出土している。

出土した漆椀のほとんどには、家紋が描かれており、小野岡氏や細川氏の家紋とおぼしきものや、姻戚関係と思われる他家の家紋の入ったものまで出土している。

下駄では、連歯下駄・削り下駄・陰卯下駄や現在では製造されていない露卯下駄などの種類の下駄が出土している。露卯下駄から陰卯下駄の転換は1800年前後と古泉氏は定義しているが、秋田ではさらに遅く、19世紀中葉まで下るものと推測される。

第4章 調査の記録

木像では、こけし状に彫られたものや、権現舞に用いられる獅子頭などが出土している。

木簡では、絵図によれば遺跡内に屋敷を構えていた「小野岡大和」の名が墨書で記されたものの他、「川上」や「川井」・「長谷川」・「長五郎」といった人名や三梨村や上亀町など今に残る地名などが記され、文献では未だ発見されていない秋田の支配体制や生活などを探る材料となる。

(6) 金属製品

金属製品では、小柄・鉄砲玉・切羽といった武具の他、煙管などの嗜好品、耳かき・灯明皿・火箸・鉄鍋片などの生活用品の他、銅銭が出土している。

煙管は古泉氏の編年と比べて、江戸時代全般の形が万遍なく出土している。

銅銭は、寛永通宝が大部分を占めるが、それに混ざって明銭や宋銭も出土している。数ある寛永通宝の中から1点だけであるが、元文二(1737)年に、秋田藩が幕府から久保田川尻村(現在の秋田市川尻、秋田刑務所)に鑄銭所を設置する許可を得て、翌年より延久二年(1745)までの七年間操業した際に鑄銭され、「永」の字のはね具合に特徴がある通称「川尻銭」が出土している。

(7) その他

瓦は破片であるが、かなりの量が出土している。軒瓦には「左三巴紋」が施されたものを2点確認している。瓦に記された巴紋は、水に由来し、防火の縁起をかついだものである。

※肥前産陶磁器については、大橋康二氏の編年を元に、Ⅰ期を1580年代～1600年代、Ⅱ期を1600年代～1650年代、Ⅲ期を1650年代～1690年代、Ⅳ期を1690年代～1780年代、Ⅴ期を1780年代～1860年代とした。挿図に関して、2時期や3時期にまたがる遺物については、上限や中心に生産された時代をあてている。また漆椀の編年については、『図説江戸考古学事典』に掲載されているものを、煙管は同書掲載の古泉弘氏の編年を参照した。

引用・参考文献

秋田県教育委員会『東根小屋町遺跡－秋田県教育・福祉複合施設整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』秋田県文化財調査報告書第387集 2005(平成17年)

大橋康二『考古学ライブラリー55 肥前陶磁』ニューサイエンス社 1989(平成元年)年

九州近世陶磁学会『九州陶磁の編年』2000(平成12)年

江戸遺跡研究会編『図説江戸考古学事典』柏書房 2001(平成13)年

金森正也『「秋田風俗絵巻」を読む』無明舎出版 2005(平成17)年

並木誠士監修『すぐわかる日本の伝統模様』東京美術 2006(平成18)年

佐藤清一郎『秋田貨幣史』みしま書房 1972(昭和47)年

永井久美男『新版中世出土銭の分類図版』高志書院 2002(平成14)年

日本貨幣商協同組合『日本貨幣カタログ2005』紀伊国屋書店 2005(平成17)年

東京都生涯学習文化財団『汐留遺跡Ⅱ－旧汐留貨物駅跡地内の調査－』東京都埋蔵文化財センター調査報告書第79集 2003(平成15)年

第13表 遺物出土遺構一覽表(1)

遺構名	磁器点数 (重量g)		陶器点数 (重量g)		瓦点数 (重量g)		土製品点数 (重量g)		金属製品 ◎釘、鉄塊	木製品 ◎下駄、椀、碗等 ◎柱材、板材(礎板) ◎板材(礎板) ◎柱材、板材(礎板) ◎下駄、家屋材、箸等	石製品	動物遺体 ◎獸骨、鳥骨、魚骨等	植物遺体 ◎モモ、スモモ、ウメ等 ◎モモ、スモモ、クルミ ◎カボチャ	備考 S K 813、S K 814、S K 894と接合	
	磁器点数 (重量g)	陶器点数 (重量g)	瓦点数 (重量g)	土製品点数 (重量g)											
S D 01	122(1,308)	14(1,106)	1(97)	14(609)	◎釘、鉄塊	◎下駄、椀、碗等									
S A 03 P 1		1(11)													
S A 03 P 2	2(23)	1(9)													
S A 03 P 3	4(31)	2(462)													
S K P 102		1(150)													
S D 316	45(484)	4(195)		1(118)	◎鍋、鏝 ◎針金										
S K P 321	2(2)														
S K P 326	2(17)														
S K 330															
S K P 334	1(5)	2(26)													
S K P 338		1(120)		1(140)											
S K P 347	2(81)	5(34)													
S B 406 P 2										◎板材(礎板)					
S B 406 P 5		1(5)													
S B 406 P 6		3(48)													
S B 406 P 10		2(40)													
S B 406 P 11		3(21)													
S B 406 P 15				25(116)											
S B 406 P 16		1(11)													
S B 406 P 17		11(302)													S B 406 P 10と接合
S B 406 P 20		1(3)													
S K 424	104(775)	21(587)		7(79)	◎銭貨										
S K P 425	1(11)	3(26)													
S K 430	155(1,271)	111(4,777)		54(1,366)	◎鍋(口縁部)、釘					◎蓋・底					
S X 431	6(22)	5(100)													
S D 432	123(2,243)	22(1,001)		26(813)						◎蓋・底、下駄、碗					
S K P 433															
S K P 436		1(8)													
S K P 437		1(135)													
S K 440		3(204)													
S K P 445	3(19)	1(10)		2(444)											
S K P 450	1(4)														
S A 451 P 1		1(11)								◎板材(礎板)					
S A 451 P 3	1(6)	2(110)								◎柱材					
S A 453 P 2				1(8)						◎柱材					
S A 453 P 3		1(10)								◎柱材					
S A 453 P 4										◎曲物、椀、柄杓等					
S K 456	30(4,959)	147(8,929)		1(109)	◎釘					◎獸骨					S D 458、S K 539と接合
S D 458	167(2,408)	191(14,310)		33(2,103)	◎銭貨、壱管、釘					◎下駄(露?・蔭?) 樽蓋・底 ◎砥石、石臼?					S K 456、S K 591、S K 850と接合
S K P 462	2(20)	4(50)								◎碗					
S X 468	10(27)	12(95)		1(4)						◎人形					
S K P 471	1(11)														
S K P 480	2(14)	1(13)													
S K 481	38(1,092)	57(4,573)		9(466)						◎碗					
S K P 488		1(75)													S K 971と接合

第14表 遺物出土遺構一覧表(2)

遺構名	磁器点数 (重量g)		陶器点数 (重量g)		瓦点数 (重量g)		土製品点数 (重量g)		金属製品	木製品	石製品	動物遺体	植物遺体	備考
	1(13)	1(6)	1(43)	1(43)	1(43)	1(43)	1(43)	1(43)						
SKP491	1(13)													
SKP501	1(6)				1(43)									
SKP510	2(2)													
SKP514				1(810)										
SKP515	3(7)													
SKP521				1(14)										
SK527				1(27)										
SKP529				1(60)										
SKP534					1(290)									
SD536	4(15)	1(3)					1(5)							
SKP539	1(4)				6(950)								◎モモ、クルミ	
SKP545	1(9)									◎下駄				
SKP550				1(260)										
SKP559					1(583)					◎柱材				
SKP585														
SKP587	5(51)	5(49)												
SQ589	1(9)	2(127)												
SK590	2(4)	1(90)												
SK591	107(2,219)	64(1,901)					1(31)			◎鏡、箸、柱材等				S K 456と接合
SE589	3(19)	2(92)												
SK600	14(253)	3(169)								◎樹、銅蓋、箸				
SKP601										◎箸				
SKP606				1(400)										
SK608				5(331)										
SKP609				1(42)										
SK610	1(15)	2(21)	1(94)											◎モモ
SKP615				1(11)										
SK616	1(2)	11(75)												◎鳥骨
SA620P1				12(302)						◎下駄、串				
SA620P2	1(8)	1(170)												
SA620P3		1(19)												
SA620P5		1(48)												
SA624P1										◎柱材				
SA624P5										◎柱材				
SKP626	1(1)	2(37)												
SKP628	2(29)	2(22)								◎椀				
SKP629										◎椀				
SKP630														
SKP632	1(10)	3(10)								◎釘				
SK636				2(64)										
SD637		1(5)												
SD640		3(180)								◎椀				
SKP655		1(33)								◎下駄				
SKP656		1(52)								◎下駄				
SKP659		1(13)												
SK674		3(964)								◎椀				
SK675	23(295)	19(901)	4(1,102)							◎椀				◎鳥骨
SA676P3										◎下駄、不明				
SA680P2										◎板材(鏡板)				
SK682	25(396)	15(1,900)								◎柱材				
										◎椀				S K 813と接合

第15表 遺物出土遺構一覽表(3)

遺構名	磁器点数 (重量g)		陶器点数 (重量g)		瓦点数 (重量g)		土製品点数 (重量g)		金属製品	木製品	石製品	動物遺体	植物遺体	備考
	磁器点数 (重量g)	陶器点数 (重量g)	瓦点数 (重量g)	土製品点数 (重量g)	金属製品	木製品	石製品	動物遺体						
S K 683	17(725)	20(415)	1(770)	10(396)					◎下駄、蓋・底、箱の一部					
S D 684	19(195)	13(1,267)		1(29)										
S K 688		4(938)												
S D 701	3(8)	1(13)						◎煙管						
S K 708			4(440)											
S A 710 P 1									◎板材(礎板)					
S A 710 P 2									◎板材(礎板)					
S A 710 P 3	28(75)	3(17)							◎板材(礎板)					
S A 710 P 4		1(9)							◎柱材					
S K 712	83(1,132)		39(1,919)	9(1,925)					◎下駄、篋、櫛、櫛等		◎貝殻			S D 801、S K 814と接合
S A 735 P 12	6(14)	6(36)												
S K P 736	2(5)	3(5)												
S K P 740	1(3)	1(3)							◎釘					
S K P 741									◎釘					
S K 751	11(196)	15(484)							◎下駄、櫛			◎クルミ		
S K P 752	1(2)													
S K P 764	1(3)	3(60)												
S K P 766	2(4)	1(3)												
S A 783 P 2	1(37)		1(38)											
S K 786	13(125)	11(384)							◎下駄、人形、櫛等					
S D 787	65(922)	36(2,266)		1(11)					◎下駄、櫛、加工木製品					
S D 790	11(66)	17(1,256)							◎櫛					S K 813と結合。
S D 791	6(26)	11(732)		1(64)										
S D 792	2(6)	11(625)												
S D 801	169(1,565)	134(8,724)	10(1,470)	34(443)									◎クルミ	S K 712、S K 814と接合
S N 803	1(12)													
S K 804	2(16)	3(605)		3(16)										
S B 810 P 4		16(88)												
S B 810 P 5		1(9)												
S B 810 P 9			1(388)											
S B 810 P 10									◎柱材					
S B 810 P 11									◎板材(礎板)					
S B 810 P 12		4(21)							◎柱材					
S B 810 P 13		5(44)												
S B 810 P 15	1(1)	1(8)							◎煙管					
S B 810 P 21		3(27)							◎銭貨					
S B 810 P 23		2(43)							◎柱材					
S B 810 P 24									◎柱材					
S B 810 P 25		3(28)												
S B 810 P 26		2(38)										◎獣骨		
S B 810 P 27									◎柱材					
S B 810 P 29		7(861)							◎篋					S K 850と接合
S B 810 P 30									◎板材					
S B 810 P 32									◎柱材					
S B 810 P 35									◎柱材					
S B 810 P 36									◎柱材					
S B 810 P 37									◎柱材					
S K P 811			1(2)											

第16表 遺物出土遺構一覧表(4)

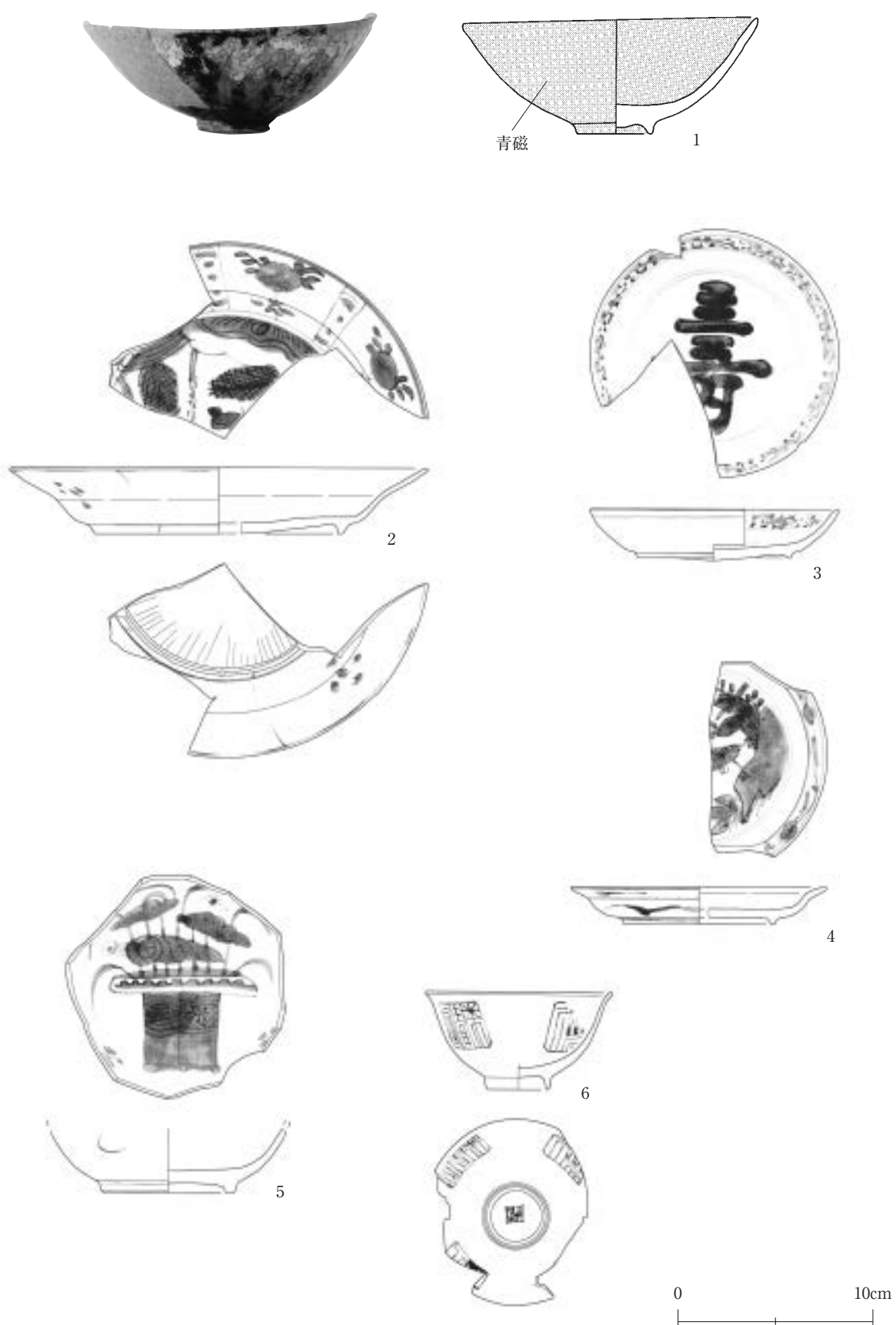
遺構名	磁器点数 (重量g)		陶器点数 (重量g)		瓦点数 (重量g)		土製品点数 (重量g)		金属製品	木製品	石製品	動物遺体	植物遺体	備考
S K 813	105(1,297)	92(6,570)	84(11,880)	4(36)	◎鏡貨、小柄刀、鏢等	◎銀葉、人形、加工木製品等						◎モモ、スモモ、ウメ等		S D 790、S K 682と結合。
S K 814	459(9,173)	344(47,525)		208(16,733)	◎鏡貨、鉄鏢、切羽、灯 火具、火箸等	◎樽、家具、膳具、下駄、 木簡、椀等						◎モモ、ウメ、クルミ等		S D 01、S D 801、S K 712、S K 850、S K 894、S K 895、S K 960 と結合
S X 815					◎釘	◎人形								
S A 817 P 12						◎板材								
S D 822	1(68)	5(193)	1(289)		◎鉄塊	◎桶、串								
S A 823 P 1						◎板材(礎板)								
S A 823 P 2						◎板材(礎板)								
S A 823 P 3						◎柱材、板材(礎板)								
S A 823 P 4	1(13)	2(56)				◎板材(礎板)								
S A 823 P 5						◎柱材、板材(礎板)								
S A 823 P 6						◎柱材、板材(礎板)								
S A 823 P 7						◎板材(礎板)								
S A 823 P 8						◎板材(礎板)								
S A 823 P 9						◎柱材、板材(礎板)								
S K 825	96(594)	52(3,718)		7(272)	◎鏡貨、膳管、金具(カギ型)	◎木簡、三宝、椀、い等								
S K 833	10(457)	7(514)	1(73)	2(46)		◎桶、篋						◎スモモ		
S K 834		3(98)	1(227)											
S B 838 P 4						◎柱材								
S B 838 P 5						◎柱材								
S A 839 P 5						◎柱材								
S K P 841														
S K 848	3(6)	9(388)		1(6)										
S K 849	5(50)	3(119)		3(119)										S B 810 P 5、S K 958と結合
S K 850	3(16)	38(6,577)		3(16)										S D 458、S B 810 P 29、S K 814と結合
S K P 851	1(4)	2(9)		2(9)										
S K P 855	1(13)													
S K P 892	3(15)	1(13)		1(13)										
S D 883		1(331)		2(380)										
S K 894	249(4,278)	71(5,851)		30(1,180)	◎取っ手、煙管、不明	◎木簡、家屋材、調理具等								S D 01、S K 895、S K 960と結合
S K 895	65(516)	44(2,178)		8(211)	◎釘、灯芯抑え?	◎蓋・底								S K 814、S K 894、S K 960と結合
S K P 898						◎下駄								S K 981と結合
S X 900	18(306)	14(970)		3(132)	◎灯明皿									
S K P 901		34(2,993)		1(25)										
S D 913		15(437)		3(1,200)										
S A 915 P 1		1(86)												
S A 915 P 3														
S K P 921	1(6)					◎柱材								
S A 930	1(9)	1(13)												
S K P 939	2(35)	2(853)												
S K 940	6(62)	5(128)			◎鏡貨、さっぽ釘									
S D 948	2(17)	4(377)				◎下駄、桶、篋								◎鏡貨、鳥骨
S K 949	2(3)					◎篋								
S K 950						◎蓋・底								
S K P 951	9(167)	2(846)				◎串								
S K 956	35(295)	8(624)		2(26)		◎下駄、桶、篋								
S K 958	16(60)	16(603)		3(18)		◎桶、蓋?、羽子板、串、箸等								S B 810 P 5、S K 848と結合

第17表 遺物出土遺構一覽表(5)

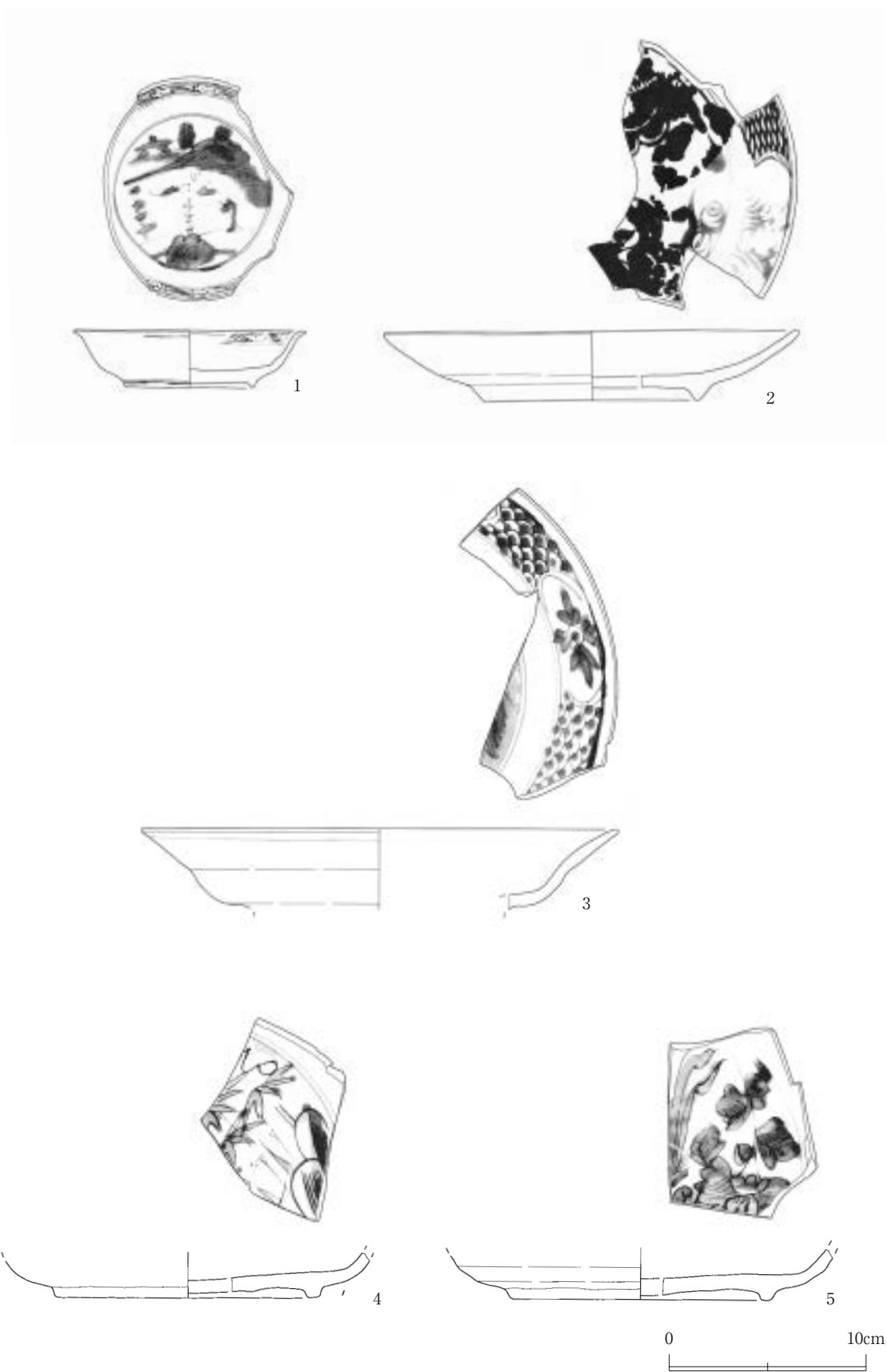
遺構名	磁器点数 (重量g)		陶器点数 (重量g)		瓦点数 (重量g)		土製品点数 (重量g)		金屬製品	木製品	石製品	動物遺体	植物遺体	備考
	28(358)	204(2,526)	15(2,004)	1(7)	4(92)	4(92)	2(30)	2(67)						
S K 960										◎椀、加工木製品等				S K 814、S K 894、S X 900と接合
S K P 968														
S K 971										◎椀、蓋・底	◎眼(小)			S K 481、S K P 901と接合
S K P 976														
S D 989										◎不明	◎砥石			
S A 990 P 2										◎柱材				
S A 990 P 3										◎柱材				
S A 1012 P 4										◎板材(礎板)				
S K P 1022														
S B 1026 P 2														
S B 1026 P 6														
S B 1026 P 9														
S B 1026 P 10														
S B 1026 P 11										◎柱材				
S B 1026 P 12										◎柱材、曲物				
S B 1026 P 14														
S B 1026 P 15										◎柱材				
S B 1026 P 17										◎柱材、椀蓋				
S B 1026 P 18										◎柱材				
S B 1026 P 19										◎柱材				
S B 1026 P 20														
S K P 1036														
S K P 1040														
S D 1100														
S K P 1117														
S K 1122										◎下駄				
S K P 1155														
S K P 1156														
S K P 1157														
S K P 1158														
S K P 1160														
S K P 1163														
S A 1185 P 1										◎板材(礎板)				
S A 1185 P 2										◎板材(礎板)				
S A 1185 P 3										◎板材(礎板)				
S K P 1195														
S K P 1207														
S D 1212														
S B 1233														
遺構内総数	2,838(44,465.5)	2,051(154,866)	165(22,445)	515(28,075)										

第18表 遺物出土遺構一覧表(6)

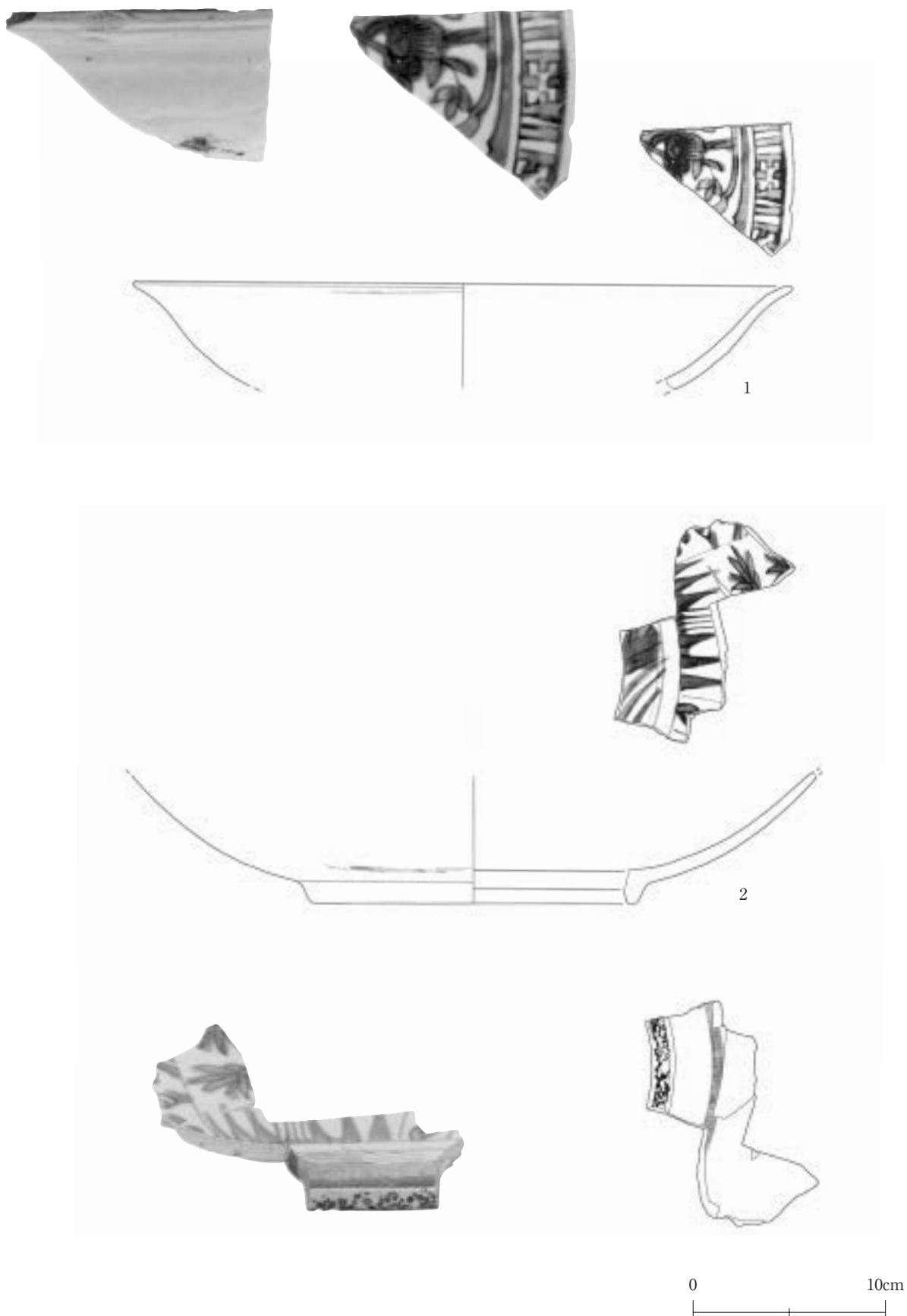
遺構名	磁器点数 (重量g)		陶器点数 (重量g)		瓦点数 (重量g)		土製品点数 (重量g)		金属製品		木製品		石製品		動物遺体		植物遺体		備考
北側調査区I層	(4,106)	(10,314)	(175)	(2,353)					◎銅(取っ手の穴)、煙管・釘	◎樹、銅蓋	◎砥石								
北側調査区II層	(11,859)	(19,419)		(3,058)					◎銭貨、鉄板状、鏝等	◎下駄、人形、蓋・底等	◎硯(小)、碁石、砥石								
北側調査区III層	(3,851)	(10,286)	(3,320)	(1,338)					◎銭貨、釘、銅?	◎下駄、椀									
北側調査区IV層	(146)	(408)	(730)							◎椀									
北側調査区IV・V層	(3,171)	(7,435)	(334)	(744)					◎銭貨、火箸、銅具等	◎人形、羽子板、加工木製品等									
北側調査区表探	(34,259)	(59,967)	(89,840)	(11,551)					◎銭貨、小柄(鞘)、鉄砲玉等	◎樽蓋、家屋材、囲炉裏用カギ等	◎硯、碁石、石灯籠等						◎モモ、ウメ、スモモ等		
北側調査区攪乱		(124)							◎鉄塊										
旧土手長町II層	(11)	(35)	(16)																
旧土手長町表探	(1,920)	(2,748)	(33)	(2,271)															
南側調査区I・II層	(14,945)	(33,246)	(7,870)	(5,186)					◎銭貨、彫金、銅版等	◎箸箱、木簡、鏡等							◎モモ、スモモ		
南側調査区II層	(18)																		
南側調査区III～V	(2,144)	(8,378)	(1,504)	(22)					◎釣針、煙管、柄杓の柄部分、切羽等	◎下駄、独楽、椀等									
南側調査区表探	(34,326)	(73,552)	(35,412)	(9,115)					◎銭貨、耳かき、匙等	◎箸、椀、杵、人形等	◎硯、砥石、碁石等						◎クルミ、モモ		
南側調査区攪乱	(427)	(251)	(205)						◎釘?	◎椀、下駄、蓋・底、加工木製品							◎貝殻		
表探	(3,224)	(5,411)		(39)					◎灯明皿取っ手、煙管	◎蓋・底	◎砥石						◎貝殻		
遺構外総数	(114,407)	(231,574)	(139,423)	(35,693)															



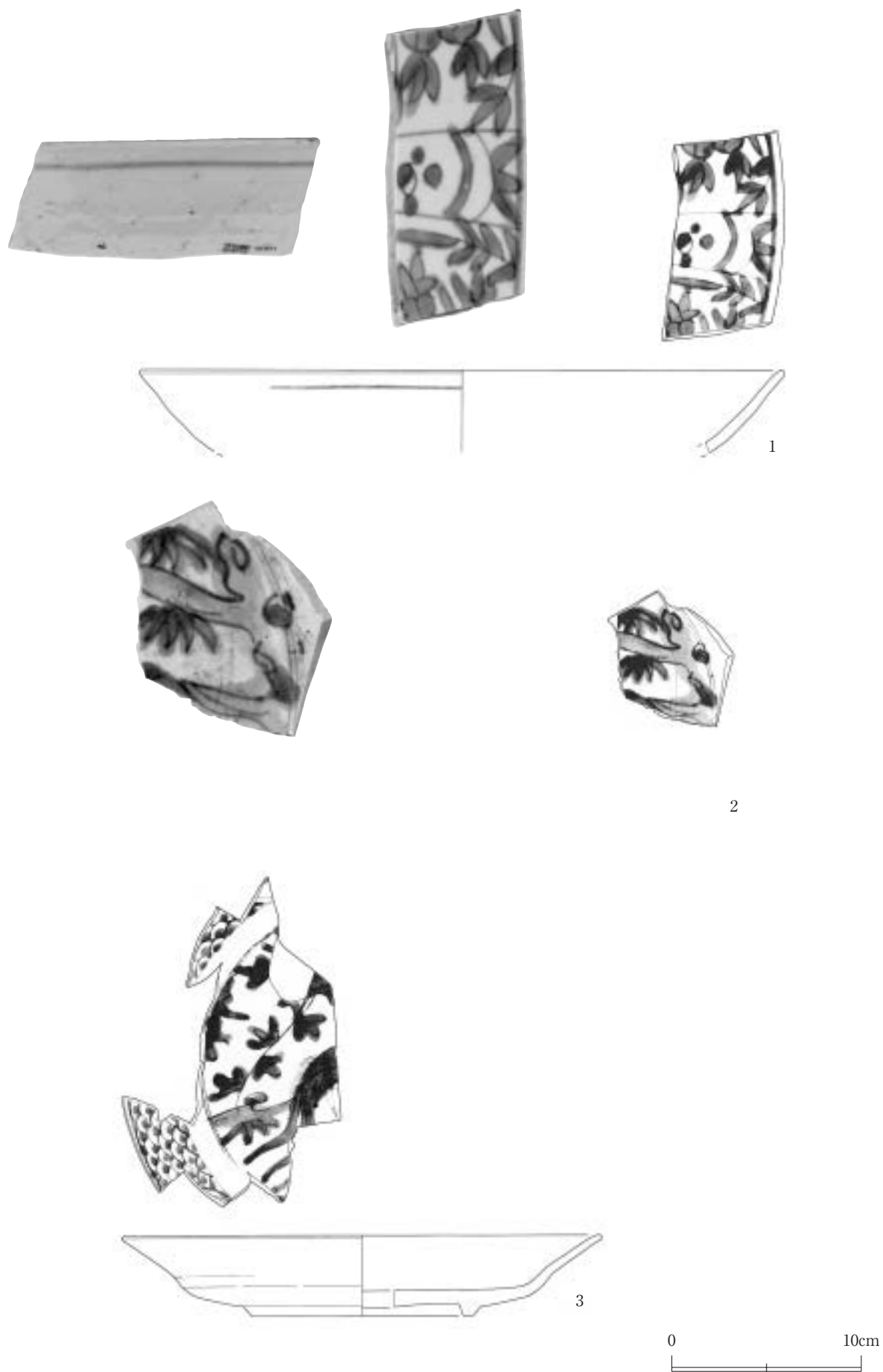
第50図 中国産磁器 龍泉窯・景德鎮窯



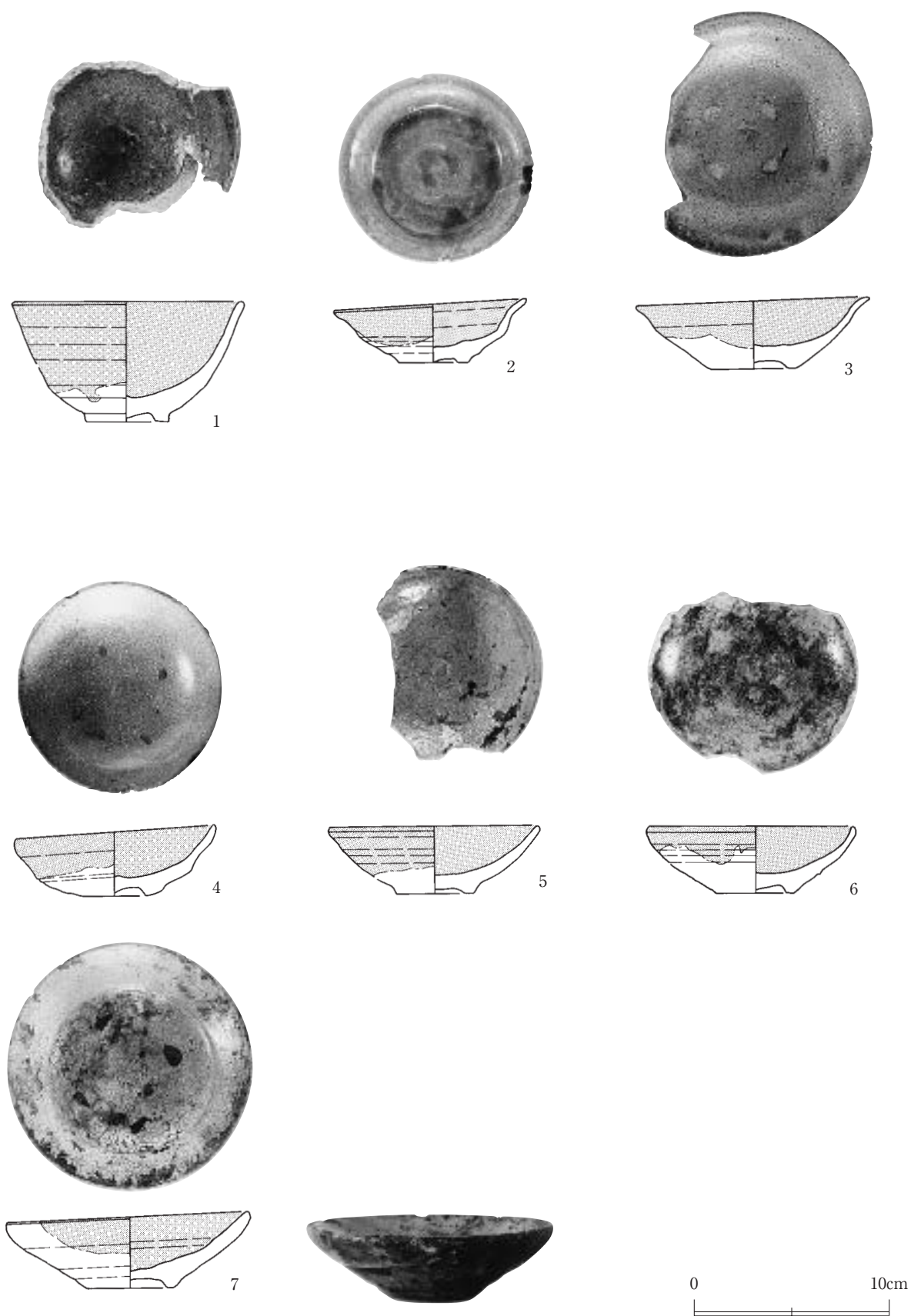
第51図 中国産磁器 漳州窯（1）



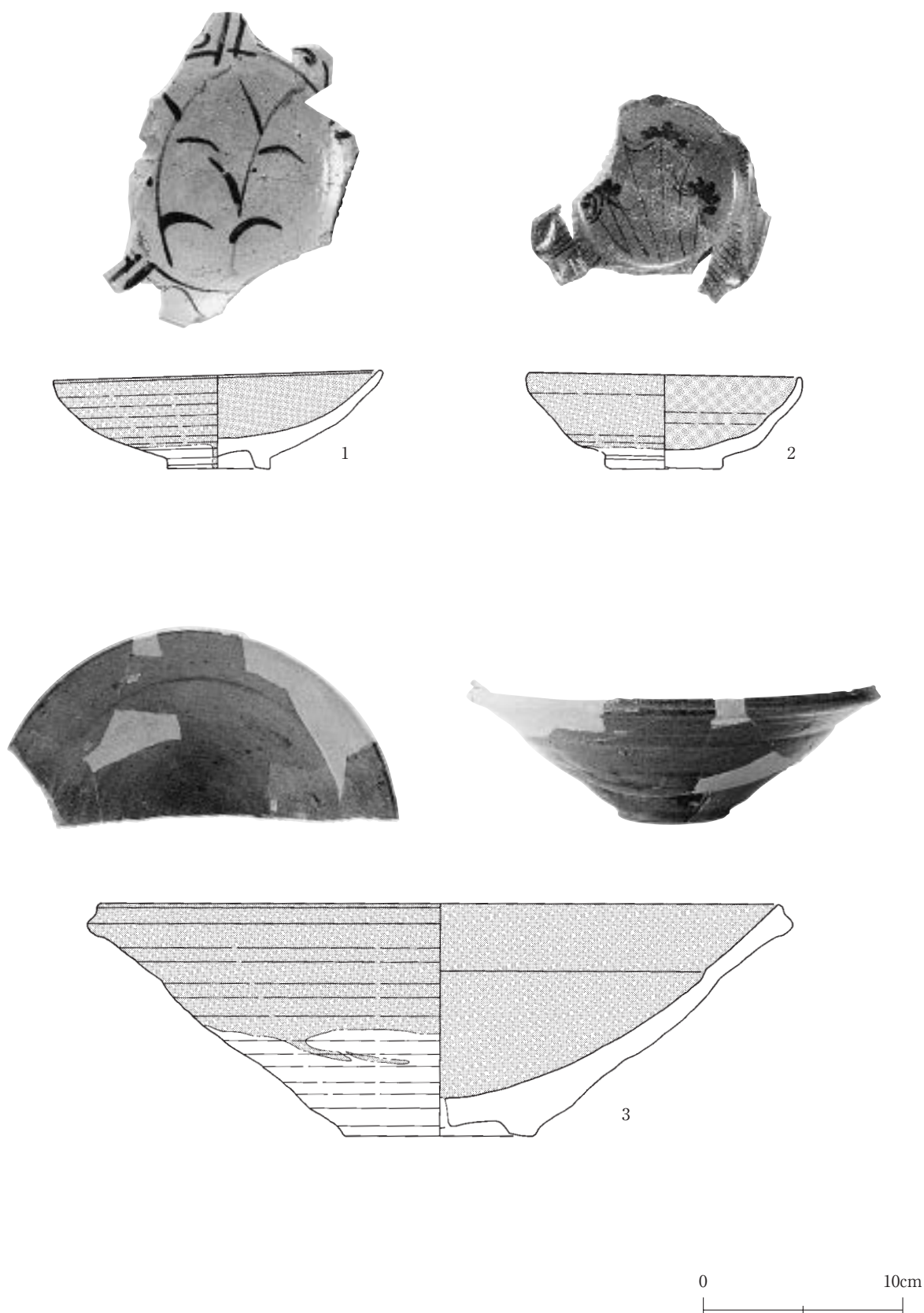
第52図 中国産磁器 漳州窯 (2)



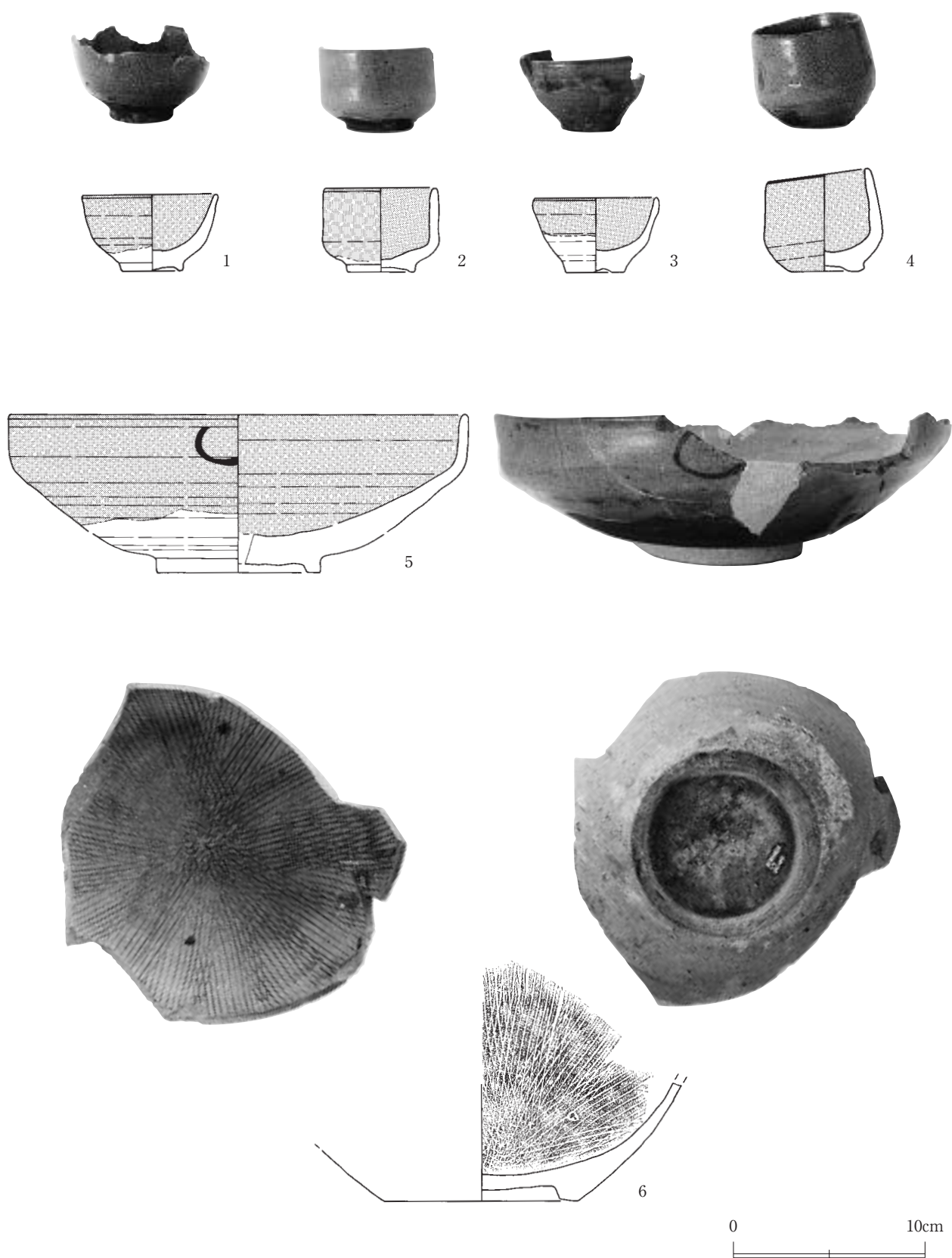
第53図 中国産磁器 漳州窯 (3)



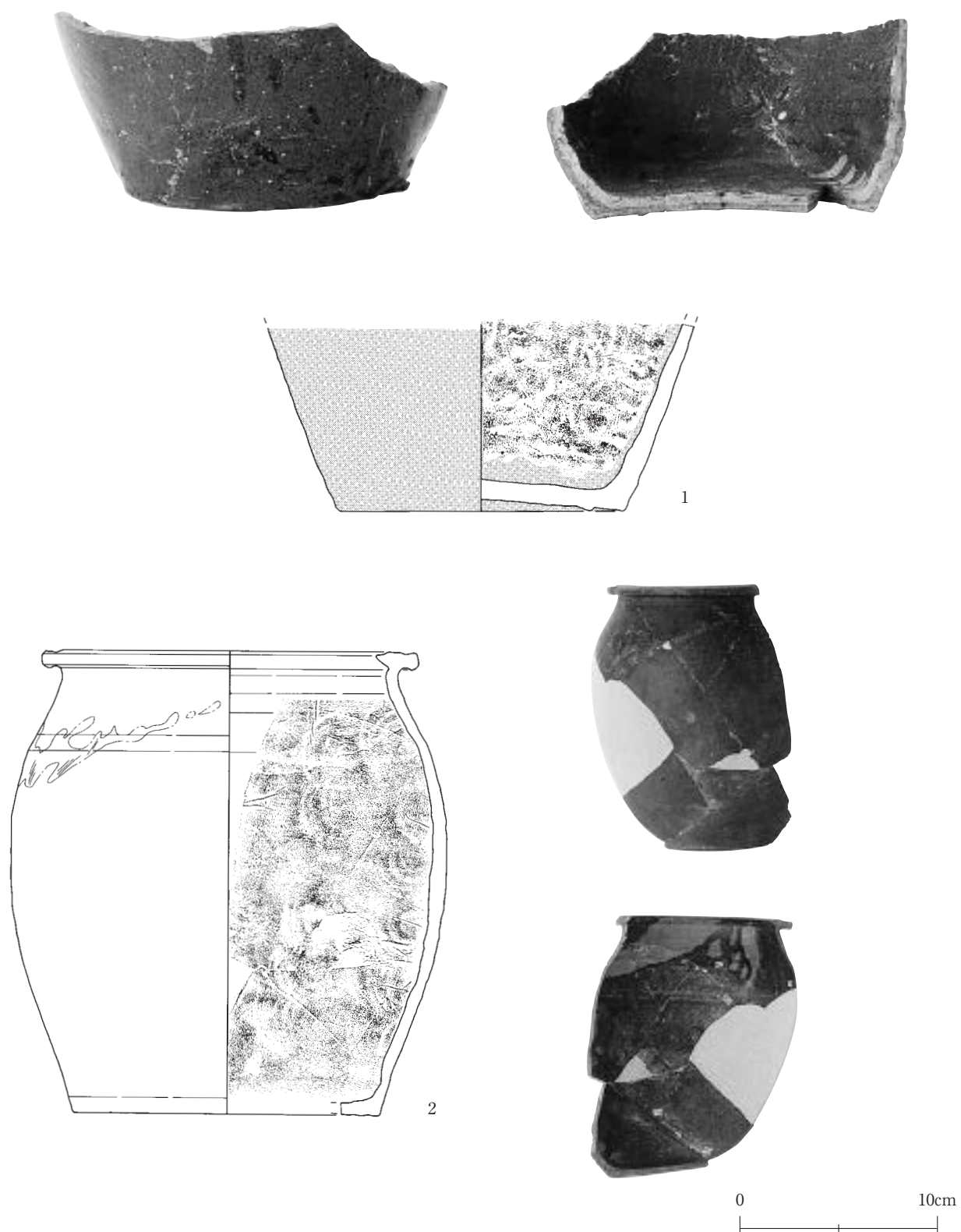
第54図 肥前産陶器 第I期 (1)



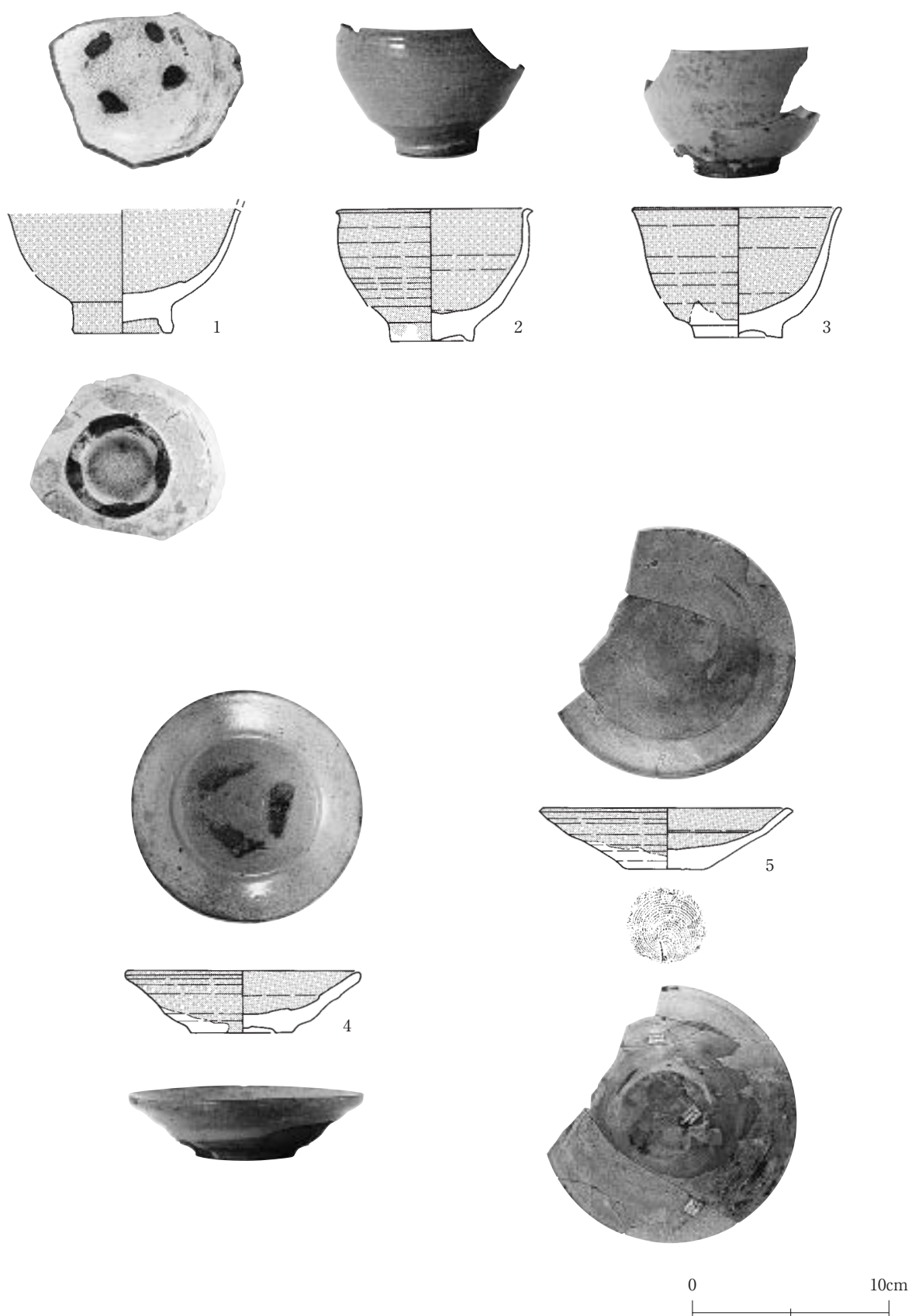
第55図 肥前産陶器 第I期(2)



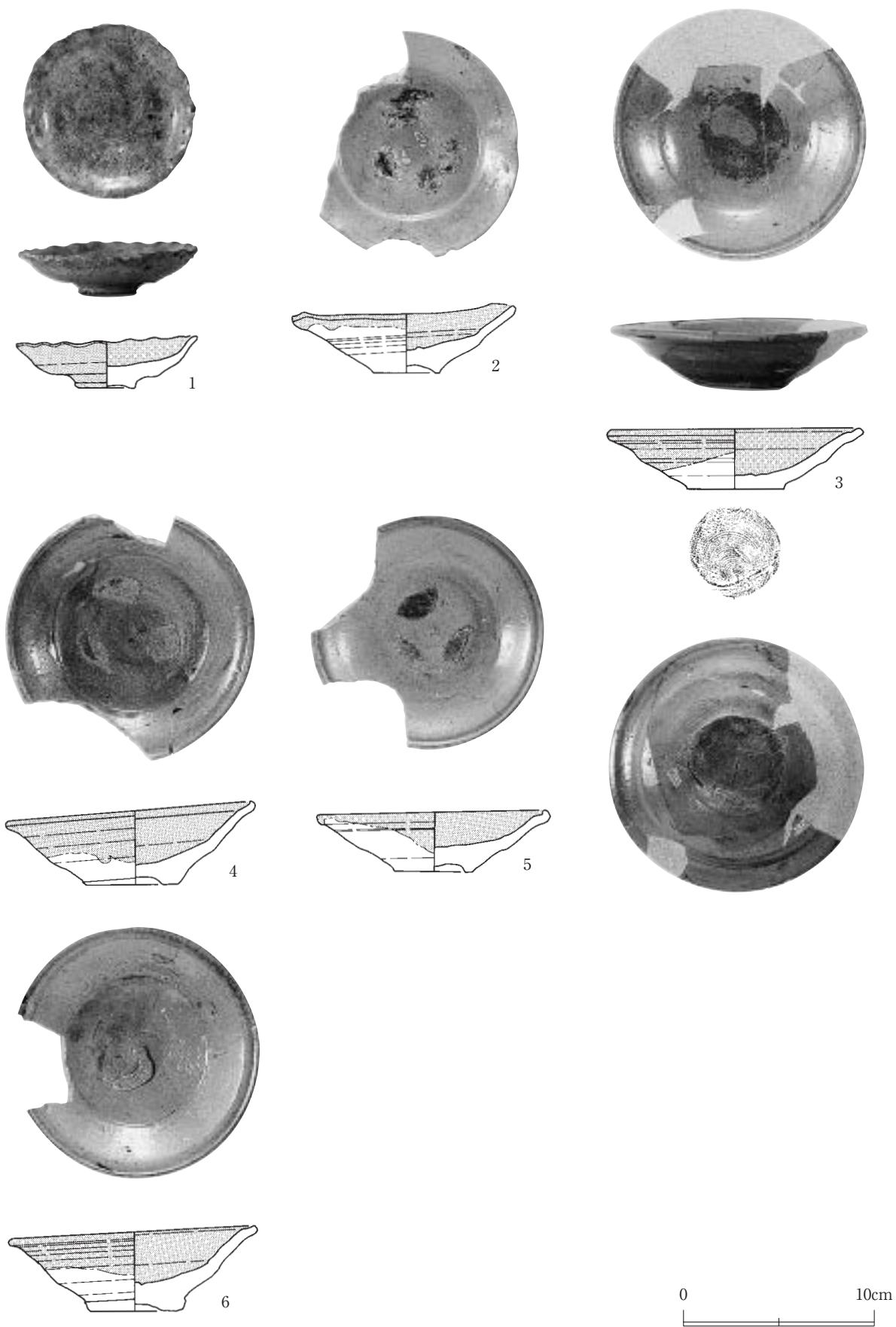
第56図 肥前産陶器 第I期 (3)



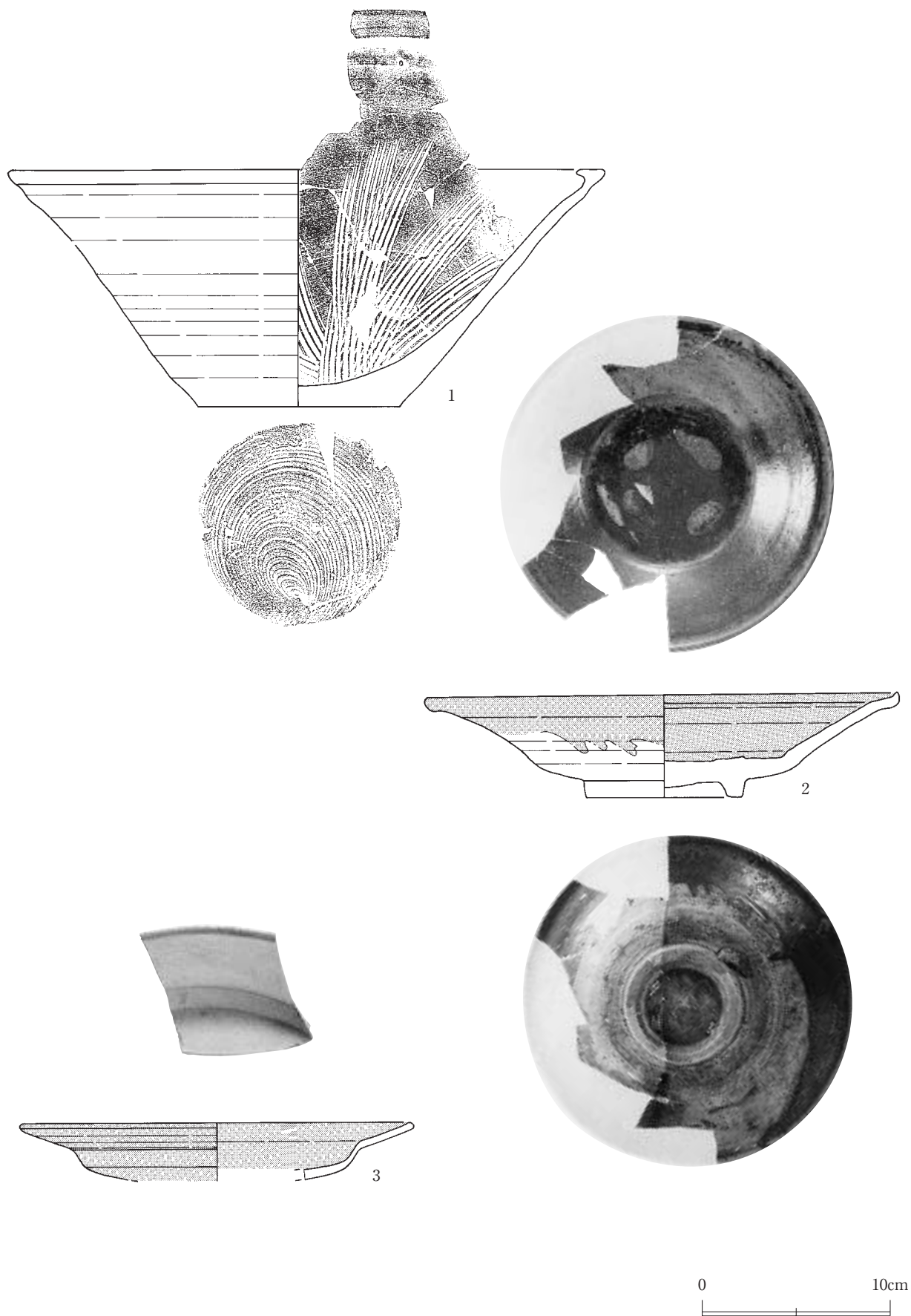
第57図 肥前産陶器 第I期(4)



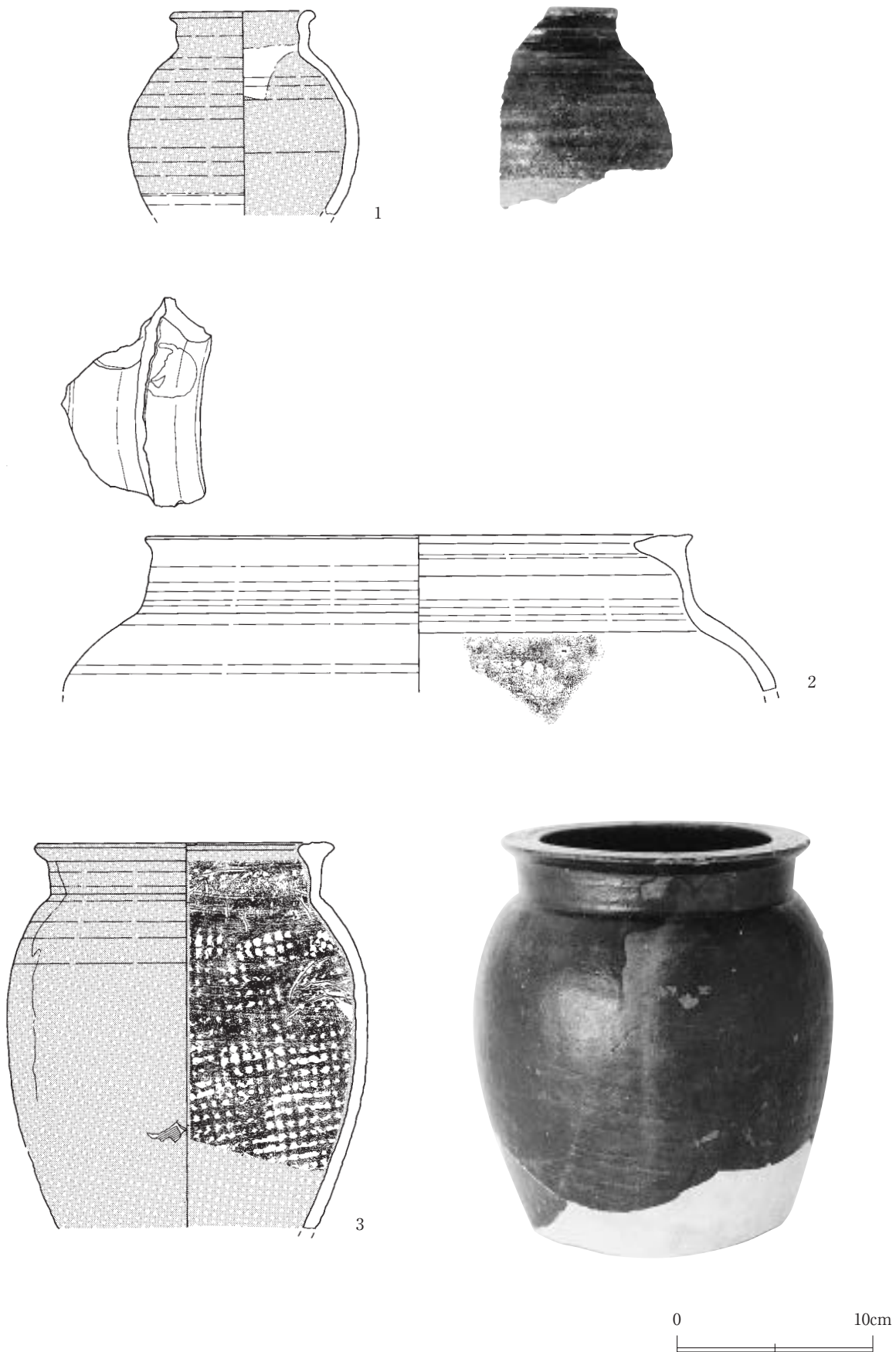
第58図 肥前産陶器 第Ⅱ期(1)



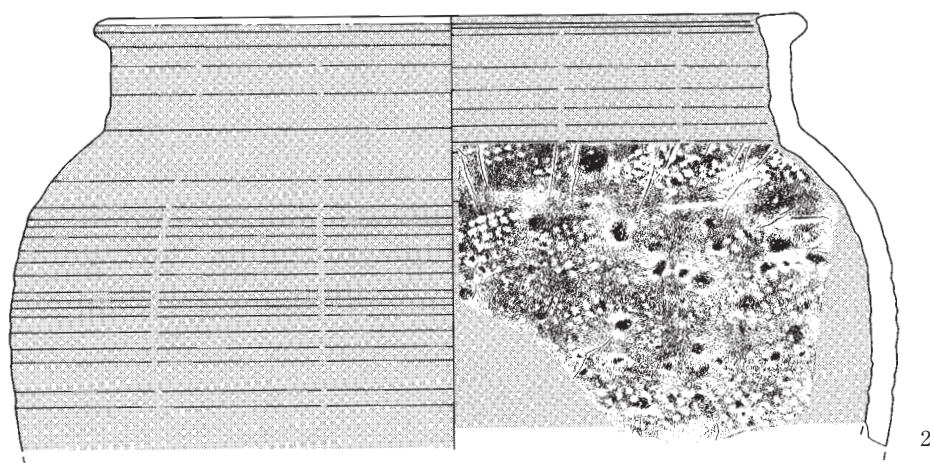
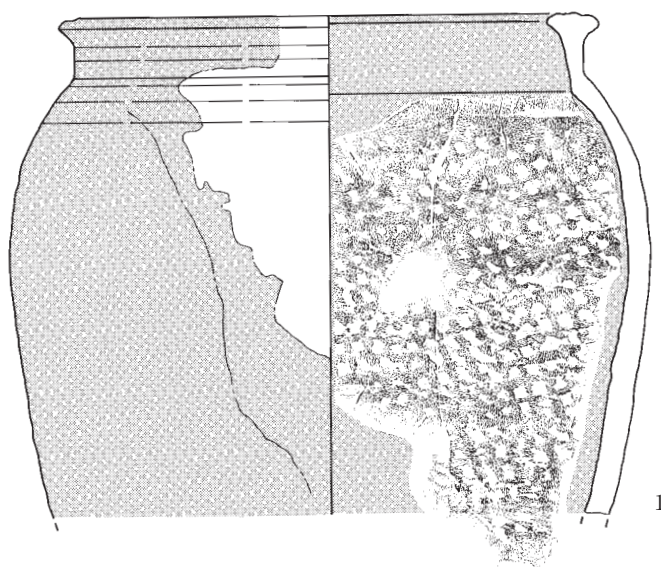
第59図 肥前産陶器 第Ⅱ期(2)



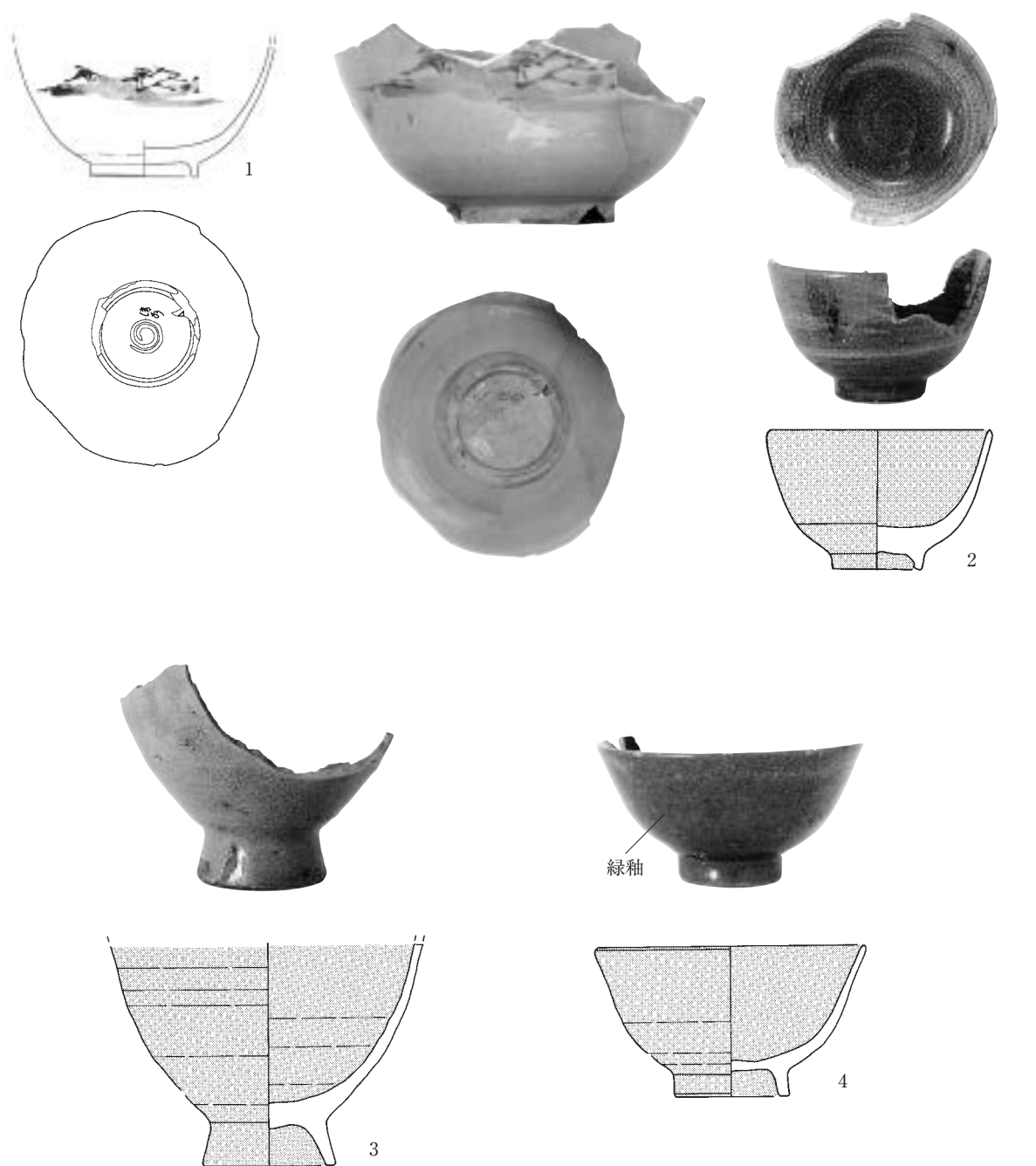
第60図 肥前産陶器 第Ⅱ期(3)



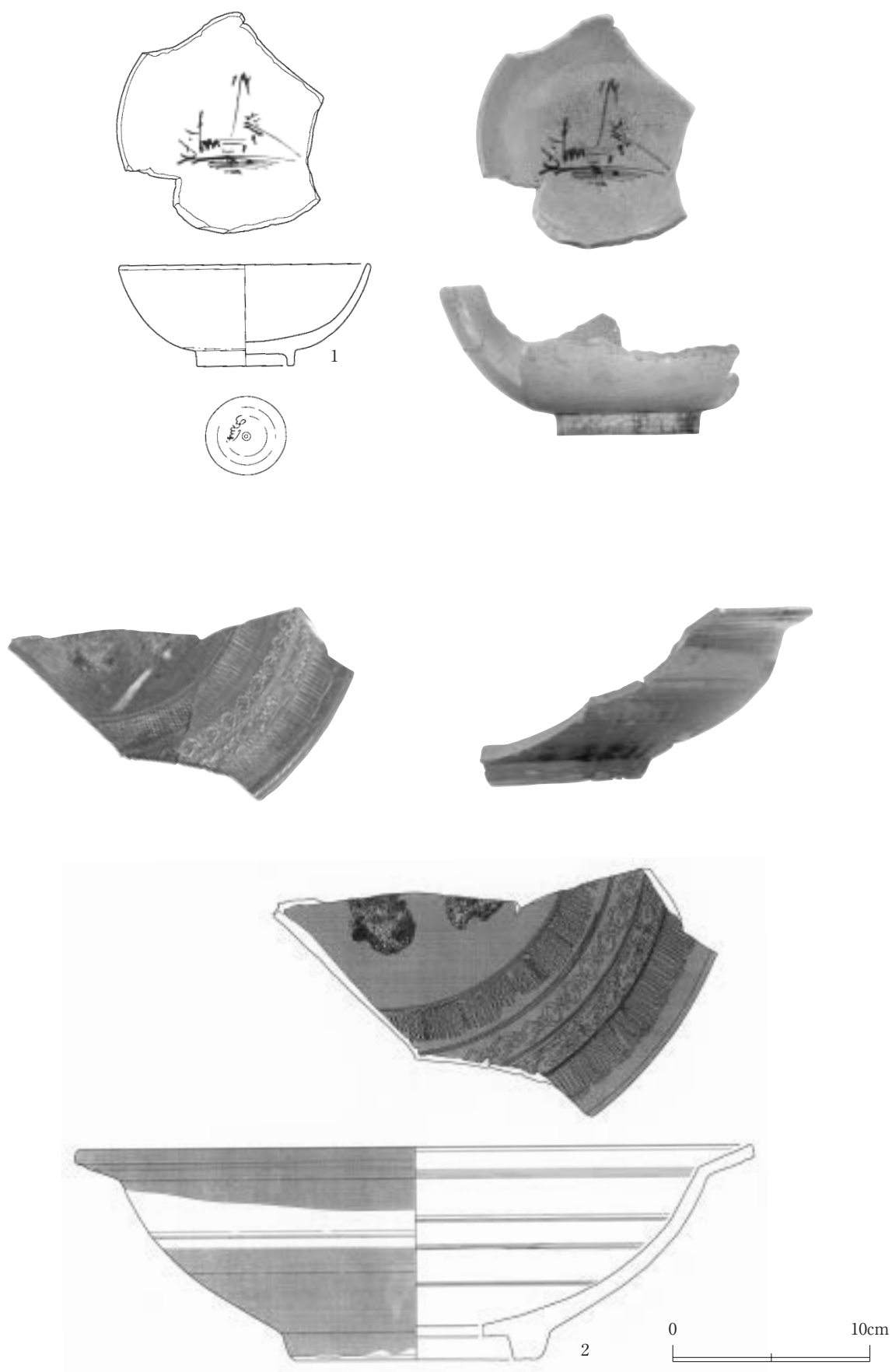
第61図 肥前産陶器 第Ⅱ期(4)



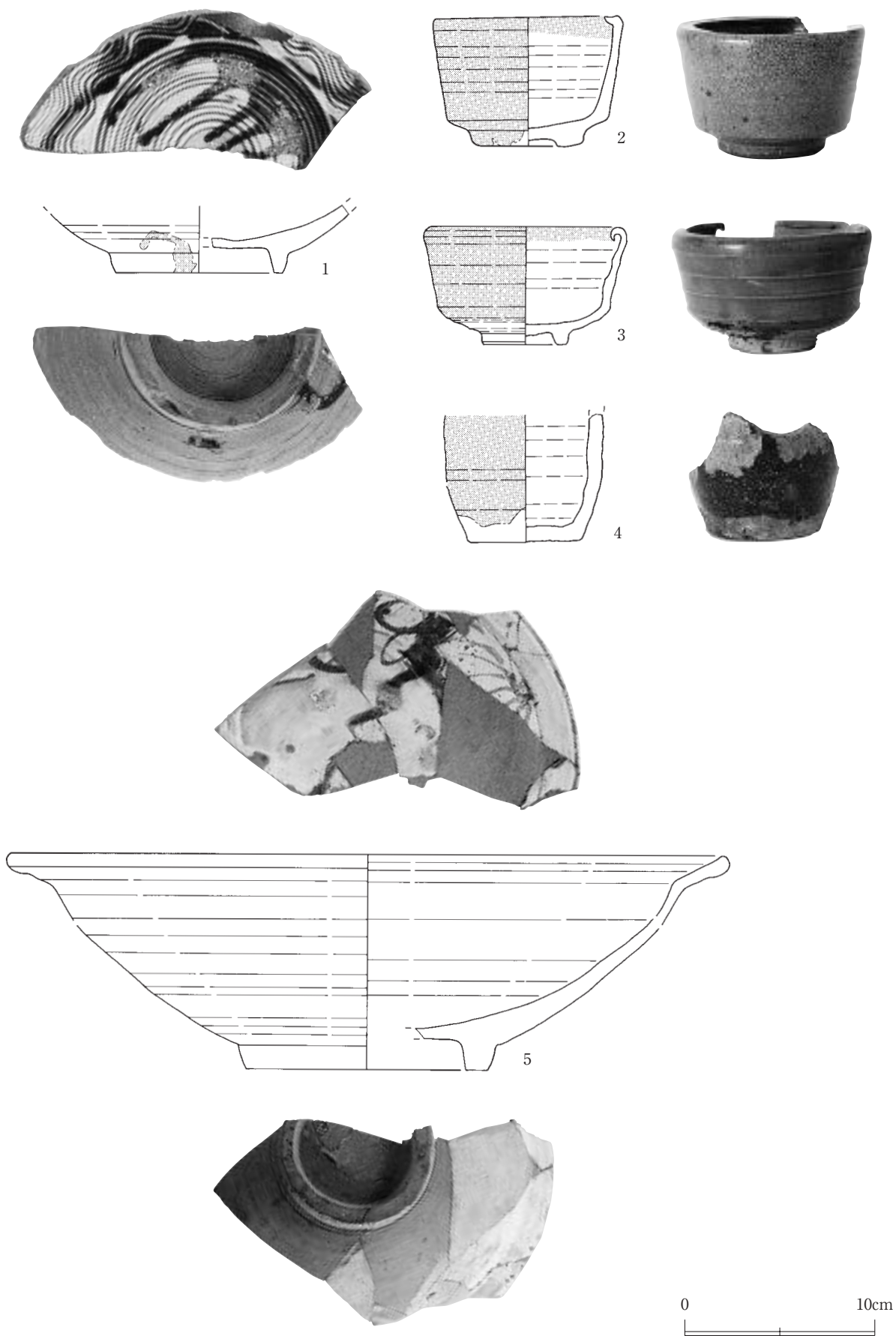
第62図 肥前産陶器 第Ⅱ期(5)



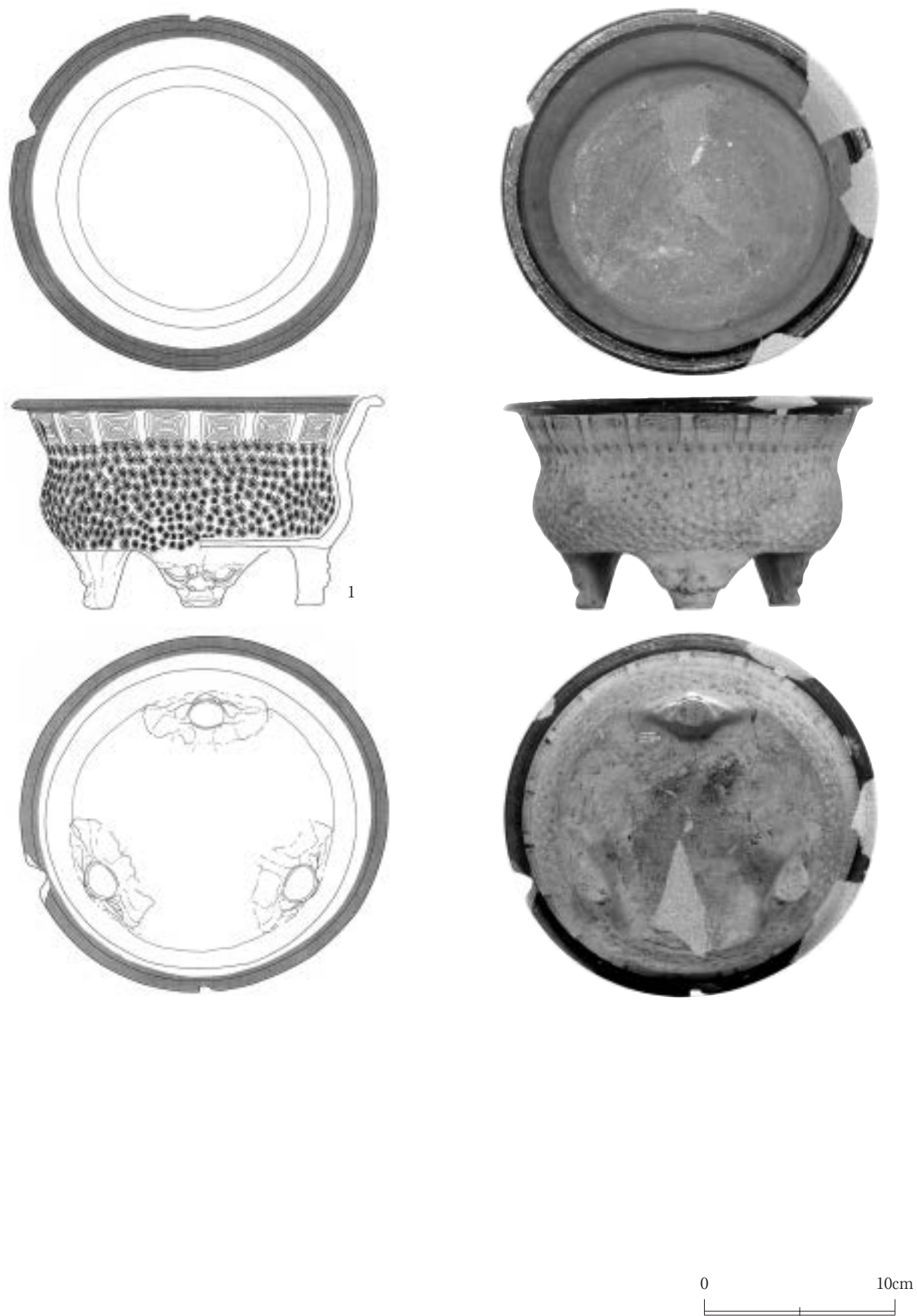
第63図 肥前産陶器 第Ⅲ期(1)



第64図 肥前産陶器 第三期(2)



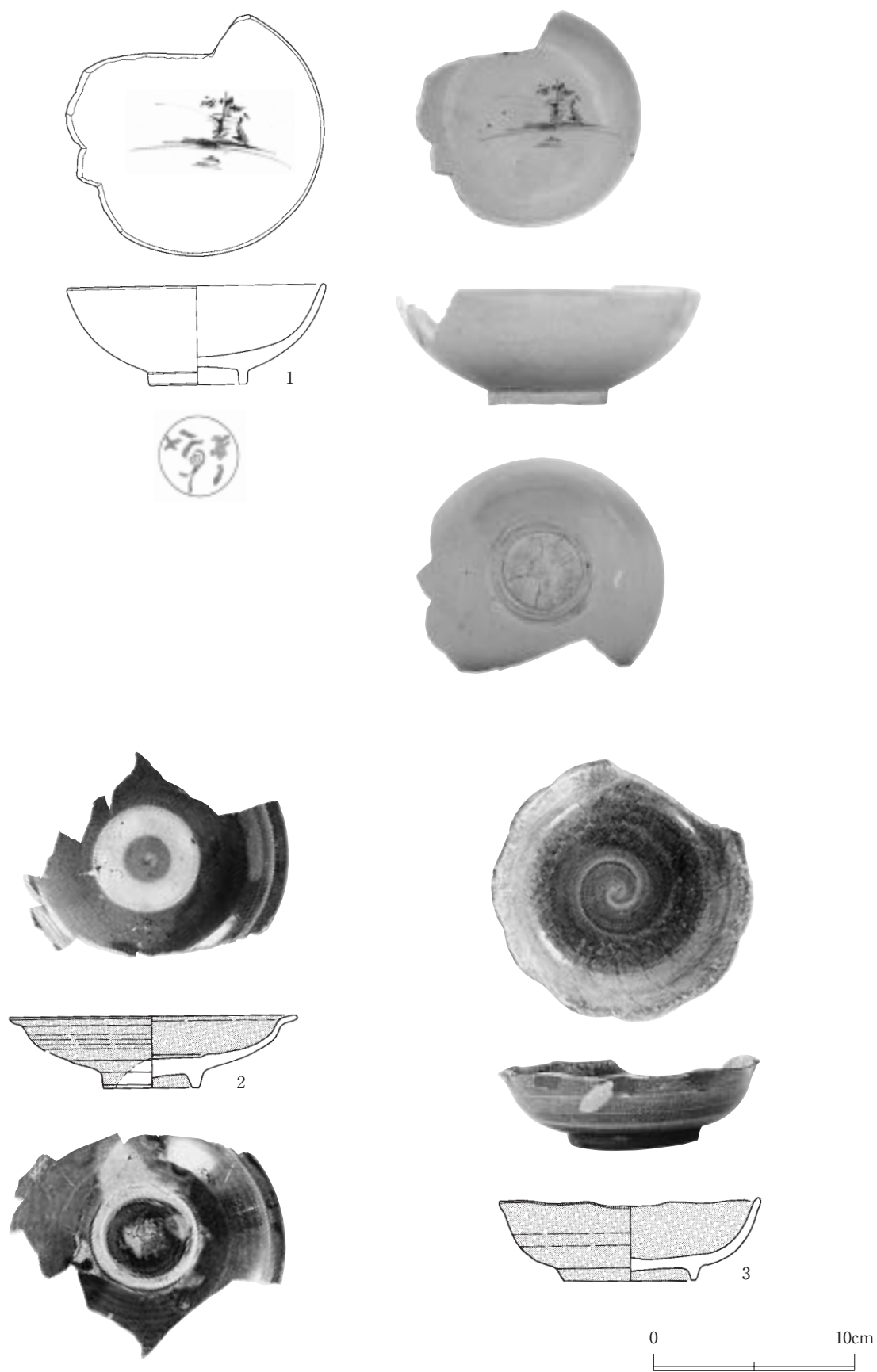
第65図 肥前産陶器 第Ⅲ期 (3)



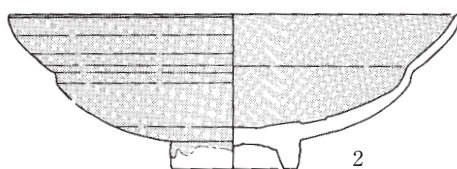
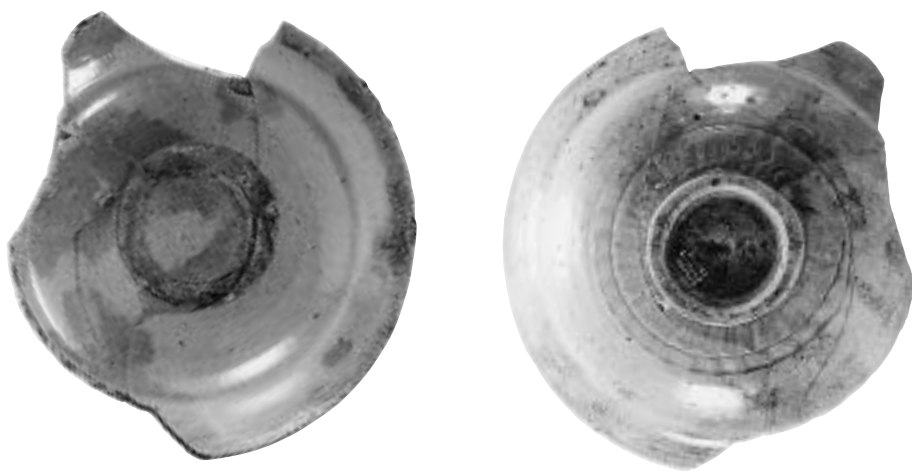
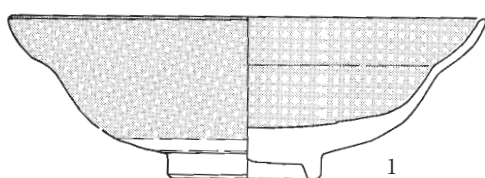
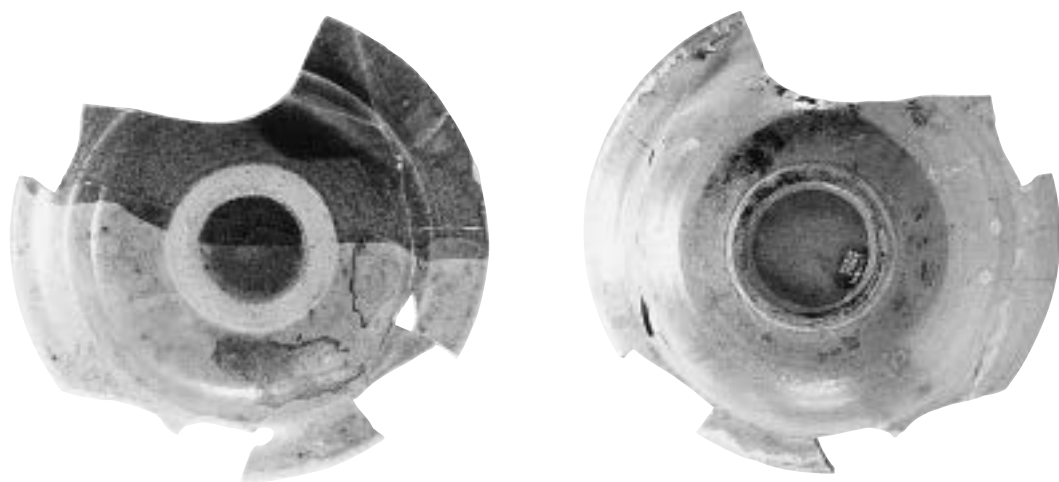
第66図 肥前産陶器 第Ⅲ期(4)



第67図 肥前産陶器 第Ⅲ期 (5)



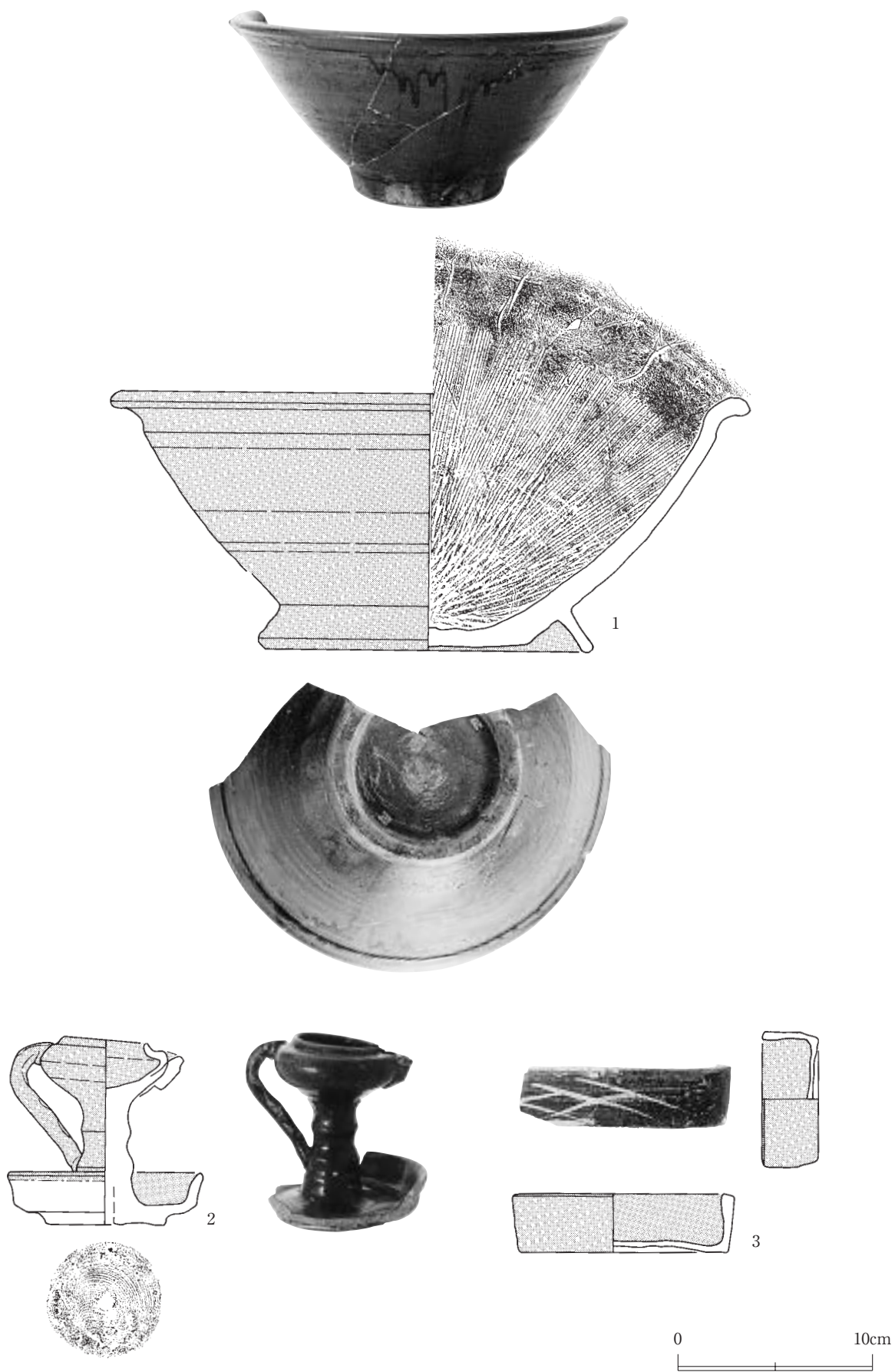
第68図 肥前産陶器 第Ⅳ・Ⅴ期 (1)



第69図 肥前産陶器 第IV・V期 (2)



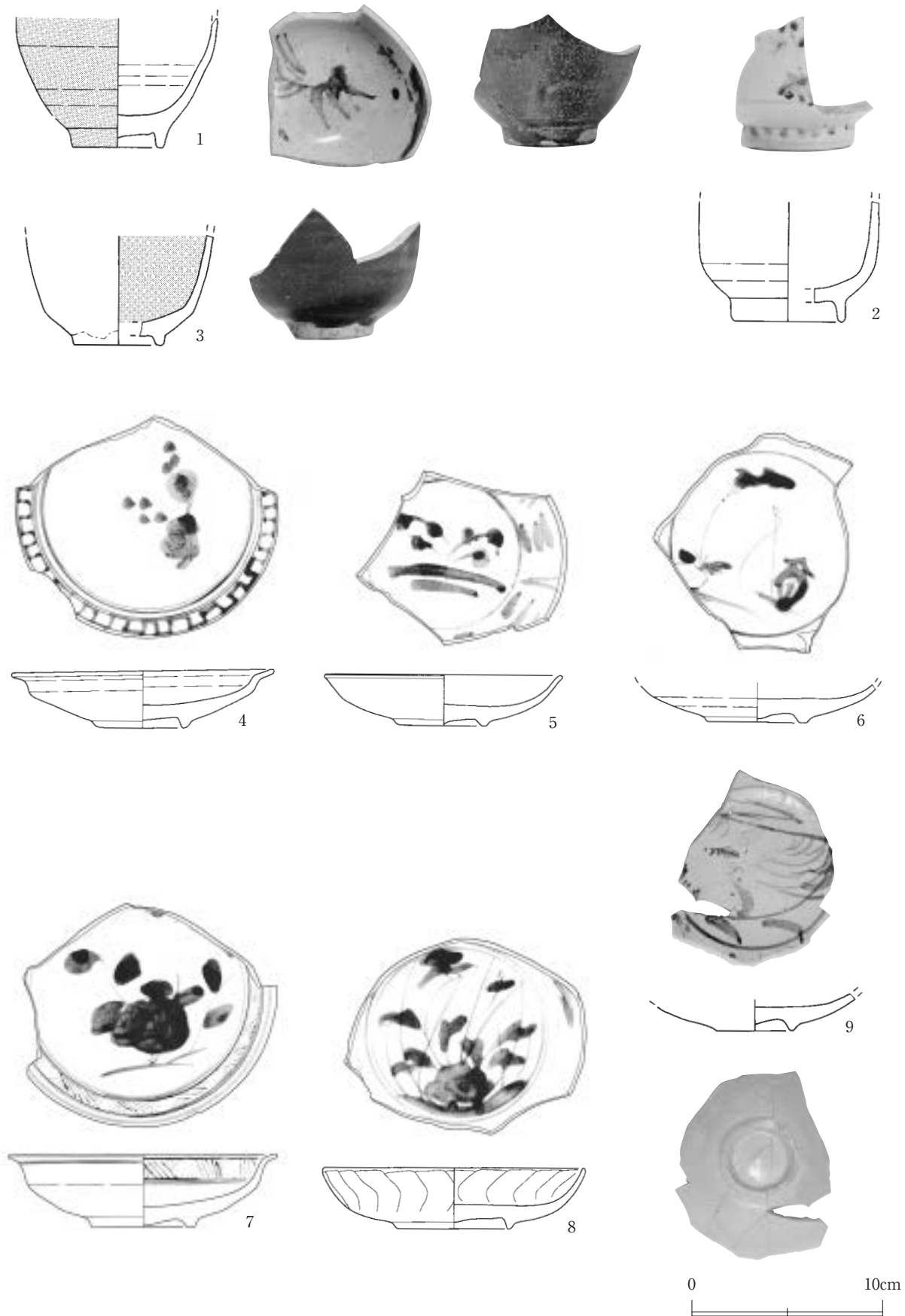
第70図 肥前産陶器 第Ⅳ・Ⅴ期 (3)



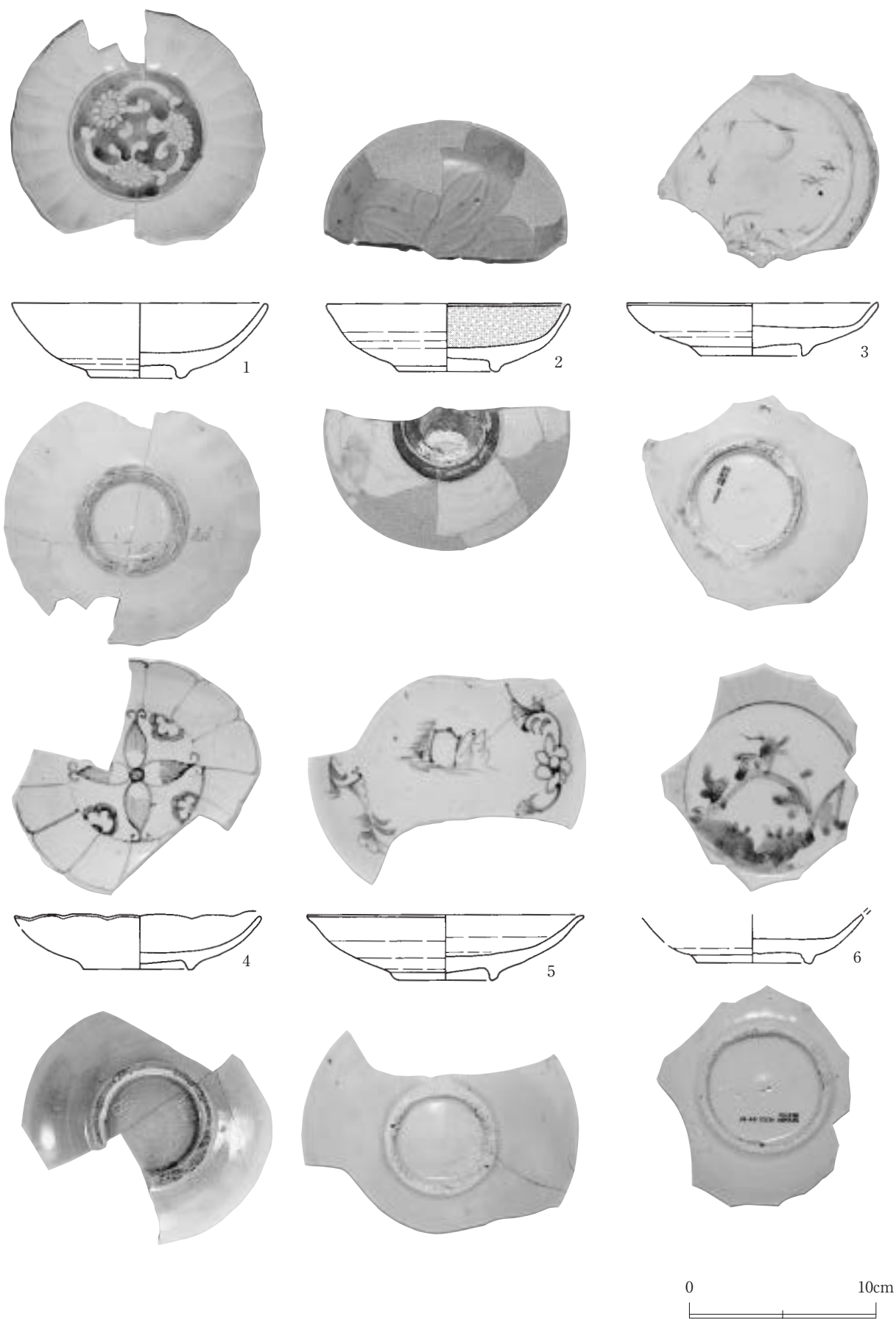
第71図 肥前産陶器 第IV・V期(4)



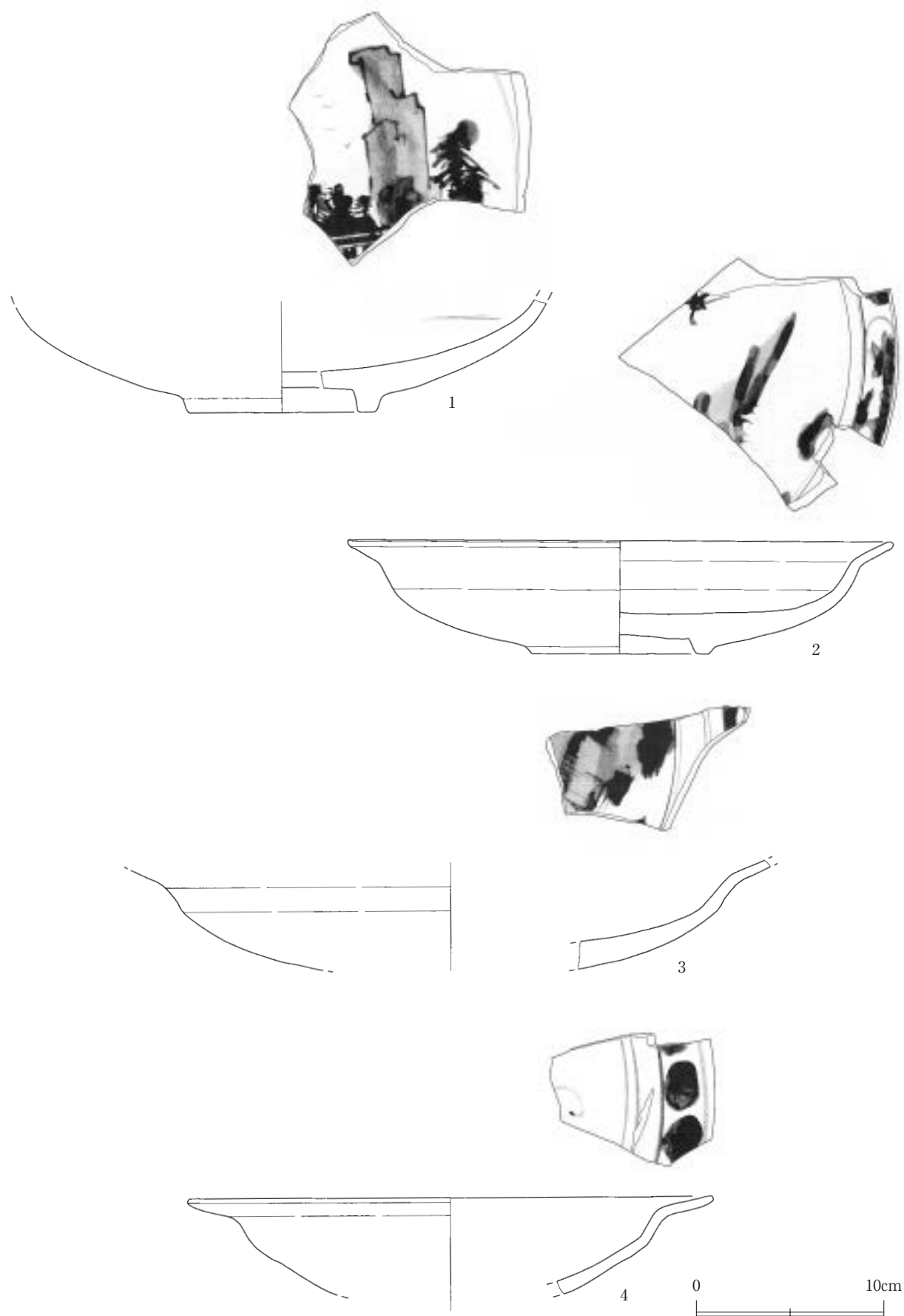
第72図 肥前産磁器 第Ⅱ期 (1)



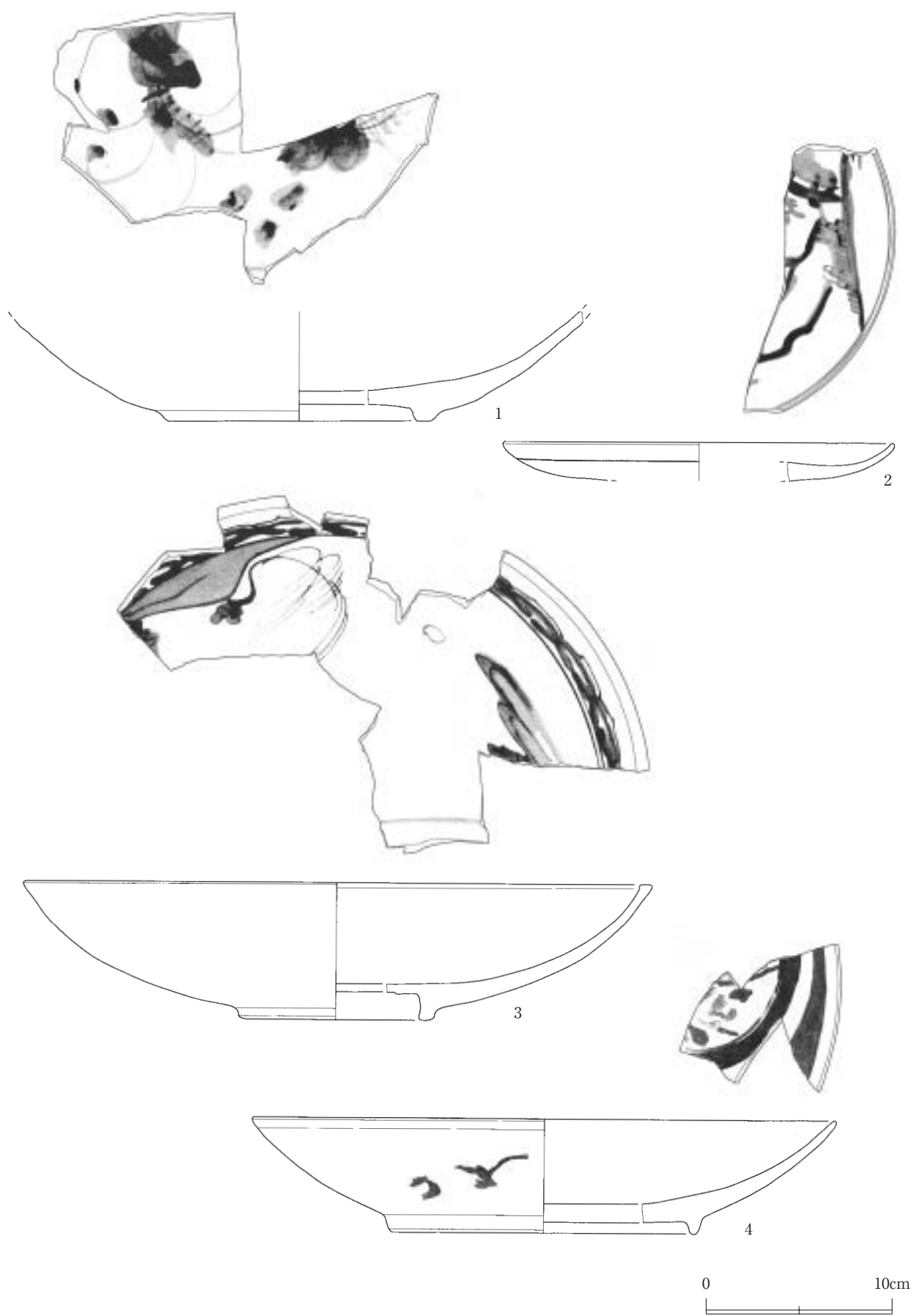
第73図 肥前産磁器 第Ⅱ期(2)



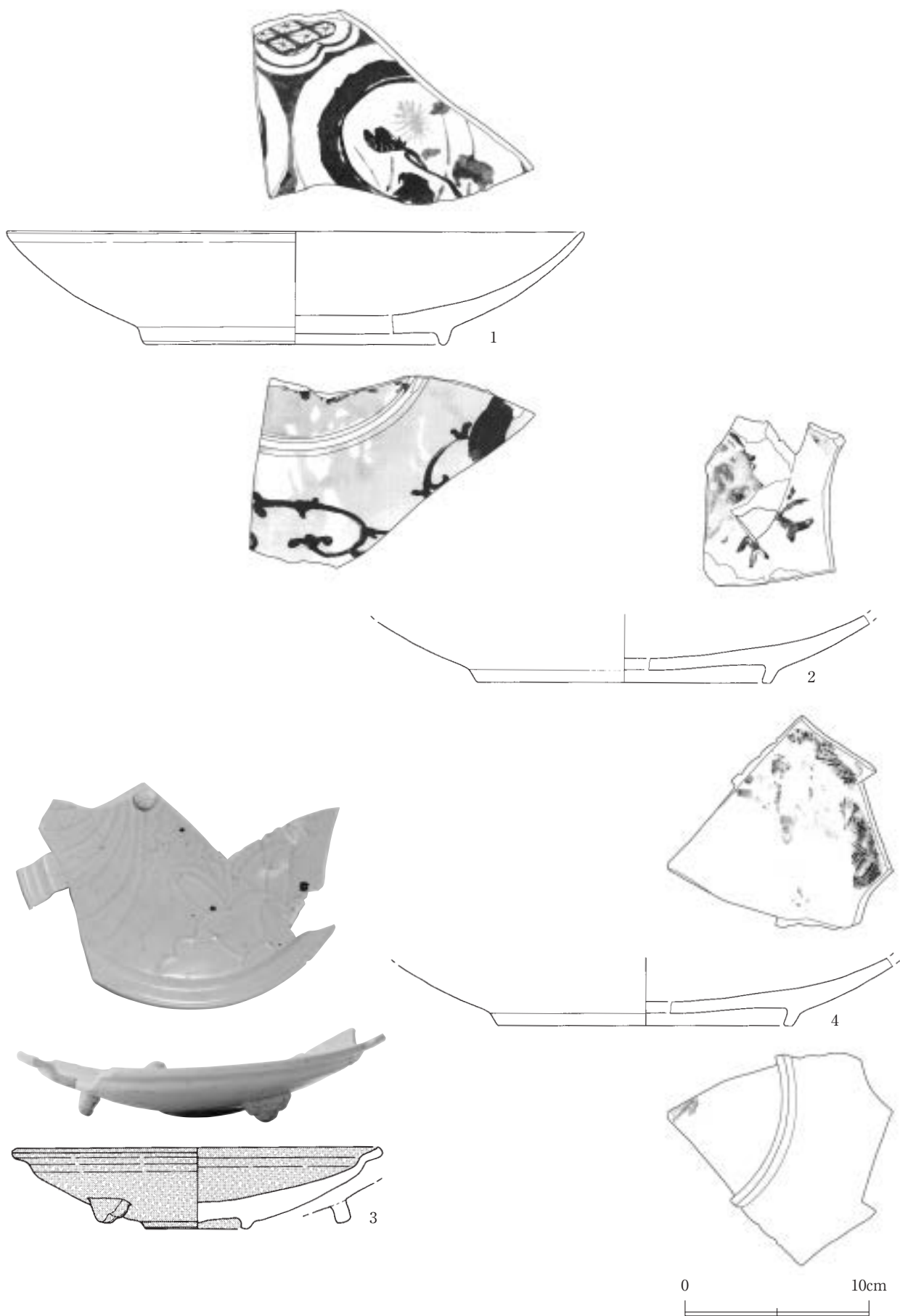
第74図 肥前産磁器 第Ⅱ期 (3)



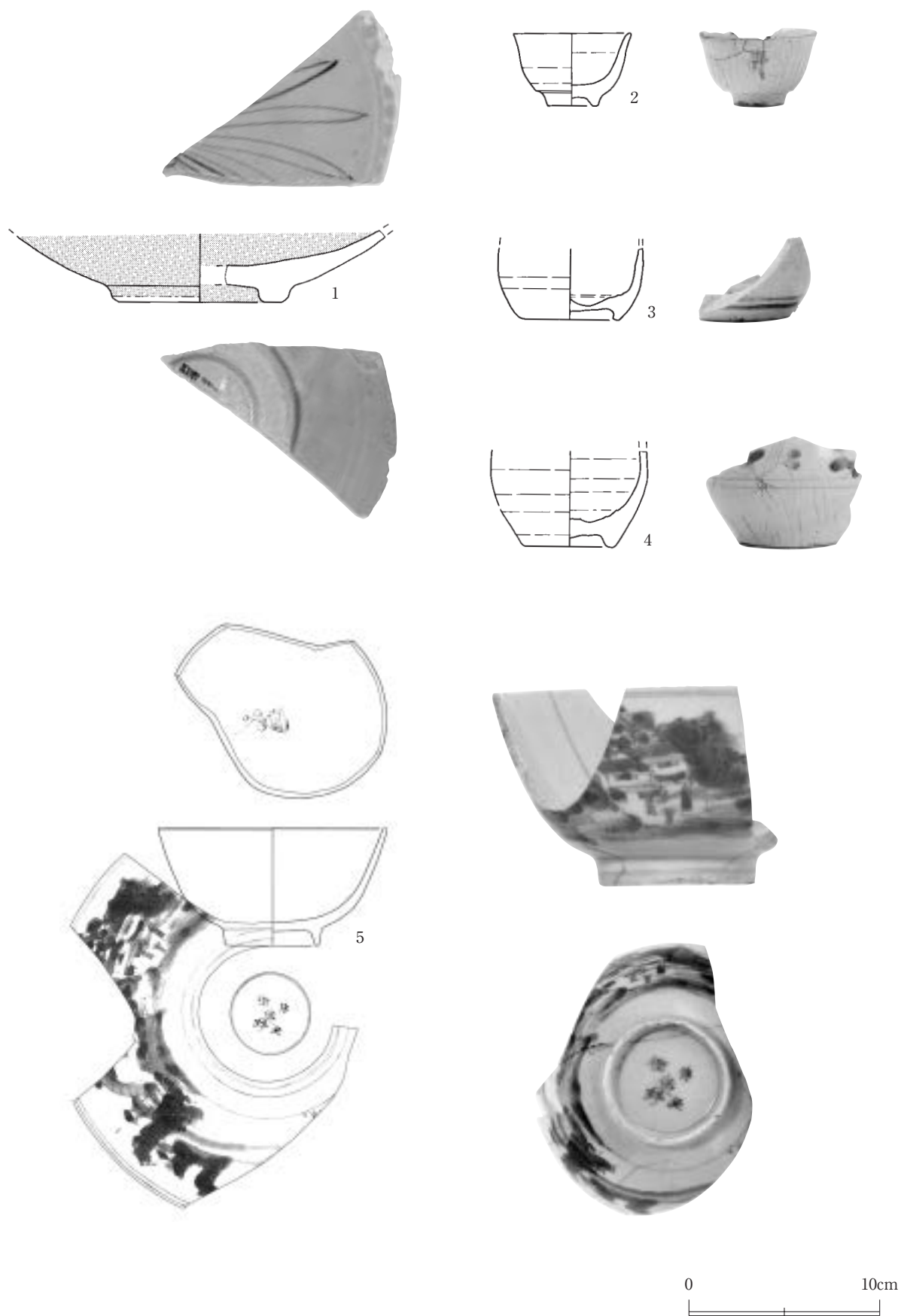
第75図 肥前産磁器 第Ⅱ期(4)



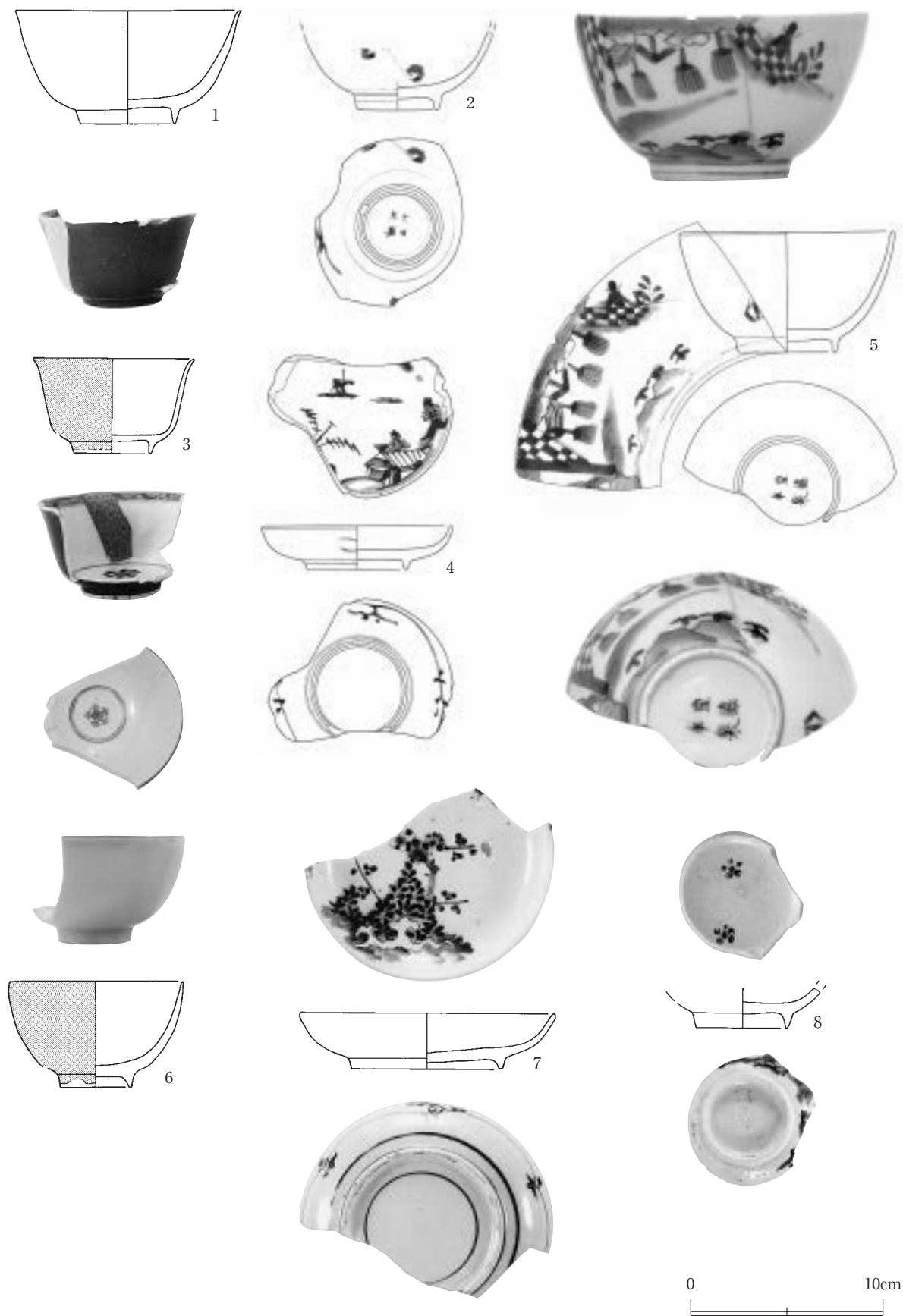
第76図 肥前産磁器 第Ⅱ期(5)



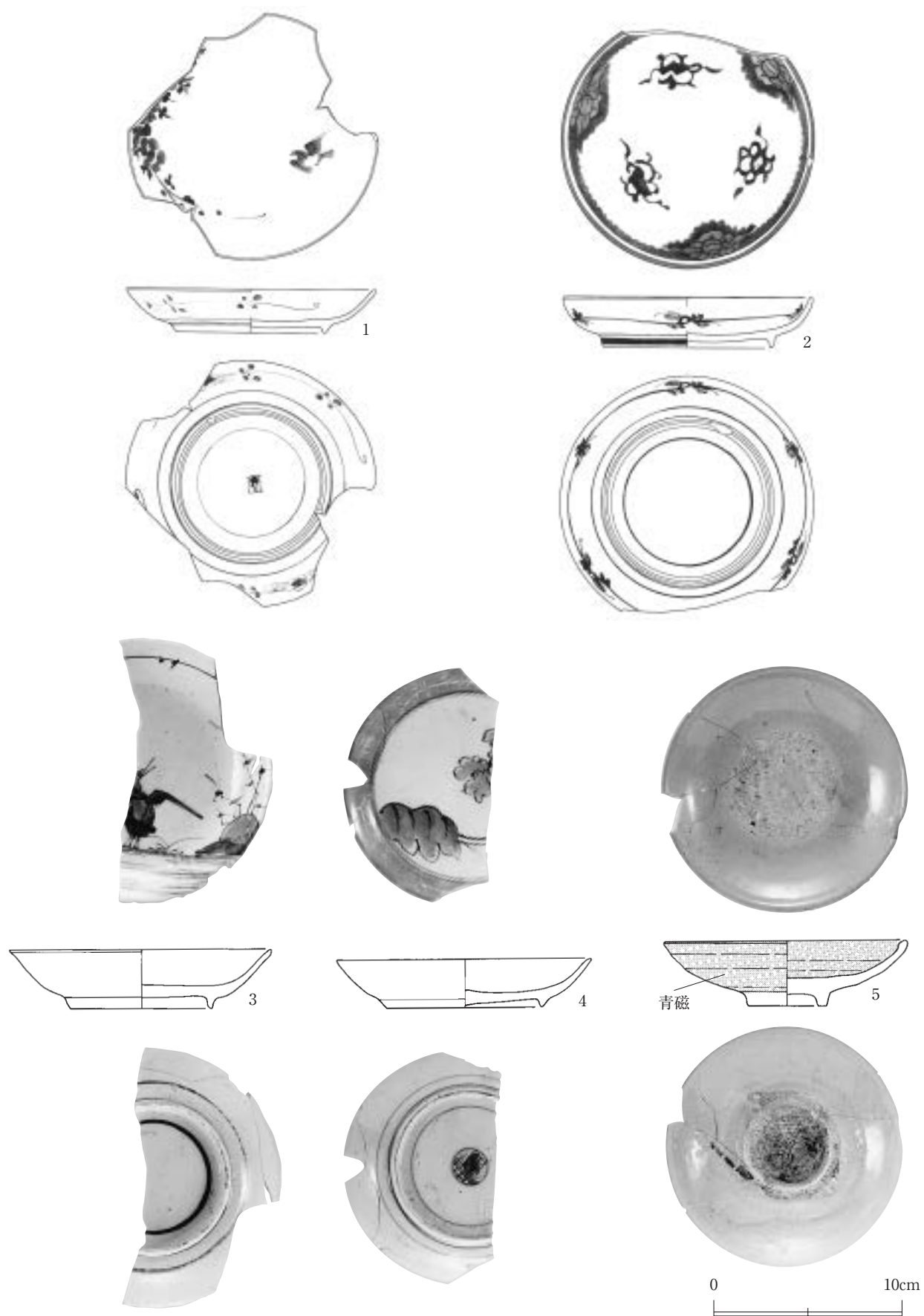
第77図 肥前産磁器 第Ⅱ期(6)



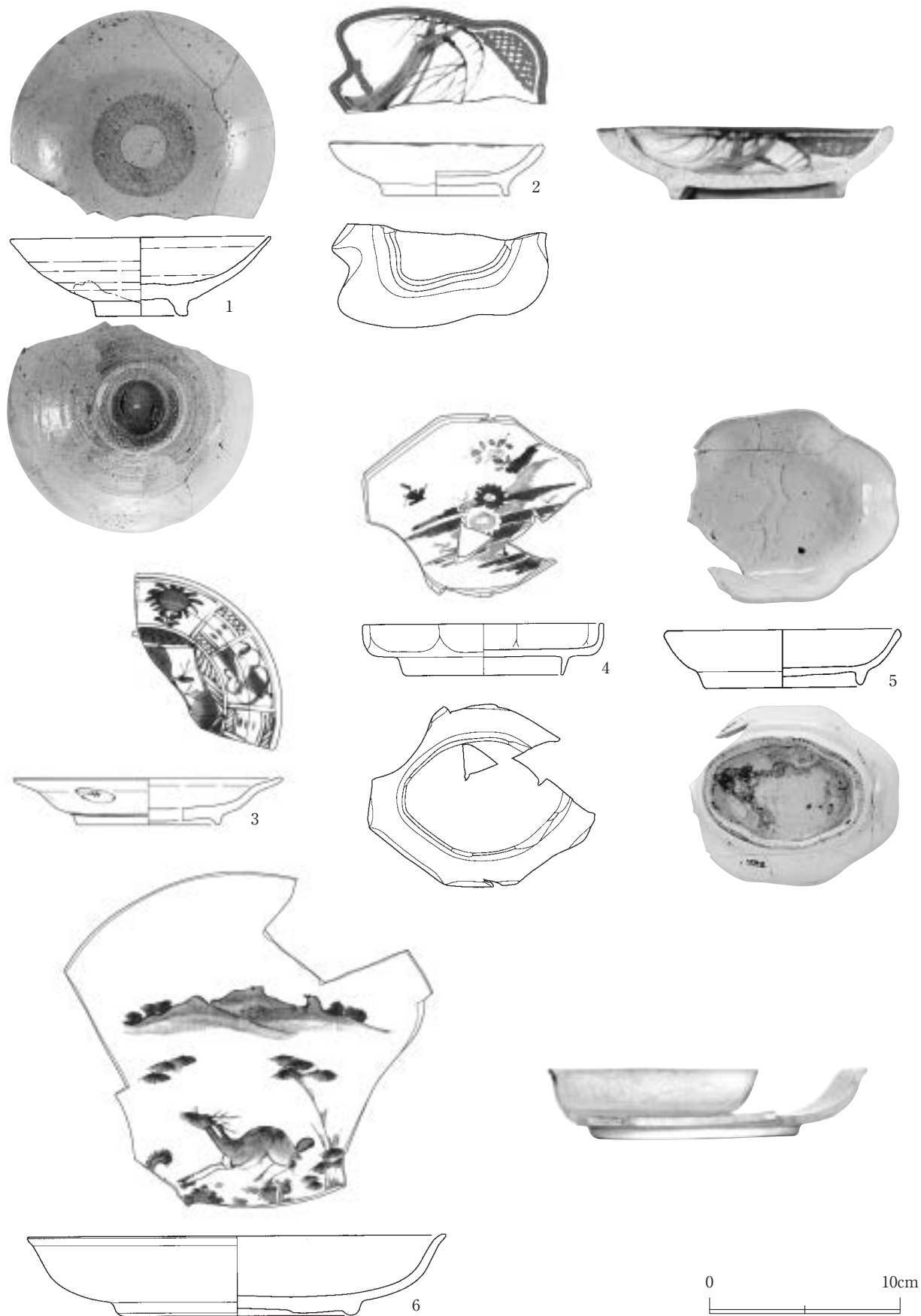
第78図 肥前産磁器 第Ⅱ期（7）、第Ⅲ期（1）



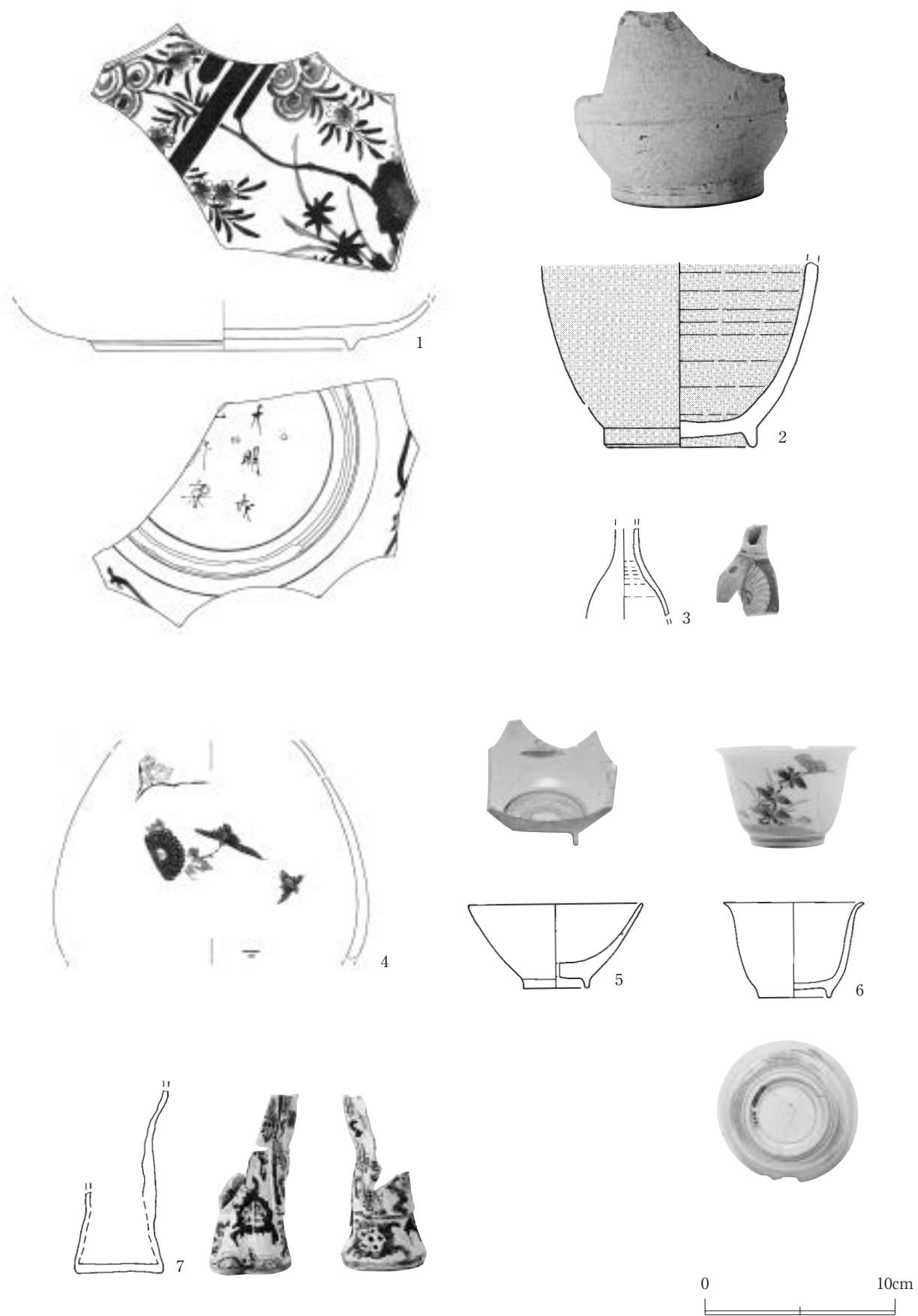
第79図 肥前産磁器 第Ⅲ期（2）



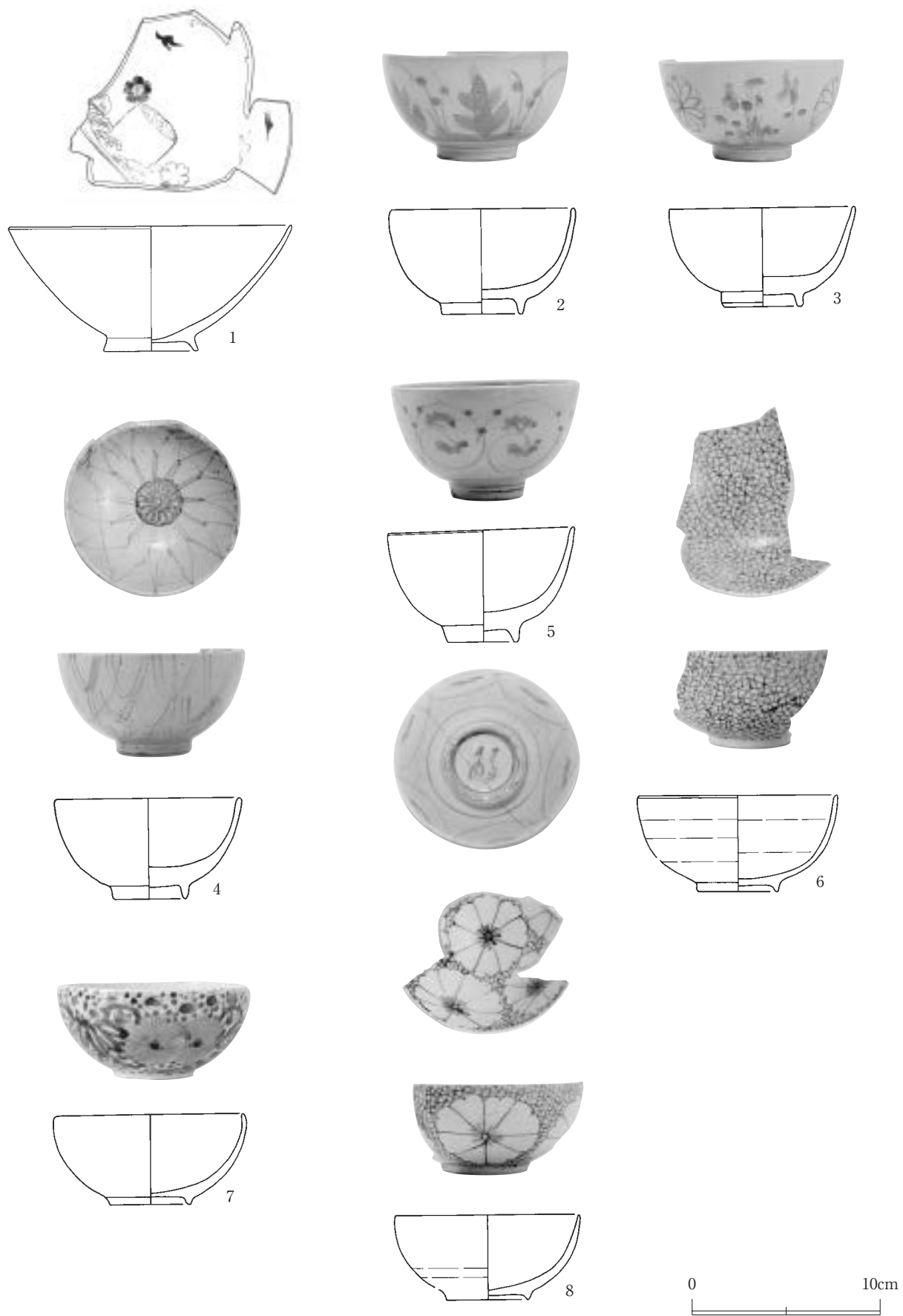
第80図 肥前産磁器 第三期 (3)



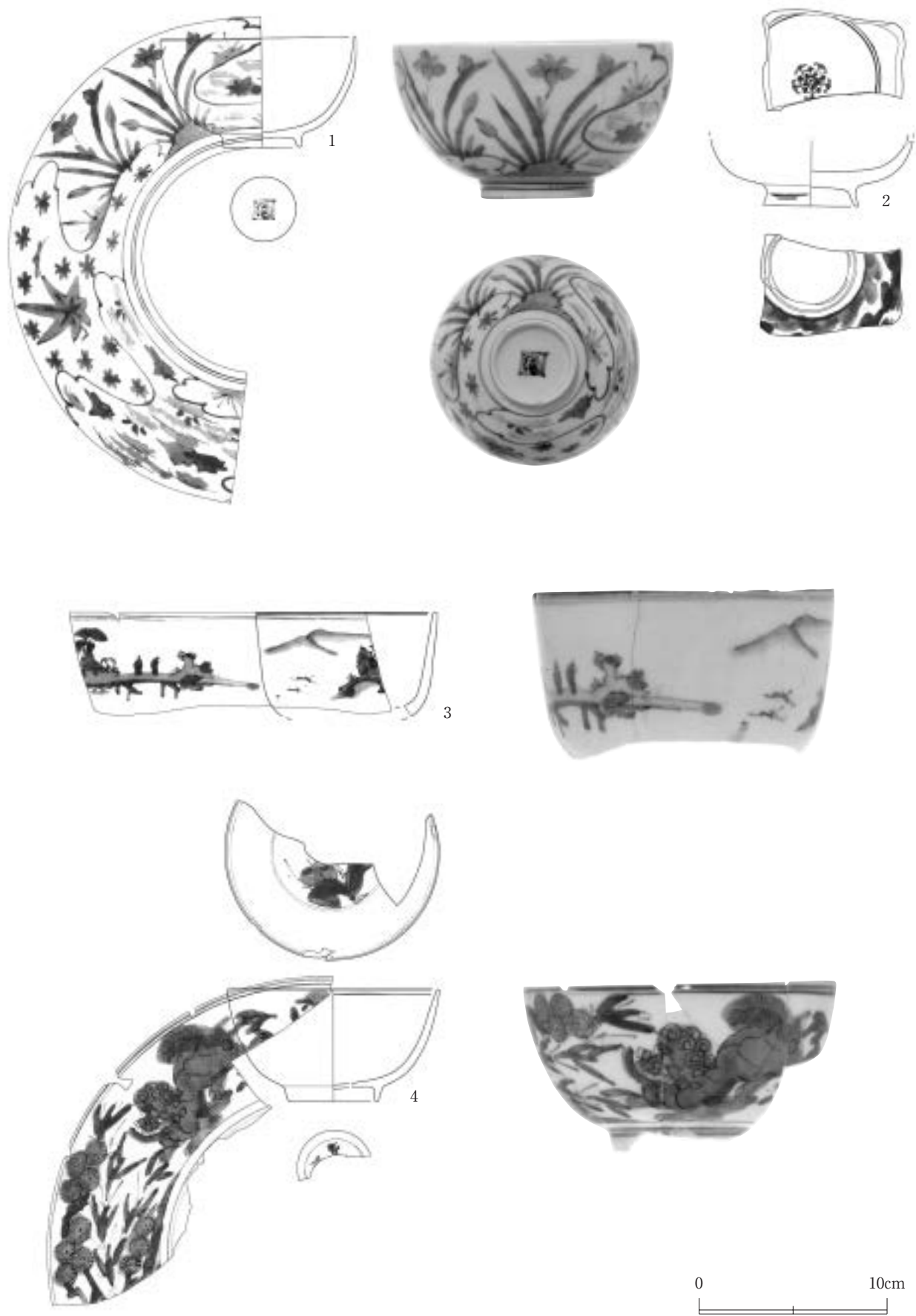
第81図 肥前産磁器 第Ⅲ期(4)



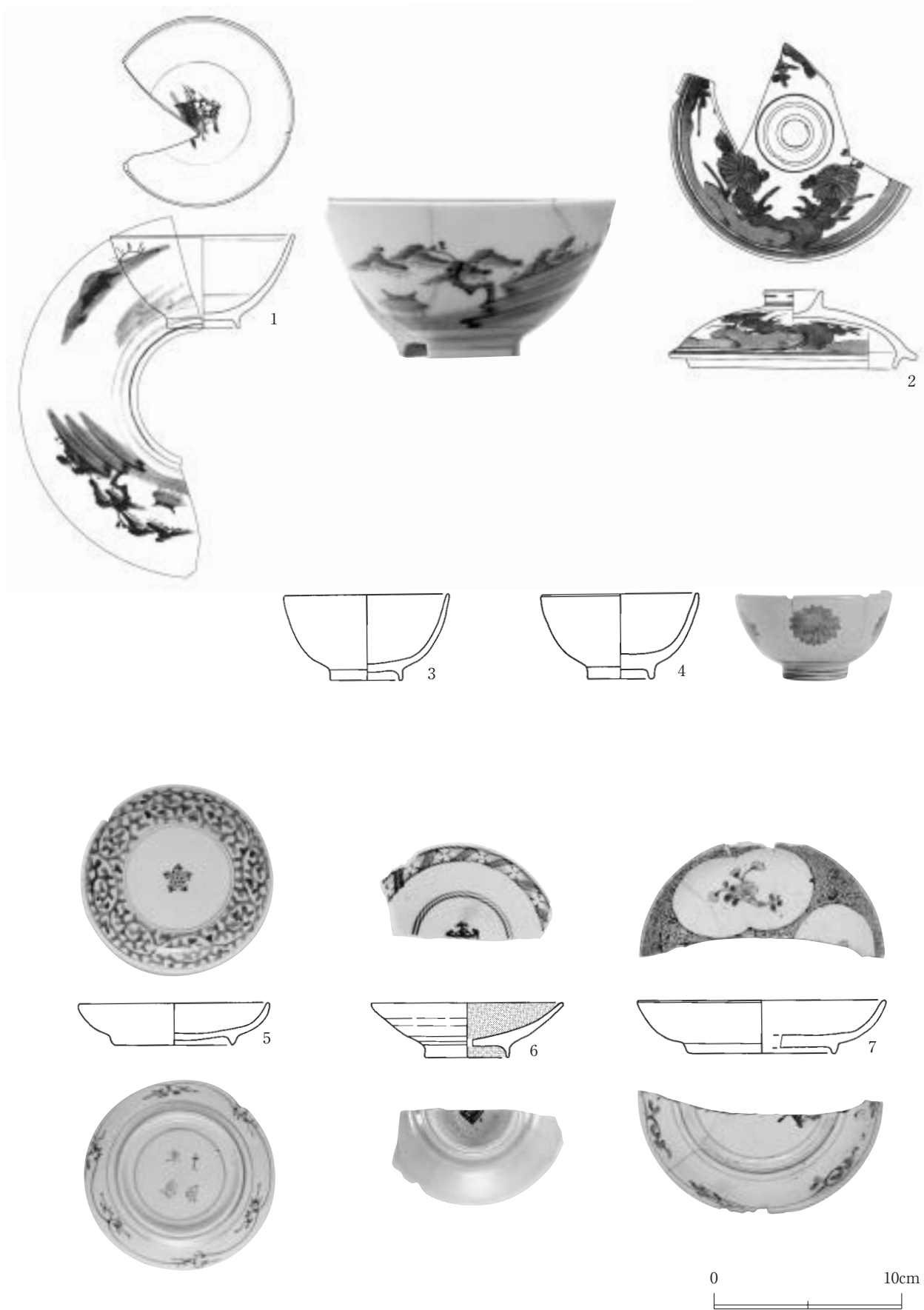
第82図 肥前産磁器 第三期 (5)



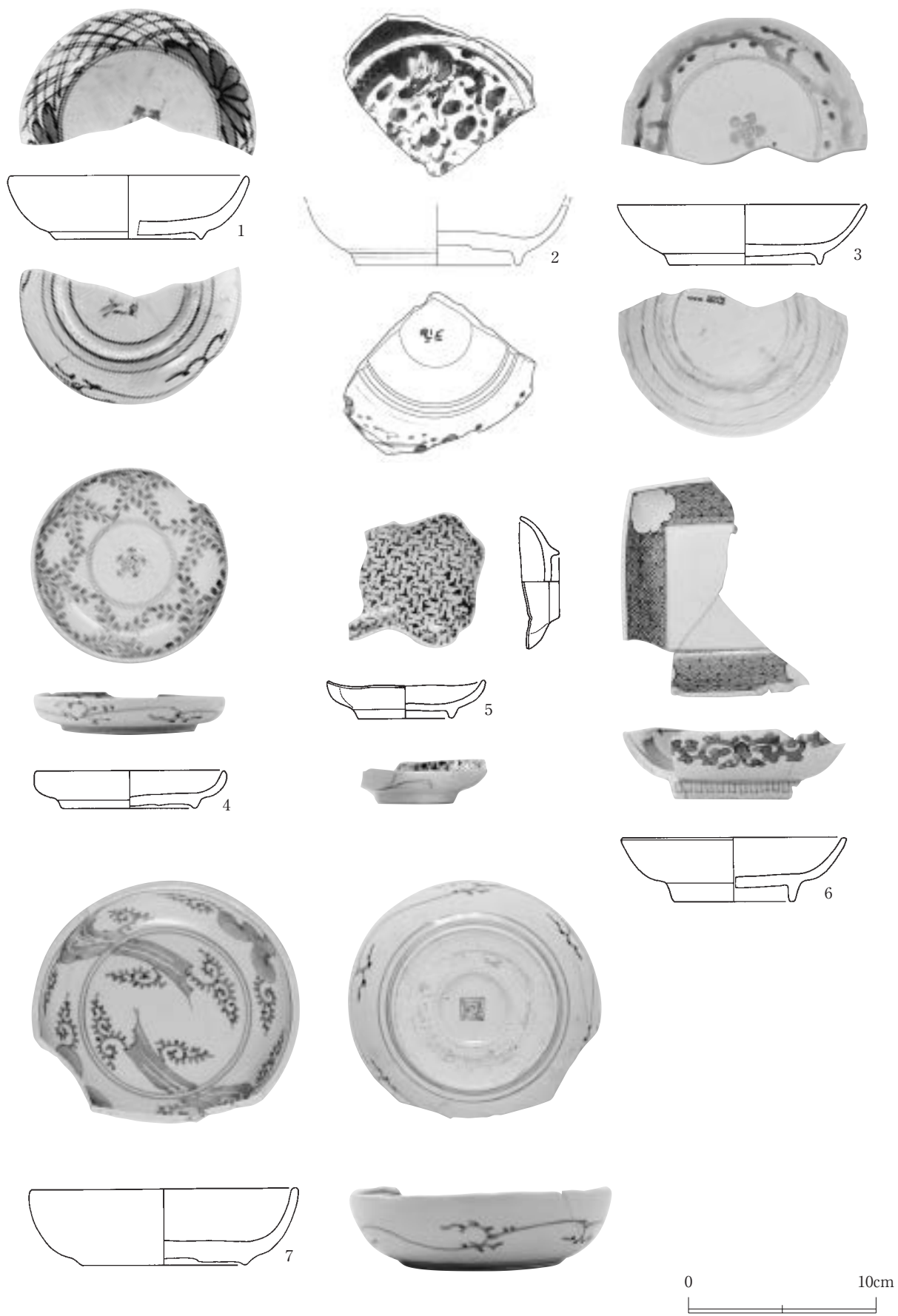
第83図 肥前産磁器 第Ⅳ期(1)



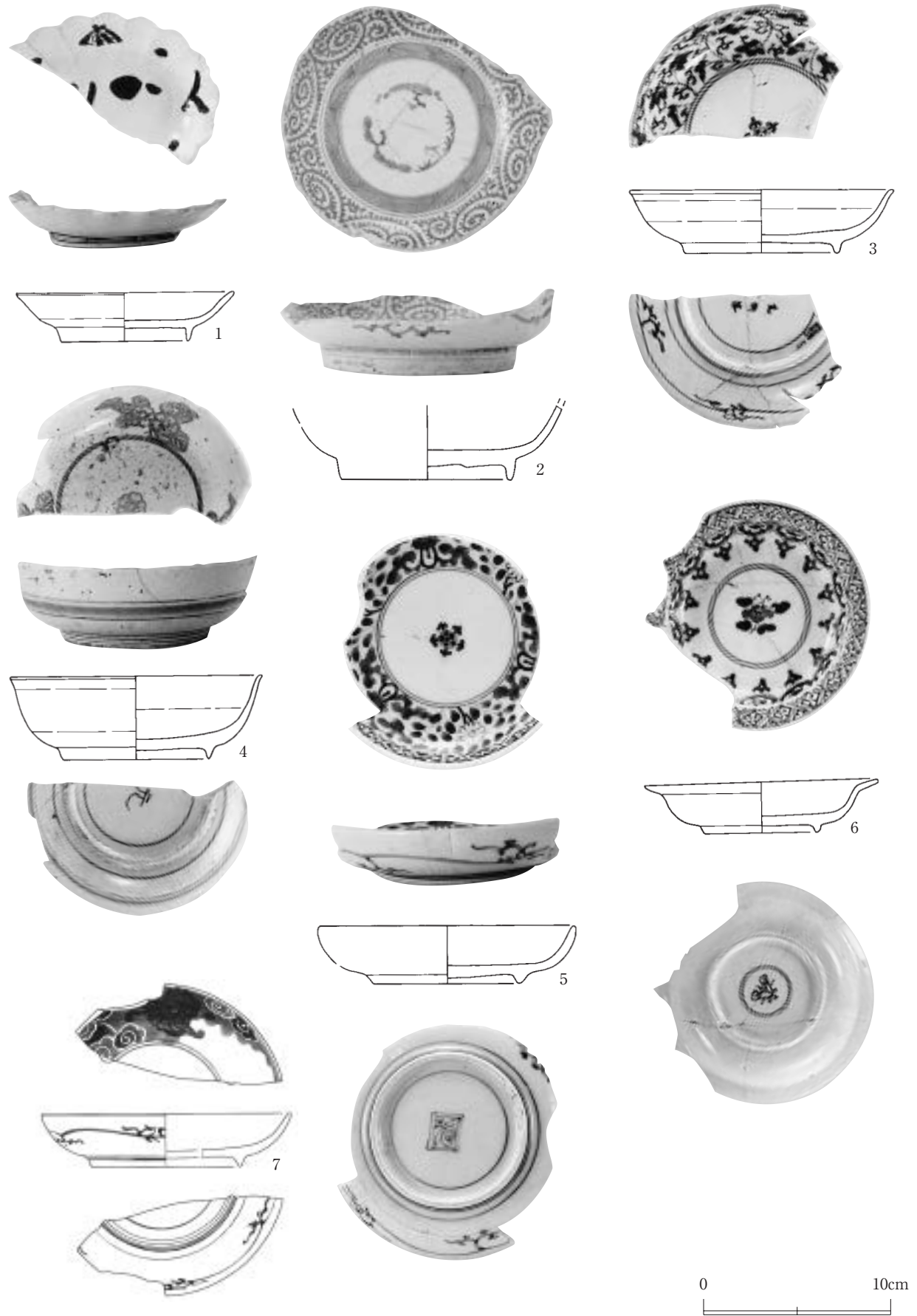
第84図 肥前産磁器 第Ⅳ期（2）



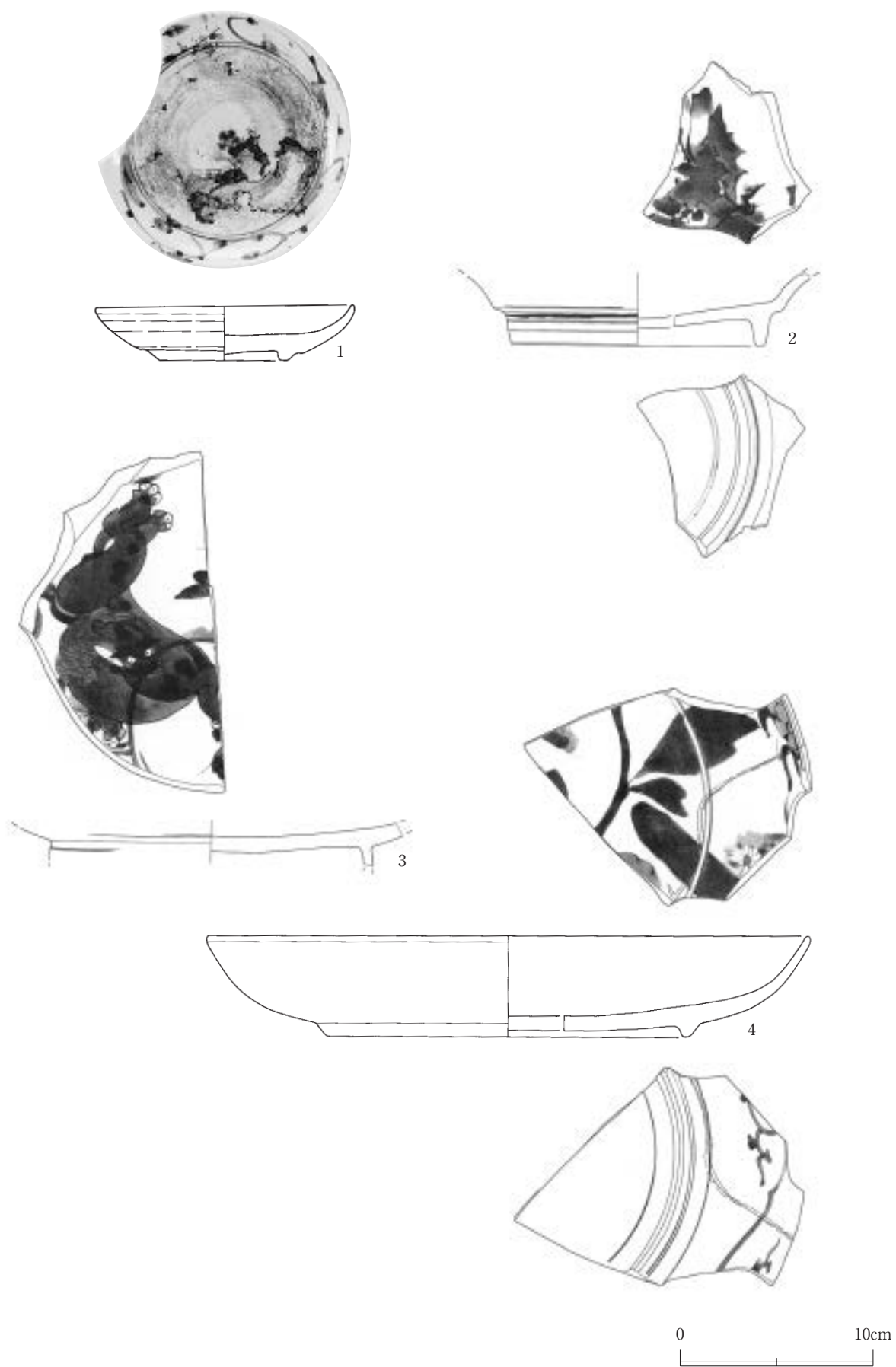
第85図 肥前産磁器 第Ⅳ期 (3)



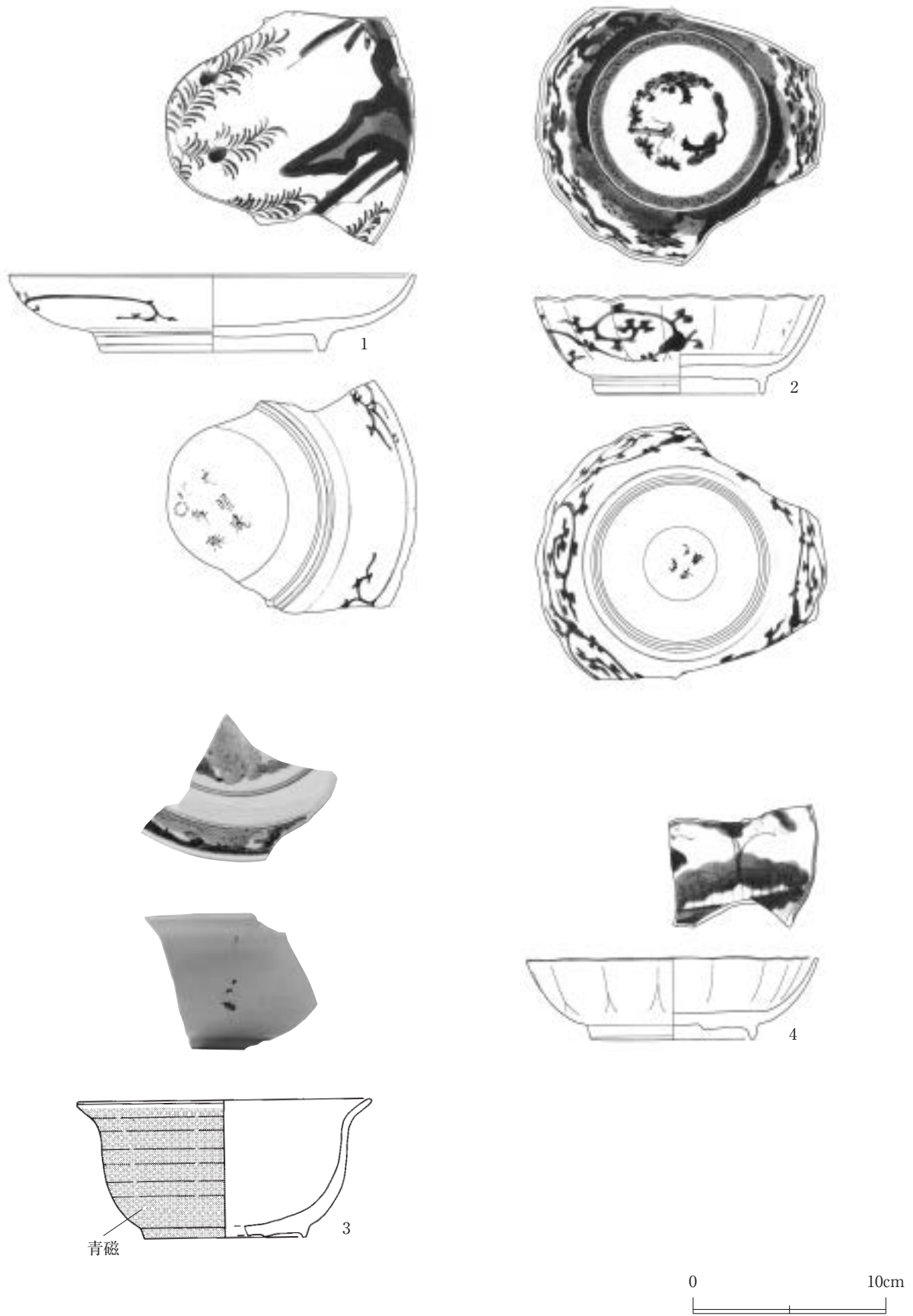
第86図 肥前産磁器 第Ⅳ期(4)



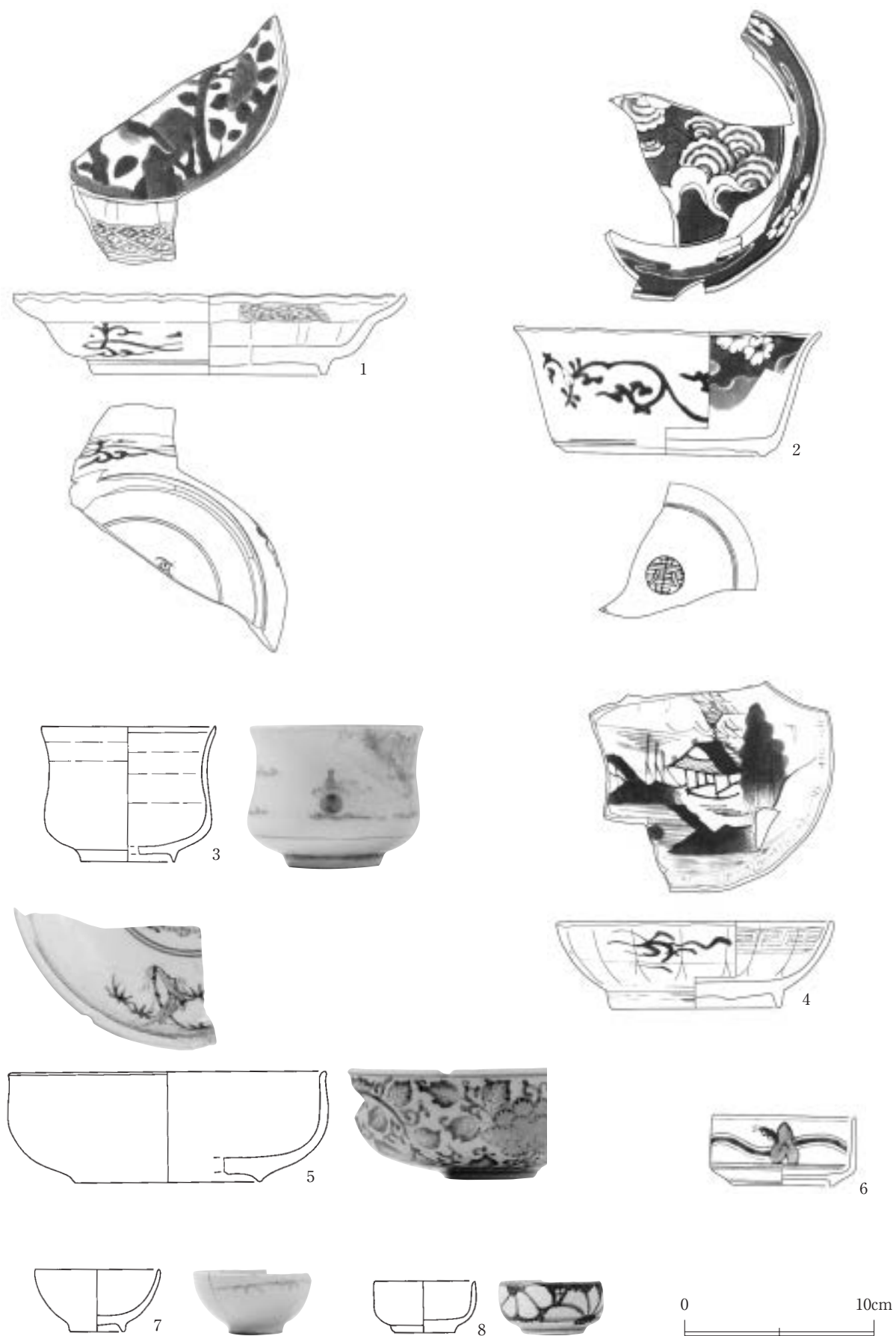
第87図 肥前産磁器 第Ⅳ期 (5)



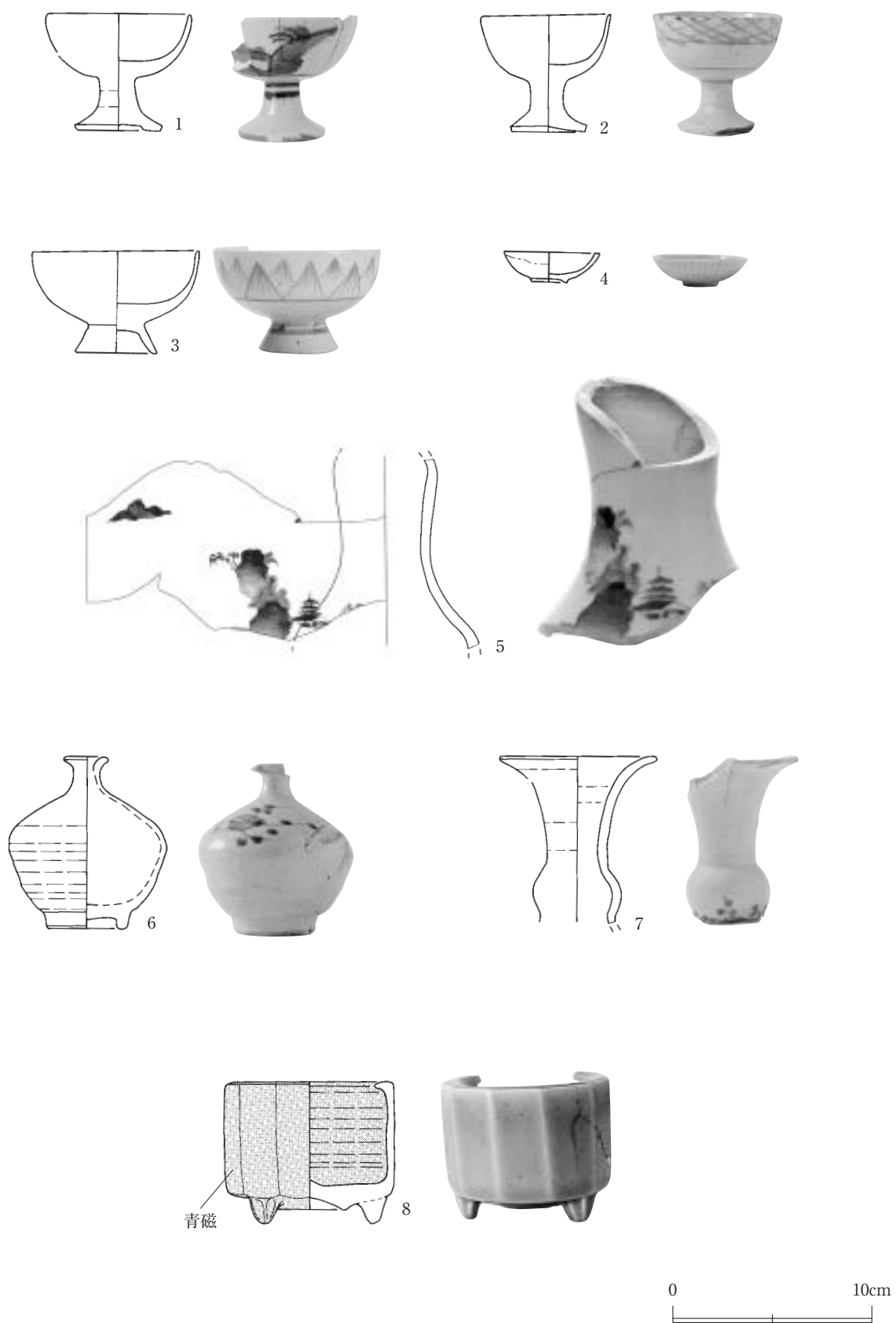
第88図 肥前産磁器 第IV期 (6)



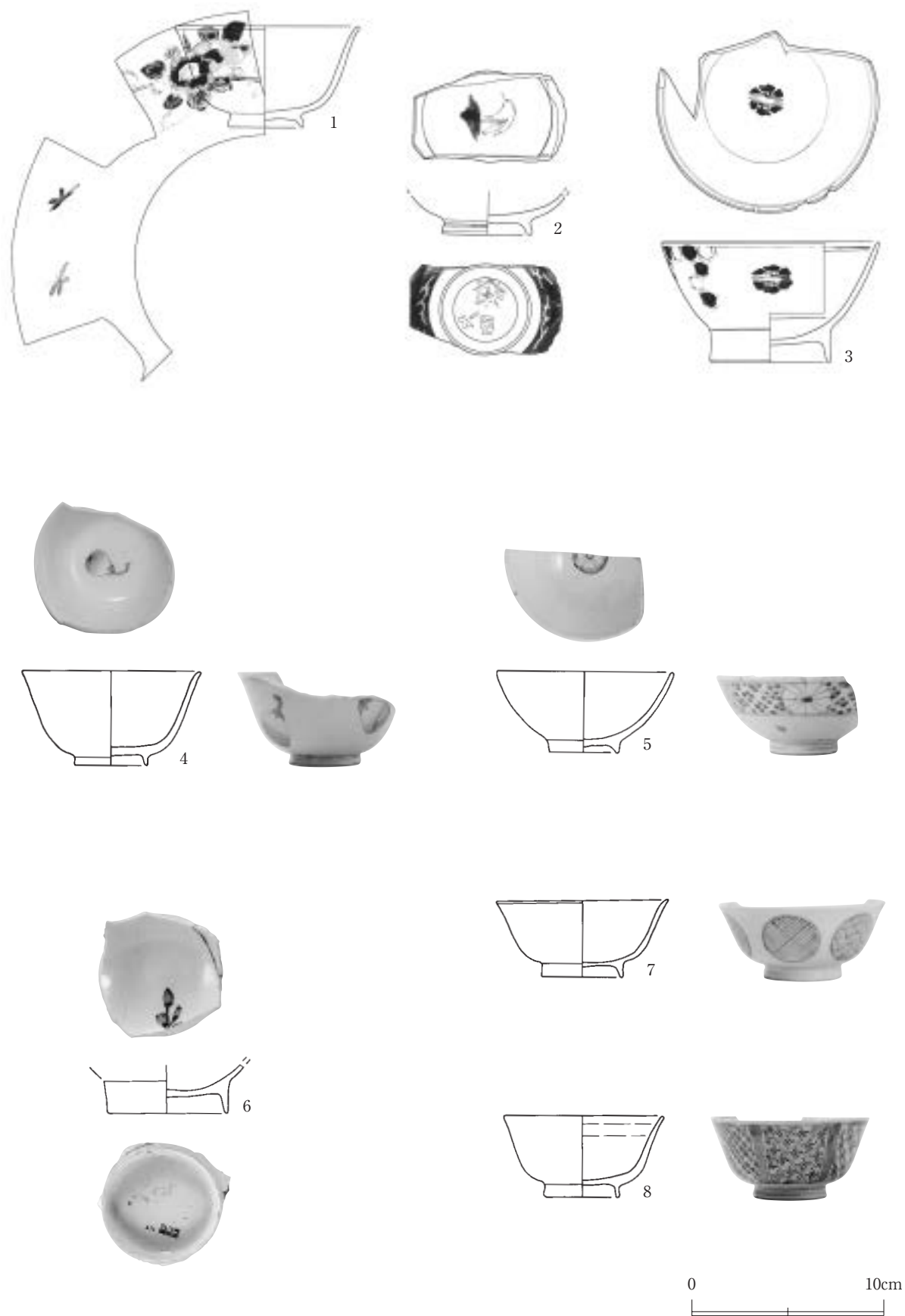
第89図 肥前産磁器 第IV期 (7)



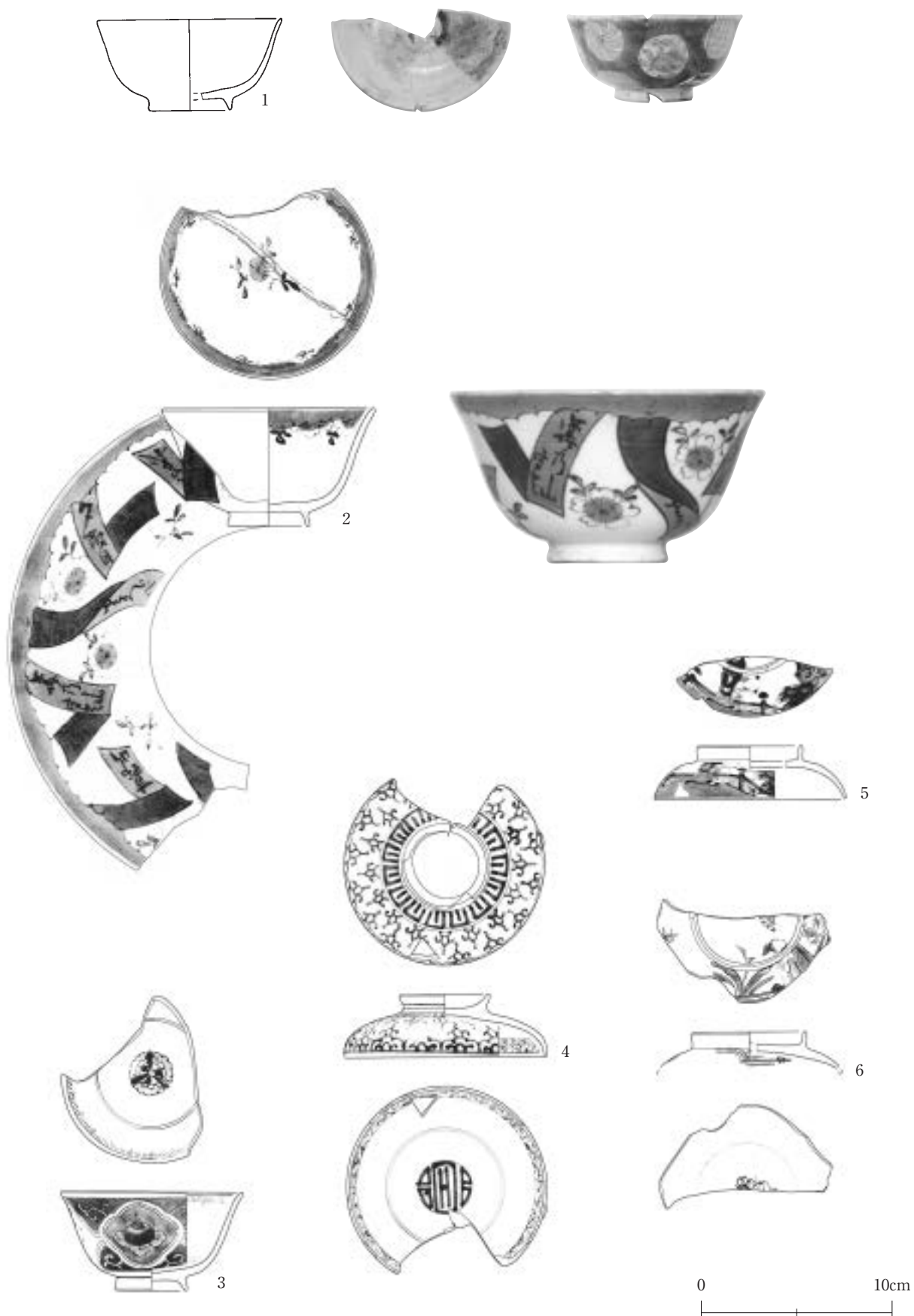
第90図 肥前産磁器 第IV期 (8)



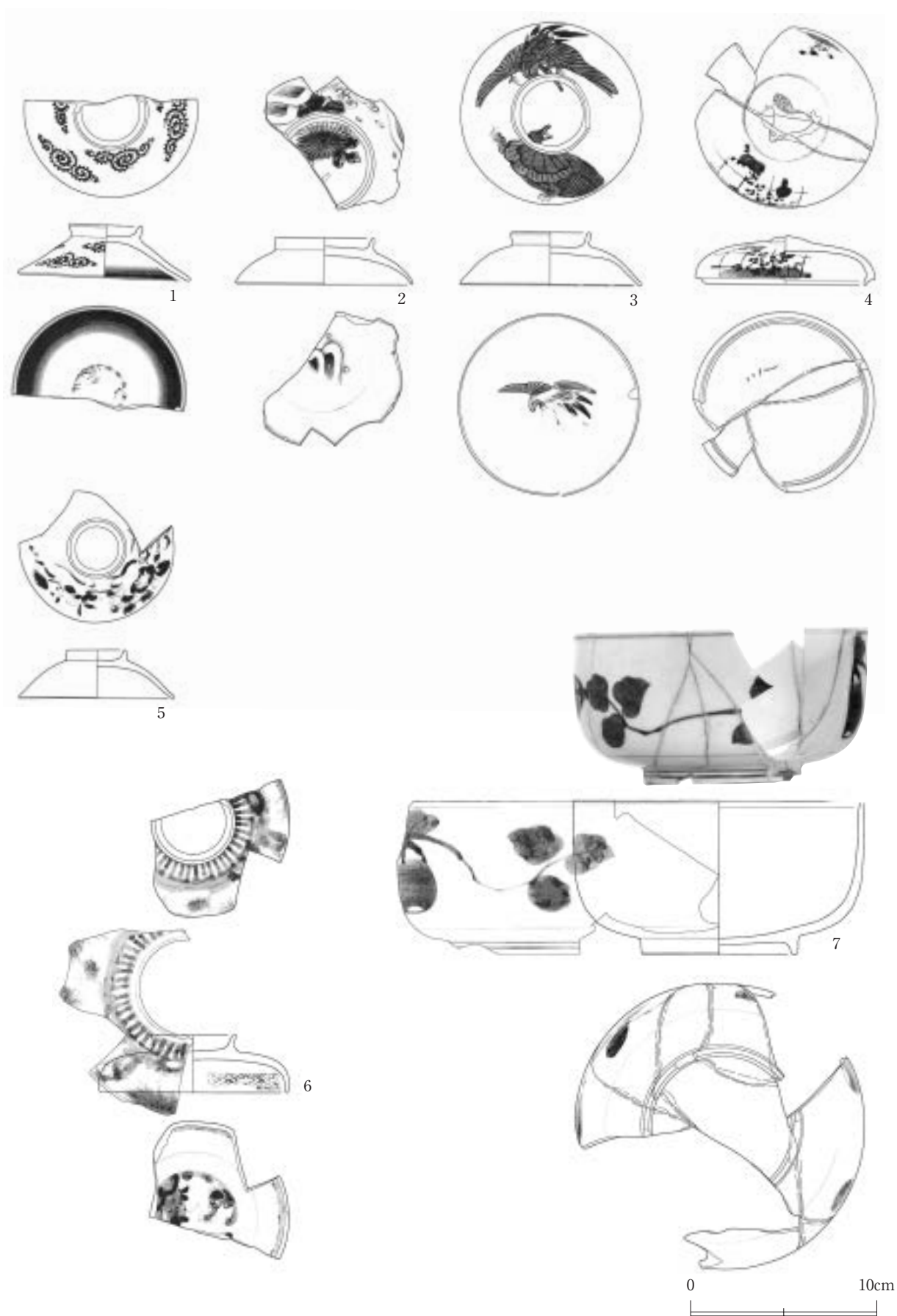
第91図 肥前産磁器 第IV期 (9)



第92図 肥前産磁器 第V期 (1)



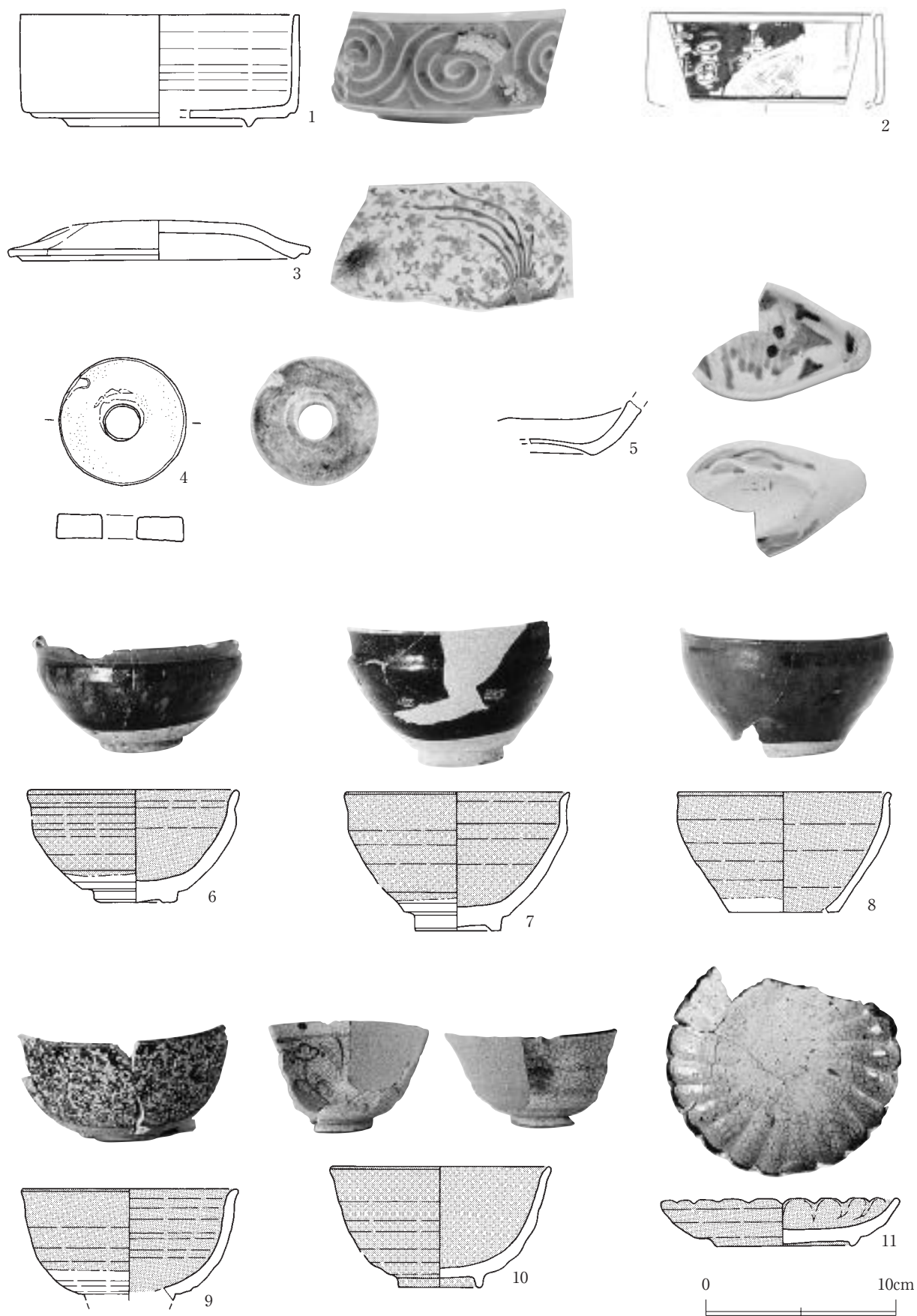
第93図 肥前産磁器 第V期 (2)



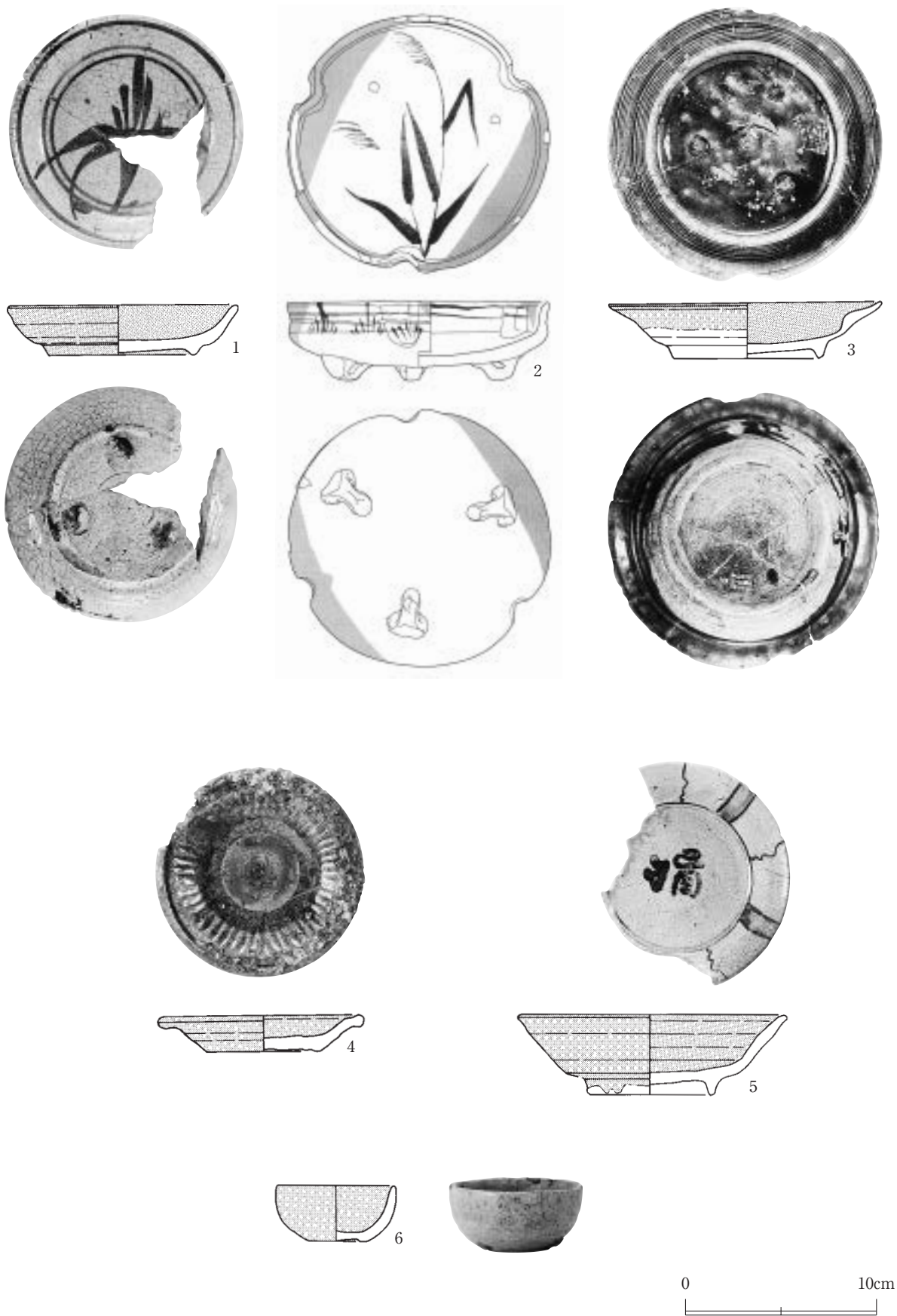
第94図 肥前産磁器 第V期 (3)



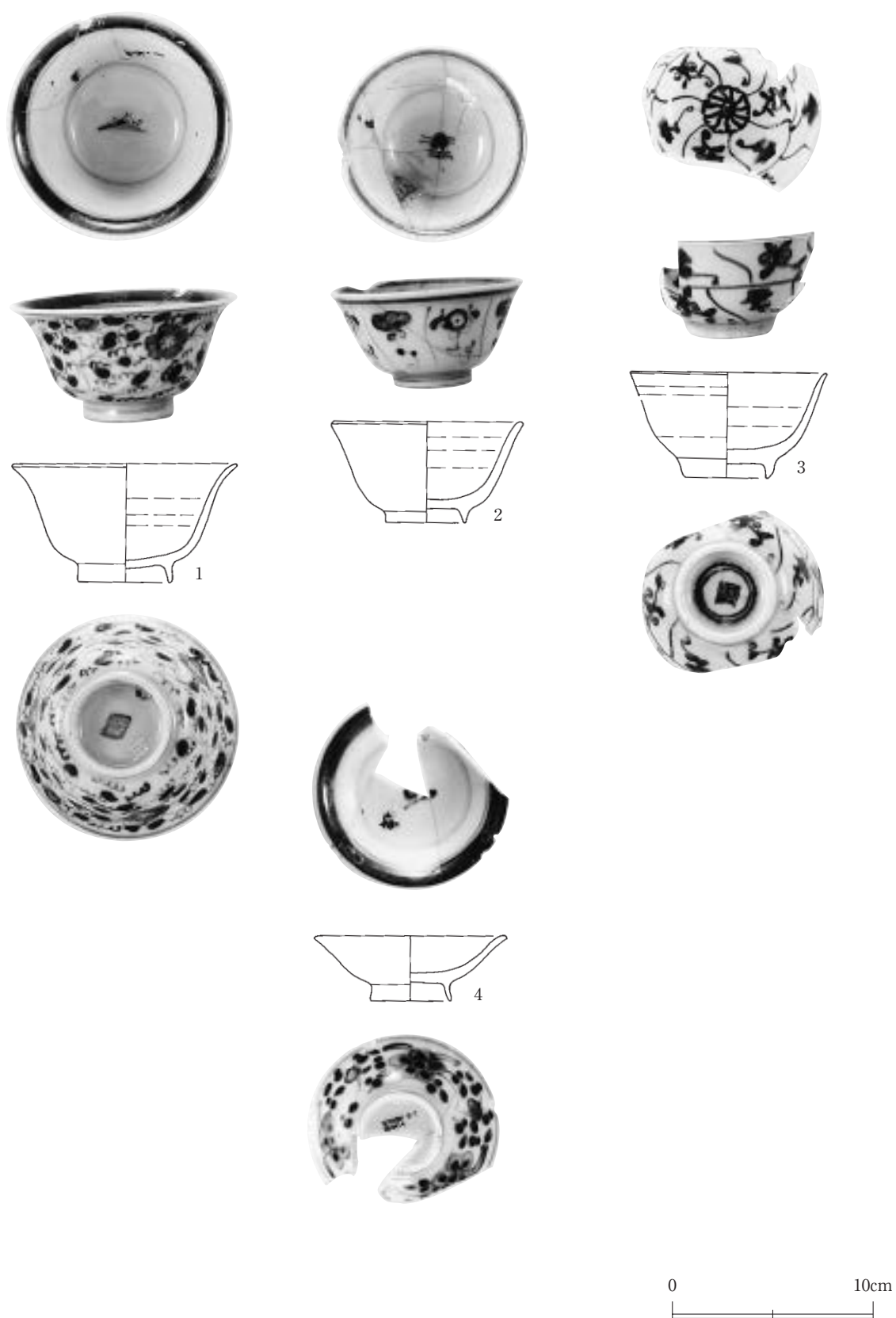
第95図 肥前産磁器 第V期(4)



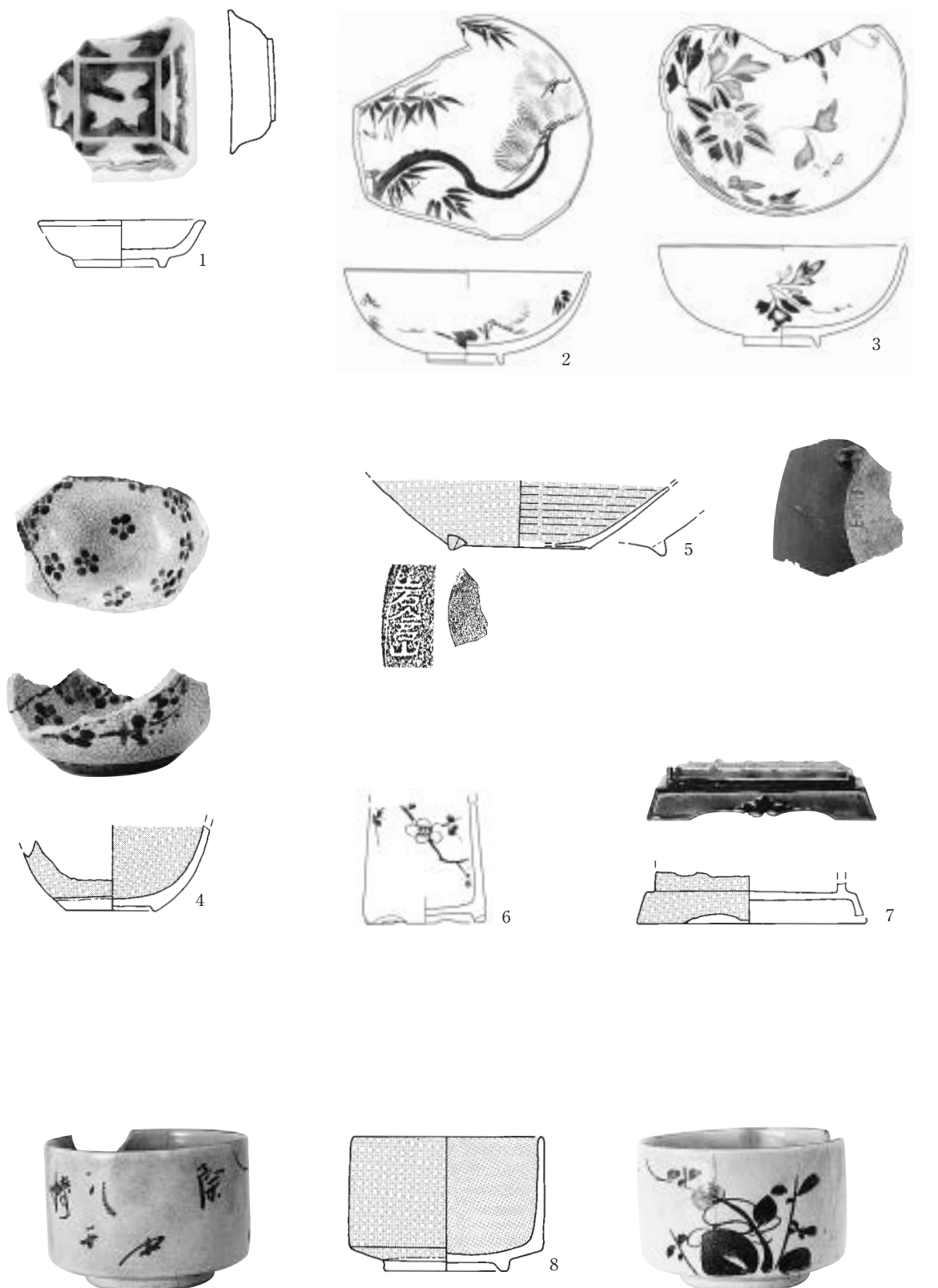
第96図 肥前産磁器 第V期(5)、その他の陶磁器(1)



第97図 その他の陶磁器（2）

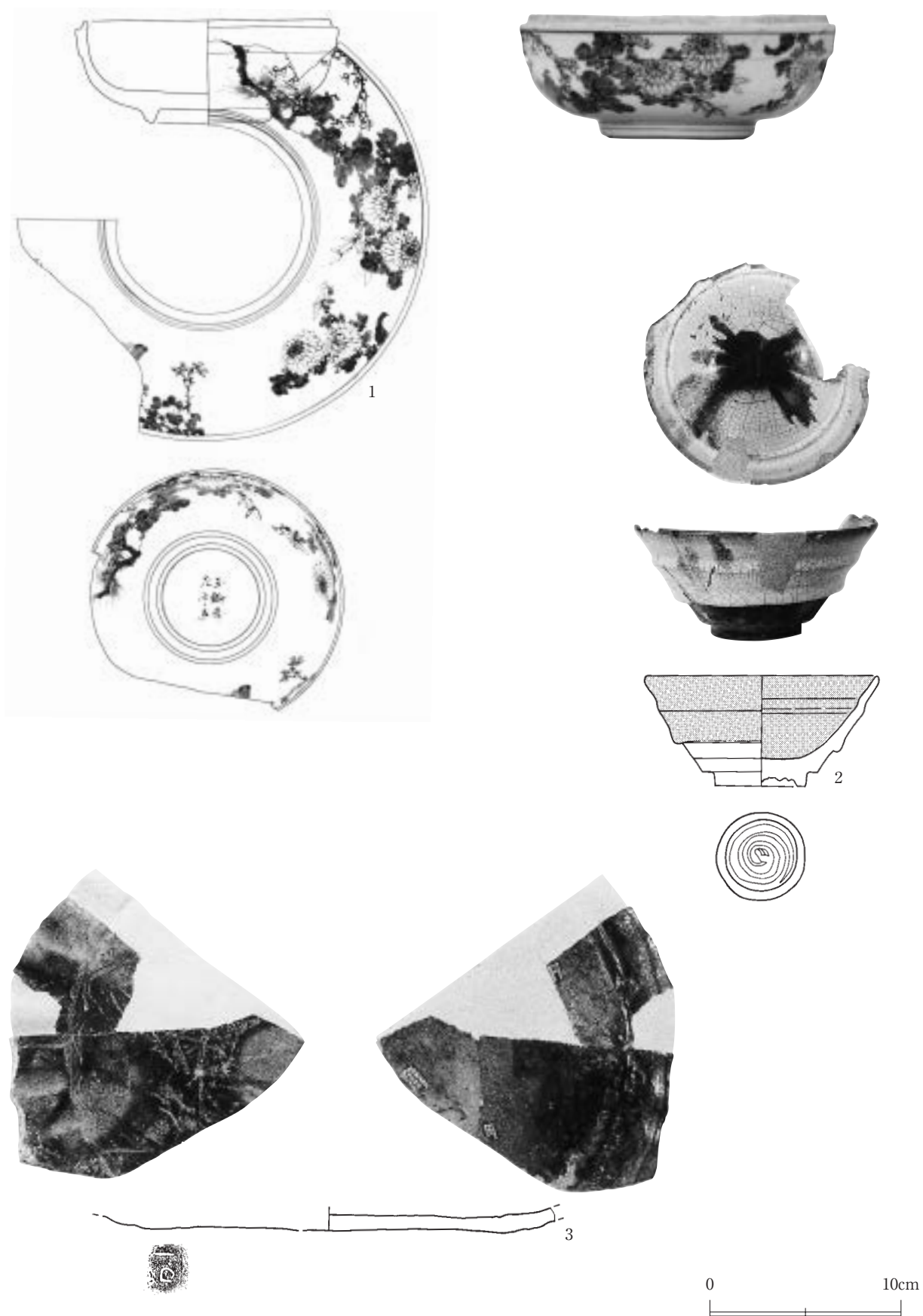


第98図 その他の陶磁器（3）

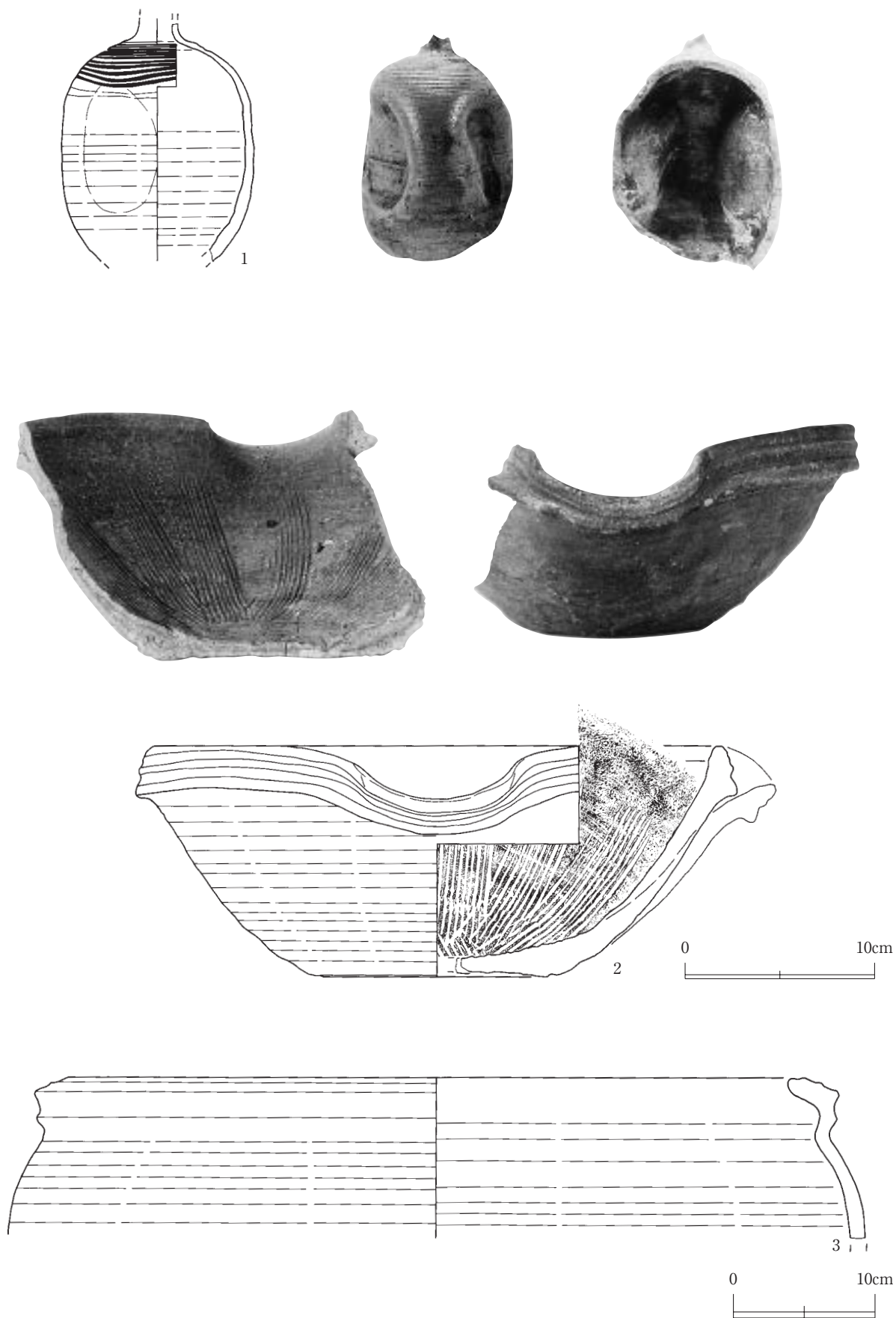


0 10cm

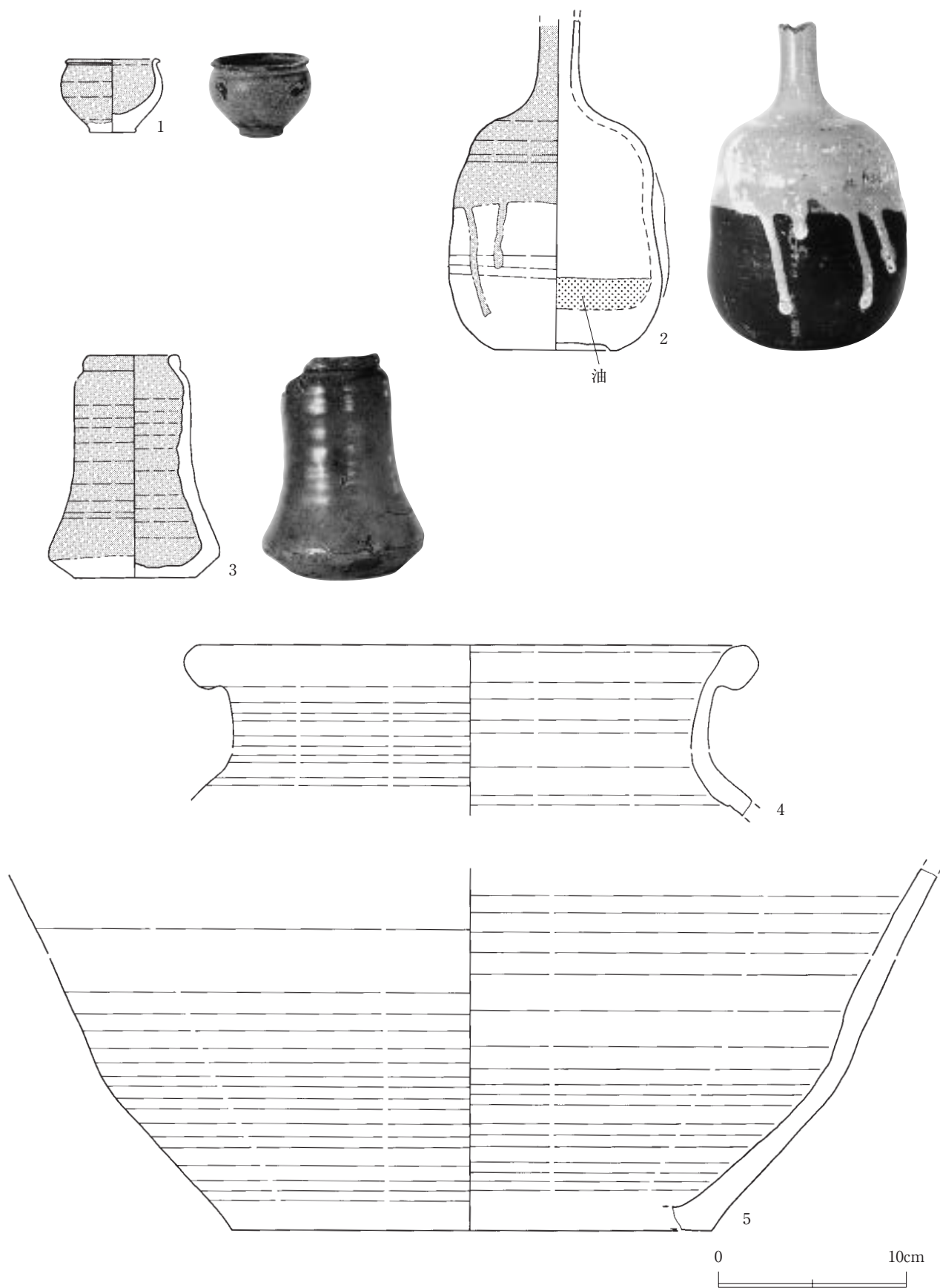
第99図 その他の陶磁器（4）



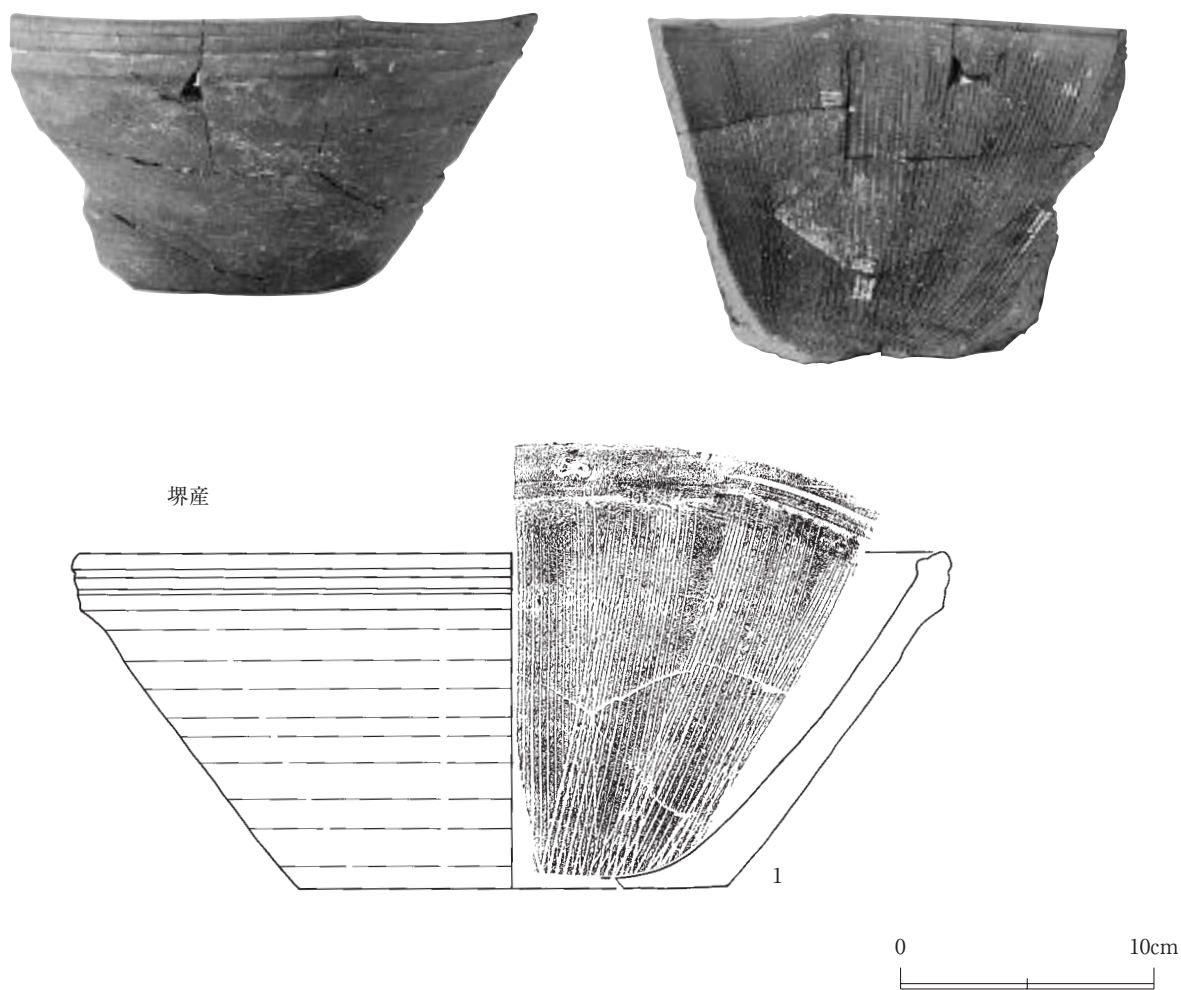
第100図 その他の陶磁器 (5)



第101図 その他の陶磁器 (6)

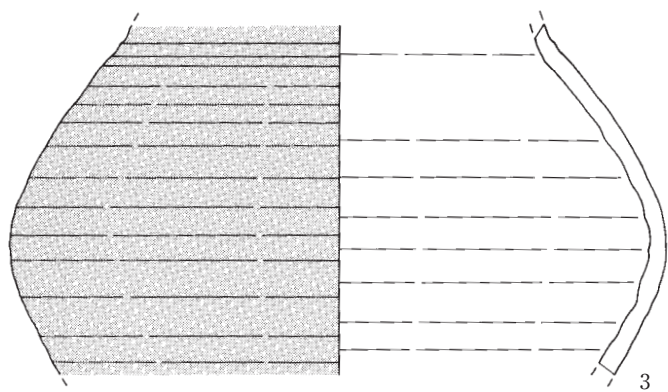
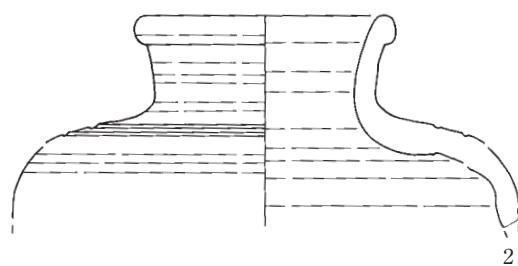
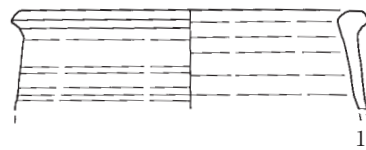


第102図 その他の陶磁器（7）



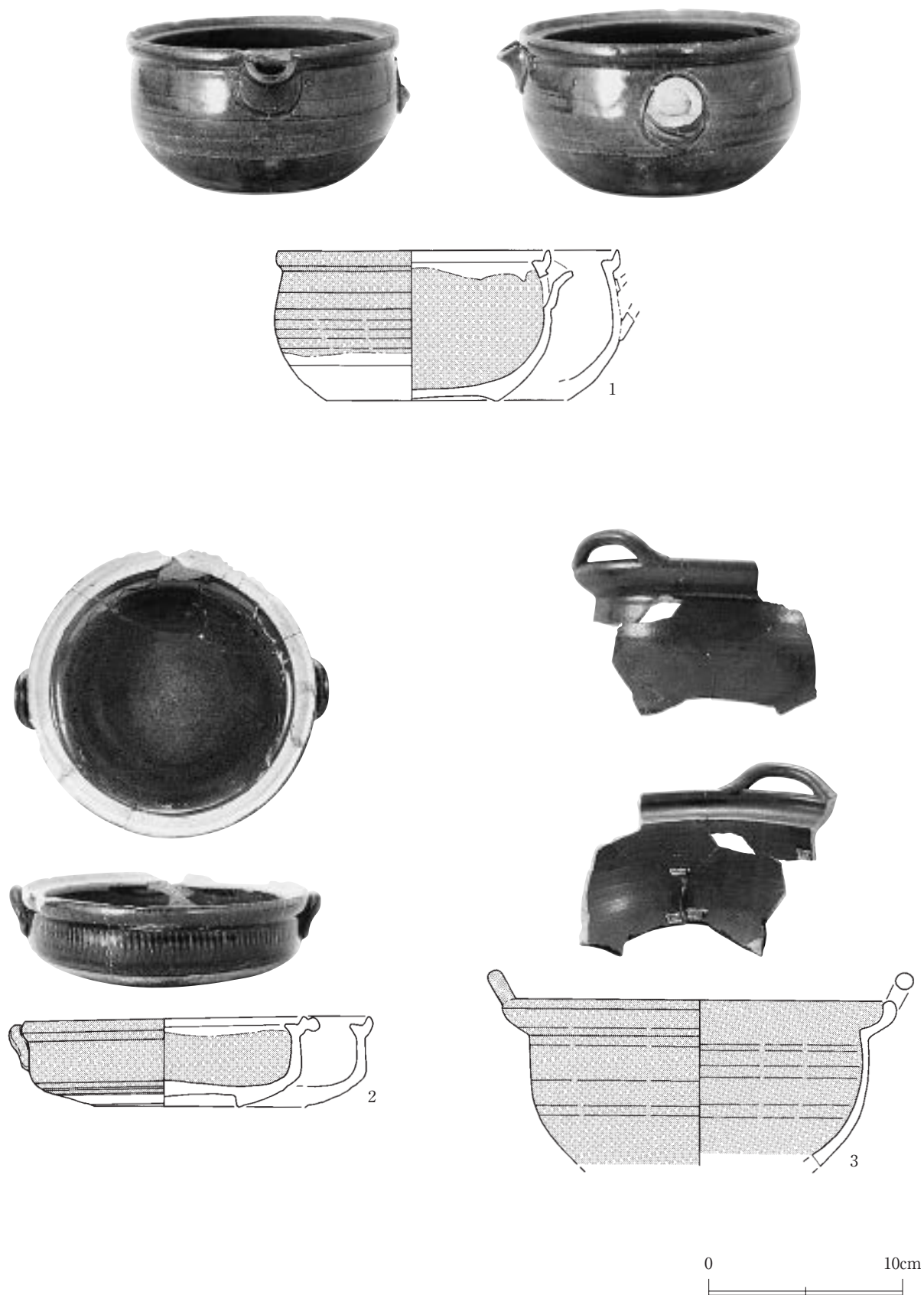
第103図 その他の陶磁器 (8)

信楽産

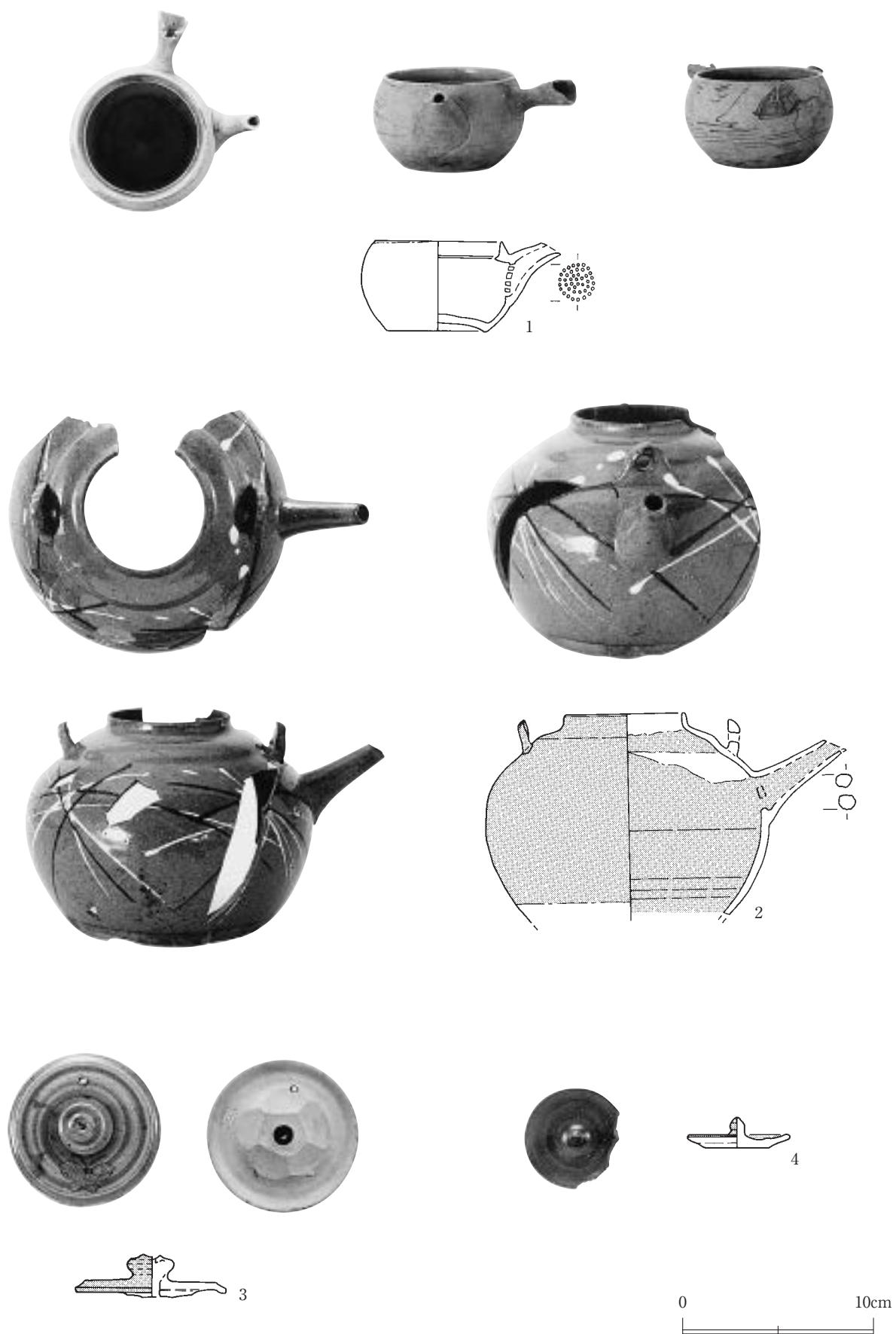


第104図 その他の陶磁器 (9)

関西系



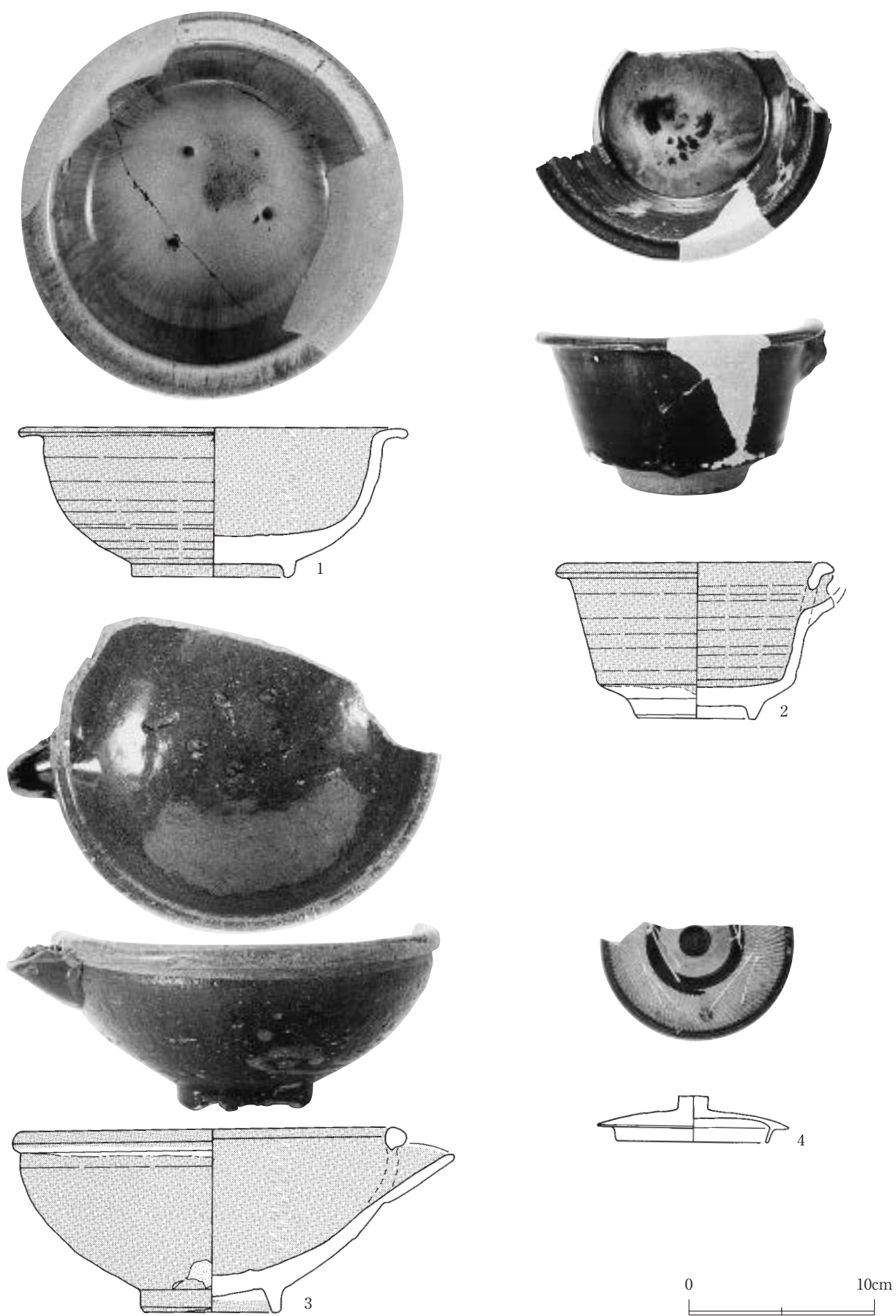
第105図 その他の陶磁器 (10)



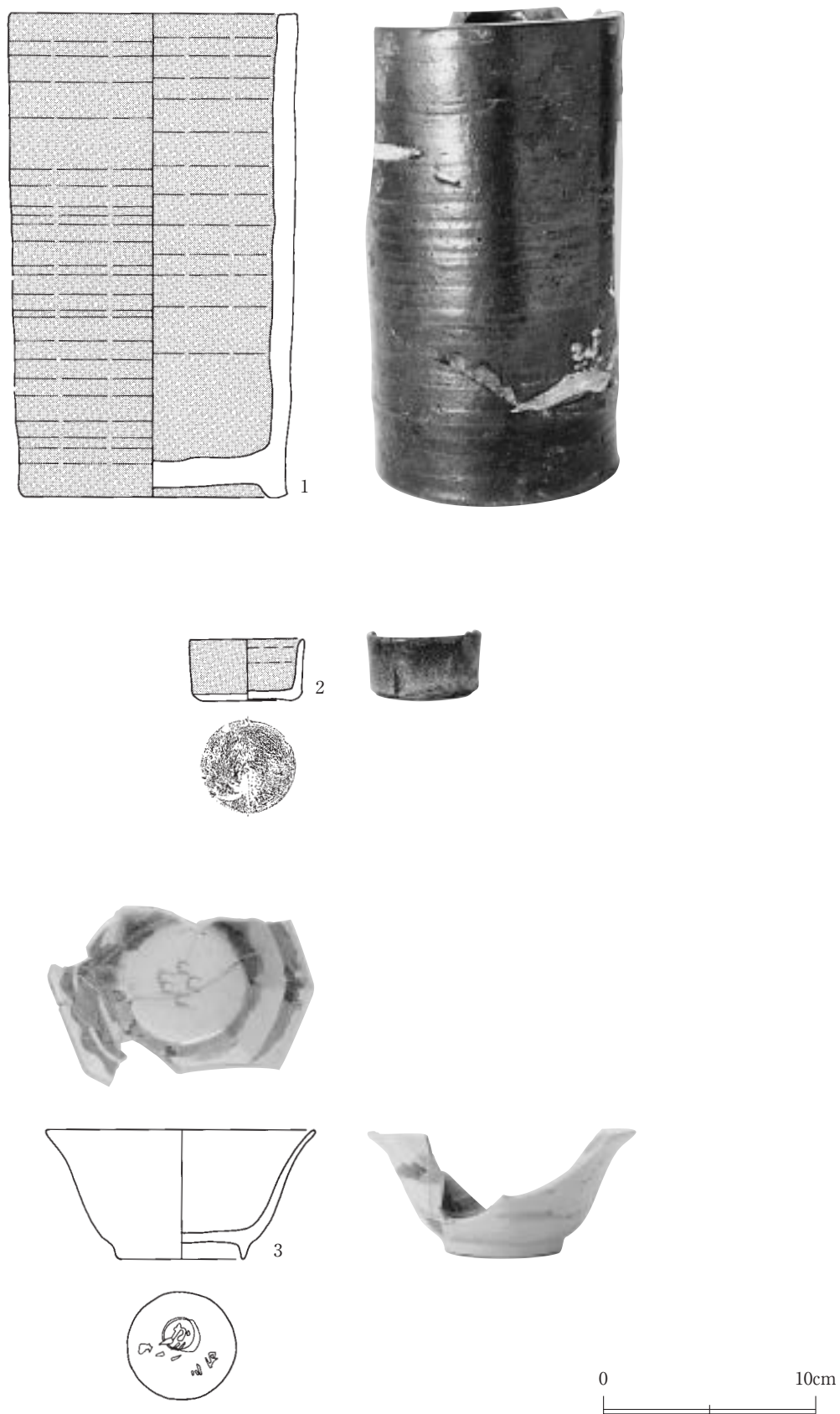
第106図 その他の陶磁器 (11)



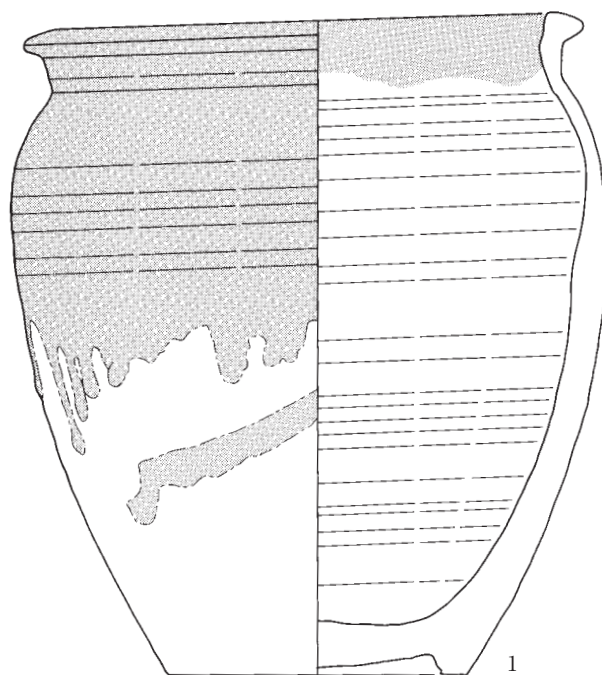
第107図 その他の陶磁器 (12)



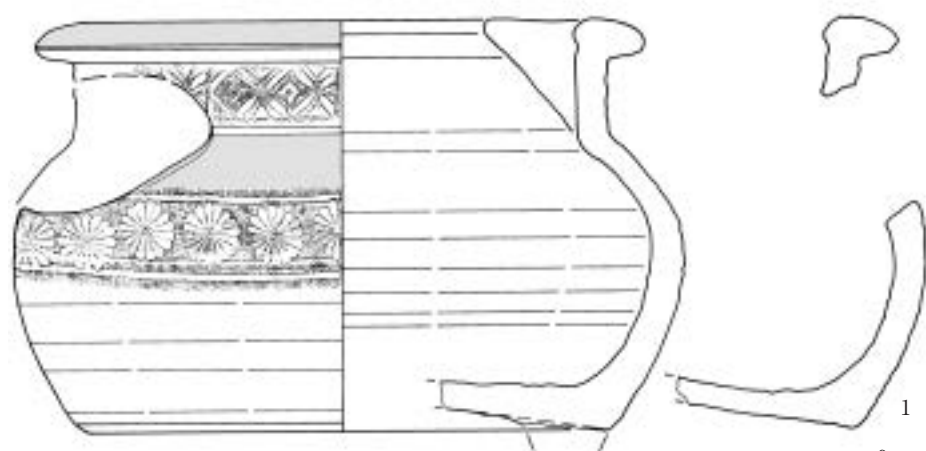
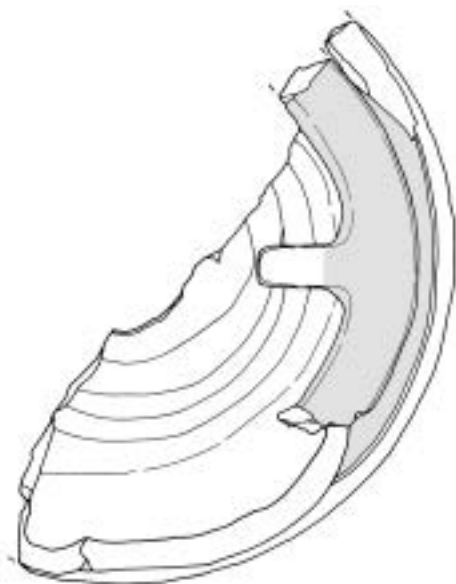
第108図 その他の陶磁器 (13)



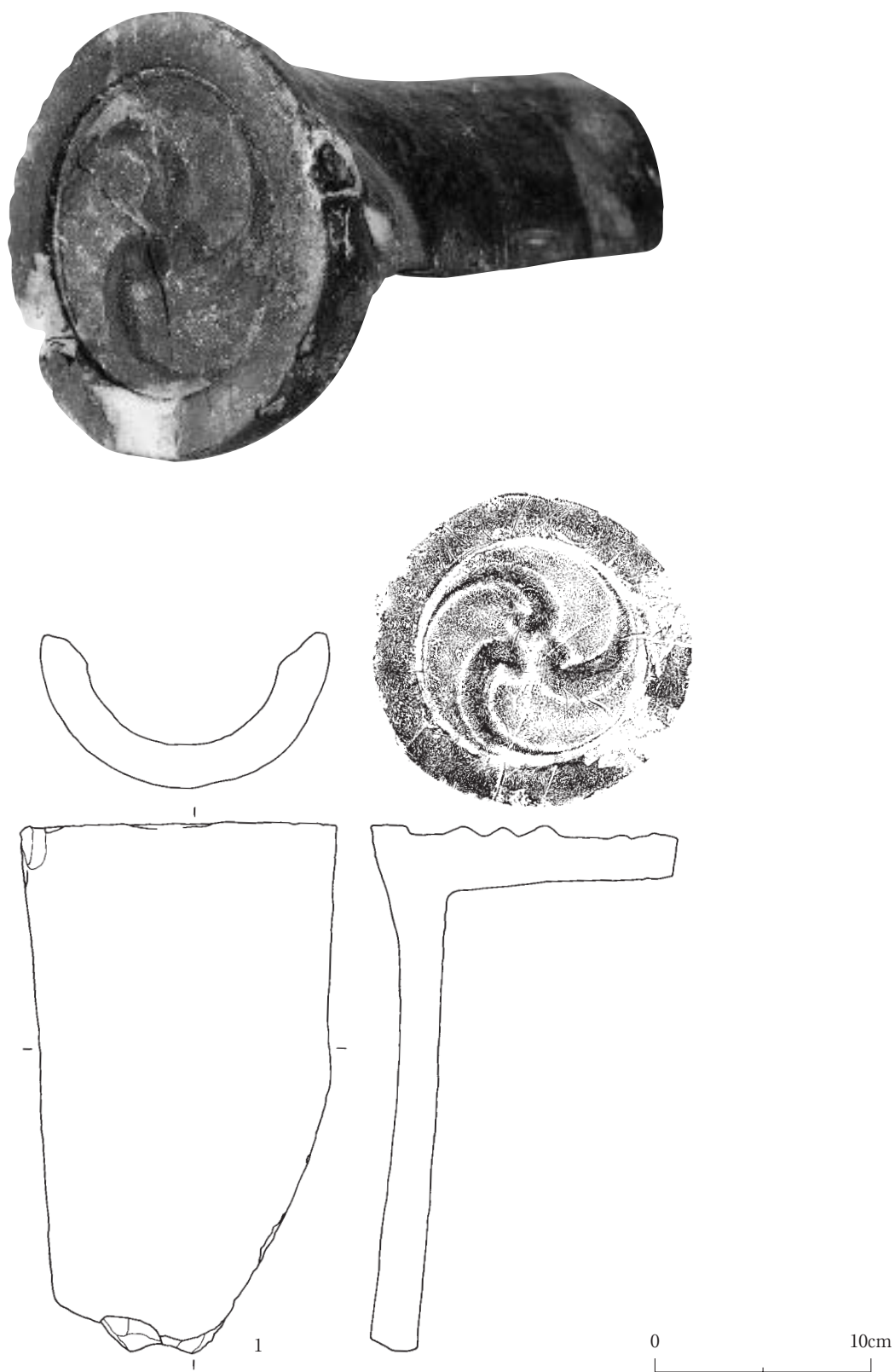
第109図 その他の陶磁器 (14)



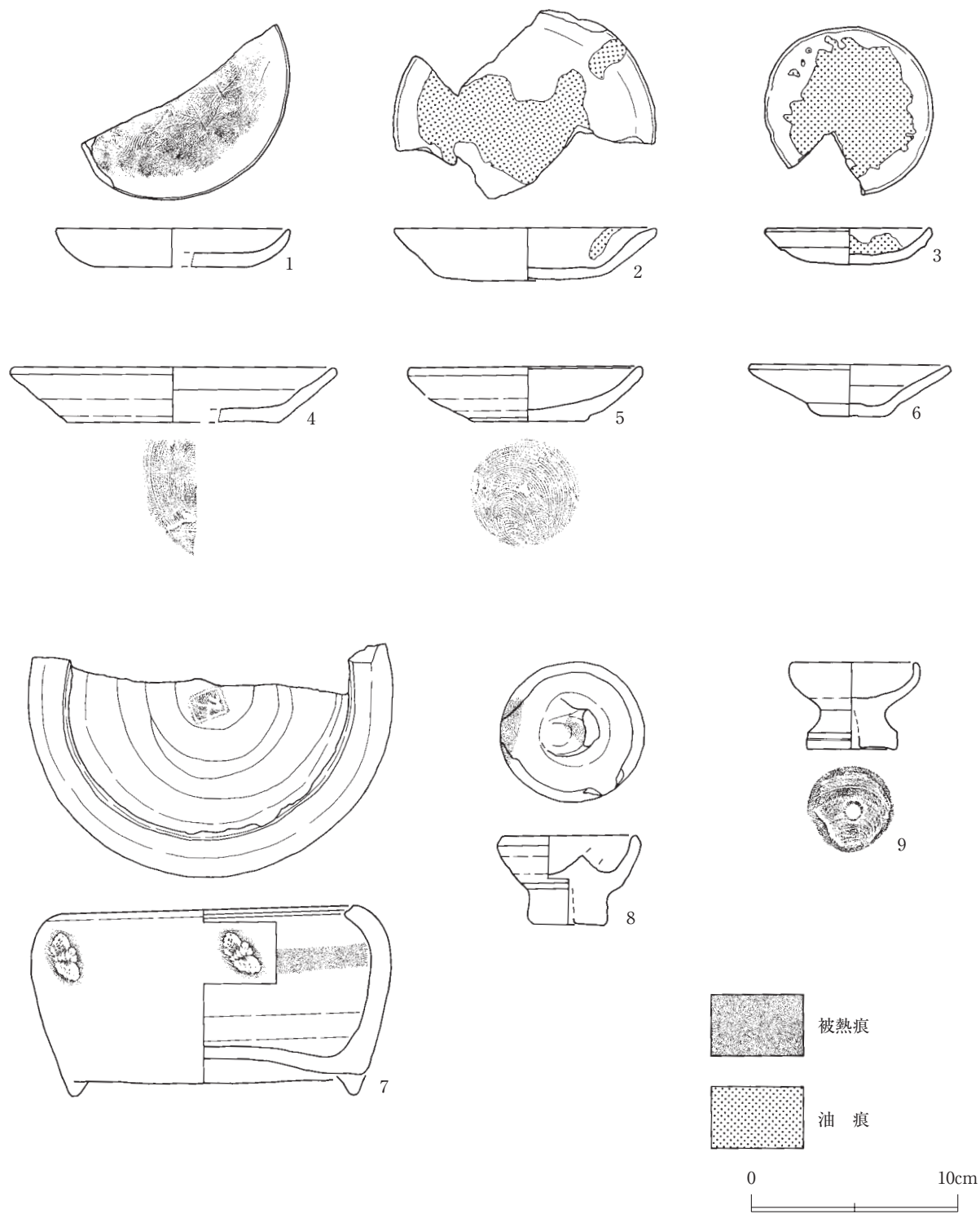
第110図 その他の陶磁器 (15)



第111図 その他の陶磁器 (16)



第112図 その他の陶磁器 (17)



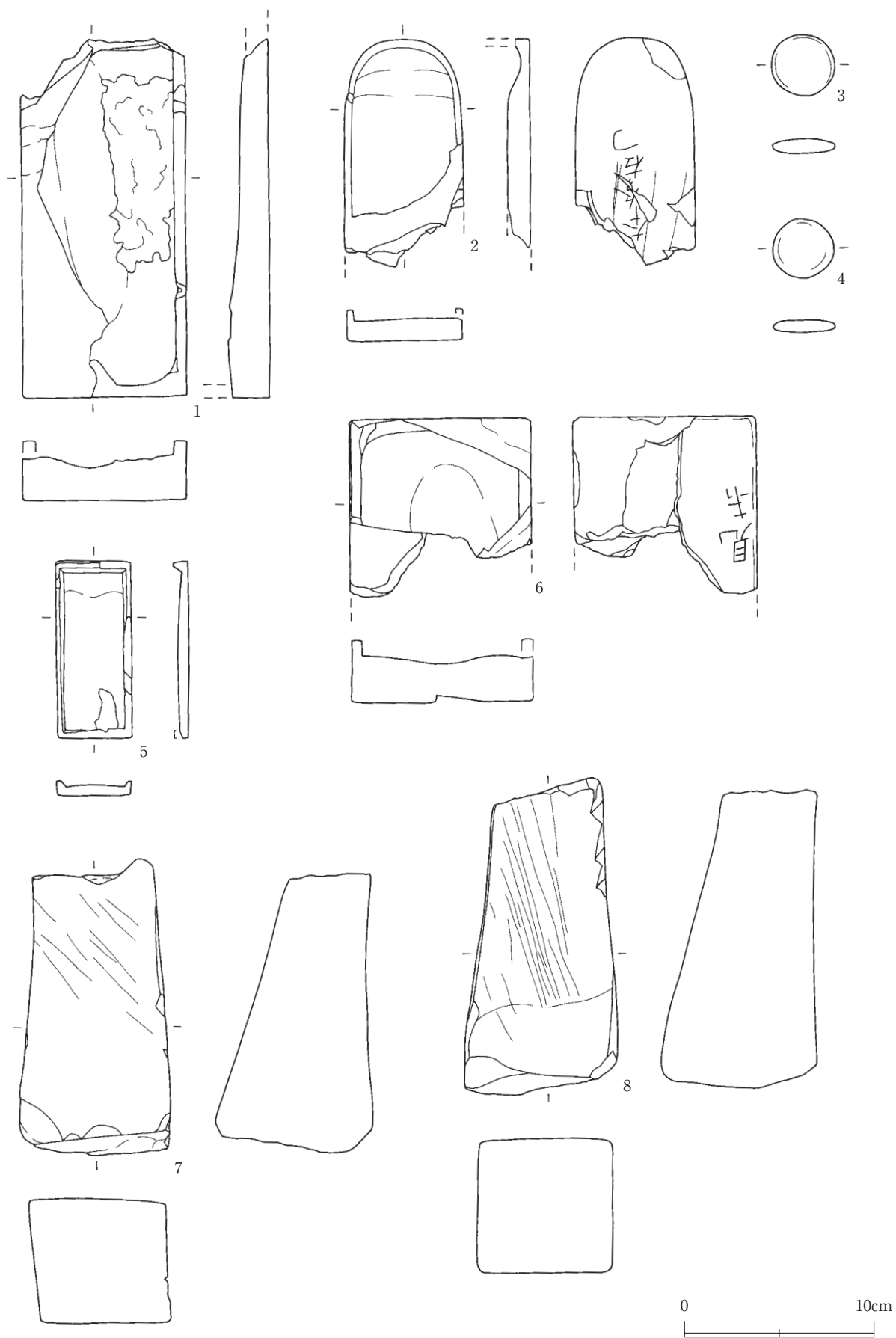
第113図 土製品 (1)



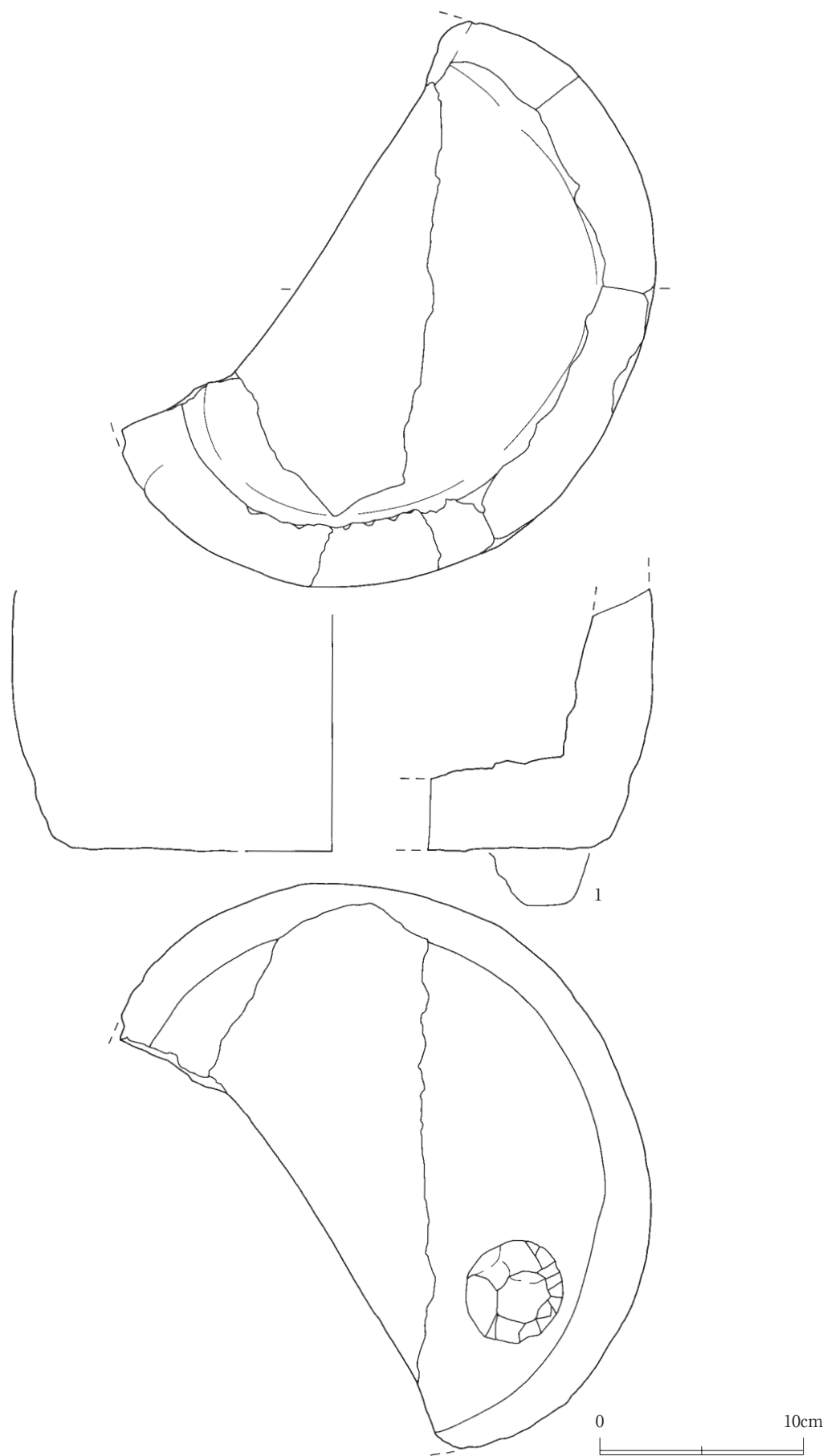
第114図 土製品 (2)



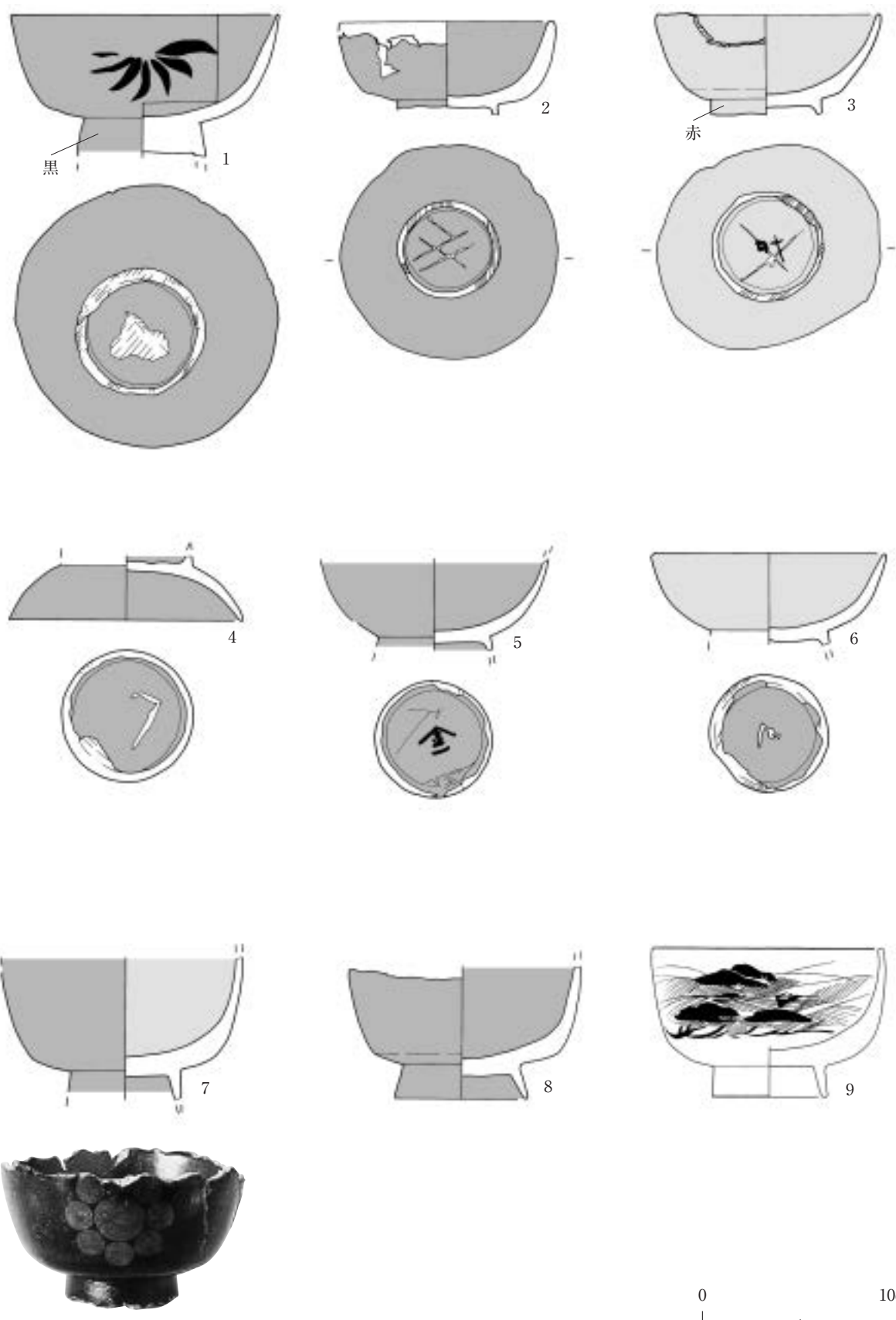
第115図 土製品 (3)



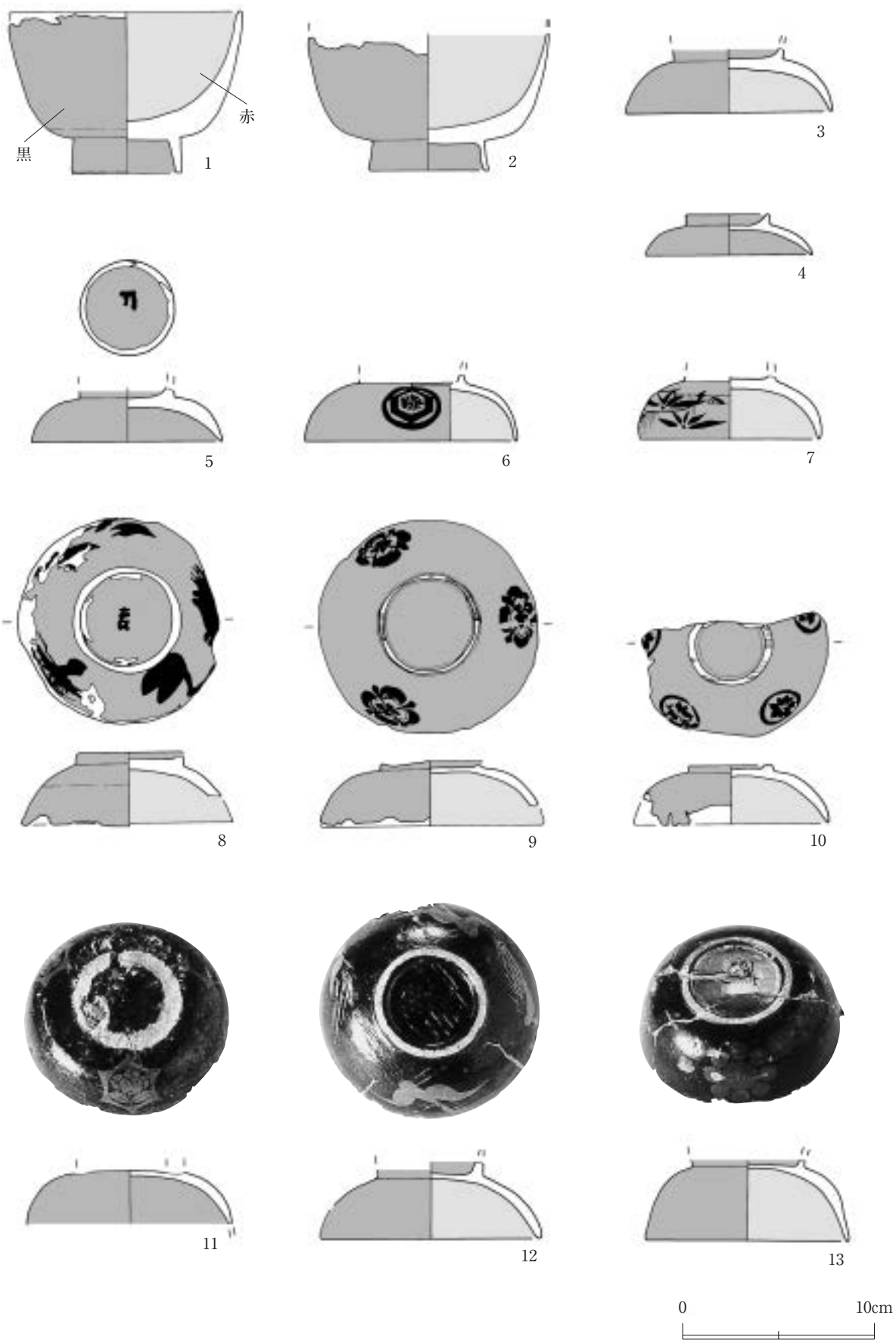
第116図 石製品 (1)



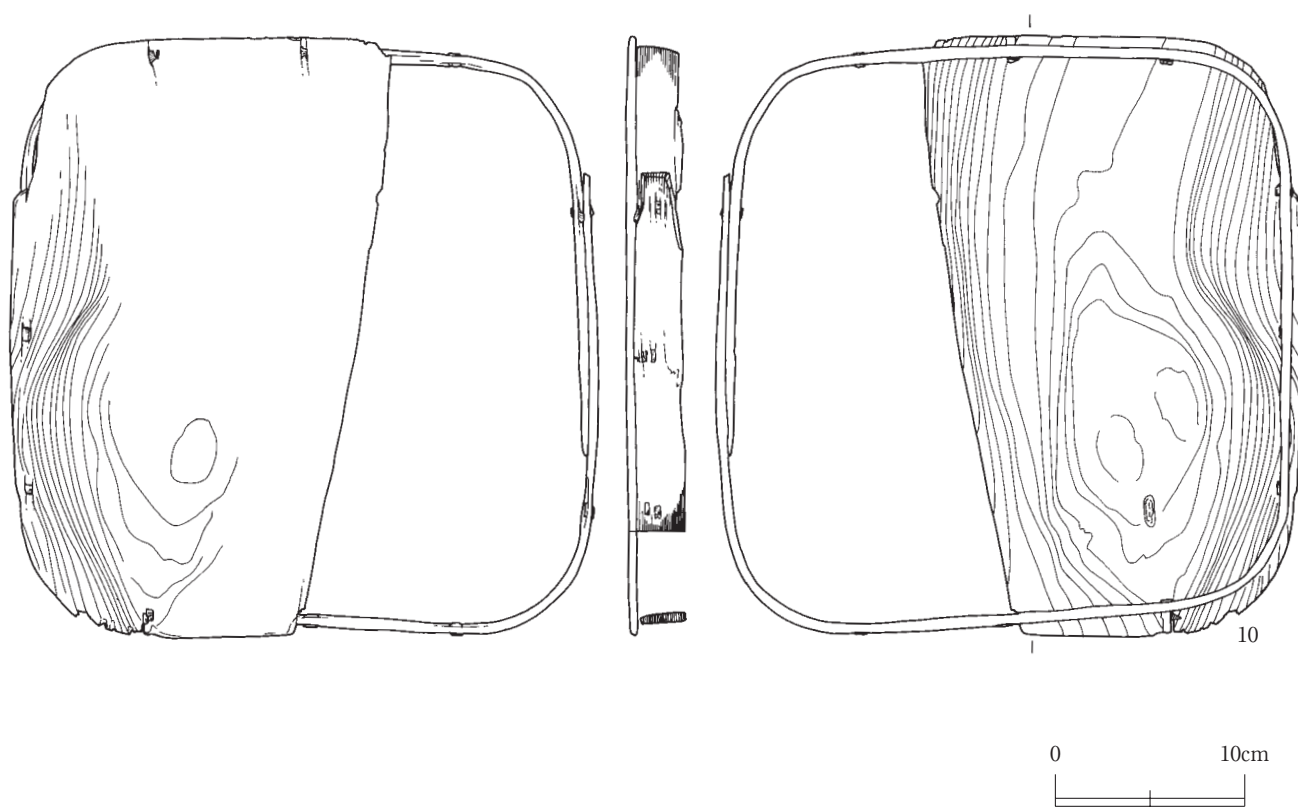
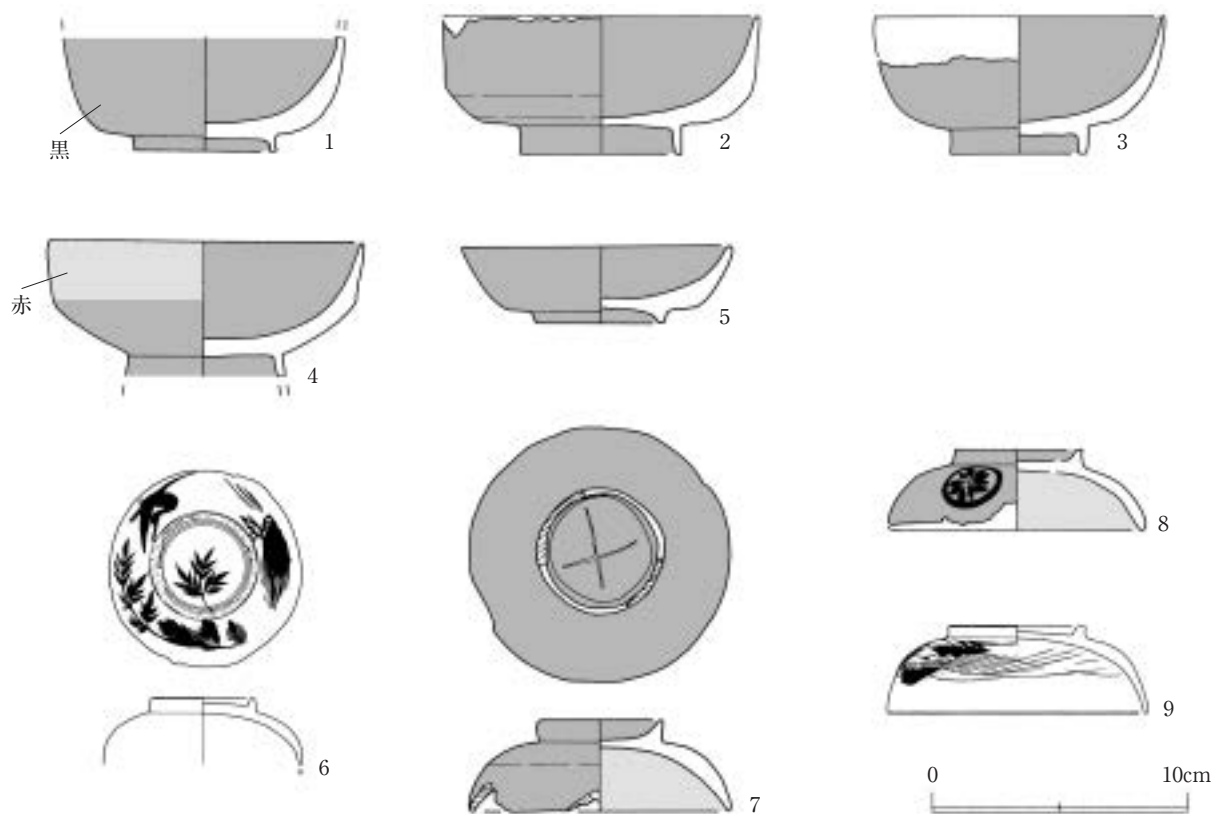
第117図 石製品 (2)



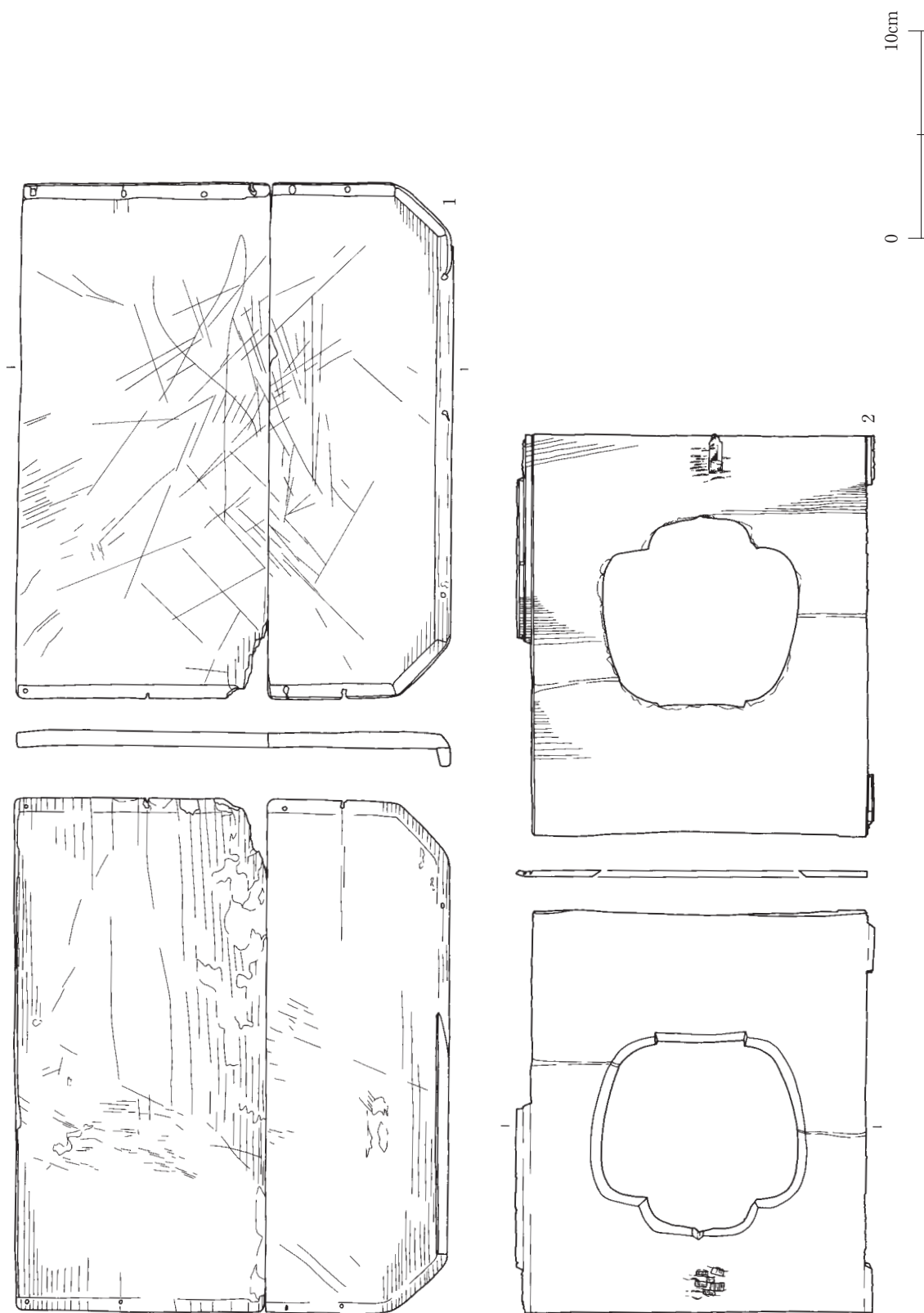
第118図 木製品 (1)

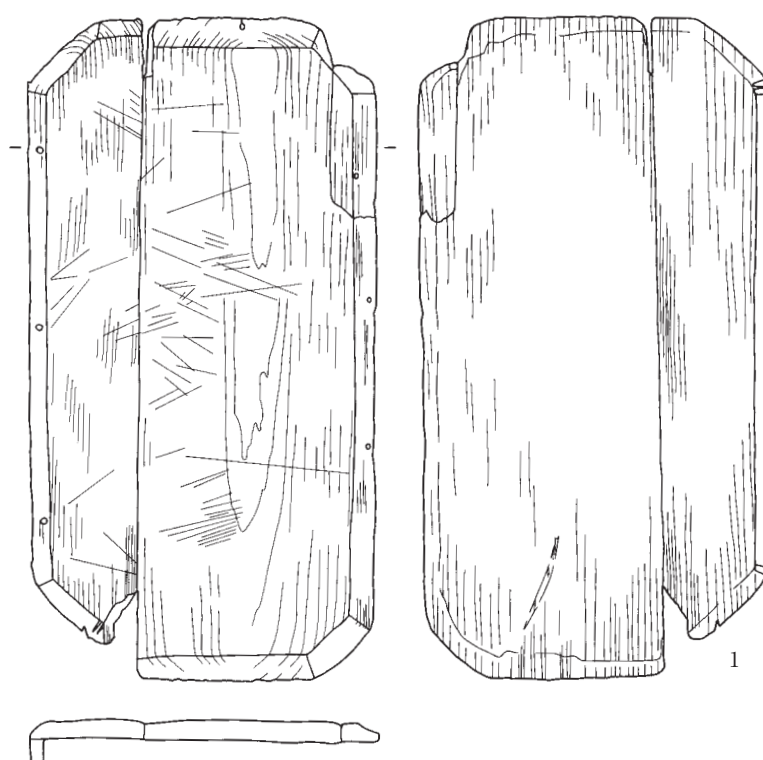


第119図 木製品 (2)



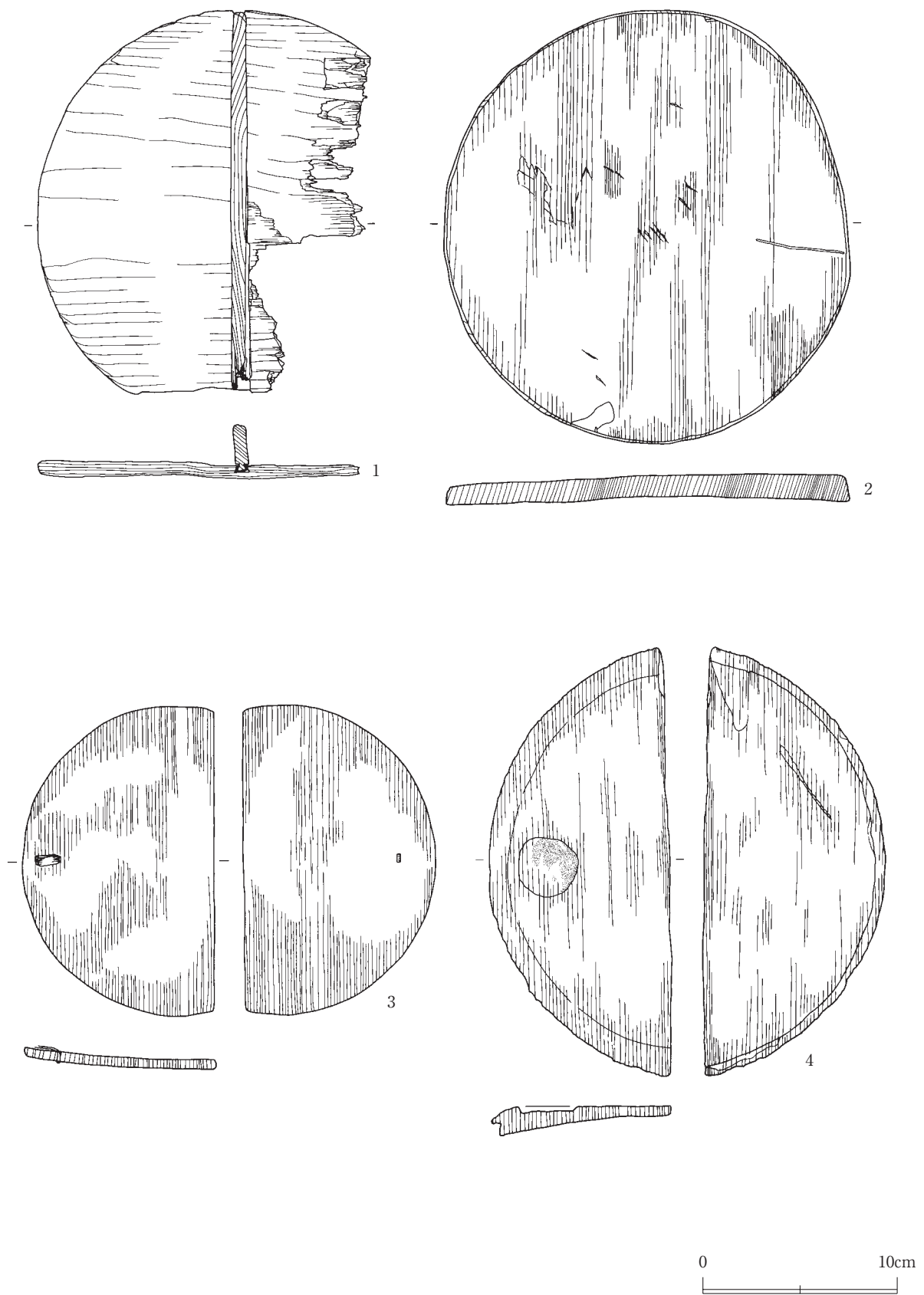
第120図 木製品 (3)



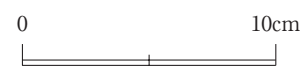
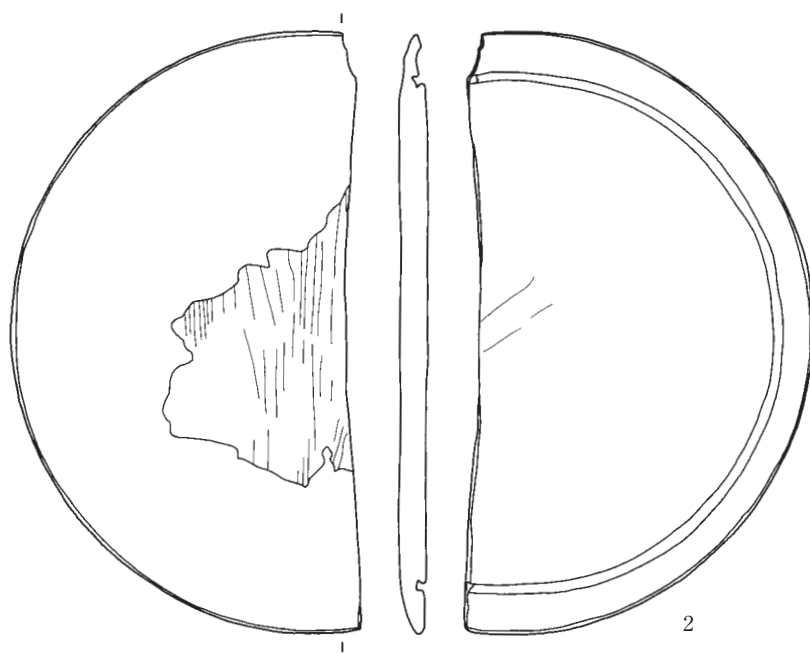
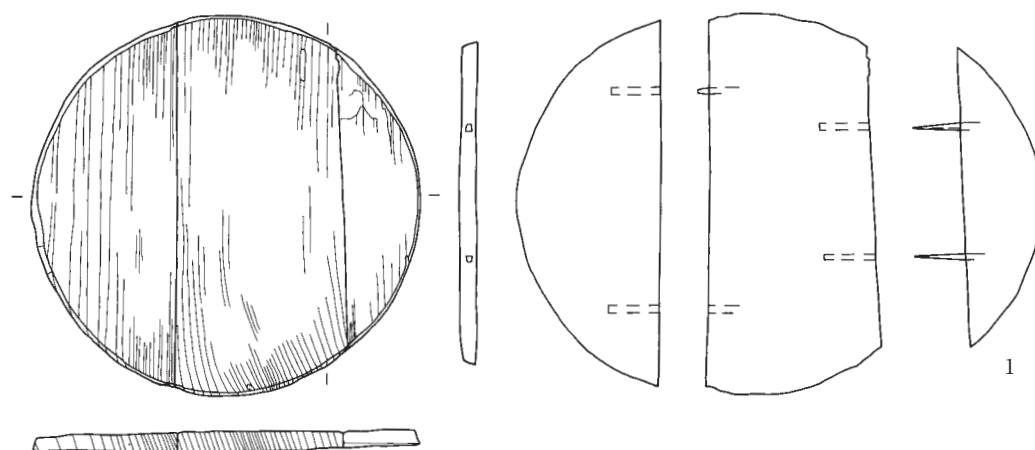


0 10cm

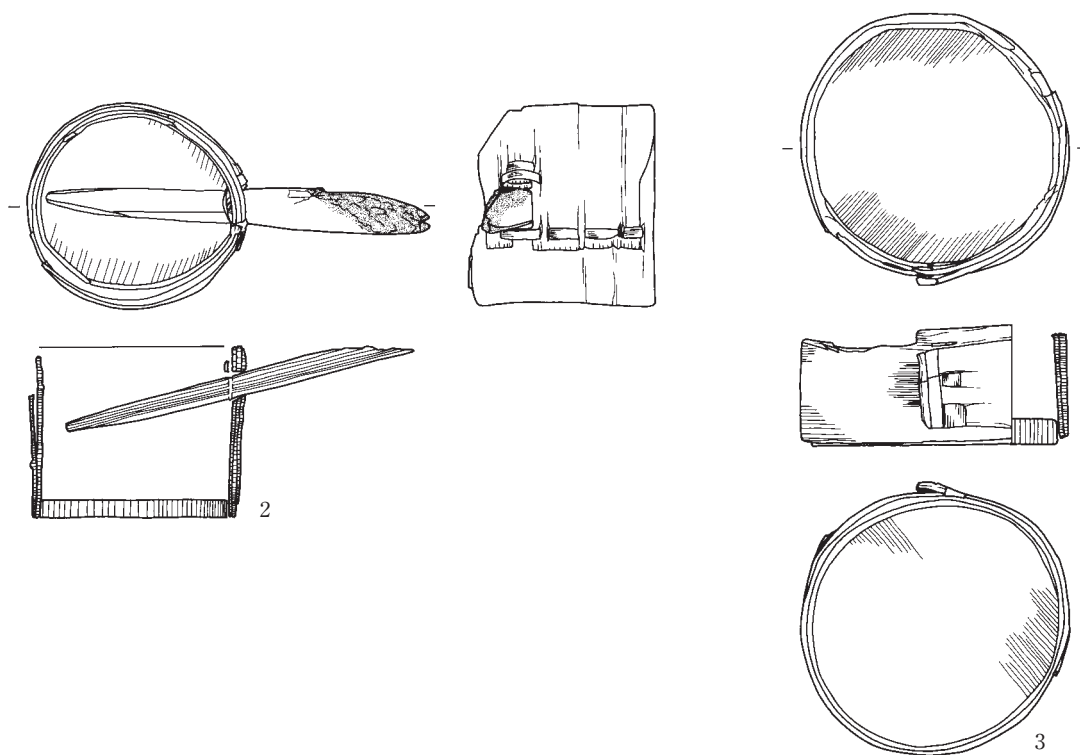
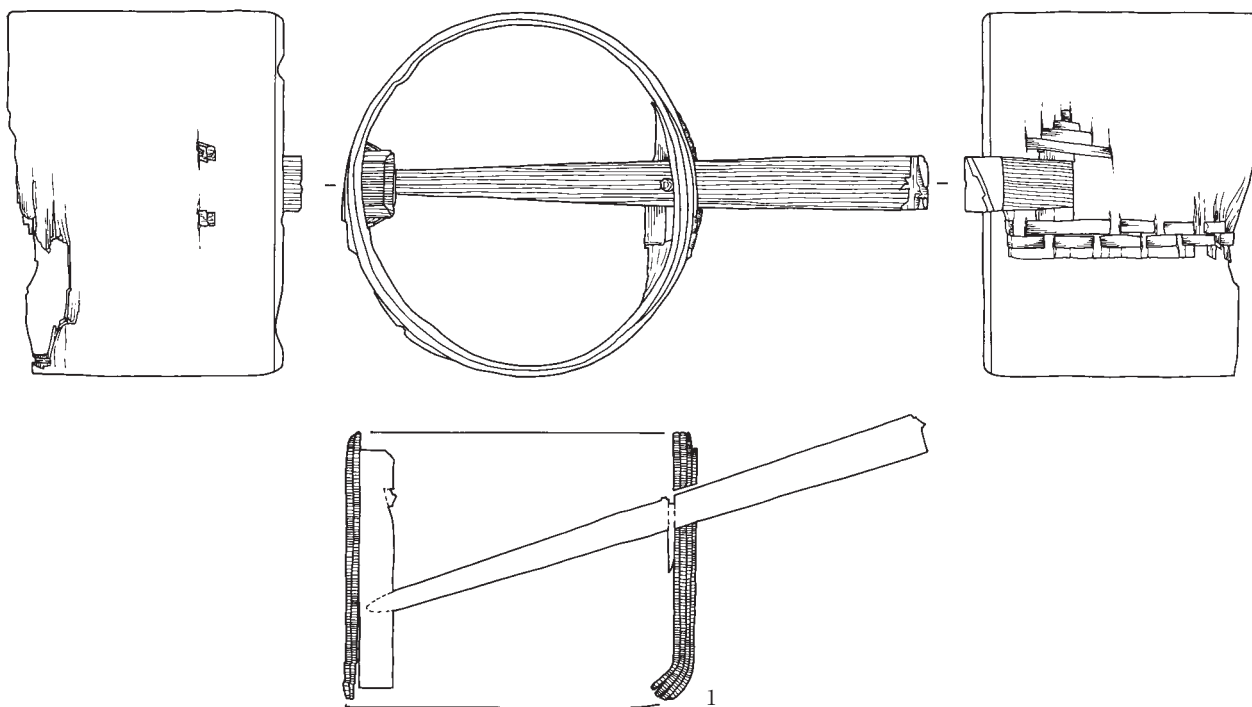
第122図 木製品 (5)



第123図 木製品 (6)

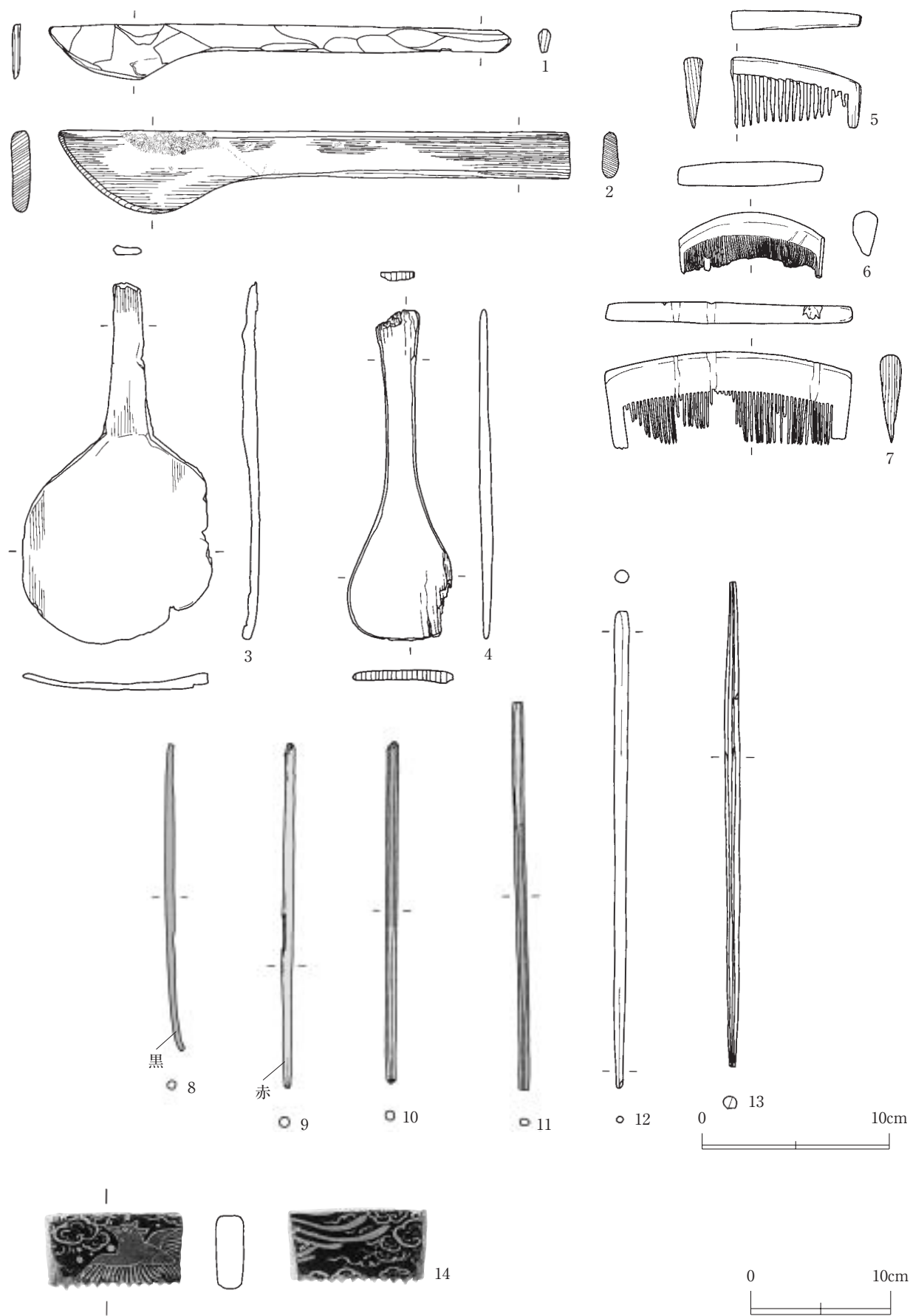


第124図 木製品 (7)

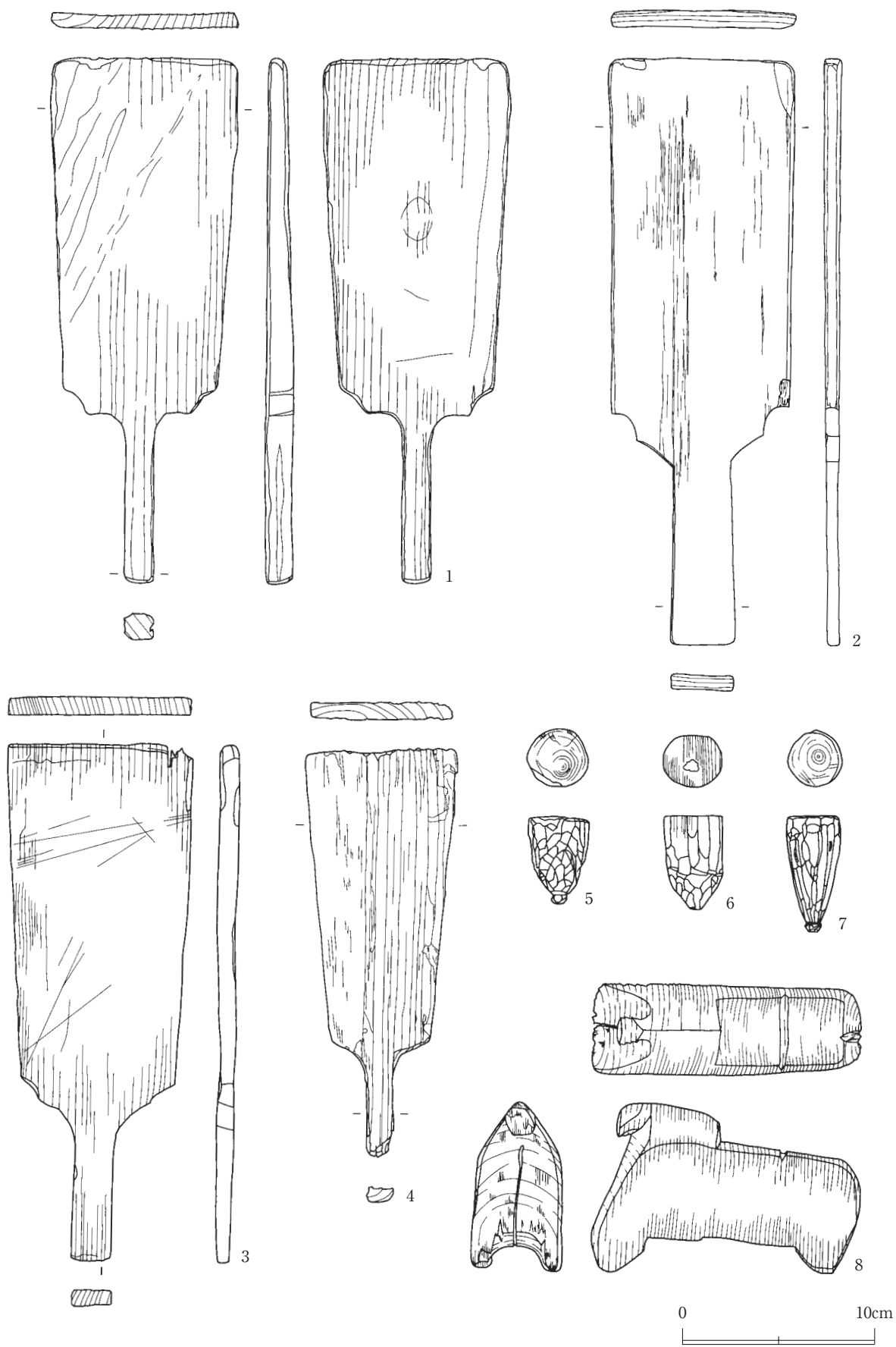


0 10cm

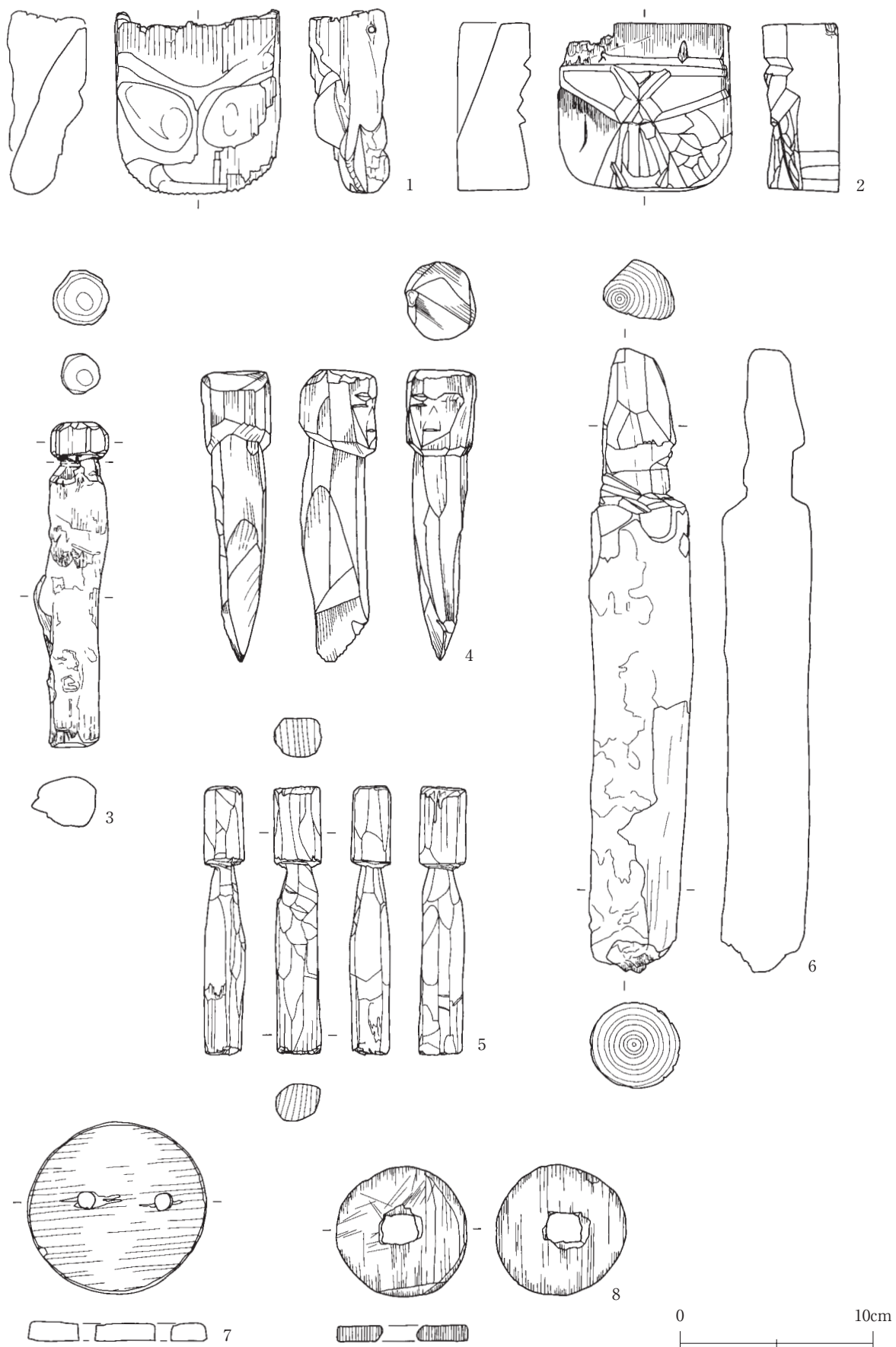
第125図 木製品 (8)



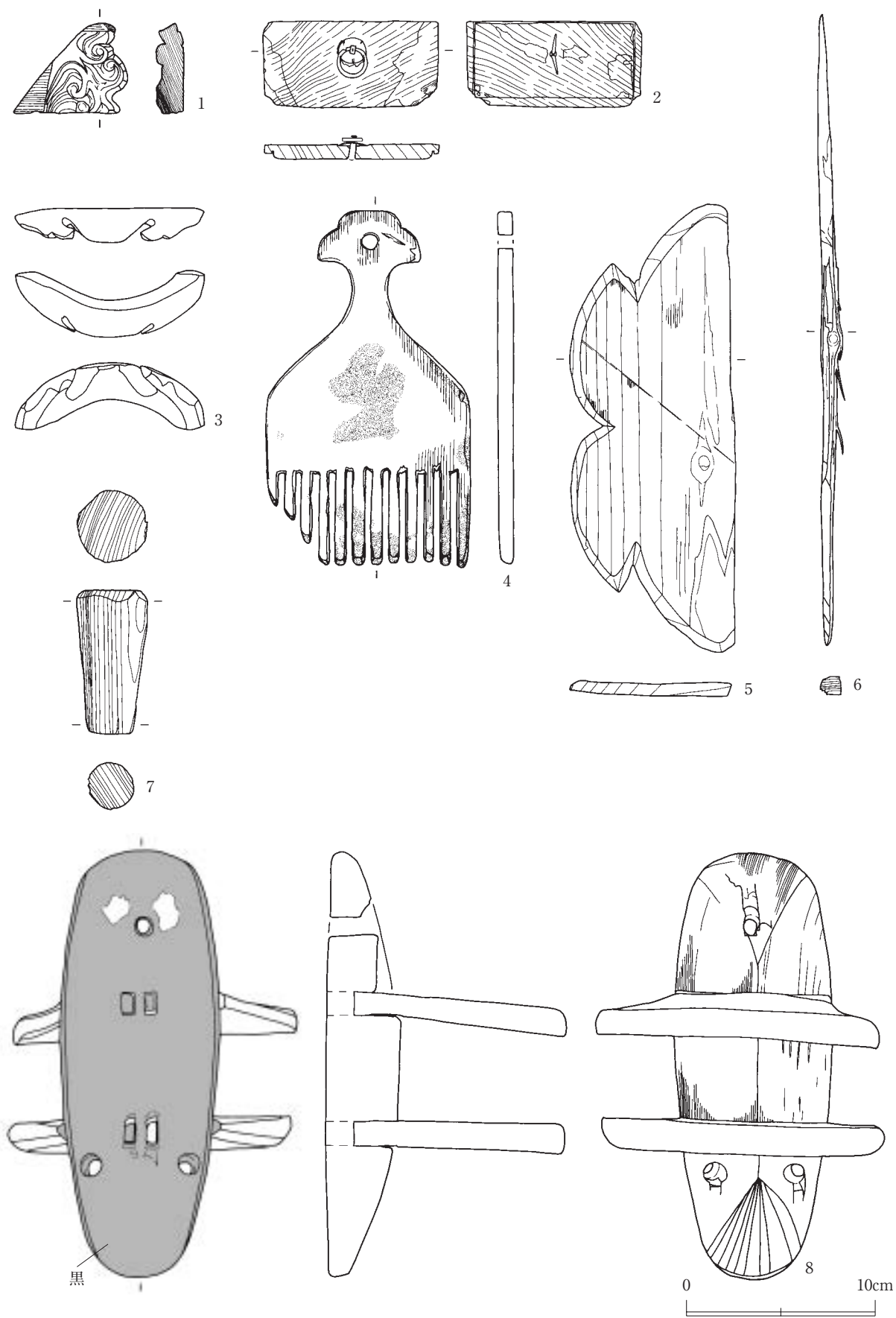
第126図 木製品 (9)



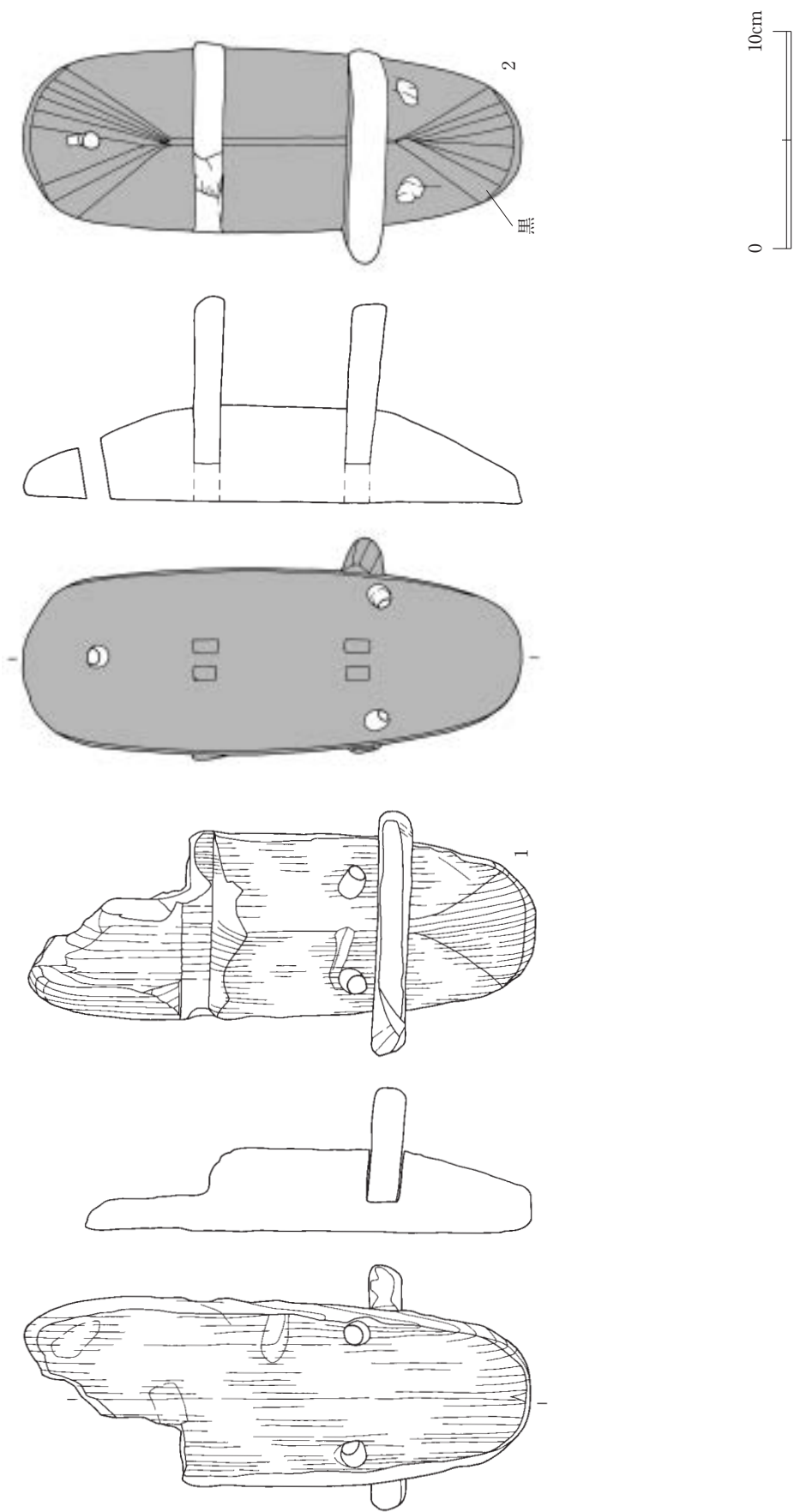
第127図 木製品 (10)



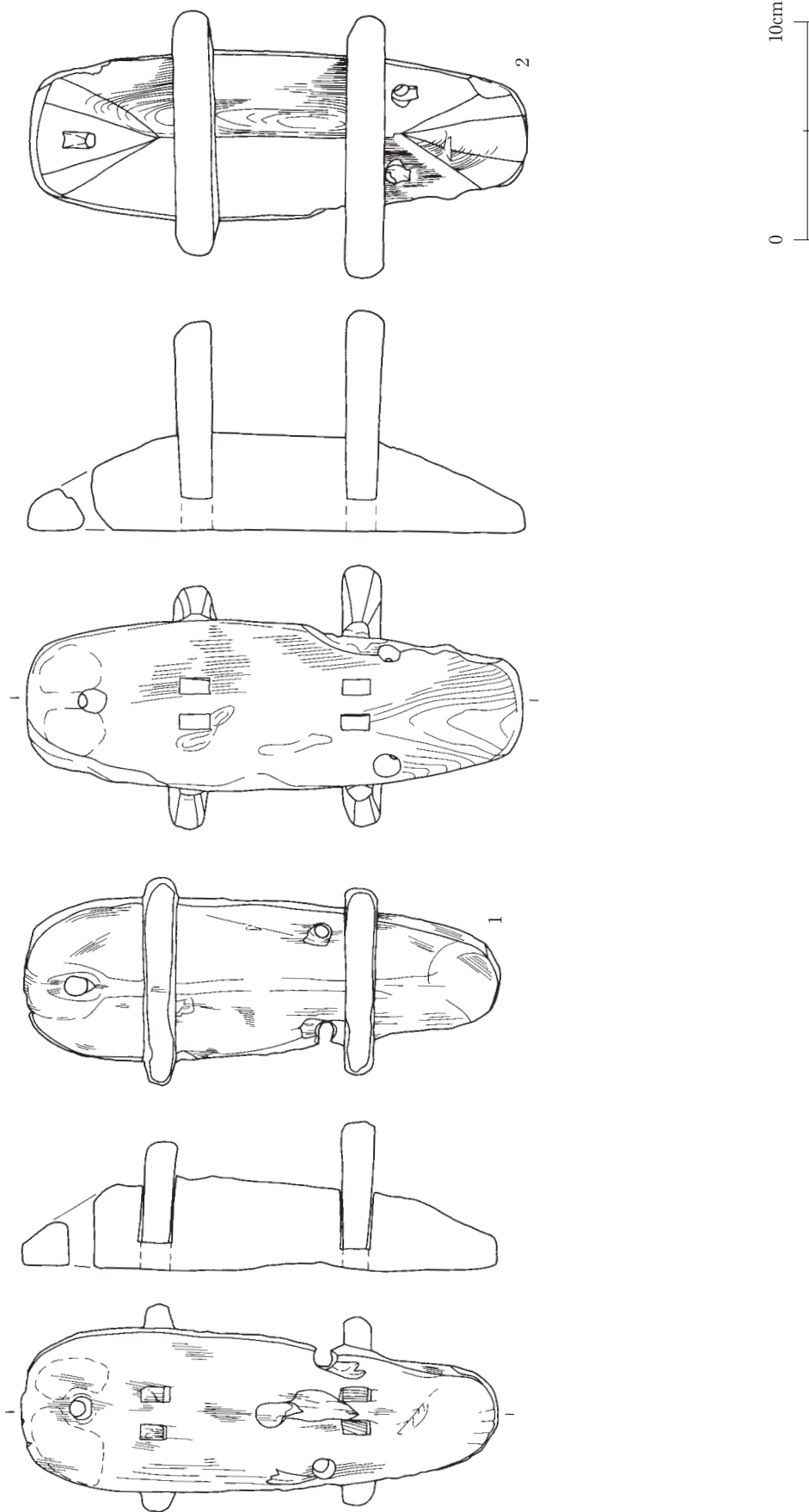
第128図 木製品 (11)



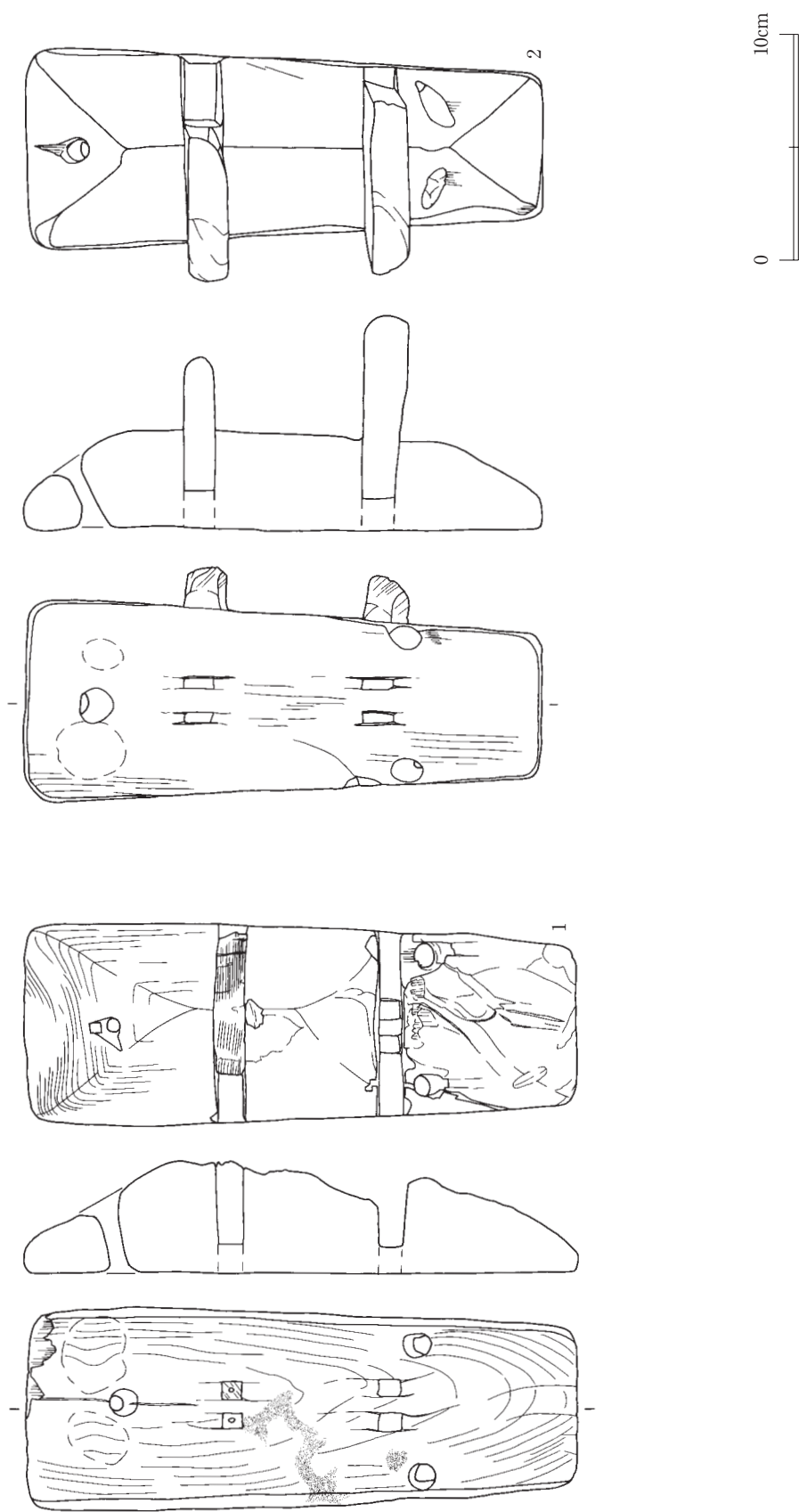
第129図 木製品 (12)



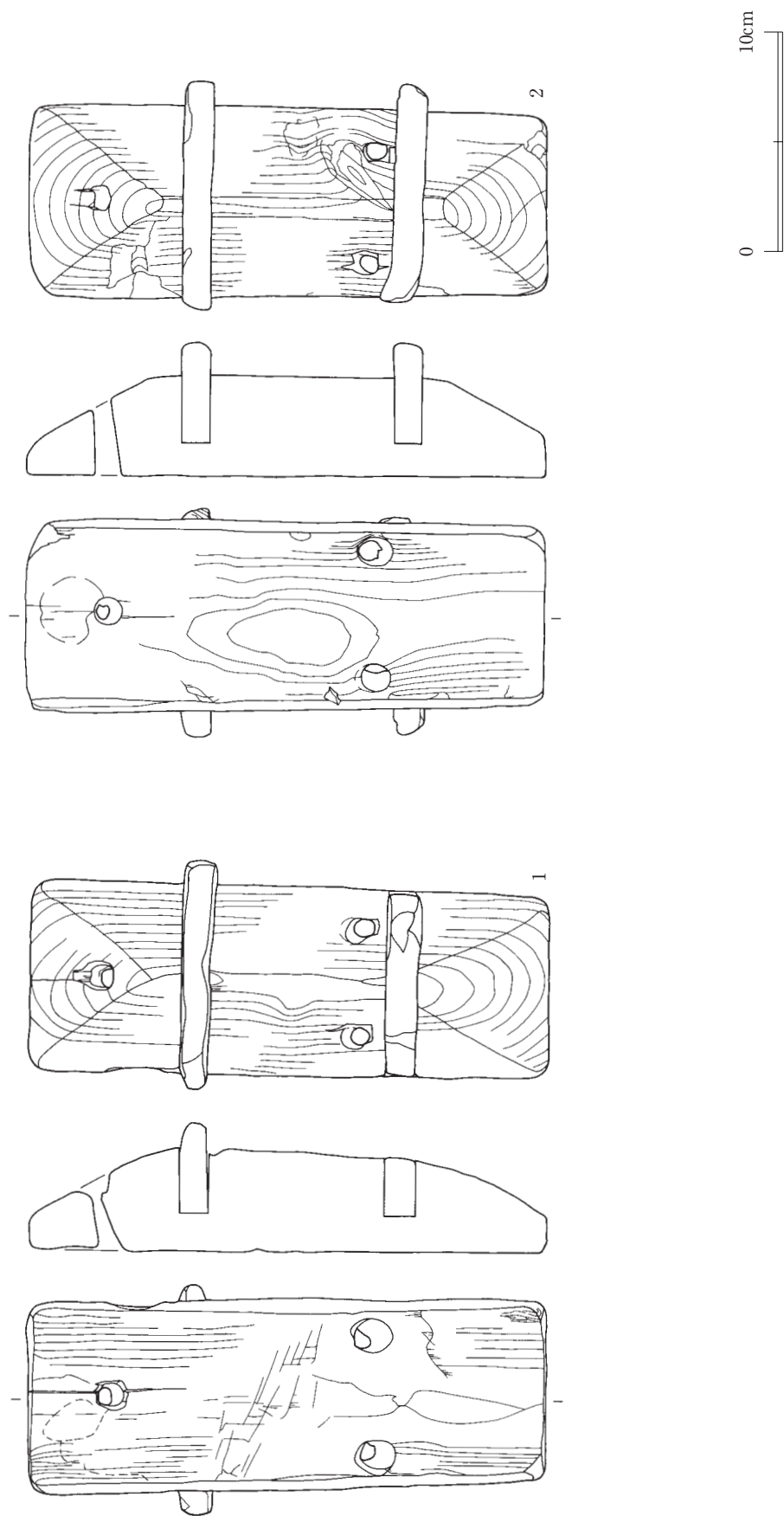
第130図 木製品 (13)



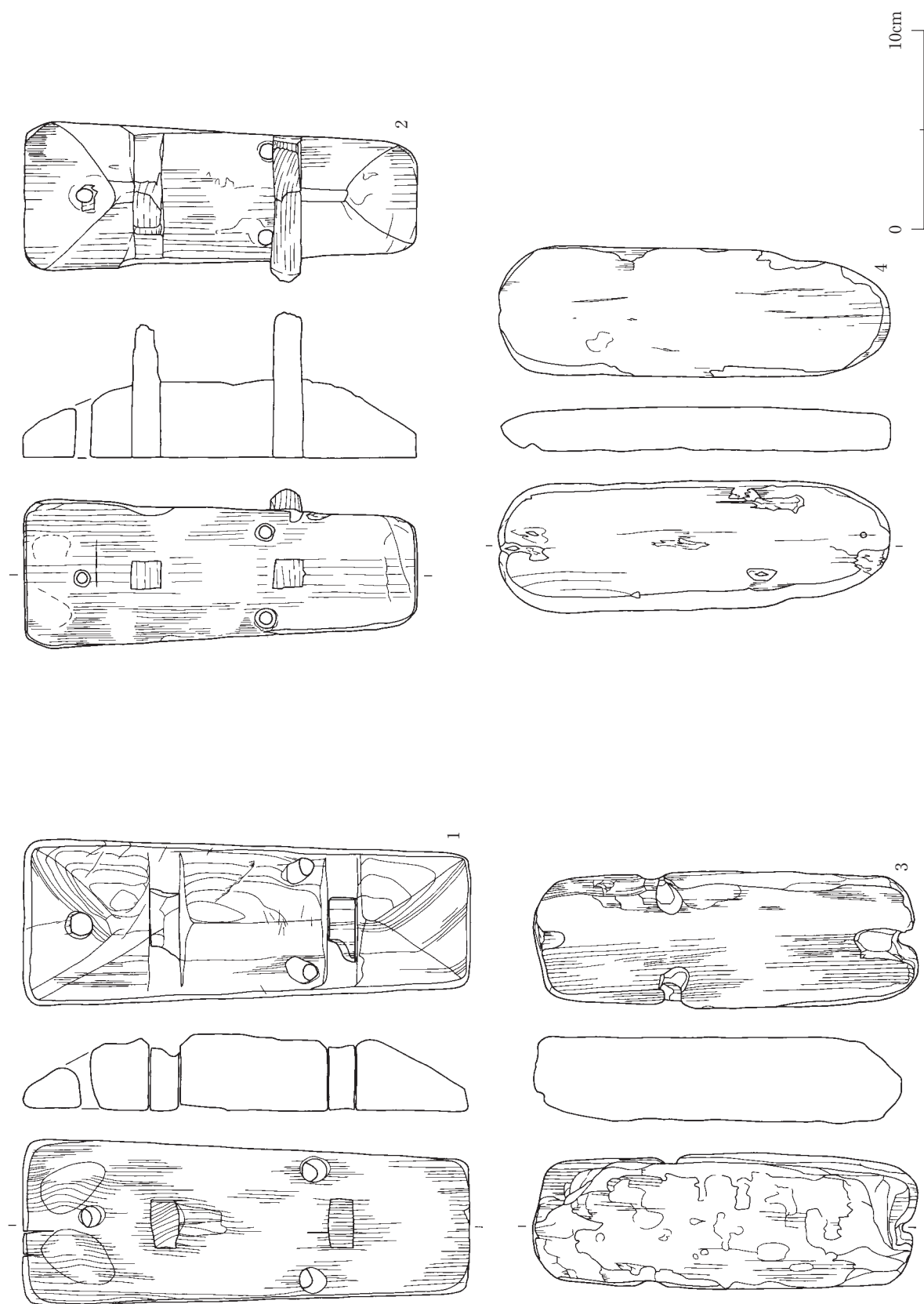
第131図 木製品 (14)



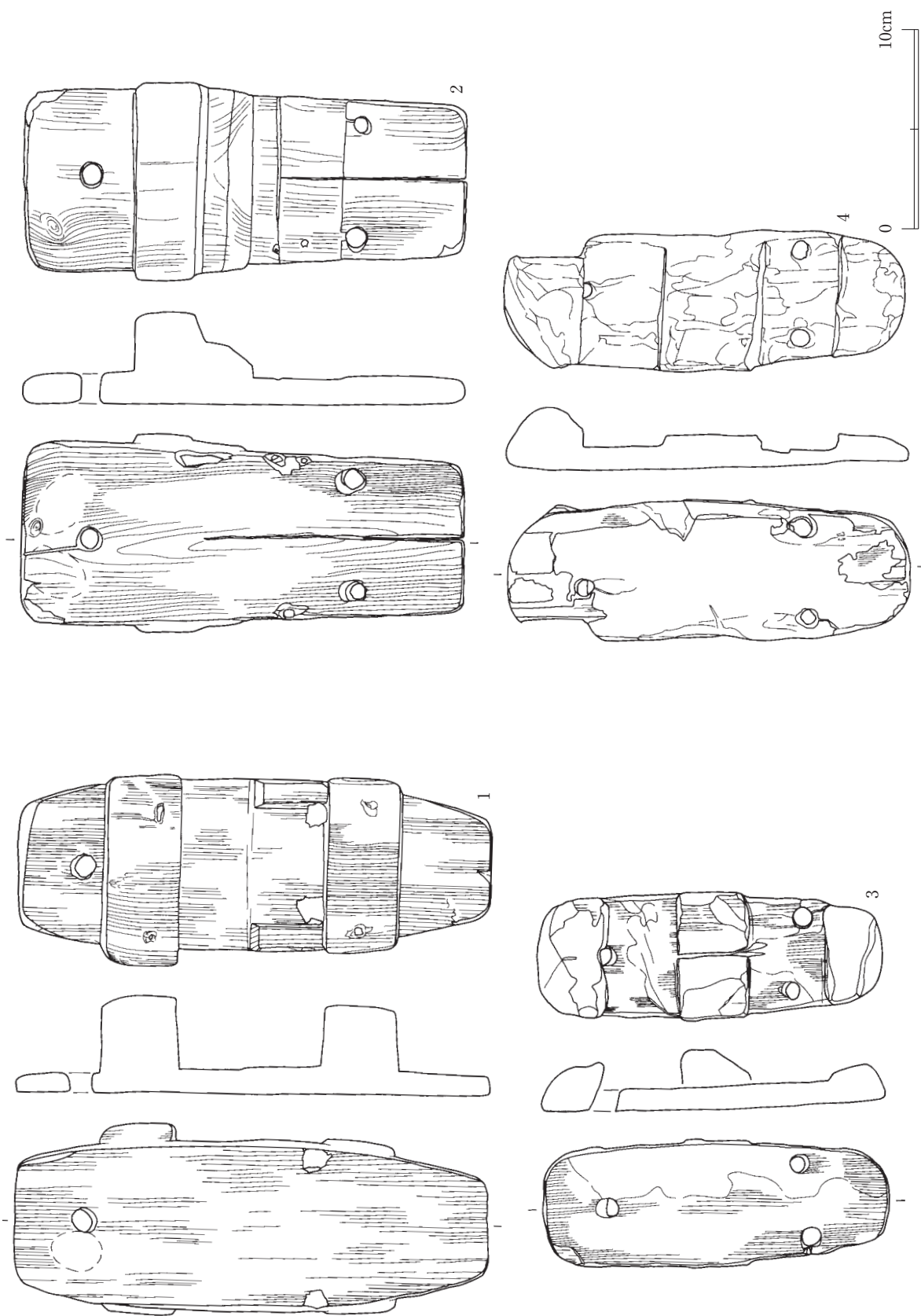
第132図 木製品 (15)



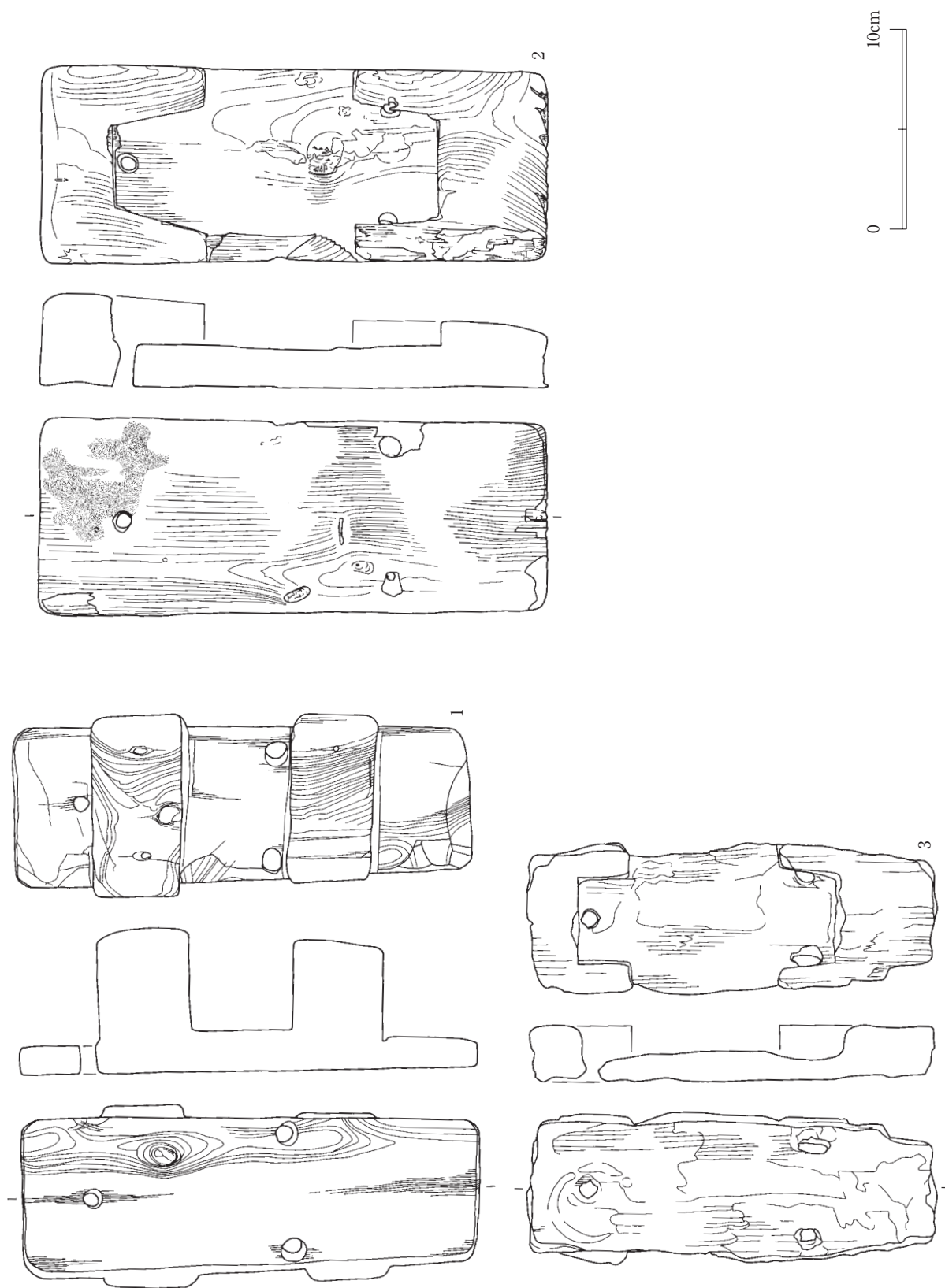
第133図 木製品 (16)



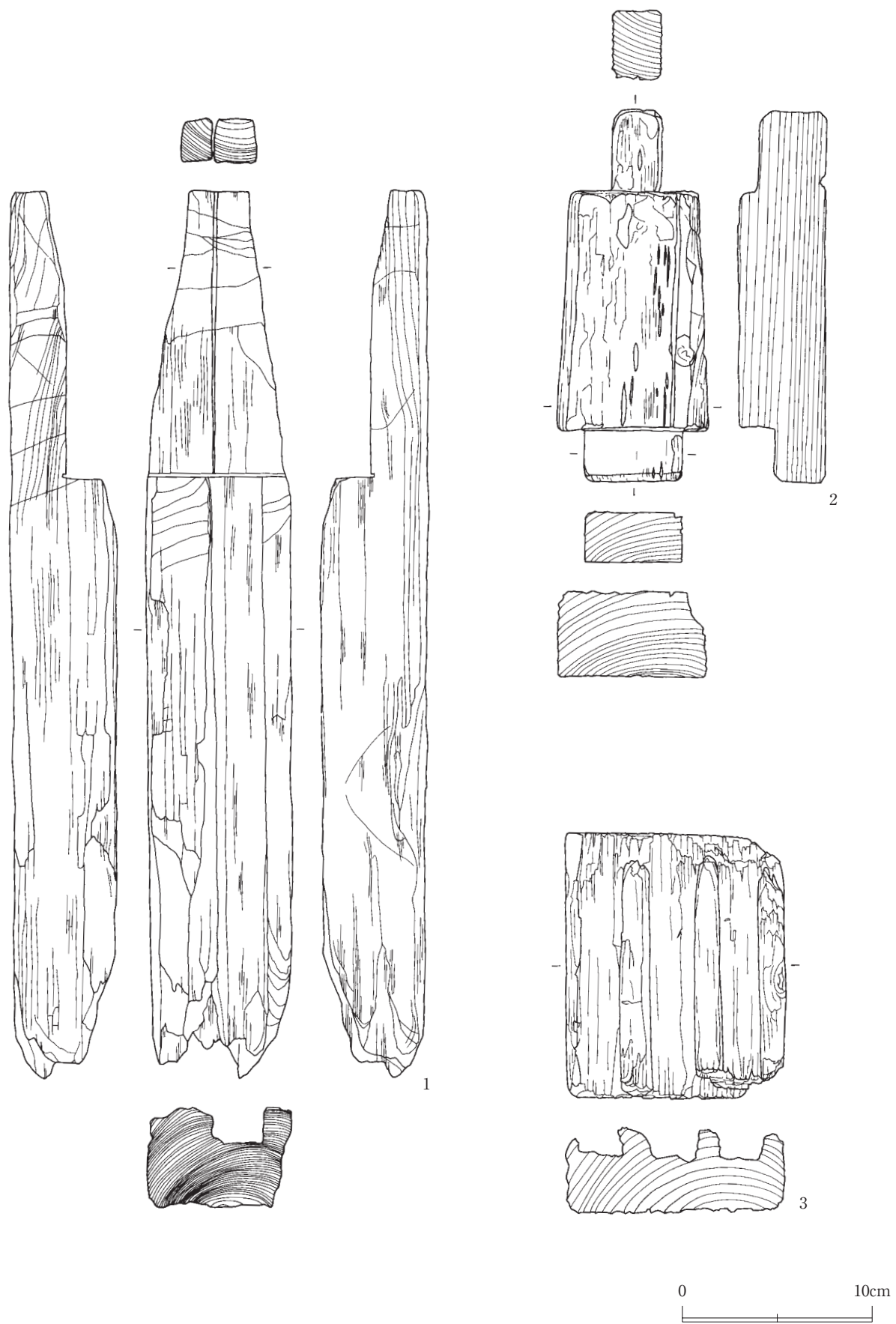
第134図 木製品 (17)



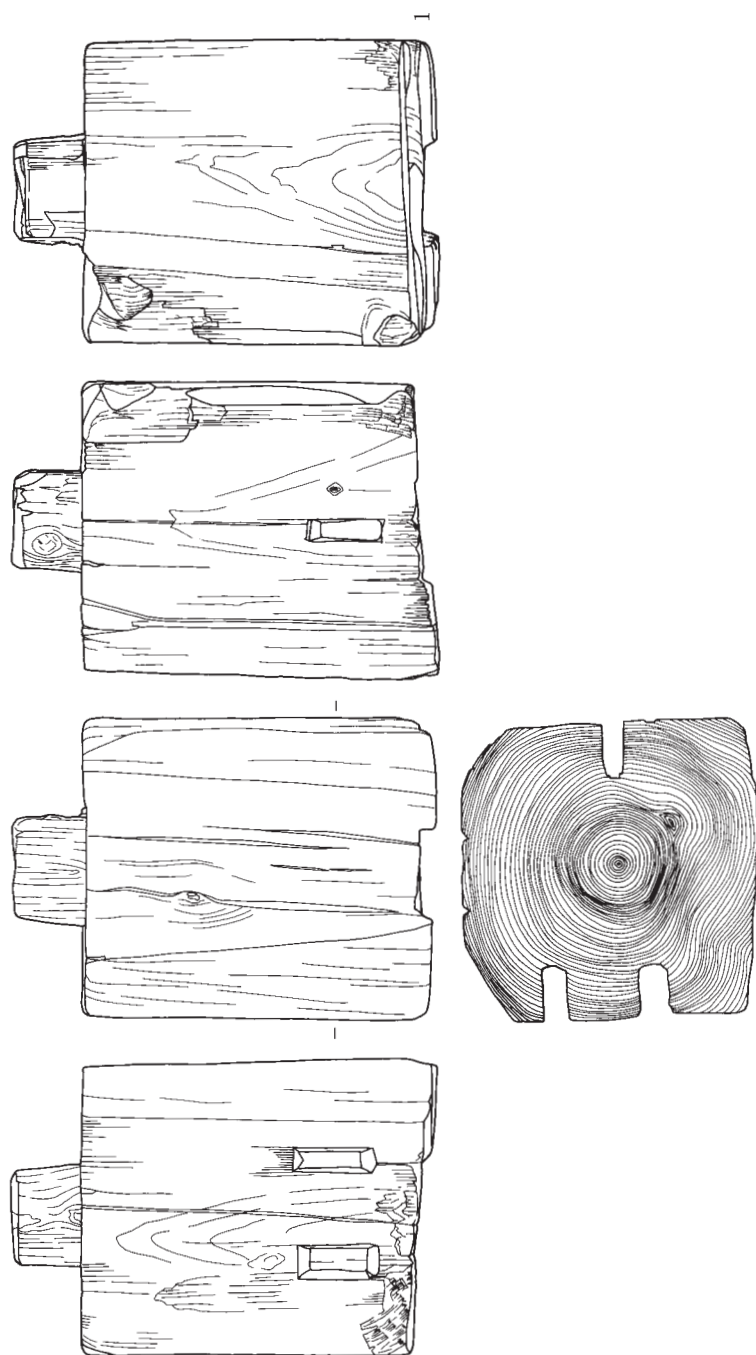
第135図 木製品 (18)



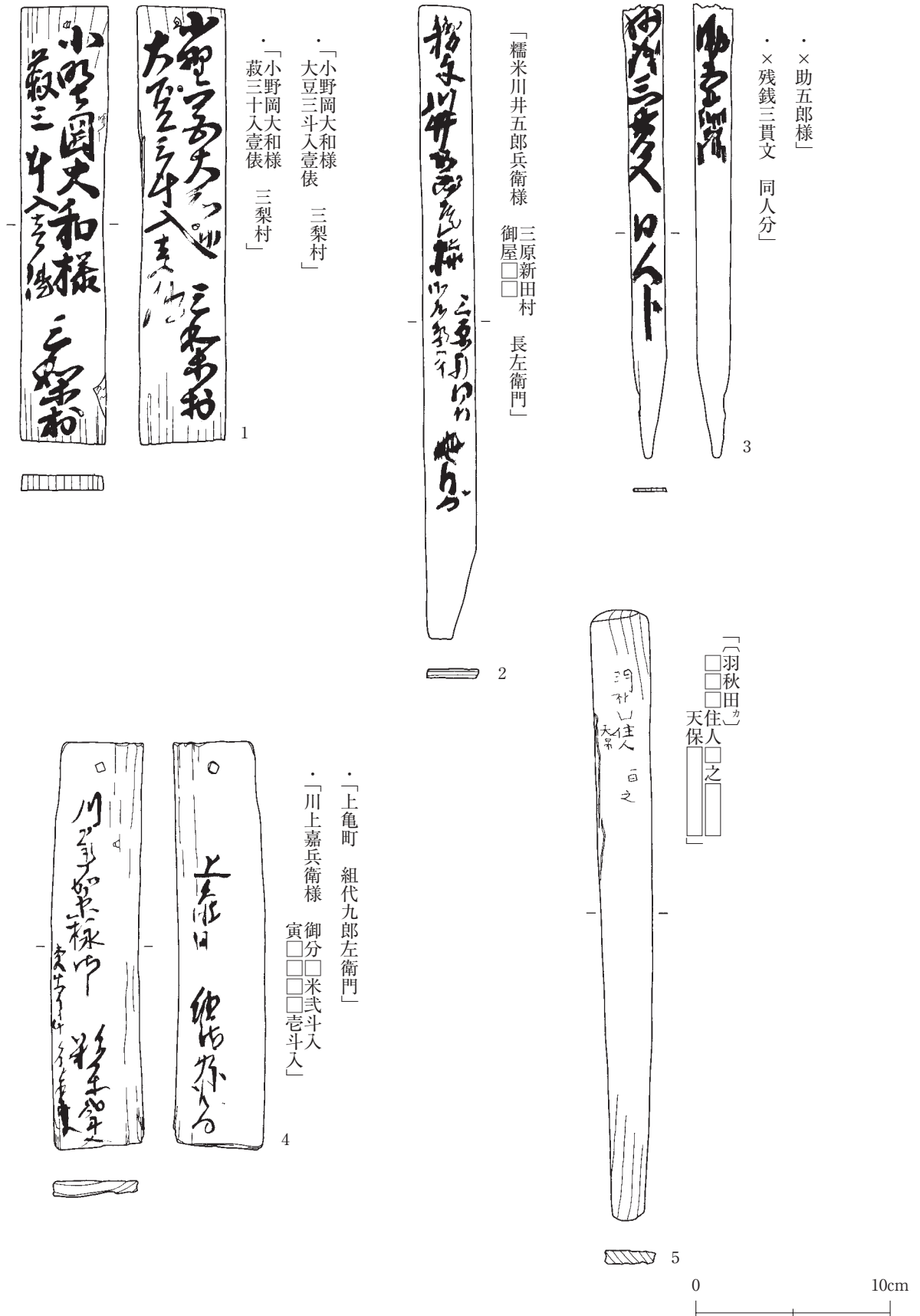
第136図 木製品 (19)



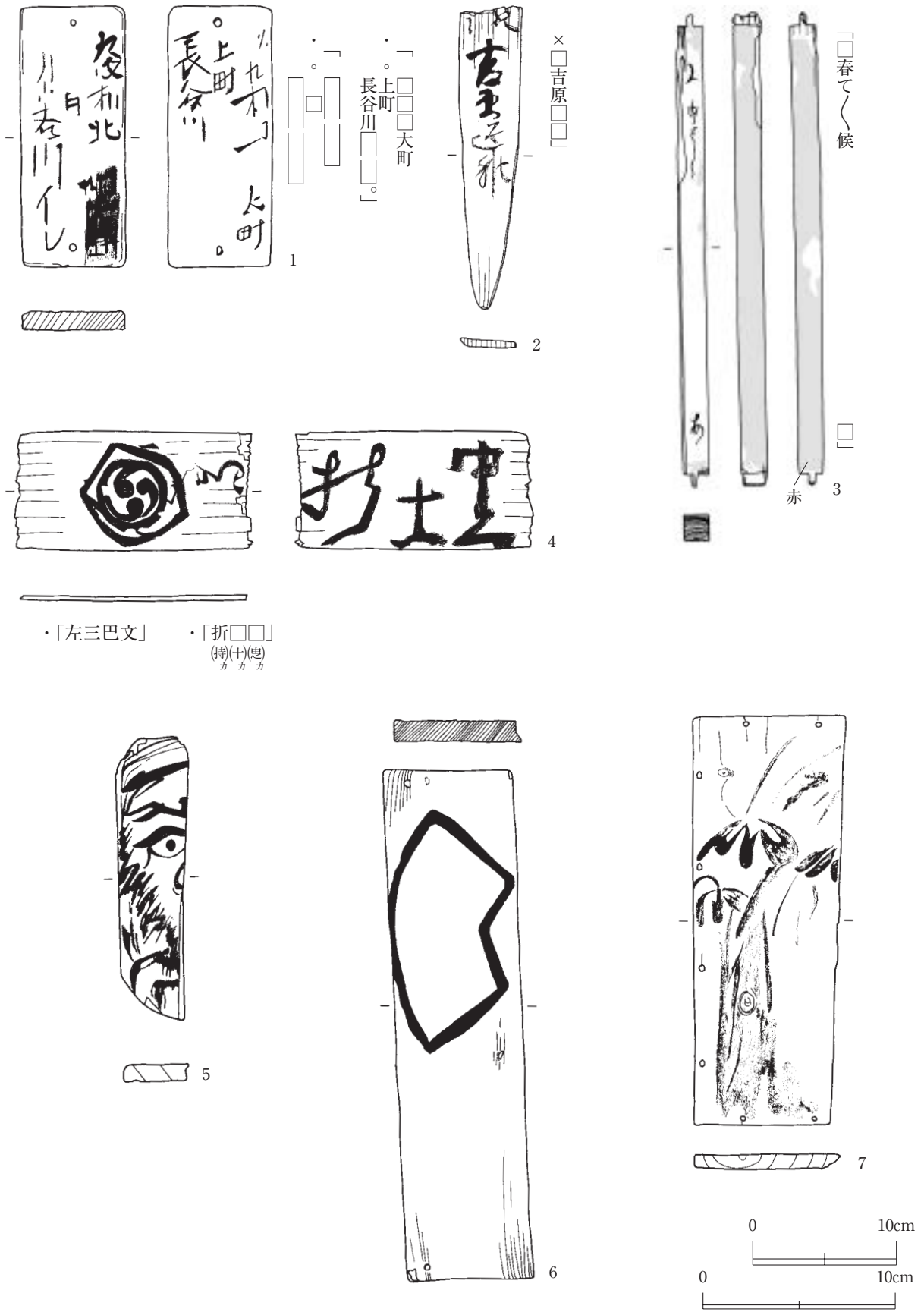
第137図 木製品 (20)



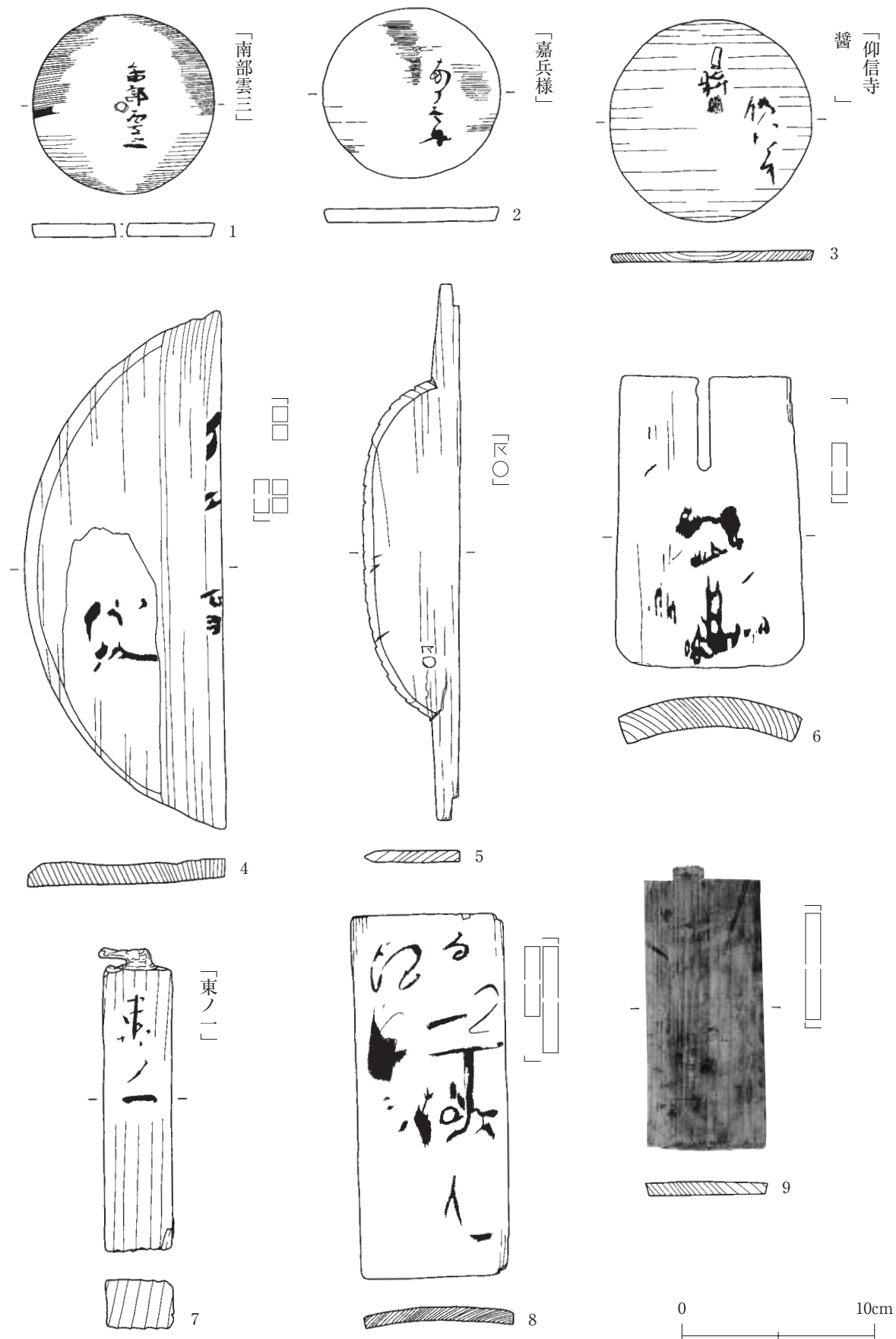
第138図 木製品 (21)



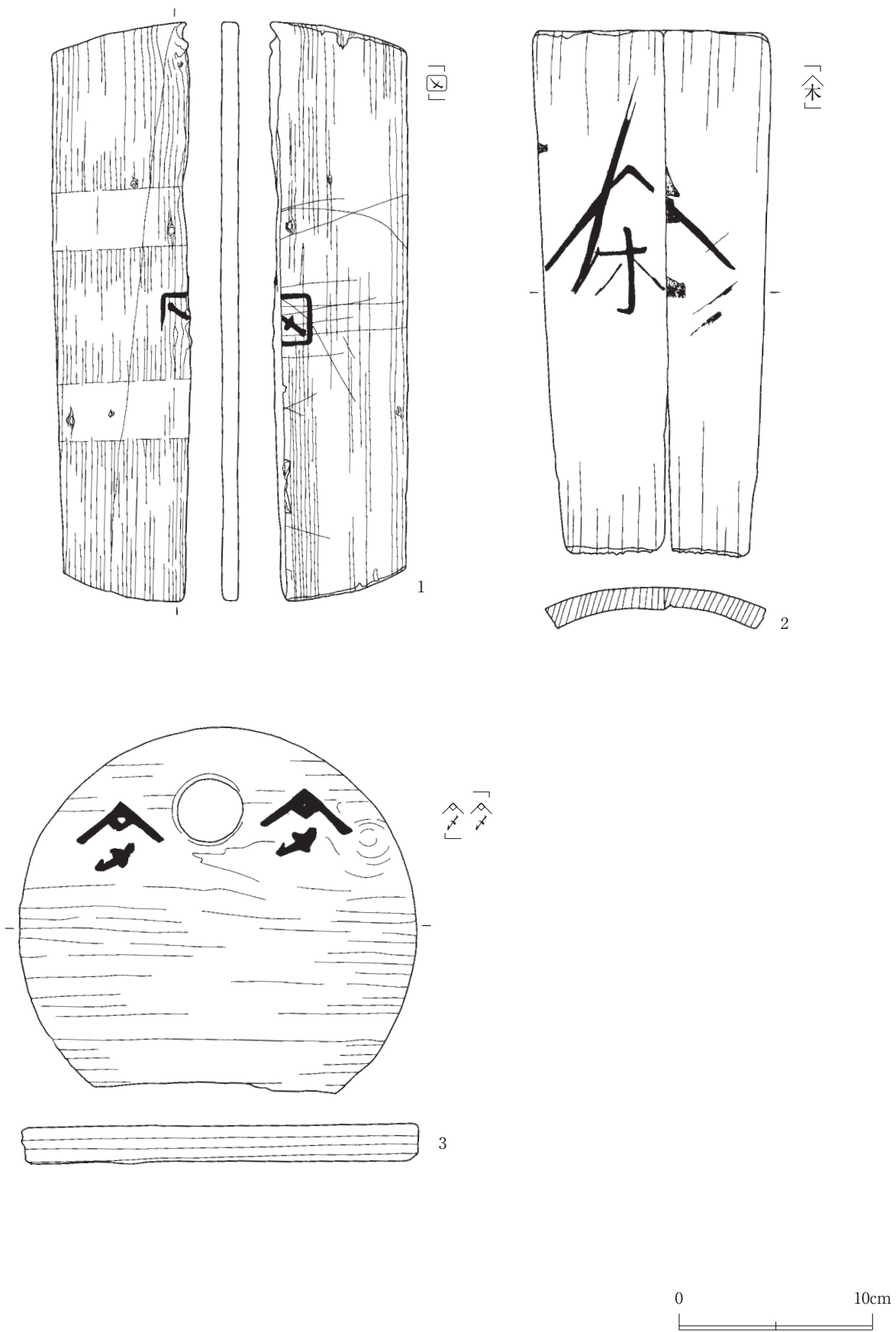
第139図 木製品 (22)



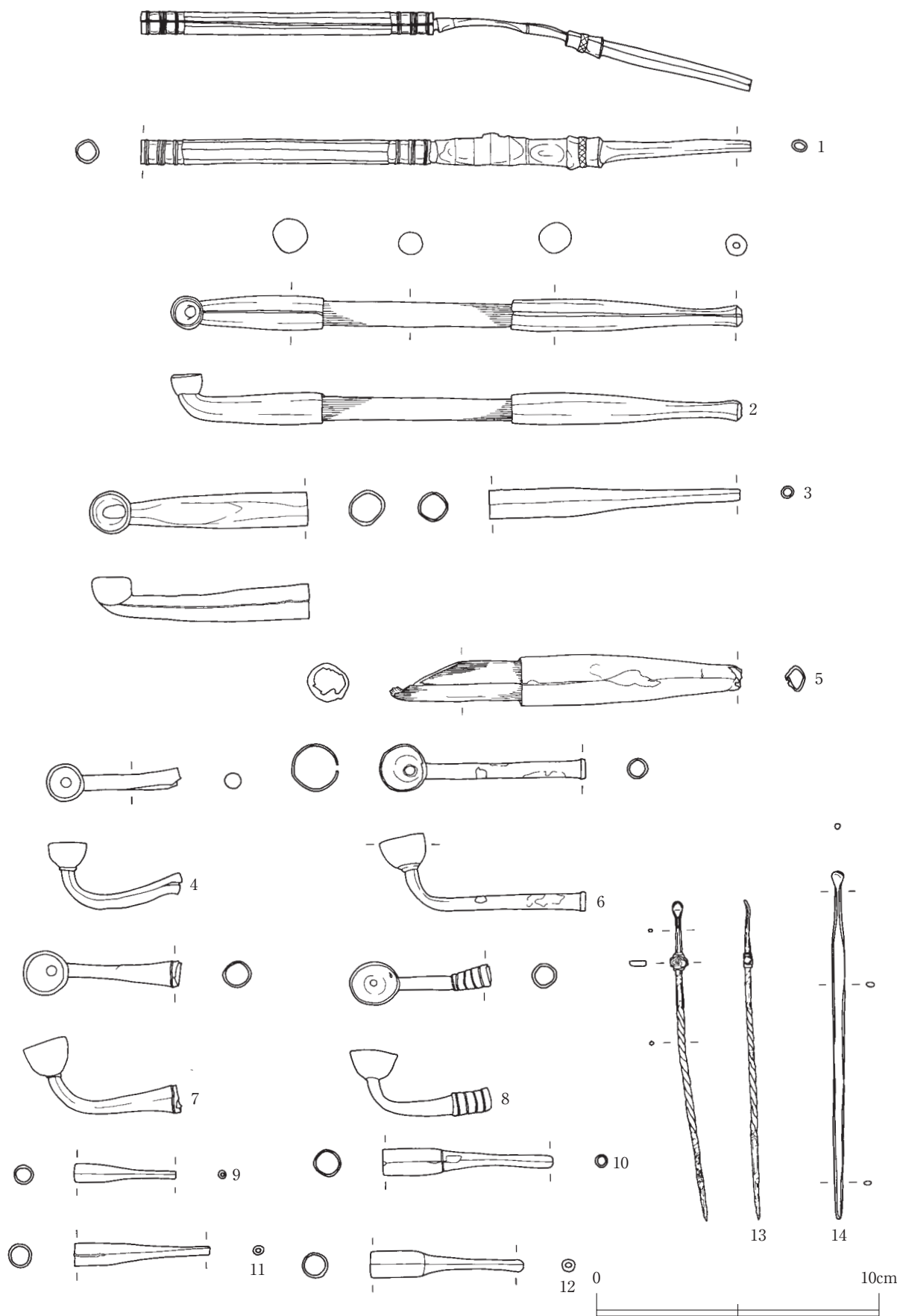
第140図 木製品 (23)



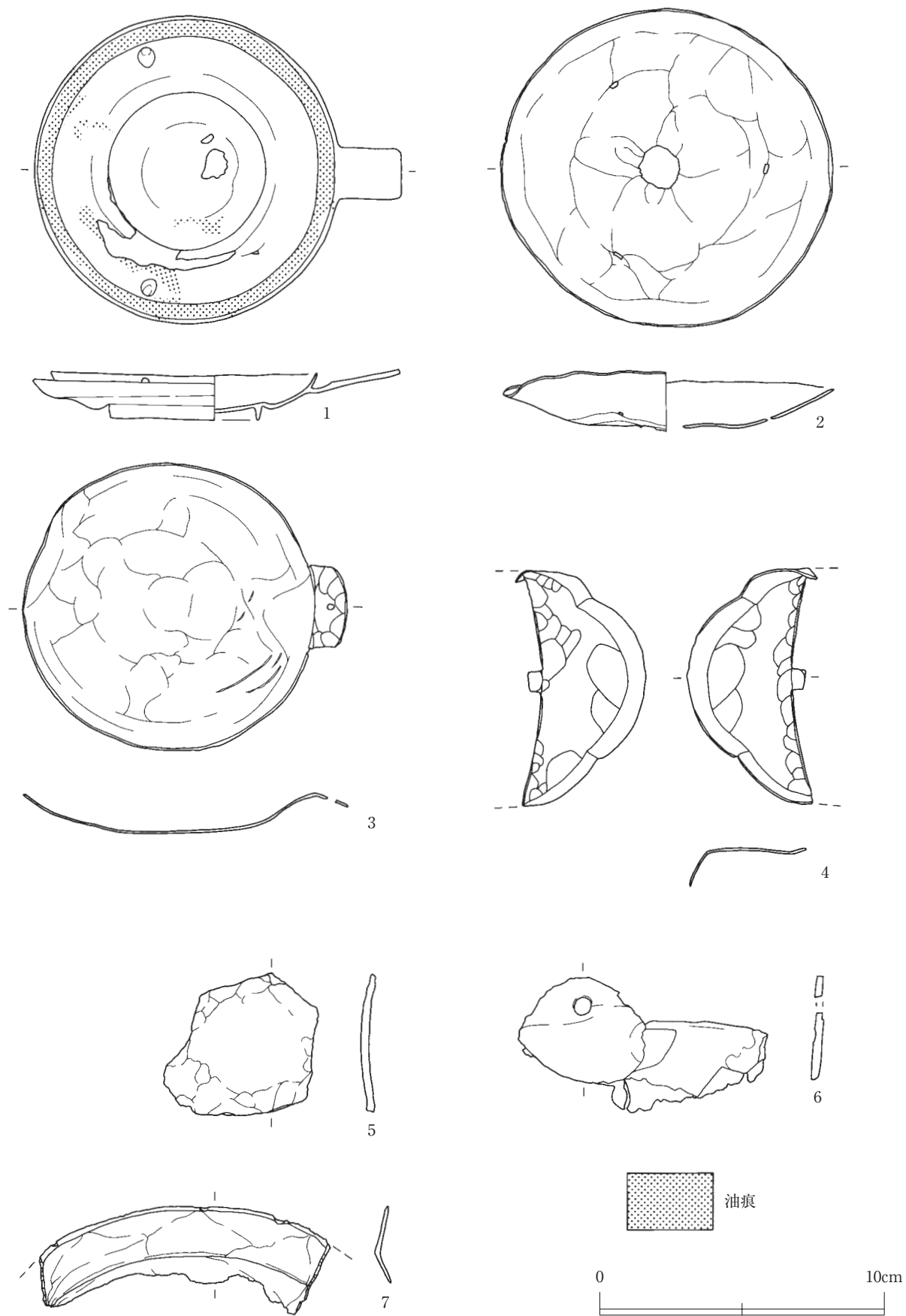
第141図 木製品 (24)



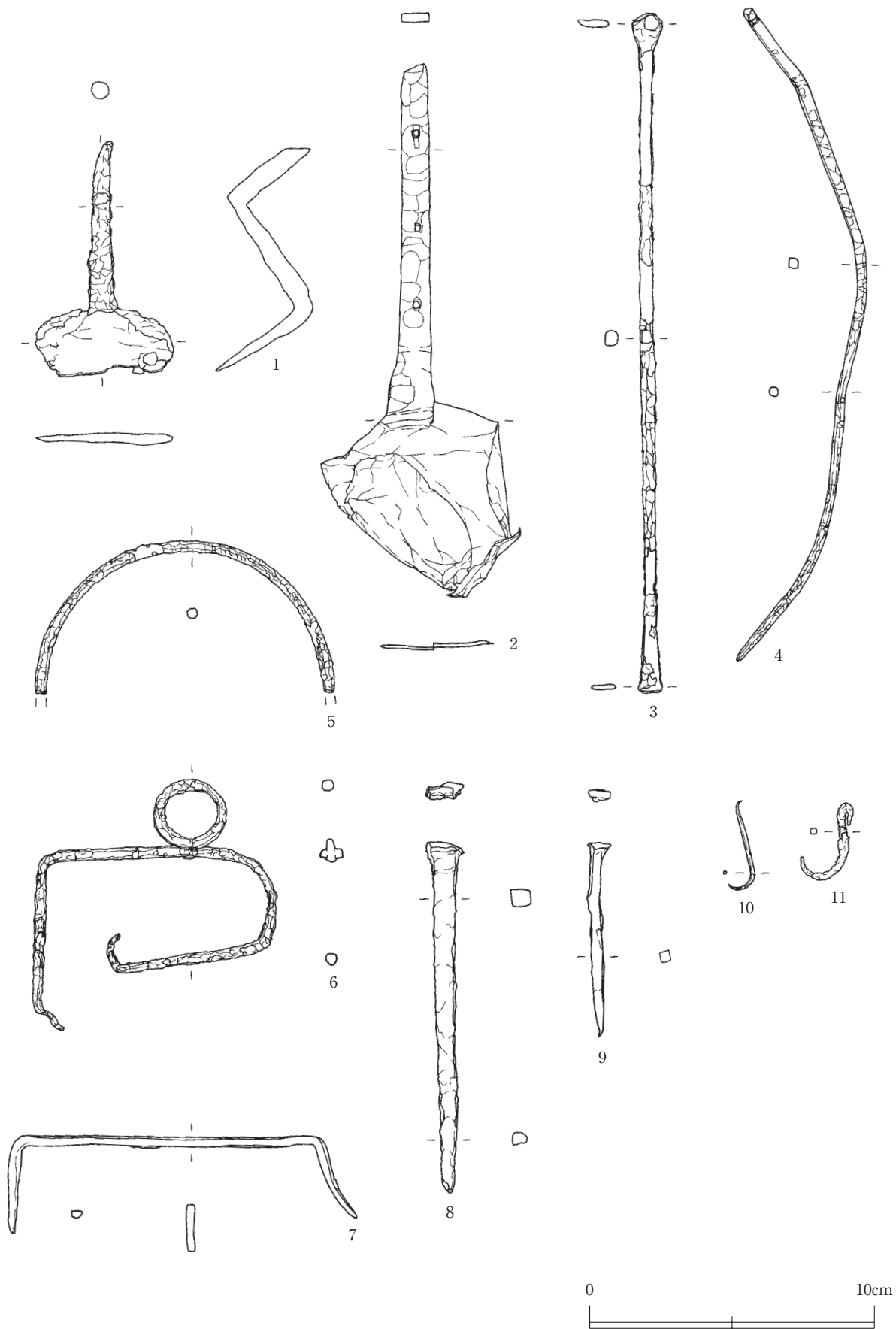
第142図 木製品 (25)



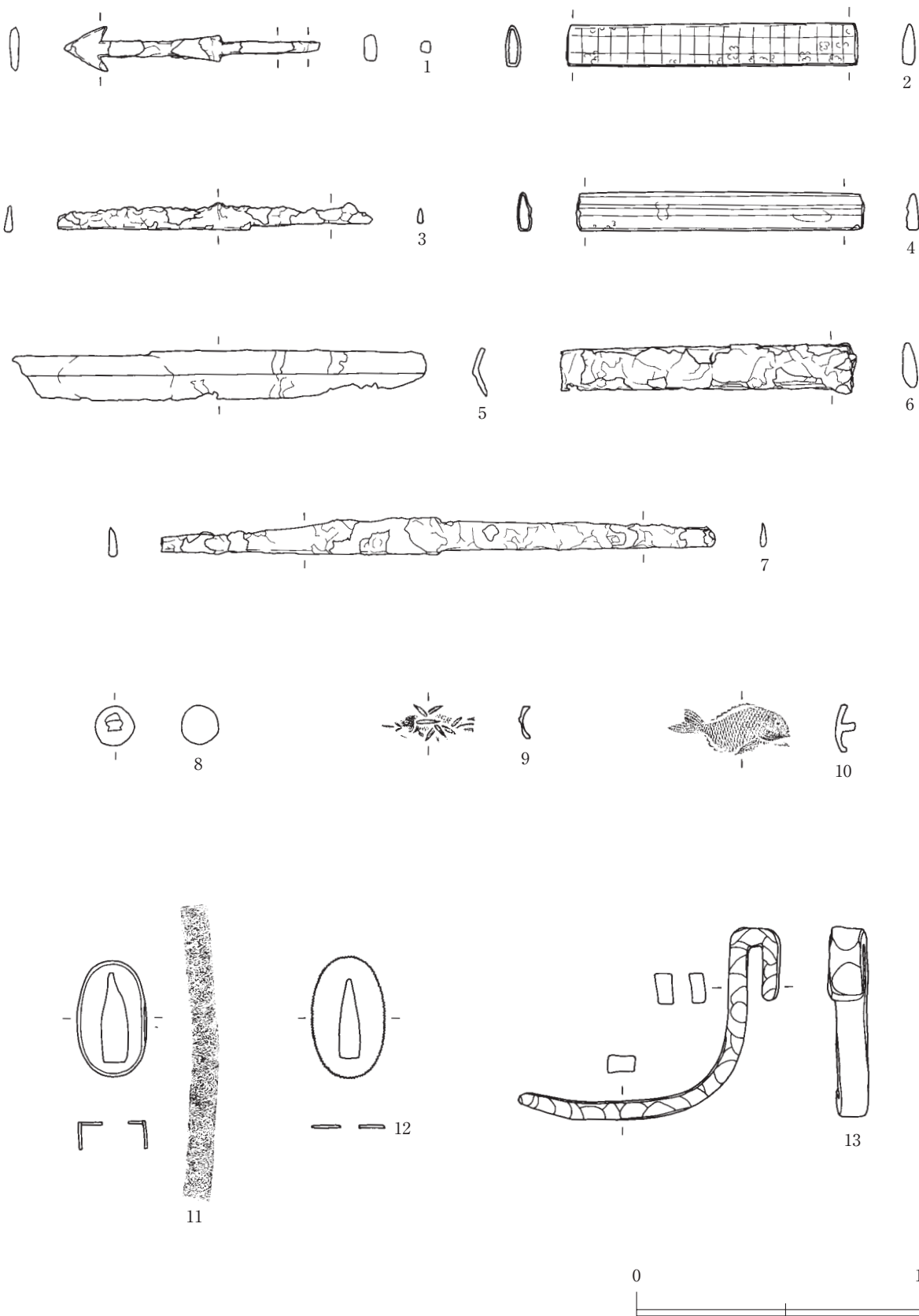
第143図 金属製品 (1)



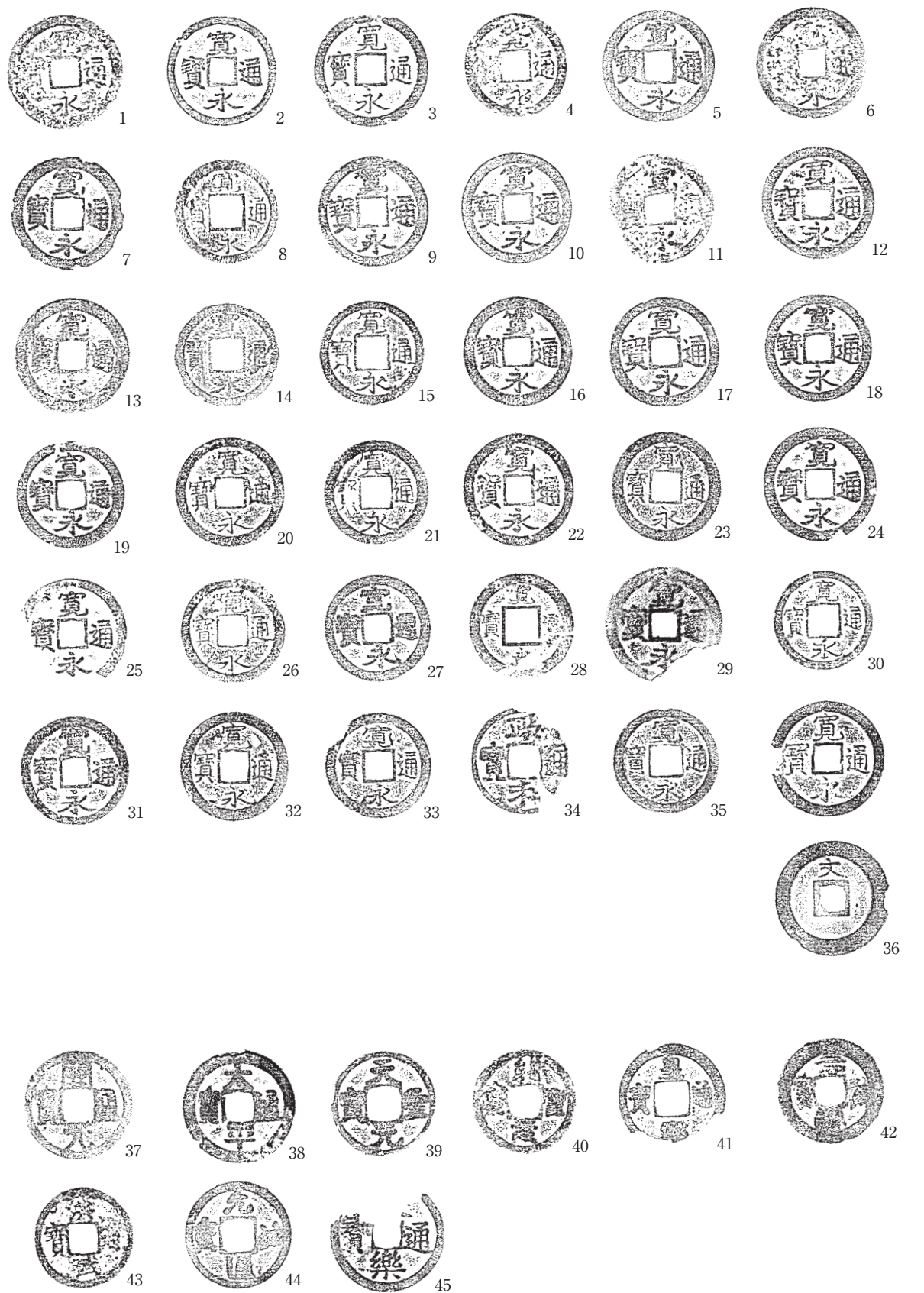
第144図 金属製品 (2)



第145図 金属製品 (3)



第146図 金属製品 (4)



第147図 金属製品 (5)

第19表 出土陶磁器一覽表(1) 中国産磁器

出土地点・層位	接合破片	分類	器種	産地	年代	編年区分	a	b	c	d	備考	挿図・図判
S K 971	S K 481	青磁	碗	中国(龍泉窯)	14世紀	-	15.1	3.9	6.0	-	外側が産掻き進弁文。被熱痕。	第50図1
L T 56 II層	MC・MD55 II層 第2トレンチ等	染付	皿	中国(景德鎮窯)	16世紀末~ 17世紀初頭	-	21.2(推定値)	12.5(推定値)	3.4	-	芙蓉手。	第50図2 巻頭図版3-1
S K 751		染付	皿	中国(景德鎮窯)	16世紀末~ 17世紀初頭	-	12.6(推定値)	7.7(推定値)	2.6	-	見込みに「寿」。	第50図3 巻頭図版3-2
L R・L S 53表採		染付	皿	中国(景德鎮窯)	1590~1630	-	12.8(推定値)	7.6(推定値)	2.0	-	焼成不良。	第50図4 巻頭図版3-3
S K 751		染付	皿	中国(景德鎮窯)	1600~1630	-	-	6.6	3.3(残存値)	-	畳付が広い。	第50図5 巻頭図版3-4
S K 814南下層		染付	碗	中国(景德鎮窯)	18世紀後半~ 19世紀前半	-	9.4(推定値)	3.1	5.0	-	高台内「大清乾隆年製」銘。珍品で高級。	第50図6 巻頭図版3-5・6
南側調査区IV層		染付	皿	中国(漳州窯)	1590~1610	-	11.6(推定値)	2.9	6.4	-		第51図1 巻頭図版3-7
S K 971	S K P 901 南側調査区表採	染付	大皿	中国(漳州窯)	1590~1630	-	20.8(推定値)	10.8(推定値)	3.5	-	赤絵。火災等による被熱痕。	第51図2 巻頭図版3-8
K区表採	南側調査区表採	染付	大皿	中国(漳州窯)	1590~1620	-	24.0(推定値)	13.1(残存値)	4.1(残存値)	-	漆継痕。第51図4・5と同一?	第51図3 巻頭図版3-1
S K 456		染付	大皿	中国(漳州窯)	1590~1620	-	18.4(残存値)	13.1(推定値)	2.3(残存値)	-	漆継痕。第51図3・5と同一?	第51図4 巻頭図版3-2
南側調査区II層		染付	大皿	中国(漳州窯)	1590~1620	-	19.3(残存値)	13.0(推定値)	2.6(残存値)	-	漆継痕。第51図3・4と同一?	第51図5 巻頭図版3-3
第11トレンチ表採		染付	大皿	中国(漳州窯)	1590~1630	-	34.1(推定値)	22.1(残存値)	5.4(残存値)	-	焼成不良。	第52図1
南側調査区表採	第10トレンチ	染付	大皿	中国(漳州窯)	1590~1610	-	35.5(残存値)	16.5(推定値)	6.8(残存値)	-	第53図1と同一?	第52図2
S K 971		染付	大皿	中国(漳州窯)	1590~1630	-	33.7(推定値)	26.1(残存値)	4.3(残存値)	-	第52図2と同一?	第53図1
S K 591		染付	大皿	中国(漳州窯)	1590~1630	-	19.6(残存値)	11.5(推定値)	2.5(残存値)	-		第53図2
S K 456	南側調査区表採	染付	大皿	中国(漳州窯)	1590~1630	-	24.9(推定値)	11.5(推定値)	4.2	-		第53図3 巻頭図版3-4

第20表 出土陶磁器一覽表(2) 肥前産陶器I期

出土地点・層位	接合破片	分類	器種	産地	年代	編年区分	a	b	c	d	備考	挿図
北側調査区IV層		陶器	碗	肥前	1590~1630	I~II	11.6(推定値)	4.2	6.1	-	鉄軸。ロクロ成形。高台内焼削り。 胴部に釉薬を塗る際の指跡あり。	第54図1
北側調査区III層-RP2		陶器	皿	肥前	1580~1610	I	9.9	3.5	3.3	-	灰軸。ロクロ成形。高台内焼削り。	第54図2
N区VI層		陶器	皿	肥前	1580~1610	I	12.0	3.6	4.6	-	蓋灰軸。ロクロ成形。高台内焼削り。 胎土目積み痕。	第54図3
表採		陶器	皿	肥前	1590~1610	I	13.0	3.4	3.6	-	蓋灰軸。ロクロ成形。高台内焼削り。 胎土目積み痕。	第54図4
S K 894		陶器	皿	肥前	1590~1610	I	10.8(推定値)	3.9	3.5	-	蓋灰軸。胎土目積み痕。 被熱痕(灯明皿として使用)。	第54図5
S K 894		陶器	皿	肥前	1590~1610	I	10.7	4.0	3.4	-	蓋灰軸。胎土目積み痕。 被熱痕(灯明皿として使用)。	第54図6
A区II層		陶器	皿	肥前	1590~1610	I	12.5	4.4	3.9	-	鉄軸。ロクロ成形。高台内焼削り。 胎土目積み痕。被熱痕(灯明皿として使用)。	第54図7
S D 801	MA57 III層 北側調査区III層-RP6	陶器	皿	肥前	1590~1610	I	16.5	5.1	4.9	-	鉄軸皿。ロクロ成形。高台内焼削り。	第55図1
S K P 437	F区II層	陶器	皿	肥前	1590~1610	I	13.8(推定値)	5.9	4.7(推定値)	-	鉄軸皿。型打ち成形。高台内焼削り。	第55図2
S D 787	MB54・55 III層 S K 813等	陶器	大皿	肥前	1590~1610	I	35.3(推定値)	9.4(推定値)	11.6	-	蓋灰軸。ロクロ成形。高台内焼削り。	第55図3
S D 787	北側調査区II層	陶器	小杯	肥前	16世紀末~ 17世紀前半	I~II	7.7	3.1	4.0	-	蓋灰軸。ロクロ成形。高台内焼削り。鉄 絞。	第56図1
S K 617		陶器	小杯	肥前	1590~1610	I	6.0	3.6(推定値)	4.4	-	灰軸。ロクロ成形。高台内焼削り。	第56図2
M区表採		陶器	小杯	肥前	1590~1610	I	6.3	3.1(推定値)	3.9	-	灰軸。ロクロ成形。高台内焼削り。	第56図3
S B 810 P 25		陶器	小杯	肥前	1590~1630	I~II	5.3	3.6	5.4	-	蓋灰軸。ロクロ成形。高台内焼削り。	第56図4
北側調査区III層-RP7		陶器	鉢	肥前	1590~1630	I~II	23.8	8.4(推定値)	8.2	-	蓋灰軸。ロクロ成形。高台内焼削り。	第56図5
第1トレンチ		陶器	鉢鉢	肥前	1590~1630	I~II	-	10.6(推定値)	6.0(残存値)	-	ロクロ成形。高台内焼削り。	第56図6
S D 01	ME 56 III層	陶器	甕	肥前	16世紀末~ 17世紀前半	I~II	-	14.3	9.4(残存値)	-	底部に胎土目積み痕。内側に波状叩き痕。	第57図1
S K 813	S K 682 MD56・57 III層	陶器	甕	肥前	16世紀末~ 17世紀前半	I~II	19.0(推定値)	15.2(推定値)	23.3	22.0(推定値)	底部に胎土目積み痕。内側に波状叩き痕。	第57図2

第21表 出土陶磁器一覽表(3) 肥前産陶器II期

出土地点・層位	接合破片	分類	器種	産地	年代	編年区分	a	b	c	d	備考	挿図
N区II層		陶器	碗	肥前	1610~1630	II	不明	4.9	6.3(残存値)	-	蓋灰軸。ロクロ成形。高台内焼削り。削 り高台。砂目積み痕。焼成不良。	第58図1
A区II層		陶器	碗	肥前	1610~1630	II	10.0(推定値)	4.1	6.7	-	蓋灰軸。てろロクロ成形。高台内焼削り。 削り高台。砂目積み痕。	第58図2
N 2区II層		陶器	碗	肥前	1630~1640	II	10.6	4.4	6.6	-	蓋灰軸。てろロクロ成形。高台内焼削り。 削り高台。天目型。	第58図3
M区砂層下部		陶器	皿	肥前	1610~1630	II	12.0	5.2	3.2	-	蓋灰軸。ロクロ成形。高台内焼削り。 砂目積み痕。	第58図4
北側調査区III層-RP22	L T 56 III層	陶器	皿	肥前	1610~1630	II	12.9	4.0	3.2	-	鉄繫。ロクロ成形。高台内焼削り。砂目 積み痕。焼成不良。	第58図5
第10トレンチN区		陶器	皿	肥前	17世紀前半	II	9.5	2.4	2.7	-	蓋灰軸。型打ち成形。高台内焼削り。	第59図1
S K 539		陶器	皿	肥前	1600~1630	II	11.7	3.5	3.6	-	蓋灰軸。ロクロ成形。高台内焼削り。砂 目積み痕。	第59図2
S K 813		陶器	皿	肥前	1610~1630	II	13.4	5.1	3.1	-	灰軸。ロクロ回転糸切り成形。砂目積み 痕。口縁部溝線皿。	第59図3
第3トレンチ		陶器	皿	肥前	1610~1630	II	12.9	4.7	4.3	-	蓋灰軸。ロクロ成形。高台内焼削り。 砂目積み痕。口縁部溝線皿。	第59図4
北側調査区III層-RP9		陶器	皿	肥前	1610~1630	II	12.2	4.1	3.3	-	蓋灰軸。ロクロ成形。高台内焼削り。砂 目積み痕。口縁部溝線皿。	第59図5
第2トレンチ		陶器	皿	肥前	1610~1630	II	13.0	4.8	4.5	-	蓋灰軸。ロクロ成形。高台内焼削り。砂 目積み痕。口縁部溝線皿。	第59図6
S K 456		陶器	鉢鉢	肥前	17世紀前半	II	31.3(推定値)	10.8	12.6	-	ロクロ回転糸切り成形。	第60図1
S K 813		陶器	大皿	肥前	1610~1630	II	25.0	8.2	5.5	-	鉄軸。ロクロ成形。高台内焼削り。 砂目積み痕。口縁部溝線大皿。	第60図2
S D 316サブトレ		陶器	大皿	肥前(内野山窯)	1610~1650	II	20.5(推定値)	-	3.0(残存値)	-	蓋灰軸。ロクロ成形。跨大口の大皿(口 を折る)。	第60図3
S K 814		陶器	袋物	肥前	17世紀	II~III	7.4(推定値)	-	10.4(残存値)	11.7	ロクロ成形。	第61図1
MC・MD56 I・II層		陶器	甕	肥前	17世紀前半~	II~	28.0(推定値)	-	8.0(残存値)	-	口縁部目積み痕。内側格子状叩き痕。	第61図2
S K 814南下層		陶器	甕	肥前	17世紀前半~	II~	15.3	-	19.6(残存値)	18.3	内側に格子目状叩き痕。	第61図3
S K 814	MC 53 I・II層 MC 54 I・II層 MD 55 I層	陶器	甕	肥前	17世紀前半~	II~	21.2(推定値)	-	19.7(残存値)	25.2(推定値)	内側に格子目状叩き痕。	第62図1
S X 900	S K 814 S K 960	陶器	甕	肥前	17世紀前半~	II~	28.0(推定値)	-	17.1(残存値)	-	内側に格子目状叩き痕。	第62図2

第22表 出土陶磁器一覧表(4) 肥前産陶器Ⅲ期

出土地点・層位	接合破片	分類	器種	産地	年代	編年区分	a	b	c	d	備考	挿図
S K 960		陶器	碗	肥前	1660~1690	Ⅲ	-	4.7 (推定値)	5.8 (残存値)	-	京焼風陶器。ロクロ成形。高台内彫り。高台内底部に「清水」の刻銘。	第63図1
S K 712		陶器	碗	肥前	17世紀後半~18世紀初頭	Ⅲ~Ⅳ前半	10.2	4.0	6.4	-	刷毛目文様。	第63図2
第3トレンチ		陶器	碗	肥前	17世紀後半~18世紀前半	Ⅲ~Ⅳ前半	-	5.8	10.0 (残存値)	-	京焼風陶器。呉器手(朝鮮茶碗の模倣)。ロクロ成形。高台内彫り。	第63図3
北側調査区Ⅲ層-RP1		陶器	碗	肥前(内野山窯)	17世紀中~17世紀末	Ⅲ	12.2	5.0	6.8	-	銅緑釉。	第63図4
第1トレンチ		陶器	鉢	肥前	1660~1690	Ⅲ	12.5 (推定値)	4.8	5.1	-	京焼風陶器。高台内底部に「清水」の刻銘。ロクロ成形。高台内彫り。	第64図1
S K 894	L T 53・54Ⅲ層	陶器	大皿	肥前	17世紀中~17世紀末	Ⅲ	33.9 (推定値)	12.2 (推定値)	10.7	-	三高手。	第64図2
S K 683		陶器	大皿	肥前	17世紀後半~18世紀前半	Ⅲ~Ⅳ前半	不明	8.8 (推定値)	3.6 (残存値)	-	二彩手。砂目積み肌。ロクロ成形。高台内彫り。	第65図1
S D 01-95		陶器	火入れ(香炉?)	肥前	17世紀後半~18世紀前半	Ⅲ~Ⅳ前半	9.5	4.2	6.8	-	ロクロ成形。高台内彫り。削り高台。	第65図2
S D 01-99	MD 56Ⅱ層	陶器	火入れ(香炉)	肥前	1650~1690	Ⅲ	10.7	4.3	6.2	-	口縁内湾。銅緑釉。ロクロ成形。高台内彫り。	第65図3
S K 481		陶器	袋物	肥前	17世紀中葉~18世紀前半	Ⅲ~Ⅳ前半	-	5.8	6.7 (残存値)	-	ロクロ成形。	第65図4
S K 688	L T 55・54Ⅳ層 MA 55Ⅱ層等	陶器	大皿	肥前	17世紀後半~18世紀前半	Ⅲ~Ⅳ前半	37.4 (推定値)	12.6	11.3	-	二彩手。	第65図5
S K 814南下層		陶器	大香炉	肥前?	17世紀後半~18世紀前半?	Ⅲ~Ⅳ前半	18.5	13.3	11.0	-	印花文様。口縁部のみ鉄軸。ロクロ成形。高台内彫り。	第66図1
S K 814		陶器	壺	肥前	17世紀後半	Ⅲ	28.2 (推定値)	13.9	33.6	-	二彩手。ロクロ成形。	第67図1

第23表 出土陶磁器一覧表(5) 肥前産陶器Ⅳ・Ⅴ期

出土地点・層位	接合破片	分類	器種	産地	年代	編年区分	a	b	c	d	備考	挿図
S K 894		陶器	碗	肥前	1690~18世紀前半	Ⅳ	12.6 (推定値)	4.7	4.9	-	京焼風陶器。漆継痕。底部に刻印はなく、漆継跡と思われる墨書が記されている。ロクロ成形。	第68図1
南側調査区表採		陶器	皿	肥前(内野山窯)	17世紀末~18世紀前半	Ⅳ	14.3 (推定値)	4.8	3.6	-	銅緑釉。見込み蛇ノ目軸割ぎ。ロクロ成形。高台内彫り。	第68図2
MC 54Ⅳ層		陶器	皿	肥前	18世紀前半	Ⅳ	13.0	6.6	4.1	-	刷毛目文様。型打ち成形。	第68図3
S K 825		陶器	皿	肥前(内野山窯)	17世紀末~18世紀前半	Ⅳ	18.8	5.7	6.4	-	鉄軸と銅緑釉の接分。見込み蛇ノ目軸割ぎ。外側は透明釉。ロクロ成形。高台内彫り。	第69図1
S X 900		陶器	皿	肥前(内野山窯)	17世紀末~18世紀前半	Ⅳ	17.8	5.0	6.1	-	霽灰釉。見込み蛇ノ目軸割ぎ。ロクロ成形。高台内彫り。	第69図2
北側調査区表採		陶器	鉢	肥前	18世紀末	Ⅳ	19.4 (推定値)	-	5.6 (残存値)	-	刷毛目文様。ロクロ成形。	第70図1
S K 825	MC 53・54Ⅳ層 MD 55Ⅲ層	陶器	掃鉢	肥前	18世紀前半	Ⅳ	32.7 (推定値)	16.4	13.2	-	全面施釉。叩き成形。高台は胴部に取り付け。	第70図2
S K 814		陶器	掃鉢	肥前	19世紀	Ⅴ	35.0	12.8	15.8	-	全面施釉。叩き成形。高台は底部取り付け。	第71図1
S D 458		陶器	灯臺	肥前	18世紀後半	Ⅳ	6.2	6.1	9.6	-	ロクロ回転系切り成形。	第71図2
MC 56Ⅱ層		陶器	蟹盞	肥前	17世紀末~18世紀初頭	Ⅳ	①11.4 ②7.0	①10.5 ②6.2	3.0	-	胴部鉄軸。	第71図3

第24表 出土陶磁器一覧表(6) 肥前産磁器Ⅱ期

出土地点・層位	接合破片	分類	器種	産地	年代	編年区分	a	b	c	d	備考	挿図・図録
S K 813		染付	碗	肥前(窯ノ止窯)	1610~1640	Ⅱ	9.2 (残存値)	4.9	6.0 (残存値)	-		第72図1
S K 813		染付	碗	肥前	1610~1640	Ⅱ	9.7 (推定値)	3.9 (推定値)	7.4	-	天目型。	第72図2
S K 591		染付	碗	肥前	17世紀前半?	Ⅱ	10.6 (推定値)	4.5	5.6	-		第72図3
S K 813		染付	碗	肥前	1610~1640	Ⅱ	-	4.6	4.2 (残存値)	-	天目型。	第72図4
A区Ⅱ層		磁器	碗	肥前	1630~1640	Ⅱ	-	4.7	6.8 (残存値)	-	天目型。外側が鉄軸、内側が透明釉の接分け。高台無軸。削り高台。	第73図1
S K 894		染付	碗	肥前	1640頃	Ⅱ	-	5.6	6.2 (残存値)	-	高台の櫛文が時代的特徴。	第73図2
S K 971		磁器	碗	肥前	1630~1640	Ⅱ	-	4.6 (推定値)	5.7 (残存値)	-	天目型。外側が鉄軸、内側が透明釉の接分け。高台無軸。削り高台。	第73図3
MB 53・54表採		染付	皿	肥前	1630~1640	Ⅱ	13.7 (推定値)	4.5	3.1	-		第73図4
S K 682		染付	皿	肥前	17世紀前半	Ⅱ	12.4 (推定値)	4.5	2.7	-		第73図5
S K 833		染付	皿	肥前	1630~1650	Ⅱ	12.2 (残存値)	5.1	2.1 (残存値)	-		第73図6
S K 539		染付	皿	肥前	1630~1640	Ⅱ	13.9 (推定値)	5.3	3.8	-		第73図7
第3トレンチ		染付	皿	肥前	1630~1650	Ⅱ	13.7 (推定値)	5.8	3.2	-		第73図8
第11トレンチ		染付	皿	肥前	1640~1650	Ⅱ	-	4.0	1.6 (残存値)	-		第73図9
S K 591		染付	皿	肥前	1630~1640	Ⅱ	13.6	5.0	4.0	-	口縁軸の初期段階。型打ち成形。生掻け軸楽跡(指で持った跡)。	第74図1
S K 971	F区Ⅲ層 南側調査区表採	青磁	皿	肥前(波佐見)	1640頃	Ⅱ	13.1	5.2	6.6	-		第74図2
S K 591		染付	皿	肥前(波佐見)	1630~1640	Ⅱ	13.4	5.7	2.8	-		第74図3
北側調査区Ⅲ層-RP10		染付	皿	肥前	1630~1650	Ⅱ	3.2	6.0	3.1	-	型打ち成形。	第74図4
A区Ⅱ層		染付	皿	肥前	1630~1650	Ⅱ	14.8	5.6	3.5	-		第74図5
MC 53・54Ⅳ層		染付	皿	肥前	1630~1650	Ⅱ	-	6.2	2.4 (残存値)	-		第74図6
S K 430	北側調査区表採	染付	大皿	肥前(山辺田窯)	1630~1640	Ⅱ	28.2 (残存値)	9.9 (推定値)	5.8 (残存値)	-	罎大口の大皿(口縁を折る)。	第75図1
S K 481	南側調査区Ⅲ層	染付	大皿	肥前(山辺田窯)	1630~1640	Ⅱ	29.0 (推定値)	9.4 (推定値)	6.0	-	漆継痕。	第75図2
北側調査区表採		染付	大皿	肥前(山辺田窯)	1630~1640	Ⅱ	34.0 (残存値)	13.6 (残存値)	5.7 (残存値)	-	罎大口の大皿(口縁を折る)。	第75図3
S K 456		染付	大皿	肥前(山辺田窯)	1610~1650	Ⅱ	27.8 (推定値)	12.1 (残存値)	5.2 (残存値)	-	罎大口の大皿(口縁を折る)。	第75図4
S D 458	C区Ⅰ層	染付	大皿	肥前(山辺田窯)	1610~1650	Ⅱ	30.5 (残存値)	14.2 (残存値)	5.9 (残存値)	-	罎大口の大皿(口縁を折る)。	第76図1
S K 960		染付	大皿	肥前	17世紀前半	Ⅱ	20.8 (推定値)	9.7 (残存値)	2.1 (残存値)	-	初期の大皿。	第76図2
S K 904		染付	大皿	肥前(山辺田窯?)	17世紀前半	Ⅱ	33.4 (推定値)	9.9 (推定値)	7.3	-		第76図3
S K 894	S K 960 MC 56Ⅳ層	染付	大皿	肥前	1640頃	Ⅱ	31.2 (推定値)	16.2 (推定値)	6.1	-	初期色絵(古九谷様式)。	第76図4 巻頭図版4-5・6
S D 01	MC 56Ⅳ層 S K 894等	染付	大皿	肥前	1640頃	Ⅱ	31.1 (推定値)	16.1 (推定値)	6.1	-	初期色絵(古九谷様式)。	第77図1 巻頭図版4-7・6
北側調査区表採		染付	大皿	肥前	1640頃	Ⅱ	26.7 (残存値)	15.9 (推定値)	3.6 (残存値)	-	初期色絵(古九谷様式)。	第77図2 巻頭図版5-1
南側調査区表採		青磁	大皿	肥前	17世紀中葉?	Ⅱ	20.2 (推定値)	5.4	4.4	-	三足。見込み内に型押し成形による飾り。	第77図3
表採		染付	大皿	肥前	1640頃	Ⅱ	26.7 (残存値)	15.9 (推定値)	3.7 (残存値)	-	初期色絵(古九谷様式)。	第77図4 巻頭図版5-2・3
S D 01-80		青磁	大皿	肥前	1630~1640	Ⅱ	-	8.4 (推定値)	3.8 (残存値)	-		第78図1
S K 600		染付	猪口	肥前	1630~1640	Ⅱ	6.2	2.7	3.8	-	高台無軸。削り高台。漆継痕。	第78図2
S D 316サブトレ		染付	袋物	肥前	1610~1640	Ⅱ	-	5.0 (推定値)	3.7 (残存値)	-		第78図3
S K 956		染付	袋物	肥前	1610~1640	Ⅱ	-	4.8	5.0 (残存値)	-		第78図4

第25表 出土陶磁器一覽表(7) 肥前産磁器Ⅲ期

出土地点・層位	接合破片	分類	器種	産地	年代	編年区分	a	b	c	d	備考	挿入・図判
S D01-116		染付	碗	肥前	1660~1680	Ⅲ	11.7 (推定値)	4.7	6.2	-	高台内「備兵衛尉製」銘。	第78図5
第11トレンチ		白磁	碗	肥前	17世紀後半	Ⅲ	11.8	4.8	5.9	-	白磁。漆継痕。	第79図1
S K894		染付	碗	肥前	1670~1700	Ⅲ	9.8 (残存値)	4.1	4.1 (残存値)	-	雨降り(備妻)文様。高台内に「大明年製」銘。	第79図2
S K814	MD55Ⅲ層	染付	碗	肥前	1680~18世紀	Ⅲ~Ⅳ	8.3	4.0	4.9	-	外側は鉄釉。輸出用。	第79図3
S K895		染付	皿	肥前	1650~1690	Ⅲ	9.7 (推定値)	5.1 (推定値)	2.3	-	ハリ痕。	第79図4
MC53Ⅳ層		染付	碗	肥前	1650~1670	Ⅲ	10.9 (推定値)	6.3	4.9 (推定値)	-	高台内「宜徳年製」銘。	第79図5
ME55Ⅱ層		染付	碗	肥前	1680~18世紀	Ⅲ~Ⅳ	9.0 (推定値)	3.7	5.5	-	外側は青磁釉。	第79図6
S D01		染付	皿	肥前	17世紀後半	Ⅲ	13.3 (推定値)	7.9	2.9	-	漆継痕。	第79図7
S D458		染付	碗?	肥前?	1670~1690	Ⅲ	-	4.7	2.1 (残存値)	-	柿右衛門様式。高級品。	第79図8
S D01-7	S D01-15	染付	皿	肥前	1660~1670	Ⅲ	13.1 (推定値)	7.9	2.3	-	高台内に「福?」銘。	第80図1
S K894		染付	皿	肥前	1680~1710	Ⅲ~Ⅳ	13.1 (推定値)	8.9	2.7	-	ハリ痕。	第80図2
MA56Ⅱ層		染付	皿	肥前	17世紀後半	Ⅲ	13.3	7.5	3.1	-	糸切り成形。	第80図3
MD56Ⅱ層		染付	皿	肥前	1650~1670	Ⅲ	13.6	8.3	2.6	-	高台内に銘。	第80図4
北側調査区Ⅲ層-RP23	北側調査区Ⅲ層-RP24 MD56・57Ⅲ層	青磁	皿	肥前(波佐見)	17世紀後半	Ⅲ	12.7	4.1	3.5	-	見込み蛇ノ目輪割ぎ。粗製。	第80図5
北側調査区Ⅲ層-RP3		白磁	皿	肥前(波佐見)	17世紀後半	Ⅲ	13.7	4.8	4.1	-	見込み蛇ノ目輪割ぎ。粗製。	第81図1
表採		染付	皿	肥前	17世紀後半	Ⅲ	11.0 (推定値)	6.4 (推定値)	2.8	-	糸切り成形。	第81図2
S D458		染付	皿	肥前	17世紀後半?	Ⅲ	13.8 (推定値)	7.3	2.5	-	芙蓉手。	第81図3
S K814	北側調査区表採 第2トレンチ	染付	皿	肥前	1670~1710	Ⅲ	12.6 (推定値)	8.4 (推定値)	2.7	-	柿右衛門様式。型打ち成形。	第81図4 巻頭図版5-4
S K712	北側調査区Ⅱ層	白磁	皿	肥前	17世紀後半	Ⅲ	12.1	8.1	3.0	-	型打ち成形。	第81図5
S D684		染付	大皿	肥前	1660~1680	Ⅲ	21.9 (推定値)	12.2 (推定値)	4.2	-	陶胎染付?チャップ使用。この時代では珍しい蛇ノ目目台高台。	第81図6
MC・MD57Ⅰ・Ⅱ層		染付	大皿	肥前	1650~1690	Ⅲ	21.4 (推定値)	13.4 (推定値)	2.6 (残存値)	-	高台内「大明成化製」銘。ハリ痕。漆継痕。	第82図1
表採		染付	瓶	肥前	17世紀後半	Ⅲ	-	7.6	9.7 (残存値)	-	焼成不良?陶胎染付?	第82図2
L区表採		染付	小瓶	肥前	17世紀後半~	Ⅲ	1.2 (推定値)	-	4.8 (残存値)	-	色絵。	第82図3
第2トレンチ		染付	瓶	肥前	1660~	Ⅲ	-	15.3 (残存値)	10.9 (残存値)	-	柿右衛門。漆継痕。	第82図4 巻頭図版5-5
表採		染付	小杯	肥前?	17世紀後半?~	Ⅲ	9.2	3.4	4.4	-	色絵。見込み蛇ノ目輪割ぎの上に緑釉。	第82図5
第2トレンチ	表採	染付	猪口	肥前	1670~1700	Ⅲ	7.4	3.8	5.0	-		第82図6
L S57Ⅲ層		染付	人形	肥前	17世紀中葉~	Ⅲ	9.5 (残存値)	5.0 (残存値)	5.0 (残存値)	-	「唐様束の女性」。型押し成形。	第82図7
B区Ⅰ層		染付	人形?	肥前	17世紀中葉~	Ⅲ	①3.3 (残存値) ②2.4 (残存値)	-	3.6 (残存値)	-	型押し成形。繼。	図版32-1-6
南側調査区Ⅱ層		染付	仏塔?	肥前	17世紀中葉~	Ⅲ	①1.5 ②1.5	-	3.2	-	仏塔か?型押し成形。	図版32-1-5

第26表 出土陶磁器一覽表(8) 肥前産磁器Ⅳ期①

出土地点・層位	接合破片	分類	器種	産地	年代	編年区分	a	b	c	d	備考	挿入・図判
ME55Ⅱ層	第2トレンチ	染付	碗	肥前	1690~1730	Ⅳ	15.0 (推定値)	4.9	6.6	-	お歯黒洗い用のうがい碗。模様が内側に ある。上手もの。武家専用品。	第83図1 巻頭図版5-6・7
MD55Ⅰ層		染付	碗	肥前(波佐見)	17世紀末~ 18世紀前半	Ⅳ	9.9	4.2	5.6	-	型紙摺り。粗製。	第83図2
北側調査区Ⅱ層		染付	碗	肥前(波佐見)	17世紀末~ 18世紀前半	Ⅳ	9.8	4.0	5.3	-	粗製。	第83図3
第11トレンチ		染付	碗	肥前(波佐見)	17世紀末~ 18世紀前半	Ⅳ	9.9	3.6	5.4	-	コンニャク印判。粗製。	第83図4
MD55Ⅰ層		染付	碗	肥前(波佐見)	18世紀	Ⅳ	9.8	3.7	6.1	-	高台内「大明年製」銘。	第83図5
第2トレンチ		染付	碗	肥前	18世紀	Ⅳ	10.5	4.2	5.1	-	型紙摺り。	第83図6
S K894		染付	碗	肥前	18世紀前葉~ 中葉	Ⅳ	10.3	4.3	4.8	-	型紙摺り。	第83図7
MC56Ⅱ・Ⅲ層		染付	碗	肥前	18世紀前葉~ 中葉	Ⅳ	9.8	4.4	4.5	-	型紙摺り。	第83図8
第1トレンチ		染付	碗	肥前	17世紀末~ 18世紀初頭	Ⅳ	10.2	4.0	5.8	-	高台大内満「福」銘。	第84図1
S D801		染付	碗	肥前	18世紀後半	Ⅳ	10.7 (残存値)	5.0 (推定値)	3.5 (残存値)	-	高台が望形型(鉢型に広がり腰がはる。 ロク口師の技量が試される)	第84図2
第3トレンチ	北側調査区Ⅱ層	染付	碗	肥前	18世紀前葉	Ⅳ	9.4 (推定値)	6.8	5.5	-		第84図3
第1トレンチ		染付	碗	肥前	18世紀前葉	Ⅳ	11.0 (推定値)	4.6 (推定値)	6.0	-	見込みに「大明成化年製」か?	第84図4
S K814北1層	S K814 第2トレンチ	染付	小碗	肥前	1770~1810	Ⅳ	9.6 (推定値)	3.7 (推定値)	5.0	-		第85図1
ME55Ⅱ層		染付	碗蓋	肥前	18世紀?	Ⅳ	13.2 (推定値)	3.0	4.2	-	漆継痕。	第85図2
第2トレンチ		白磁	碗	肥前	18世紀前半	Ⅳ	9.9	3.9	4.6	-		第85図3
S K712		染付	小碗	肥前(波佐見)	18世紀前葉~ 中葉	Ⅳ	8.3	4.6	3.4	-	コンニャク印判。粗製。	第85図4
北側調査区Ⅱ層		染付	皿	肥前	18世紀	Ⅳ	10.2	6.3	2.3	-	見込み五花弁文様(コンニャク印判)。 蛸唐草文様(型紙摺り)。高台内「大明 年製」銘。	第85図5
A区Ⅰ層		染付	碗蓋	肥前	18世紀中葉	Ⅳ	10.1	4.4	2.9	-	見込み五花弁文様(コンニャク印判)。 外側は青磁釉。高台内に銘。	第85図6
S K814		染付	皿	肥前	1680~1710	Ⅳ	13.1	7.7	2.8	-	型紙摺り。漆継痕。	第85図7
S K894		染付	皿	肥前	18世紀前半	Ⅳ	12.5	7.8	3.4	-	コンニャク印判。高台内に銘。	第86図1
表採		染付	皿	肥前	17世紀末~ 18世紀中	Ⅳ	13.7 (残存値)	8.5 (推定値)	3.2 (残存値)	-	蛇ノ目目台高台。高台内に「福」銘。	第86図2
S K894		染付	皿	肥前	18世紀前半	Ⅳ	13.2	8.0	3.2	-	コンニャク印判。	第86図3
MD56Ⅱ層	第2トレンチ	染付	皿	肥前	18世紀	Ⅳ	10.0	7.1	2.0	-	見込み五花弁文様(コンニャク印判)。 型紙摺り。蛇ノ目目台高台。	第86図4
第1トレンチ		染付	皿	肥前	18世紀	Ⅳ	①9.0 (推定値) ②7.2	①4.4 (推定値) ③3.4	2.0	-	糸切り成形。型紙摺り。	第86図5
S K894	MD57Ⅲ層	染付	皿	肥前	18世紀	Ⅳ	11.8 (推定値)	6.4 (推定値)	3.4	-	糸切り成形。型紙摺り。漆継痕。	第86図6
S D458	C区Ⅰ層	染付	皿	肥前(筒江瀬)	18世紀後半	Ⅳ	14.3	8.8	4.1	-	蛸唐草文様(型紙摺り)。高台内「筒江」 銘。蛇ノ目目台高台。	第86図7
S K430		染付	皿	肥前	18世紀前半	Ⅳ	11.5	6.8	2.6	-	糸切り成形。コンニャク印判。	第87図1
S K814		染付	皿	肥前	18世紀	Ⅳ	-	9.0	3.8 (残存値)	-	コンニャク印判。型紙摺り。蛇ノ目目台 高台。	第87図2
S K814南下層	S D01 表採	染付	皿	肥前	18世紀前半	Ⅳ	14.0	8.1	3.4	-	コンニャク印判。高台内「大明製」銘。 ハリ痕。	第87図3
S K894	MD55Ⅲ層 表採	染付	皿	肥前	1690~1730	Ⅳ	13.3	7.8	4.4	-	コンニャク印判。	第87図4
MA57Ⅲ層	L T56Ⅲ層 第1トレンチ	染付	皿	肥前	18世紀前半	Ⅳ	13.7	7.8	3.1	-	コンニャク印判。高台内「満福」銘。	第87図5
北側調査区Ⅱ層		染付	皿	肥前	18世紀後半	Ⅳ	12.4	6.0	2.7	-	型紙摺り。コンニャク印判。	第87図6
北側調査区表採		染付	皿	肥前	18世紀前半	Ⅳ	13.0 (推定値)	7.8 (推定値)	2.9	-	コンニャク印判。	第87図7
S K539		染付	皿	肥前(波佐見)	17世紀末~ 18世紀前半	Ⅳ	13.4	6.6	2.9	-	くらわんか。見込み蛇ノ目輪割ぎ。粗製。	第88図1
南側調査区表採		染付	大皿	肥前	1680~1710	Ⅳ	17.6 (残存値)	12.4 (推定値)	3.8 (残存値)	-	上手のモノ。	第88図2
S K814	MC56Ⅰ・Ⅱ層 MC53・54Ⅰ層等	染付	大皿	肥前	17世紀末~ 18世紀初頭	Ⅳ	19.7 (残存値)	16.7 (残存値)	2.3 (残存値)	-	高台貼り付け(高台を釉で接合)。唐獅子 絵。	第88図3
L R57表採		染付	大皿	肥前	18世紀	Ⅳ	30.9 (推定値)	18.6 (推定値)	5.2	-	焼継痕。	第88図4
北側調査区表採	南側調査区表採	染付	大皿	肥前	18世紀前半	Ⅳ	20.9 (推定値)	11.5 (推定値)	4.0	-	高台内「大明成化年製」銘。漆継痕。	第89図1
表採		染付	鉢	肥前	1680~1780	Ⅳ	14.7 (推定値)	8.5	5.1	-	型打ち成形。蛇ノ目目台高台。 高台内「成化年製」銘。	第89図2

第27表 出土陶磁器一覧表(9) 肥前産磁器Ⅳ期②

出土地点・層位	接合破片	分類	器種	産地	年代	編年区分	a	b	c	d	備考	挿図・図判
C区Ⅰ層		染付	鉢	肥前	18世紀	Ⅳ	15.1(推定値)	8.3(推定値)	7.1	-	外側は青磁種、内側は染付による掻分。蛇ノ目台高台。	第89図3
第2トレンチ表採		染付	鉢	肥前	1690~1780	Ⅳ	14.8(推定値)	8.2(推定値)	4.3	-	型打ち成形。蛇ノ目台高台。	第89図4
第1トレンチ		染付	鉢	肥前	18世紀前半	Ⅳ	20.7(推定値)	12.3(推定値)	4.3	-	型打ち成形。糸切り成形。	第90図1
S K 814	S K 894 S K 895等	染付	鉢	肥前	18世紀	Ⅳ	16.2(推定値)	10.5(推定値)	6.6	-	蛇ノ目台高台。漆襷痕。	第90図2
S K 814		染付	蓋付鉢	肥前	18世紀後半~19世紀初頭	Ⅳ~Ⅴ	9.2(推定値)	4.9(推定値)	7.1	-	漆襷痕。	第90図3
表採		染付	小鉢	肥前	1690~1780	Ⅳ	14.3(推定値)	8.7(推定値)	4.7	-	蛇ノ目台高台。	第90図4
S K 430	C区Ⅰ層	染付	鉢	肥前	18世紀	Ⅳ	16.5(推定値)	9.7(推定値)	5.8	-	型紙摺り。コンニャク印判。	第90図5
S K 814		染付	小段重	肥前	18世紀後半	Ⅳ	7.3	5.2	3.7	-		第90図6
S K 815		染付	紅皿	肥前	18世紀	Ⅳ	6.6	2.9	3.3	-	見込みに紅付着。	第90図7
S D 801		染付	蓋付小鉢	肥前	1780~1810	Ⅳ	5.2	3.2	2.7	-	型紙摺り。化粧用。	第90図8
MC 56Ⅳ層		染付	仏飯器	肥前	1690~1780	Ⅳ	7.1(推定値)	4.0	5.8	-	ロク口成形。底部は削り出し。	第91図1
S K 814		染付	仏飯器	肥前	18世紀後半	Ⅳ	6.5	3.7	5.9	-		第91図2
S K 814		染付	仏飯器	肥前	18世紀?	Ⅳ?	8.4	4.0	5.2	-		第91図3
MC 56Ⅰ・Ⅱ層		磁器	紅皿	肥前	18世紀前半	Ⅳ	4.8	1.8	1.5	-		第91図4
S D 801		染付	瓶	肥前	18世紀中葉~18世紀末	Ⅳ	4.9(残存値)	9.3(残存値)	9.5(残存値)	-		第91図5
S K 814		染付	油壺	肥前	18世紀後半	Ⅳ	2.2	3.2	8.6	7.9	鬺付け油壺。粗製(波佐見か有田の外山?)。	第91図6
S X 900		染付	瓶	肥前	18世紀前半	Ⅳ	7.8(推定値)	-	7.3	-		第91図7
L T 55Ⅲ層	Z区Ⅱ層	青磁	香炉	肥前	18世紀?	Ⅳ?	8.5	3.6	7.1	-	三足。	第91図8
S K 814		染付	水筒	肥前	18世紀前半	Ⅳ	①4.6(残存値) ②2.7(残存値)	-	4.8(残存値)	-	鶏の頭部。17世紀の例もある。	図版32-1-3
表採		染付	人形	肥前	18世紀	Ⅳ	①2.2(残存値) ②2.4(残存値)	-	2.4(残存値)	-	狸々か?型押し成形。	図版32-1-8

第28表 出土陶磁器一覧表(10) 肥前産磁器Ⅴ期

出土地点・層位	接合破片	分類	器種	産地	年代	編年区分	a	b	c	d	備考	挿図・図判
S K 814北Ⅰ層		染付	碗	肥前	1820~1860	Ⅴ	9.3(推定値)	3.8	5.2	-	色絵。端反碗。	第92図1 巻頭図版6-2
第2トレンチ		染付	碗	肥前	1780~1810	Ⅴ	7.9(残存値)	4.5	2.2(残存値)	-	広東碗。焼継師の銘あり。1回目「太田」2回目「山本」、他に判読不明の銘があり、都合3回の焼継が認められる。	第92図2 巻頭図版5-8 巻頭図版6-1
MC・MD55Ⅱ層		染付	碗	肥前	1780~1810	Ⅴ	11.1(推定値)	6.0(推定値)	6.3	-	広東碗。	第92図3
S K 814		染付	碗	肥前	1820~1840	Ⅴ	9.3(推定値)	3.8	4.9	-	端反碗。	第92図4
S K 814		染付	碗	肥前	1780~1840	Ⅴ	9.2(推定値)	3.6(推定値)	4.2	-	広東碗。型紙摺り。	第92図5
第11トレンチ		染付	碗	肥前	1780~1810	Ⅴ	-	6.2	2.5(残存値)	-	広東碗。高台内に焼継師銘。焼継痕。	第92図6
S K 814		染付	碗	肥前	1820~1840	Ⅴ	8.9	4.1	4.1	-	端反碗。	第92図7
S K 814上層		染付	碗	肥前	1820~1840	Ⅴ	8.3	3.8	4.2	-	端反碗。型紙摺り。	第92図8
S K 814		染付	碗	肥前	1820~1840	Ⅴ	9.6	4.2	4.7	-	端反碗の古いタイプ。型紙摺り。	第93図1
S K 814		染付	碗	肥前	1820~1860	Ⅴ	11.0(推定値)	6.2	4.2	-	端反碗。上手もの。焼継痕。	第93図2
S K 814南下層		染付	碗	肥前	1820~1860	Ⅴ	9.3(推定値)	3.6(推定値)	5.2	-	色絵の端反碗。	第93図3 巻頭図版6-3・4
S D 801	北側調査区Ⅰ層 北側調査区Ⅱ層	染付	碗蓋	肥前	1770~1810	Ⅴ	10.5(推定値)	4.5(推定値)	3.3	-	史料碗蓋。見込みに「寿」。	第93図4
S D 801		染付	碗蓋	肥前	1780~1810	Ⅴ	10.0(推定値)	5.4(推定値)	2.8	-	広東碗蓋。	第93図5
S K 894		染付	碗蓋	肥前	1780~1810	Ⅴ	9.3(残存値)	5.7(推定値)	1.9(残存値)	-		第93図6
S D 458		染付	碗蓋	肥前	1810~1820	Ⅴ	9.1(推定値)	3.8(推定値)	2.9	-	端反碗蓋。	第94図1
S K 814南下層	第2トレンチ	染付	碗蓋	肥前	1780~1840	Ⅴ	9.4(推定値)	5.2(推定値)	2.5	-	広東碗蓋。	第94図2
S K 814南下層	S K 814北上層	染付	碗蓋	肥前	1810~1850	Ⅴ	9.6	4.1(推定値)	2.8	-	端反碗蓋(古いタイプ)。	第94図3
第2トレンチ		染付	碗蓋	肥前	1780~1860	Ⅴ	8.6(推定値)	2.6	8.7	-	焼継痕。見込みに朱書きで焼継師銘。	第94図4
S K 814		染付	碗蓋	肥前	1810~1820	Ⅴ	8.2(推定値)	3.1	2.6	-	端反碗蓋。	第94図5 巻頭図版6-5
S D 801		染付	碗蓋	肥前	1820~1840	Ⅴ	10.0	3.1	4.4(推定値)	-	端反碗蓋。	第94図6
第2トレンチ		染付	大型鉢	肥前	1780~1860	Ⅴ	15.4(推定値)	8.0(推定値)	8.2	-	焼継痕。朱書きで焼継師銘。コンニャク印判。	第94図7
S K 814		染付	小杯	肥前	1780~1840	Ⅴ	7.8	2.9	3.8	-	広東碗。粗製。	第95図1
第10トレンチ	C区Ⅱ層 第11トレンチ等	青磁	瓶	肥前	19世紀前半	Ⅴ	-	5.7	7.5	7.6		第95図2
第11トレンチ		染付	瓶	肥前	19世紀前半	Ⅴ	-	4.5	5.5(残存値)	-	蛸唐草文様。	第95図3
S K 814		染付	瓶	肥前	19世紀前半	Ⅴ	1.6	-	8.9(残存値)	-	蛸唐草文様。	第95図4
MC 53・54Ⅰ・Ⅱ層		青磁	瓶	肥前(波佐見)	18世紀末~19世紀?	Ⅴ?	7.7	-	5.8(残存値)	-	粗製。	第95図5
S D 458		染付	火入れ	肥前	18世紀末~19世紀前半	Ⅴ	9.6	3.6	7.1	-	蛇ノ目台高台。見込みに砂が付着。口縁部叩き痕(灰落としとしても使用?)	第95図6
第2トレンチ		染付	火入れ?鉢?	肥前	18世紀末~19世紀前半	Ⅴ	9.8	10.4	9.6	-		第95図7
B区Ⅰ層		染付	段重	肥前	19世紀?	Ⅴ?	14.5	9.4	5.9	-		第96図1
第2トレンチ		染付	段重	肥前	19世紀前半	Ⅴ	12.0(推定値)	4.8(残存値)	11.6(残存値)	-	色絵。	第96図2 巻頭図版6-6
MC 57Ⅰ・Ⅱ層		染付	合子蓋	肥前	19世紀?	Ⅴ?	6.8	15.8	2.1	-	糸切り成形。	第96図3
表採		染付	戸車	肥前	18世紀末~幕末	Ⅴ	6.7	6.6	1.3	-		第96図4
第2トレンチ		染付	蓮華	肥前	18世紀末~19世紀?	Ⅴ?	5.3(残存値)	7.6(残存値)	2.9(残存値)	-	糸切り成形。底部に焼継師銘。柄元に焼継痕。	第96図5

第29表 出土陶磁器一覧表 (11) その他の産地の陶磁器

出土地点・層位	接合破片	分類	器種	産地	時代・年代	編年区分	a	b	c	d	備考	挿入・図刊
N区下層		陶器	碗	瀬戸美濃	17世紀初頭	-	11.1 (推定値)	3.8	5.9	-	天目型。鉄軸。ロクロ成形。高台内艶削り。削り高台。	第96図6
S K 814	MC 55Ⅲ層 北側調査区Ⅱ層	陶器	碗	瀬戸美濃	16~17世紀前半	-	11.8 (推定値)	4.5	7.3	-	天目型。鉄軸。ロクロ成形。高台内艶削り。削り高台。	第96図7
S K 456		陶器	碗	瀬戸美濃	16~17世紀前半	-	11.0 (推定値)	5.7 (推定値)	6.3	-	天目型。鉄軸。ロクロ成形。削り高台。	第96図8
S K 456	F区Ⅱ層	陶器	碗	瀬戸美濃	16~17世紀前半	-	11.2 (推定値)	-	5.8 (残存値)	-	天目型。鉄軸。ロクロ成形。削り高台。火災などによる二次焼成痕。	第96図9
S K 814		陶器	碗	瀬戸美濃	江戸時代	-	11.4 (推定値)	4.3 (推定値)	6.4	-		第96図10
北側調査区Ⅰ・Ⅱ層		陶器	皿	瀬戸美濃	17世紀初頭	-	12.4	7.1	2.5	-	志野焼。菊皿。型打ち成形。ピン積み痕。	第96図11
S K 813	S D 790	陶器	皿	瀬戸美濃	17世紀初頭	-	11.9	7.7	2.6	-	志野焼。ロクロ成形。底部にピン積み痕。	第97図1
第2トレンチ表採		陶器	皿	瀬戸美濃	1600~1630	-	13.4	8.3	4.2	-	織部焼。茶会席で使用。ピン積み痕。	第97図2 巻頭図版6-7・8
MB55Ⅲ層-RP1		陶器	皿	瀬戸美濃	17世紀初頭	-	14.1	7.8	3.0	-	織部焼。茶会席で使用。ピン積み痕。	第97図3
S K 712		陶器	皿	瀬戸美濃	16世紀後半	-	10.2	5.4	1.9	-	被熱痕(灯明皿として再利用)。	第97図4
南側調査区表採		陶器	皿	瀬戸美濃	17世紀初頭	-	14.0 (推定値)	6.4	4.2	-	志野焼。ロクロ成形。高台内艶削り。削り高台。	第97図5
S K P 1163		陶器	小杯	瀬戸美濃	17世紀初頭	-	6.2	3.1	2.9	-	黄瀬戸。ロクロ成形。ピン積み痕。	第97図6
第2トレンチ		陶器	獅子頭?	瀬戸美濃	17世紀	-	①3.2 (残存値) ②3.8 (残存値)	-	3.0 (残存値)	-	獅子頭か? 緑軸。漆継痕。	図版32-1-12
S D 458		染付	碗	瀬戸美濃	1830~1840	-	11.1	4.6	5.9	-	端反碗。高台内銘(不明)。	第98図1
S K 539		染付	碗	瀬戸美濃	1830~1840	-	9.4	3.9	5.0	-	端反碗。	第98図2
旧土手長町Ⅲ層		染付	碗	瀬戸美濃	1830~1840	-	9.8 (推定値)	4.1	5.2	-	端反碗。	第98図3
G区Ⅰ層		染付	碗蓋	瀬戸美濃	1830~1840	-	9.6	4.0	3.2	-		第98図4
第2トレンチⅠ・Ⅱ層		染付	皿	瀬戸美濃	幕末~明治	-	①8.0 (推定値) ②8.2	①4.3 ②4.1	3.0	-		第99図1
Ⅳ層		陶器	碗	京	18世紀	-	11.9 (推定値)	3.6	4.5	-		第99図2
S K 814		陶器	小鉢	京	18世紀	-	12.0 (推定値)	3.7	4.9	-		第99図3
S K 814		陶器	小鉢	京	18世紀	-	-	4.4	4.2 (残存値)	-	漆継痕。	第99図4
S D 801		陶器	鍋	京	18世紀後半	-	-	7.0 (推定値)	3.4 (残存値)	-	粟田(口)焼。底部に「岩倉山」銘。	第99図5
S D 01-25		陶器	灰落し	京	18世紀後半~19世紀前半	-	-	5.7	5.9 (残存値)	-	鉄軸。	第99図6
S K 825		陶器	硯屏	京	18世紀頃	-	11.3	4.3	2.5 (残存値)	-	板作り成形。	第99図7
北側調査区表採		陶器	碗	京?	18世紀前半	-	9.2	6.0	6.6	-	ロクロ成形。高台内艶削り。高台内に円刻。	第99図8
第2トレンチ		染付	蓋付き碗	京	19世紀~幕末	-	12.7 (推定値)	5.8	5.4	-	高台内「玉林庵左平造(ギョクリンサイサヘイゾウ)」銘。	第100図1
S K 814	北側調査区Ⅱ層	陶器	碗	萩	18世紀~19世紀	-	12.2	4.7	5.9	-	蓋灰軸・鉄軸。ロクロ成形。高台内艶削り。	第100図2
S K 456	F区Ⅰ層	陶器	皿?	備前	16世紀末~17世紀前半	-	-	18.5 (推定値)	1.3 (残存値)	-	酸化還元焼成。底部に銘。	第100図3
S K 814		陶器	徳利	備前	江戸時代後期	-	2.0 (残存値)	-	12.8 (残存値)	10.1	酸化還元焼成。内側に炭が付着。墨汁入れとして使用?	第101図1
S K P 939礎石下		陶器	掃鉢	備前	16世紀	-	33.6	11.7	12.2	-	酸化還元焼成。	第101図2
S K 894		陶器	甕	備前	17世紀初頭	-	52.0 (推定値)	-	11.4 (残存値)	-	酸化還元焼成。	第101図3
S D 458		陶器	小杯	福岡	17世紀	-	5.0	2.5	3.9	5.4	灰軸。ロクロ成形。	第102図1
S K 825		陶器	徳利	福岡	17世紀後半~18世紀前半	-	2.1 (残存値)	6.5	17.6 (残存値)	11.7	上野? 高取? 産。蓋灰軸。外底は鉄葉。	第102図2
S K 814		陶器	灰落し	福岡?	江戸時代後期	-	4.8 (推定値)	6.4	11.8	-	灰軸。ロクロ回転糸切り成形。口縁部煙管による叩き痕。	第102図3
S K P 514	南側調査区表採	陶器	掃鉢	堺	17世紀	-	34.1 (推定値)	16.9 (推定値)	13.2 (残存値)	-	片口の口縁部に印。	第103図1
S K 814		陶器	茶壺	信楽	江戸時代	-	13.4 (残存値)	-	3.9 (残存値)	-	口縁部のみ。	第104図1
S K 786	MC 54Ⅳ層	陶器	壺	信楽	江戸時代	-	9.6 (推定値)	-	8.3 (残存値)	-	口縁部のみ。	第104図2
S K 894	MC 57	陶器	壺	信楽	16~17世紀	-	-	-	13.8 (残存値)	-	胴部のみ。	第104図3
S K 481		陶器	壺	信楽	江戸時代	-	29.3 (推定値)	-	9.5 (残存値)	-	口縁部のみ。	第102図4
S K 850	S K 814 MB53・54Ⅳ等	陶器	壺	信楽	江戸時代	-	-	24.5 (推定値)	19.3	-	底部のみ。	第102図5
ME55Ⅰ層		陶器	片口鉢	関西系	江戸時代後期	-	15.4	8.8	7.7	-	鉄軸。ロクロ成形。取手部分が破損。	第105図1
Z区表採		陶器	鍋	関西系	江戸時代後期	-	15.3	7.4	4.7	-	行平鍋。	第105図2
G区表採	第10トレンチ	陶器	鍋	関西系	江戸時代後期	-	19.4 (推定値)	-	8.5 (残存値)	-	行平鍋?	第105図3
ME55Ⅰ層		陶器	急須	関西系	江戸時代後期	-	6.6	5.1	4.7	8.0		第106図1
S K 814上層		陶器	土瓶	関西系	江戸時代後期	-	6.6	-	10.8 (残存値)	15.0		第106図2
第2トレンチ表採		陶器	蓋	関西系	江戸時代後期	-	7.9	6.8	2.2	-	ロクロ成形。底部に叩き痕。	第106図3
第2トレンチ表採		陶器	蓋	関西系	江戸時代後期	-	3.2	5.3	1.6	-		第106図4
第2トレンチ表採		陶器	蓋	関西系	江戸時代後期	-	5.4	2.2	2.1	-		第107図1
北側調査区表採		陶器	水滴	関西系	18世紀中期以降	-	5.6 (推定値)	8.6 (推定値)	6.7	-	匱削り成形。	第107図2
北側調査区表採		陶器	水滴	関西系	18世紀中期以降	-	-	-	1.8 (残存値)	-	型押し成形。匱削り成形。	第107図3
S K 814		陶器	徳利	関西系	江戸時代後期	-	4.6	7.9	25.6	9.0	欄徳利。	第107図4
北側調査区表採		染付	瓶	関西系	幕末~明治	-	2.7	5.7	19.3	6.3		第107図5
S D 458		陶器	皿	在地?	江戸時代後期	-	9.8 (推定値)	6.0	1.4	-	型押し成形。	第107図6
S D 458		陶器	鉢	在地	江戸時代後期	-	20.2	8.4	8.1	-	なまこ軸。ロクロ成形。高台内艶削り。見込みに胎土目積み痕。寺内焼? か白岩焼?の可能性あり。	第108図1
S D 458		陶器	片口鉢	在地	江戸時代後期	-	14.9	6.4	8.5	-	なまこ軸。ロクロ成形。高台内艶削り。見込みに胎土目積み痕。寺内焼? か白岩焼?の可能性あり。	第108図2
北側調査区表採		陶器	片口鉢	在地	19世紀	-	23.8	7.2	10.0	-	見込みに胎土目積み痕。	第108図3
S D 458		陶器	鍋蓋	在地?	江戸時代後期	-	8.1	10.3	2.5	-		第108図4
S K 814		陶器	花卉	在地	江戸時代後期	-	13.4	12.0	22.8	13.5	筒型。	第109図1
第11トレンチ		陶器	島の瓶入れ	在地	江戸時代後期	-	5.3	4.1	2.9	-	灰軸。ロクロ回転糸切り成形。	第109図2
第2トレンチ		染付	鉢	在地?	19世紀?	-	12.6	5.8	6.1	-	型打ち成形。焼継痕(3人の焼継師銘)。	第109図3
S K 814		陶器	甕	在地	江戸時代後期	-	19.2	11.8	26.2	22.8	なまこ軸。ロクロ成形。高台内艶削り。寺内焼? か白岩焼?の可能性あり。高台内に粉殻付着。	第110図1 図版23-4
S D 458		瓦質土器	鉢	在地?	江戸時代	-	23.9 (推定値)	20.4 (推定値)	16.2 (残存値)	26.4 (推定値)	胴部に印花。口縁部・胴部一部に漆塗り痕。	第111図1
S D 913		瓦	軒瓦	在地	江戸時代	-	24.5	14.5	14.2 (残存値)	-	「左三巴紋」。	第112図1

第30表 出土土製品一覧表

出土地点・層位	器種	産地	時代	a	b	c	d	備考	挿図・図符
S K814上層	かわらけ	在地?	江戸時代	11.4 (推定値)	7.2 (推定値)	1.8	-	ロクロ回転系切り成形。見込み型押しによる文様。底部は、布等で糸切り痕を消している。	第113図1
S D640	かわらけ	在地	江戸時代	12.7	8.3	2.6	-	手づね成形。被熱痕(灯明皿として使用)。	第113図2
S K825	かわらけ	在地	江戸時代	8.1	2.0	1.8	-	型押し成形。篋削り。被熱痕(灯明皿として使用)。	第113図3
S K971	かわらけ	在地	江戸時代	15.8 (推定値)	10.4 (推定値)	2.7	-	ロクロ回転系切り成形。金箔貼り。被熱痕(灯明皿として使用)。	第113図4
南側調査区表採	かわらけ	在地	江戸時代	11.3 (推定値)	5.7	2.6	-	ロクロ回転系切り成形。	第113図5
南側調査区表採	かわらけ	在地	江戸時代	9.8	3.2	2.6	-	肘や膝による型押し成形。	第113図6
S D458	火鉢	在地	江戸時代	14.1	14.4	9.2	17.3	見込み内に「久」刻印。胴部に「葉」印花。内部壁面に被熱痕。	第113図7
MA56II層	乗燭	在地	江戸時代	7.0	3.4	4.2	-	ロクロ回転系切り成形。底部は、布等で糸切り痕を消している。被熱痕。	第113図8
第11トレンチ	乗燭	在地	江戸時代	6.3	4.2	4.2	-	ロクロ回転系切り成形。	第113図9
S K814	脚風呂	在地	江戸時代後期	14.3	9.8	12.9	13.6	胴部に「八橋」刻印。	第114図1 図版32-2-4
南側調査区表採	脚風呂	在地	江戸時代後期	-	7.5	5.8 (残存値)	9.5	高台裏に「根元氏」墨書。	第114図2
南側調査区表採	土鏝	在地	江戸時代	9.7	6.5	-	-	胴部に「菊」の印花。	第114図3
S K814	提灯	在地	江戸時代	18	16.5	20.4	23.0	-	図版32-2-1
S D458	風呂(蓋)	在地	江戸時代	23	26	6.0	-	-	図版32-2-2
S K814	風呂	在地	江戸時代	21	21	23.8	30.8	-	図版32-2-3
S K813	印?	在地?	江戸時代	6.8	2.9	2.5	-	「惟」や「菊」の刻印がある。	第114図4
南側調査区表採	玩具	在地?	江戸時代	2.4	1.4	0.4	-	表「銀座常賣」、裏「以南鐘八片不判一両」。	第114図5
南側調査区表採	人形	在地	江戸時代	4.4	6.8	3.8	-	「猿」。型合わせ・手捻り成形。	第115図1
表採	人形	在地	江戸時代	6.0	5.1	3.7	-	「獅子頭」。型合わせ・手捻り成形。	第115図2
MC56I・II層	人形	在地	江戸時代	5.3	7.6	2.7	-	「蓬萊魚」。型合わせ・手捻り成形。	第115図3
第10トレンチ	人形	在地	江戸時代	7.1	3.9	2.9	-	「子育て観音」。型合わせ・手捻り成形。	第115図4
表採	人形	在地?	江戸時代	4.8	3.9	1.8	-	「猿の相撲」。関西系。型合わせ成形。透明釉の施釉。	第115図5
S D01-70	人形	在地	江戸時代	5.0 (残存値)	3.4	2.8	-	「驚か鷹?」。型合わせ・手捻り成形。頭部なし。	第115図6
南側調査区表採	人形	在地?	江戸時代	5.0 (残存値)	3.0 (残存値)	1.8 (残存値)	-	「七福神大黒様?」関西系。型合わせ成形。	第115図7
北側調査区F	人形	在地	江戸時代	①4.9 (残存値) ②3.3	-	5.3 (残存値)	-	福助か?型押し成形。中は空洞。	図版32-1-1
MD55IV層	人形	在地	江戸時代	①5.9 (残存値) ②3.6	-	5.5 (残存値)	-	型押し成形。手捻り。中は空洞。	図版32-1-2
G区I層	脚風呂	在地	江戸時代	6.0 (推定値)	3.8	5.1	6.2	ミニチュア。玩具。	図版32-1-4
A区I層	人形	在地	江戸時代	①3.9 (残存値) ②2.0	-	3.2 (残存値)	-	般若。型押し成形。	図版32-1-7
C区I層	人形	在地	江戸時代	①1.9 ②1.8	-	2.1	-	大黒様。型押し成形。	図版32-1-9
表採	宝船	在地	江戸時代	①3.3 (残存値) ②2.0	-	1.3	-	宝船。関西系。型押し成形。	図版32-1-10
S D458	人形	在地	江戸時代	①3.1 ②1.5	-	2.6 (残存値)	-	福助?型押し成形。	図版32-1-11

第31表 出土石製品一覧表

出土地点	種類	最大長(径)・a (cm)	最大幅・b (cm)	高さ(厚さ)・c (cm)	重量 (g)	備考	挿図
第1トレンチ-A	硯	12.7 (残存値)	5.8	2.1	230	-	第116図1
S K456	硯	8.1 (残存値)	4.2	1.1	49.6	文字あり。	第116図2
II層	碁石	2.2	-	0.5	3.5	-	第116図3
表採	碁石	2.2	-	0.4	2.8	-	第116図4
北側調査区II層	硯	6.3	2.7	0.5	49.5	「見口」の文字あり。	第116図5
L区サブトレ	硯	6.2 (残存値)	6.3	2.2	90.1	-	第116図6
S K894	碁石	10.5 (残存値)	5.4	5.6	407	-	第116図7
II区	碁石	10.6	5.4	4.8	457	-	第116図8
L T53	石灯籠	30.8 (残存値)	27 (残存値)	15.4 (残存値)	3,320	-	第117図1

第32表 出土木製品一覧表(1)

出土地点	器種	産地	時代	a (cm)	b (cm)	c (cm)	d (cm)	備考	挿図・図符
北側調査区IV層	漆椀	-	17世紀前半	13.6 (推定値)	6.5 (残存値)	7.2 (残存値)	-	底部・口縁部一部破損。	第118図1
S K960	漆椀	-	17世紀中葉	11.0 (推定値)	5.2 (残存値)	4.8 (残存値)	-	底部・口縁部一部破損。	第118図2
表採	漆椀	-	17世紀後半	11.5 (推定値)	5.7 (残存値)	5.1 (残存値)	-	高台内「叶」銘。底部・口縁部一部破損。	第118図3
南側調査区IV層	漆椀蓋	-	17世紀前半	12.0	6.7 (残存値)	3.3 (残存値)	-	無柄・高台内刻印?	第118図4
S K481	漆椀	-	17世紀後半~18世紀前半	11.8 (残存値)	6.0 (残存値)	4.7 (残存値)	-	高台内に銘。	第118図5
S K786	漆椀	-	17世紀後半~18世紀前半	12.0 (推定値)	6.0 (残存値)	4.8 (残存値)	-	高台内刻印	第118図6
S K712-4	漆椀	-	17世紀後半~18世紀前半	12.3 (残存値)	5.8 (残存値)	7.3 (残存値)	-	九曜紋あり。細川家家紋?	第118図7 図版17-2
S K712-3	漆椀	-	17世紀後半~18世紀	11.8 (残存値)	5.7 (残存値)	6.7 (残存値)	-	底部・口縁部一部破損。	第118図8
南側調査区表採	漆椀	-	18世紀後半	11.5	5.6	7.7	-	口縁部一部破損。	第118図9
南側調査区II層	漆椀	-	17世紀後半~18世紀	12.2 (推定値)	5.6	8.4	-	無柄。底部・口縁部一部破損。	第119図1
MC54IV層	漆椀	-	17世紀後半~18世紀前半	12.5 (残存値)	6.2	7.1 (残存値)	-	無柄。底部・口縁部一部破損。	第119図2
S K814上層	漆椀蓋	-	17世紀後半~18世紀前半	10.7	5.7 (残存値)	3.3 (残存値)	-	無柄。	第119図3
ME55I層	漆椀蓋	-	18世紀後半	8.7	4.4	2.2	-	無柄。	第119図4
S K814	漆椀蓋?	-	18世紀後半	9.9 (残存値)	4.4 (残存値)	2.9 (残存値)	-	高台内に銘。	第119図5
S K814	漆椀蓋	-	17世紀後半~18世紀前半	11.0 (残存値)	5.4 (残存値)	3.4 (残存値)	-	家紋?	第119図6
S K956	漆椀蓋	-	17世紀後半~18世紀前半	9.6 (推定値)	4.7 (残存値)	3.3 (残存値)	-	口縁部一部残存。底部破損。	第119図7
S K751	漆椀蓋	-	17世紀後半~18世紀前半	11.0 (残存値)	5.4 (残存値)	3.8 (残存値)	-	高台内銘あり。底部・口縁部一部破損。	第119図8
S K814	漆椀蓋	-	18世紀後半	11.7	5.3	3.4	-	網木瓜紋?小野園家家紋?底部・口縁部破損。	第119図9
S B1026P17	漆椀蓋?	-	17世紀後半~18世紀前半	10.2 (残存値)	4.3	3.1 (残存値)	-	家紋。底部・口縁部一部破損。	第119図10
S K814	漆椀蓋?	-	19世紀前半	10.6 (残存値)	5.6 (残存値)	2.8 (残存値)	-	反八角に橘紋。	第119図11
S K814	漆椀蓋	-	18世紀	11.5 (推定値)	5.5 (残存値)	4.0 (残存値)	-	鶴文様。	第119図12
S K712	漆椀	-	17世紀後半~18世紀前半	10.6	6.0 (残存値)	4.2 (残存値)	-	九曜紋あり。細川家家紋?	第119図13
S K814	漆椀	-	19世紀前半	11.0	5.6	4.5	-	口縁部破損。無柄。	第120図1
S K814上層	漆椀	-	18世紀後半~19世紀前半	12.4 (推定値)	6.4	5.5	-	無柄。底部・口縁部一部破損。	第120図2
S K814	漆椀	-	18世紀後半	11.4 (推定値)	5.4	5.5	-	無柄。底部・口縁部一部破損。	第120図3
S K814	漆椀	-	19世紀前半	12.5	6.3 (残存値)	5.4 (残存値)	-	無柄。	第120図4
S D01	漆椀	-	19世紀前半	10.5	5.0	3.1	-	無柄。	第120図5
S K814	漆椀杯	-	18世紀後半	7.8 (残存値)	3.9 (推定値)	2.6 (残存値)	-	底部・口縁部一部破損。	第120図6
S K814	漆椀蓋	-	17世紀後半~18世紀前半	10.2 (推定値)	4.7 (残存値)	3.7 (残存値)	-	底部・口縁部一部破損。	第120図7
第2トレンチ	漆椀	-	17世紀後半~18世紀前半	10.2 (推定値)	5.0	3.2	-	家紋あり。底部・口縁部一部破損。	第120図8
S K814上層	漆椀	-	18世紀後半	10.1	5.2	3.5	-	底部・口縁部一部破損。	第120図9

第33表 出土木製品一覧表(2)

出土地点	器種	産地	時代	最大長(径)(cm)	最大幅(cm)	高さ(厚さ)(cm)	歯を含む最大幅(下駄のみ適用)(cm)	備考	挿入・図判
S K 814南下層	折敷	-	江戸時代	30.8	31.4	30.8	-	底部一部破損。	第120図10 図版23-5
S K 814	膳	-	江戸時代	24.9	20.9(残存値)	1.6	-	破損。	第121図1
S K 825	三方	-	江戸時代	19.5	17.1(残存値)	0.3	-	台座部分のみ。	第121図2
S K 814	膳	-	江戸時代	26.0	13.7	1.7	-	破損。	第122図1
S K 712-2	膳	-	江戸時代	10.0	9.9(残存値)	4.1	-	漆塗り。	第122図2
ME55表採	鍋蓋	-	江戸時代	19.8(残存値)	-	2.8	-	破損。	第123図1
S K 813	樽?桶?底	-	江戸時代	22.3	-	1.5	-	-	第123図2
S K 814	蓋	-	江戸時代	16.0(残存値)	-	1.2	-	破損。	第123図3
S K 894	蓋	-	江戸時代	22.1	-	1.5	-	破損。	第123図4
S K 814	樽蓋	-	江戸時代	15.0	-	0.8	-	木釘による接合。	第124図1
S K 814	蓋	-	江戸時代	23.5(残存値)	-	1.2	-	漆塗蓋。破損。	第124図2
S K 814南下層	柄杓	-	江戸時代	14.2	23.0(残存値)	11.5(残存値)	-	曲物。底部・柄破損。	第125図1
S K 456	柄杓	-	江戸時代	8.0(残存値)	15.9(残存値)	6.7(残存値)	-	曲物。柄は破損し、焼痕が残る。	第125図2
S B 1026 P 9	樽	-	江戸時代	10.8	10.5	4.8	-	曲物。口縁部破損。	第125図3
S K 591	匱	-	江戸時代	24.5	3.0	0.6	-	-	第126図1
S K 833	匱	-	江戸時代	27.3	4.3	1.0	-	-	第126図2
S B 810 P 29	手鏡?	-	江戸時代	19.3(残存値)	10.1(残存値)	1.0	-	柄部分破損。	第126図3
表採	杓文字	-	江戸時代	17.6(残存値)	5.3(残存値)	0.6	-	一部破損。	第126図4
MD55 I 層	匱	-	江戸時代	6.9(残存値)	3.8(残存値)	1.0	-	破損。	第126図5
S K 813	匱	-	江戸時代	7.7	3.5(残存値)	1.3	-	一部破損。	第126図6
S K 814	匱	-	江戸時代	13.1	5.2(残存値)	1.1	-	一部破損。	第126図7
S K 814上層	漆塗箸	-	江戸時代	16.5(残存値)	0.5	0.5	-	漆に金泥のまだら文様。	第126図8
S K 814	漆塗箸	-	江戸時代	19.0(残存値)	0.5	0.5	-	赤塗。	第126図9
S K 825	漆塗箸	-	江戸時代	18.2(残存値)	0.5	0.5	-	赤と黒の塗分け。	第126図10
S K 814	漆塗箸	-	江戸時代	20.6(残存値)	0.7	0.5	-	一部破損。	第126図11
S K 814	箸	-	江戸時代	25.5	0.7	0.7	-	-	第126図12
S K 814	箸	-	江戸時代	26.0	0.8	0.7	-	-	第126図13
S K 894	漆塗調度品の一部?	-	江戸時代	1.5(残存値)	2.5	0.5	-	漆に金泥による文様。	第126図14
S K 894	羽子板	-	江戸時代	27.4	9.7	1.5	-	-	第127図1
I 層	羽子板	-	江戸時代	30.6	9.7	0.9	-	-	第127図2
S K 894	羽子板	-	江戸時代	26.9	9.5	1.0	-	-	第127図3
S K 814	羽子板	-	江戸時代	41.2	7.4	0.9	-	-	第127図4
南側調査区I層	独楽	-	江戸時代	4.5	-	3.0	-	-	第127図5
S K 813	独楽	-	江戸時代	4.8	-	3.0	-	-	第127図6
F区雑瓦	独楽	-	江戸時代	6.0	-	2.9	-	-	第127図7
南側調査区表採	木像	-	江戸時代	13.9	4.7	8.8	-	精霊馬?	第127図8
北側調査区II層	木像	-	江戸時代	9.5(残存値)	8.5	4.1(残存値)	-	一部破損。	第128図1
S K 813	木像	-	江戸時代	8.7(残存値)	9.0	4.0(残存値)	-	一部破損。	第128図2
S K 786	木像?	-	江戸時代	16.8	3.8	3.2	-	祭祀具?一部破損。	第128図3
I層	木像?	-	江戸時代	13.9(残存値)	2.4	2.0	-	祭祀具?一部破損。	第128図4
南側調査区表採	木像	-	江戸時代	15.1	3.6	4.0	-	祭祀具?一部破損。	第128図5
S X 815	木像?	-	江戸時代	32.3(残存値)	5.3	4.6	-	祭祀具?一部破損。	第128図6
S K 814	加工木製品	-	江戸時代	9.2	8.9	10.0	-	-	第128図7
S K 456	加工木製品	-	江戸時代	6.8	6.8	0.8	-	-	第128図8
S K 814	欄間の一部?	-	江戸時代	4.8(残存値)	6.0(残存値)	1.4	-	唐草模様。一部破損。	第129図1
S K 814	家具	-	江戸時代	4.5	9.3	1.3	-	引出部分。	第129図2
S K 814	漆塗加工品	-	江戸時代	10.0(残存値)	3.5(残存値)	0.9	-	破損。	第129図3
S K 825	紫黒い?	-	江戸時代	18.8	10.8	0.8	-	-	第129図4
S K 814	加工木製品	-	江戸時代	23.7	8.7(残存値)	0.8	-	家具の一部?破損。	第129図5
S K 814	串	-	江戸時代	33.4	1.1	0.9	-	-	第129図6
S K 814上層	樽栓	-	江戸時代	7.6	3.7	3.8	-	-	第129図7
S K 712	漆塗下駄	-	江戸時代	22.7	8.3	12.8	15.2	丸型の露卯下駄。後壺が後歯の後。	第129図8
S K 814	下駄	-	江戸時代	23.2(残存値)	8.5	6.6	11.3	丸型の露卯下駄。後壺が後歯の前。	第130図1
S K 825	漆塗下駄	-	江戸時代	22.8	8.5	9.5	10.4	丸型の露卯下駄。後壺が後歯の後。	第130図2
南側調査区II層	下駄	-	江戸時代	21.7	7.5	7.0	9.5	丸型の露卯下駄。後壺が後歯の前。	第131図1
S D 01-151	下駄	-	江戸時代	22.7	7.7	10.1	12.2	丸型の漆塗露卯下駄。後壺が後歯の後。	第131図2
MC56IV層	下駄	-	江戸時代	24.3	9.0	5.0(残存値)	-	角型の露卯下駄。後壺が後歯の後。	第132図1
S K 591	下駄	-	江戸時代	22.7	8.9	9.5	10.5(残存値)	丸型の露卯下駄。後壺が後歯の後。	第132図2
S K 814	下駄	-	江戸時代	23.6	8.7	5.8	10.5(残存値)	角型の露卯下駄。後壺が後歯の前。	第133図1
S K 814	下駄	-	江戸時代	23.5	8.8	6.1	10.4(残存値)	角型の露卯下駄。後壺が後歯の前。	第133図2
S K 1122	下駄	-	江戸時代	22.4	8.3	3.8(残存値)	-	角型の露卯下駄。後壺が後歯の前。	第134図1
S K 616	下駄	-	江戸時代	19.7	7.3	7.3	8.1(残存値)	角型の露卯下駄。後壺が後歯の前。	第134図2
第2トレンチ	下駄	-	江戸時代	19.0(残存値)	6.8	4.3	-	隅丸型の削り下駄。	第134図3
S K 814	下駄	-	江戸時代	19.6	6.5	2.2	-	丸型の無眼下駄。	第134図4
表採	下駄	-	江戸時代	22.2	8.9	4.7	9.9	角型の連歯下駄。後壺が後歯の後。後歯がなく、修理のためと思われる釘が打たれている。	第135図1
S K 456	下駄	-	江戸時代	23.6	8.6	4.8	9.6	隅丸型の連歯下駄。後壺が後歯の前。	第135図2
S K 712-5	下駄	-	江戸時代	17.4	6.1	3.0	6.4	丸型の削り下駄。	第135図3
MD57III層	下駄	-	江戸時代	20.1	7.0(残存値)	3.2(残存値)	-	丸型の削り下駄。	第135図4
S K 813	下駄	-	江戸時代	22.8	7.7	7.3	9.0	角型の連歯下駄。後壺が後歯の前。	第136図1
S K 894	下駄	-	江戸時代	25.3	9.9	4.7	-	角型の削り下駄。	第136図2
L T 53・54III層	下駄	-	江戸時代	20.4(残存値)	7.5	2.8	-	角型の削り下駄。	第136図3
南側調査区表採	杭	-	江戸時代	46.5	7.5	5.3	-	家屋材の転用。	第137図1
S D 316	家屋材	-	江戸時代	19.7	7.9	4.6	-	ホゾあり。	第137図2
表採	鴨居	-	江戸時代	14.0	11.5	4.5	-	破損。	第137図3
第1トレンチ	家屋材	-	江戸時代	16.8	12.0	11.7	-	ホゾ穴あり。	第138図1
S K 814	木筒	-	江戸時代後期	22.6	4.5	0.8	-	墨書あり。「小野岡大和様…」	第139図1
表採	木筒	-	江戸時代	32.6	2.7	0.5	-	墨書あり。「榎米川井五郎兵衛様…」	第139図2
S K 814	木筒	-	江戸時代	23.3	2.1	0.2	-	墨書あり。×銭銭三貫文 同人分	第139図3
S K 814	木筒	-	江戸時代	21.0	4.7	1.0	-	墨書あり。「川上嘉兵衛様…」	第139図4
S K 825	木筒	-	江戸時代後期	31.5	3.0	0.8	-	墨書あり。「□□□(羽秋田々)住人口□之…」	第139図5
ME55 I 層	木筒	-	江戸時代	9.1	3.7	0.7	-	墨書あり。「□□□大町…」	第140図1
表採	木筒	-	江戸時代	15.8(残存値)	3.2	0.4	-	墨書あり。×□吉原…」	第140図2
MB56表採	加工材	-	江戸時代	24.5	1.4	1.3	-	墨書あり。「□春て、候」。一部朱塗り。	第140図3
S K 894	木筒	-	江戸時代	4.2	8.3(残存値)	0.3	-	墨書あり。「左三巴文」	第140図4
S K 814下層	木筒?	-	江戸時代	9.9	2.6(残存値)	0.7	-	仏面?	第140図5
S K 958	板	-	江戸時代	26.5	7.8(残存値)	1.1	-	扇絵?	第140図6
S K 814	膳?	-	江戸時代	21.2	7.9(残存値)	0.8	-	漆塗り。絵が描かれている。	第140図7
S K 825	小樽蓋	-	江戸時代	9.3	-	0.7	-	墨書あり。「南部雲三」	第141図1
第1トレンチ	小樽蓋	-	江戸時代	8.8	-	0.7	-	墨書あり。「嘉兵衛」	第141図2
S K 825	小樽蓋	-	江戸時代	10.5	-	0.5	-	墨書あり。「善 御信寺」	第141図3
表採	樽蓋	-	江戸時代	26.8(残存値)	-	1.2	-	墨書あり。破損。	第141図4
S K 712	加工材	-	江戸時代	27.8	5.1(残存値)	0.6	-	刻印(焼印)あり。	第141図5
S K 814	桶?	-	江戸時代	15.3	9.7	2.6	-	墨書あり。一部分のみ。	第141図6
S A 03 P 2	加工材	-	江戸時代	15.7(残存値)	3.5	2.5	-	墨書あり。「東ノ一」。釘が刺さっている。	第141図7
S K 814	桶?樽?	-	江戸時代	18.8(残存値)	-	1.0	-	墨書あり。破損。	第141図8
S K 683	桶	-	江戸時代	15.0(残存値)	6.4	0.8	-	墨書あり。一部分のみ。	第141図9

第4章 調査の記録

第34表 出土木製品一覧表(3)

出土地点・層位	器種	産地	時代	最大長(径)(cm)	最大幅(cm)	高さ(厚さ)(cm)	歯を含む最大幅(下駄のみ適用)(cm)	備考	挿図
S K 814	樽蓋?	-	江戸時代	29.9 (残存値)	-	0.9	-	刻印(焼印)あり。破損。	第142図1
S K 814南上層	樽	-	江戸時代	27.1	12.2 (残存値)	1.2	-	刻印(焼印)あり。部分のみ。	第142図2
S K 814	樽蓋	-	江戸時代	18.8 (残存値)	-	2.1	-	刻印(焼印)あり。一部破損。	第142図3

第35表 出土金属製品一覧表

出土地点	器種	時代	最大長(径)・a (cm)	最大幅・b (cm)	高さ(厚さ)・c (cm)	d (cm)	備考	挿図
S K 814	煙管	江戸時代	羅字10.3 吸口12.9	羅字0.9 吸口0.6	羅字0.8 -	- 吸口0.4	八角の水口煙管影金が施されている。雁首が欠損。	第143図1
表採	煙管	19世紀	全長20.2 雁首5.4 吸口8.2	雁首1.1 吸口1.0	雁首1.8 -	雁首1.1 吸口0.8	完整。	第143図2
S K 814南上層	煙管	19世紀	雁首7.7 吸口8.9	雁首1.4 吸口1.0	雁首1.6 -	雁首1.1 吸口0.4	羅字が欠損。	第143図3
S D 458	煙管(雁首)	18世紀前半	4.8	1.3	2.4	0.6 (推定値)	小口部が変形。	第143図4
S K 894	煙管	18世紀後半以降	全長12.6 吸口8.0	羅字1.4 吸口1.7	-	吸口0.9 (残存値)	大型の煙管の吸口と羅字が一部残存。口付部分が破損。	第143図5
表採	煙管(雁首)	18世紀前半?	7.3	1.6	2.8	0.6	火皿に人為的な穴がある。火皿に接合痕。	第143図6
S B 1026 P 15	煙管(雁首)	18世紀前半?	5.7	1.6	2.8	0.9	火皿に接合痕。	第143図7
第2トレンチ	煙管(雁首)	17世紀後半?	5.0	1.7	2.3	0.8	火皿に人為的な穴がある。火皿に接合痕。	第143図8
S K 825	煙管(吸口)	18世紀後半	3.6	0.6	-	0.2		第143図9
MC 56 II 層	煙管(吸口)	18世紀前半	6.1	0.9	-	0.5		第143図10
北側調査区 II 層	煙管(吸口)	19世紀	4.8	0.8	-	0.3		第143図11
MC 56 V 層	煙管(吸口)	18世紀前半	5.4	0.9	-	0.4		第143図12
第11トレンチ	簪	-	11.4	0.6	0.2	-	耳かきとしても使用。	第143図13
表採	耳かき	江戸時代	12.3	0.5	0.4	-		第143図14
S X 900-2	灯明皿	江戸時代	①12.9 (取っ手含む) ②10.8 (口径)	5.2	1.9	-		第144図1
S X 900-3	灯明皿	江戸時代	11.6	5.6	2.1	-		第144図2
S X 900-4	灯明皿	江戸時代	①11.4 (取っ手含む) ②10.1 (口径)	-	1.5	-		第144図3
S K 894	型押器	江戸時代	8.3	4.6 (残存値)	1.3	-	欠損。	第144図4
S K 814	鍋底	江戸時代	5.4 (残存値)	5.0 (残存値)	0.3	-		第144図5
MC 53・54 V 層	鍋口縁部	江戸時代	全長8.8 (残存値) 口径13.4 (推定値)	4.8 (残存値)	0.5	-	外耳あり。	第144図6
MC 56 II・III 層	鍋口縁部	江戸時代	全長10.2 (残存値) 口径18.2 (推定値)	3.8 (残存値)	0.2	-	錆化激しい。	第144図7
S K 814南下層	灯火具?	江戸時代	8.3 (残存値)	4.9 (残存値)	取手0.8 皿0.4	-	錆化激しい。	第145図1
表採	杓子	-	18.9 (残存値)	6.4 (残存値)	取手0.3 皿0.1	-	皿部分が変形。	第145図2
S K 814	火箸	江戸時代	24	1.1	0.5	-		第145図3
MC 54 V 層	火箸	江戸時代	23.1	0.6	0.4	-	変形。	第145図4
S K 813	鍋の取っ手?	江戸時代	10.5 (残存値)	-	0.5	-		第145図5
S K 814	灯火具	江戸時代	8.9	8.6	0.8	-	変形。	第145図6
S K 814	鏝	江戸時代	12.2	3.5	0.4	-	変形。	第145図7
S K 813	釘	江戸時代	12.4	1.3	0.7	-		第145図8
S K 430	釘	江戸時代	6.8	0.8	0.4	-		第145図9
表採	釣針	-	3.1	1.1	0.1	-		第145図10
南側調査区 IV 層	釣針	江戸時代	2.7	1.8	0.3	-		第145図11
S K 814	鉄鏝	江戸時代	8.6	1.5	0.9	-		第146図1
第2トレンチ	小柄鞘	江戸時代	9.8	1.4	0.5	-		第146図2
S K 813	小柄刃	江戸時代	10.6 (残存値)	0.9 (残存値)	0.3	-	錆化激しい。	第146図3
表採	小柄鞘	江戸時代	9.7 (残存値)	1.3	0.5	-		第146図4
S K 430	家具の一部	江戸時代	13.9 (残存値)	1.7 (残存値)	0.2	-		第146図5
第3トレンチ	小柄鞘	江戸時代	10.0 (残存値)	1.7	0.5	-		第146図6
S K 616	小柄刃	江戸時代	18.6 (残存値)	1.3 (残存値)	0.3	-	錆化激しい。	第146図7
南側調査区表採	鉄砲玉	江戸時代	1.3	-	-	-		第146図8
D区 II 層	彫金	江戸時代	3.2	1.2	0.2	-	荒蝕の彫金。	第146図9
第10トレンチG区	目釘	江戸時代	4.1	1.6	0.7	-	鋼の彫金。	第146図10
S K 814南下層	切羽	江戸時代	3.9	2.4	0.1	-	彫金が施されている。	第146図11
第11トレンチ	切羽	江戸時代	4.2	2.5	0.1	-		第146図12
S K 825	金具	江戸時代	8.9	6.4	1.4	-		第146図13

第36表 出土銭貨一覧表

出土地点	種類	径 (cm)	重量 (g)	備考	挿図
第1トレンチ	寛永通宝	2.5	2.6		第147図1
N区表採	寛永通宝	2.4	3.5		第147図2
表採	寛永通宝	2.5	2.2		第147図3
S K940	寛永通宝	2.2	4.1		第147図4
S K825	寛永通宝	2.4	3.1		第147図5
S K813	寛永通宝	2.4	3.2		第147図6
第3トレンチ	寛永通宝	2.5	3.1		第147図7
O区表採	寛永通宝	2.3	2.3		第147図8
O区表採	寛永通宝	2.4	3.7		第147図9
表採	寛永通宝	2.4	3.4		第147図10
第2トレンチ	寛永通宝	2.4	1.9		第147図11
S D458	寛永通宝	2.5	2.7		第147図12
第1トレンチ	寛永通宝	2.5	2.5		第147図13
表採	寛永通宝	2.3	1.6		第147図14
第2トレンチ	寛永通宝	2.3	2.2		第147図15
表採	寛永通宝	2.4	4.6		第147図16
北側調査区Ⅱ層	寛永通宝	2.4	2.8		第147図17
第3トレンチ	寛永通宝	2.3	3.8		第147図18
北側調査区Ⅱ層	寛永通宝	2.4	1.8		第147図19
MA56・57Ⅳ層	寛永通宝	2.4	2.1		第147図20
第2トレンチ	寛永通宝	2.3	2.2		第147図21
第2トレンチ	寛永通宝	2.4	3.3		第147図22
MC56Ⅱ層	寛永通宝	2.4	3		第147図23
表採	寛永通宝	2.5	2.4		第147図24
G区表採	寛永通宝	2.4	1.9		第147図25
第11トレンチ	寛永通宝	2.3	1.8		第147図26
B区Ⅰ層	寛永通宝	2.3	3.2		第147図27
N区Ⅰ層	寛永通宝	2.3	1.8		第147図28
Z区表採	寛永通宝	2.4	2.3		第147図29
G区表採	寛永通宝	2.2	1.7		第147図30
第11トレンチ	寛永通宝	2.4	3.1		第147図31
第11トレンチ	寛永通宝	2.4	2.2		第147図32
S K814	寛永通宝	2.3	2.0		第147図33
S B810P28	寛永通宝	2.3	1.4		第147図34
表採	寛永通宝	2.3	3.2	秋田銭(川尻銭)。元文3～延享2年(1738～1745)	第147図35
北側調査区Ⅱ層	寛永通宝	2.5	2.5	寛文8年(1688)正字文。背に「文」の字あり。	第147図36
北側調査区Ⅰ層	開元通宝	2.4	2.2	唐銭。武徳4年(621)	第147図37
S D913	太平通宝	2.4	1.9	宋銭。北宋 太平興国元年(976)	第147図38
S K424	天聖元宝	2.3	1.9	宋銭。北宋 天聖元年(1023)	第147図39
S K813	明道元宝?	2.3	2	篆の明道元宝の可能性大	第147図40
A区Ⅱ層	皇宋通宝	2.4	2	宋銭。篆。北宋 宝元2年(1039)	第147図41
W・X区表採	元祐通宝	2.3	2.4	宋銭。篆。北宋 元祐元年(1086)	第147図42
S K814	洪武通宝	2.2	2	明銭。洪武元年(1368)	第147図43
S K813	元□通宝	2.4	2.5	元祐通宝か?	第147図44
第11トレンチ	□楽通宝	2.5	2.4	永樂通宝か?	第147図45

第5章 自然科学的分析

第1節 古川堀反町遺跡の自然科学的分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

古川堀反町遺跡（秋田県秋田市千秋明德町1-9所在）は、江戸時代（17-19世紀中心）の武家屋敷跡で、旧旭川（古川）の河川跡に由来する湿地帯を埋めた造成地の上に当時の生活面が確認されている。今回の発掘調査の結果、建物跡・柱列・溝跡・廃棄土坑などの遺構や、陶磁器・木製品・木簡などの遺物が検出され、出土した木簡より秋田藩家老職が居住していたことが明らかとなっている。

本報告では、廃棄土坑や溝跡とされる各遺構から出土した種実や動物・貝類の同定を実施し、当時の家老職屋敷における食糧資源や植栽樹木等に関する資料を得る。

I 種実同定

1 試料

試料は、廃棄土坑（SK）や溝跡（SD）とされる各遺構から検出された種実遺体26試料である。各試料の詳細は、結果とともに第39表に記す。

2 分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、同定可能な種実を抽出する。現生標本および原色日本植物種子写真図鑑（石川、1994）、日本植物種子図鑑（中山ほか、2000）等との比較対照から、種実の種類と部位を同定し、個数を数える。分析後の種実遺体等は、種類ごとに容器に入れて保管する。液浸個体は70%程度のエタノール溶液を入れて保管する。

3 結果

出土種実分類群一覧を第38表に、種実同定結果を第39表に示す。

不明の種実が14個確認された。種実以外では、試料番号20から焼物の破片3個が確認された。また、裸子植物6分類群39個、被子植物30分類群234個、計273個の種実が検出された他に、部位・種類試料番号1から貝類や魚類の鱗などが、試料番号2から動物の骨片が確認された。これらの動物遺存体の種類等の詳細は、後述する骨・貝類同定に含めて報告する。

検出された種実は、木本19分類群（針葉樹のイチヨウ、マツ属複維管束亜属、マツ属、スギ、アスナロ、ヒノキ科、広葉樹のオニグルミ、クリ、ウメ、スモモ、モモ、ナシ亜科、アオツヅラフジ、サンショウ属、ブドウ属、グミ属、カキノキ属、エゴノキ属、クサギ）、草本17分類群（イネ、エノコログサ属、イネ科、ホタルイ属、カヤツリグサ科、サナエタデ近似種、タデ属、ソバ、ヤマゴボウ属、マメ類、エゴマ、ナス科、メロン類、トウガン、ヒョウタン類、カボチャ属、オナモミ属）で、渡来種とされるイチヨウ、ウメ、スモモ、モモ、イネ、ソバ、マメ類、エゴマ、メロン類、トウガン、ヒョウタン類、カボチャ属が確認された。

種実遺体の状態は比較的良好であるが、イチヨウ、クリは全て破片で、オニグルミには頂部欠損個

体が確認された。また、オニグルミ、ウメ、モモ、イネの一部とマメ類は炭化していた。以下に、本分析にて得られた種実の形態的特徴などを、木本、草本の順に記す。

<木本>

・イチョウ (*Ginkgo biloba* L.) イチョウ科イチョウ属

種子の破片が検出された。灰褐色、完形ならば長さ2cm、幅1.5cm、厚さ1.3cm程度の広楕円体。破片の大きさ1.5cm程度。左右の縁は稜をなし、両端は短く尖る。種皮は堅く、表面は粗面。

・マツ属複維管束亜属 (*Pinus* subgen. *Diploxylon*) マツ科

球果と種鱗の破片が検出された。灰-黒褐色、木質で円錐状広卵体。長さ2.5-4cm、径1.5-3cm程度。長楕円状矩形の種鱗が、覆瓦状、螺旋状に密着する。種鱗の外表面は、不規則な四角形または五角形で肥厚し、横の稜線とその中央部に短く突起する臍点がみられる。

・マツ属 (*Pinus*) マツ科

種子が検出された。灰褐色、非対称半狭楕円体でやや扁平。長さ3mm、幅2.5mm、厚さ1.5mm程度。側面は稜をなし、頂部、基部はやや尖る。倒三角形で膜質の翼を欠損する。種皮は木質で、表面は粗面。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L. f.) D.) スギ科スギ属

球果が検出された。灰褐色、球体、径1cm程度。表面には木質の楕状楔形の鱗片が20-30個配列する。球果鱗片は、大きさ5.5mm程度の楕状楔形で内側に湾曲し、基部は細まる。頂部には4-6個の歯牙がある。鱗片の表面には数本の縦隆条がある。

・アスナロ (*Thujaopsis dolabrata* Sieb. et Zucc.) ヒノキ科アスナロ属

枝条が検出された。灰褐色、鱗片状の葉が十字対生して茎を包む。葉は径2-4mm程度。葉側部は半卵形で内曲し、面部は倒卵形で、中肋に凹みがある。下面は中肋と縁の間は気孔溝となり白色を呈す。

・ヒノキ科 (Cupressaceae)

種子が検出された。灰褐色、狭-広卵体でやや扁平。長さ2.5mm、幅1.5mm、厚さ1mm程度。頂部に短い突起があり、両側に膜状の翼がつく。種皮はやや平滑で、表面には数個の細長い樹脂腺がある。

・オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim.) Kitamura) クルミ科クルミ属

核の完形と破片が検出された。灰褐色、一部炭化しており黒色。広卵体で頂部が尖る。長さ3.5-4cm、幅3cm程度。1本の明瞭な縦の縫合線上に沿って半分に割れた個体や、縫合線上に齧歯類(ネズミなど)によると考えられる食痕(円形の孔)が認められる。また、頂部を欠損した個体や、表面に火を受け黒く炭化している個体がみられる。核は木質、硬く緻密で、表面には縦方向に溝状の浅い彫紋が走り、ごつごつしている。内部には子葉が入る2つの大きな凹みと隔壁がある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

果実の破片が検出された。灰褐色。完形ならば径2-3cm程度の三角状広卵体で、一側面は扁平で反対面はわずかに丸みがある。検出された破片は、表面の縦筋模様に沿って割れており、大きさは2.5cm程度。果皮表面は平滑で、ごく浅く微細な縦筋がある。内面には内果皮(いわゆる渋皮)がある。基部の全面を占める着点は、灰褐色でざらつく。

・ウメ (*Prunus mume* (Sieb.) Sieb. et Zucc.) バラ科サクラ属

核(内果皮)が検出された。灰褐色、炭化個体は黒色。径1.5cm程度の広楕円体でやや扁平。頂部はやや尖り、基部は切形で中央部に湾入した臍がある。1本の明瞭な縦の縫合線が発達し、縫合線上に齧歯類(ネズミなど)によると考えられる食痕(円形の孔)が認められる。内果皮は厚く硬く、表面には円形の小凹点が分布する。

・スモモ (*Prunus salicina* Lindley) バラ科サクラ属

核(内果皮)が検出された。灰褐色、レンズ状広楕円体でやや偏平。径1.3cm、厚さ9mm程度。基部は丸く臍点がある。1本の明瞭な縦の縫合線が発達する。内果皮は厚く硬く、表面にはごく浅い凹みที่ไม่規則にみられる。

・モモ (*Prunus persica* Batsch) バラ科サクラ属

核(内果皮)が検出された。灰褐色、炭化個体は黒色。広楕円体でやや偏平。長さ2.5-3cm、幅2cm、厚さ1.5cm程度。頂部はやや尖り、基部は切形で中央部に湾入した臍がある。1本の明瞭な縦の縫合線に沿って半分に割れた個体や、縫合線上に齧歯類(ネズミなど)によると考えられる食痕(円形の孔)が認められる。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の深い凹みがあり、全体として粗いしわ状にみる。表面が磨耗した個体もみられる。

・ナシ亜科 (Subfam. Maloideae) バラ科

種子が検出された。黒褐色、非対称な広倒卵体で偏平。長さ7.5-8.5mm、幅5-6mm、厚さ2mm程度。背面は丸みがあり、腹面は平ら。表面はやや平滑で光沢は弱い。

・アオツツラフジ (*Cocculus orbiculatus* (L.) DC.) ツツラフジ科アオツツラフジ属

核が検出された。灰褐色、偏円体でやや偏平。径6mm、厚さ3mm程度。中央は大きく凹みみ、周囲の隆起一端が開いた馬蹄形。基部は切形。基部を除く縁には、隆条が長軸に対し直角に列生する。核は硬く厚く、表面は粗面。

・サンショウ属 (*Zanthoxylum*) ミカン科

核(内果皮)が検出された。黒褐色、倒卵体でやや偏平。径4mm、厚さ1.5mm程度。基部に斜切形の臍がみられる。内果皮は厚く硬く、表面には浅く細かな網目模様がみられる。

・ブドウ属 (*Vitis*) ブドウ科

種子が検出された。黒褐色、広倒卵体、側面観は半広倒卵形。基部の臍の方に向かって細くなり、嘴状に尖る。径4-5mm程度。種子背面にさじ状の凹みがある。腹面には中央に縦筋が走り、その両脇には楕円形の深く凹みんだ孔が存在する。種皮は薄く硬く、断面は柵状。

・グミ属 (*Elaeagnus*) グミ科

種子が検出された。淡灰褐色、線状長楕円体で両端は尖る。長さ8mm、径4mm程度。種子は堅く、8個の縦隆条と縦溝が交互に配列する。

・カキノキ属 (*Diospyros*) カキノキ科

種子が検出された。黒褐色、非対称な倒皮針形で偏平。長さ1.5cm、幅7mm、厚さ1.5mm程度。基部が嘴状にやや尖る。背面は曲線状、腹面は直線状で稜をなす。種皮は薄く硬く、表面はざらつく。

・エゴノキ属 (*Styrax*) エゴノキ科

種子が検出された。灰-黒褐色、卵体。長さ1cm、径6mm程度。頂部はやや尖り、頂部から基部に

かけて3本程度の太い縦溝が走る。基部は斜切形で、灰褐色の着点がある。種皮は厚く硬く、断面は柵状。表面には微細な粒状網目模様があり、ざらつく。

・クサギ (*Clerodendron trichotomum* Thunb.) クマツヅラ科クサギ属

核(内果皮)が検出された。灰褐色で広卵体、側面観は三日月形。長さ6mm、幅5mm、厚さ3mm程度。背面は丸みがあり、腹面は平らで腹面方向にやや湾曲する。腹面の一端には裂け目状の発芽口がある。内果皮は厚く硬い。背面には大きな網目模様があり、腹面表面はやや平滑。

<草本>

・イネ (*Oryza sativa* L.) イネ科イネ属

胚乳と穎(果)が検出された。胚乳は炭化しており黒色、長楕円形でやや偏平。長さ4.5-5.5mm、幅2-3mm、厚さ1.5mm程度。基部一端に胚が脱落した斜切形の凹部がある。表面はやや平滑で、2-3本の隆条が縦列する。表面に穎(果)の破片が付着している個体もみられる。穎は淡褐色、炭化個体は黒色。長さ7mm、幅4mm、厚さ2mm程度。基部に斜切状円柱形の特徴的な果実序柄がある。果皮は薄く、表面には微細な顆粒状突起が縦列する。

・エノコログサ属 (*Setaria*) イネ科

果実が検出された。淡-黄褐色、狭卵-半偏球体でやや偏平。長さ2.5mm、径1.7mm程度。果皮は薄く柔らかく、表面には微細な網目模様が縦列する。

・イネ科 (Gramineae)

果実が検出された。上述のイネ、エノコログサ属とは形態上差異のある複数の種を一括した。淡-黄褐色、半挟卵体でやや偏平。長さ2-3.5mm、径1-1.5mm程度。穎は薄く柔らかくて弾力がある。表面には微細な網目模様が縦列する。

・ホタルイ属 (*Scirpus*) カヤツリグサ科

果実が検出された。灰褐色、片凸レンズ状の広倒卵体。長さ2mm、径1.5mm程度。果実頂部は尖る。背面はやや高く正中線上に稜がある。基部から伸びる逆刺を持つ髭状の腕が残る。果皮表面は光沢があり、不規則な波状の横皺状模様が発達する。

・カヤツリグサ科 (Cyperaceae)

果実が検出された。上述のホタルイ属とは形態上差異のある複数種を一括した。淡-黒褐色、レンズ状または三稜状倒卵体。径1.5-2.5mm程度。頂部の柱頭部分がわずかに伸び、基部は切形。果皮表面には微細な網目模様がある。

・サナエタデ近似種 (*Polygonum cf. lapathifolium* L.) タデ科タデ属

果実が検出された。黒褐色、円形で偏平な二面体。径2mm程度。両面中央はやや凹みむ。頂部はやや尖り、2花柱を欠損する。基部からは花被の脈が伸び、花被の先は2つに分かれ反りかえる。果実表面は平滑で光沢がある。

・タデ属 (*Polygonum*) タデ科

果実が検出された。上述のサナエタデ近似種とは形態上差異のある複数種を一括した。黒褐色、長さ2.5mm、径1.5mm程度の丸みのある三稜状卵体で、果皮表面はやや平滑で光沢が強い、ハナタデ (*Polygonum caespitosum* Blume subsp. *yokusaianum* (Makino) Danser) またはイヌタデ (*Polygonum longisetum* De Bruyn) に似る個体や、黒褐色、長さ3mm、径2mm程度両凸レンズ状

広卵体で、果皮表面には明瞭な網目模様があり、両面正中線上に鈍稜がある、ヤナギタデ (*Polygonum hydropiper* L.) の果実に似る個体が確認された。

・ソバ (*Fagopyrum esculentum* Moench) タデ科ソバ属

果実が検出された。灰褐色、三稜状広卵体。長さ6-7mm、径4-5mm程度。三稜と頂部は鋭く尖り、面の部分は凹みむ。基部の萼片が残存する個体もみられる。果皮表面はやや平滑。

・ヤマゴボウ属 (*Phytolacca*) ヤマゴボウ科

種子が検出された。黒色、両凸レンズ状腎円形。径3.5-4mm、厚さ1.5mm程度。一端が大きく凹み、淡褐色の臍がある。種皮は平滑。

日本に生育するヤマゴボウ属は、マルミノヤマゴボウ、ヤマゴボウ、明治時代に渡来した北米原産の帰化植物であるヨウシュヤマゴボウの3種がある。今回検出された種子表面は平滑であることから、表面に細線状隆条が臍を取り囲むように同心円状に配列するマルミノヤマゴボウとは区別される。

・マメ類 (Leguminosae) マメ科

種子が検出された。炭化し黒色を呈す。長さ4-6mm、径3.5-4mm程度のやや角張った楕円体のタイプと、長さ8-9mm、幅5mm、厚さ3mm程度のやや偏平な長楕円体のタイプが確認された。焼け膨れ、表面が崩れている等遺存状態は悪いが、一部には子葉の合わせ目上にササゲ属 (*Vigna*) の特徴である長楕円形で縁が隆起する細長い臍が確認された。種皮表面はやや平滑。

遺跡出土の炭化マメ類は、子葉内面の幼痕や初生葉の形態から、ササゲ、アズキ、リョクトウなどを判別する試みが行われている (吉崎, 1992)。一方、野生種との雑種も多いため、形態のみから現在の特定の種類に比定することは難しいとも考えられている (南木, 1991; 南木・中川, 2000など)。最近では、DNA分析による判別が開発されつつある (矢野, 2002)。以上のことから、今回検出されたササゲ属を含むマメ類は、少なくとも2種類以上の複数種が利用されていたことは推定されるが、種類の特定については議論の段階にあるため、今後の資料の蓄積を待ち検討したいと考える。

・エゴマ (*Perilla frutescens* (L.) Britt. var. *japonica* Hara) シソ科シソ属

果実が検出された。茶褐色、倒広卵体。径1.8-2.5mm程度。基部には大きな臍点があり、舌状にわずかに突出する。果皮はやや厚く硬く、表面は浅く大きく不規則な網目模様がある。

・ナス科 (Solanaceae)

種子が検出された。淡灰褐色、歪な腎臓形で偏平。長さ1.7mm、幅2mm程度の個体と、長さ3mm、幅3.5mm程度と大型の個体が見られ、大型種子は栽培種に由来する可能性が高い。種子基部のくびれた部分に臍がある。種皮は薄く、表面には微細な星型状網目模様が臍を中心として同心円状に発達する。

・メロン類 (*Cucumis melo* L.) ウリ科キュウリ属

種子が検出された。淡灰褐色、狭倒皮針形で偏平。長さ6.5-8mm、幅3-4mm程度と、藤下 (1984) の基準によるマクワ・シロウリ型の中粒種子 (長さ6.1-8mm) に該当する。基部に倒「ハ」の字形の凹みがある。表面は比較的平滑で、縦長の細胞が密に配列する。

・トウガン (*Benincasa hispida* (Thunb. ex Murray) Cogn.) ウリ科トウガン属

種子が検出された。淡灰褐色、倒卵体でやや偏平。長さ1.2cm、幅7.5mm、厚さ2mm程度。基部は切形で楕円形の臍がある。種子両面の全周の縁には段差があり薄くなる。種皮は厚くやや堅い。

・ヒョウタン類 (*Lagenaria siceraria* Standl.) ウリ科ヒョウタン属

種子が検出された。淡灰褐色、倒広皮針形でやや偏平。長さ1.4cm、幅7mm、厚さ1.5mm程度。頂部は角張り、基部は切形で臍と発芽口がある。種子表面は粗面で、両面外縁部の幅広く低い稜に2本の縫線がみられる。

・カボチャ属 (*Cucurbita*) ウリ科カボチャ属

種子が検出された。淡灰褐色、倒卵形で偏平。長さ1.4cm、幅8mm、厚さ1mm程度。基部には切形の大きな臍がある。両面の全周にある縁は明瞭で、段差があり薄くなる。種皮は厚くやや堅く、表面は粗面。

藤枝(1995)によると、ニホンカボチャは、天文年間(1532~55)に日本国内に持ち込んだのが最初とされ、京都に伝わったのは17世紀後半、江戸には明和年間(1764~72)になってからとされる。なお、現在市場に出回っているセイヨウカボチャは、明治時代初期に渡来したとされる。

・オナモミ属 (*Xanthium*) キク科

総苞が検出された。灰褐色、楕円体。長さ1.5cm、径8mm程度。頂部はやや尖り、長さ2mm程度の太い嘴2個がある。表面には長さ0.5-1mm程度の刺が散在し、刺先端部の鉤状に曲がった部分を欠損する。

4 考察

今回同定を行った種実遺体分類群は、渡来種を含む有用植物が多いことが特徴である。イチョウ、ウメ、スモモ、モモ、イネ、ソバ、マメ類、エゴマ、メロン類、トウガン、ヒョウタン類、カボチャ属は渡来種とされ、全検出個数の約半数(46%)を占める。針葉樹のイチョウは、有用材で植栽される他、種子(銀杏)が食用されるが、検出された種子は全て破片の状態であった。広葉樹のウメ、スモモ、モモは、観賞用の他、果実などが食用、薬用等に広く利用され、ウメ、モモの一部は火を受け炭化している。穀類のイネ、ソバ、マメ類は、胚乳や種子が食用され、イネの一部やマメ類は炭化している。エゴマは果実が食用や油料に利用される。メロン類、トウガン、カボチャ属は果実が食用に、ヒョウタン類は果実が食用や容器等に利用される。

その他の種類では、マツ属複雑管束亜属、マツ属、スギ、アスナロ、ヒノキ科などの針葉樹は、本遺跡周辺の山野にも自生するが、有用材で庭園等に植栽されていた記録が多い点(飛田、2002など)を考慮すると、本遺跡周辺域に植栽されていたものに由来する可能性が高い。オニグルミ、クリ、アオツラフジ、ナシ亜科、サンショウ属、ブドウ属、グミ属、カキノキ属、エゴノキ属、クサギなどの広葉樹は、周辺の山野や森林の林縁部に自生可能であり、現在でも普通にみられる種類である。しかしながら、これらの多くは有用植物として栽培されたり、観賞用として植栽される場合があることから、当時これらを栽培・利用していた可能性がある。オニグルミ、クリは、堅果が食用されるが、検出されたクリの果実は全て破片の状態、オニグルミの核には打撃痕と思われる頂部破損個体や一部炭化した個体がみられる。また、ナシ亜科、ブドウ属、グミ属、カキノキ属には種実が食用可能な種を含む。サンショウ属には果実が香辛料や薬用に利用される種(サンショウ)を含み、エゴノキ属には果実が洗濯や魚採に利用されてきた種(エゴノキ)を含む。

一方、エノコログサ属、イネ科、ホタルイ属、カヤツリグサ科、サナエタデ近似種、タデ属、ヤマゴボウ属、ナス科、オナモミ属などの草本類は、人里近くを開けた草地を形成する、いわゆる人里植

物に属する種類を含むことから、調査区付近に生育していたものに由来すると思われる。エノコログサ属を含むイネ科、ヤマゴボウ属、大型種子が確認されたナス科などは、野生品の採取、在来種の栽培、渡来種の栽培など、種実や種実以外の部位の利用形態が考えられるが（青葉、1991）、今後種類の細分化が可能になれば詳細な検討が可能となるであろう。

これらの有用植物を多く含む種実が、ゴミ穴や溝跡とされる各遺構から、陶磁器・木製品・木札・動物遺存体などの遺物と共に検出された点や、破片（イチョウ、クリ、オニグルミの一部）および一部炭化（オニグルミ、ウメ、モモ、イネ、マメ類）した状態である点を考慮すると、本遺跡近辺における栽培、植栽や、持ち込まれ食用などに利用された後、廃棄された生活残渣であることが推定される。

II 骨貝同定

1 試料

骨貝同定を行う試料は、S D01、S D458、S K712、S K430、S K456、S K616、S K675、S K813、S K894、S K940から出土した骨である。同一遺構から複数点数採取あれている試料もみられ、試料番号1-25の番号が付されている。なお、1試料中に複数点の骨片が含まれている場合があり、総点数500点以上におよぶ。

この他、種子同定を行った試料でS K813およびS D01-106の中に骨等がみられたので、これも併せて同定した。

2 分析方法

一部の試料については、一般工作用接着剤を用いて接合を行う。試料を肉眼およびルーペで観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。計測は、デジタルノギスを用いて測定する。なお、同定および解析には、金子浩昌先生に協力をお願いした。

3 結果および考察

検出された分類群は、腹足綱2種類（サザエ類・アカニシ）、二枚貝綱4種類（イタヤガイ類・イシガイ・ヤマトシジミ・ハマグリ）、軟骨魚綱1種類（サメ類）、硬骨魚綱12種類（マイワシ・イワシ類・サケ類・タラ類？・ボラ類・フサカサゴ類・ハウボウ類・ホッケ類・マアジ・マダイ・タイ類・カレイ類）、鳥類5種類（ニワトリ・ヒシクイ・カモ類・ハシブトガラス・カラス類）、哺乳類8種類（ネズミ類・クマネズミ類・ネコ・キツネ・イヌ・ニホンジカ・ニホンカモシカ・ウシ）である（第40表）。同定結果を第41・42表に示し、以下に試料ごとに産状を述べる。

（1）試料別出土状況

・試料番号1（S D01-160）

ネコの脳頭蓋である。全長83.26mm、幅61.22mmを計る。頭頂骨が破損する。

・試料番号2（S K813）

キツネの左下顎骨である。ほぼ完存する。全長98.06mmを計り、犬歯、第2-4前臼歯、第1-2後臼歯を残す。第1後臼歯は、歯冠長14.13mm、歯冠幅5.81mmを計る。

歯に咬耗をみない。

・試料番号3 (S A810P24)

ウシの右基節骨である。ほぼ完存する。全長60.41mm、近位骨端幅32.38mm、遠位骨端幅30.00mmを計り、成体とみられる。日本の在来ウシである鹿児島県見島ウシの大きさにほぼ一致する。

・試料番号4 (S D01-125)

ニホンカモシカの左橈骨・左中手骨である。2点ともほぼ完存する。橈骨は、全長201mm、近位骨端幅37.27mm、遠位骨端幅32.37mmを計る。雌個体の可能性がある。左中手骨は、全長138.59mm、近位骨端幅28.14mm、遠位骨端幅32.39mmを計る。近位骨端面に特殊な加工切痕をみる。骨端中央に陥没痕がみられ、径5.5mm、深さ3.54を計測する。また骨端面上に細切痕をみる。この加工痕のもつ意味は不明である。

・試料番号5 (S D01)

ウシの左橈骨である。両端を欠損し、骨体部が残るのみである。骨体幅を基準として原形を推定すると全長275.0mm前後とみられ、鹿児島県見島に棲息するウシに近似する大きさである。

・試料番号6 (S D01)

サザエ類の殻柱部、ボラ類の右間鰓蓋骨、魚類の擬鎖骨、ニワトリの胸骨・左尺骨・左大腿骨、ネコの左下顎骨・右上顎犬歯が確認される。ニワトリの胸骨は接合試料である。ボラ類の右間鰓蓋骨は、体長35cmの個体である。ほぼ完存する間鰓蓋骨がありながら、椎骨など検出できなかった。

ニワトリは、胸骨全長117.15mm、左尺骨全長73.81mm、左大腿骨全長93.51mmを計る。また、左尺骨近位部、左大腿骨遠位部の後面に解体切痕がみられる。

ネコでは、完存する左下顎骨が全長56.04mmを計り、第1後臼歯の歯冠長6.55mm、歯冠幅2.97mmを計る。試料番号1の頭骨とほぼ一致するサイズであるが、同一個体か確認できない。また、右上顎犬歯も頭骨の犬歯歯槽に一致する大きさである。歯冠長4.17mm、歯冠幅3.07mmを計る。

・試料番号7 (S K940)

ヒシクイの胸骨、イヌの左寛骨である。2点とも接合試料である。ヒシクイの胸骨は、大型の胸骨片である。全長は160mm前後に達するとみられる。胸骨柄とそれにつづく後胸骨体、胸骨稜の部分を残す。両側は切断、胸骨稜も縁辺は切られ、鋭い刃物で削られるように切られた切痕をみる。

イヌの左寛骨は、坐骨・恥骨部が残り、茎部と腸骨を欠損するが、自然破損かどうかは不明である。坐骨の遠位骨端の骨化が不完全なので若い個体である。中型犬以上の大きさである。

・試料番号8 (S K675)

ニワトリの左大腿骨である。全長79.81mmを計る。近位骨端と遠位骨端後面に解体切痕がみられる。

・試料番号9 (S K438)

アカニシである。接合試料であり、他に破片がみられる。殻頂と殻柱部を残して破損する。殻高100mm前後を計る。

・試料番号10 (S K813)

サメ類の歯・椎骨、マイワシの左角骨・椎骨・尾部棒状骨、フサカサゴ類の左右翼耳骨・副蝶形骨・左前上顎骨・右歯骨・左方骨・左前鰓蓋骨・左右主鰓蓋骨・腹椎・尾椎・擬鎖骨・近位担鰭棘、マダイの左右主上顎骨・左角舌骨・右主鰓蓋骨・左右後側頭骨・腹椎・尾椎・近位担鰭棘・臀鰭第1血管間棘、タイ類の左翼耳骨、マアジの腹椎・尾椎、ホッケ類の腹椎、カレイ類の左角骨、フサカサゴ類

の前鰓蓋骨、ホウボウ類の前頭骨・頭骨、タラ類?の前上顎骨、サケ類の歯・椎骨、魚類の椎骨・鰭棘・部位不明破片、ニワトリの切歯骨・左上腕骨・左中足骨、カラス類の左手根骨・中手骨、鳥類の頸椎・部位不明破片、クマネズミ類の右下顎骨・下顎切歯・腰椎・尾椎・右肋骨・右上腕骨・右大腿骨・基節骨、ネズミ類の胸椎・左大腿骨、イヌの腰椎などが確認される。

この内、マイワシの椎骨、フサカサゴ類の左前上顎骨・右歯骨、タイ類の左翼耳骨、カレイ類の左角骨、ホウボウ類の前頭骨、タラ類?の前上顎骨、サケ類の椎骨、魚類の椎骨・鰭棘・部位不明破片、鳥類の頸椎・部位不明破片、クマネズミ類の右上腕骨、不明破片の中には、焼骨がみられる。またサメ類の椎骨、フサカサゴ類の尾椎、サケ類の椎骨は切断されている。

マイワシの椎骨は、椎体長3.23mm・椎体径2.87mm前後が19点、椎体長4.15mm・椎体径4.10mm前後が27点みられる。

フサカサゴ類では、左右翼耳骨が同一個体とみられ、頭骨長60mm前後推定、体長22cm前後が推定される。副蝶形骨は、近・遠端を破損する。前上顎骨は、被熱破損し、近心部が残る。歯骨も被熱破損し、近心部が残る。左方骨は、全長8.15mmを計り、最も小さい個体のものである。前鰓蓋骨は、破損しているが、全長60mm前後になる。主鰓蓋骨は、左側全長25.08mm、右側全長23.76mmとほぼ同大の個体であるが、別種の可能性もある。腹椎1点と尾椎骨2点は、同一個体で、体長22cm個体に一致する。半分欠損した尾椎は、刃物で切断されたものとみられ、上記尾椎骨とほぼ同大個体である。近位担鰭骨は、上記椎骨とほぼ同大の担鰭骨と思われる。

マダイでは、左上上顎骨が破損する標本であるが、現状から全長25mm前後、体長18cm前後が推定される。右側左上上顎骨は、破損するが、左側よりもさらに小さい個体である。後側頭骨は、左側全長12.94mmであり、体長15.3cm前後の個体とみられる。臀鰭第1血管間棘は、遠位骨端幅4.65mmを計る。椎骨は、椎体長5.25~5.45mm前後で体長15.3cm、椎体長4.52~4.68mmで体長13.4cm、椎体長2.63mmで体長7cmが推定されるものがみられる。

マアジは、体長17cm前後のもの、体長26cm前後の大形個体がみられる。ホッケ類の腹椎は、椎体長3.16mmを計る。ホウボウ科は、右側前頭骨と前頭骨を除き、焼骨が多い。前頭骨は形を保っていたが、細片となっている標本が採取されている。硬質の骨格であったために保存されたと思われる。腹椎は椎体長4.03mmを計る。カレイ類の左角骨は、遠位骨端が残る。

カラス類の手根骨+中手骨は、全長51.46mmを計り、やや華奢なカラス属の骨格である。種は確定できない。

クマネズミ類では、右下顎骨の第1後臼歯の歯冠長2.43mmを計る。尾椎は、全長5.67mm、6.01mmを計る。右側上腕骨遠位端の内1点は、骨体左右径1.73mmを計る。右大腿骨は、全長24.62mmを計る。ネズミ類では、胸椎の前後関節突起間長1.87mm、左大腿骨骨体左右径1.86mmを計り、クマネズミ類に比べてはるかに小型である。

イヌの腰椎は、椎体幅10.93mmを計り、幼体の大きさである。

・ 試料番号11 (S D458)

イシガイの殻片および左右殻皮がみられる。殻長50mm前後と推定される。

・ 試料番号12 (S K712)

火を受けた礫である。

・ 試料番号13 (S D458)

アカニシの蓋、ヤマトシジミの殻皮、イシガイの殻皮が確認される。アカニシの蓋は、現長25mmを計る。ヤマトシジミの殻皮は左右不明であり、殻長25mm前後とほぼ同じ大きさである。イシガイの殻皮は、殻長60mm前後とみられる。

・ 試料番号14 (S K894)

イタヤガイ類の右殻である。他に破片がみられる。焼けている。殻長30mm前後となり、幼貝とみられる。

・ 試料番号15 (S D458)

ハマグリ of 殻である。焼けており、他に破片がみられる。殻長60~70mm前後と推定される。

・ 試料番号16 (S D01-166)

サザエ類の殻柱部である。焼けている。元来、殻高100mmに近い殻と思われる。

・ 試料番号17 (S D01-124)

ニワトリの右橈骨である。ほぼ完存する。全長66.42mmを計る。

・ 試料番号18 (S K616)

カモ類の左手根骨+中手骨である。ほぼ完存する。全長58.31mmを計り、中型のカモ類である。

・ 試料番号19 (S D01-69)

ネコの右腓骨である。ほぼ完存する。遠位骨端未骨化であり、大きさも小さく、若い個体とみられる。

・ 試料番号20 (S D01-123)

ハシブトガラスの歯骨・角骨・関節骨である。ほぼ完存する。全長93.41mmを計り、大型カラスである。

・ 試料番号21 (S D01-120)

ネコの右大腿骨である。近位端が欠損する。骨体~遠位骨端18.80mmを計る。破損する標本であるが、打ち割ったものによる。遠位骨端部に横方向の切痕をみる。大型であって、試料番号1の頭骨から推定される個体よりもはるかに大きい。

・ 試料番号22 (S D01上層)

ネコの右肩甲骨である。ほぼ完存する。全長66.60mmを計り、頸部にわずかな切痕をみる。これも頭骨から推定される体長の個体にほぼ一致する大きさであるが、確実に同一個体であるかどうかは出土状況などからの判断も必要である。

・ 試料番号23 (S D01)

ニワトリの右脛骨・左中足骨である。2試料ともほぼ完存する。右脛骨は、全長132.46mm、遠位骨端幅13.18mmを計り、遠位骨端にわずかに切痕がみられる。中足骨は、雄個体で、全長87.67mm、蹴爪部分に切痕がみられる。

・ 試料番号24 (S K894)

イワシ類の椎骨、魚類の鱗棘、部位不明破片などが確認される。いずれも焼骨である。

・ 試料番号25 (S K456)

イヌの左肩甲骨である。全長120.56mm、頸部幅25.86mmを計る。大型犬をやや下回る大きさである。

この肩甲骨は破損カ所があって不完全である。また肩甲骨後縁部の表、裏面に小さいが明瞭な切痕をみる。また肩甲骨直下の後面に棘に平行する細切痕が4条認められる。肉を剥ぎ取る際の刃物痕であろう。

・ S D01-106

イヌの脳頭蓋である。接合試料である。永久歯が未出の段階にあり、3～4ヶ月未満と推定される。

・ S K813

イシガイの殻皮、魚類の鱗・部位不明破片が確認される。

(2) 種類別状況

今回の同定試料は、秋田県においてこれまで調査されることのなかった、近世の武家屋敷跡における貴重な動物遺体の調査例である。種類は多彩で、当時の漁、猟の様相、それらを食材とした一端も知りうるようになった。今回の試料が遺跡全体の中でどのくらいの割合を占めているのか判明すれば、貝魚類の捕獲の状況も予測することもできるであろう。以下に動物遺体各種の在り方の特徴と生業との関わりを述べる。

貝類は、検出されていた標本が少ない。サザエ、アカニシ、ハマグリなどの断片的な標本から、当時の貝の利用の様子を検討するしかない。しかし、標本の量からいって、出土遺物が生活資源の全てではなく、実際には多数の量が採取されていたと想像される。サザエは貝種の中でも重要視されたのではないと思われる。アカニシは現在ではその需要が少なくなっているが、近世以前の遺跡からの検出は多く、食用とされていた貝種であった。ハマグリも当時の内湾域でかなりの生産のあったことが推定される。なお、1点であるが検出されているハマグリは、食用としては大型であると思われる。

イシガイとした標本は自然棲息の個体と思われる淡水貝種である。また鹹水産イタヤガイ類の小さな殻は外海域での貝採取時の混入品かと思われる。

魚類では、量的にはマダイが主であるが、この時期によくみるような大型の標本をみる事がなかった。例えば大型マダイの前頭骨の縦割り標本は、当時宴会食で好まれた「かぶと煮」などを推定させるが、そのような大型個体に遺骸をみなかった。出土したマダイの標本は、体長25cm程度が最も大きな個体で、多くはそれ以下の個体であった。網漁でイワシなどと同時に獲れたのかもしれない。実際これらは惣菜用の魚であったろう。しかし、他方こうした惣菜用の個体の確認されたことは興味深いことである。これまでにこのような小型の標本が知られなかったのは、サンプリングの方法に左右されたためと考えられる。今回の試料は貴重であり、今後試料の産出状況についても検討する必要があるかと思われる。

フサカサゴ科としたのはソイの仲間と思われる。検出標本から推定される個体は体長20cm～25cm位の個体になったと思われる。前鰓蓋骨標本個体は体長30cm以上、頭骨や椎骨標本が体長22cm、主鰓蓋骨がこれよりやや小さい個体、方骨がさらに小さい個体とみられる。標本の検出量から推定して個体も多かったのではなかろうか。北の魚の仲間がみられたのは、秋田の海域という地域性を反映しているかと思われる。

ホウボウ科は頭骨の検出もあり、好まれた魚であったと思われる。マアジの検出標本は少なかったが、15～20cmになる大小の個体があり、多獲されていたのではなかろうか。ボラ、ホッケ類、カレイ類、オコゼ類、タラは少数の遺骸を残していたのみである。

マイワシは椎骨の検出が最も多い。当時用いられていた網漁法で、この地域の砂浜海岸で、かなり漁獲されていたことが十分考えられる。

サケ類は椎骨1点のみであるが、これも実際は主要魚種かもしれない。サメ類の椎骨がわずかであるが検出されているのも外海に近い環境があったからであろう。

鳥類では、ヒシクイの胸骨がみられたが、大型のもの検出は珍しい。骨を削ぐような刃物痕のあったのも、解体痕として確認できた珍しい標本であった。カモ類は水辺の環境として少ないようである。近世遺跡ではカモ類が多い。この標本はたまたま採取されたもので、実際は多獲されていたかもしれない。

ニワトリは最も多くの標本を残していた。大きさをみると、左上腕骨が全長不明であるが最も小さい個体、左大腿骨2点が大型標本と小型標本があり、脛骨が大型で別個体とみられ、尺骨・橈骨・胸骨が小型の個体と思われ、5個体分の骨格が推定された。上記のニワトリ骨の個体関係は、検出状況からの検討も重要である。四肢骨には解体切痕などが残され、鶏肉を多用していたことがうかがわれ、近世における特徴といえよう。全て中型程度のサイズで、多少の大小があったらしいが、取り立てて大型種をみることがない。

カラスの下顎骨の完存品が出土しているのは大変珍しい。下顎骨が完存しているのであれば、当初は頭骨全体、あるいは全身骨があったことも想像され、魔除け的な目的も考えられる。

獣骨の種類は多様であった。クマネズミ属と小型のネズミが検出できた。屋敷内にネズミが多かったことは想像できる。近世の遺跡でのネズミ遺骸は付きものである。ネコは最も多かった。これも十分想像できることである。大腿骨が大型個体、頭骨・下顎骨・肩甲骨などの普通にみるサイズで成体、腓骨が若い個体であり、計3個体が推定されが、実際はさらに多いかもしれない。ネコの骨格にも打ち割り痕、切痕がみられた。

イヌは中形犬以上のサイズの四肢骨であった。幼犬、中形犬の成体と若い個体の3個体が見られたが、完存する骨格はなかった。幼犬の頭骨などすでに原位置にあったものではないであろう。肩甲骨には明らかな切痕がみえた。屋敷の中で、イヌの解体、肉食の用意がされたのであろう。中近世の遺跡、特に屋敷内、堀内から検出されるイヌ遺骸には解体の切痕を残す遺骸が普通のようなものである。とはいえ、それが庶民間にどの程度広まっていたかはまだはっきりしない。

キツネのような狩猟獣が検出されることはめずらしい。毛皮が目的であろうか。ニホンカモシカの橈骨と中手骨が確認された。日本海側でニホンカモシカは海岸近い地域でもよく検出される。山地に近いからであろう。この遺跡でのニホンカモシカの中手骨の端に何か刺突したような痕跡があった。柄とするには刺突が浅い。意図不明である。ウシは指骨である基節骨と橈骨があった。指骨の保存が良好であったにもかかわらず、橈骨はかなり劣化がひどく、原位置からはなれて年月を経ているのではないかと思われる。どのような経緯で屋敷内にあったか不明である。

引用文献

- 青葉 高、1991、野菜の日本史。八坂書房、317p.
- 藤枝國光、1995、カボチャ。週刊朝日 百科植物の世界7、朝日新聞社、18-19.
- 藤下典之、1984、出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法。古文化財の自然科学的研究、古文化財編集委員会編、同朋舎、638-654.
- 飛田範夫、2002、日本庭園の植栽史。京都大学出版会、435p.
- 石川茂雄、1994、原色日本植物種子写真図鑑。石川茂雄図鑑刊行委員会、328p.
- 南木陸彦、1991、栽培植物、古墳時代の研究4 生産と流通I、石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎編、雄山閣、165-174.
- 南木陸彦・中川 治美、2000、大型植物遺体。琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書3-2 粟津湖底遺跡 自然流路(粟津湖底遺跡Ⅲ)、滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会、49-112.
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志、2000、日本植物種子図鑑。東北大学出版会、642p.
- 矢野 梓、2002、遺跡から出土した小型豆のDNA分析、DNA考古学 Newsletter3.
- 吉崎昌一、1992、古代雑穀の検出。月刊考古学ジャーナル、No.355、2-14.

第37表 出土種実分類群一覧

	門	綱	科	属	分類群	学名	部位	
木	裸子植物門	ソテツ綱	イチョウ科	イチョウ属	イチョウ	<i>Ginkgo biloba</i>	種子	
			マツ科	マツ属	マツ属複雑管束亜属 マツ属	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i> <i>Pinus</i>	球果・種鱗 種子	
			スギ科	スギ属	スギ	<i>Cryptomeria japonica</i>	球果	
			ヒノキ科	アスナロ属	アスナロ ヒノキ科	<i>Thuja dolabrata</i> Cupressaceae	枝条 種子	
	本	被子植物門	双子葉植物綱	クルミ科	クルミ属	オニグルミ	<i>Juglans mandshurica</i> subsp. <i>sieboldiana</i>	核
				ブナ科	クリ属	クリ	<i>Castanea crenata</i>	果実
				バラ科	サクラ属	ウメ	<i>Prunus mume</i>	核
						スモモ	<i>Prunus salicina</i>	核
						モモ	<i>Prunus persica</i>	核
						ナシ亜科	Subfam. Maloideae	種子
ツツラフジ科				アオツツラフジ属	アオツツラフジ	<i>Cocculus orbiculatus</i>	核	
ミカン科				サンショウ属	サンショウ属	<i>Zanthoxylum</i>	核	
ブドウ科				ブドウ属	ブドウ属	<i>Vitis</i>	種子	
グミ科				グミ属	グミ属	<i>Elaeagnus</i>	種子	
カキノキ科	カキノキ属	カキノキ属	<i>Diospyros</i>	種子				
エゴノキ科	エゴノキ属	エゴノキ属	<i>Styrax</i>	種子				
クマツヅラ科	クサギ属	クサギ	<i>Clerodendron trichotomum</i>	核				
草	被子植物門	双子葉植物綱	イネ科	イネ属	イネ	<i>Oryza sativa</i>	胚乳・穎	
				エノコログサ属	エノコログサ属	<i>Setaria</i>	果実	
				イネ科	Gramineae	果実		
			カヤツリグサ科	ホタルイ属	ホタルイ属	<i>Scirpus</i>	果実	
					カヤツリグサ科	Cyperaceae	果実	
			タデ科	タデ属	サナエタデ近似種	<i>Polygonum</i> cf. <i>lapathifolium</i>	果実	
					タデ属	<i>Polygonum</i>	果実	
				ソバ属	ソバ	<i>Fagopyrum esculentum</i>	果実	
			ヤマゴボウ科	ヤマゴボウ属	ヤマゴボウ属	<i>Phytolacca</i>	種子	
			マメ科	マメ類	Leguminosae	種子		
シソ科	シソ属	エゴマ	<i>Perilla frutescens</i> var. <i>japonica</i>	果実				
ナス科	ナス科	ナス科	Solanaceae	種子				
本	双子葉植物綱	ウリ科	キュウリ属	メロン類	<i>Cucumis melo</i>	種子		
			トウガン属	トウガン	<i>Benincasa hispida</i>	種子		
			ヒョウタン属	ヒョウタン類	<i>Lagenaria siceraria</i>	種子		
			カボチャ属	カボチャ属	<i>Cucurbita</i>	種子		
キク科	オナモミ属	オナモミ属	<i>Xanthium</i>	総苞				

第38表 種実同定結果

番号	出土地	針葉樹											広葉樹											草本						
		イチョウ	マツ属 複雑維管束亜属		マツ属	スギ	アスナロ	ヒノキ科	オニグルミ	クリ	ウメ	スモモ	スモモ?	モモ	ナシ亜科	アオツラフジ	サンショウウ属	ブドウ属	グミ属	カキノキ属	エゴノキ属	クサギ	イネ	エノコログサ属	イネ科	ホタルイ属	カヤツリグサ科			
		種子	球果	種鱗	種子	球果	枝条	種子	核	果実	核	核	核	核	種子	核	核	種子	種子	種子	種子	核	胚乳	穎	果実	果実	果実	果実		
破片		破片					完形	破片	破片	完形	完形	破片	完形	破片																
1	S K813	-	2	-	-	2	8	5	-	1	2	1	1	-	1	-	7	1	4	2	1	1	5	1	4	8	1	2	1	3
2	S D01-106	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3	S D01-100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	S D01-97	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	S D01-129	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	S K424	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
7	S K456	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
8	S K814	3	1	16	1	-	-	-	4	15	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
9	南側調査区表採	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
10	南側調査区表採	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
11	S D01	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
12	S K481	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
13	S K430	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
14	S K322	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
15	S D316サブトレ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
16	S K337	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
17	S D432	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
18	S D316サブトレ	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
19	S D458	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
20	S K610	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
21	S D801	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
22	S K424	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
23	S K330	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
24	S K322	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
25	S K322	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
26	C-D区 S K430	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

番号	出土地	草本											その他			備考	
		サナエタデ近似種	タデ属	ソバ	ヤマゴボウ属	マメ類	エゴマ	ナス科	メロン類	トウガン	ヒヨウタン類	カボチャ属	オナモミ属	不明種実	動物遺存体		焼物
		果実	果実	果実	種子	種子	果実	種子	種子	種子	種子	種子	種子	総苞			
1	S K813	3	25	11	6	7	9	7	11	1	2	-	1	14	10	-	オニグルミ食痕、ウメ・モモ炭化
2	S D01-106	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	
3	S D01-100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	S D01-97	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	
5	S D01-129	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	S K424	-	-	-	-	-	-	3	2	-	-	-	-	-	-	-	ナス科は栽培種の可能性高い
7	S K456	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
8	S K814	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	オニグルミ一部炭化（1）、2個接合し1個体、ウメ食痕
9	南側調査区表採	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
10	南側調査区表採	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
11	S D01	-	-	-	-	-	-	-	6	1	-	-	-	-	-	-	
12	S K481	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	オニグルミ一部炭化
13	S K430	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	表面磨耗
14	S K322	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	オニグルミ一部炭化
15	S D316サブトレ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	表面磨耗（1）
16	S K337	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	オニグルミ一部炭化、モモ接合し1個体、表面磨耗
17	S D432	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
18	S D316サブトレ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	一部炭化
19	S D458	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
20	S K610	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	
21	S D801	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
22	S K424	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1個体未満、食痕（1）
23	S K330	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	
24	S K322	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
25	S K322	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	表面磨耗（3）
26	C-D区 S K430	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	モモ表面磨耗（2）、食痕（1）

第39表 検出動物分類群一覧

軟体動物門 Phylum Mollusca	カジカ亜目 Suborder Cottoidei
腹足綱 Class Gastropoda	アイナメ科 Family Hexagrammidae
前鰓亜綱 Subclass Prosobranchia	ホッケ類 <i>Pleurogrammus</i> sp.
古腹足目 Order Vetigastropoda	スズキ目 Order Perciformes
サザエ科 Family Turbinidae	スズキ亜目 Suborder Percoidi
サザエ類 Gen. et. sp. indet.	アジ科 Family Carangidae
新腹足目 Order Neogastropoda	マアジ <i>Trachurus japonicus</i>
アッキガイ科 Family Muricidae	タイ科 Family Sparidae
レイシガイ亜科 Subfamily Rapaninae	マダイ亜科 Subfamily Pagrinae
アカニシ <i>Rapana venosa</i>	マダイ <i>Pagrus major</i>
二枚貝綱 Class Bivalvia	タイ類 Gen. et. sp. indet.
翼形亜綱 Subclass Pteriomophia	カレイ目 Order Pleuronectiformes
カキ目 Order Ostreoida	カレイ科 Family Pleuronectidae
イタヤガイ亜目 Suborder Pectinina	カレイ類 Gen. et. sp. indet.
イタヤガイ上科 Superfamily Pectinacea	鳥綱 Class Aves
イタヤガイ科 Family Pectinidae	キジ目 Order Galliformes
イタヤガイ類 Gen. et. sp. indet.	キジ科 Family Phasianidae
古異歯亜綱 Subclass Paleoheterodonta	キジ亜科 Subfamily Phasianinae
イシガイ目 Order Unionoida	ニワトリ <i>Gallus gallus</i> var. domesticus
イシガイ科 Family Unionidae	カモ目 Order Anseriformes
イシガイ <i>Unio douglasiae</i>	カモ科 Family Anatidae
異歯亜綱 Subclass Heterodonta	カモ亜科 Subfamily Anatinae
マルスダレガイ目 Order Veneroida	ガン族 Tribe Anserini
シジミ科 Family Corbiculidae	ヒシクイ <i>Anser fabalis</i>
ヤマトシジミ <i>Corbicula japonica</i>	カモ族 Tribe Anatini
マルスダレガイ科 Family Veneridae	カモ類 Gen. et. sp. indet.
ハマグリ <i>Meretrix lusoria</i>	スズメ目 Order Passeriformes
脊椎動物門 Phylum Vertebrata	スズメ亜目 Order Passeri
軟骨魚綱 Class Chondrichthyes	カラス科 Family Corvidae
板鰓亜綱 Subclass Elasmobranchii	カラス亜科 Subfamily Corvinae
サメ類 Ord. et. Fam. indet.	カラス族 Tribe Corvini
硬骨魚綱 Class Osteichthys	ハシブトガラス <i>Corvus macrorhynchos</i>
条鰭亜綱 Subclass Actinopterygii	カラス類 Gen. et. sp. indet.
ニシン目 Order Clupeiformes	哺乳綱 Class Mammalia
ニシン科 Family Clupeidae	ネズミ目 (齧歯目) Order Rodentia
ニシン亜科 Subfamily Clupeinae	ネズミ科 Family Muridae
マイワシ <i>Sardinops melanostictus</i>	ネズミ亜科 Subfamily Murinae
イワシ類 Gen. et. sp. indet.	ネズミ類 Gen. et. sp. indet.
サケ目 Order Salmoniformes	クマネズミ類 <i>Rattus</i> sp.
サケ科 Family Salmonidae	ネコ目 (食肉目) Order Carnivora
サケ類 <i>Oncorhynchus</i> sp.	ネコ亜目 Suborder Fissipedia
トラ目 Order Gadiformes	ネコ科 Family Felidae
トラ科 Family Gadidae	ネコ <i>Felis catus</i>
トラ類? Gadidae?	イヌ科 Family Canidae
ボラ目 Order Mugiliformes	キツネ <i>Vulpes vulpes</i>
ボラ科 Family Mugilidae	イヌ <i>Canis familiaris</i>
ボラ類 Gen. et. sp. indet.	ウシ目 (偶蹄目) Order Artiodactyla
カサゴ目 Order Scorpaeniformes	ウシ科 Family Bovidae
カサゴ亜目 Suborder Scorpaenoidei	ニホンカモシカ <i>Naemorhedus crispus</i>
フサカサゴ科 Family Scorpaenidae	ウシ <i>Bos taurus</i>
フサカサゴ類 Gen. et. sp. indet.	
ホウボウ科 Family Triglidae	
ホウボウ類 Gen. et. sp. indet.	

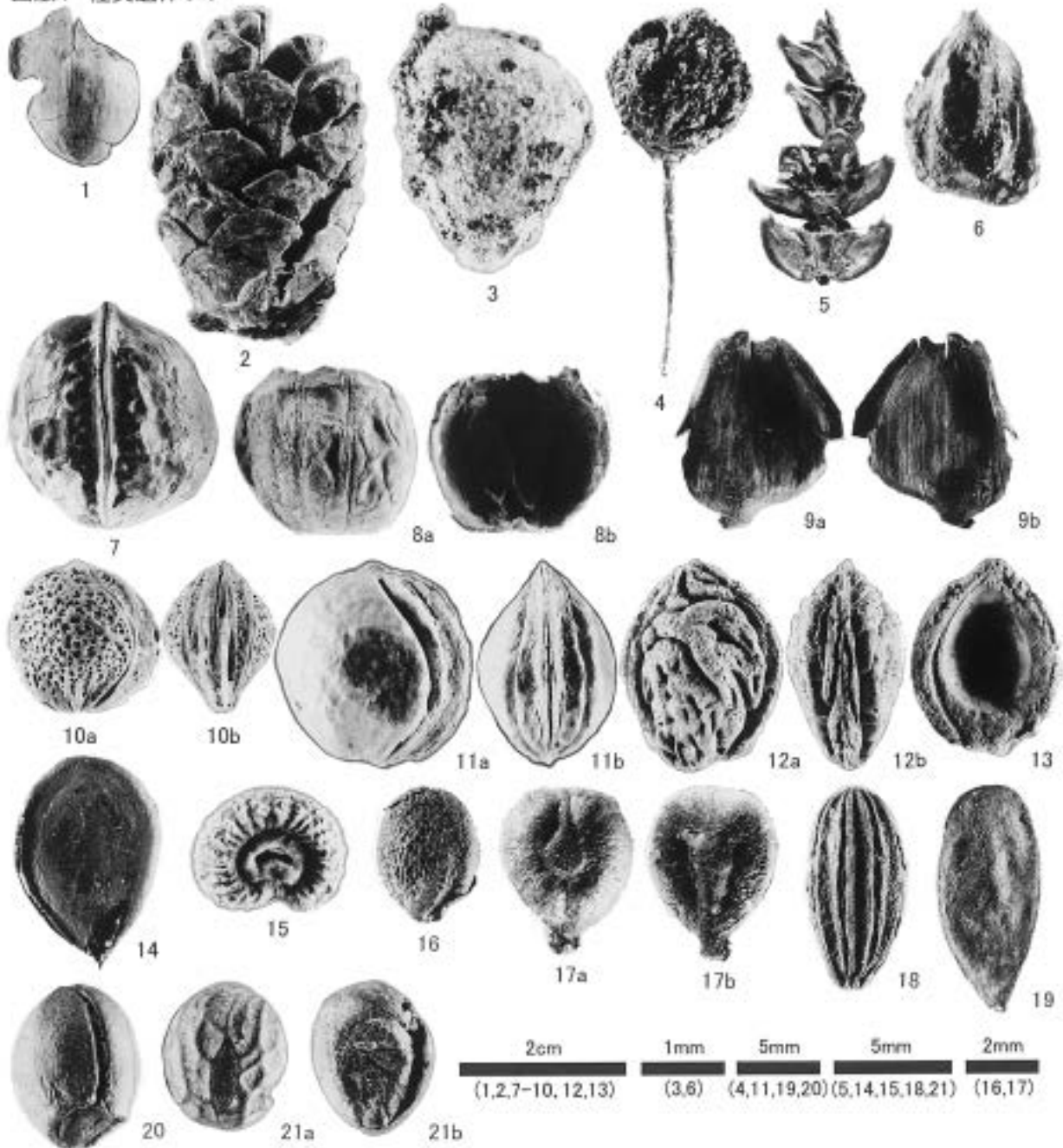
第40表 骨貝同定結果(1)

番号	試料	種類	部位	左	右	部分	数量	被熱	備考	
1	S D01-160	ネコ	脳頭蓋			破損	1			
2	S K813	キツネ	下顎骨	左		ほぼ完存	1			
3	S A810P24	ウシ	基節骨		右	ほぼ完存	1			
4	S D01-125	ニホンカモシカ	橈骨	左		ほぼ完存	1			
			中手骨	左		ほぼ完存	1		切痕	
5	S D01内遺物	ウシ	橈骨	左		骨体	1			
6	S D01	サザエ類	殻			殻柱部	1			
		ボラ類	間鰓蓋骨		右	破損	1			
		魚類	擬鎖骨			破片	1			
		ニワトリ	胸骨				破損	1		接合
			尺骨	左			ほぼ完存	1		切痕
			大腿骨	左			ほぼ完存	1		切痕
		ネコ	下顎骨	左			ほぼ完存	1		
			上顎犬歯		右		ほぼ完存	1		
		その他	種子				破損	1		
		7	S K940	ヒシクイ	胸骨			破片	2	
		イヌ	寛骨	左		坐骨・恥骨部	1		接合	
8	S K675	ニワトリ	大腿骨	左		ほぼ完存	1		切痕	
9	南側調査区表採	アカニシ	殻			殻柱部	1		接合、他破片9点	
10	S K813	サメ類	歯			破片	1			
			椎骨			破片	1		切断	
		マイワシ	角骨	左		破片	1			
			椎骨			椎体	34			
							12	○		
						尾部棒状骨	1			
		フサカサゴ類	翼耳骨	左	右	破片	2			
			副蝶形骨			破片	1			
			前上顎骨	左		破片	1	○		
			歯骨		右	破片	1	○		
			方骨	左		破片	1			
			前鰓蓋骨	左		破片	1			
			主鰓蓋骨	左		破片	1			
				右		破片	1			
			腹椎			椎体	1			
			尾椎			椎体	5			
						椎体	1		切断	
			擬鎖骨			破片	1			
			近位担鰭棘			破片	1			
		マダイ	主上顎骨	左		破片	1			
					右	破片	1			
			角舌骨	左		破片	1			
			主鰓蓋骨		右	破片	1			
			後側頭骨	左		破片	1			
				右		破片	1			
			腹椎			椎体	6			
			尾椎			椎体	13			
			近位担鰭棘			破片	1			
			臀鰭第1血管間棘			破片	1			
		タイ類	翼耳骨	左		破片	1	○		
		マアジ	腹椎			椎体	2			
			尾椎			椎体	3			
		ホッケ類	腹椎			椎体	1			
		カレイ類	角骨	左		破片	1	○		
		フサカサゴ類	前鰓蓋骨			破片	1			
			前頭骨			破片	2			
		ホウボウ類	頭骨			破片	2	○		
						破片	31	○		
			腹椎			椎体	1			
		タラ類?	前上顎骨			破片	1	○		
		サケ類	歯			破片	1			
			椎骨			破片	2		切断	
		魚類	椎骨			椎体	11			
						椎体	22	○		
			鰭棘			破片	21			
						破片	7	○		
			不明			破片	32			
		ニワトリ	切歯骨			破片	1			
			上腕骨	左		近位端	1			
						骨体	1			
中足骨	左			遠位端	1					
カラス類	手根骨+中手骨	左		ほぼ完存	1					
鳥類	頸椎			椎体	1	○				
	不明			破片	2					
				破片	9	○				

第41表 骨貝同定結果(2)

番号	試料	種類	部位	左	右	部分	数量	被熱	備考	
10	S K 813	クマネズミ類	下顎骨		右	破損	1			
			下顎切歯		右	破片	1			
			腰椎				破損	2		
			尾椎				破損	2		
			肋骨		右		破片	1		
			上腕骨		右		遠位端	1		
								1	○	
		大腿骨		右		ほぼ完存	1			
		基節骨				ほぼ完存	1			
		ネズミ類	胸椎				破損	1		
			大腿骨	左			遠位端欠	1		
		イヌ	腰椎				椎体片	1		
		不明	不明				破片	134	○	他微細片有
その他	磔					15	○			
	植物遺体				破片	16				
11	S D 458	イシガイ	殻皮	左		破片	3			
					右		破片	2		
							破片	8		他破片有
							破片	1		
12	S K 712	その他	磔			破片	1	○		
13	S D 458	アカニシ	蓋			ほぼ完存	1			
		ヤマトシジミ	殻皮			破損	2			
		イシガイ	殻皮			破損	1			
14	S K 894	イタヤガイ類	殻		右	破片	1	○	他破片13点	
15	S D 458	ハマグリ	殻			破片	2	○	他破片3点	
16	S D 01-166	サザエ類	殻			殻柱部	1	○		
17	S D 01-124	ニワトリ	腕骨		右	ほぼ完存	1			
18	S K 616	カモ類	手根骨+中手骨	左		ほぼ完存	1			
19	S D 01-69	ネコ	腓骨		右	ほぼ完存	1			
20	S D 01-123	ハシブトガラス	歯骨+角骨+関節骨			ほぼ完存	1			
21	S D 01-120	ネコ	大腿骨		右	近位端欠	1		切痕	
22	S D 01上層	ネコ	肩甲骨		右	ほぼ完存	1		切痕	
23	S D 01内遺物	ニワトリ	脛骨		右	ほぼ完存	1		切痕	
			中足骨	左		ほぼ完存	1		切痕	
24	S K 894	イワシ類	椎骨			破片	1	○		
		魚類	鱗棘			破片	1	○		
			不明			破片	4	○		
25	S K 456 (覆土)	イヌ	肩甲骨	左		破損	1		切痕	
	S D 01-106	イヌ	脳頭蓋			破損	1		接合、他破片4点	
	S K 813	イシガイ	殻皮			破片	4			
		魚類	鱗			破片	10			
		不明			破片	3				

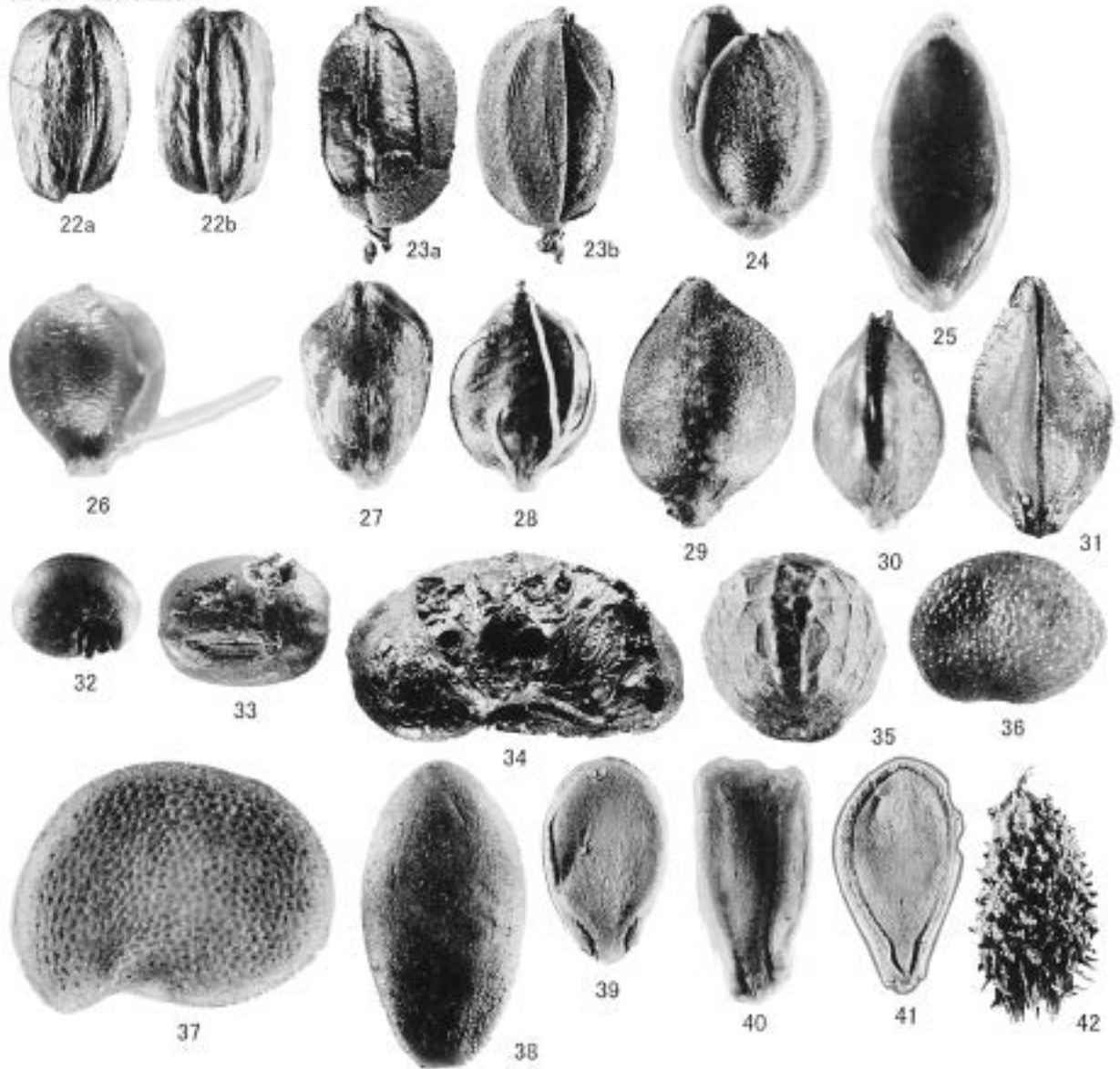
図版1 種実遺体(1)



1. イチョウ 種子(8,2トレSK23)
2. マツ属複維管束亜属 球果(8,2トレSK23)
3. マツ属 種子(8,2トレSK23)
5. アスナロ 枝条(1;SK813)
7. オニグルミ 核(14;SK332)
9. クリ 果実(8,2トレSK23)
11. スモモ 核(11;SD01)
13. モモ 核(25;SK332)
15. アオツヅラフジ 核(1;SK813)
17. ブドウ属 種子(1;SK813)
19. カキノキ属 種子(1;SK813)
21. クサギ 核(1;SK813)

4. スギ 球果(1;SK813)
6. ヒノキ科 種子(1;SK813)
8. オニグルミ 核(頂部破損)(14;SK332)
10. ウメ 核(11;SD01)
12. モモ 核(25;SK332)
14. ナシ亜科 種子(1;SK813)
16. サンショウ属 核(1;SK813)
18. グミ属 種子(1;SK813)
20. エゴノキ属 種子(1;SK813)

図版2 種実遺体(2)



5mm (22,23,31-34,38) 1mm 5mm (24-30,35-37) (39-42)

- 22. イネ 胚乳(1;SK813)
- 24. エノコログサ属 果実(1;SK813)
- 26. ホタルイ属 果実(1;SK813)
- 28. サナエタデ近似種 果実(1;SK813)
- 30. タデ属 果実(1;SK813)
- 32. ヤマゴボウ属 種子(1;SK813)
- 34. マメ類 種子(1;SK813)
- 36. ナス科 種子(1;SK813)
- 38. メロン類 種子(1;SK813)
- 40. ヒョウタン類 種子(1;SK813)
- 42. オナモミ属 総苞(1;SK813)

- 23. イネ 胚乳・穎(1;SK813)
- 25. イネ科 果実(1;SK813)
- 27. カヤツリグサ科 果実(1;SK813)
- 29. タデ属 果実(1;SK813)
- 31. ソバ 果実(1;SK813)
- 33. マメ類 種子(1;SK813)
- 35. エゴマ 果実(1;SK813)
- 37. ナス科 種子(1;SK813)
- 39. トウガン 種子(11;SD01)
- 41. カボチャ属 種子(23;SK330)

第2節 秋田県古川堀反町遺跡出土木製品の樹種調査結果

(株) 吉田生物研究所

1 試料

試料は秋田県古川堀反町遺跡から出土した工具1点、服飾具6点、容器40点、食事具5点、文房具12点、遊戯具2点、祭祀具4点、雑具2点、建築部材3点、用途不明品1点の合計78点である。

2 観察方法

剃刀で木口(横断面)、柾目(放射断面)、板目(接線断面)の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3 結果

樹種同定結果(針葉樹7種、広葉樹9種、タケ類1種)の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

1) マツ科モミ属 (*Abies* sp.)、(遺物・写真 No.8)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は比較的緩やかで晩材部の幅は狭い。柾目では放射組織の上下縁辺部に不規則な形状の放射柔細胞がみられる。放射柔細胞の壁は厚く、数珠状末端壁になっている。放射組織の分野壁孔はスギ型で1分野に1~4個ある。板目では放射組織は単列であった。モミ属はトドマツ、モミ、シラベがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

2) マツ科マツ属 [2葉松類] (*Pinus* sp.)、(遺物・写真 No.51)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は急であった。大型の垂直樹脂道が細胞間隙としてみられる。柾目では放射組織の放射柔細胞の分野壁孔は窓型である。上下両端の放射仮道管内は内腔に向かって鋸歯状に著しくかつ不規則に突出している。板目では放射組織は単列で1~15細胞高のもの、水平樹脂道を含んだ紡錘形のものがある。マツ属 [2葉松類] はクロマツ、アカマツがあり、北海道南部、本州、四国、九州に分布する。

3) スギ科スギ属スギ (*Cryptomeria japonica* D.Don)、(遺物・写真 No.6,50)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部に接線方向に並んでいた。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で1分野に1~3個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね扁平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

4) ヒノキ科アスナロ属 (*Thujopsis* sp.)、(遺物・写真 No.1~5、7、9~11、43、44、48、49B、54、55、57~59、61、67、68、70、72、76)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で1分野に2~4個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ(ヒバ、アテ)とヒノキアスナロ(ヒバ)があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

5) ヒノキ科クロベ属クロベ (*Thuja standishii* Carriere)、(遺物・写真 No.60、71)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部に偏って接

線状に存在する。柾目では放射組織の分野壁孔はスギ型で1分野に2～6個ある。放射柔細胞の水平壁が接線壁と接する際に水平壁は山形に厚くなり、接線壁との間に溝のような構造（インデンチャー）ができ、よく発達しているのが認められる。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。クロベは本州、四国に分布する。

- 6) イヌガヤ科イヌガヤ属イヌガヤ? (*Cephalotaxus Harringtonia* K. Koch f. *drupacea* Kitamura)、(遺物・写真 No.64)

木口と柾目は採取出来なかった。板目には仮道管内部に螺旋肥厚がみられる。短冊形をした樹脂細胞が軸方向に連続（ストランド）して存在する。放射組織はほぼ単列であった。イヌガヤは本州（岩手以南）、四国、九州に分布する。

- 7) スギ科スギ属スギ (*Cryptomeria japonica* D. Don)、(遺物・写真 No.57、62、66)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で1分野に1～3個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね扁平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

- 8) ブナ科ブナ属 (*Fagus* sp.)、(遺物・写真 No.14、17、19～21、23、25、27、30～33、37、38、64、65、74)

散孔材である。木口ではやや小さい道管（～110 μ m）がほぼ平等に散在する。年輪の内側から外側に向かって大きさおよび数の減少がみられる配列をする。放射組織には単列のもの、2～3列のもの、非常に列数の広いものがある。柾目では道管は単穿孔と階段穿孔を持ち、内部には充填物（チロース）がみられる。放射組織は大体平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型のレンズ状の壁孔が存在する。板目では放射組織は単列、2～3列、広放射組織の3種類がある。広放射組織は肉眼でも1～3mmの高さを持った褐色の紡錘形の斑点としてはっきりとみられる。ブナ属はブナ、イヌブナがあり、北海道（南部）、本州、四国、九州に分布する。

- 9) ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Sect. Prinus Loudon* syn. *Diversipilosae*, *Dentatae*)
(遺物・写真 No.42)

環孔材である。木口では大道管（～380 μ m）が年輪界にそって1～3列並んで孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、薄壁で角張っている小道管が単独あるいは2～3個複合して火炎状に配列している。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と対列壁孔を有する。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と肉眼でもみられる典型的な複合型の広放射組織がみられる。コナラ節にはコナラ、ミズナラ、カシワ等があり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

- 10) ブナ科シイ属 (*Castanopsis* sp.)、(遺物・写真 No.52)

環孔性放射孔材である。木口では孔圏部の道管（～300 μ m）は単独でかつ大きいが接線方向には連続していない。孔圏外に移るにしたがって大きさを減じ、放射方向に火炎状に配列している。柾目では道管は単穿孔と多数の有縁壁孔を有する。放射組織は平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型で柵状の壁孔がある。板目では多数の単列放射組織がみられる。シイ属には

ツブラジイとスタジイがあるが、ツブラジイにみられる集合～複合放射組織の出現頻度が低い為区別は難しい。シイ属は本州（福島、佐渡以南）、四国、九州、琉球に分布する。

11) ニレ科ケヤキ属ケヤキ (*Zelkova serrata* Makino)、(遺物・写真 No.12、13、18、24)

環孔材である。木口ではおおむね円形で単独の大道管（ $\sim 270\mu\text{m}$ ）が1列で孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、多角形の小道管が多数集まって円形、接線状あるいは斜線状の集団管孔を形成している。軸方向柔細胞は孔圏部では道管を鞘状に取り囲み、さらに接線方向に連続している（イニシアル柔組織）。放射組織は1～数列で多数の筋としてみられる。柾目では大道管は単穿孔と側壁に交互壁孔を有する。小道管はさらに螺旋肥厚も持つ。放射組織は平伏細胞と上下縁辺の方形細胞からなり異性である。方形細胞はしばしば大型のものがある。板目では放射組織は少数の1～3列のものと大部分を占める6～7細胞列のほぼ大きさの様な紡錘形放射組織がある。紡錘形放射組織の上下端の細胞は、他の部分に比べ大型である。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。

12) カツラ科カツラ属カツラ (*Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc.)、(遺物・写真 No.46)

散孔材である。木口ではやや小さい薄壁で角張っている道管（ $\sim 100\mu\text{m}$ ）がおおむね単独または2～3個不規則に接合して平等に分布する。道管の占有面積は大きい。放射柔組織は不顕著。柾目では道管は階段穿孔と側壁に階段壁孔を有する。放射組織は平伏、方形と直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔は対列状ないし階段状の壁孔がある。道管内腔には充填物（チロース）がある。板目では放射組織は方形ないし直立細胞からなる単列のものと、方形ないし直立細胞の単列部と平伏細胞の2列部からなるものがある。高さ $\sim 900\mu\text{m}$ からなる。カツラは北海道、本州、四国、九州に分布する。

13) モクレン科モクレン属 (*Magnolia* sp.)、(遺物・写真 No.41、75)

散孔材である。木口ではやや小さい道管（ $\sim 110\mu\text{m}$ ）が単独ないし2～4個複合して多数分布する。軸方向柔組織は1～2層の幅で年輪界に配列する。柾目では道管は単穿孔と側壁に階段壁孔を有する。放射組織はすべて平伏細胞からなる同性と平伏と直立細胞からなる異性がある。道管放射組織間壁孔は階段状である。板目では放射組織は1～3細胞列、高さ $\sim 700\mu\text{m}$ となっている。モクレン属は、ホオノキ、コブシなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

14) マンサク科イスノキ属イスノキ (*Distylium racemosum* Sieb. et Zucc.)、(遺物・写真 No.40)

散孔材である。木口ではやや小さい道管（ $\sim 50\mu\text{m}$ ）がおおむね単独で、大きさ数とも年輪全体を通じて変化なく平等に分布する。軸方向柔細胞は黒く接線方向に並び、ほぼ一定の間隔で規則的に配列している。放射組織は1～2列のものが多数走っているのがみられる。柾目では道管は階段穿孔と内部に充填物（チロース）がある。軸方向には黒い筋の柔細胞ストランドが多数走っており、一部は提灯状の細胞になっている。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。板目では放射組織は1～2細胞列、高さ $\sim 1\text{mm}$ で多数分布している。イスノキは本州（関東以西）、四国、九州、琉球に分布する。

15) トチノキ科トチノキ属トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume)、(遺物・写真 No.15、16、22、26、28、29、34～36、39、49A)

散孔材である。木口ではやや小さい道管（ $\sim 80\mu\text{m}$ ）が単独かあるいは2～4個放射方向に接する

複合管孔を構成する。道管の大きさ、分布数ともに年輪中央部で大きく年輪界近辺ではやや小さくなる傾向がある。軸方向柔細胞は1～3細胞の幅で年輪の一番外側（ターミナル状）に配列する。柾目では道管は単穿孔と側壁に交互壁孔、螺旋肥厚を有する。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔は六角形をした比較的大きな壁孔が密に詰まって篩状になっている（上下縁辺の1～2列の柔細胞に限られる）。板目では放射組織は単列で大半が高さ～300 μ mとなっている。それらは比較的大きさが揃って階層状に規則正しく配列しており、肉眼では微細な縞模様（リップルマーク）としてみられる。トチノキは北海道、本州、四国、九州に分布する。

16) ミズキ科ミズキ属ヤマボウシ (*Cornus kousa* Buerger ex Hance)、(遺物・写真 No.47)

散孔材である。木口では中庸の道管（～80 μ m）が、単独あるいは2～4個複合して散材する。軸方向柔細胞は不顕著。年輪界は波状である。板目では道管は階段穿孔を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。板目では放射組織は1～9個細胞列で、高さ～1mmからなる。ヤマボウシは本州、四国、九州に分布する。

17) バラ科ナナカマド属アズキナシ節アズキナシ (*Sorbus alnifolia* C. Koch)、(遺物・写真 No.69)

散孔材である。木口では道管（～70 μ m）が単独ないし2～3個が不規則に複合して平等に分布する。軸方向柔細胞は散在状となる。柾目では道管は単穿孔、ときに網状穿孔を有する。道管内壁の螺旋肥厚は数本が束になって走行する。道管内腔に着色物質がみられる。放射組織はほとんど同性で、縁辺の細胞は形がきわめて不規則になることがある。道管放射組織間壁孔は小さくやや多い。板目では放射組織は1～3細胞列、高さ～0.5mmとなっている。アズキナシは北海道、本州、四国、九州に分布する。

18) イネ科タケ亜科 (Subfam. Bambusoideae)、(遺物・写真 No.45、53、73、77、78)

横断面は採取出来なかった。放射断面、接線断面では厚壁繊維の組織やその他の基本組織の細胞が稈軸方向に配列している。タケ亜科は熱帯から暖帯、一部温帯に分布する。

◆参考文献◆

- 島地 謙・伊東隆夫 「日本の遺跡出土木製品総覧」 雄山閣出版 (1988)
- 島地 謙・伊東隆夫 「図説木材組織」 地球社 (1982)
- 伊東隆夫 「日本産広葉樹材の解剖学的記載 I～V」 京都大学木質科学研究所 (1999)
- 北村四郎・村田 源 「原色日本植物図鑑木本編 I・II」 保育社 (1979)
- 深澤和三 「樹体の解剖」 海青社 (1997)
- 奈良国立文化財研究所 「奈良国立文化財研究所 史料第27冊 木器集成図録 近畿古代篇」 (1985)
- 奈良国立文化財研究所 「奈良国立文化財研究所 史料第36冊 木器集成図録 近畿原始篇」 (1993)

◆使用顕微鏡◆

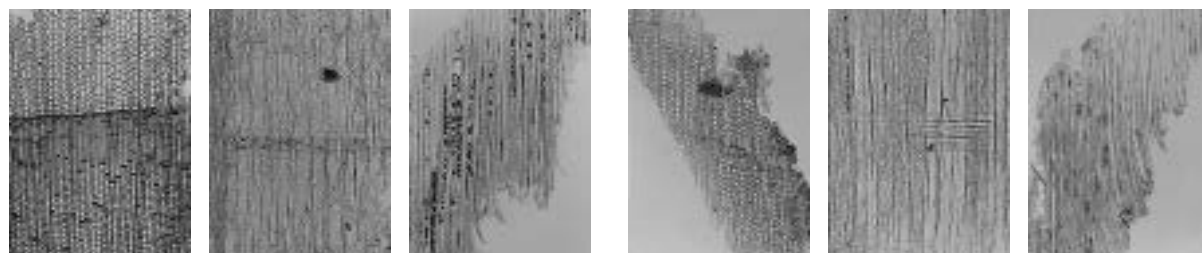
Nikon

MICROFLEX UFX-DX Type 115

第42表 秋田県古川堀反町遺跡出土木製品同定表

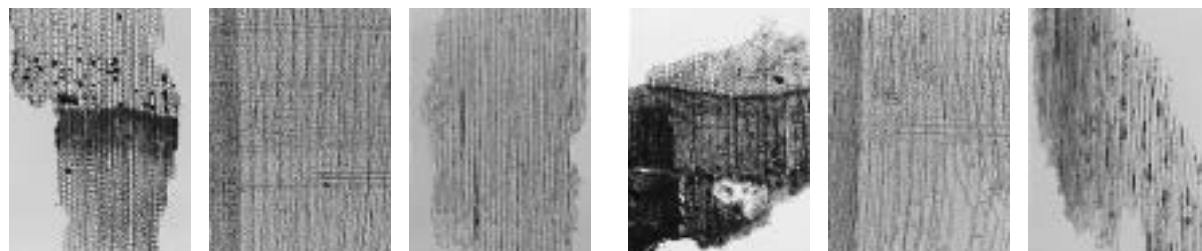
No.	品名	樹種
1	木筒	ヒノキ科アスナロ属
2	木筒(一部)	ヒノキ科アスナロ属
3	木筒	ヒノキ科アスナロ属
4	木筒	ヒノキ科アスナロ属
5	木筒	ヒノキ科アスナロ属
6	木筒片	スギ科スギ属スギ
7	木筒片	ヒノキ科アスナロ属
8	木筒	マツ科モミ属
9	木筒	ヒノキ科アスナロ属
10	木筒	ヒノキ科アスナロ属
11	樽底	ヒノキ科アスナロ属
12	漆椀	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
13	漆椀	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
14	漆椀	ブナ科ブナ属
15	漆椀	トチノキ科トチノキ属トチノキ
16	漆椀	トチノキ科トチノキ属トチノキ
17	漆椀	ブナ科ブナ属
18	漆椀	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
19	漆椀	ブナ科ブナ属
20	漆椀	ブナ科ブナ属
21	漆椀	ブナ科ブナ属
22	漆椀	トチノキ科トチノキ属トチノキ
23	漆椀	ブナ科ブナ属
24	漆椀	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
25	漆椀	ブナ科ブナ属
26	漆椀	トチノキ科トチノキ属トチノキ
27	漆椀	ブナ科ブナ属
28	漆椀	トチノキ科トチノキ属トチノキ
29	漆椀	トチノキ科トチノキ属トチノキ
30	漆椀	ブナ科ブナ属
31	漆椀	ブナ科ブナ属
32	漆椀	ブナ科ブナ属
33	漆椀	ブナ科ブナ属
34	漆椀	トチノキ科トチノキ属トチノキ
35	漆椀	トチノキ科トチノキ属トチノキ
36	漆椀	トチノキ科トチノキ属トチノキ
37	漆椀	ブナ科ブナ属
38	漆椀	ブナ科ブナ属
39	漆椀	トチノキ科トチノキ属トチノキ
40	漆塗り木製品	マンサク科イスノキ属イスノキ
41	漆塗り高下駄	モクレン科モクレン属
42	篋	ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節
43	箸箱	ヒノキ科アスナロ属
44	三宝	ヒノキ科アスナロ属
45	漆塗り箸	イネ科タケ亜科
46	櫛払い	カツラ科カツラ属カツラ
47	櫛	ミズキ科ミズキ属ヤマボウシ
48	柄杓	ヒノキ科アスナロ属
49	A折敷(底板)	トチノキ科トチノキ属トチノキ
	B折敷(側板)	ヒノキ科アスナロ属

No.	品名	樹種
50	羽子板	スギ科スギ属スギ
51	木像	マツ科マツ属〔二葉松類〕
52	木像	ブナ科シイ属
53	煙管	イネ科タケ亜科
54	蓋	ヒノキ科アスナロ属
55	木筒	ヒノキ科アスナロ属
56	不明	スギ科スギ属スギ
57	木材の一部	ヒノキ科アスナロ属
58	桶の一部	ヒノキ科アスナロ属
59	桶の一部	ヒノキ科アスナロ属
60	桶の一部	ヒノキ科クロベ属クロベ
61	樽の蓋	ヒノキ科アスナロ属
62	木像	スギ科スギ属スギ
63	独楽	イヌガヤ科イヌガヤ属イヌガヤ?
64	漆椀	ブナ科ブナ属
65	漆椀	ブナ科ブナ属
66	曲物	スギ科スギ属スギ
67	木像	ヒノキ科アスナロ属
68	敷居の一部	ヒノキ科アスナロ属
69	櫛	バラ科ナナカマド属アズキナシ節アズキナシ
70	柄杓	ヒノキ科アスナロ属
71	膳	ヒノキ科クロベ属クロベ
72	彫刻	ヒノキ科アスナロ属
73	漆塗箸	イネ科タケ亜科
74	漆椀	ブナ科ブナ属
75	漆塗下駄	モクレン科モクレン属
76	彫刻	ヒノキ科アスナロ属
77	漆塗箸	イネ科タケ亜科
78	漆塗箸	イネ科タケ亜科



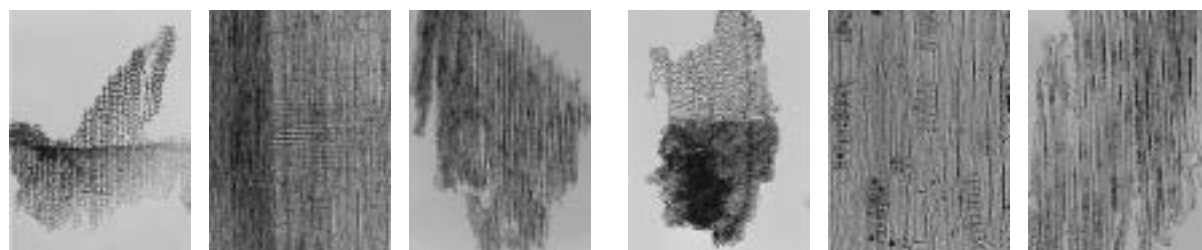
Na-1 木口×20 柁目×50
ヒノキ科アスナロ属

Na-2 木口×20 柁目×50 板目×20
ヒノキ科アスナロ属



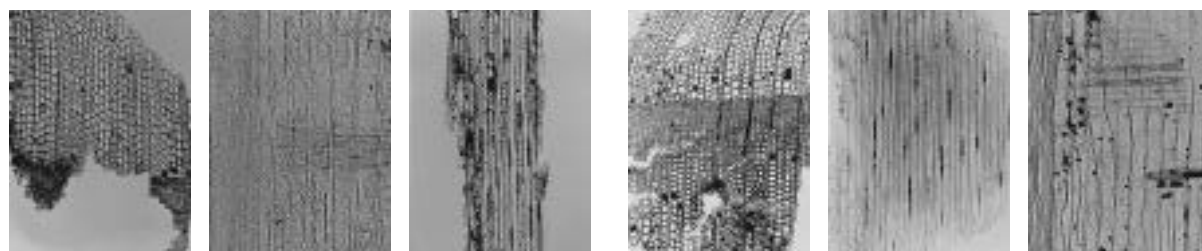
Na-3 木口×20 柁目×50
ヒノキ科アスナロ属

Na-4 木口×20 柁目×50 板目×20
ヒノキ科アスナロ属



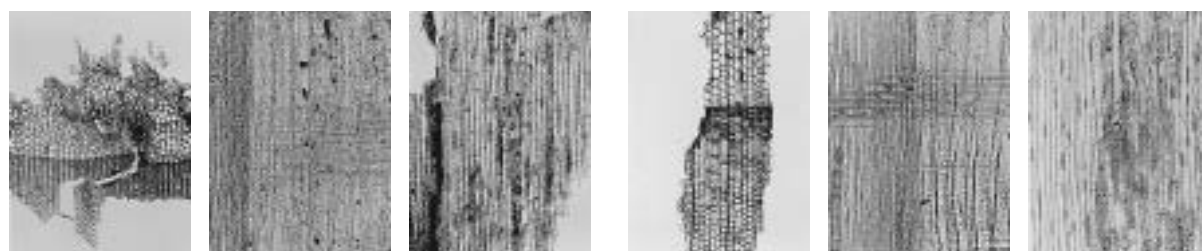
Na-5 木口×20 柁目×50
ヒノキ科アスナロ属

Na-6 木口×20 柁目×50 板目×20
スギ科スギ属スギ



Na-7 木口×20 柁目×50
ヒノキ科アスナロ属

Na-8 木口×20 柁目×50 板目×20
マツ科モミ属



Na-9 木口×20 柁目×50
ヒノキ科アスナロ属

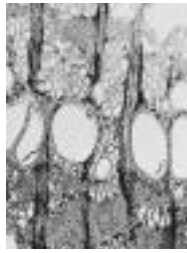
Na-10 木口×20 柁目×50 板目×20
ヒノキ科アスナロ属



Na-11 柁目×50
ヒノキ科アスナロ属

Na-12 木口×20 柁目×20
ニレ科ケヤキ属ケヤキ

第2節 秋田県古川堀反町遺跡出土木製品の樹種調査結果



木口×20
Na-13 ニレ科ケヤキ属ケヤキ



柁目×20



板目×20



木口×20
Na-14 ブナ科ブナ属



柁目×20



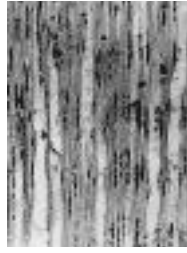
板目×20



木口×20
Na-15 トチノキ科トチノキ属トチノキ



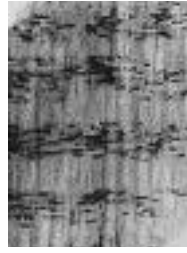
柁目×20



板目×20



木口×20
Na-16 トチノキ科トチノキ属トチノキ



柁目×20



板目×20



木口×20
Na-17 ブナ科ブナ属



柁目×20



板目×20



木口×20
Na-18 ニレ科ケヤキ属ケヤキ



柁目×20



板目×20



Na-19 ブナ科ブナ属

柁目×20



板目×20



木口×20
Na-20 ブナ科ブナ属



柁目×20



板目×20



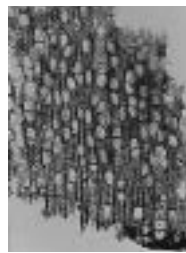
木口×20
Na-21 ブナ科ブナ属



柁目×20



板目×20



木口×20
Na-22 トチノキ科トチノキ属トチノキ



柁目×20



板目×20



木口×20
Na-23 ブナ科ブナ属



柁目×20



板目×20



木口×20
Na-24 ニレ科ケヤキ属ケヤキ



柁目×20



板目×20



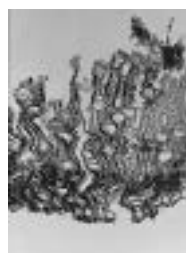
木口×20
Na-25 ブナ科ブナ属



柁目×20



板目×20



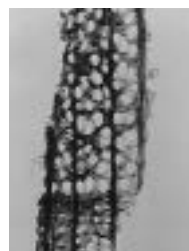
木口×20
Na-26 トチノキ科トチノキ属トチノキ



柁目×20



板目×20



木口×20
Na-27 ブナ科ブナ属



柁目×20



板目×20



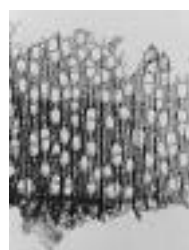
柁目×20
Na-28 トチノキ科トチノキ属トチノキ



柁目×20



板目×20



木口×20
Na-29 トチノキ科トチノキ属トチノキ



柁目×20



板目×20



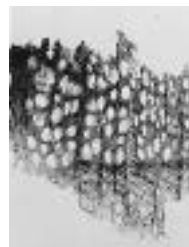
木口×20
Na-30 ブナ科ブナ属



柁目×20



板目×20



木口×20
Na-31 ブナ科ブナ属



柁目×20



板目×20



木口×20
Na-32 ブナ科ブナ属



柁目×20



板目×20



Na-33 ブナ科ブナ属



柁目×20



板目×20



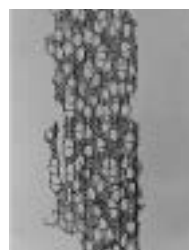
木口×20
Na-34 トチノキ科トチノキ属トチノキ



柁目×20



板目×20



木口×20
Na-35 トチノキ科トチノキ属トチノキ



柁目×20



板目×20



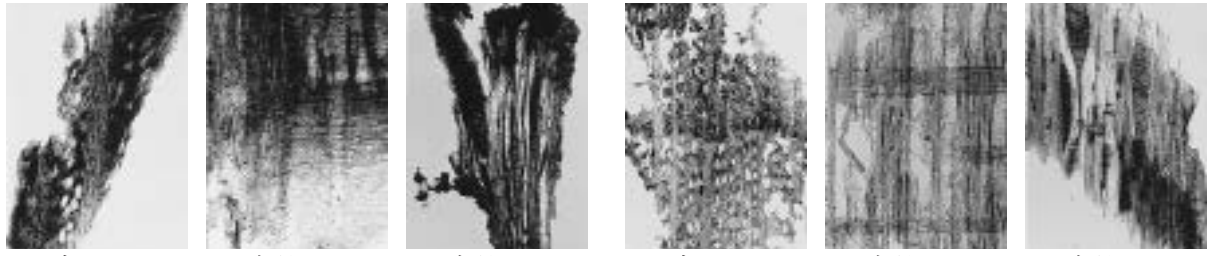
木口×20
Na-36 トチノキ科トチノキ属トチノキ



柁目×20



板目×20



木口×20
Na-37 プナ科ブナ属

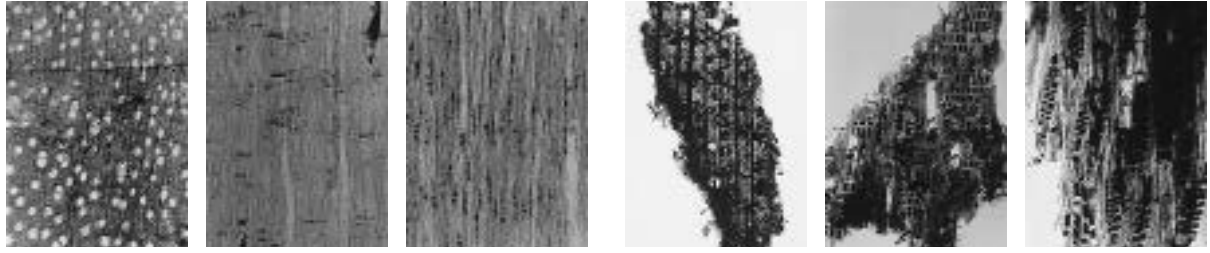
杓目×20

板目×20

木口×20
Na-38 プナ科ブナ属

杓目×20

板目×20



木口×20
Na-39 トチノキ科トチノキ属トチノキ

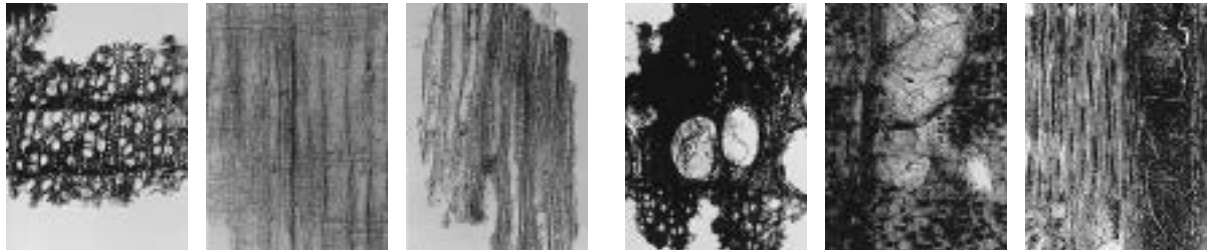
杓目×20

板目×20

木口×20
Na-40 マンサク科イスノキ属イスノキ

杓目×20

板目×20



木口×20
Na-41 モノレン科モクレン

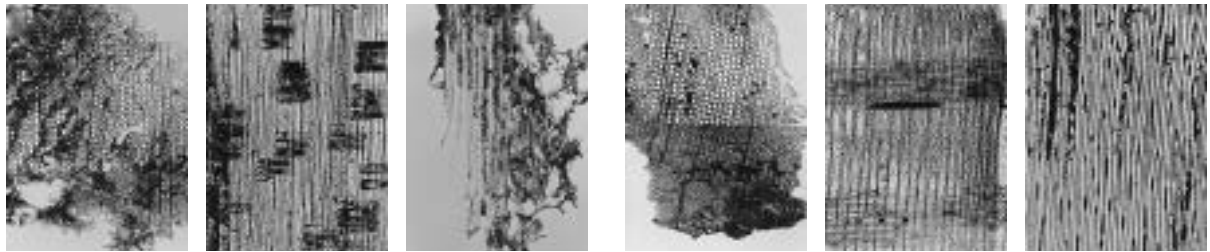
杓目×20

板目×20

木口×20
Na-42 プナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節

杓目×50

板目×20



木口×20
Na-43 ヒノキ科アスナロ属

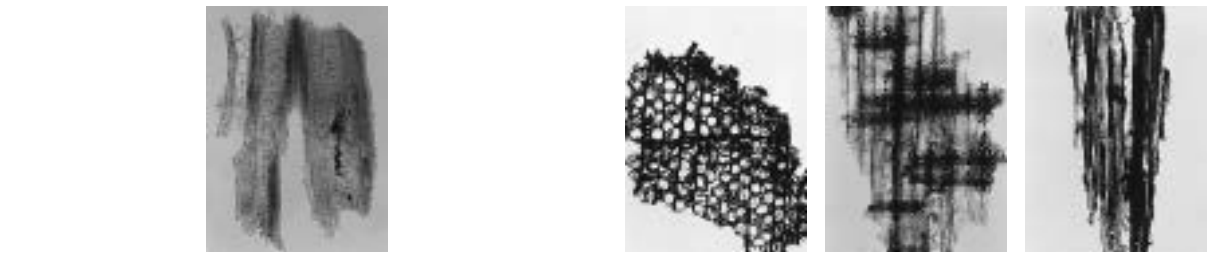
杓目×50

板目×20

木口×20
Na-44 ヒノキ科アスナロ属

杓目×50

板目×20



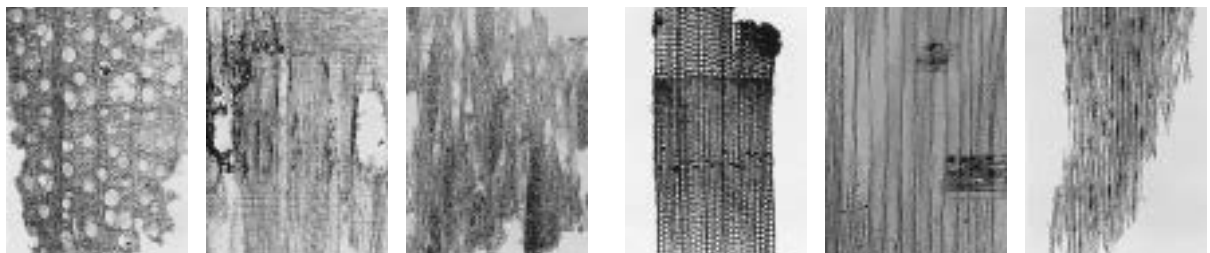
杓目×20
Na-45 イネ科タケ亜科

杓目×20

木口×20
Na-46 カツラ科カツラ属カツラ

杓目×20

板目×20



木口×20
Na-47 ミズキ科ミズキ属ヤマボウシ

杓目×20

板目×20

木口×20
Na-48 ヒノキ科アスナロ属

杓目×50

板目×20

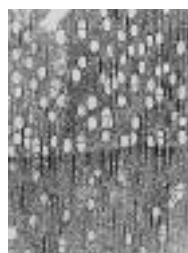


柁目×50



板目×20

Na-49A ヒノキ科アスナロ属



木口×20



柁目×20



板目×20

Na-49B トチノキ科トチノキ属トチノキ



木口×20



柁目×50



板目×20

Na-50 スギ科スギ属スギ



木口×20



柁目×50



板目×20

Na-51 マツ科マツ属〔二葉松類〕



木口×20



柁目×50



板目×20

Na-52 ブナ科シイ属



放射断面×20



接線断面×20

Na-53 イネ科タケ亜科



柁目×50

Na-54 ヒノキ科アスナロ属



木口×20



柁目×50



板目×20

Na-55 ヒノキ科アスナロ属



木口×20



柁目×50



板目×20

Na-56 スギ科スギ属スギ



木口×20



柁目×50

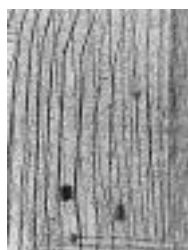


板目×20

Na-57 ヒノキ科アスナロ属



木口×20



柁目×50



板目×20

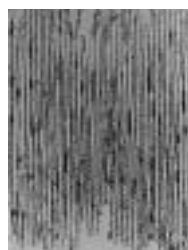
Na-58 ヒノキ科アスナロ属



木口×20



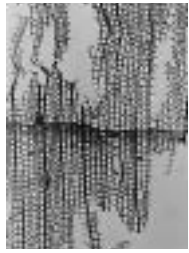
柁目×50



板目×20

Na-59 ヒノキ科アスナロ属

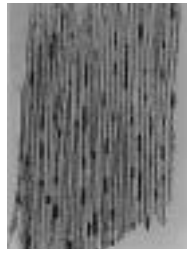
第2節 秋田県古川堀反町遺跡出土木製品の樹種調査結果



木口×20
Na-60 ヒノキ科クロベ属クロベ



柁目×50



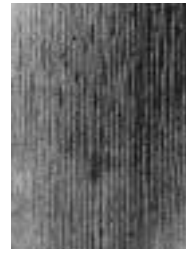
板目×20



木口×20
Na-61 ヒノキ科アスナロ属



柁目×50



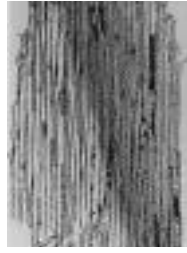
板目×20



木口×20
Na-62 スギ科スギ属スギ



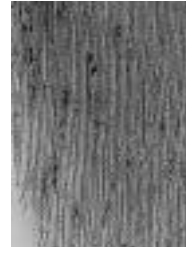
柁目×50



板目×20



Na-63 イヌガヤ科イヌガヤ属イヌガヤ?



板目×50



木口×20
Na-64 ブナ科ブナ属



柁目×50



板目×20



木口×20
Na-65 ブナ科ブナ属



柁目×50



板目×20



木口×20
Na-66 スギ科スギ属スギ



柁目×50



板目×20



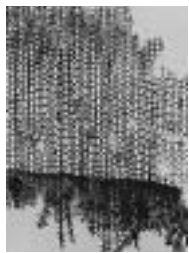
木口×20
Na-67 ヒノキ科アスナロ属



柁目×50



板目×20



木口×20
Na-68 ヒノキ科アスナロ属



柁目×50



板目×20



木口×20
Na-69 バラ科ナナカマド属アズキナシ節アズキナシ



柁目×20



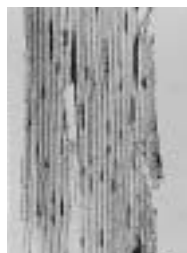
板目×20



木口×20
Na-70 ヒノキ科アスナロ属



柁目×50



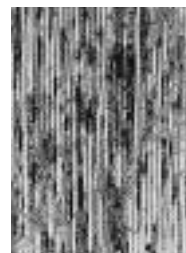
板目×20



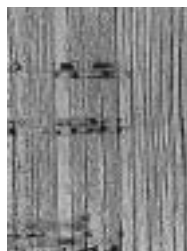
Na-71 ヒノキ科クロベ属クロベ



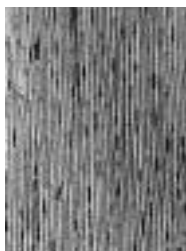
柁目×50



板目×20



柀目×50



板目×20



横断面×20



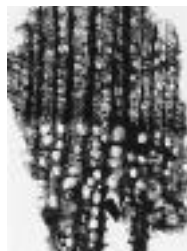
放射断面×20



接線断面×20

No-72 ヒノキ科アスナロ属

No-73 イネ科タケ亜科



木口×20



柀目×50



板目×20



木口×20



柀目×50



板目×20

No-74 ブナ科ブナ属

No-75 モクレン科モクレン属



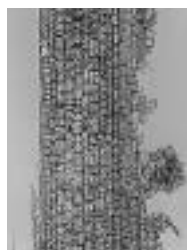
柀目×50



板目×20



横断面×20



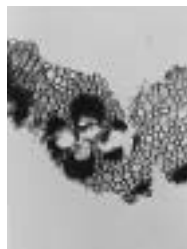
放射断面×20



接線断面×20

No-76 ヒノキ科アスナロ属

No-77 イネ科タケ亜科



横断面×20



放射断面×20

No-78 イネ科タケ亜科

第6章 まとめ

古川堀反町遺跡は、久保田城下町の一角に位置する。そのため絵図や文献史料により屋敷の変遷を理解することができる。文献史料と今回の発掘成果をふまえて、以下に示す。

1 古川堀反町遺跡に居住した人々

古川堀反町で調査された区域には100～1400石の上・中級の家臣が居住していた。江戸時代中期以降は、家老職小野岡氏が居住していたことが『御城下絵図』等からうかがえる。

小野岡氏は、佐竹13代義人の第四子義森を祖とし、常陸の小野に土着したことから小野を姓とした。関ヶ原の戦いに敗れた佐竹義宣に従い秋田へ移る。その後、3代藩主義処の命により小野岡と改姓した。家老職に「義伯・義亮・義著・義年・義音・義礼」の六人を輩出し、家格は引渡、1402石である。『秋田沿革史大成（下）』によれば、禄高は、佐竹姓を名乗る北家、西家、南家、東家、壱岐守家の五家を除くと、「梅津小太郎 三千二百三十六石」を筆頭とし、8番目の禄高1381石を有していた。千石以上を有した家は、御名字衆である四家や分家である壱岐守家を併せても、わずかに20家を数えるのみである。当主は代々「市太夫・大和・右衛門・豫四郎」を称している。戊辰戦争の際、久保田藩は奥羽越列藩同盟からいち早く抜け、官軍へ味方した。12代藩主義堯を官軍へ寝返るよう説得した人物が当時の家老であり、古川堀反町遺跡の調査区内に居を構えていた小野岡義礼である。今回の調査で廃棄土坑から出土した木簡に記された「小野岡大和」も家老職に就いた一人であり、ともに出土した陶磁器の年代から推測すると「義音」であろうと推測される。また木簡は、「大豆三斗入壺俵」を納入した証拠であり、「三梨村」という地名も記されている。三梨村は現在の湯沢市三梨（旧稲川町三梨）である。三梨村と小野岡氏の関係は不明であるが、小野岡氏の支配領があった可能性がある。

18世紀に北側調査区に屋敷を構えていた細川氏は、代々藩医をつとめており、石高は131石である。18世紀後葉から19世紀前葉にかけて屋敷を構えていた真崎氏も、17世紀半ばに屋敷を構えていた清水氏や横田氏もはっきりとはわからないが、やはり似たような禄高を受けていたと考えられる。

南側調査区では根本氏が200年余同地に定住していた。役職や身分の上下による居住地の移り変わりの激しい武家社会では珍しいことである。根本家長屋門は、秋田警察署（現：秋田中央警察署）が建設された昭和30年代後半まで、病院の表門として残っていた。『秋田市史第九巻近世資料編上』の天和4年、元禄7年の『質屋仲間記録』には町奉行として根元（本）庄右衛門の名が記されている。また、幕末に記された『秋田武鑑』には御兵具奉行に根本藤八郎の名がみえる。根本家は代々奉行職に就いていた家系と推測される。また、『秋田沿革史大成（下）』によれば、石高は401石とある。

また江戸時代後期になると、根本屋敷の南側（現在の秋田カトリック教会）には当時家老職にあった疋田氏が屋敷を構えていた。

2 古川堀反町遺跡の変遷

古川堀反町遺跡は、現在の穴門掘を主流として流れていた旧旭川の右岸にあたる場所に立地する。旧旭川の流路は、慶長9（1604）年頃の様子を描いた『御国替当座御城下絵図』や今に残る秋田市内

の地名からおおよその予想をすることが可能である。佐竹義宣が、慶長5（1600）年の関ヶ原の戦いに敗れ、その戦後処理により慶長7年、徳川家康より「出羽国秋田仙北両所」の知行判物を与えられ、常陸水戸から転封されたことにより、翌慶長8年から翌年にかけて神明山（現：千秋公園）に久保田城を築城した。

城下町の整備に伴い、旭川掘り替え事業もほぼ同時期に着工された。『御国替当座御城下絵図』は当時の様子を簡略ではあるが表現している。後に外町（町人町）となる区域にも武家屋敷が建てられている。絵図や戦後まもなくのアメリカ軍による空撮写真からも、秋田市は湿地帯が広がっていたことがわかるが、東根小屋町遺跡や明德館跡でも古川堀反町遺跡同様に、地山面が植物腐敗層であることが報告されている。湿地帯に盛り土（約60cm）をして整地を行い生活面としていたことが今回の調査により確認できた。最初期の造成は自然地形に土を盛っただけであり、調査区内の屋敷規模も比較的小規模なものが多い。城下町の整備が終了する頃の下級武士と同じ規模の屋敷が並んでいたことが絵図の間尺から推測できる。絵図の調査区予想範囲には具体的な姓名は記されず、北から市右衛門・藤左衛門・雅楽丞・甚助・さつま（薩摩）の記載がある。大身の名は姓名も記載されていることから、絵図を描いた者と同等の身分かそれ以下である中級クラスの家臣団の居住地として割り当てられていたと思われる。通りからの屋敷の間尺は市右衛門の六間を最大に他は五間であり、東北では広く使用された間尺で、1間＝約1.91m（6尺3寸）と考えても、約11.46m～約9.55mと小規模である。調査範囲には5軒の屋敷が軒を連ねていたと思われる。北側調査区で検出されたS D 1142は市右衛門と藤左衛門の屋敷境である可能性がある。S B 1012は藤左衛門の屋敷の母屋である可能性が高く、江戸時代前期に東北地方で使用された1間＝6尺3寸の間尺を基本とした建物跡である。またS B 1233は市右衛門屋敷跡の可能性もある。一方、S A 676やS A 678・839は建物基礎により周囲を調査できず、全容は不明である。今回は柱列として報告するが、建物跡の一部である可能性がある。S D 01は城下町成立期当時から、古川堀反町と片側対面町である土手長町を分ける町境兼屋敷境として存在していたと思われる。北側調査区の第5期まで使用されていたと思われるため、造成の度に溝幅を広げていった可能性が考えられる。南側調査区からは排水に関わると思われる一連の水場遺構が検出されている。

北側・南側調査区の第2期にあたる寛文初（1666～'69）年の様子を描いた『久保田城御城下絵図』には、前代の5名に代わり、北側調査区では、清水氏・横田氏が、南側調査区では根本氏の名がある。S D 822は清水氏と横田氏の屋敷境で、ほぼ絵図通りの位置で検出した。S B 838・1006・1026は横田氏の屋敷跡である可能性がある。また南側調査区のS A 451・497・723は建物基礎により周囲を調査できず、全容は不明である。今回は柱列として報告するが建物の一部である可能性がある。

北側調査区の第2期・南側調査区の第3期にあたる寛保2（1742）年の様子を描いた『御城下絵図』では、北側調査区の清水氏の敷地に家老職であった小野岡氏が入ってくる。横田氏の敷地には代わって細川氏が屋敷を構える。S D 822は引き続き両家の屋敷境として使用されたと考えられる。一方、南側調査区では根本氏が南側へ3間（約6m）ほど屋敷地を広げていることが絵図にみえる。以後、幕末までこのまま屋敷割が変わらないものと思われる。

北側調査区・南側調査区の第3期にあたる『城下御絵図』寛政（1789～1800）年間や文政4（1821）年頃の様子を描いた『御城下絵図』には、北側調査区では細川氏の代わりに真崎氏が屋敷を構えている。絵図にはそれぞれ敷地の間尺が記されていないため、推測ではあるが、S D 801は小野岡氏・真

崎氏の屋敷境にあたる。さらにS A 823・930・1222は板塀跡と推測される。S A 823は小野岡家側の、S A 930・1222は真崎家側のものと考ええる。

北側調査区の第4期・南側調査区の第3期にあたる文政12（1829）年頃の『羽州久保田大絵図』では、真崎氏の敷地を小野岡氏が接収し、根本氏の敷地と境を接するようになる。北側調査区のS B 817は小野岡家の書院か番所であると考えられる。南側調査区のS B 406は根本家の主要な建物跡を考える。

北側調査区の第5期・南側調査区の第4期にあたる時期は、文政12年の屋敷割で明治時代を迎えていることが、秋田市佐竹史料館所蔵の嘉永2（1849）年の『御城下絵図』や出土する遺物から確認できる。北側調査区のS A 735は目隠し塀であった可能性が考えられる。また本遺跡最大の廃棄土坑であるS K 814もこの時期の生活面から掘り込まれている。「小野岡大和」の名が記された木簡も沢山の遺物とともにこの廃棄土坑から出土している。また南側調査区では、攪乱中ではあるが、「根元（本）氏」と墨書で記された脚風呂が出土している。これらの遺物から、小野岡氏・根本氏が実際に屋敷を構え居住していたことが裏付けられた。

3 出土遺物

陶磁器は肥前産をはじめとし、中国・瀬戸美濃・萩・信楽・備前・福岡の他、京焼などの関西系、在地系のものと様々である。肥前産陶磁器が突出して出土した理由としては、北前船の活躍があげられる。当時、瀬戸美濃は肥前と並ぶ陶磁器の二大産地だったが、北前船により日本海経由で輸送されるため、瀬戸美濃産陶磁器出土の割合は全体の1割にも満たない。

肥前産陶器は、胎土目積み段階・砂目積み段階の皿が出土している。1580～1610年代に生産された鉄絵陶器、いわゆる「絵唐津」皿や17世紀半ばに生産され、重ね焼きのため見込みに蛇ノ目釉剥ぎや砂目積み痕がある「内野山窯」産の内外掛け分け、及び内外銅緑釉、内側が鉄釉と銅緑釉の掛け分けの皿や素地が白く「卯手」と呼ばれる皿も出土した。また白化粧土を掛けてから櫛目状工具を用いて、波形を描く波状文や刷毛で白化粧土を掛ける刷毛目文、印花や文様を彫った後白化粧土を掛けてから掻き落とし（象嵌）、施釉する「三島手」の皿も出土している。

壺・甕類は、1630年代以前の内面に青海波状の工具痕、それ以後の格子目状の工具痕のあるものや、口合わせや重ね焼きのため口縁部や底部に胎土目や貝目が確認できるものもある。胎土目から貝目への移行は17世紀前半頃である。白化粧土を塗った上に鉄と銅の顔料で文様を描き、その上に透明釉を掛けて焼いた「二彩手」の甕や大皿も出土した。

17世紀後半～18世紀前半の京焼風陶器では、底部に円刻だけのものや「清水」刻印もあり、山水画の錆絵が描かれているものや、厚手で胎土も粗く、高台を高くし、全体に施釉した「呉器手」（朝鮮茶碗の模倣）碗も出土している。

播鉢は16世紀代の備前産、17世紀の瀬戸美濃産、関西系も出土していたが、肥前産播鉢は、17世紀ではロクロ成形で、口縁部のみ鉄釉を施釉している。18世紀以降は叩き成形に替わり、全面施釉となる。高台は18世紀では胴部に、19世紀では底部に貼り付けられている。

中国磁器は17世紀前後の景德鎮窯や漳州窯の皿が比較的出土している。景德鎮窯はくっきりとした絵柄で、高台畳付は、削られていて粗い砂が付着している。一方、漳州窯で生産された磁器は肥前産

や景德鎮窯に比べ薄くぼやけた絵柄の印象である。高台暈付は削られず、暈付にまで施釉し焼成しているため白く細かい砂粒とともに粉殻の繊維が付着している。

肥前産磁器では、17世紀前半のものから幕末まで広い時代範囲で、多種多様の製品が出土している。1650年代以前のものは特に「初期伊万里」と呼ばれ、非常に高価であるが、かなりの量が出土している。初期伊万里はサヤが使用されず、裸で焼成されるため灰かぶりとなるものが多く、皿の高台は比較的小さい。碗の暈付は無釉で、焼成時の粉殻や砂が付着している。碗には鉄釉を施釉し、高台を削り、天目型に仕上げた碗も出土している。また大皿を中心に生産し、口縁が折られ大きな鏝がある山辺田窯産のものも出土している。

成形技法では、17世紀末に始まる蛇ノ目凹台高台、17世紀中頃から始まる型打ち成形や、装飾技法として1690年代を上限とし、18世紀に全盛を迎えるコンニャク印判や17世紀後半から始まり、文様部分を切り抜いた型紙を用意し、それを器面にあてて呉須を刷り込む型紙摺りの製品も出土している。また線による区画のある明末の磁器を真似た芙蓉手文様の器は海外輸出用に生産されたもので、いくつか確認している。

色絵は1640年代に始まり、「古九谷」と呼ばれる大皿や、1657年に始まる赤絵を特徴とした「柿右衛門」に似た柿右衛門様式の色絵も確認されている。

波佐見産磁器は江戸初期に高級品とされた青磁の他、江戸中期以降に大量生産された粗製・厚手の染付碗や、見込み輪髷の「くらわんか」手の皿も出土している。

1780～1820年代に生産された広東系の碗は、1840年代には端反碗がとって代わるが、端反碗の出土の数と比較すると極端に少ない印象を受けた。

割れた磁器の補修痕として、1780年代以前は「漆継」、1780年代以降ではガラスを用いる「焼継」が行われ、底部には焼継師の銘を確認している。

幕末になると、瀬戸美濃産の磁器や在地系の磁器も現れる。特に瀬戸美濃産磁器の胎土は、肥前産に比べてきめ細かく、光沢がある印象である。

以上、古川堀反町遺跡出土陶磁器について概観すると、戦国～江戸初期では桃山茶陶器（志野・織部・絵唐津）が目立つ。この時代、「茶の湯」が武家社会で流行し、初代秋田藩主である佐竹義宣は利休七哲の一人である古田織部の弟子であったことから、佐竹家には「茶の湯」の風習が強く、常陸時代以来の家臣が、佐竹家の移封に際してそのまま持ちこんできたものとする。また中国磁器もこの時代のもものが特に集中している。

同じ久保田城下町遺跡で平成14～15年に調査された東根小屋町遺跡と共通しているのは、18世紀後半～19世紀代の肥前磁器が前代に比べ少ないことである。この時代には、関西系や在地系陶器の他、瀬戸美濃産磁器がとって代わっていく様子がうかがえる。在地系では、相馬焼の流れを組み、18世紀後葉に始まった角館白岩焼や秋田寺内焼と思われる製品が、19世紀前後の層や遺構内出土遺物からも確認されている。また秋田県特有の文化であり、『秋田風俗絵巻』にも描かれ、江戸末期の院内銀山の医師である門屋養安の日記にも度々記されている「貝焼き」に使用した脚風呂は、調査の結果、江戸後期の廃棄土坑から出土し、19世紀前後に始まったことが考えられる。玩具として脚風呂のミニチュアも出土しており、文化として根付いていた様子がわかる。

また陶磁器の他、年代を特定できる遺物として下駄・漆椀・煙管がある。古川堀反町遺跡では様々

なタイプの下駄が出土した。“露卯下駄は十二世紀に出現し、都市部では近世まで存続した。陰卯下駄は十三世紀に出現し、近世初頭以前にいったん廃絶した。しかし、近世のある時期に再び出現し現在に至る。露卯下駄と陰卯下駄は、ある時点で交代したといわれ、『我意』や『守貞慢稿』ではその時期を享保（1684～88）年間としている。宮本馨太郎は「幕末の頃には江戸・大坂などの大都市では露卯下駄はほとんど廃絶して、尾張国など、地方の町村に余命保つ状況であった」とし、1934年鹿児島県の宝島で現用品の片足が採集されたのをもち、日本における露卯下駄の使用が終始したと述べている。江戸の出土資料からみるかぎり、露卯から陰卯への変換は『我意』や『守貞慢稿』の記述よりはるかに遅く1800年前後に急速に進んだと考えられる。”と古泉氏は唱える。

この記述と同様のことが古川反町遺跡出土の下駄からもいえる。陰卯下駄は北側調査区第1・2期の遺構覆土から出土しているが、第3・4期では確認されず露卯下駄が中心となる。しかし、第5期の遺構であるS K 814からは再び多数出土している。南側調査区も同様に19世紀に入る第3期の遺構からのみ陰卯下駄が出土している。一方、露卯下駄はわずか1点だけである。下駄の寿命から考察して、秋田県では19世紀前葉～中葉が露卯下駄から陰卯下駄へ移り変わる時期であると思われる。

漆器は17世紀代のものから19世紀前半までのものが多数出土している。秋田県では、湯沢市（旧稲川町川連）の伝統工芸である川連漆器があげられる。今から800年前、稲庭城主小野寺重道の弟・道則が豊富な木材と漆を使用して、家臣に内職として武具に漆を塗らせたことが始まりと伝わる。江戸時代に入ると椀類作りが開始され、元禄（1688～1704）年間の頃にはすでに製造・販売が盛んになっていくことから、これら出土品は川連塗の可能性がある。器形は、江戸の遺跡から出土したものと似た形が多く、17世紀前半の椀は浅く口径が大きい平椀や高坏形で腰高のものが確認される。17世紀後半～18世紀前半では腰が張り、器壁がほぼ垂直に立ち上がるものがみられる。また18世紀後半では腰の高さが目立たなくなる。19世紀前半では高台がさらに低くなり、腰が張ったものが主流となっていく。

当時の武家社会では最も正式な宴会は本膳（式正）料理を供するものであるが、これは漆椀（飯・汁）やかかわらけを用いてそれぞれ七つ五つ三つの膳を供するのが最も古い形態である。これに代わるものとして用いられたのが、茶道の懐石料理で、禅寺の禅椀を模したと伝えられる。17世紀以降は本膳料理と相互に影響を与え合い、18世紀後半には簡略化された形の本膳が成立し、三つの膳にそれぞれ七つ五つ三つの椀を供していた。漆器製品はハレの食器として特に使用していたものである。

これらの漆器製品には、文様として家紋が描かれているものが数点見受けられる。その中には、小野岡氏の家紋である「剣木瓜紋」や細川氏の家紋である「九曜紋」が確認されている。また姻戚関係と思われる他家の家紋も確認された。

煙管は、雁首と吸口合わせて、計58点出土している。ほぼ古泉編年に一致する出土をしていた。喫煙の風習は、天正（1573～92）年中に南蛮船によってもたらされたといわれ、慶長10（1605）年には喫煙が大流行し、その後数度の禁煙令が公布されたにもかかわらず、喫煙の風習は日本人の間に深く浸透していく。初期の煙管は、蠟着などの製作工程が多いが、時代が下るにつれ、職人技術の向上のため単純化し、直線的となる。また、特別な煙管として、断面八角で全体が金属の水口煙管と思われるものや、大型の煙管の吸口・羅宇の一部も出土している。また喫煙用具として、火入れや灰落としといった陶磁器も出土している。

第6章 まとめ

その他の鉄製品では、武家屋敷跡らしく鎌や切歯・小柄・鉄砲玉が出土しており、趣向的なものとして釣針も出土している。土錘も出土していることから、魚を獲ることが住人達の日常的な楽しみであったと思われる。

一方、祭祀的なものとして木彫りや土製品の獅子頭、その他の神様の土製人形が出土している。権現舞に用いられる獅子頭は、鳥海修験者らによって、「権現様」と称されるようになり、頭そのものが信仰の対象となっていた。近世においてはささら舞や獅子舞・獅子踊りと解されるが、この獅子頭を玩具、または置物の一種としたのであろう。

その他土製人形以外の玩具は、羽子板・独楽・碁石・飯事のミニチュア等が出土している。

以上のことから古川掘反町遺跡には、秋田藩佐竹家の上・中級家臣団が屋敷を構え生活していたことが判明し、文献史料などを裏付けることとなった。

引用・参考文献

秋田市 『秋田市史 第三巻 近世 通史編』 2003（平成15）年

秋田県公文書館蔵 『細川氏系図』

渡部景一 『図説 久保田城下町の歴史』 無明舎出版 1983（昭和58）年

渡部景一 『『梅津政景日記』読本 秋田藩家老の日記を読む』 無明舎出版 1992（平成4）年

渡部景一 『秋田市歴史地図』 無明舎出版 1984（昭和59）年

渡部景一 『久保田城ものがたり』 無明舎出版 1983（昭和58）年

秋田魁新報社 『時の旅 四百年 佐竹氏入部』 2004（平成16）年

橋本宗彦編纂 『秋田沿革史大成（下）』 加賀屋書店 1973（昭和48）年

越前谷国治 『40年前の秋田市』 無明舎出版 2003（平成15）年

則道（三浦賢童編） 『秋田武鑑』 無明舎出版 1983（昭和58）年

秋田市 『秋田市史 第九巻 近世 史料編上』 1998（平成9）年

秋田県教育委員会 『東根小屋町遺跡－秋田県教育・福祉複合施設整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』 秋田県文化財調査報告書第387集 2005（平成17年）

大橋康二 『考古学ライブラリー55 肥前陶磁』 ニューサイエンス社 1989（平成元）年

大橋康二 『世界をリードした磁器窯 肥前窯』 新泉社 2004（平成16）年

庄内昭男 『秋田ふるさとやきもの好 見つける喜びがあふれている』 秋田活版印刷 2006（平成18）年

江戸遺跡研究会編 『図説江戸考古学研究事典』 柏書房 2001（平成13）年

古泉弘 『考古学ライブラリー48 江戸の考古学』 ニューサイエンス社 1982（昭和62）年

中里壽克監修 『産地別 すぐわかる うるし塗りの見わけ方』 東京美術 2000（平成12）年

丹羽基二 『家紋と家系事典』 名前からわかる自分の歴史』 講談社 1995（平成7）年

丸山浩一 『秋田の家紋』 秋田魁新報社 1983（昭和58）年

金森正也 『『秋田風俗絵巻』を読む』 無明舎出版 2005（平成17）年

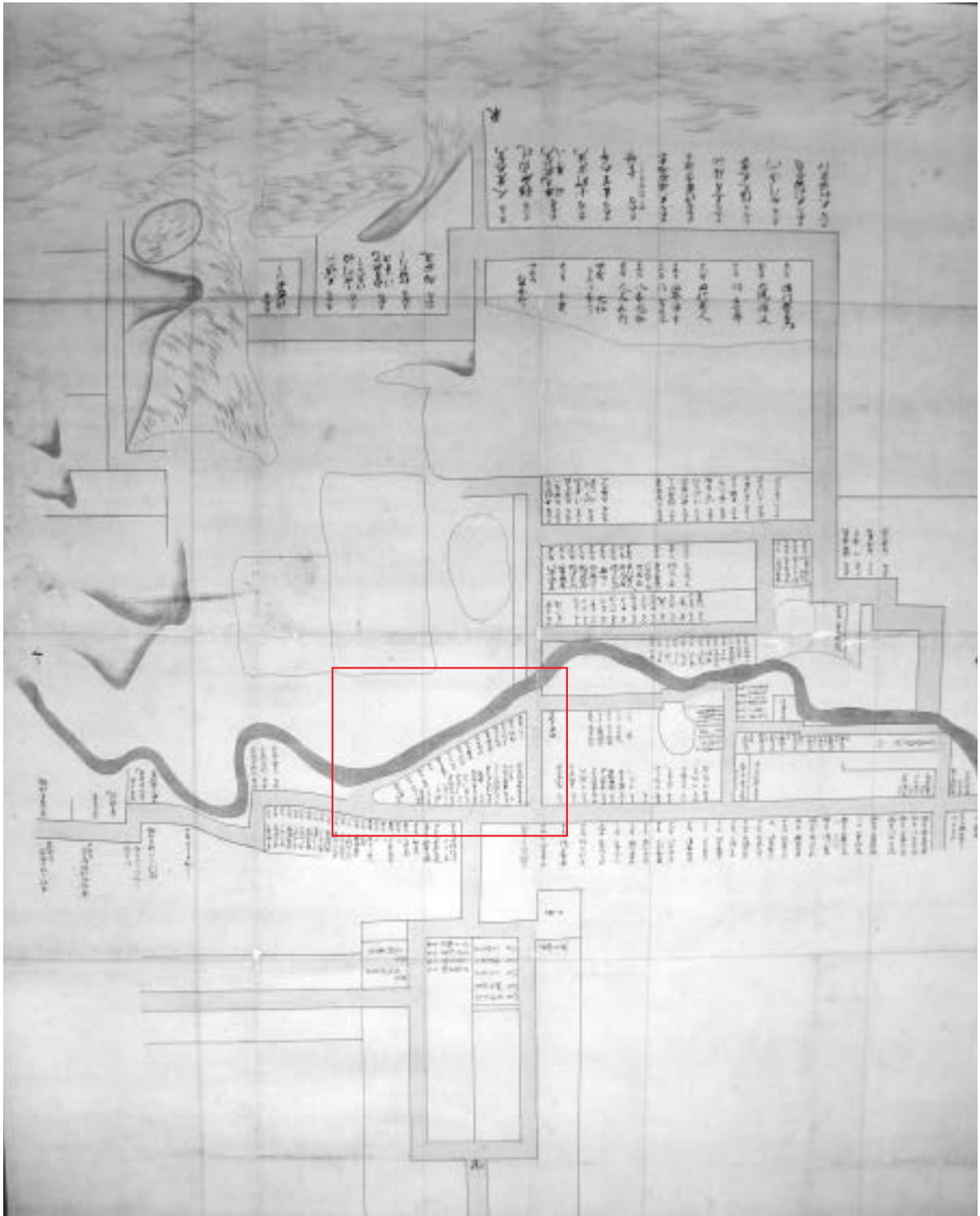
茶谷十六 『院内銀山の日々 「門屋養安日記」の世界』 秋田魁新報社 2001（平成13）年



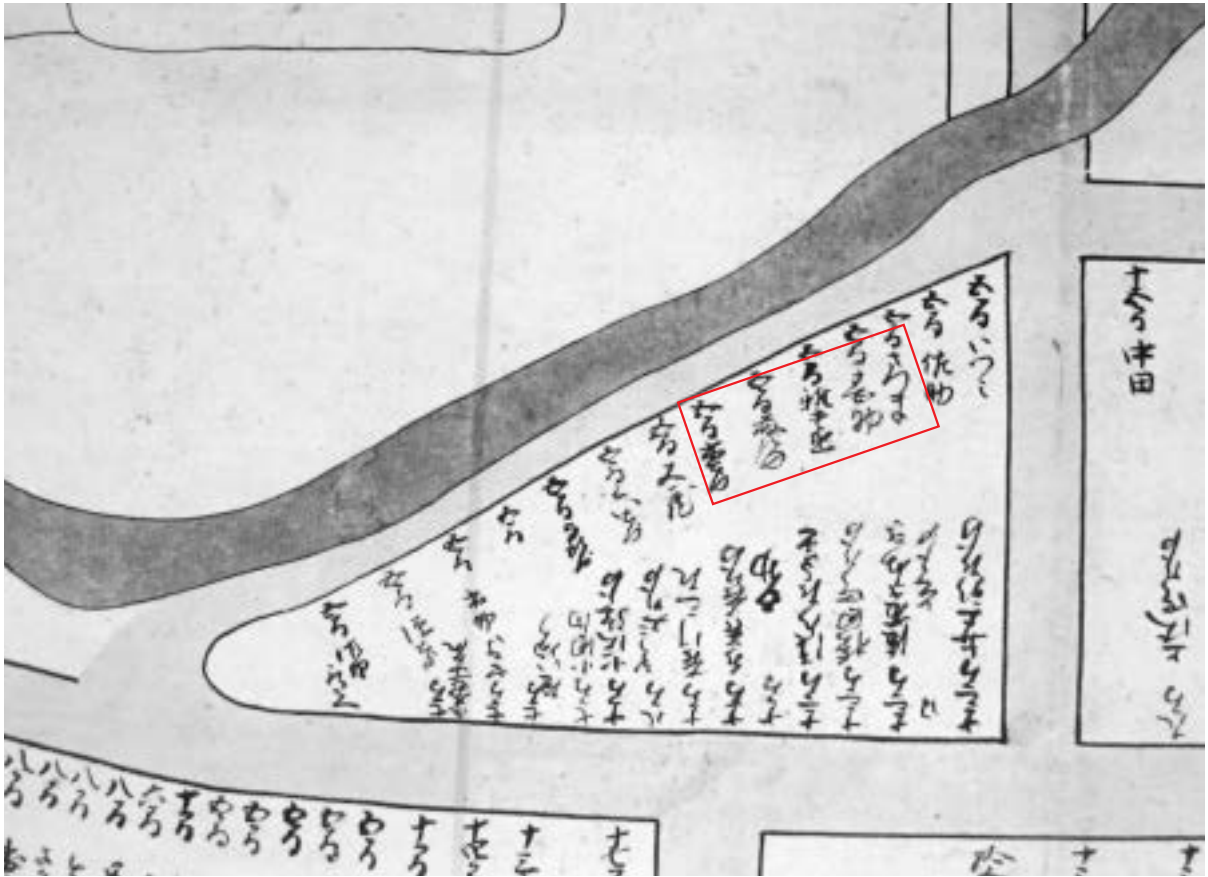
1 現在の古川堀端通り（北から）



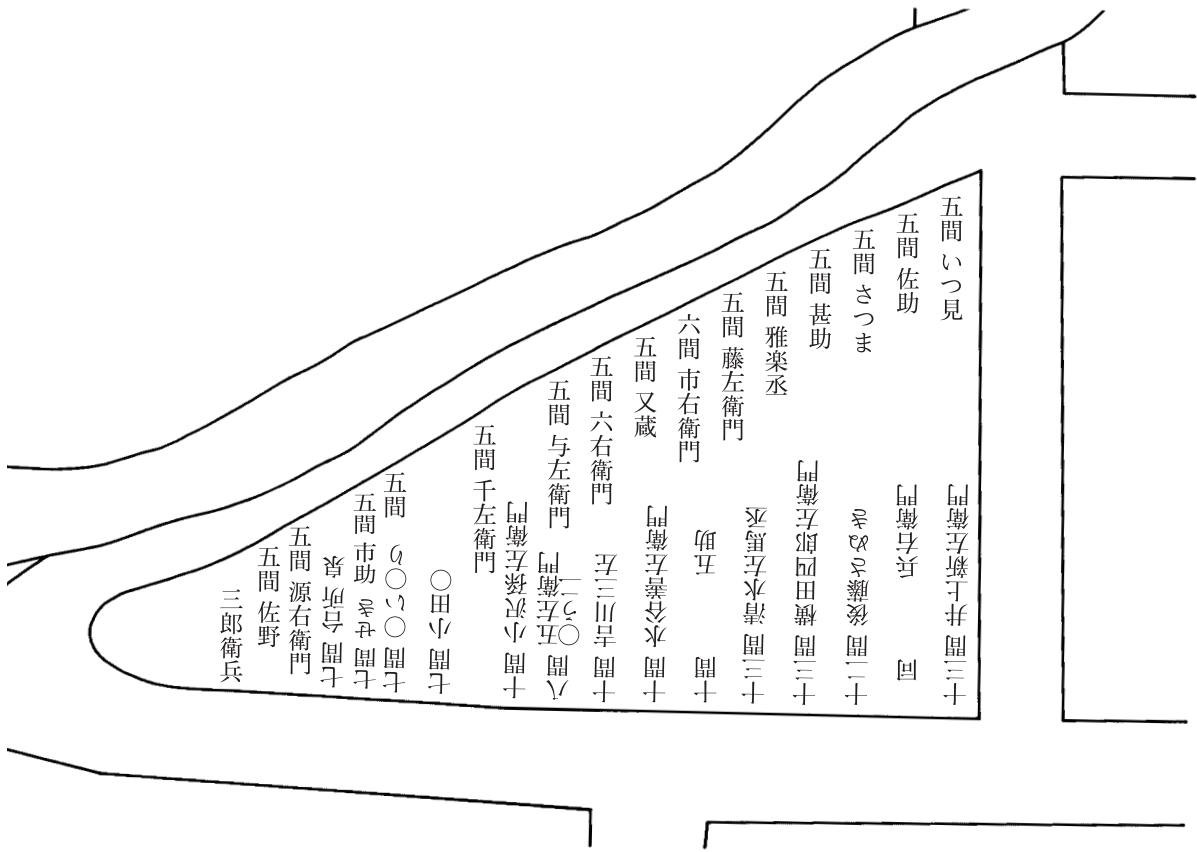
2 遺跡近景（北西から）



1-① 『御国替当座御城下絵図』慶長9（1604）年



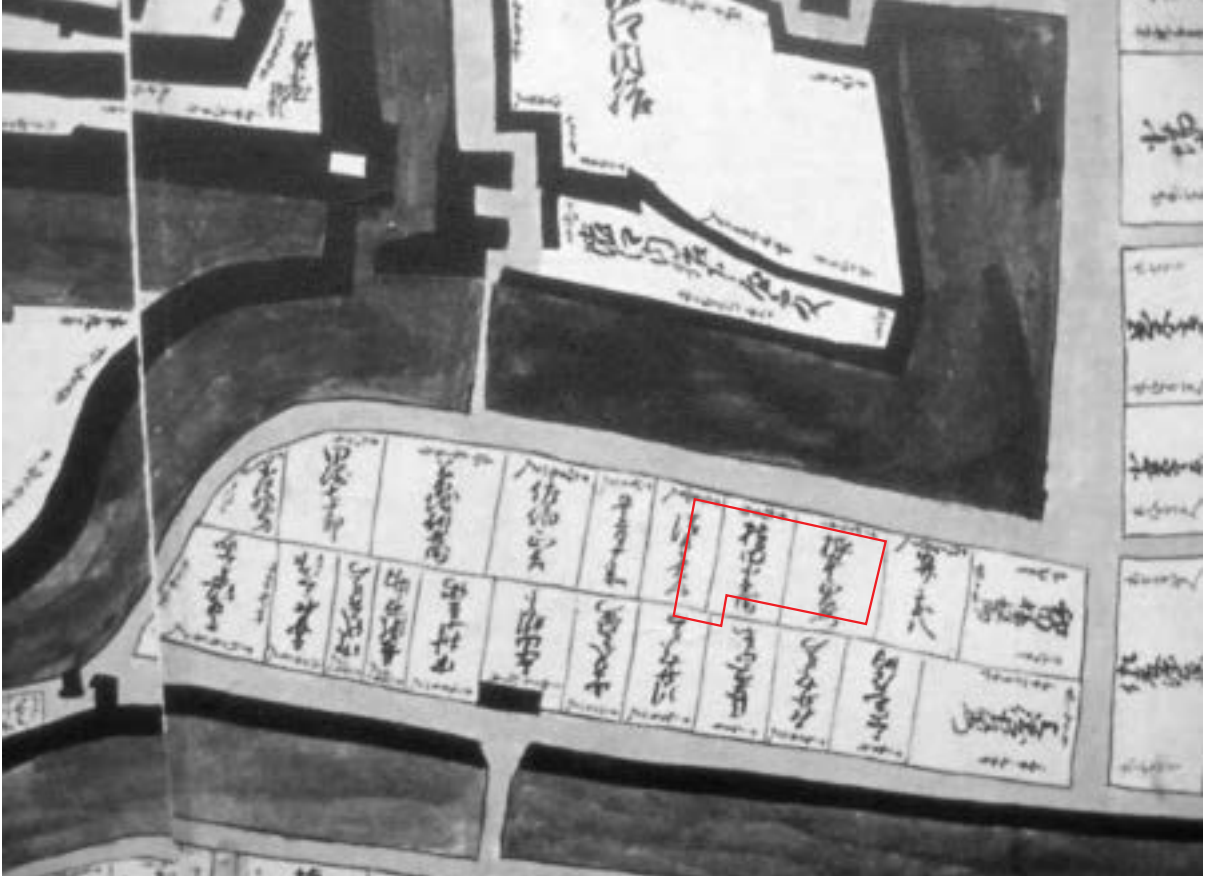
1-② 遺跡周辺拡大図



1-③ 解説



2-① 『久保田城御城下絵図』 寛文初（1661）年



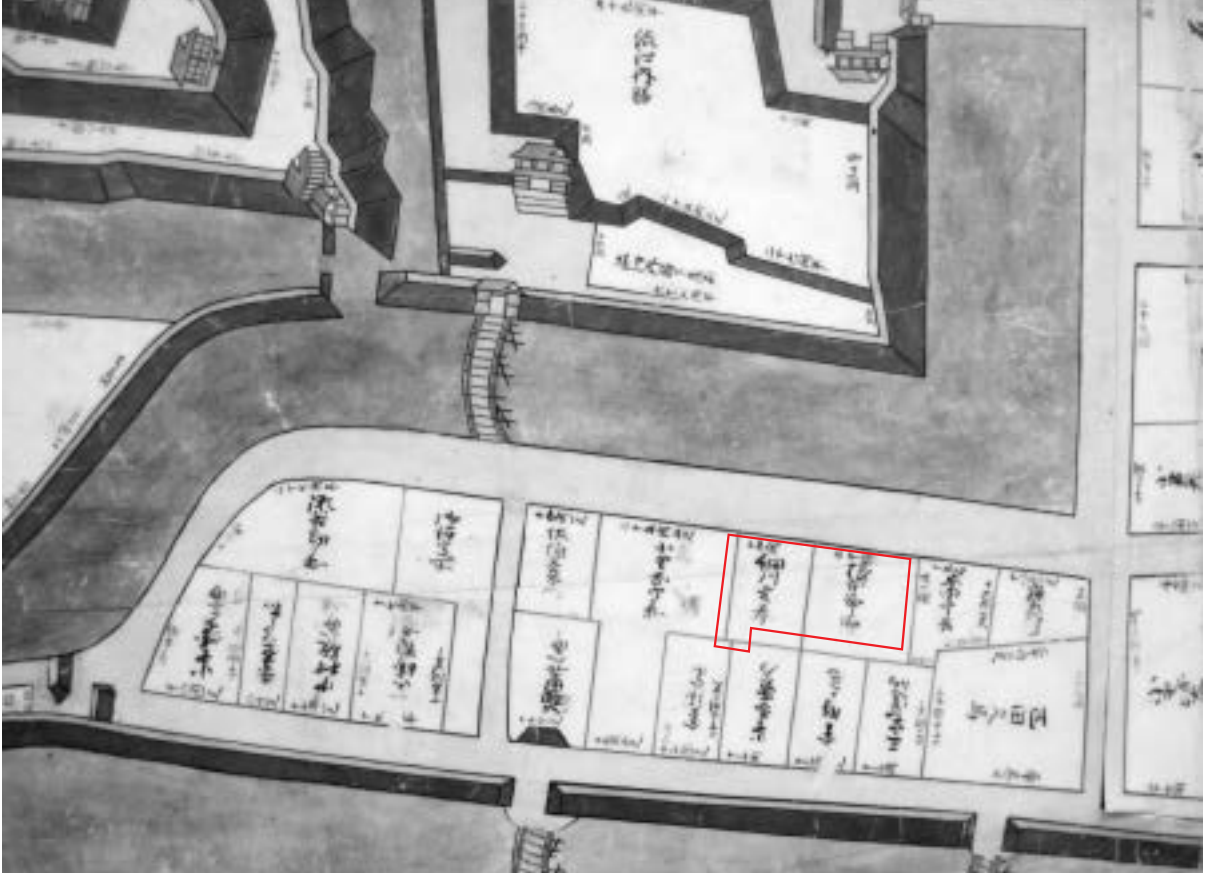
2-② 遺跡周辺拡大図



2-③ 解説



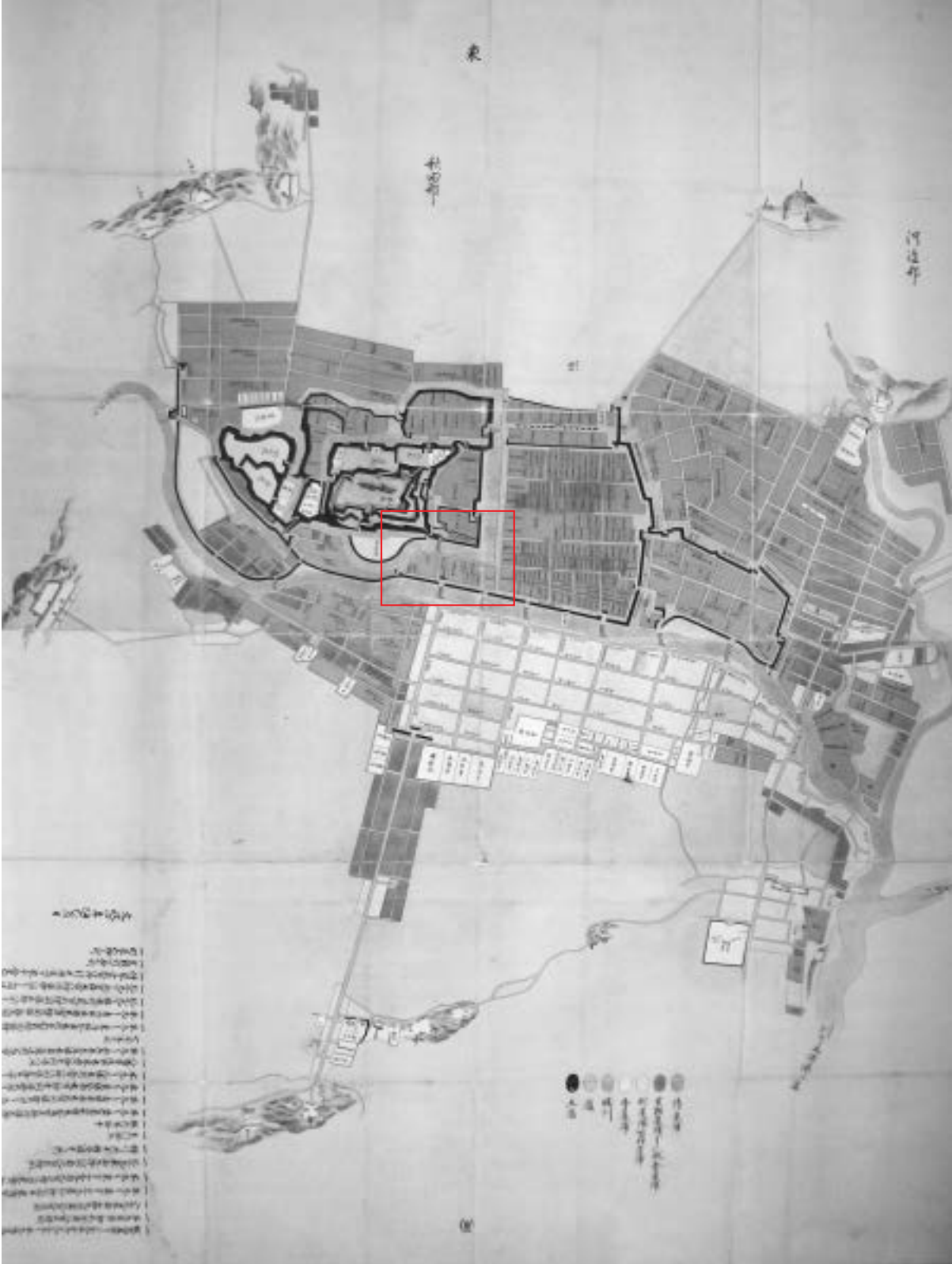
3-① 『御城下絵図』寛保2(1742)年



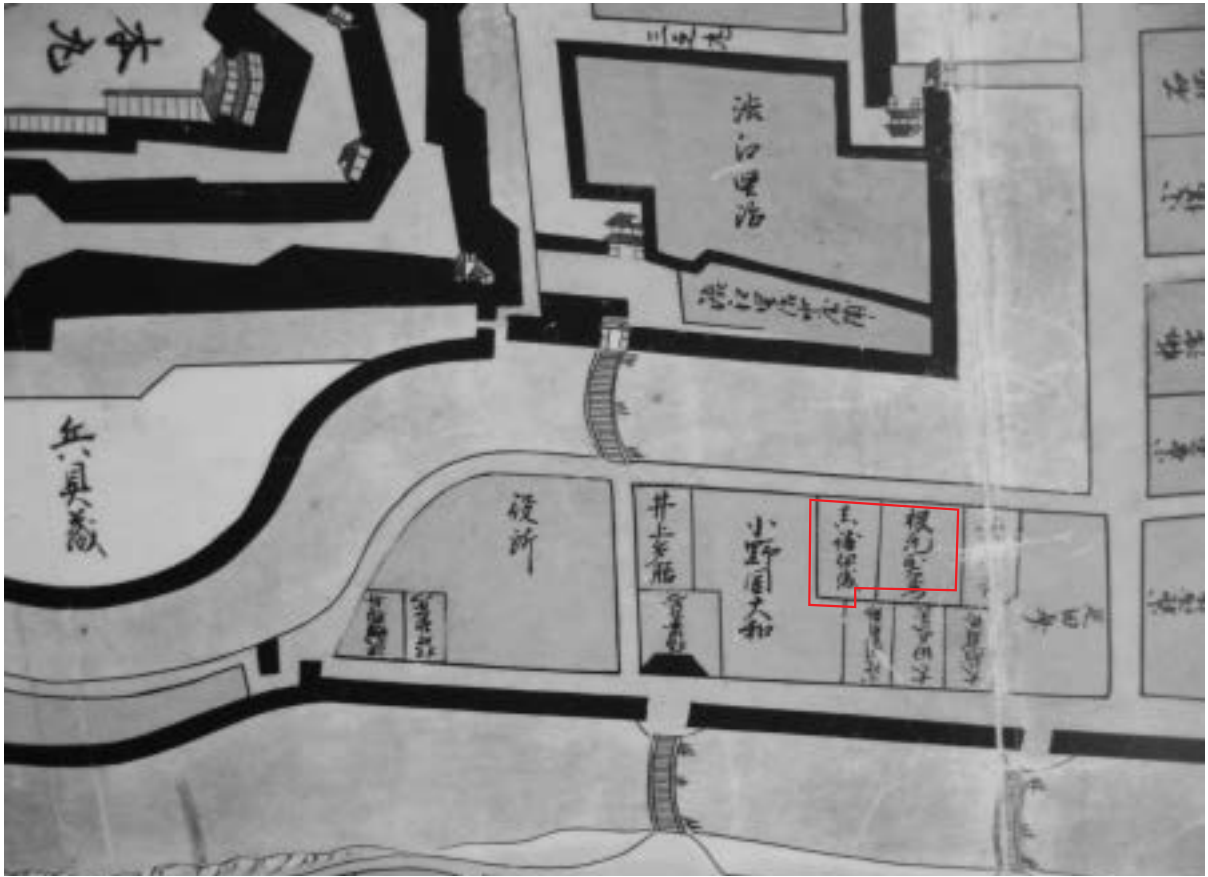
3-② 遺跡周辺拡大図



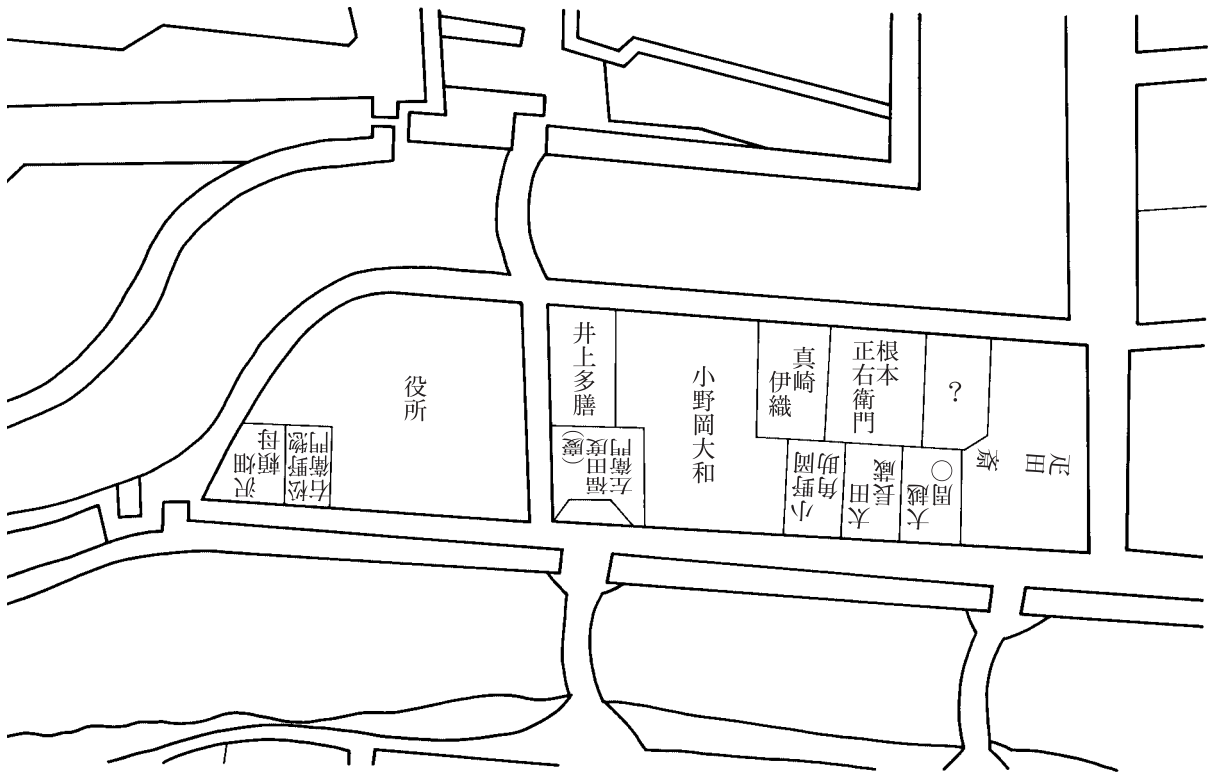
3-③ 解説



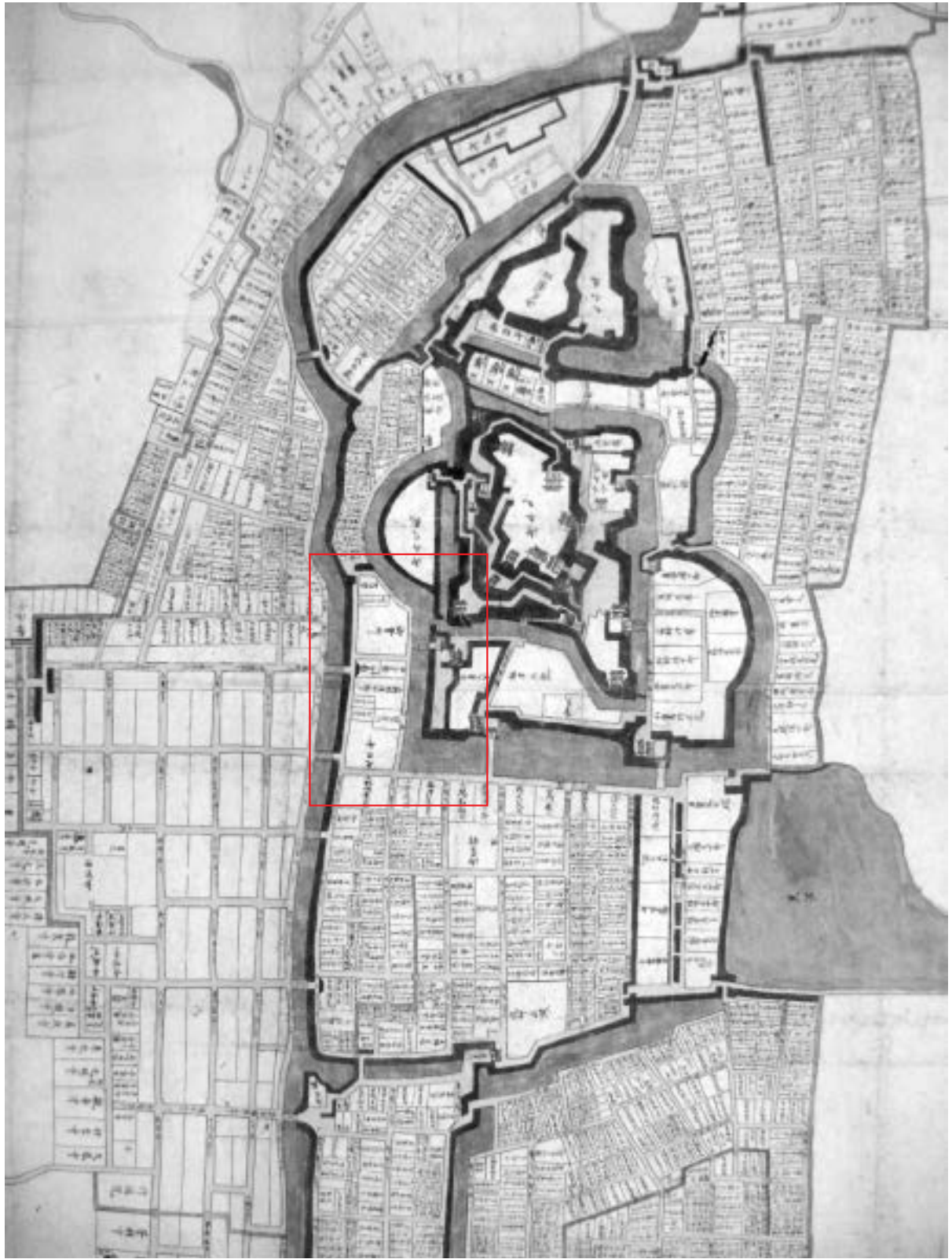
4-① 『御城下絵図』文政4（1821）年



4-② 遺跡周辺拡大図



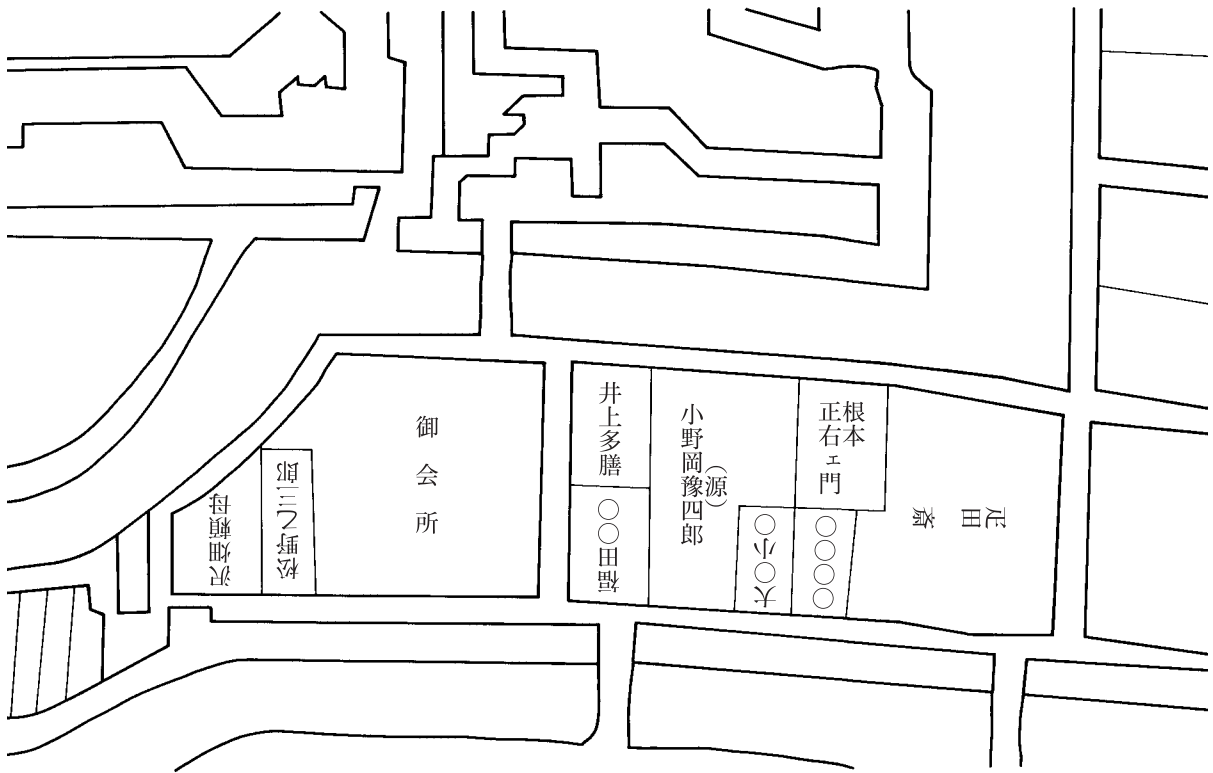
4-③ 解説



5-① 『羽州久保田大絵図』文政12（1829）年



5-② 遺跡周辺拡大図



5-③ 解説



上空から見た秋田市 (1948年撮影)



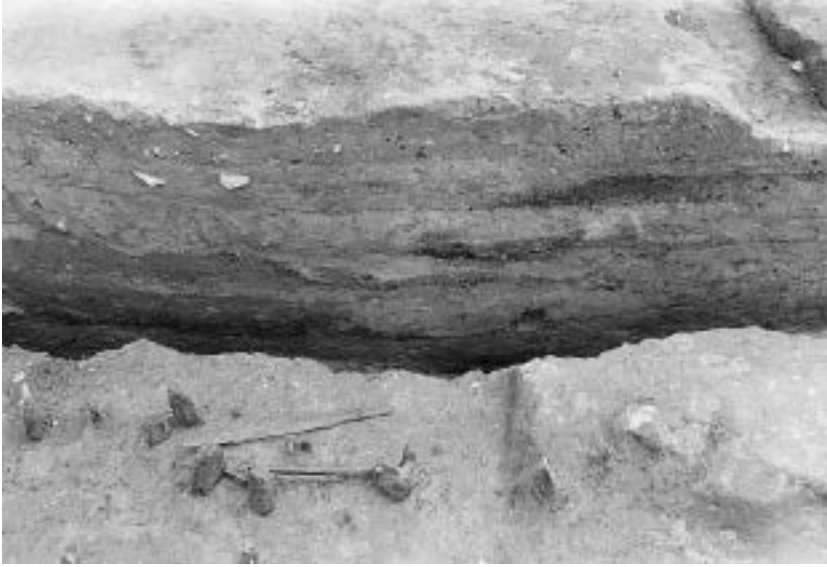
上空から見た秋田市 (1967年撮影)



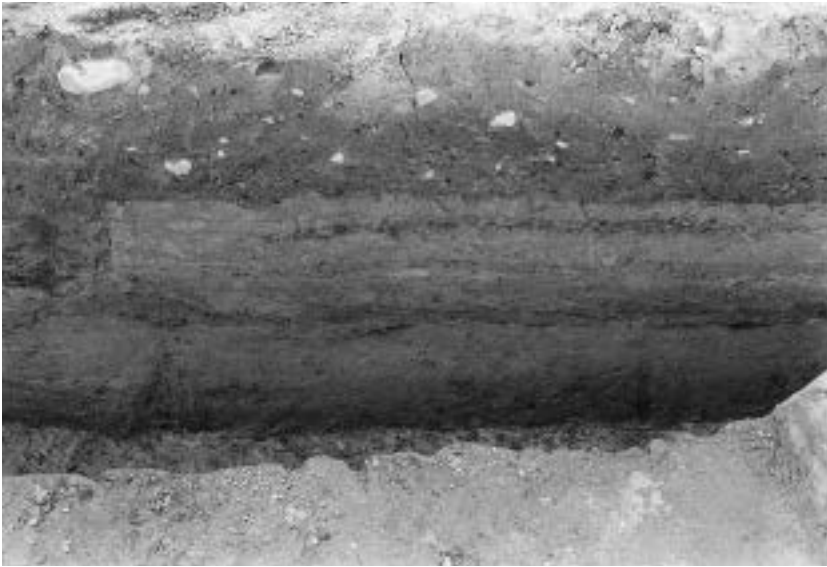
1 表土除去後の調査区 (北東から)



2 北側調査区作業風景 (北から)



1 第2トレンチ基本土層
(北から)



2 第3トレンチ基本土層
(東から)



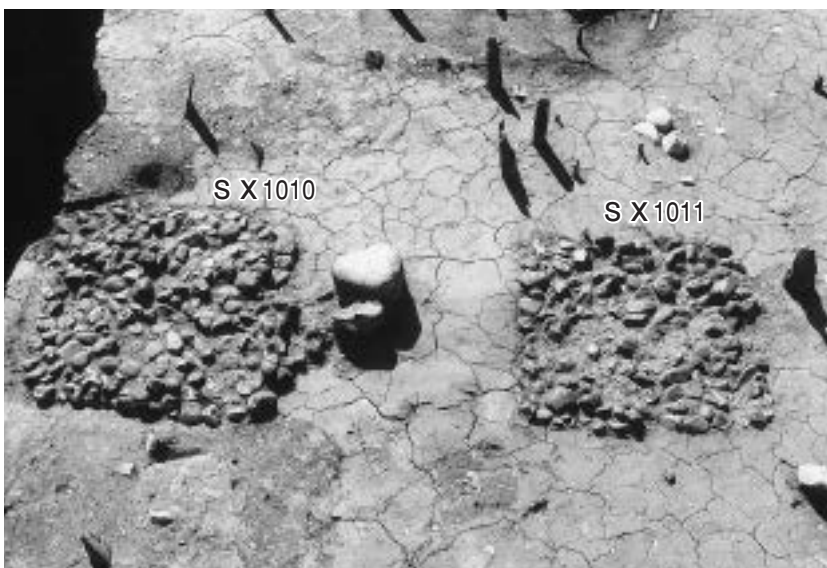
3 第2トレンチ東端
(北東から)



1 S X 900 (東から)



2 S X 900遺物出土状況
(南から)



3 S X 1010・1011確認
(東から)



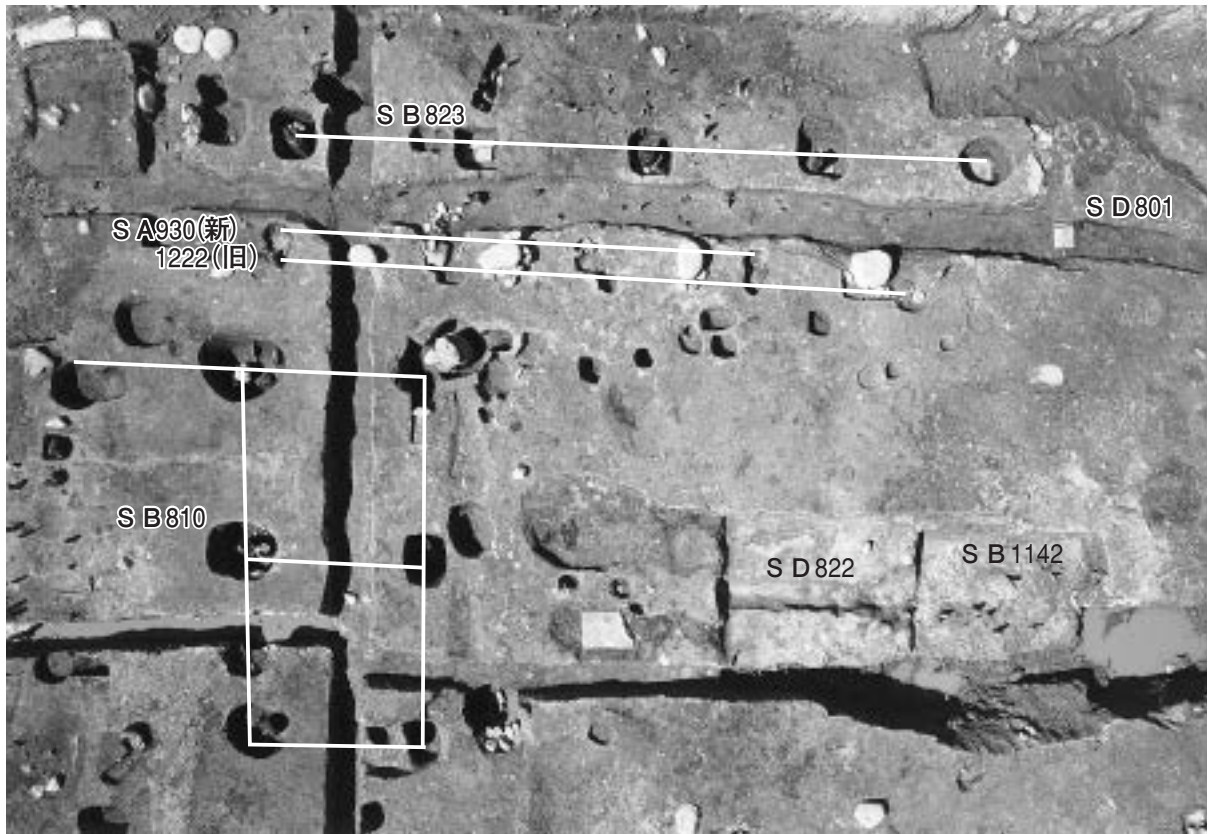
1 SK712木材出土状況
(南から)



2 SK712遺物出土状況(1)
(南から)



3 SK712遺物出土状況(2)
(南から)



1 屋敷境の溝跡と板塀跡 (南から)



2 S A 823 P 3 断面 (南から)



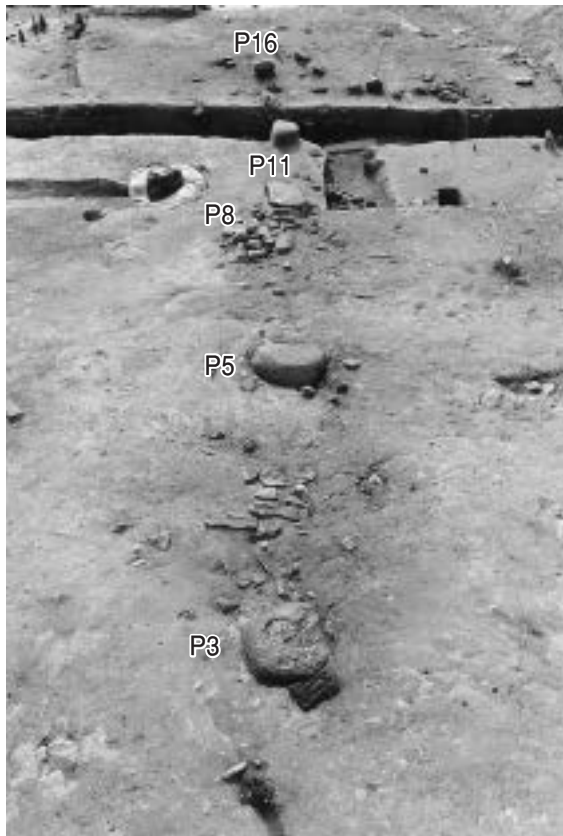
3 S A 823 P 3 柱材と礎板 (南から)



4 S A 823 P 5 断面 (南から)



5 S A 823 P 6 断面 (南から)



1 SB817礎石列 (東から)



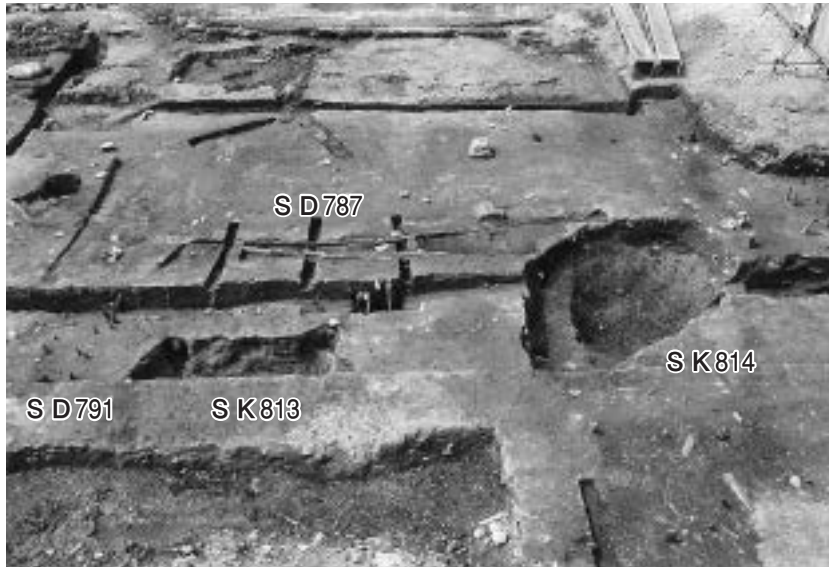
2 SB817P8確認状況 (南から)



3 SB817P8断面 (南から)



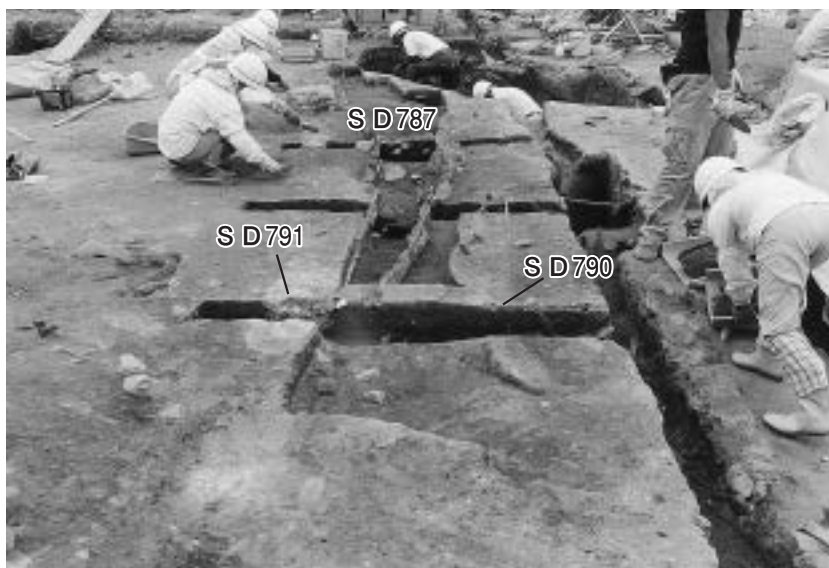
4 SB817調査風景 (北から)



1 SD787完掘状況
(北から)



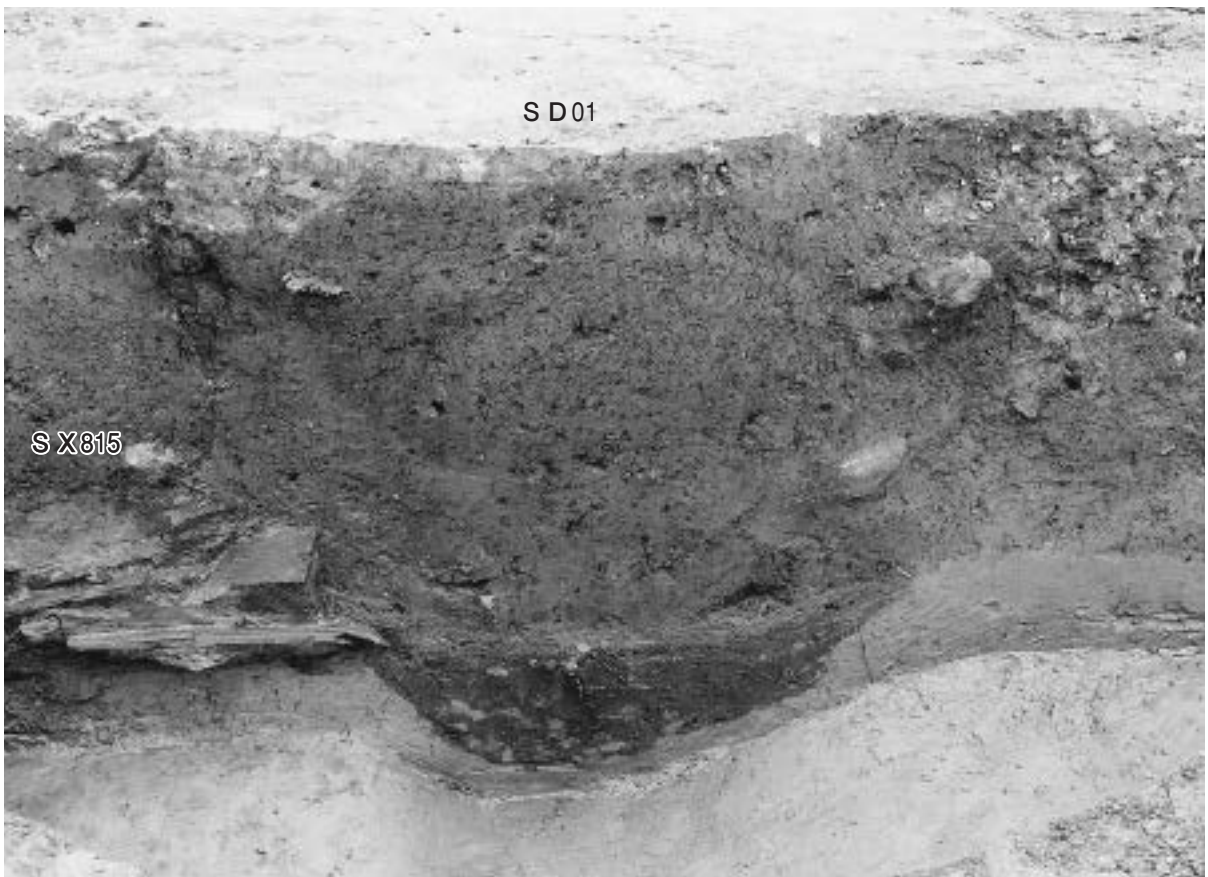
2 SD787遺物出土状況
(北東から)



3 SD787調査風景
(東から)



1 S D 01確認状況 (北から)



2 S D 01断面 (北から)



1 SK814検出状況 (北から)



2 SK814断面 (北から)



1 SK814調査風景 (東から)



2 遺物出土状況 (1) (東から)



3 遺物出土状況 (2) (北から)



4 遺物出土状況 (3) (南から)



5 遺物出土状況 (4) (北西から)



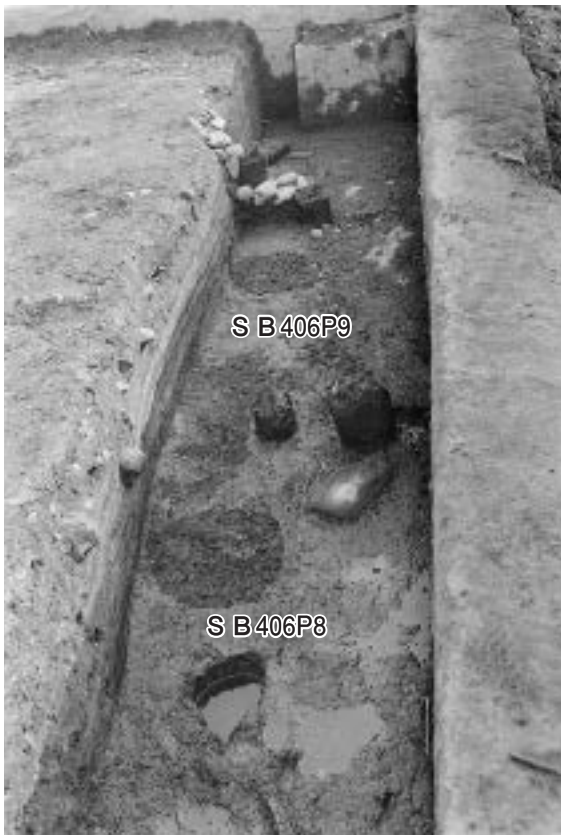
1 南側調査区作業風景 (南西から)



2 第11トレンチ基本土層 (北から)



1 第10トレンチ基本土層 (西から)



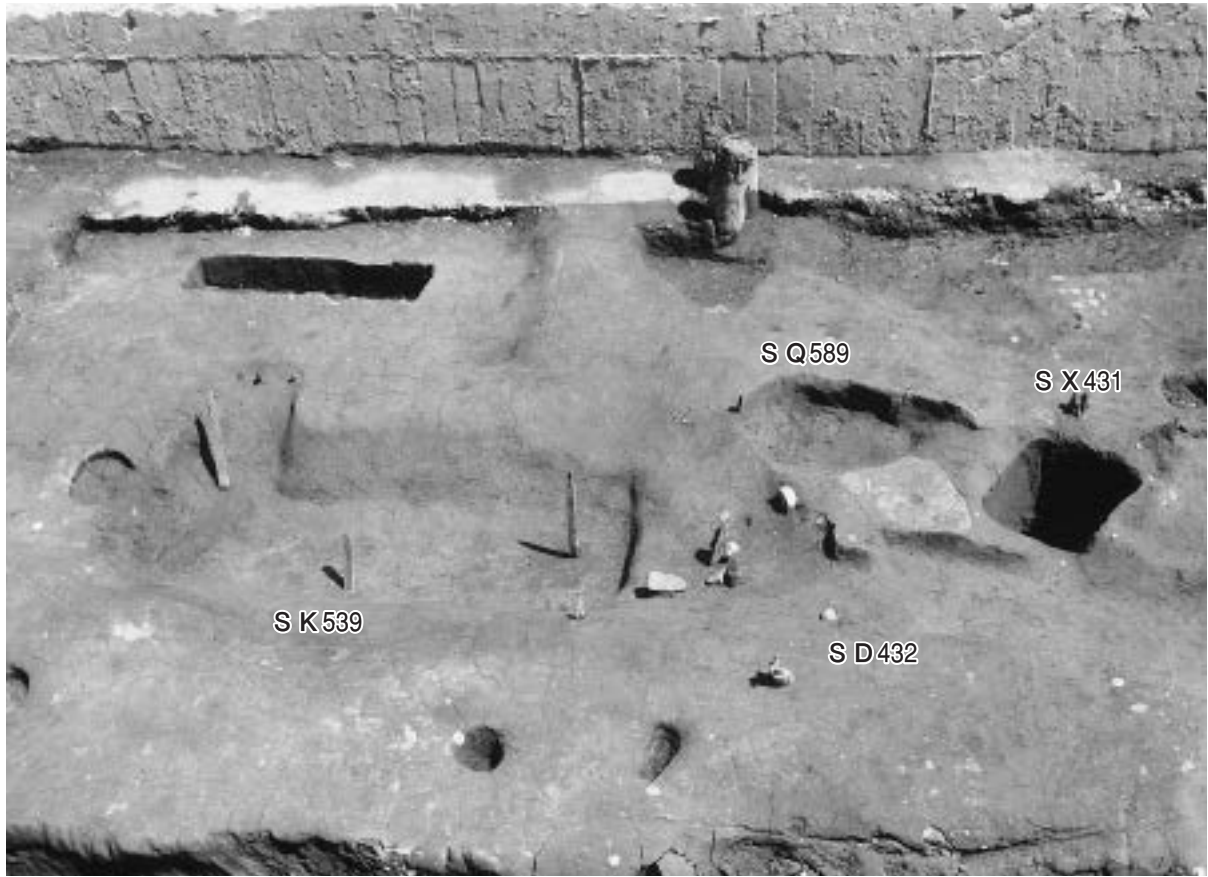
2 第10トレンチ (N区)
IV層遺構検出状況 (北から)



3 M区版築層 (南から)



4 第10トレンチ (N区)
IV層遺構検出状況 (北西から)



1 水場遺構完掘状況 (南から)



2 S D432・S X431 (東から)



3 S X431 (北東から)



4 S Q589礫出土状況 (北東から)



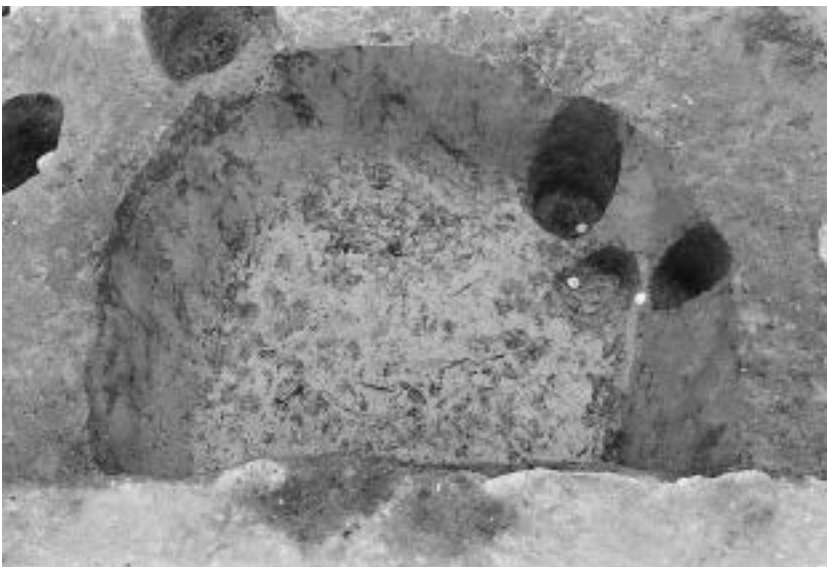
5 水場遺構調査風景 (北西から)



1 S D 458断面
(西から)



2 S K 751断面
(西から)



3 S K 751完堀状況
(東から)



1 S K 591
(南から)



2 S D 458・S K 591完掘状況
(西から)



3 S K 456完掘状況
(西から)



1 S E 599検出状況
(南から)



2 S E 599断面 (南から)



3 S E 599井戸桶検出状況
(南東から)



1 SD316検出状況 (西から)



2 SD316 (南から)



1 木簡 (表)



2 木簡 (裏)



1 人形とミニチュア



2 焜炉・風呂・脚風呂

報告書抄録

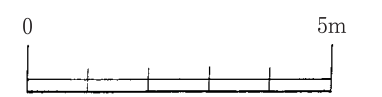
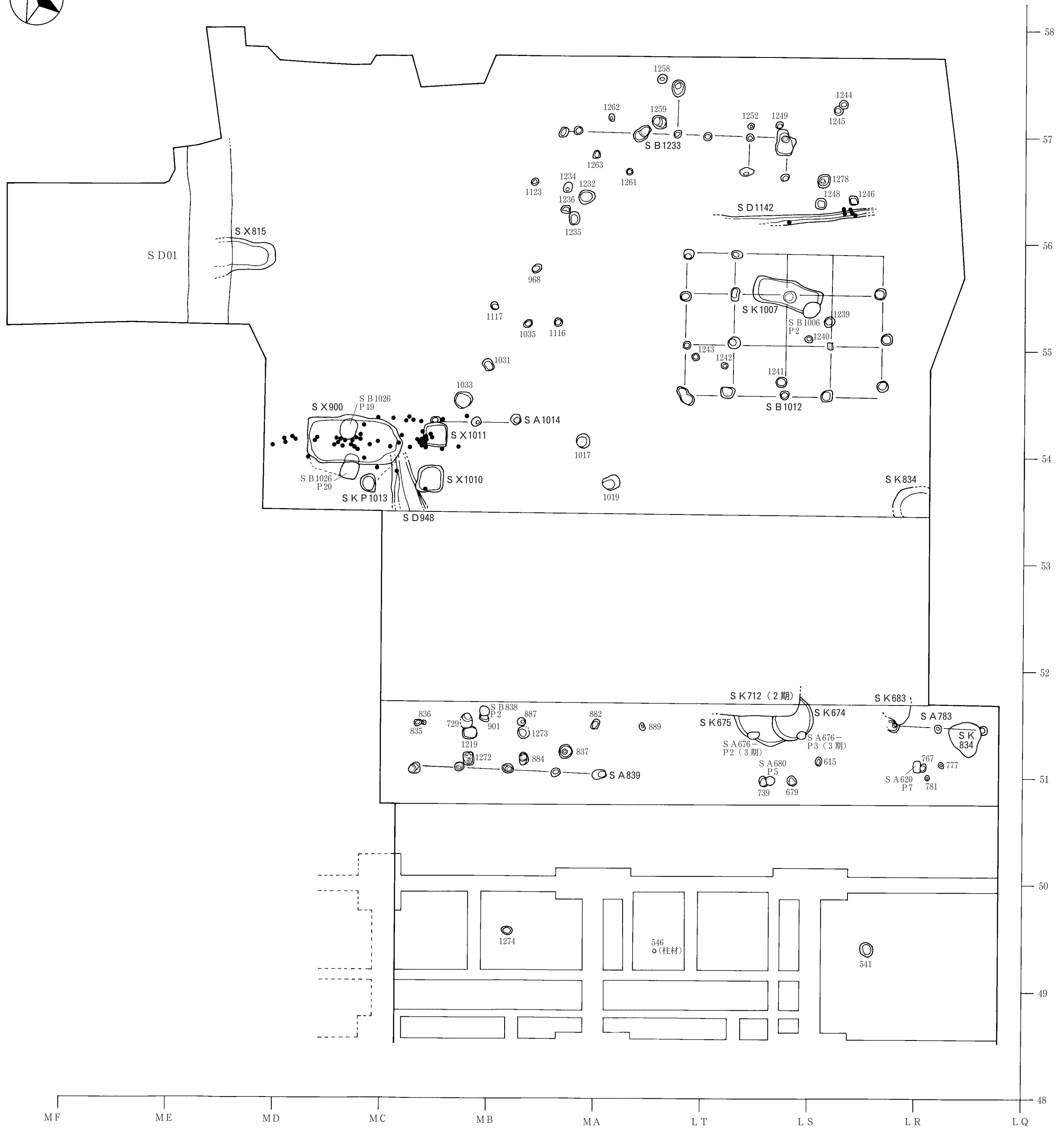
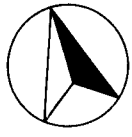
ふりがな	ふるかわほりばたまちいせき							
書名	古川堀反町遺跡							
副書名	秋田中央警察署改築事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	秋田県文化財調査報告書							
シリーズ番号	第435集							
編著者名	山村 剛・吉尾 香							
編集機関	秋田県埋蔵文化財センター							
所在地	〒014-0802 秋田県大仙市払田字牛嶋20番地 TEL0187-69-3331							
発行年月日	西暦2008年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ふるかわほりばたまち 古川堀反町 遺跡	あきたけん 秋田県 あきたし 秋田市 せんしゅうめいとくまち 千秋明徳町 1-9	050201	-	39° 43' 09"	140° 07' 10"	20050315 } 20050729	1,690m ²	秋田中央警察 署改築事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
ふるかわほりばたまち 古川堀反町 遺跡	武家屋 敷跡	近世 (江戸時代)	掘立柱建物跡	7	陶磁器	近世の武家屋敷に おける多くの遺構 と遺物を検出した。		
			柱列	23	(陶器・磁器)			
			井戸跡	2	木製品			
			溝跡	22	(漆器・曲物・			
			水場遺構	1	下駄・建築材)			
			土坑	59	金属製品			
			焼土遺構	2	(銭貨・煙管)			
			性格不明遺構	6				

秋田県文化財調査報告書第435集

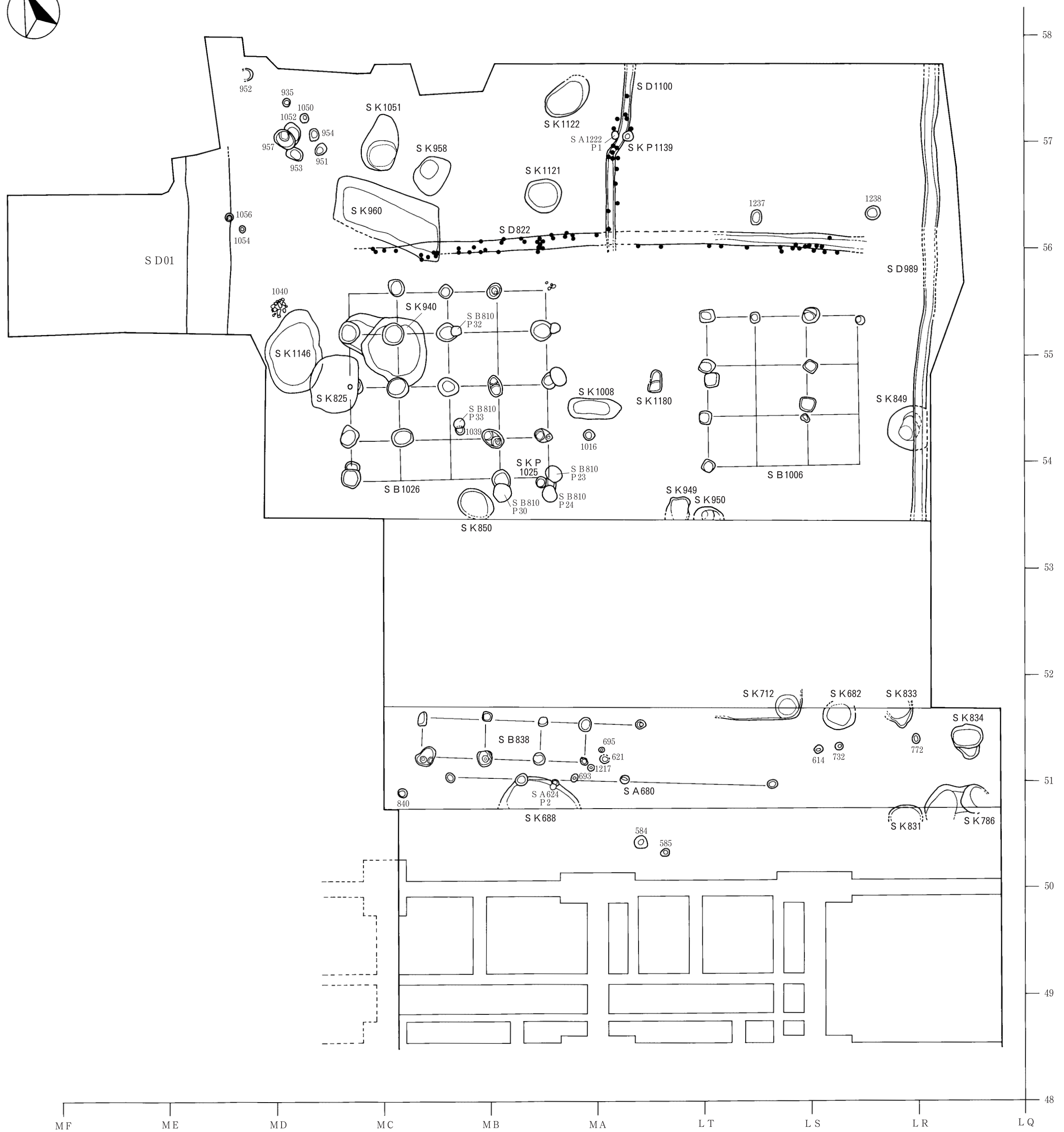
古川堀反町遺跡

—秋田中央警察署改築事業に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書—

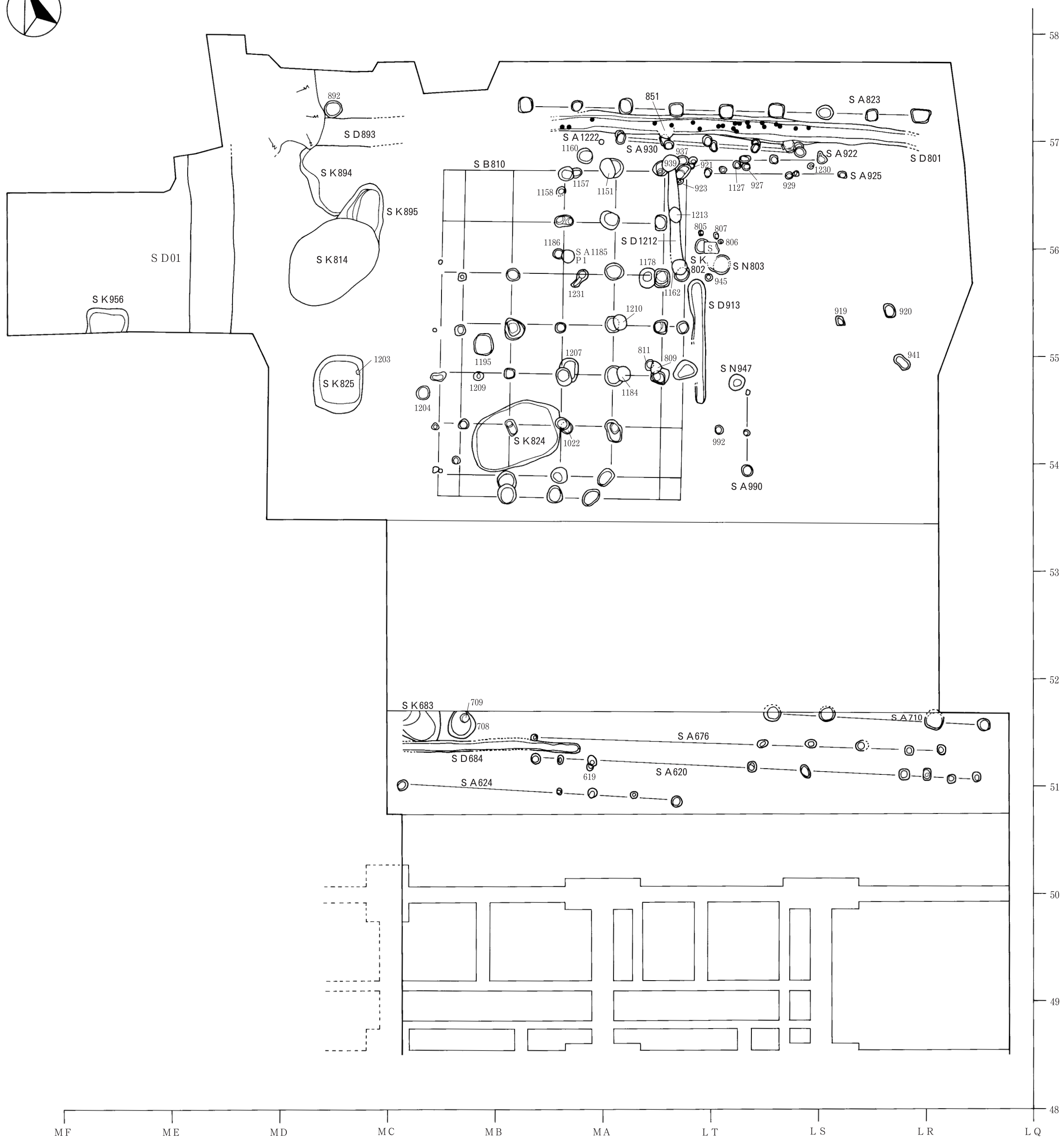
印刷・発行	平成20年3月
編集	秋田県埋蔵文化財センター 〒014-0802 秋田県大仙市払田字牛嶋20番地 電話(0187)69-3331 FAX(0187)69-3330
発行	秋田県教育委員会 〒010-8580 秋田市山王三丁目1番1号 電話(018)860-5193
印刷	秋田活版印刷株式会社



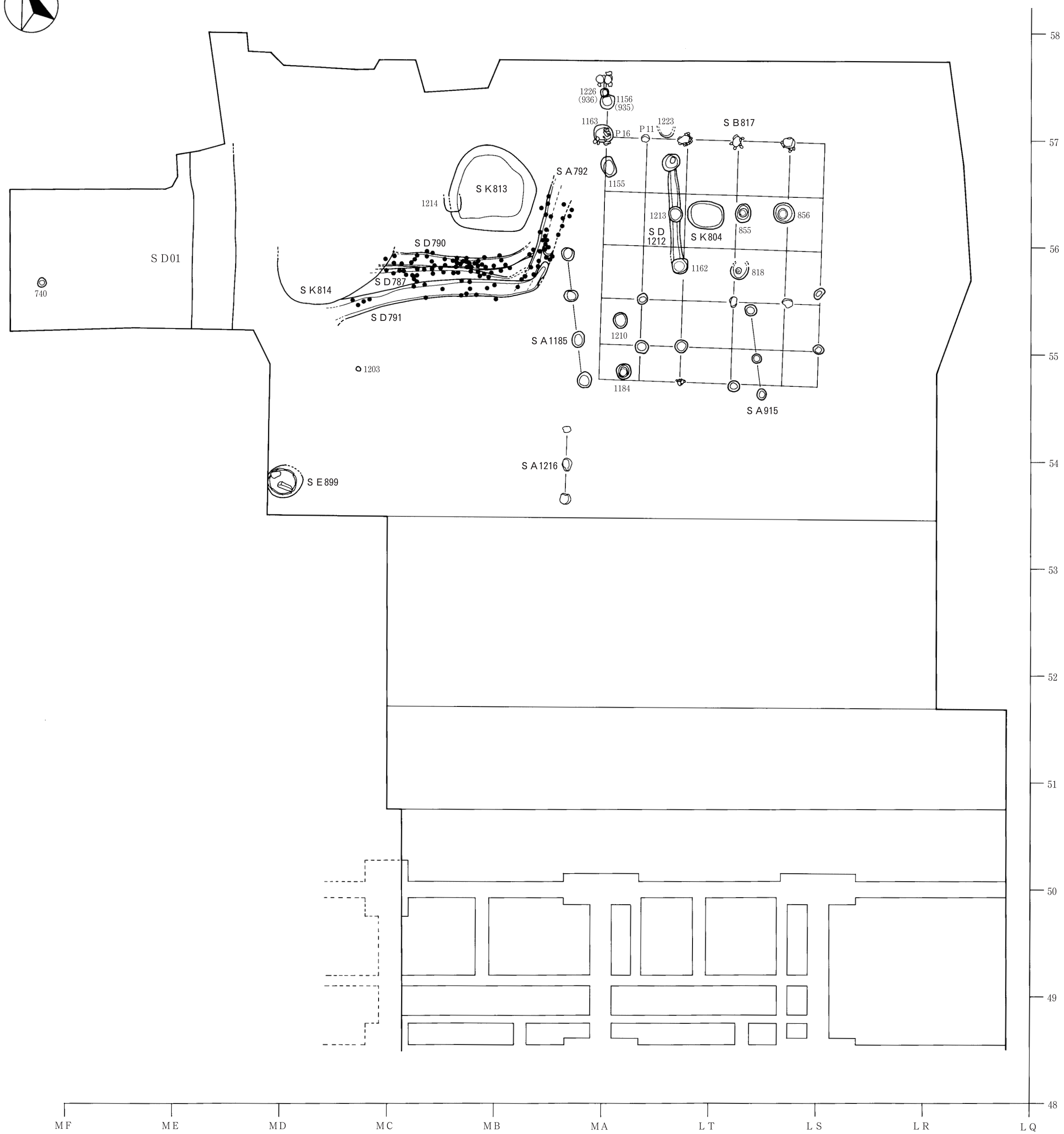
付図1 北側調査区第1期遺構配置図



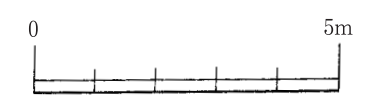
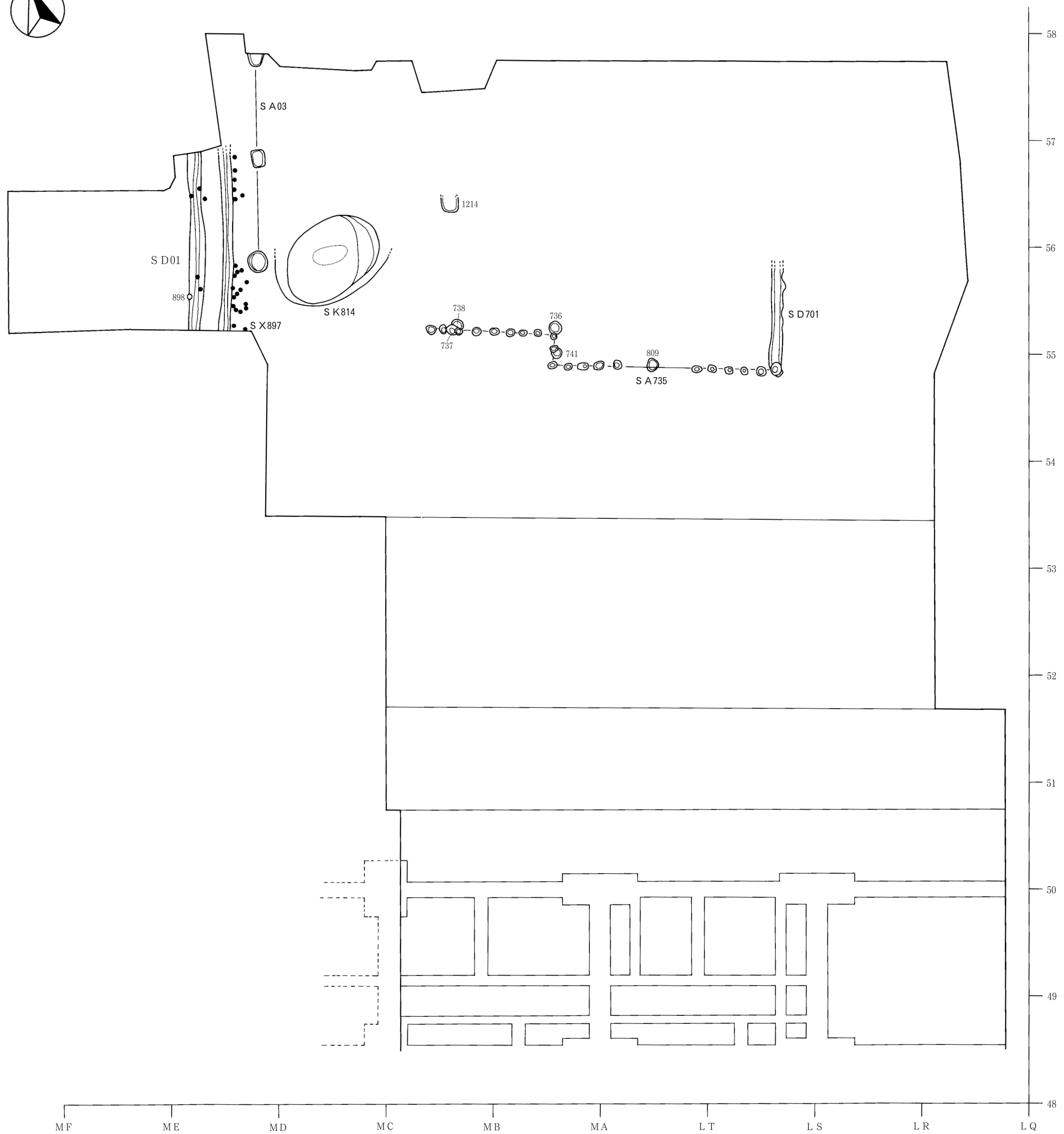
付図2 北側調査区第2期遺構配置図



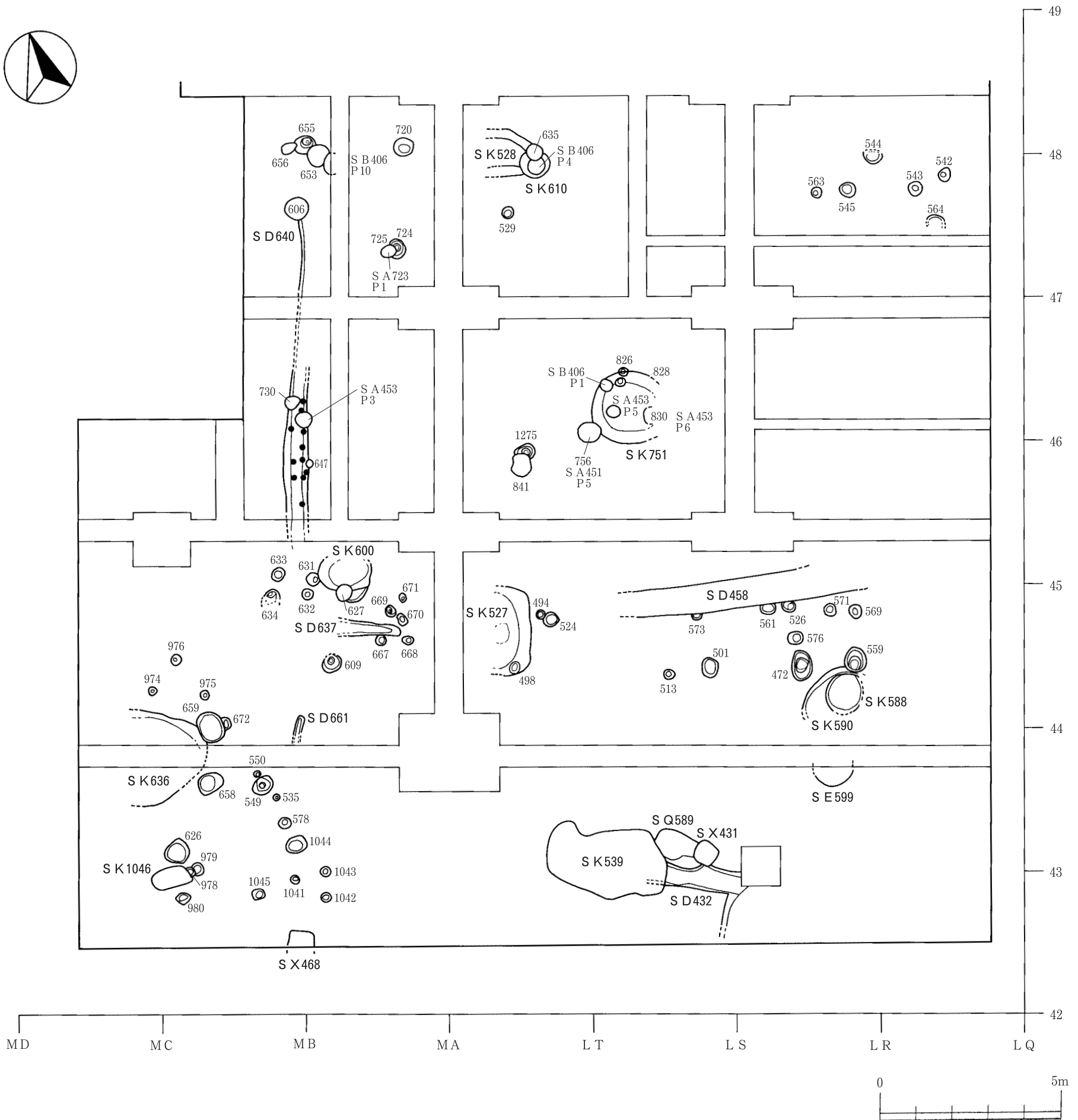
付図3 北側調査区第3期遺構配置図



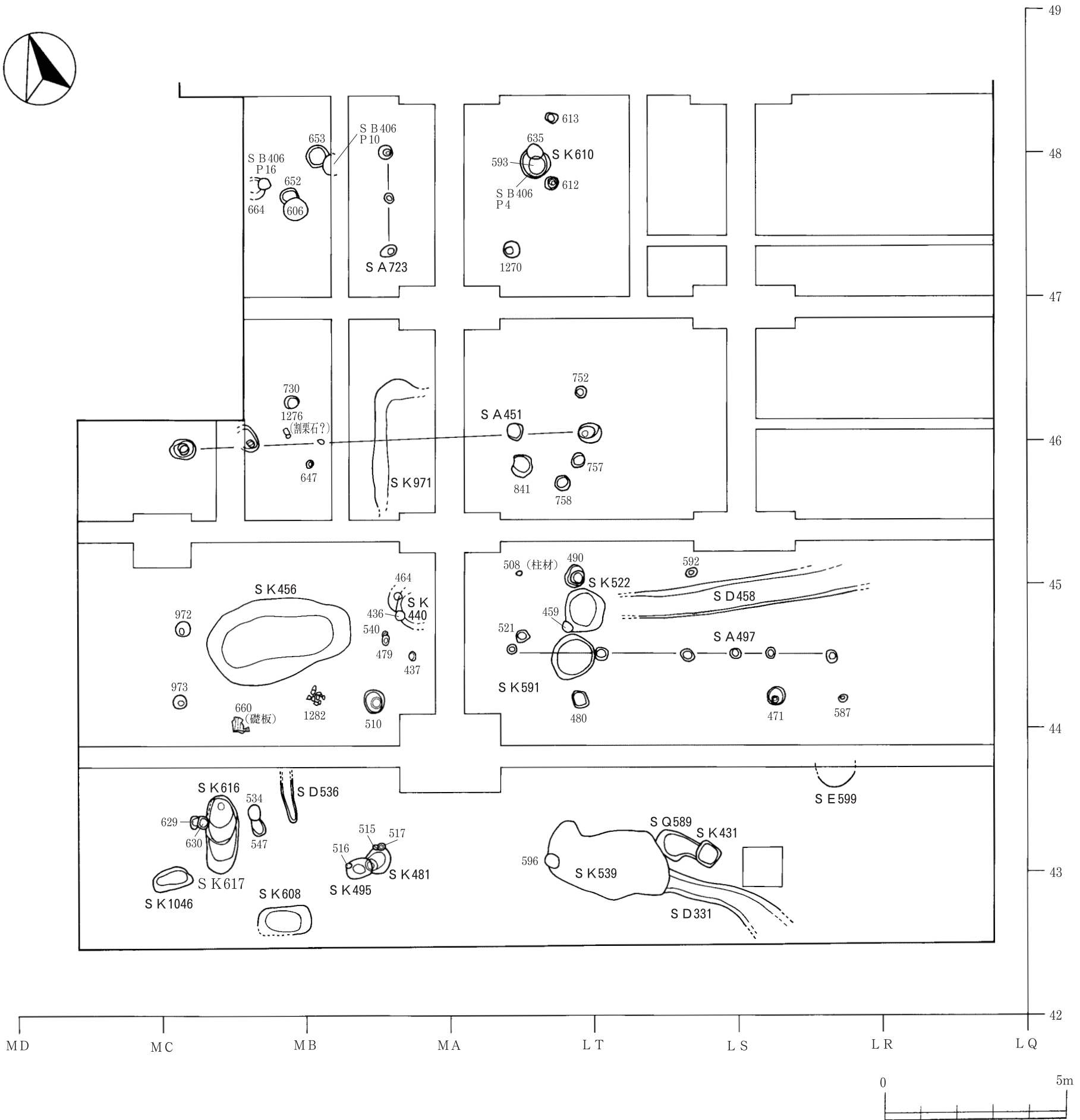
付図4 北側調査区第4期遺構配置図



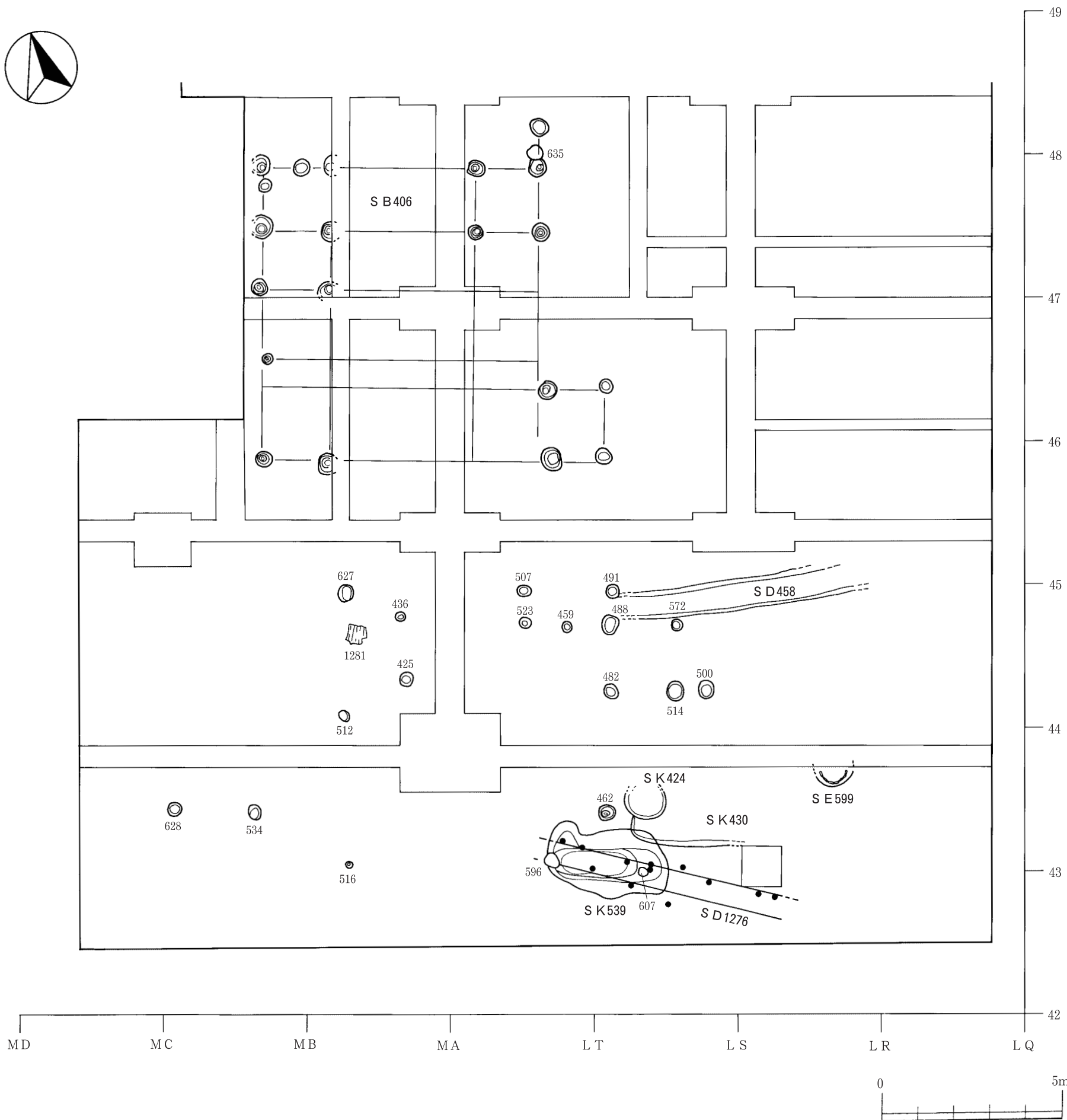
付図5 北側調査区第5期遺構配置図



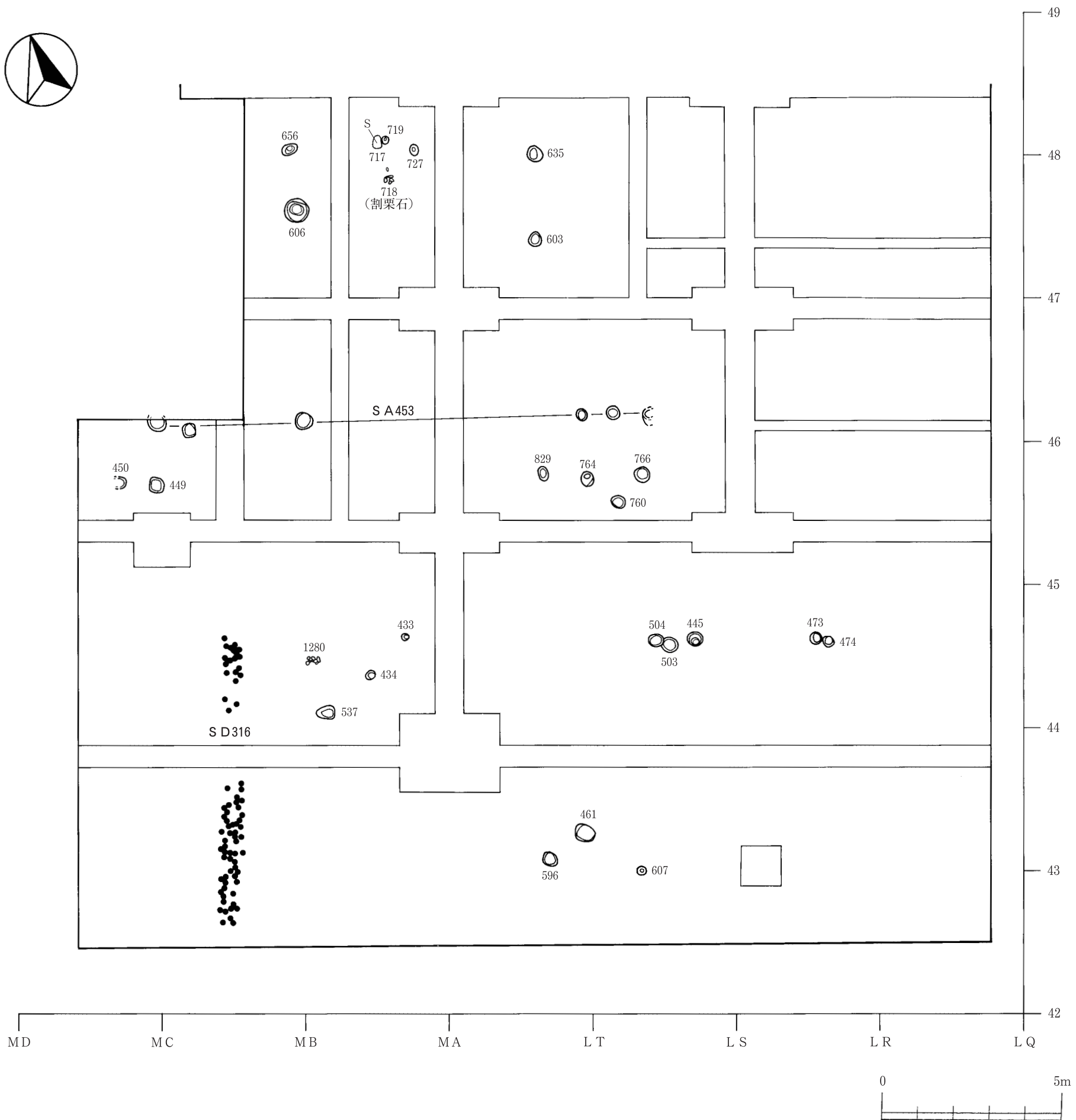
付図6 南側調査区第1期遺構配置図



付図7 南側調査区第2期遺構配置図



付図 8 南側調査区第 3 期遺構配置図



付図9 南側調査区第4期遺構配置図

